

府中市
福祉計画（障害者福祉）
調査報告書

令和2年3月

府 中 市

目次

第1部 調査の概要 -----	1
第1章 アンケート調査の概要 -----	3
1-1 調査の種類と対象者-----	3
1-2 各調査の概要-----	4
(1)障害等のある人への調査-----	4
(2)子どもの育ちや発達に関する調査-----	6
(3)障害者福祉団体調査-----	8
(4)障害福祉サービス事業所調査-----	10
1-3 報告書のみかた-----	12
第2章 調査から見た課題 -----	15
2-1 アンケート調査-----	15
(1)障害等のある人への調査-----	15
(2)子どもの育ちや発達に関する調査-----	17
(3)障害者福祉団体調査-----	18
(4)障害福祉サービス事業所調査-----	19
第2部 調査結果の概要 -----	21
第1章 障害等のある人への調査 -----	23
1-1 調査結果の概要-----	23
(1)基本属性について-----	23
(2)住まいについて-----	36
(3)日常生活について-----	43
(4)障害福祉サービスの利用について-----	63
(5)日ごろの活動について-----	74
(6)就労について-----	79
(7)相談・権利擁護について-----	90
(8)防災について-----	107
(9)医療について-----	118
(10)地域・共生社会について-----	124
(11)施策について-----	152
第2章 子どもの育ちや発達に関する調査 -----	164
2-1 調査結果の概要-----	164
(1) 回答者について-----	164
(2) 子どもの基本属性について-----	165

(3)通園・通学の状況について-----	175
(4)回答者の住まいについて-----	179
(5)日常生活について-----	186
(6)福祉サービスの利用について-----	193
(7)子どもの育ちや発達について-----	206
(8)防災について-----	226
(9)医療・医療的ケアについて-----	234
(10)地域・共生社会について-----	240
(11)施策について-----	248
(12)子どもを主に養育している人について-----	266
第3章 障害者福祉団体調査-----	282
3-1 調査結果の概要-----	282
(1)団体の概要-----	282
(2)団体の相談支援体制について-----	287
(3)災害時の支援について-----	288
(4)制度の谷間にある方への支援について-----	290
(5)地域共生社会づくりに向けた協力意向について-----	291
(6)障害福祉施策について-----	293
第4章 障害福祉サービス事業所調査-----	296
4-1 調査結果の概要-----	296
(1)事業所の概要-----	296
(2)今後の事業運営について-----	307
(3)利用者本位のしくみについて-----	314
(4)地域共生社会づくりに向けた協力意向について-----	319
(5)事業所が特に力を入れていることについて-----	326
(6)市への要望について-----	340
資料編 アンケート調査票及び集計結果-----	351
障害等のある人への調査-----	353
子どもの育ちや発達に関する調査-----	364
障害者福祉団体調査-----	375
障害福祉サービス事業所調査-----	379

第 1 部 調査の概要

第1章 アンケート調査の概要

1-1 調査の種類と対象者

本調査では、以下の4種類の調査を実施している。

■調査の種類と対象者

調査種別	対象者	抽出方法
①障害等のある人への調査	市内の18歳以上の障害者手帳所持者、自立支援医療受給者証所持者、特定医療費受給者証所持者 2,300人 【内訳】 ①身体障害者手帳所持者 1,216人 ②愛の手帳所持者 334人 ③精神障害者保健福祉手帳所持者 325人 ④自立支援医療受給者証所持者 100人 ⑤特定医療費受給者証所持者 325人	①市内に居住する18歳以上の身体障害者手帳所持者より無作為抽出 ②市内に居住する18歳以上の愛の手帳所持者より無作為抽出 ③市内に居住する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者より無作為抽出 ④市内に居住する18歳以上の自立支援医療受給者証所持者より無作為抽出 ⑤市内に居住する18歳以上の特定医療費受給者証所持者より無作為抽出
②子どもの育ちや発達に関する調査	市内の18歳未満の障害者手帳所持者、特定医療費受給者証所持者、児童通所受給証・障害福祉サービス受給者証所持者の保護者 1,000人 【内訳】 ①身体障害者手帳所持者 125人 ②愛の手帳所持者 494人 ③精神障害者保健福祉手帳所持者 62人 ④特定医療費受給者証所持者 9人 ⑤児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証所持者 310人	①市内に居住する18歳未満の身体障害者手帳所持者 ②市内に居住する18歳未満の愛の手帳所持者 ③市内に居住する18歳未満の精神障害者保健福祉手帳所持者 ④市内に居住する18歳未満の特定医療費受給者証所持者 ⑤市内に居住する18歳未満の児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証所持者より無作為抽出
③障害者福祉団体調査	市内の障害者福祉団体 11団体	市内の障害者福祉団体(当事者団体・家族会)
④障害福祉サービス事業所調査	市内の障害福祉サービス事業所 296事業所	市内の障害福祉サービス事業所

1-2 各調査の概要

(1) 障害等のある人への調査

①調査の目的

本調査は、障害者福祉に関する意見や要望を把握することにより、府中市福祉計画(障害者計画)の策定のための基礎資料を得ることを目的とする。

②調査対象

- ・ 18歳以上の障害者手帳所持者、自立支援医療受給者証所持者、特定医療費受給者証所持者

2,300人

【内訳】

①身体障害者	1,216人
②知的障害者	334人
③精神障害者	325人
④自立支援医療受給者	100人
⑤難病患者	325人

- ・ 令和元年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

③調査方法

- ・ 郵送配布・郵送回収(督促礼状1回送付)

④調査時期

- ・ 令和元年10月25日から11月11日(調査票締切)

⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
合計	2,300	1,423 (61.9%)	1,419 (61.7%)

⑦調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	F1	記入者
	F2	(1)性別、(2)年齢
	F3	居住地域
	F4	同居者
	F5	所持する手帳(手帳の程度)、自立支援医療の受給の有無 および特定医療費受給者証を受給している対象の疾病
	F6	身体障害者手帳に記載された項目
	F7	障害・難病が生じた時期
	F8	(1)収入源、(2)年収
B 住まい	問1	住居形態
	問2	住居について困っていること(1)設計・設備、(2)住宅事情
	問3	住居の困りごとに対して希望する支援
C 日常生活	問4	日常生活の状況(ADL等)(1)～(11)
	問5	介助の状況
	問5-1	(1)介助を頼める人、(2)主な介助者
	問5-2	公的サービスによる介助の頻度
	問5-3	家族等介助の頻度
D 障害福祉サービスの利用	問5-4	将来の不安なこと
	問6	障害福祉サービスの利用状況、利用意向(1)～(8)
	問6-1	障害福祉サービスの満足度
E 日ごろの活動	問6-2	サービスの不満な理由
	問7	外出の頻度
	問8	市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度
F 就労	問8-1	不満な理由(バリア等)
	問9	現在の仕事
	問9-1	仕事上の不安
	問9-2	仕事をしていない理由
	問10	今後したい仕事
G 相談・権利擁護	問11	障害等のある人が働くために希望すること
	問12	相談できる人の有無
	問12-1	相談先
	問13	市内の相談機関等の認知度・利用状況(1)～(4)
	問14	市内の相談機関等に求めること
H 防災	問15	後見人等にやってほしいこと
	問16	成年後見制度を利用しやすくするために必要なこと
	問17	緊急時の単独避難ができるか
	問18	地震や災害時に避難を助けてくれる人
	問19	災害時の不安や心配ごと
	問20	避難場所で希望する配慮
I 医療	問21	災害時に協働で進める地域の支え合い
	問22	災害対策としてふだんから行っていること
	問23	入院経験の有無
	問23-1	退院するにあたっての困りごと
J 地域・共生社会	問24	現在受けている医療
	問24-1	通院での困りごと
	問25	近所づきあいの現状
	問26	(1)～(8)の項目について ①地域で頼みたいこと、②頼まれたらできること
	問27	地域活動への参加程度
	問27-1	参加している地域活動の種類
	問27-2	参加していない理由
	問28	今後参加したい、継続して参加したい地域活動
	問29	市民のノーマライゼーションの理解
	問29-1	どのようなことがあれば理解されていると思うか
K 施策	問30	必要とする合理的配慮
	問31	地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか
	問31-1	自分らしい暮らしができていないと感じる理由
	問32	充実を望む施策
	問33	市への要望<自由回答>

(2) 子どもの育ちや発達に関する調査

①調査の目的

本調査は、障害児や児童通所・障害福祉サービス利用者の保護者の障害者福祉に関する意見や要望を把握することにより、府中市福祉計画(障害児福祉計画)の策定のための基礎資料を得ることを目的とする。

②調査対象

- ・市内の18歳未満の障害者手帳所持者、特定医療費受給者証所持者、障害児通所給付費受給者証所持者の保護者 1,000人

【内訳】

①身体障害児	125人
②知的障害児	494人
③精神障害児	62人
④難病患者	9人
⑤児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証所持者	310人

- ・令和元年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収(督促礼状1回送付)

④調査時期

- ・令和元年10月25日から11月11日(調査票締切)

⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
合計	1,000	651 (65.1%)	651 (65.1%)

⑥調査項目

調査項目	問番号	設問	
A 基本属性	F1	記入者	
	F2	居住地域	
	F3	宛名のお子さんの(1)性別、(2)年齢	
	F4	宛名のお子さんが所持する手帳(手帳の程度)、特定医療費受給者証の有無(対象疾病)、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証(利用中のサービス)	
	F5	身体障害者手帳に記載された項目	
	F6	宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期	
	F7	宛名のお子さんの同居者	
B 通園・通学	問1	通園・通学先	
	問1-1	通園・通学での困りごと	
C 住まい	問2	住居形態	
	問3	住居について困っていること(1)設計・設備、(2)住宅事情	
D 介助の状況	問4	住居の困りごとに対して希望する支援	
	問5	介助の状況	
	問5-1	(1)介助を頼める人、(2)主な介助者	
	問5-2	公的サービスによる介助の頻度	
E 福祉サービスの利用	問5-3	家族等介助の頻度	
	問6	福祉サービスの利用状況、利用意向(1)~(15)	
	問6-1	福祉サービスの満足度	
F 育ちや発達の状況	問6-2	支援を受ける上での困りごと	
	問7	不安や疑問を感じた時期	
	問8	どこ(誰)かに相談したか	
	問8-1	相談して、不安や疑問が解消したか	
	問9	育ちや発達に関する診断の有無	
	問10	市内の相談機関等の認知度・利用状況(1)~(5)	
	問11	ライフステージに応じた支援として希望すること	
	問12	お子さんの将来の希望	
	G 防災	問13	災害時の不安や心配ごと
		問14	災害対策としてふだんから行っていること
問15		避難場所で希望する配慮	
問16		災害時に協働で進める地域の支え合い	
H 医療	問17	現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか	
	問17-1	現在必要とする医療・医療的ケア	
	問17-2	医療・医療的ケアの実施にあたっての困りごと	
I 地域・共生社会	問18	市民のノーマライゼーションの理解	
	問18-1	どのようなことがあれば理解されていると思うか	
	問19	必要とする合理的配慮	
	問20	地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じるか	
J 施策	問21	市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度	
	問21-1	不満な理由(バリア等)	
	問22	充実を望む施策	
	問23	市への要望<自由回答>	
K 保護者の状況	問24	主な養育者	
	問25	保護者の年齢	
	問26	保護者の就労状況	
	問27	(1)収入源、(2)世帯の年収	
	問28	近所づきあいの現状	
	問29	相談できる人の有無	
	問29-1	相談先	
問30	養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(3つ)		

(3) 障害者福祉団体調査

①調査の目的

市内の障害者福祉団体(当事者団体、家族会)における支援活動の現状と課題、今後の活動意向を把握し、団体支援や協働の方向性を検討することを目的とする。また、団体は多くの障害等のある人等の実態・意識を把握していることから、相談支援、災害時支援、障害者施策全般のあり方をたずねるとともに、制度の谷間にある人の問題もたずね、実態の把握に努める。

②調査対象

- ・市内の障害者福祉団体 11 団体

③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収(督促礼状 1 回送付)

④調査時期

- ・令和元年 10 月 25 日から 11 月 11 日(調査票締切)

⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
合計	11	8 (72.7%)	8 (72.7%)

⑥調査項目

調査項目	問番号	設問
A 活動状況	問1	団体の名称・連絡先
	問2	会員数、運営に携わっている人数
	問3	活動拠点の有無
	問3-1	活動拠点の具体的な場所<自由回答>
	問4	運営経費の収入源
	問5	活動の担い手の現在の充足度と今後の充実意向 (1)活動する上で足りているか、(2)今後の充実に向けて
	問5-1	活動の担い手を増やすための取り組みの有無
	問5-2	活動の担い手を増やすための具体的な取り組み内容<自由回答>
	問6	活動する上で困っていること
B 相談支援体制	問7	市の相談支援体制に望むこと<自由回答>
C 災害時の支援	問8	災害時に心配なこと、支援としてあったらよいこと<自由回答>
D 制度の谷間の問題	問9	地域での制度の谷間の問題<自由回答>
E 地域共生社会 づくりに向けた 協力意向	問10	地域共生社会に向けた市民向けの意識啓発に協力できること <自由回答>
	問11	地域共生社会に向けて、意識啓発以外にも協力できること <自由回答>
F 障害福祉施策 について	問12	障害者に対する合理的配慮として、特に必要なこと<自由回答>
	問13	バリアフリーの施策で期待すること<自由回答>
	問14	市の障害福祉施策への意見・要望<自由回答>

(4) 障害福祉サービス事業所調査

①調査の目的

市内の障害福祉サービス事業所の提供体制を把握し、基盤整備の目標の検討に役立てる。また、事業所の実態、今後の事業運営、質の向上への取組みについてたずね、事業所支援の方策を検討する。また、災害時について事業所が協力できることをたずね、防災、災害時要援護者支援施策の検討に役立てる。

②調査対象

- ・市内の障害福祉サービス事業所 296 事業所
- ・令和元年 10 月 1 日現在の市内所在の事業所全数

③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収(督促礼状 1 回送付)

④調査時期

- ・令和元年 10 月 25 日から 11 月 11 日(調査票締切)

⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
合計	296	204 (68.9%)	201 (67.9%)

⑥調査項目

調査項目	問番号	設問
A 活動状況	問 1	事業所の活動状況 (名称等、組織形態、実施事業、対象事業の定員数・利用者数、 【新規:必要性を感じている実施していない事業・その理由】)
B サービス提供体制	問 2	具体的なサービス提供量
	問 3	インフォーマルサービスに対する利用者ニーズ<自由回答>
C 今後の事業運営	問 4	昨年度の事業の採算(1)事業所、(2)法人
	問 5	運営上の不安 ※
	問 6	サービスを実施する上での問題 ※
	問 7	人材確保に向けての課題 ※
	問 8	今後 5 年間の事業規模拡大予定
	問 9	今後 5 年間の利用者受入れ余裕
D 利用者本位の しくみ	問 10	権利擁護のために取り組んでいること ※
	問 11	苦情・意見等を取り入れるため、工夫していること ※
	問 12	第三者評価の実施の有無
	問 12-1	実施の予定はない理由
	問 13	障害者の虐待防止に向けて取り組んでいること
	問 14	サービスを提供する上で、虐待などの場面に遭遇した経験 (虐待などの場面に遭遇した事業所に)具体的な内容、対応 <自由回答>
E 地域共生社会 づくりに向けた 協力意向	問 15	地域共生社会に向けた市民向けの意識啓発に協力できること ※ <自由回答>
	問 16	地域共生社会に向けて、意識啓発以外にも協力できること ※ <自由回答>
	問 17	災害時に事業所として協力できること
F 力を入れている点	問 18	最も力を入れていること<自由回答>
	問 19	利用者に対して特に力を入れていること<自由回答>
G 市への要望	問 20	市の障害福祉サービス充実に向けて必要なこと ※
	問 21	障害福祉サービスについての要望 ※ <自由回答>
	問 22	利用者や家族から寄せられた意見、要望<自由回答>

※回答にあたって、事業所または法人のいずれかの立場から回答しているかもたずねている。

1-3 報告書のみかた

(1) 障害等の種類別の集計について

○本調査の「障害等のある人への調査」と「子どもの育ちや発達に関する調査」は、障害者手帳または受給者証の所持者から無作為抽出し、調査票を送付した。

○所持する障害者手帳または受給者証の種類は、それぞれの所持状況を回答する形式としたため、複数の手帳または受給者証を重複して所持している状況がみられた。

【障害等のある人への調査】

所持している手帳または受給者証の種類別にみた回収数（全体集計結果）
(人)

	発送数	集計結果	
		全体	所持者
身体障害者手帳	1,216	1,419	882
愛の手帳	334		234
精神障害者保健福祉手帳	325		198
自立支援医療受給者証	100		245
特定医療費受給者証	325		200

所持している手帳または受給者証の種類別にみた回収数（重複の状況）

	所持者数	他に持っている手帳・受給者証				
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療受給者証	特定医療費受給者証
身体障害者手帳	882	—	72	21	63	68
愛の手帳	234	72	—	11	55	9
精神障害者保健福祉手帳	198	21	11	—	139	9
自立支援医療受給者証	245	63	55	139	—	16
特定医療費受給者証	200	68	9	9	16	—

【子どもの育ちや発達に関する調査】

所持している手帳または受給者証の種類別にみた回収数（全体集計結果）
(人)

	発送数	集計結果	
		全体	所持者
身体障害者手帳	125	651	130
愛の手帳	494		348
精神障害者保健福祉手帳	62		36
特定医療費受給者証	9		16
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	310		369

所持している手帳または受給者証の種類別にみた回収数（重複の状況）

	所持者数	他に持っている手帳・受給者証				
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	特定医療費受給者証	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証
身体障害者手帳	130	—	60	1	9	55
愛の手帳	348	60	—	2	6	167
精神障害者保健福祉手帳	36	1	2	—	1	13
特定医療費受給者証	16	9	6	1	—	7
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	369	55	167	13	7	—

○障害等の種類別に分析をするため、所持している障害者手帳・受給者証の種類別にすべて分析することも考えられたが、重複の状況からみて発送数より回答数の方が多くなったり、重複するケースが多くなったりすることから、傾向が明確にならない可能性があると考えられ、障害者手帳・受給者証の所持者を振り分けて分析した。

○このため、本調査では、所持する手帳または受給者証の種類の記事をもとに、障害等の種類を以下のように分類してクロス集計を行い、分析を行った。

【障害等のある人への調査】

- 身体障害者：身体障害者手帳のみに○をつけた方、身体障害者手帳と特定医療費受給者証の両方に○をつけた方
- 知的障害者：愛の手帳に○をつけた方(他の手帳や受給者証を所持している方を含む)
- 精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみに○をつけた方、自立支援医療受給者証のみに○をつけた方、精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療受給者証の両方に○をつけた方
- 難病患者：特定医療費受給者証のみに○をつけた方

【子どもの育ちや発達に関する調査】

- 身体障害者：身体障害者手帳のみに○をつけた方、身体障害者手帳と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の両方に○をつけた方
- 知的障害者：愛の手帳に○をつけた方(他の手帳や受給者証を所持している方を含む)
- 精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみに○をつけた方、精神障害者保健福祉手帳、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の両方に○をつけた方、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費受給者証、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証類の3種類に○をつけた方
- 難病患者：特定医療費受給者証のみに○をつけた方、身体障害者手帳と特定医療費受給者証の両方に○をつけた方、特定医療費受給者証と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の両方に○をつけた方
- 児童通所・障害福祉サービス利用者：
児童通所受給者証、障害福祉サービス受給者証のみ○をつけた方

○なお、難病患者の扱いについて、「子どもの育ちや発達に関する調査」は「障害等のある人への調査」の分類の仕方と異なっているが(下線部参照)、18歳未満の特定医療費受給者証の所持者が少なく、その意見をできるだけ反映する目的で、身体障害者手帳や児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証を所持している方も含めている。

○したがって、発送時における手帳・受給者証の所持状況と、集計時における障害等の種類は異なっている。

第1部 調査の概要

○いずれの手帳・受給者証にも○をつけなかった方の回答は、障害等の種類別の集計結果には含まれないが、全体の集計結果に含まれている。

○障害等の種類別にみた回収数(分類後)は、以下のとおりである。

【障害等のある人への調査】

障害等の種類別にみた回収数（分類後）
（人）

身体障害者	761
知的障害者	175
精神障害者	304
難病患者	125
無回答	54
全体	1,419

【子どもの育ちや発達に関する調査】

障害等の種類別にみた回収数（分類後）
（人）

身体障害者	70
知的障害者	348
精神障害者	34
難病患者	5
児童通所・障害福祉サービス利用者	177
無回答	17
全体	651

(2) 重度心身障害者（児）について

東京都では、重度心身障害者手当を受給できる方として「東京都の区域内にお住まいで、心身に、東京都重度心身障害者手当条例別表に定める程度の重度の障害を有する方」と定めており、手帳の等級が重度（身体障害者手帳 1、2 級、愛の手帳 1、2 度）と判定されただけでは、支給要件に該当しないとしている。しかし、本調査では東京都重度心身障害者手当条例別表に定める程度の重度の障害の有無まで細かくたずねていないため、障害者手帳（1 級または 2 級）および愛の手帳（1 度または 2 度）の所持者（18 歳以上 33 人、18 歳未満 33 人）について分析した。

(3) 図表のみかた

- 図・表中の n、回答者数とは、基数となる実数のことである。
- 図・表中の－は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える。
- 質問において、年齢別、障害の種類別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。

第2章 調査から見えた課題

2-1 アンケート調査

(1) 障害等のある人への調査

◆地域での暮らしを支えるサービスの充実

- ・ 現在よく利用されている障害福祉サービスは、身体障害者では「補装具・日常生活用具費の支給」、知的障害者では「日中活動系サービス」、精神障害者と難病患者では「相談支援」である。また、今後利用したい障害福祉サービスは、身体障害者、精神障害者、難病患者は「相談支援」、知的障害者は「居住系サービス」である(問6)。
- ・ 障害福祉サービスの「満足度」は6割台である(問6-1)。「緊急時に利用できない」、「希望通りの内容でサービスが使えない」、「希望する曜日・時間に使えない」などの不満がある(問6-2)。
- ・ 使いやすさも含めてサービスの充実を図り、地域での暮らしを支えるサービスの満足度の向上を図る必要がある。

◆就労支援、就労定着

- ・ 障害等のある人が働くために希望することは、身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」が多くなっている(問11)。
- ・ 充実を望む施策では、65歳未満の世代で「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が多い(問32)。
- ・ 障害等のある人の就労支援、就労定着を支援するとともに、職場において障害等のある人が働くことについての理解促進を図る必要がある。

◆相談支援の充実

- ・ 悩みや困りごとの相談先は「家族・親族」が最も多いが、身体障害者と難病患者は「友人・知人」、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員」なども多くなっている。障害福祉に関する公的機関への相談は1割前後にとどまっている(問12-1)。
- ・ 充実を望む施策では、「各種相談事業を充実すること」が4割を超えて最も多くなっている(問32)ことから、相談事業を充実する必要がある。また、「悩みや困りごとを相談できる人が「いない」人が1割程度いることから(問12)、公的な相談機関に関する情報提供のあり方にも工夫が必要である。

◆成年後見制度の利用促進

- ・成年後見人等にやってほしいことは、「生活・医療等に関する契約や手続き」が5割を超える(問15)。制度が利用しやすくなるためには「成年後見制度を理解するための周知・啓発」が最も多く、知的障害者では「家族などの親族後見人へのサポート」も必要とされている(問16)。
- ・成年後見制度の利用を促進するための周知・啓発が必要である。

◆災害時要援護者支援の充実

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は全体では約3割であるが、知的障害者では5割を超えている(問17)。また、精神障害者の約2割が「避難を助けてくれるような人はいない」と回答している(問18)。
- ・災害時に困ること・不安なことは、「避難所まで避難できるか心配」、「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」が多い。知的障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」、「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない」、「災害や避難に関する情報が得られるか心配」、「市の緊急メールを受信できるかわからない」は全体よりも高い。精神障害者、難病患者は、「医療を受けられるか分からない」が4割を超えている(問19)。
- ・災害時における避難行動の支援、障害の種類に応じた情報提供や避難所生活の支援の充実を図る必要がある。

◆地域共生社会の推進

- ・近所づきあいは、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」が多いが、知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」も多い(問25)。
- ・地域で頼みたいこと・頼まれたらできることは「安否確認の声かけ」が多い(問26①、②)。
- ・障害等のある人が求める合理的配慮は「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」である(問30)。
- ・支え手側と受け手側に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、活躍できる地域社会の実現に向けて、障害の特性や本人の意向に応じた合理的配慮をしながら、障害等のある人の地域参加、地域との交流を進めていく必要がある。

◆市民へのノーマライゼーションに関する意識啓発

- ・「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方が市民に十分理解されているかという質問に対し、「はい」(理解されている)と回答した割合は、身体障害者、精神障害者、難病患者は2割程度、知的障害者は1割台である(問29)。
- ・どのようなことがあれば「理解されている」と思うかでは、「思いやりのある声かけ」、「特別な目でみないこと」などである(問29-1)。
- ・市民が障害等のある人を理解し、受け入れることができるよう、市民の意識啓発を一層推進する必要がある。

◆地域における居場所づくり

- ・自分らしい暮らしが「できている」と感じている人は5割、「できていない」と感じている人は1割である。精神障害者は全体と比べて「できていない」と感じる割合が高い(問31)。自分らしい暮らしができていないと感じる理由は「地域の中に頼れる友人・知人がいない」、「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」が多い(問31-1)。
- ・日中活動支援や、地域の居場所づくりなどの充実を図る必要がある。

(2) 子どもの育ちや発達に関する調査

◆障害児福祉サービスの充実

- ・通園・通学で困っていることは送迎、障害への理解、医療的ケア、学区内の学校に特別支援学級がない、進学時の引継ぎなどである(問1-1)。
- ・よく利用されているサービスは、身体障害者では「補装具費の支給・日常生活用具費の給付」、知的障害者、精神障害者では「放課後等デイサービス」、難病患者では「医療型児童発達支援」と「放課後等デイサービス」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「児童発達支援」である。また、今後利用したいサービスは、身体障害者、知的障害者は「日中一時支援」、精神障害者は「児童発達支援」、難病患者は「医療型児童発達支援」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「放課後等デイサービス」である(問6)。
- ・障害福祉サービスの「満足度」は6割台であり、(問6-1)。「希望する事業者や施設が見つからない」、「サービスの情報が入手しにくい」、「緊急時に利用できない」などの不満がある(問6-2)。
- ・使いやすさも含めてサービスの充実を図る必要があるとともに、事業者やサービスの情報提供の改善を図る必要がある。

◆ライフステージに合わせた、切れ目のない相談・支援

- ・子どもの育ちや発達について初めて気になった時期は、就学前が9割を占める(問7)。
- ・相談先は「家族・親族」が最も多いが「保育園・幼稚園・学校」、医療機関や東京都や市の療育機関も多い(問8)。相談経験のある人は「具体的な方法を考えることができた」、「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」などの効果を感じている(問8-1)。
- ・医療・医療的ケアを実施するにあたり、「成人後に受診できる医療機関があるか」、「通院などの移動」、「家族への支援」などで困っている(問17-2)。
- ・充実を望む施策は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」が最も多い(問22)。
- ・保護者の負担感やストレスを軽減させるために重要なことは「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」が最も多い(問30)。
- ・就学前の相談の充実とともに、入学、進学、卒業などのタイミングにあわせた切れ目のない支援の充実を図る必要がある。あわせて保護者への支援も求められている。

◆市民へのノーマライゼーションに関する意識啓発

- ・どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うかということについて、「お子さんのことを理解して受け入れができること」が最も多く、「お子さんを特別な目で見ないこと」、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」が続いている。身体障害者では「お子さんがやりたいことへの手助けがあること」も多い(問18)。
- ・必要とする合理的配慮は、「お子さんや保護者が困っているときは声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応すること」である。
- ・お子さんや保護者の意思、やりたいことを尊重する、市民の意識啓発が必要である。
- ・市民が障害等のある子どもとその保護者を理解し、その人の意思を尊重しながら受け入れていけるよう、市民の意識啓発を一層推進する必要がある。

(3) 障害者福祉団体調査

◆災害時の支援における協働

- ・災害時に障害等のある人々が安心して過ごせるようにするには、障害者対応担当者の確保、避難行動の支援、災害時要援護者の把握・安否確認と救出体制、避難所生活における生活支援や情報伝達のあり方、福祉避難所の開設などである(問8)
- ・平常時から災害時要援護者の支援体制を整えるとともに、障害者福祉団体や、障害福祉サービス事業所等との協働・連携により、災害時における障害者の安否確認や障害の特性に応じた情報伝達、障害等のある人の避難所生活の支援などに取り組む必要がある。

◆地域共生社会の実現に向けた協働

- ・活動する上で困っていることは、後継者問題、財政的支援、活動場所などである(問6)。市民に向けた活動情報の提供などにより新たな担い手の確保につなげる取り組みの充実、活動拠点の確保などが必要である。
- ・市の相談体制に望むことは、当事者による相談、休日や緊急時にも対応できること、専門性、多分野との連携、切れ目のない相談などである(問7)。
- ・地域共生社会の実現に向けて、団体として協力できることは、学習会や講演会などによる啓発、悩み事の傾聴などである(問11)。
- ・障害福祉制度の谷間にある方々への支援として必要なことは、人的対応の柔軟な運用、ニーズの把握、制度の仕組みや利用できる事業所の紹介、個々の相談に丁寧に対応するなどである(問9)。
- ・当事者の視点に立った相談支援や情報提供の充実、障害の理解促進のための啓発事業、障害福祉制度の谷間にある方々への情報提供など、障害者福祉団体と協働することにより、きめ細かく事業を展開していくことが考えられる。

(4) 障害福祉サービス事業所調査

◆事業所への支援

- ・ 必要性を感じているが実施していない事業は、「同行援護」、「グループホーム」、「生活介護」、「計画相談支援」などであり(問 1(4)①)、人材の確保・育成、サービスに見合う収益の確保、初期費用などが困難という理由で実施できていない。
- ・ 事業所、法人ともに、4割が事業の採算を「赤字」と回答している(問 4)。
- ・ サービスを実施する上での問題として8割の事業所が人材の確保をあげている(問 6)。
- ・ サービスの向上を図るための第三者評価について、4割の事業所が実施している(実施予定)である(問 12)。
- ・ 市の障害福祉サービスの充実に向けて必要なこととして、人材確保の取り組みや専門職の育成、確保のための各種支援策が求められている(問 20)。
- ・ 専門職を含む人材を確保・育成し、サービスの質を高めることにつながる支援が必要である。

◆地域共生社会の実現に向けた協働

- ・ 意識啓発以外の取り組みとして、災害時に協力できることは、在宅サービス利用者への安否確認、在宅の災害時要援護者の避難支援、施設を福祉避難所として活用することなどである(問 17)。
- ・ 市の福祉サービスの充実に向けて必要なこととして、「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備」が最も多い(問 20)。災害時要援護者支援のしくみの充実に於いて、障害福祉サービス提供事業所に連携・協力を求めていくことが必要である。

第 2 部 調査結果の概要

第1章 障害等のある人への調査

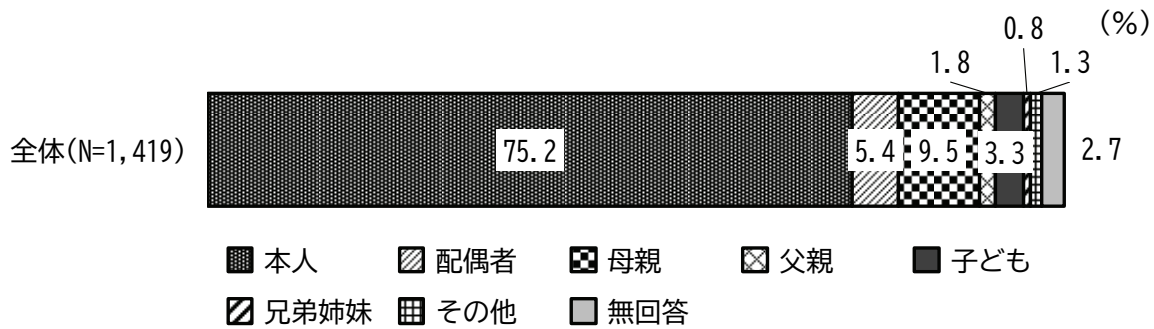
1-1 調査結果の概要

(1) 基本属性について

記入される方とあて名ご本人との関係についておたずねします。(1つに○)(F1)

- ・「本人」(75.2%)が最も多く、次いで「母親」(9.5%)、「配偶者」(5.4%)が続いている。

図表 記入者（全体）



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「本人」(80.3%)が最も多く、次いで「配偶者」(8.4%)、「子ども」(4.9%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「母親」(46.3%)が最も多く、次いで「本人」(37.7%)、「父親」(6.9%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「本人」(76.8%)が最も多く、次いで「母親」(14.5%)、「父親」(3.0%)が続いている。
- ・ 難病患者は「本人」(91.2%)が最も多く、次いで「子ども」(3.2%)、「配偶者」(2.4%)が続いている。

図表 記入者（全体、障害等の種類別）

		(%)							
		本人	配偶者	母親	父親	子ども	兄弟姉妹	その他	無回答
全体	(N=1,419)	75.2	5.4	9.5	1.8	3.3	0.8	1.3	2.7
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	80.3	8.4	1.1	0.3	4.9	0.5	1.6	2.9
	知的障害者 (n=175)	37.7	0.6	46.3	6.9	0.0	3.4	1.7	3.4
	精神障害者 (n=304)	76.8	2.0	14.5	3.0	0.7	0.0	1.0	2.0
	難病患者 (n=125)	91.2	2.4	0.8	0.8	3.2	0.8	0.0	0.8

あなたの性別と年齢をお答えください。(1つに○)(F2)

性別*戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。(F2(1))

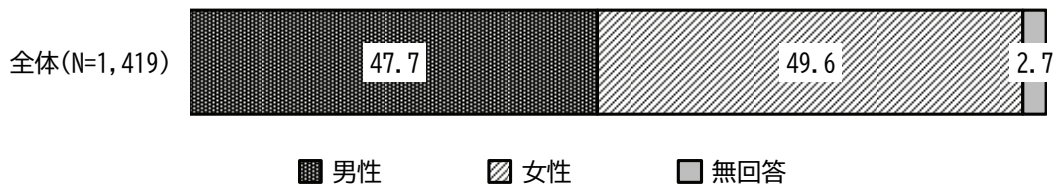
年齢 *平成31年4月1日現在の年齢でお答えください。(F2(2))

(1)性別

- ・「男性」が47.7%、「女性」が49.6%となっている。

図表 性別 (全体)

(%)

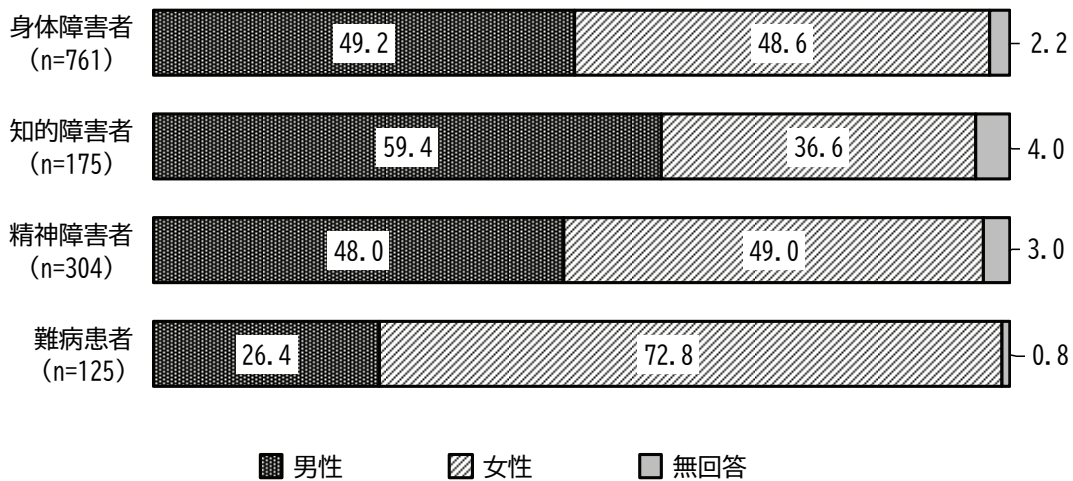


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、「男性」が49.2%、「女性」が48.6%となっている。
- ・知的障害者は、「男性」が59.4%、「女性」が36.6%となっている。
- ・精神障害者は、「男性」が48.0%、「女性」が49.0%となっている。
- ・難病患者は、「男性」が26.4%、「女性」が72.8%となっている。

図表 性別 (障害等の種類別)

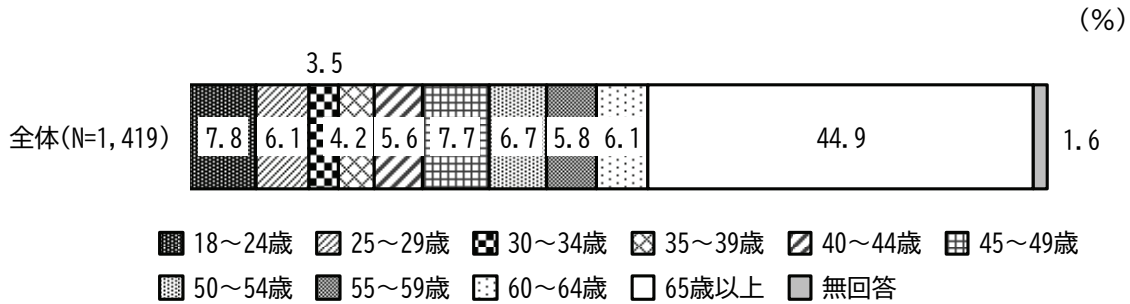
(%)



(2)年齢

- ・「65歳以上」(44.9%)が最も多く、次いで「18～24歳」(7.8%)、「45～49歳」(7.7%)が続いている。

図表 年齢 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「65歳以上」(70.0%)が最も多く、次いで「60～64歳」(8.1%)、「55～59歳」(5.5%)が続いている。
- ・知的障害者は「18～24歳」(33.2%)が最も多く、次いで「25～29歳」(22.3%)、「35～39歳」(8.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「45～49歳」(15.2%)が最も多く、次いで「18～24歳」(12.8%)と「25～29歳」(12.8%)が同率で続いている。
- ・難病患者は「65歳以上」(28.0%)が最も多く、次いで「40～44歳」(14.4%)、「30～34歳」(11.2%)と「45～49歳」(11.2%)が同率で続いている。

図表 年齢 (全体、障害等の種類別)

(%)

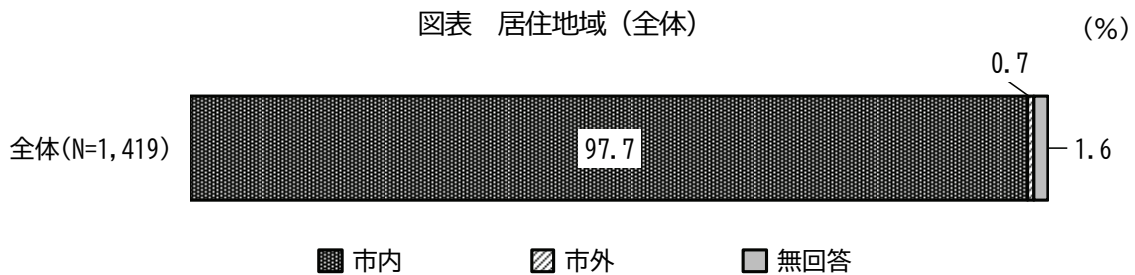
		18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全体 (N=1,419)		7.8	6.1	3.5	4.2	5.6	7.7
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	0.8	0.7	0.8	0.5	2.4	4.2
	知的障害者 (n=175)	33.2	22.3	6.9	8.6	5.1	7.4
	精神障害者 (n=304)	12.8	12.8	5.9	9.5	11.2	15.2
	難病患者 (n=125)	3.2	3.2	11.2	8.8	14.4	11.2

		50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全体 (N=1,419)		6.7	5.8	6.1	44.9	1.6
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	5.0	5.5	8.1	70.0	2.0
	知的障害者 (n=175)	6.3	2.3	1.7	5.1	1.1
	精神障害者 (n=304)	12.2	8.2	4.6	6.9	0.7
	難病患者 (n=125)	6.4	7.2	5.6	28.0	0.8

あなたはどちらにお住まいですか。(1つに○)(F3)

*市内にお住まいの方は 内にも記入してください。

- ・「市内」が97.7%、「市外」が0.7%となっている。
- ・「市内」と回答した人を市内11か所の文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(16.6%)が最も多く、次いで「新町文化センター圏域」(11.7%)、「住吉文化センター圏域」(11.0%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「市内」が98.1%、「市外」が0.5%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(15.8%)が最も多く、次いで「新町文化センター圏域」(12.5%)、「住吉文化センター圏域」(10.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「市内」が97.2%、「市外」が1.1%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「住吉文化センター圏域」(12.9%)が最も多く、次いで「中央文化センター圏域」(12.8%)、「片町文化センター圏域」(12.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「市内」が97.0%、「市外」が1.0%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(22.4%)が最も多く、次いで「住吉文化センター圏域」(11.2%)、「新町文化センター圏域」(10.8%)が続いている。
- ・難病患者は「市内」が98.4%、「市外」が0.8%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(16.0%)が最も多く、次いで「住吉文化センター圏域」(13.0%)、「白糸台文化センター圏域」(10.6%)と「新町文化センター圏域」(10.6%)が同率で続いている。

図表 文化センター圏域 (全体、障害等の種類別)

		文化センター圏域 (%)						
		中央文化センター圏域	白糸台文化センター圏域	西府文化センター圏域	武蔵台文化センター圏域	新町文化センター圏域	住吉文化センター圏域	
全体	(n=1387)	16.6	10.2	6.3	6.9	11.7	11.0	
障害等の種類	身体障害者 (n=746)	15.8	9.9	6.4	8.3	12.5	10.3	
	知的障害者 (n=170)	12.8	10.6	10.6	5.3	10.6	12.9	
	精神障害者 (n=295)	22.4	10.2	5.1	5.8	10.8	11.2	
	難病患者 (n=123)	16.0	10.6	4.9	3.3	10.6	13.0	

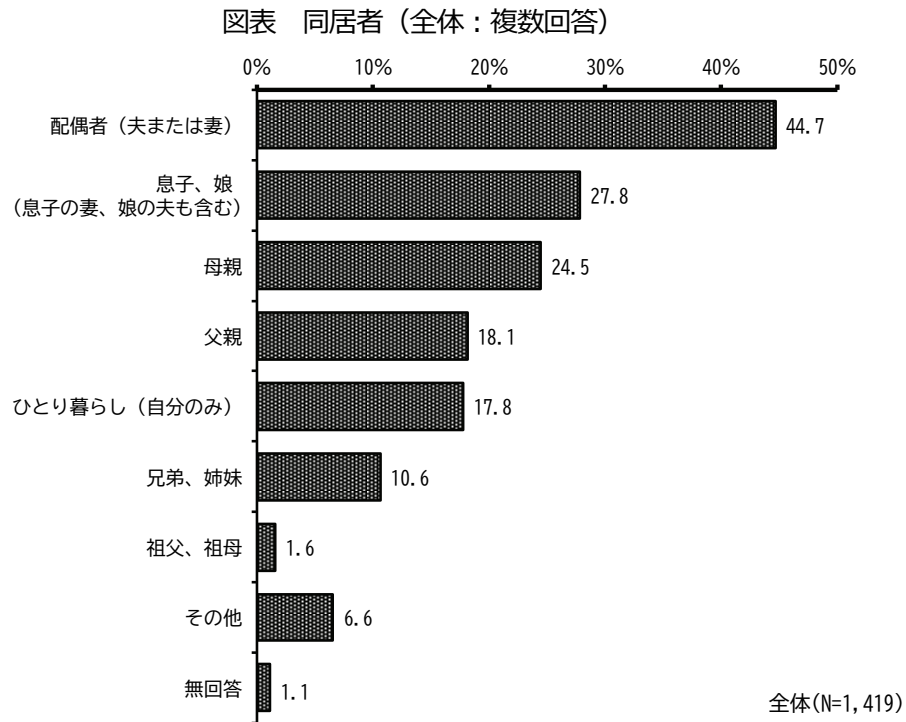
		文化センター圏域 (%)					
		是政文化センター圏域	紅葉丘文化センター圏域	押立文化センター圏域	四谷文化センター圏域	片町文化センター圏域	無回答
全体	(n=1387)	8.7	7.7	4.2	4.8	8.9	3.0
障害等の種類	身体障害者 (n=746)	8.3	7.6	4.6	5.4	7.5	3.4
	知的障害者 (n=170)	8.2	7.1	2.4	5.3	12.4	1.8
	精神障害者 (n=295)	8.8	8.1	3.7	3.7	8.5	1.7
	難病患者 (n=123)	7.3	9.8	6.5	3.3	9.8	4.9

あなたと同居*している方はどなたですか。(いくつでも○)(F4)

*2世帯住宅は同居としてお答えください。

*配偶者の親族を含めてお答えください。

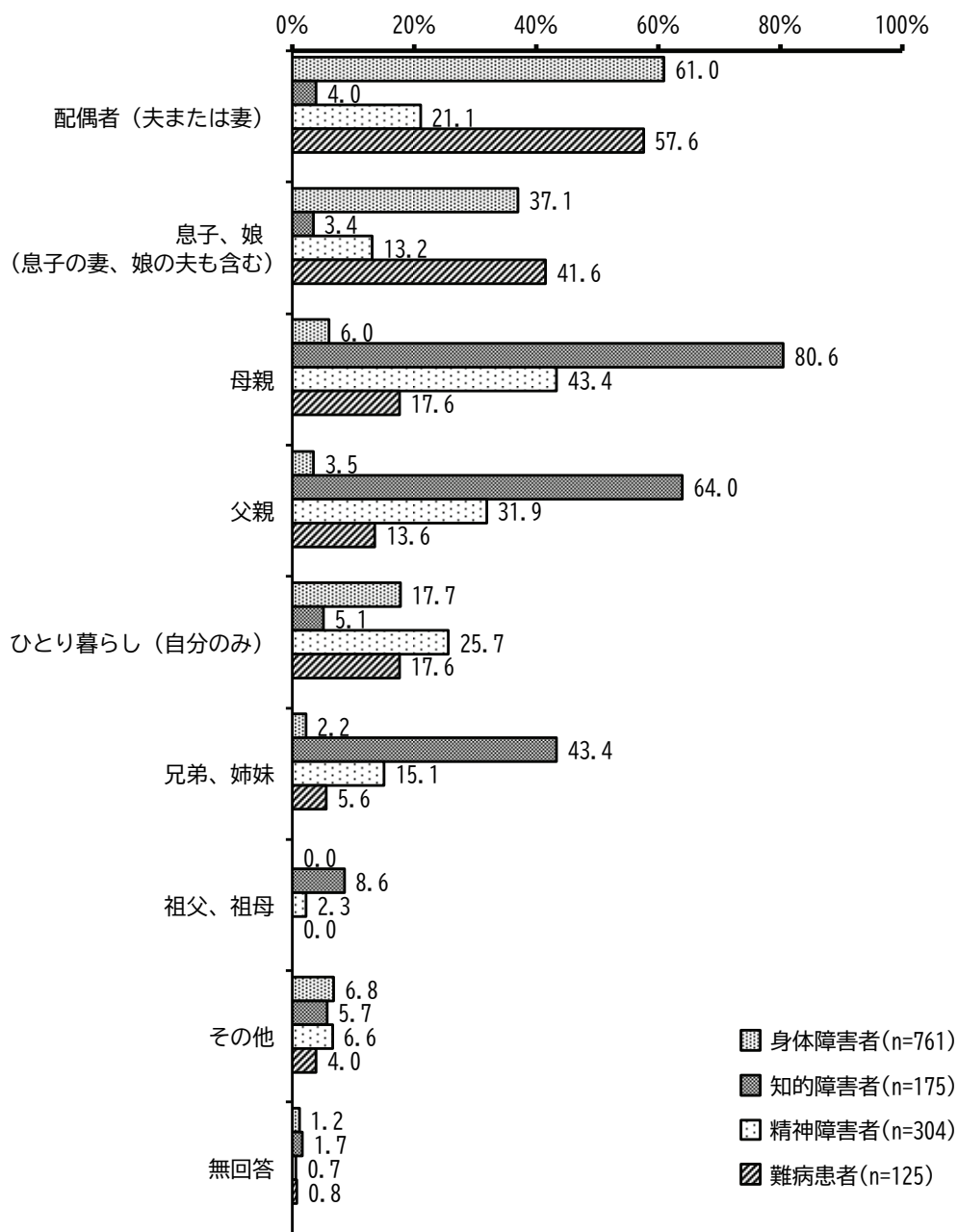
- ・「配偶者(夫または妻)」(44.7%)が最も多く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(27.8%)、「母親」(24.5%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「配偶者（夫または妻）」(61.0%)が最も多く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(37.1%)、「ひとり暮らし」(17.7%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「母親」(80.6%)が最も多く、次いで「父親」(64.0%)、「兄弟、姉妹」(43.4%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「母親」(43.4%)が最も多く、次いで「父親」(31.9%)、「ひとり暮らし」(25.7%)が続いている。
- ・ 難病患者は「配偶者（夫または妻）」(57.6%)が最も多く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(41.6%)、「母親」(17.6%)と「ひとり暮らし」(17.6%)が同率で続いている。

図表 同居者（障害等の種類別：複数回答）



あなたがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。(F5)

- ・身体障害者手帳の所持者は882人である。等級は「1級」(304人)が最も多く、次いで「4級」(206人)、「2級」(168人)が続いている。年代別では65歳以上が552人と最も多い。
- ・愛の手帳の所持者は234人である。「4度」(108人)が最も多く、次いで「2度」(54人)、「3度」(50人)が続いている。年代別では18～30歳が168人と最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳の所持者は198人である。「3級」(96人)が最も多く、次いで「2級」(92人)、「1級」(10人)である。年代別では40～64歳が111人と最も多い。
- ・自立支援医療受給者証の所持者は245人である。年代別では、40～64歳が122人と最も多い。
- ・特定医療費受給者証の所持者は200人である。年代別では40～64歳が84人と最も多い。

図表 所持する手帳の程度(全体、年代別)

【身体障害者手帳】

			1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,419)	304	168	117	206	45	42	537	882
年代別	18～39歳	(n=307)	28	19	10	3	1	8	238	69
	40～64歳	(n=453)	91	53	28	46	15	12	208	245
	65歳以上	(n=636)	179	95	77	150	29	22	84	552

【愛の手帳】

			1度	2度	3度	4度	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,419)	22	54	50	108	1,185	234
年代別	18～39歳	(n=307)	13	48	33	74	139	168
	40～64歳	(n=453)	5	4	15	31	398	55
	65歳以上	(n=636)	4	2	1	2	627	9

【精神障害者保健福祉手帳】

			1級	2級	3級	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,419)	10	92	96	1,221	198
年代別	18～39歳	(n=307)	3	32	43	229	78
	40～64歳	(n=453)	6	55	50	342	111
	65歳以上	(n=636)	1	5	2	628	8

【自立支援医療受給者証】

			受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,419)	245	141	1,033	245
年代別	18～39歳	(n=307)	103	34	170	103
	40～64歳	(n=453)	122	43	288	122
	65歳以上	(n=636)	18	63	555	18

【特定医療費受給者証】

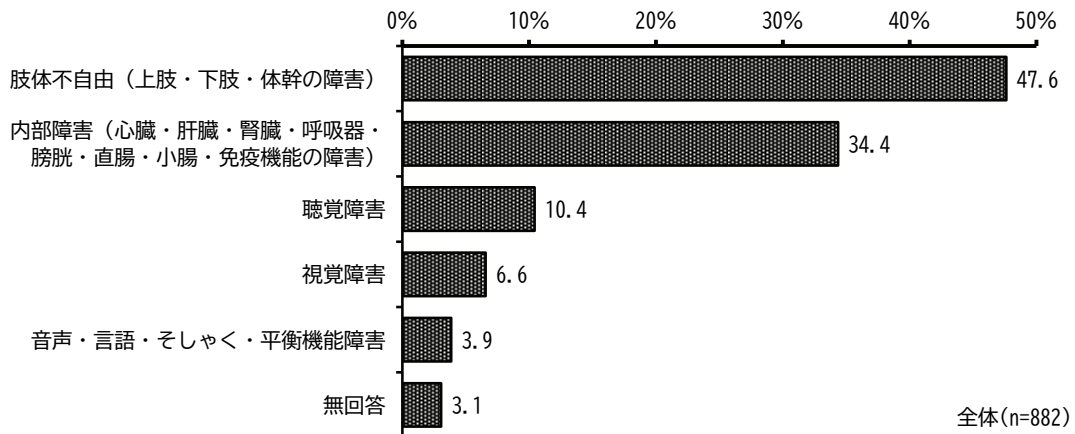
			受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,419)	200	205	1,014	200
年代別	18～39歳	(n=307)	46	70	191	46
	40～64歳	(n=453)	84	72	297	84
	65歳以上	(n=636)	67	62	507	67

身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。

(いくつでも○)(F6)

- ・「肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)」(47.6%)が最も多く、次いで「内部障害」(34.4%)、「聴覚障害」(10.4%)が続いている。

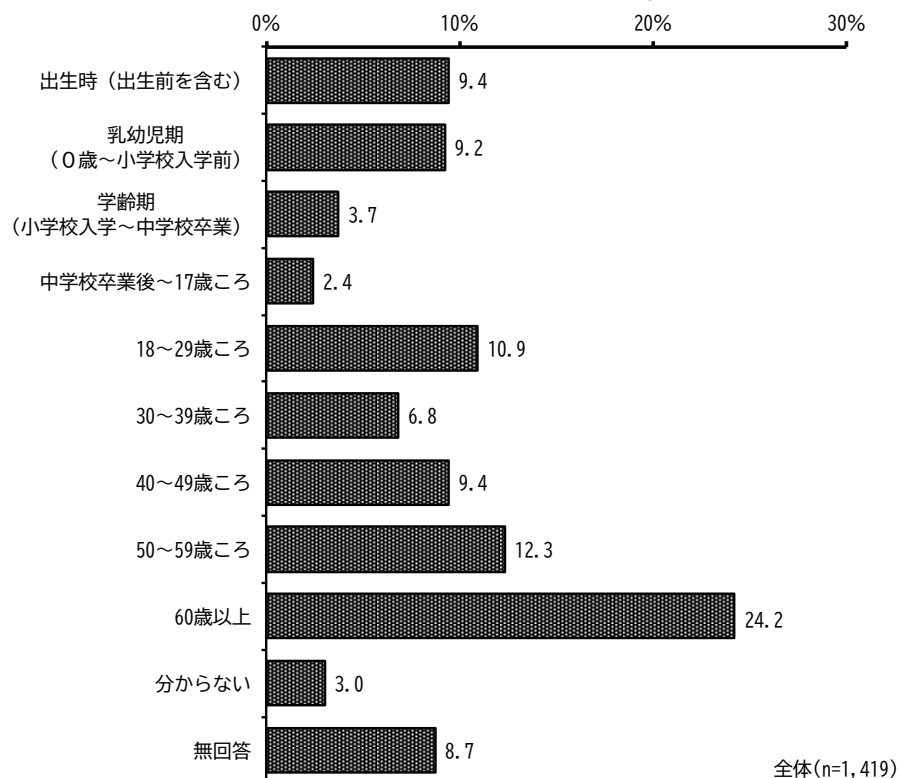
図表 身体障害者手帳に記載された項目（全体）



主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)(F7)

- ・「60歳以上」(24.2%)が最も多く、次いで「50～59歳ころ」(12.3%)、「18～29歳ころ」(10.9%)が続いている。

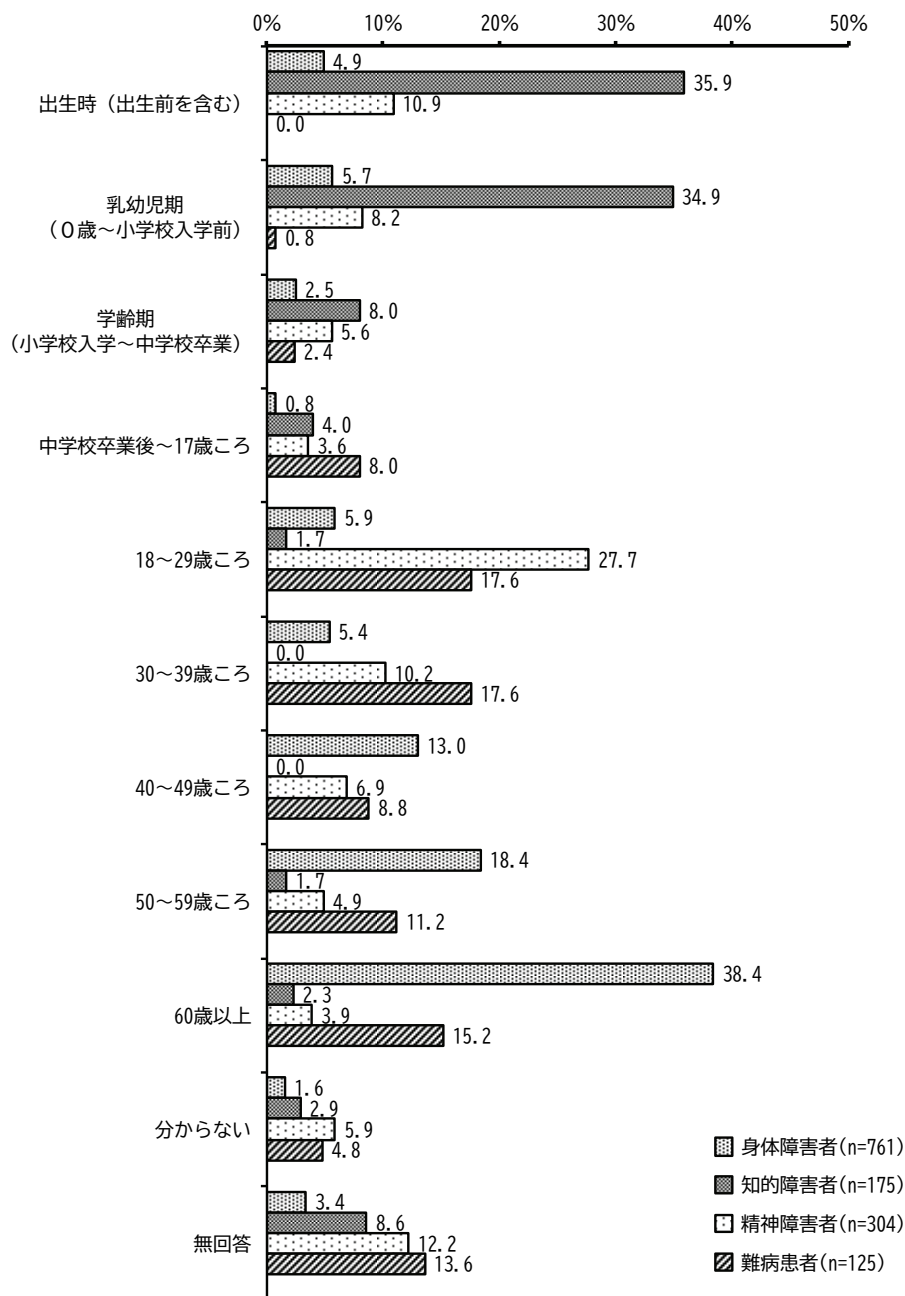
図表 障害・難病が生じた時期（全体）



【障害等の種類別】

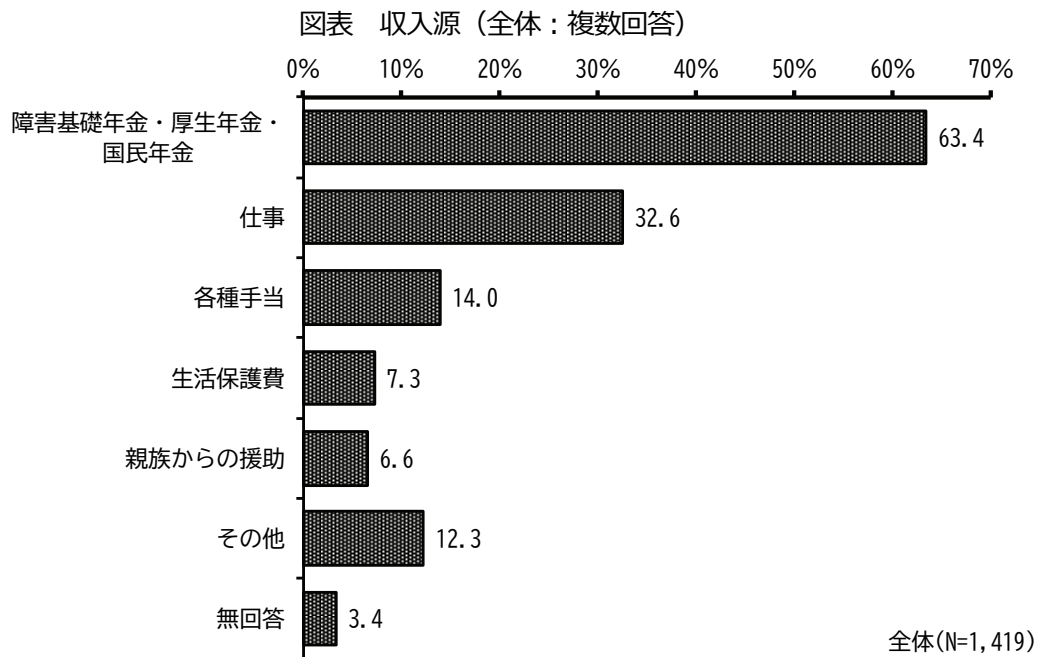
- ・身体障害者は「60歳以上」(38.4%)が最も多く、次いで「50～59歳ころ」(18.4%)、「40～49歳ころ」(13.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「出生時(出生前を含む)」(35.9%)が最も多く、次いで「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(34.9%)、「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(8.0%)が続いている。
- ・精神障害者は「18～29歳ころ」(27.7%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(10.9%)、「30～39歳ころ」(10.2%)が続いている。
- ・難病患者は「18～29歳ころ」(17.6%)と「30～39歳ころ」(17.6%)が同率で最も多く、次いで「60歳以上」(15.2%)が続いている。

図表 障害・難病が生じた時期（障害等の種類別）



あなたの収入源と年収はどれくらいですか。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。
年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。
収入源(いくつでも○)(F8(1))

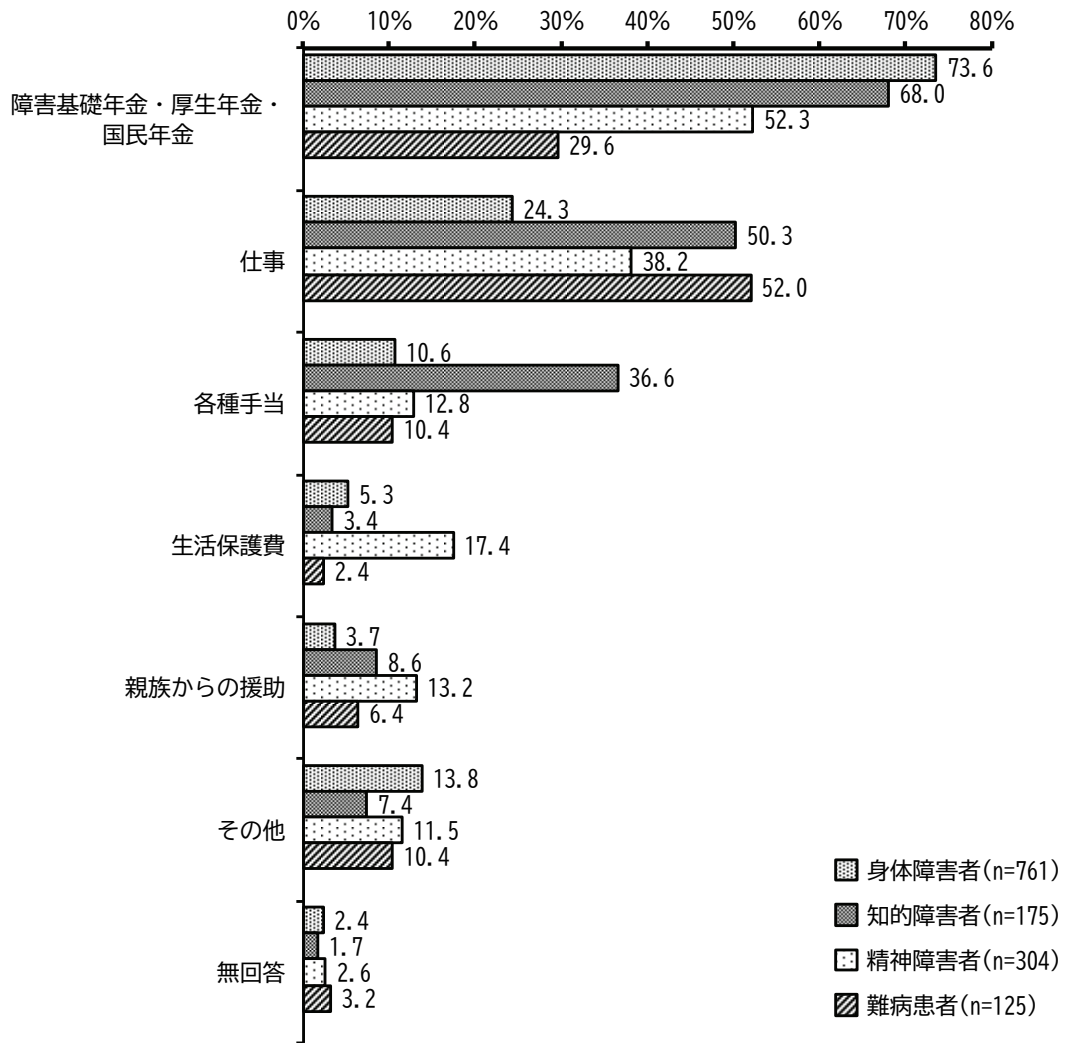
- ・ 「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(63.4%)が最も多く、次いで「仕事」(32.6%)、「各種手当」(14.0%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(73.6%)が最も多く、次いで「仕事」(24.3%)、「その他」(13.8%)が続いている。「その他」の具体的な内容は、不動産収入、扶養、預貯金などである。
- ・ 知的障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(68.0%)が最も多く、次いで「仕事」(50.3%)、「各種手当」(36.6%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(52.3%)が最も多く、次いで「仕事」(38.2%)、「生活保護費」(17.4%)が続いている。
- ・ 難病患者は「仕事」(52.0%)が最も多く、次いで「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(29.6%)、「各種手当」と「その他」がともに10.4%が続いている。

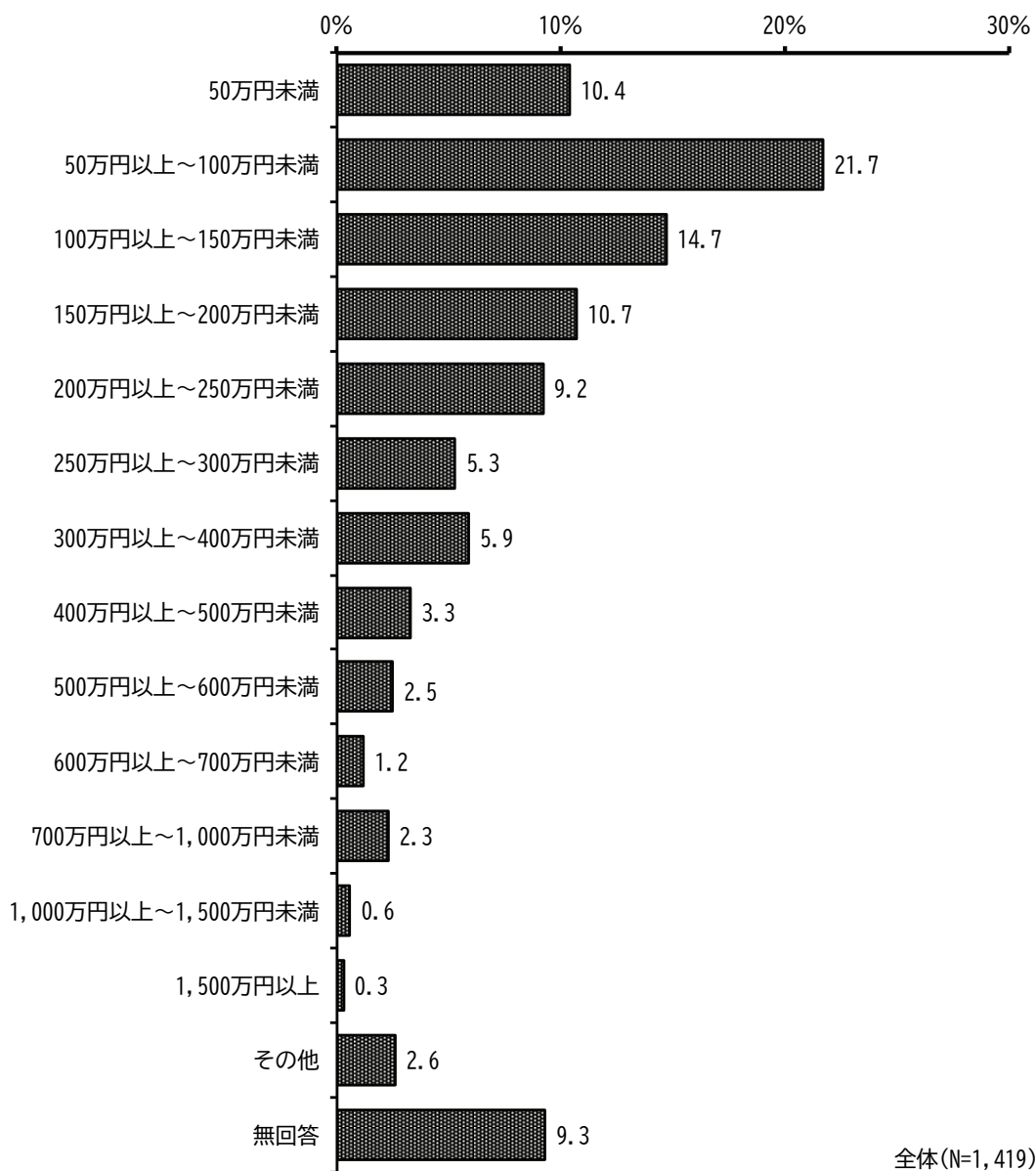
図表 収入源（障害等の種類別：複数回答）



年収(1つに○)(F8(2))

- ・「50万円以上～100万円未満」(21.7%)が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」(14.7%)、「150万円以上～200万円未満」(10.7%)が続いている。

図表 年収(全体)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「50万円以上～100万円未満」(20.7%)が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」(14.5%)、「150万円以上～200万円未満」(11.7%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「50万円以上～100万円未満」(30.2%)が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」(16.6%)、「150万円以上～200万円未満」(14.3%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「50万円以上～100万円未満」(22.8%)が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」(18.4%)、「50万円未満」(18.1%)が続いている。
- ・ 難病患者は「50万円以上～100万円未満」(16.0%)が最も多く、次いで「50万円未満」(15.2%)、「300万円以上～400万円未満」(8.0%)が続いている。

図表 年収（障害等の種類別）

(%)

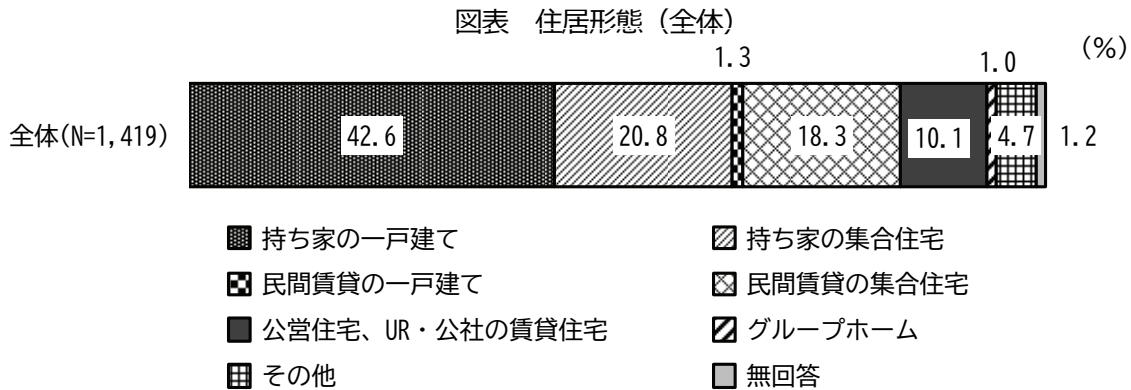
		50万円未満	50万円以上～100万円未満	100万円以上～150万円未満	150万円以上～200万円未満	200万円以上～250万円未満	250万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満
全体 (N=1,419)		10.4	21.7	14.7	10.7	9.2	5.3	5.9	3.3
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	5.8	20.7	14.5	11.7	10.9	6.8	8.1	4.5
	知的障害者 (n=175)	13.7	30.2	16.6	14.3	6.9	2.3	1.7	0.0
	精神障害者 (n=304)	18.1	22.8	18.4	9.5	7.2	2.6	2.0	2.0
	難病患者 (n=125)	15.2	16.0	7.2	6.4	7.2	5.6	8.0	4.8

		500万円以上～600万円未満	600万円以上～700万円未満	700万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上～1,500万円未満	1,500万円以上	その他	無回答
全体 (N=1,419)		2.5	1.2	2.3	0.6	0.3	2.6	9.3
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	3.2	1.2	2.4	0.5	0.3	1.6	7.8
	知的障害者 (n=175)	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.7	8.0
	精神障害者 (n=304)	1.3	0.7	1.6	0.3	0.0	3.6	9.9
	難病患者 (n=125)	4.8	4.8	6.4	2.4	0.8	3.2	7.2

(2) 住まいについて

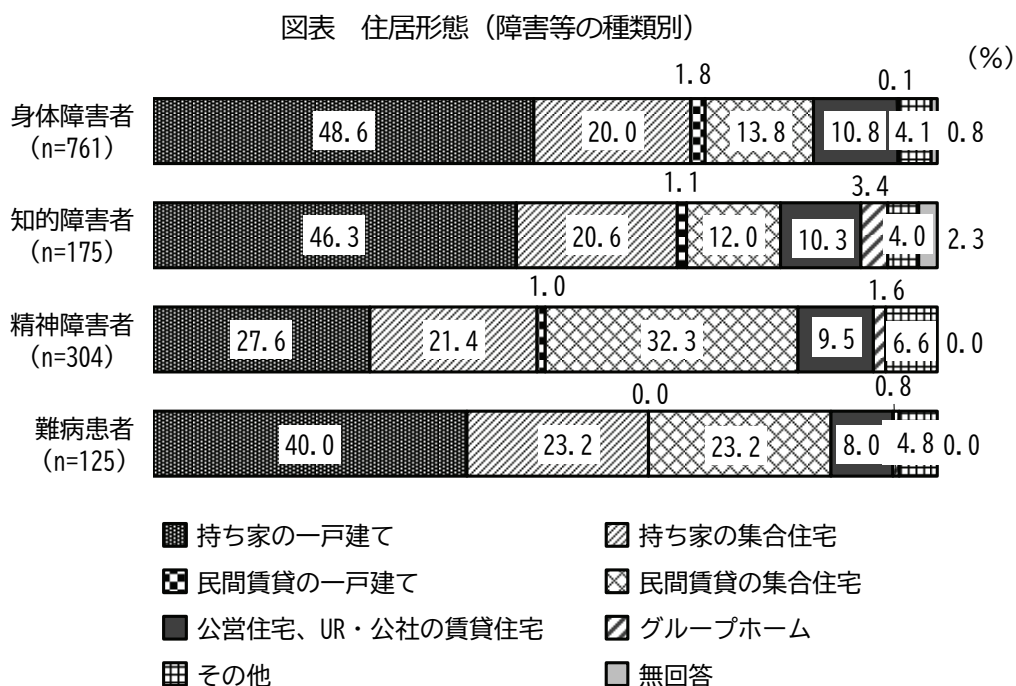
問1 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「持ち家の一戸建て」(42.6%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(20.8%)、「民間賃貸の集合住宅」(18.3%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「持ち家の一戸建て」(48.6%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(20.0%)、「民間賃貸の集合住宅」(13.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「持ち家の一戸建て」(46.3%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(20.6%)、「民間賃貸の集合住宅」(12.0%)が続いている。
- ・精神障害者は「民間賃貸の集合住宅」(32.3%)が最も多く、次いで「持ち家の一戸建て」(27.6%)と「持ち家の集合住宅」(21.4%)が続いている。
- ・難病患者は「持ち家の一戸建て」(40.0%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(23.2%)と「民間賃貸の集合住宅」(23.2%)が同率で続いている。



問2 お住まいについて何か困っていることがありますか。

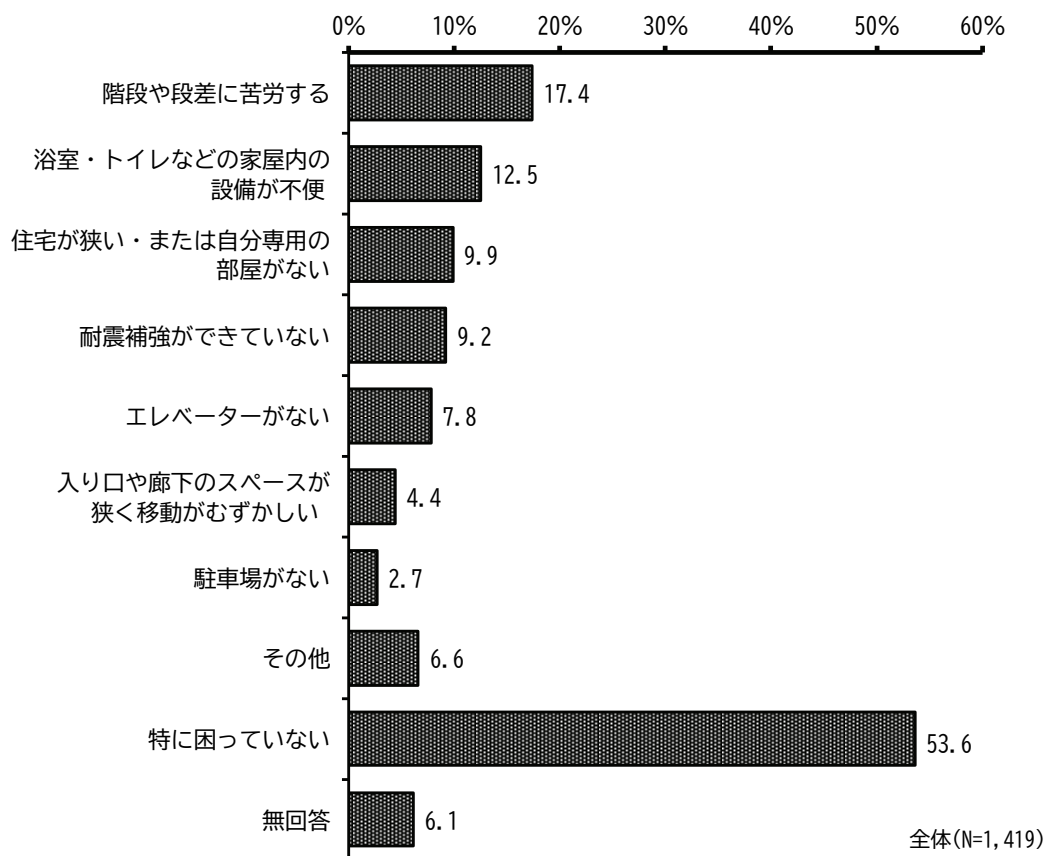
(1)設計・設備について(いくつでも○)

(2)住宅事情について(いくつでも○)

(1)設計・設備について

- ・「特に困っていない」(53.6%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦労する」(17.4%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(12.5%)、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(9.9%)が続いている。

図表 住居について困っていること：設計・設備（全体：複数回答）

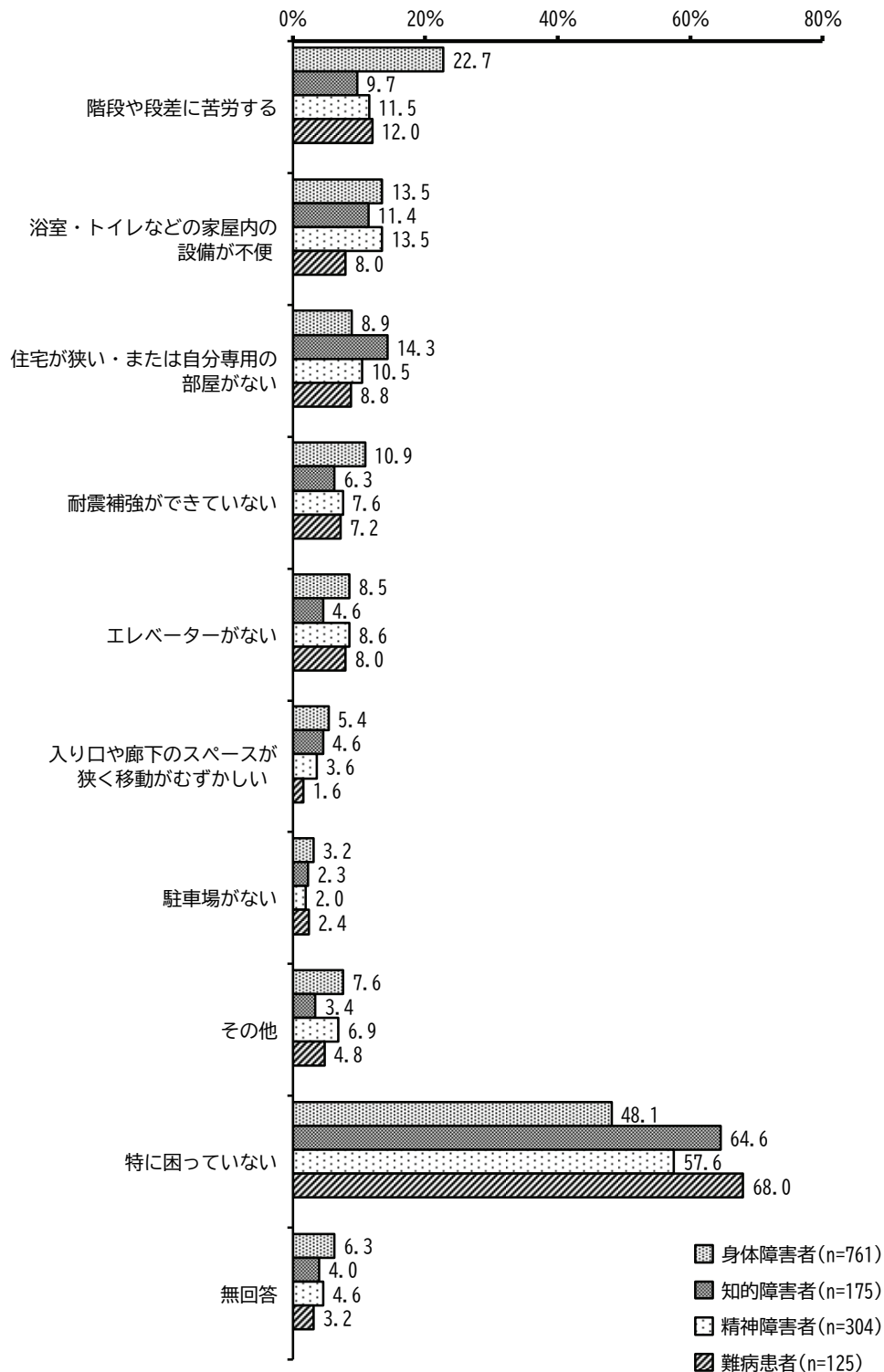


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(48.1%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦労する」(22.7%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(13.5%)、「耐震補強ができていない」(10.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(64.6%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(14.3%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(11.4%)、「階段や段差に苦労する」(9.7%)が続いている。

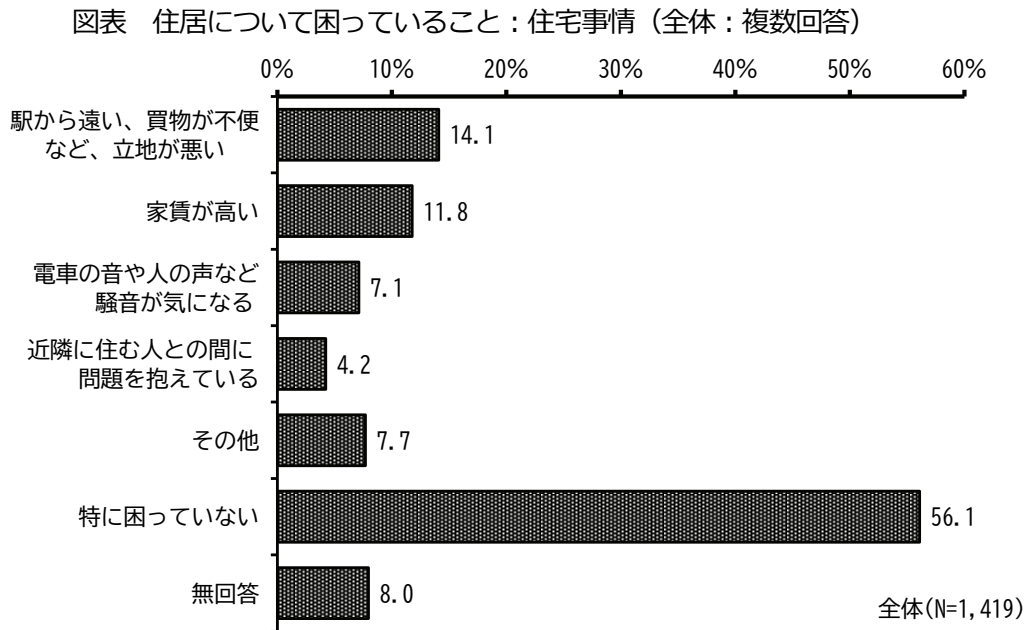
- ・精神障害者は「特に困っていない」(57.6%)が最も多いが、それ以外では「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(13.5%)、「階段や段差に苦労する」(11.5%)、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(10.5%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(68.0%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦労する」(12.0%)、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(8.8%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(8.0%)と「エレベーターがない」(8.0%)が同率で続いている。

図表 住居について困っていること：設計・設備（障害等の種類別：複数回答）



(2)住宅事情について(いくつでも○)

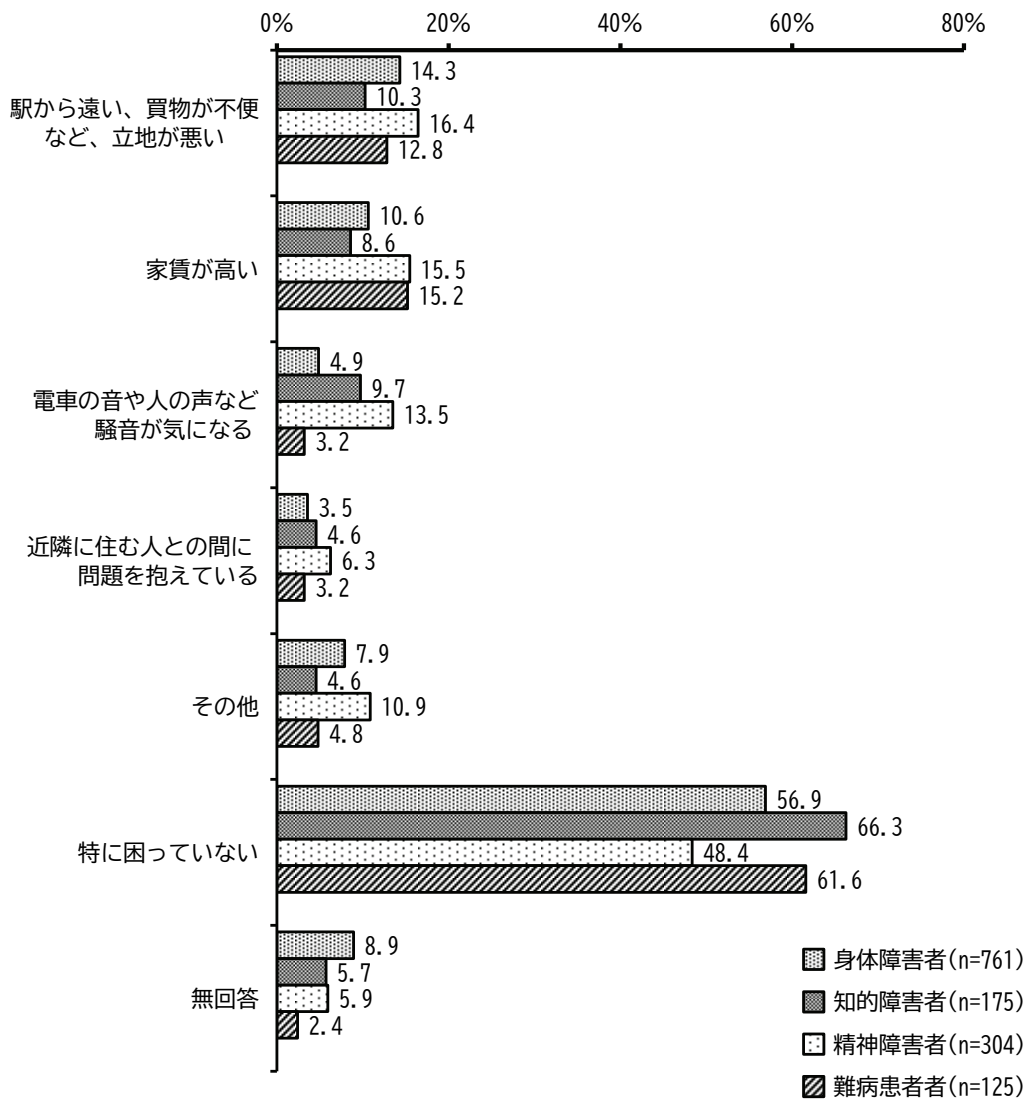
- ・「特に困っていない」(56.1%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(14.1%)、「家賃が高い」(11.8%)、「その他」(7.7%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(56.9%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(14.3%)、「家賃が高い」(10.6%)、「その他」(7.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(66.3%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(10.3%)、「電車の音や人の声など騒音が気になる」(9.7%)、「家賃が高い」(8.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(48.4%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(16.4%)、「家賃が高い」(15.5%)、「電車の音や人の声など騒音が気になる」(13.5%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(61.6%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(15.2%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(12.8%)、「その他」(4.8%)が続いている。

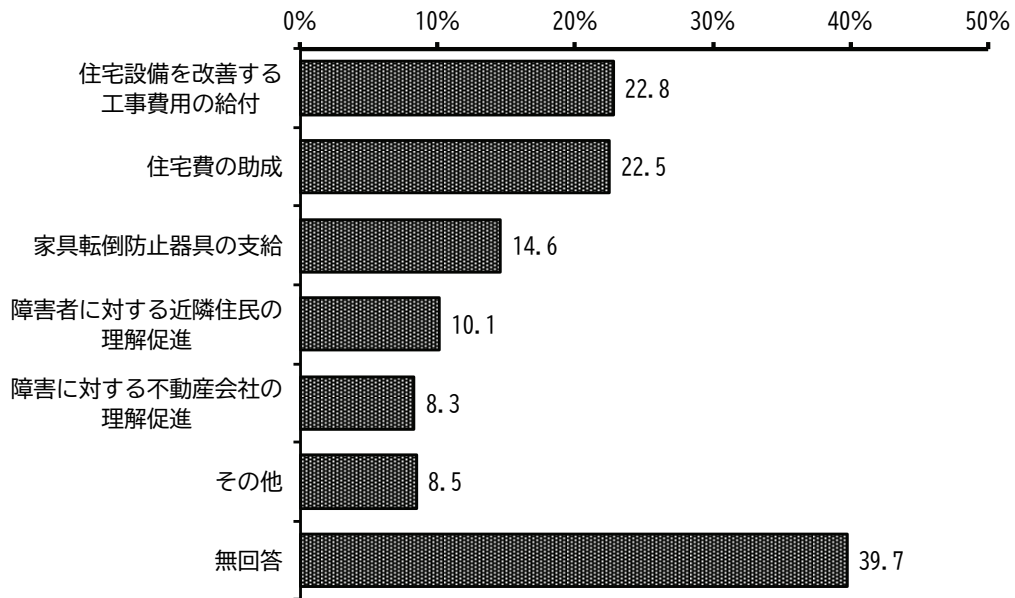
図表 住居について困っていること：住宅事情（障害等の種類別：複数回答）



問3 お住まいに関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「住宅設備を改善する工事費用の給付」(22.8%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(22.5%)、「家具転倒防止器具の支給」(14.6%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援（全体：複数回答）

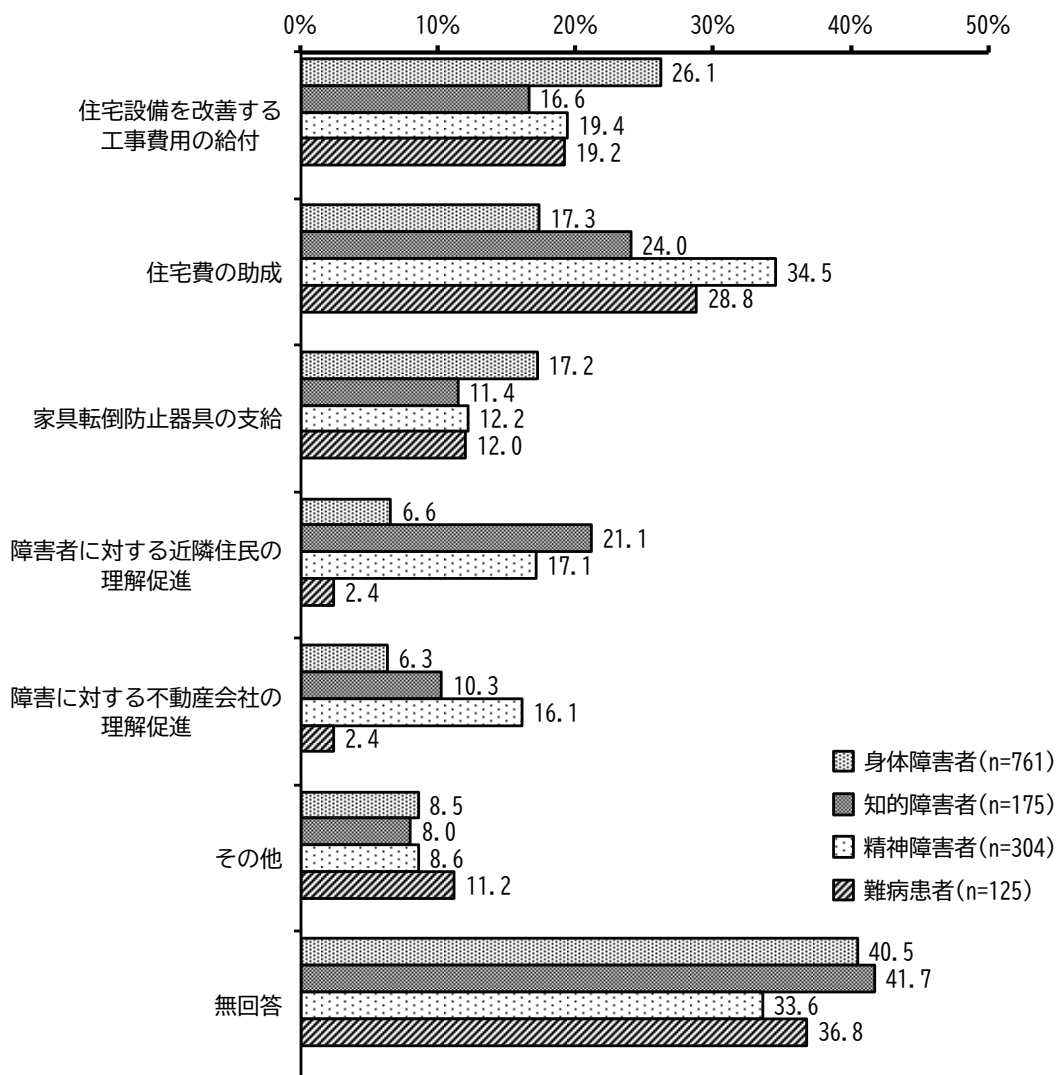


全体(N=1,419)

【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「住宅設備を改善する工事費用の給付」(26.1%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(17.3%)、「家具転倒防止器具の支給」(17.2%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「住宅費の助成」(24.0%) が最も多く、次いで「障害者に対する近隣住民の理解促進」(21.1%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(16.6%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「住宅費の助成」(34.5%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(19.4%)、「障害者に対する近隣住民の理解促進」(17.1%)が続いている。
- ・ 難病患者は「住宅費の助成」(28.8%) が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(19.2%)、「家具転倒防止器具の支給」(12.0%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援（障害等の種類別：複数回答）



(3) 日常生活について

問4 あなたの日常生活についておたずねします。次のそれぞれの状況について、1~3のいずれか1つに○をつけてください。((1)~(11)について、それぞれ1つに○)

(1)日常生活の状況(ADL)等：食事

- ・「一部介助が必要」が8.1%、「全面的に介助が必要」が5.0%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：食事（全体）

(%)



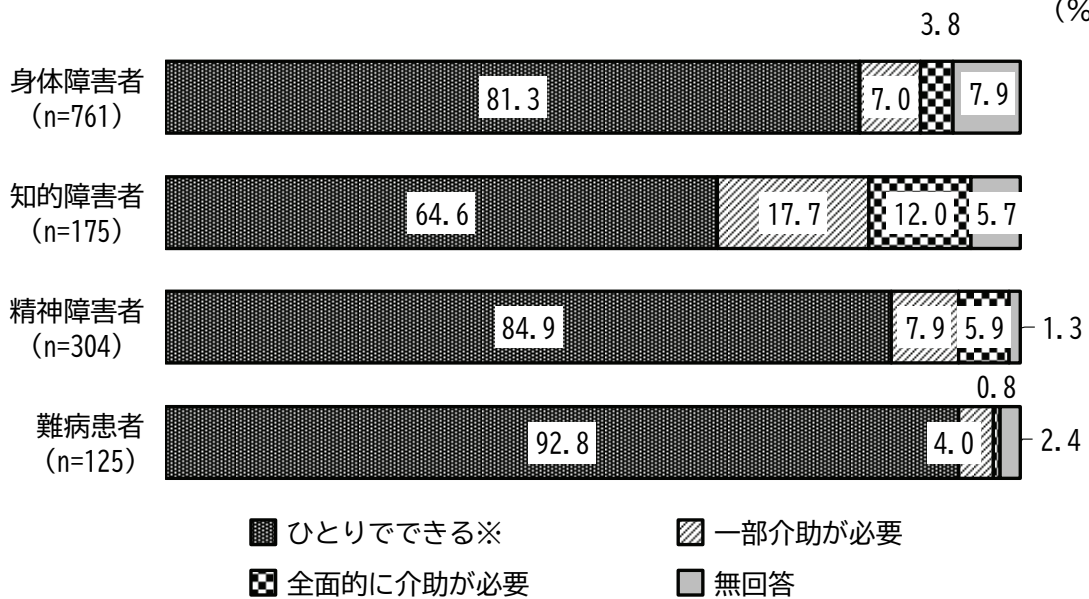
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が7.0%、「全面的に介助が必要」が3.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が17.7%、「全面的に介助が必要」が12.0%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が7.9%、「全面的に介助が必要」が5.9%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が4.0%、「全面的に介助が必要」が0.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：食事（障害等の種類別）

(%)



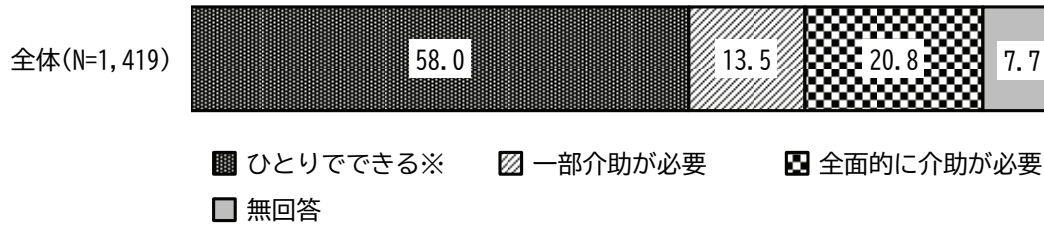
※補装具の使用を含む

(2)日常生活の状況(ADL)等：調理

- ・「一部介助が必要」が13.5%、「全面的に介助が必要」が20.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：調理（全体）

(%)



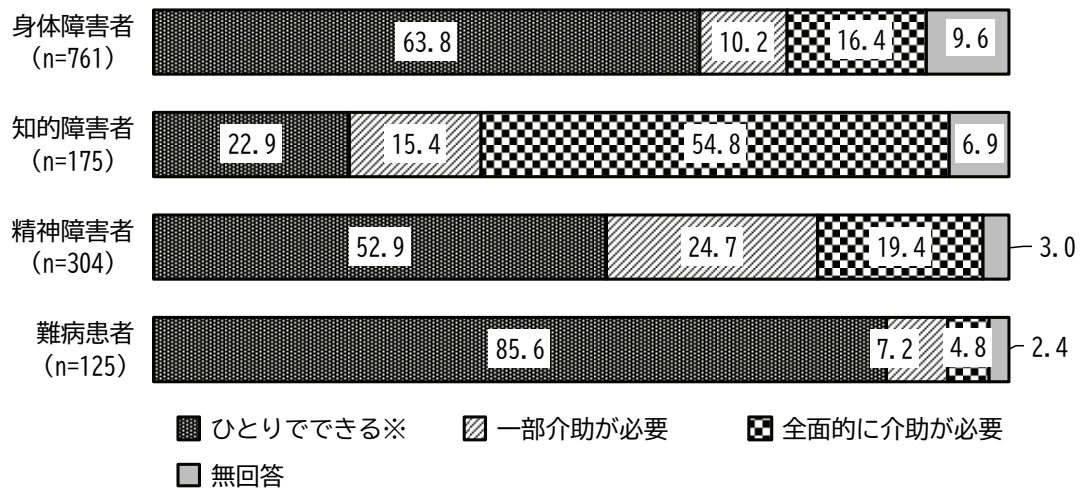
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が10.2%、「全面的に介助が必要」が16.4%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が15.4%、「全面的に介助が必要」が54.8%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が24.7%、「全面的に介助が必要」が19.4%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が7.2%、「全面的に介助が必要」が4.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：調理（障害等の種類別）

(%)



※補装具の使用を含む

(3)日常生活の状況(ADL)等：排泄

- ・「一部介助が必要」が7.3%、「全面的に介助が必要」が5.7%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：排泄（全体）

(%)



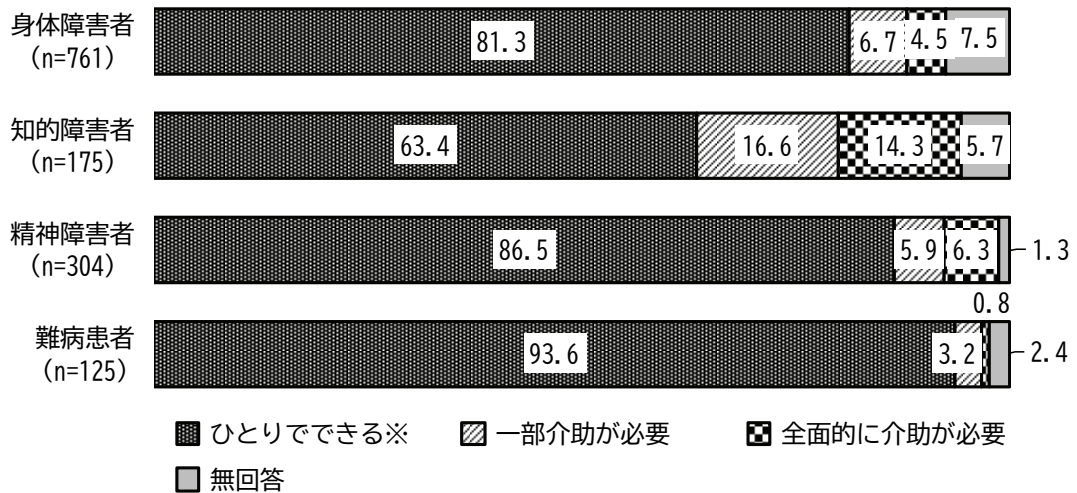
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が6.7%、「全面的に介助が必要」が4.5%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が16.6%、「全面的に介助が必要」が14.3%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が5.9%、「全面的に介助が必要」が6.3%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が3.2%、「全面的に介助が必要」が0.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：排泄（障害等の種類別）

(%)



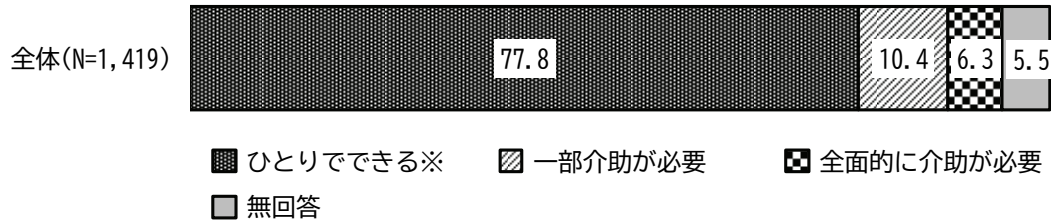
※補装具の使用を含む

(4)日常生活の状況(ADL)等：着替え

- ・「一部介助が必要」が10.4%、「全面的に介助が必要」が6.3%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：着替え（全体）

(%)



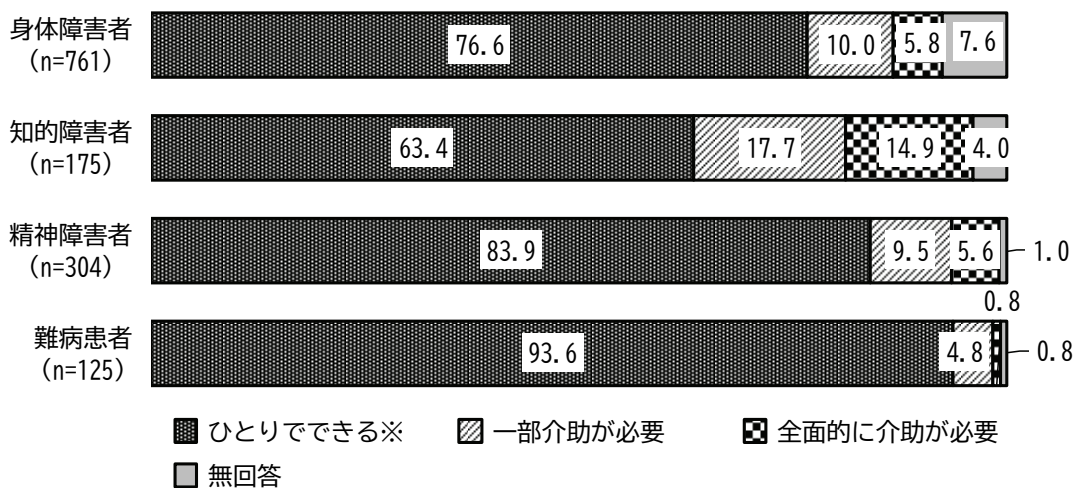
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が10.0%、「全面的に介助が必要」が5.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が17.7%、「全面的に介助が必要」が14.9%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が9.5%、「全面的に介助が必要」が5.6%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が4.8%、「全面的に介助が必要」が0.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：着替え（障害等の種類別）

(%)



※補装具の使用を含む

(5)日常生活の状況(ADL)等：入浴

- ・「一部介助が必要」が11.0%、「全面的に介助が必要」が10.2%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：入浴（全体）

(%)



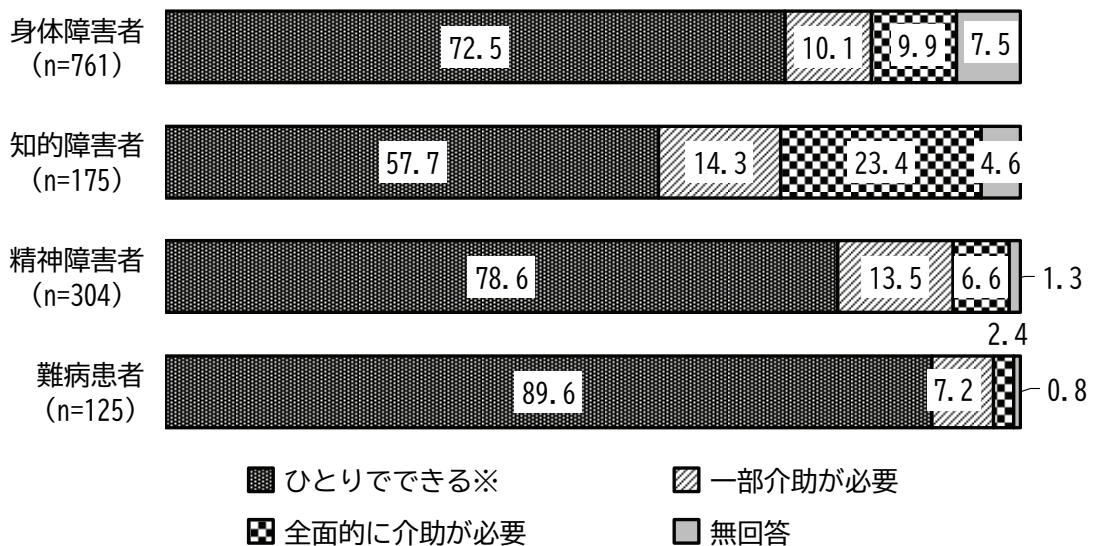
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が10.1%、「全面的に介助が必要」が9.9%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が14.3%、「全面的に介助が必要」が23.4%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が13.5%、「全面的に介助が必要」が6.6%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が7.2%、「全面的に介助が必要」が2.4%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：入浴（障害等の種類別）

(%)



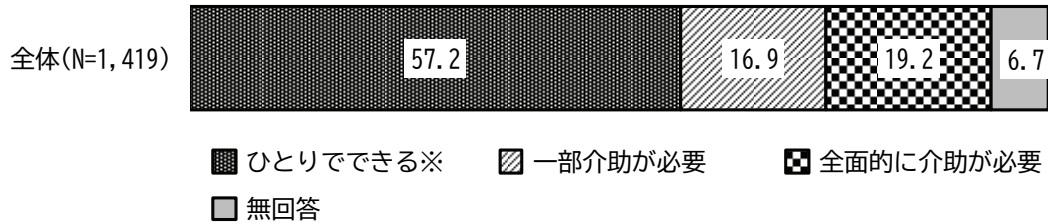
※補装具の使用を含む

(6)日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯

- ・「一部介助が必要」が16.9%、「全面的に介助が必要」が19.2%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯（全体）

(%)



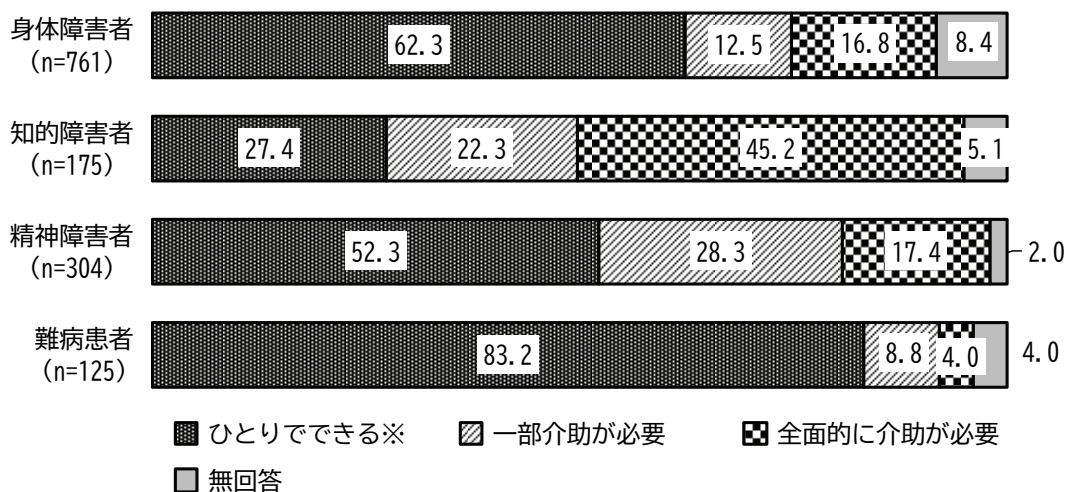
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が12.5%、「全面的に介助が必要」が16.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が22.3%、「全面的に介助が必要」が45.2%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が28.3%、「全面的に介助が必要」が17.4%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が8.8%、「全面的に介助が必要」が4.0%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯（障害等の種類別）

(%)



※補装具の使用を含む

(7)日常生活の状況(ADL)等：室内の移動

- ・「一部介助が必要」が7.6%、「全面的に介助が必要」が5.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：室内の移動（全体）

(%)



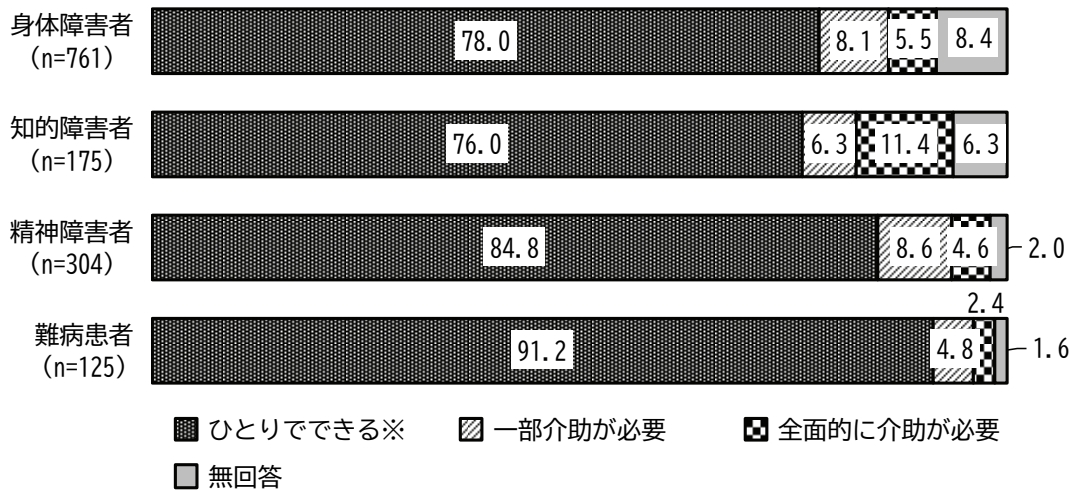
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が8.1%、「全面的に介助が必要」が5.5%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が6.3%、「全面的に介助が必要」が11.4%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が8.6%、「全面的に介助が必要」が4.6%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が4.8%、「全面的に介助が必要」が2.4%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：室内の移動（障害等の種類別）

(%)



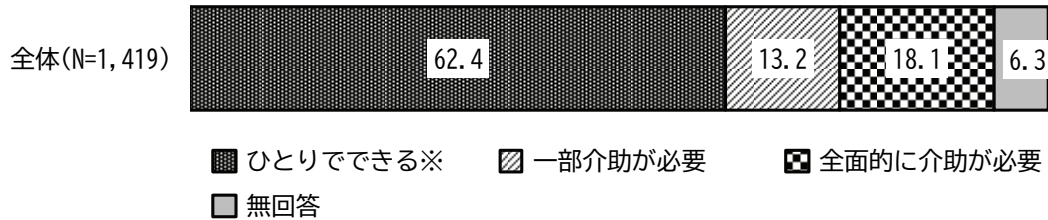
※補装具の使用を含む

(8)日常生活の状況(ADL)等：お金の管理

- ・「一部介助が必要」が13.2%、「全面的に介助が必要」が18.1%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：お金の管理（全体）

(%)



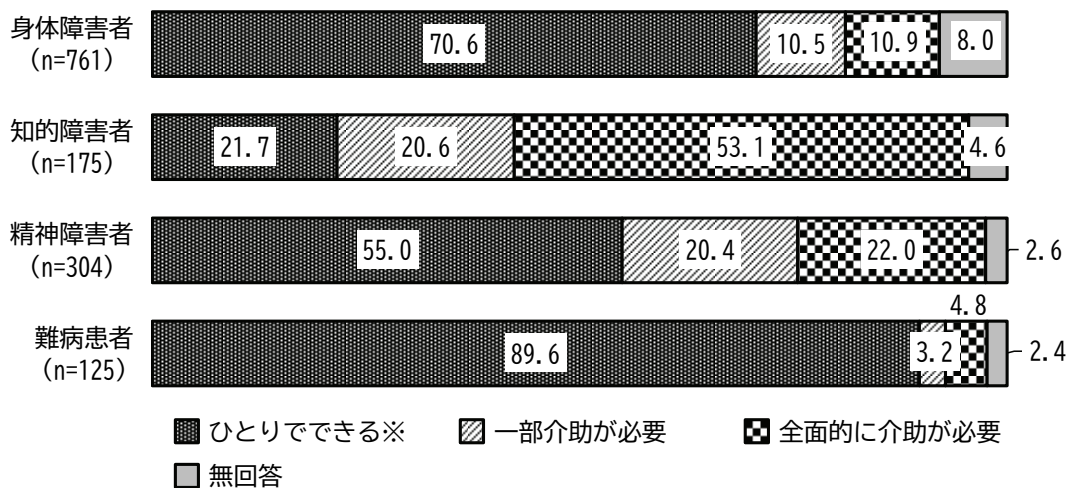
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が10.5%、「全面的に介助が必要」が10.9%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が20.6%、「全面的に介助が必要」が53.1%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が20.4%、「全面的に介助が必要」が22.0%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が3.2%、「全面的に介助が必要」が4.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：お金の管理（障害等の種類別）

(%)



※補装具の使用を含む

(9)日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む)

- ・「一部介助が必要」が17.1%、「全面的に介助が必要」が18.9%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む) (全体)

(%)



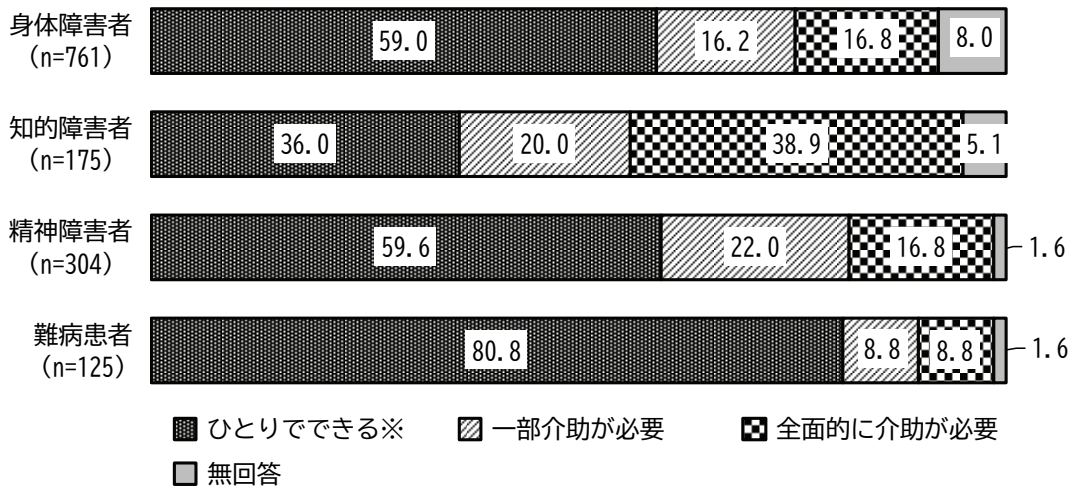
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が16.2%、「全面的に介助が必要」が16.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が20.0%、「全面的に介助が必要」が38.9%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が22.0%、「全面的に介助が必要」が16.8%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が8.8%、「全面的に介助が必要」が8.8%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む) (障害等の種類別)

(%)



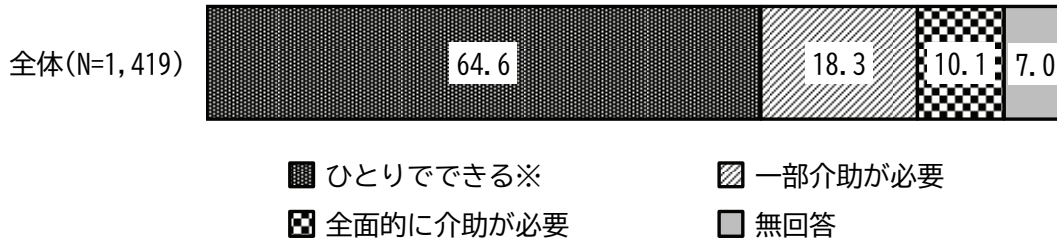
※補装具の使用を含む

(10)日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション

- ・「一部介助が必要」が18.3%、「全面的に介助が必要」が10.1%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション（全体）

(%)



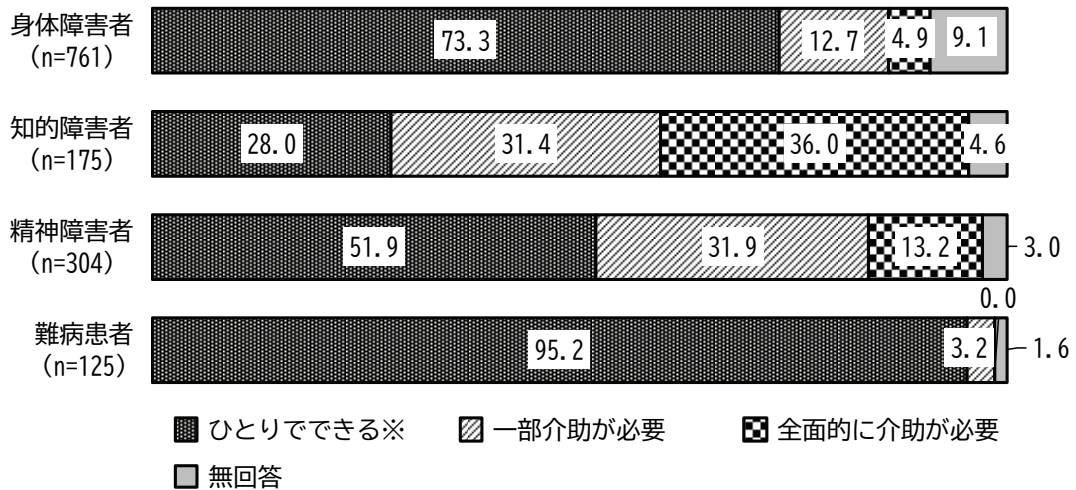
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が12.7%、「全面的に介助が必要」が4.9%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が31.4%、「全面的に介助が必要」が36.0%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が31.9%、「全面的に介助が必要」が13.2%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が3.2%、「全面的に介助が必要」が0.0%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション（障害等の種類別）

(%)



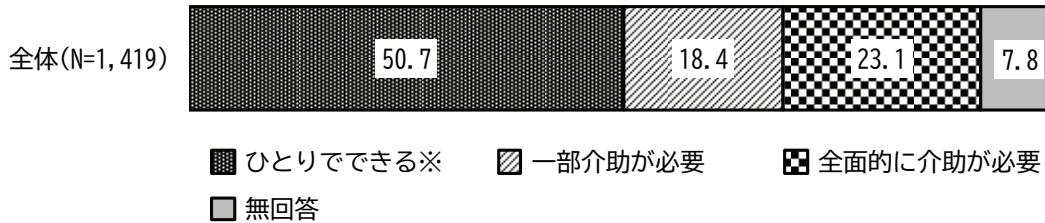
※補装具の使用を含む

(11)日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き

- ・「一部介助が必要」が18.4%、「全面的に介助が必要」が23.1%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き（全体）

(%)



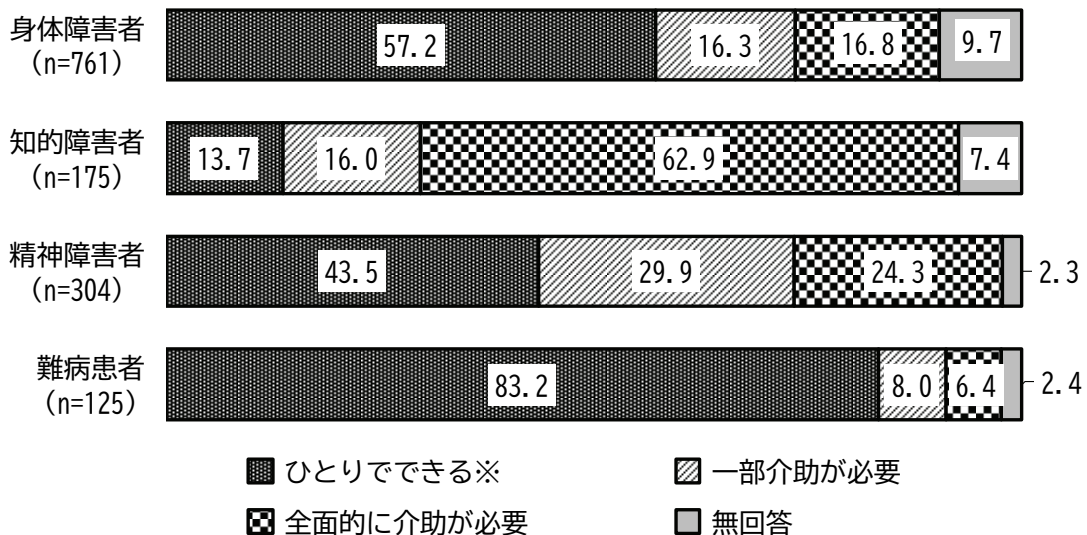
※補装具の使用を含む

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が16.3%、「全面的に介助が必要」が16.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が16.0%、「全面的に介助が必要」が62.9%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が29.9%、「全面的に介助が必要」が24.3%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が8.0%、「全面的に介助が必要」が6.4%である。

図表 日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き（障害等の種類別）

(%)

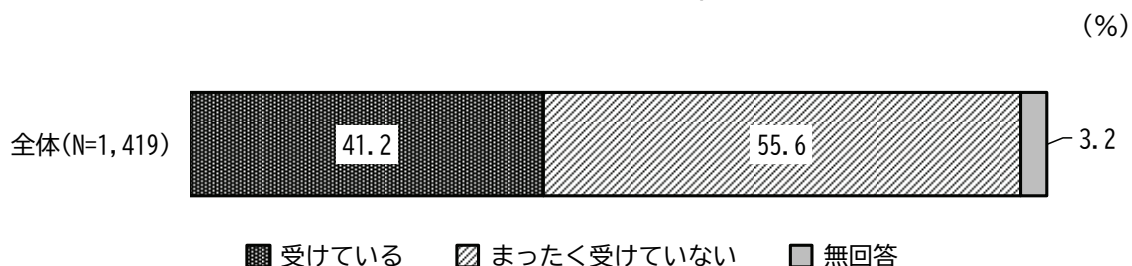


※補装具の使用を含む

問5 あなたは、日常生活において何らかの介助を受けていますか。(1つに○)

- ・「受けている」は41.2%である。

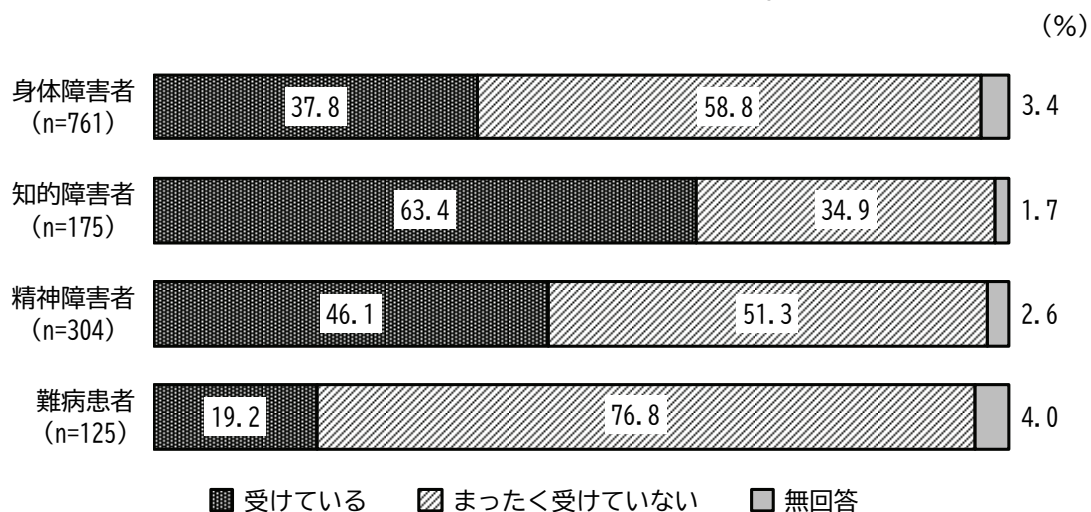
図表 介助の状況（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けている」が37.8%である。
- ・知的障害者は「受けている」が63.4%である。
- ・精神障害者は「受けている」が46.1%である。
- ・難病患者は「受けている」が19.2%である。

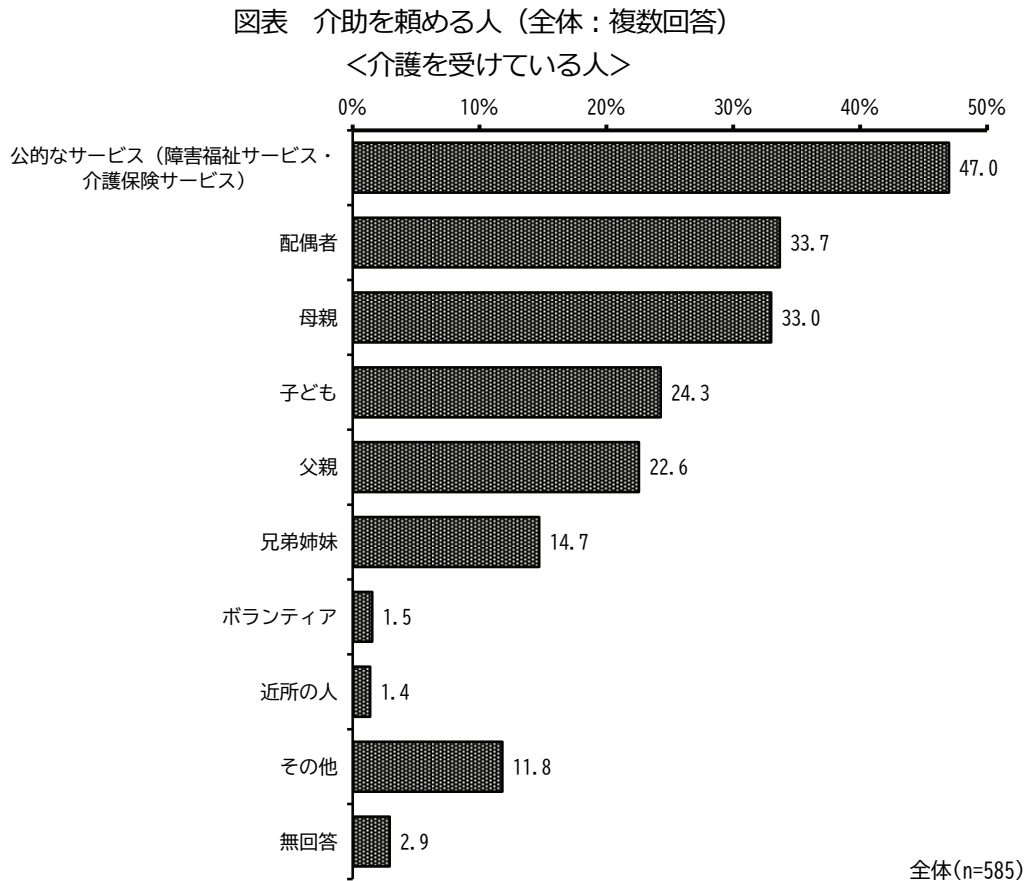
図表 介助の状況（障害等の種類別）



問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(1) 介助を頼めるのはどなたですか。(いくつでも○)

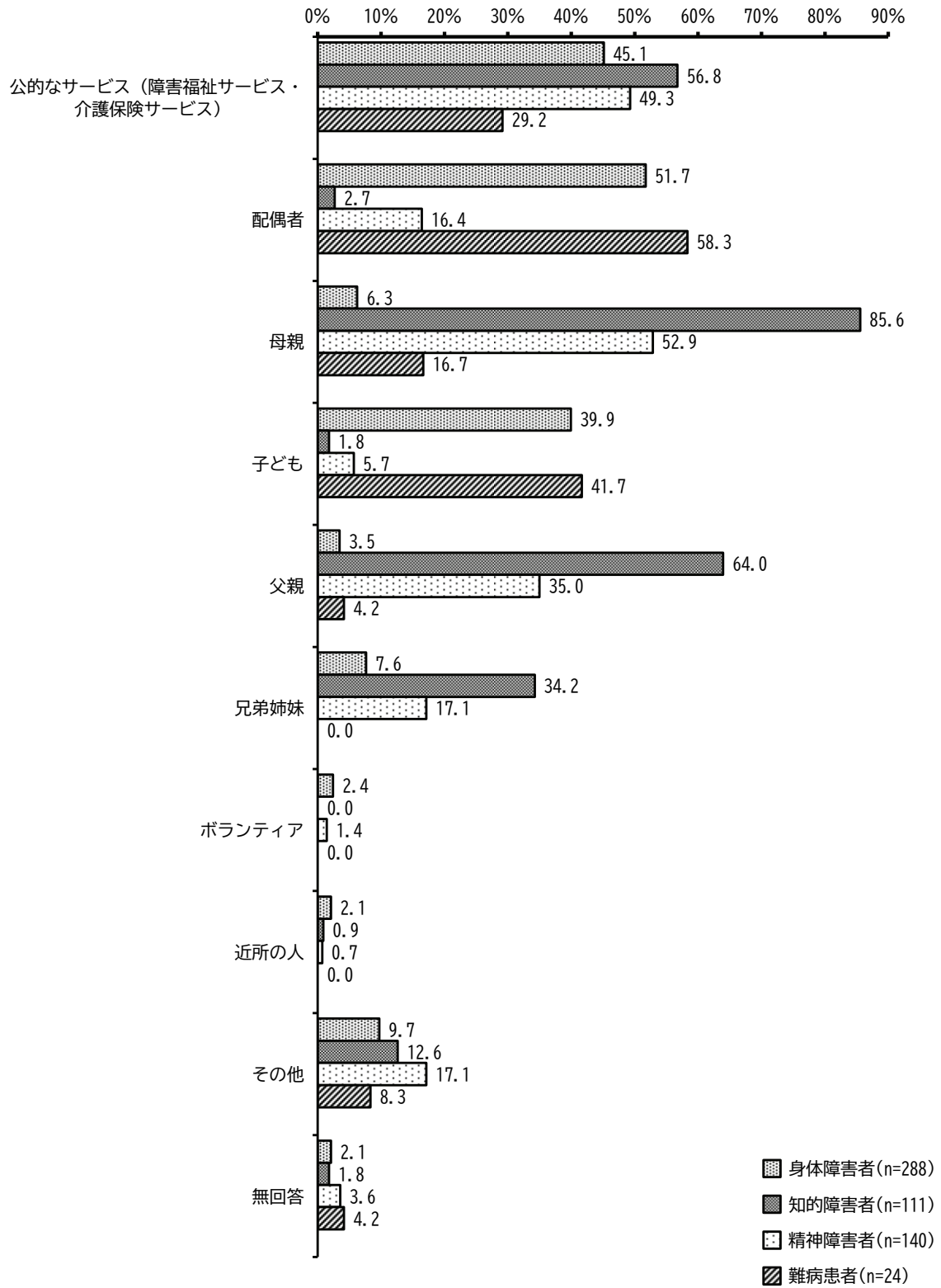
- ・「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(47.0%)が最も多く、次いで「配偶者」(33.7%)、「母親」(33.0%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「配偶者」(51.7%) が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(45.1%)、「子ども」(39.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「母親」(85.6%) が最も多く、次いで「父親」(64.0%)、「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(56.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「母親」(52.9%) が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(49.3%)、「父親」(35.0%)が続いている。
- ・難病患者は「配偶者」(58.3%) が最も多く、次いで「子ども」(41.7%)、「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(29.2%)が続いている。

図表 介助を頼める人（障害等の種類別：複数回答）
 <介護を受けている人>

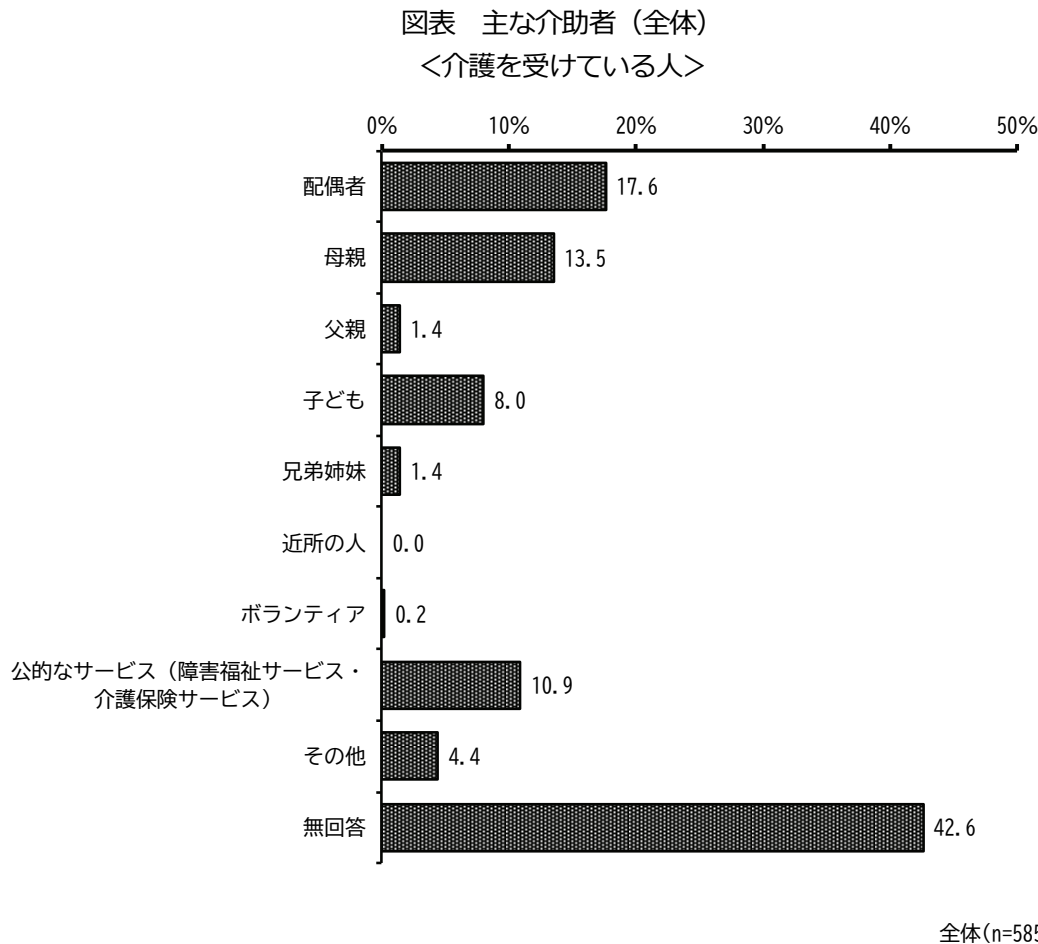


問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(2)主な介助者はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

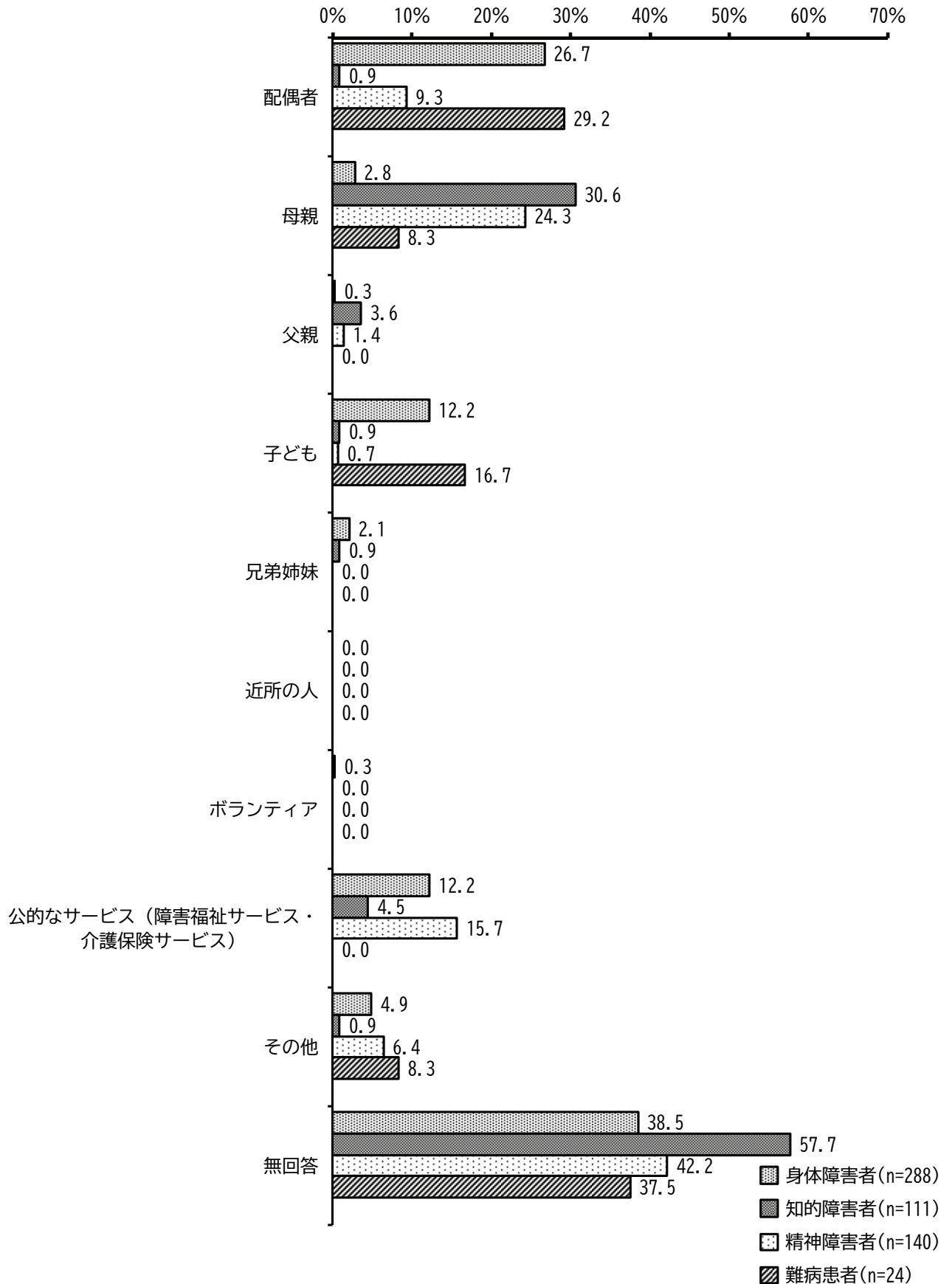
- ・ 無回答を除くと「配偶者」(17.6%)が最も多く、次いで「母親」(13.5%)、「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(10.9%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は無回答を除くと「配偶者」(26.7%)が最も多く、次いで「子ども」(12.2%)と「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(12.2%)が同率が続いている。
- ・ 知的障害者は無回答を除くと「母親」(30.6%)が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(4.5%)、「父親」(3.6%)が続いている。
- ・ 精神障害者は無回答を除くと「母親」(24.3%)が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(15.7%)、「配偶者」(9.3%)が続いている。
- ・ 難病患者は無回答を除くと「配偶者」(29.2%)が最も多く、次いで「子ども」(16.7%)、「母親」(8.3%)が続いている。

図表 主な介助者（障害等の種類別）
 <介護を受けている人>

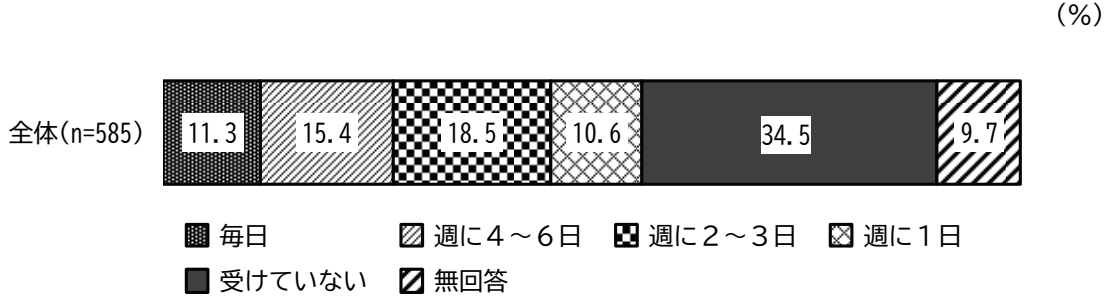


問5-2 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

公的なサービスによる介助(介護保険サービス、障害福祉サービス)を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「受けていない」(34.5%)が最も多く、次いで「週に2~3日」(18.5%)が続いている。

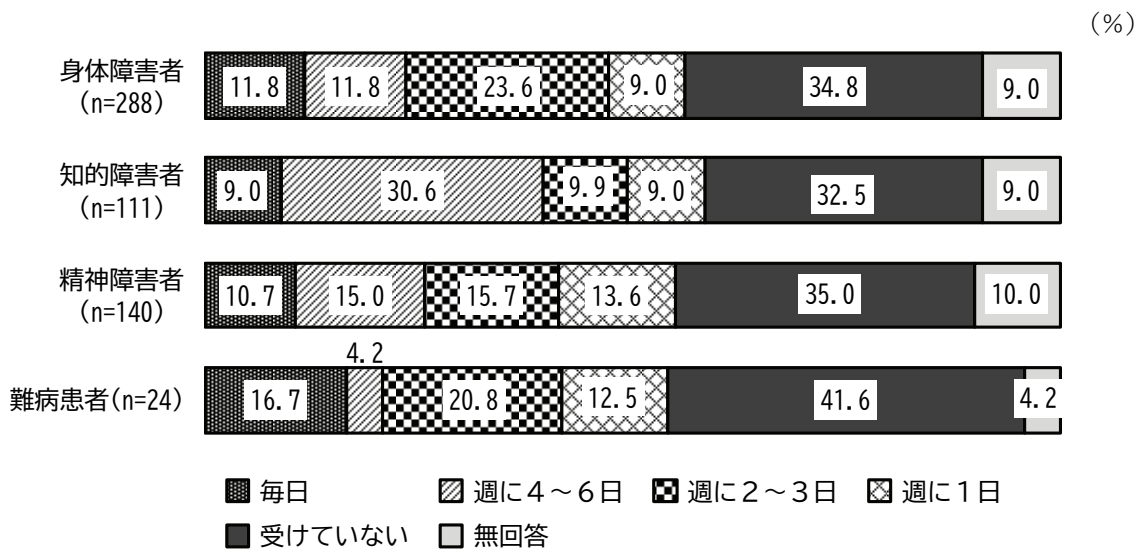
図表 公的サービスによる介助の頻度 (全体)
 <介護を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けていない」(34.8%)が最も多く、次いで「週に2~3日」(23.6%)が続いている。
- ・知的障害者は「受けていない」(32.5%)が最も多く、次いで「週に4~6日」(30.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「受けていない」(35.0%)が最も多く、次いで「週に2~3日」(15.7%)が続いている。
- ・難病患者は「受けていない」(41.6%)が最も多く、次いで「週に2~3日」(20.8%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度 (障害等の種類別)
 <介護を受けている人>

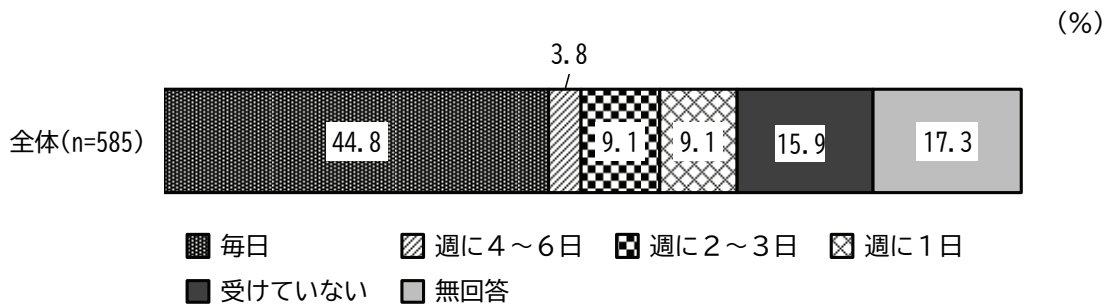


問5-3 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。
(1つに○)

- ・「毎日」が44.8%である。

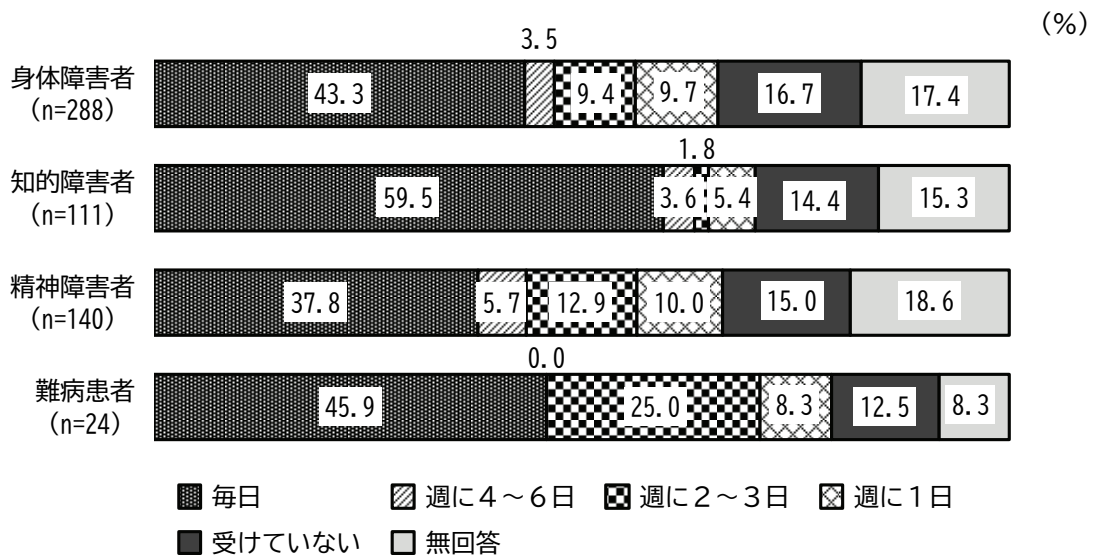
図表 家族等介助の頻度 (全体)
<介護を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「毎日」が43.3%である。
- ・知的障害者は「毎日」が59.5%と約6割を占めている。
- ・精神障害者は「毎日」が37.8%である。
- ・難病患者は「毎日」が45.9%である。

図表 家族等介助の頻度 (障害等の種類別)
<介護を受けている人>

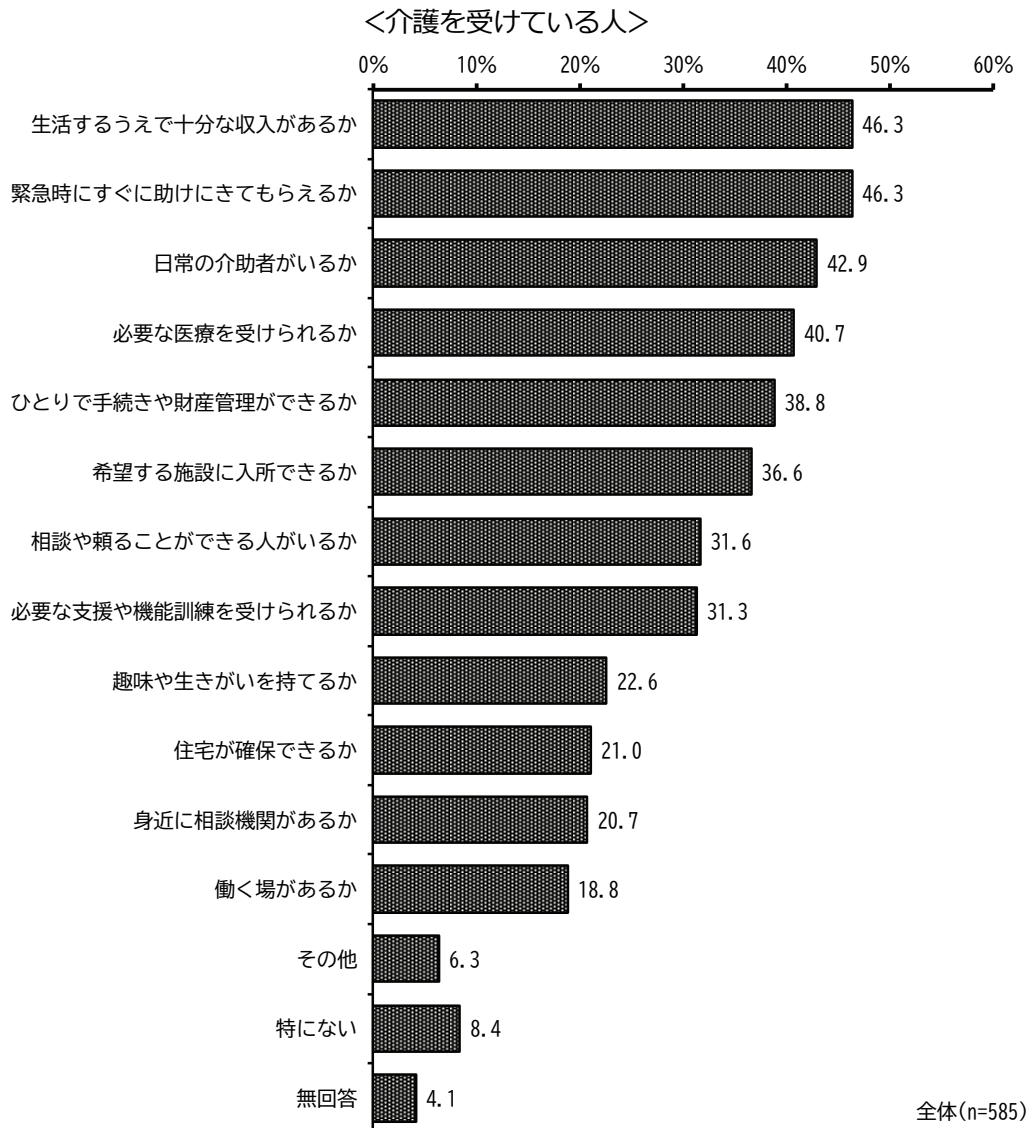


問5-4 あなた(あて名のご本人)が、将来のことで、特に不安に感じていることは何ですか。

(いくつでも○)

- ・「生活するうえで十分な収入があるか」(46.3%)と「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(46.3%)が同率で最も多く、次いで「日常の介助者がいるか」(42.9%)が続いている。

図表 将来の不安なこと (全体：複数回答)

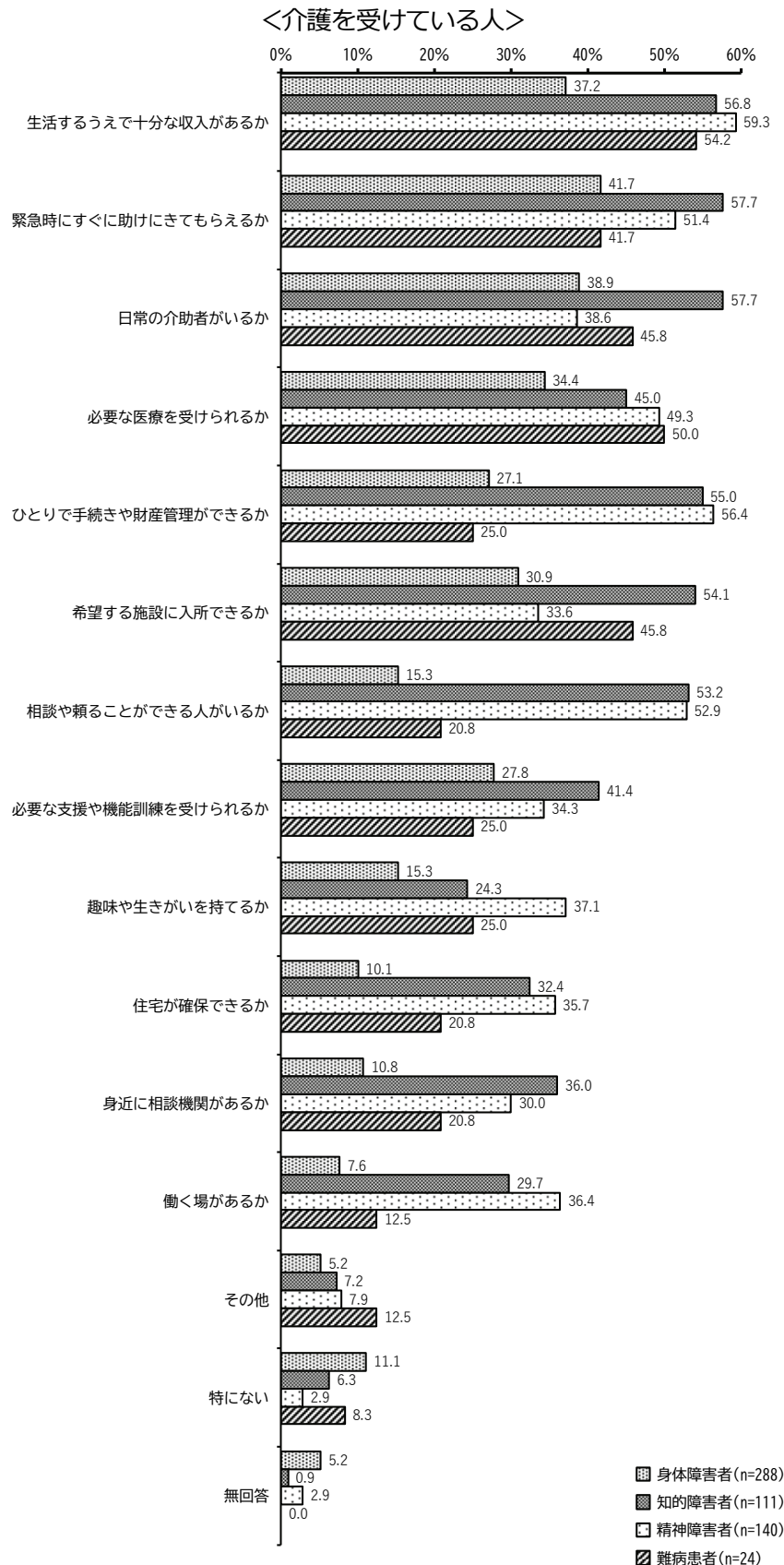


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(41.7%)が最も多く、次いで「日常の介助者がいるか」(38.9%)、「生活するうえで十分な収入があるか」(37.2%)が続いている。
- ・知的障害者は「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(57.7%)と「日常の介助者がいるか」(57.7%)が同率で最も多く、次いで「生活するうえで十分な収入があるか」(56.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「生活するうえで十分な収入があるか」(59.3%)が最も多く、次いで「ひとりで手続きや財産管理ができるか」(56.4%)、「相談や頼ることができる人がいるか」(52.9%)が続いている。

- ・ 難病患者は「生活するうえで十分な収入があるか」(54.2%)が最も多く、次いで「必要な医療を受けられるか」(50.0%)、「日常の介助者がいるか」(45.8%)と「希望する施設に入所できるか」(45.8%)が同率で続いている。

図表 将来の不安なこと（障害等の種類別：複数回答）



(4) 障害福祉サービスの利用について

問6 福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(8)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『補装具・日常生活用具費の支給』(14.4%)が最も多く、『相談支援』(14.3%)、『日中活動系サービス』(13.1%)が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『相談支援』(26.6%)、『短期入所サービス』(21.9%)、『移動支援』(20.6%)が続いている。『訪問系サービス』(20.4%)、『居住系サービス』(20.1%)も2割を超えている。

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具・日常生活用具費の支給』(17.9%)、<未利用者層>では『相談支援』(25.1%)が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『日中活動系サービス』(38.3%)、<未利用者層>では『居住系サービス』(46.8%)が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『相談支援』(25.4%)、<未利用者層>でも『相談支援』(29.0%)が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『相談支援』(4.8%)と『補装具・日常生活用具費の支給』(4.8%)、<未利用者層>では『相談支援』(24.0%)が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、障害等の種類別)

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	9.4	3.0	0.6	0.8	19.0	16.8	30.1	21.3	12.4	20.4
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	8.5	2.6	0.5	0.3	20.8	16.0	26.3	25.5	11.1	21.6
	知的障害者 (n=175)	11.4	5.7	0.6	2.9	20.0	14.3	29.1	17.7	17.1	23.5
	精神障害者 (n=304)	12.2	3.6	1.0	1.0	15.5	20.1	35.2	13.2	15.8	17.5
	難病患者 (n=125)	3.2	0.8	0.0	0.8	12.8	17.6	47.2	17.6	4.0	13.6

(2) 日中活動系サービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	9.9	3.2	0.7	1.1	12.3	18.7	30.5	24.0	13.1	14.1
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	4.1	3.0	0.5	0.7	14.2	18.8	30.0	29.4	7.1	15.4
	知的障害者 (n=175)	32.6	5.7	2.9	1.7	7.4	11.4	23.4	16.0	38.3	12.0
	精神障害者 (n=304)	16.8	3.6	0.3	2.3	10.9	22.4	28.9	15.1	20.4	13.5
	難病患者 (n=125)	0.8	0.8	0.0	0.8	10.4	18.4	49.6	19.2	1.6	11.2

第2部 調査結果の概要

(3) 居住系サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	2.4	0.7	1.8	1.0	17.3	21.7	31.6	24.3	3.1	20.1
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	1.8	0.5	0.3	0.3	14.6	22.1	31.4	29.3	2.3	15.2
	知的障害者 (n=175)	5.1	2.3	9.1	4.0	33.7	14.9	18.9	16.6	7.4	46.8
	精神障害者 (n=304)	2.6	0.7	2.0	1.3	17.4	25.3	34.2	16.8	3.3	20.7
	難病患者 (n=125)	1.6	0.0	0.8	0.0	11.2	22.4	44.8	19.2	1.6	12.0

(4) 短期入所サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.9
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	3.2	0.8	0.7	0.5	20.5	20.0	27.6	27.3	4.0	21.7
	知的障害者 (n=175)	10.9	16.0	4.0	4.0	18.3	14.3	20.6	16.0	26.9	26.3
	精神障害者 (n=304)	3.6	3.3	3.0	0.3	19.1	23.4	32.9	15.5	6.9	22.4
	難病患者 (n=125)	0.8	0.0	0.8	0.0	12.8	22.4	44.8	18.4	0.8	13.6

(5) 相談支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	6.2	1.3	0.3	0.4	24.4	12.1	27.5	28.1	7.5	25.1
	知的障害者 (n=175)	29.1	5.1	1.7	2.3	26.3	6.3	14.3	15.4	34.2	30.3
	精神障害者 (n=304)	18.8	6.6	1.0	2.3	25.7	11.5	23.4	11.5	25.4	29.0
	難病患者 (n=125)	4.0	0.8	0.0	0.0	24.0	15.2	39.2	16.8	4.8	24.0

(6) 移動支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	4.4	2.7	1.0	1.2	18.4	18.3	30.3	24.2	7.1	20.6
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	2.5	0.9	0.3	0.5	19.7	16.7	29.8	29.8	3.4	20.5
	知的障害者 (n=175)	12.0	11.4	4.6	3.4	19.4	15.4	20.0	15.4	23.4	27.4
	精神障害者 (n=304)	6.6	3.6	1.3	1.3	15.8	23.7	32.6	15.5	10.2	18.4
	難病患者 (n=125)	1.6	0.0	0.0	0.8	12.8	19.2	46.4	19.2	1.6	13.6

(7) 意思疎通支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	1.6	0.5	0.1	0.3	6.2	24.3	39.3	28.0	2.1	6.6
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	2.0	0.9	0.0	0.1	7.4	21.7	35.9	32.2	2.9	7.5
	知的障害者 (n=175)	1.7	0.0	0.0	1.1	4.6	26.3	38.9	27.4	1.7	5.7
	精神障害者 (n=304)	1.0	0.0	0.3	0.0	3.6	31.6	44.1	19.7	1.0	3.9
	難病患者 (n=125)	0.8	0.0	0.0	0.0	7.2	22.4	50.4	19.2	0.8	7.2

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体	(N=1,419)	9.8	4.6	0.1	0.3	16.8	16.1	29.2	23.5	14.4	17.2
障害等の種類	身体障害者 (n=761)	12.0	5.9	0.1	0.1	22.6	10.4	23.1	26.1	17.9	22.8
	知的障害者 (n=175)	12.0	5.1	0.0	1.1	4.6	22.9	29.7	24.6	17.1	5.7
	精神障害者 (n=304)	6.3	2.3	0.0	0.3	9.5	26.0	38.5	17.4	8.6	9.8
	難病患者 (n=125)	4.8	0.0	0.0	0.0	15.2	18.4	44.8	16.8	4.8	15.2

【所持手帳等の種類別】

- ・身体障害者手帳所持者は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(21.4%)、＜未利用者層＞では『相談支援』(25.0%)が最も多い。
- ・愛の手帳所持者は、＜利用者層＞では『日中活動系サービス』(41.8%)、＜未利用者層＞では『居住系サービス』(46.5%)が最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳所持者は、＜利用者層＞では『相談支援』(25.3%)、＜未利用者層＞でも『相談支援』(31.8%)が最も多い。
- ・自立支援医療受給者証所持者は、＜利用者層＞では『相談支援』(25.8%)、＜未利用者層＞でも『相談支援』(29.4%)が最も多い。
- ・特定医療費受給者証所持者は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(12.0%)、＜未利用者層＞では『相談支援』(25.5%)が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、所持手帳等の種類別)

(1) 訪問系サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	9.4	3.0	0.6	0.8	19.0	16.8	30.1	21.3	12.4	20.4
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=882)	11.5	3.6	0.7	0.5	20.2	15.0	25.3	24.1	15.1	21.4
	愛の手帳所持者 (n=234)	14.1	5.6	0.4	2.1	20.1	13.2	28.6	17.1	19.7	22.6
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=198)	8.6	4.0	1.0	1.5	15.2	25.3	37.4	9.1	12.6	17.7
	自立支援医療受給者証所持者 (n=245)	12.7	4.5	0.8	1.2	15.9	18.0	34.3	14.3	17.2	17.9
	特定医療費受給者証所持者 (n=200)	9.5	1.5	0.5	0.5	16.0	14.5	39.5	18.5	11.0	17.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(2) 日中活動系サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	9.9	3.2	0.7	1.1	12.3	18.7	30.5	24.0	13.1	14.1
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=882)	8.5	3.6	0.5	0.7	13.0	17.9	28.8	27.7	12.1	14.2
	愛の手帳所持者 (n=234)	35.0	6.8	2.6	1.7	8.1	11.5	20.9	14.5	41.8	12.4
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=198)	15.2	2.5	0.0	3.5	11.1	25.3	30.8	11.6	17.7	14.6
	自立支援医療受給者証所持者 (n=245)	17.1	4.5	0.4	1.6	10.2	21.2	29.0	16.3	21.6	12.2
	特定医療費受給者証所持者 (n=200)	4.5	2.0	0.0	1.5	10.5	16.0	43.5	22.0	6.5	12.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(3) 居住系サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	2.4	0.7	1.8	1.0	17.3	21.7	31.6	24.3	3.1	20.1
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=882)	2.3	0.7	1.1	0.5	16.1	21.3	30.3	28.2	3.0	17.7
	愛の手帳所持者 (n=234)	6.0	2.1	7.7	3.8	35.0	15.0	17.1	16.7	8.1	46.5
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=198)	2.0	1.0	1.5	1.0	13.6	28.3	40.4	12.6	3.0	16.1
	自立支援医療受給者証所持者 (n=245)	2.9	0.8	2.0	1.6	17.6	22.9	33.5	18.8	3.7	21.2
	特定医療費受給者証所持者 (n=200)	2.0	0.0	1.0	1.0	13.0	20.5	42.0	21.0	2.0	15.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(4) 短期入所サービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.9
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=882)	4.3	3.3	1.2	0.7	20.2	19.0	26.5	26.0	7.6	22.1
	愛の手帳所持者 (n=234)	11.5	15.8	5.6	3.0	20.1	13.2	19.7	15.0	27.3	28.7
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=198)	2.0	0.5	1.5	0.5	18.7	26.8	37.9	12.6	2.5	20.7
	自立支援医療受給者証所持者 (n=245)	4.1	3.7	3.7	0.4	18.8	20.8	32.2	17.1	7.8	22.9
	特定医療費受給者証所持者 (n=200)	3.0	2.5	1.0	0.0	20.0	18.5	37.0	19.0	5.5	21.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

第2部 調査結果の概要

(5) 相談支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
所持手帳の種類		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい						
全体	(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6	
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者	(n=882)	10.0	1.8	0.3	0.7	24.0	11.3	26.1	26.0	11.8	25.0
	愛の手帳所持者	(n=234)	29.9	6.4	1.7	3.0	26.5	5.1	13.2	14.5	36.3	31.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=198)	18.2	7.1	1.0	1.5	29.3	11.6	24.2	8.1	25.3	31.8
	自立支援医療受給者証所持者	(n=245)	18.0	7.8	1.2	2.9	25.3	10.6	22.0	13.1	25.8	29.4
	特定医療費受給者証所持者	(n=200)	7.5	2.5	0.0	0.5	25.0	11.0	35.0	18.5	10.0	25.5

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(6) 移動支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
所持手帳の種類		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい						
全体	(N=1,419)	4.4	2.7	1.0	1.2	18.4	18.3	30.3	24.2	7.1	20.6	
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者	(n=882)	4.8	2.4	0.9	0.8	19.4	15.6	28.9	27.9	7.2	21.1
	愛の手帳所持者	(n=234)	15.4	11.5	4.3	3.4	20.5	13.7	18.4	14.1	26.9	28.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=198)	3.5	2.0	0.5	1.0	15.2	28.3	36.9	12.6	5.5	16.7
	自立支援医療受給者証所持者	(n=245)	7.8	4.1	1.6	1.6	16.7	20.0	31.0	17.6	11.9	19.9
	特定医療費受給者証所持者	(n=200)	3.5	2.5	0.0	1.0	16.0	15.0	41.5	20.5	6.0	17.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(7) 意思疎通支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
所持手帳の種類		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい						
全体	(N=1,419)	1.6	0.5	0.1	0.3	6.2	24.3	39.3	28.0	2.1	6.6	
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者	(n=882)	2.2	0.8	0.1	0.2	7.0	21.5	37.2	31.2	3.0	7.3
	愛の手帳所持者	(n=234)	1.7	0.0	0.0	0.9	4.7	25.2	40.6	26.9	1.7	5.6
	精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=198)	1.5	0.0	0.0	0.0	3.5	34.8	45.5	14.6	1.5	3.5
	自立支援医療受給者証所持者	(n=245)	1.2	0.0	0.4	0.0	4.1	29.0	43.3	22.4	1.2	4.5
	特定医療費受給者証所持者	(n=200)	0.5	0.0	0.0	0.0	6.0	19.5	51.0	23.0	0.5	6.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
所持手帳の種類		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい						
全体	(N=1,419)	9.8	4.6	0.1	0.3	16.8	16.1	29.2	23.5	14.4	17.2	
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者	(n=882)	14.5	6.9	0.1	0.2	21.1	10.3	22.9	24.4	21.4	21.4
	愛の手帳所持者	(n=234)	13.7	5.6	0.0	0.9	4.7	22.6	29.5	23.1	19.3	5.6
	精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=198)	3.5	0.5	0.0	0.0	9.1	28.8	44.4	13.6	4.0	9.1
	自立支援医療受給者証所持者	(n=245)	6.5	2.9	0.0	0.4	10.6	23.7	36.3	20.0	9.4	11.0
	特定医療費受給者証所持者	(n=200)	9.5	2.5	0.0	0.5	17.0	13.0	39.0	18.5	12.0	17.5

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

【身体障害者手帳の記載項目別】

- ・ 視覚障害は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(16.7%)、＜未利用者層＞では『訪問系サービス』(36.7%)が最も多い。
- ・ 聴覚障害は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(30.5%)、＜未利用者層＞では『相談支援』(22.2%)が最も多い。
- ・ 音声・言語・そしゃく・平衡機能障害は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(31.4%)、＜未利用者層＞では『日中活動系サービス』(25.7%)が最も多い。
- ・ 肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(31.3%)、＜未利用者層＞では『相談支援』(24.5%)が最も多い。
- ・ 内部障害は、＜利用者層＞では『補装具・日常生活用具費の支給』(7.9%)、＜未利用者層＞では『相談支援』(27.8%)が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、身体障害者手帳記載項目別)

(1) 訪問系サービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できる	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したいが事業所に空きがない						今後、利用したい
		(%)	(%)	(%)	(%)						(%)
全体	(N=1,419)	9.4	3.0	0.6	0.8	19.0	16.8	30.1	21.3	12.4	20.4
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	11.7	1.7	0.0	0.0	36.7	13.3	13.3	25.0	13.4	36.7
	聴覚障害 (n=95)	5.3	2.1	0.0	0.0	12.6	20.0	30.5	29.5	7.4	12.6
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	20.0	2.9	0.0	2.9	11.4	17.1	28.6	17.1	22.9	14.3
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	18.0	6.8	1.2	0.9	18.5	12.9	21.5	21.3	24.8	20.6
	内部障害 (n=316)	3.2	0.9	0.3	0.0	23.7	15.8	30.1	26.6	4.1	24.0

(2) 日中活動系サービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できる	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したいが事業所に空きがない						今後、利用したい
		(%)	(%)	(%)	(%)						(%)
全体	(N=1,419)	9.9	3.2	0.7	1.1	12.3	18.7	30.5	24.0	13.1	14.1
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	8.3	5.0	0.0	0.0	18.3	15.0	25.0	30.0	13.3	18.3
	聴覚障害 (n=95)	9.5	4.2	0.0	1.1	10.5	18.9	30.5	26.3	13.7	11.6
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	8.6	8.6	5.7	5.7	14.3	14.3	37.1	14.3	17.2	25.7
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	13.6	6.1	0.9	1.2	12.4	17.1	25.2	24.8	19.7	14.5
	内部障害 (n=316)	1.6	0.9	0.3	0.3	14.9	18.7	32.6	31.0	2.5	15.5

(3) 居住系サービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できる	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したいが事業所に空きがない						今後、利用したい
		(%)	(%)	(%)	(%)						(%)
全体	(N=1,419)	2.4	0.7	1.8	1.0	17.3	21.7	31.6	24.3	3.1	20.1
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	1.7	0.0	0.0	0.0	16.7	18.3	35.0	28.3	1.7	16.7
	聴覚障害 (n=95)	2.1	2.1	0.0	0.0	13.7	16.8	34.7	30.5	4.2	13.7
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	5.7	0.0	0.0	0.0	5.7	25.7	40.0	22.9	5.7	5.7
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	3.0	1.2	2.1	0.5	17.1	23.1	26.6	26.9	4.2	19.7
	内部障害 (n=316)	1.3	0.3	0.6	0.3	17.7	19.3	32.0	29.1	1.6	18.6

(4) 短期入所サービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できる	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したいが事業所に空きがない						今後、利用したい
		(%)	(%)	(%)	(%)						(%)
全体	(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.9
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	5.0	3.3	0.0	0.0	20.0	15.0	25.0	31.7	8.3	20.0
	聴覚障害 (n=95)	3.2	2.1	1.1	2.1	16.8	18.9	27.4	29.5	5.3	20.0
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	5.7	0.0	2.9	2.9	14.3	22.9	37.1	17.1	5.7	20.1
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	7.0	6.3	2.3	0.9	20.8	18.5	22.9	23.1	13.3	24.0
	内部障害 (n=316)	0.9	0.6	0.0	0.0	21.8	19.3	29.4	28.5	1.5	21.8

第2部 調査結果の概要

(5) 相談支援

		利用者層					未利用者層			利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答		
全体	(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	8.3	0.0	0.0	1.7	25.0	10.0	23.3	31.7	8.3	26.7
	聴覚障害 (n=95)	8.4	2.1	1.1	1.1	20.0	9.5	29.5	29.5	10.5	22.2
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	17.1	0.0	2.9	2.9	17.1	8.6	40.0	14.3	17.1	22.9
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	15.9	3.3	0.2	1.2	23.1	10.7	22.7	23.1	19.2	24.5
	内部障害 (n=316)	2.5	0.6	0.0	0.3	27.5	12.7	28.2	28.5	3.1	27.8

(6) 移動支援

		利用者層					未利用者層			利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答		
全体	(N=1,419)	4.4	2.7	1.0	1.2	18.4	18.3	30.3	24.2	7.1	20.6
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	8.3	5.0	1.7	0.0	31.7	8.3	18.3	30.0	13.3	33.4
	聴覚障害 (n=95)	5.3	1.1	0.0	2.1	11.6	15.8	34.7	29.5	6.4	13.7
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	2.9	0.0	0.0	0.0	5.7	28.6	42.9	20.0	2.9	5.7
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	6.5	4.2	1.6	0.9	20.1	15.2	26.2	25.9	10.7	22.6
	内部障害 (n=316)	1.6	0.3	0.0	0.3	19.0	16.5	32.0	30.7	1.9	19.3

(7) 意思疎通支援

		利用者層					未利用者層			利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答		
全体	(N=1,419)	1.6	0.5	0.1	0.3	6.2	24.3	39.3	28.0	2.1	6.6
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	18.3	38.3	33.3	0.0	10.0
	聴覚障害 (n=95)	14.7	6.3	1.1	1.1	14.7	7.4	30.5	25.3	21.0	16.9
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	8.6	2.9	0.0	0.0	11.4	22.9	34.3	20.0	11.5	11.4
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	1.2	0.5	0.0	0.2	4.4	24.1	38.1	31.5	1.7	4.6
	内部障害 (n=316)	0.3	0.0	0.0	0.0	7.3	21.5	38.6	32.6	0.3	7.3

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

		利用者層					未利用者層			利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答		
全体	(N=1,419)	9.8	4.6	0.1	0.3	16.8	16.1	29.2	23.5	14.4	17.2
身体障害者手帳に記載された項目											
	視覚障害 (n=60)	10.0	6.7	0.0	0.0	28.3	10.0	18.3	26.7	16.7	28.3
	聴覚障害 (n=95)	10.5	20.0	0.0	1.1	15.8	8.4	17.9	27.4	30.5	16.9
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 (n=35)	20.0	11.4	0.0	0.0	11.4	17.1	28.6	11.4	31.4	11.4
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) (n=428)	22.4	8.9	0.2	0.2	23.1	7.2	17.1	21.0	31.3	23.5
	内部障害 (n=316)	6.0	1.9	0.0	0.0	20.3	14.6	30.1	27.5	7.9	20.3

【重度心身障害者】

- ・ 身体障害者手帳（1級または2級）および愛の手帳（1度または2度）の所持者は33人である。
- ・ <利用者層>では『日中活動系サービス』、『補装具・日常生活用具費の支給』がともに27人で最も多く、次いで『短期入所サービス』、『訪問系サービス』が続いている。
- ・ <未利用者層>では『居住系サービス』が最も多く、次いで『移動支援』、『相談支援』が続いている。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(重度心身障害者)

		利用者層		未利用者層			利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい					
(1) 訪問系サービス	(n=33)	14	7	0	1	5	1	2	4	21	6
(2) 日中活動系サービス	(n=33)	21	6	0	0	0	1	4	1	27	0
(3) 居住系サービス	(n=33)	1	2	4	1	14	4	4	4	3	19
(4) 短期入所サービス	(n=33)	6	16	5	1	1	2	3	3	22	7
(5) 相談支援	(n=33)	16	2	0	2	6	0	6	1	18	8
(6) 移動支援	(n=33)	4	9	4	1	8	0	7	3	13	13
(7) 意思疎通支援	(n=33)	0	0	0	0	1	8	18	6	0	1
(8) 補装具・日常生活用具費の支給	(n=33)	18	9	0	0	1	2	3	0	27	1

【障害の種類×年代】

(短期入所サービス)

- ・身体障害者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。18～39歳は21人中9人(42.9%)が「利用したくない」と回答しており、回答者はすべて「本人」である。
- ・知的障害者は、「利用しているが希望通りではない」が18～39歳で全体より10ポイント以上、40～64歳で全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は、65歳以上で「今後、利用したい」が全体より10ポイント以上高い。
- ・難病患者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。

(相談支援)

- ・身体障害者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。
- ・知的障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」は20ポイント以上、「今後利用したい」も全体より5ポイント程度高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。
- ・精神障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」は10ポイント程度、「今後利用したい」も全体より5ポイント以上高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。40～64歳は「希望通り利用できている」が全体より5ポイント以上高い。
- ・難病患者は、65歳以上で「希望通り利用できている」が1割台である。いずれの年代も「今後、利用したい」が2割以上である。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、障害等の種類×年代別)

(4) 短期入所サービス(障害の種類×年代)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.9
障害等の種類×年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	4.8	0.0	4.8	0.0	9.5	42.9	33.3	4.8	4.8	14.3
		40～64歳 (n=192)	2.1	1.0	1.0	0.5	12.0	29.2	36.5	18.8	3.1	13.5
		65歳以上 (n=533)	3.6	0.8	0.4	0.6	24.4	15.8	24.6	30.4	4.4	25.4
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	12.1	19.4	5.6	4.8	20.2	14.5	17.7	11.3	31.5	30.6
		40～64歳 (n=40)	10.0	10.0	0.0	2.5	12.5	15.0	27.5	22.5	20.0	15.0
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	22.2	44.4	0.0	22.2
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	7.2	6.4	6.4	0.0	21.6	25.6	26.4	8.0	13.6	28.0
		40～64歳 (n=156)	0.6	0.6	0.6	0.6	15.4	22.4	41.0	18.6	1.2	16.6
		65歳以上 (n=21)	4.8	4.8	0.0	0.0	33.3	19.0	14.3	28.6	9.6	33.3
	難病患者	18～39歳 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	24.2	66.7	3.0	0.0	6.1
		40～64歳 (n=56)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	23.2	42.9	19.6	0.0	14.3
		65歳以上 (n=35)	2.9	0.0	0.0	0.0	17.1	20.0	28.6	31.4	2.9	17.1

(5) 相談支援(障害の種類×年代)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6
障害等の種類×年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	9.5	4.8	0.0	0.0	14.3	28.6	38.1	4.8	14.3	14.3
		40～64歳 (n=192)	5.2	2.6	0.5	0.5	25.0	14.6	31.8	20.3	7.8	26.0
		65歳以上 (n=533)	6.6	0.8	0.2	0.4	25.1	10.3	25.9	31.0	7.4	25.7
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	33.9	5.6	1.6	3.2	29.8	5.6	9.7	11.3	39.5	34.6
		40～64歳 (n=40)	22.5	5.0	2.5	0.0	17.5	7.5	25.0	20.0	27.5	20.0
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	44.4	0.0	11.1
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	20.0	7.2	0.8	2.4	31.2	11.2	20.0	7.2	27.2	34.4
		40～64歳 (n=156)	18.6	5.8	1.3	2.6	21.2	12.2	26.9	12.8	24.4	25.1
		65歳以上 (n=21)	14.3	9.5	0.0	0.0	28.6	9.5	19.0	19.0	23.8	28.6
	難病患者	18～39歳 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	24.2	15.2	57.6	3.0	0.0	24.2
		40～64歳 (n=56)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	19.6	37.5	17.9	0.0	25.0
		65歳以上 (n=35)	14.3	0.0	0.0	0.0	22.9	8.6	25.7	28.6	14.3	22.9

問6-1 障害者福祉サービスの満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(30.2%)と「やや満足」(35.4%)をあわせた<満足層>は65.6%である。「やや不満」(17.5%)と「不満」(3.9%)をあわせた<不満層>は21.4%である。

図表 障害福祉サービスの満足度(全体)
<障害福祉サービスを利用している人>

(%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者の<満足層(身体：66.8%、知的：64.6%、精神：66.1%)>は、全体(65.6%)とあまり変わらない。

【重度心身障害者】

- ・重度心身障害者33人のうち、問6の(1)～(8)で1つでも「希望通り利用できている」、「利用しているが希望通りではない」と回答した28人に障害者福祉サービスの満足度をたずねた。<満足層>は、19人、<不満層>は9人である。

図表 障害福祉サービスの満足度(重度心身障害者)
<障害福祉サービスを利用している人>

(人)

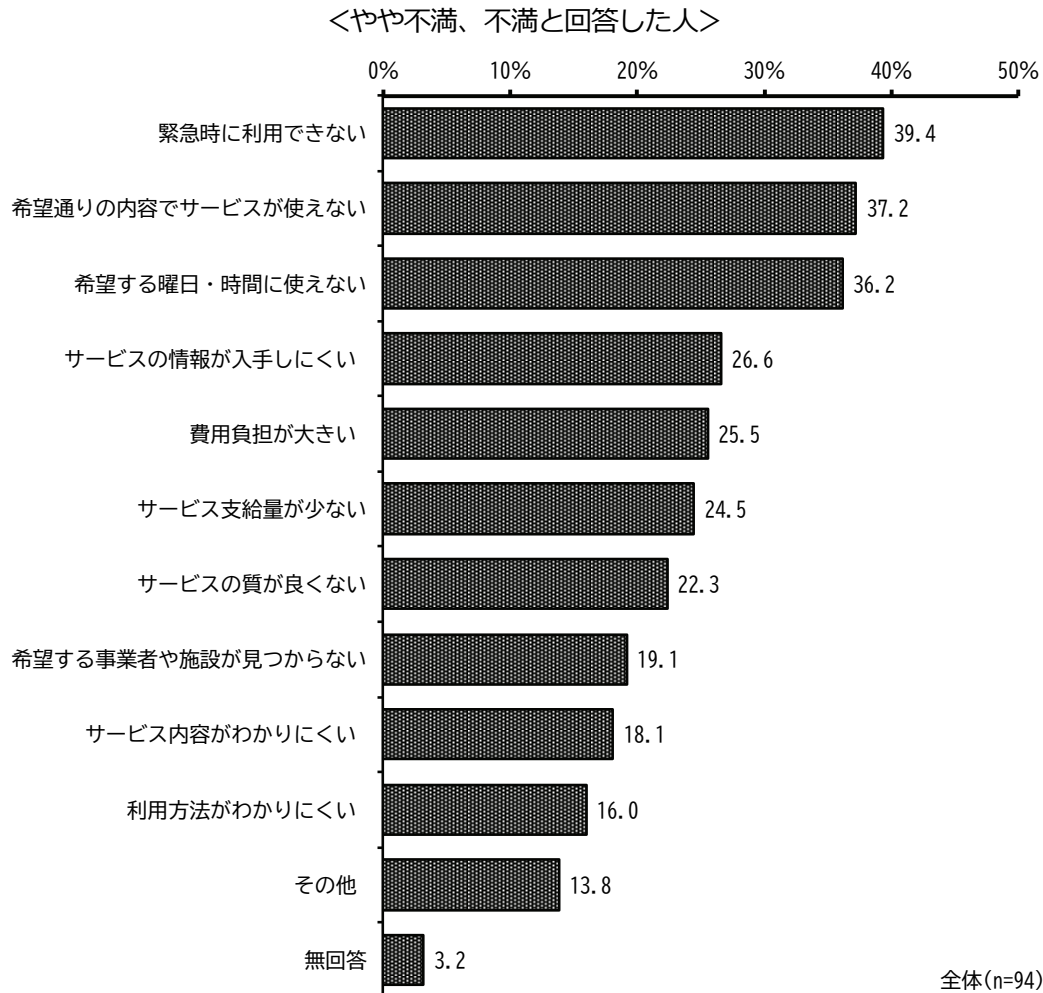
		満足層		不満層		満足層 (再掲)	不満層 (再掲)
		満足	やや満足	やや不満	不満		
重度心身障害者	(n=28)	7	12	6	3	19	9

問6-2 問6-1で「3」「4」と答えた方におたずねします。

サービスの不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・ <不満層>にその理由をたずねたところ、「緊急時に利用できない」(39.4%)が最も多く、次いで「希望通りの内容でサービスが使えない」(37.2%)、「希望する曜日・時間に使えない」(36.2%)が続いている。

図表 サービスの不満な理由(全体：複数回答)

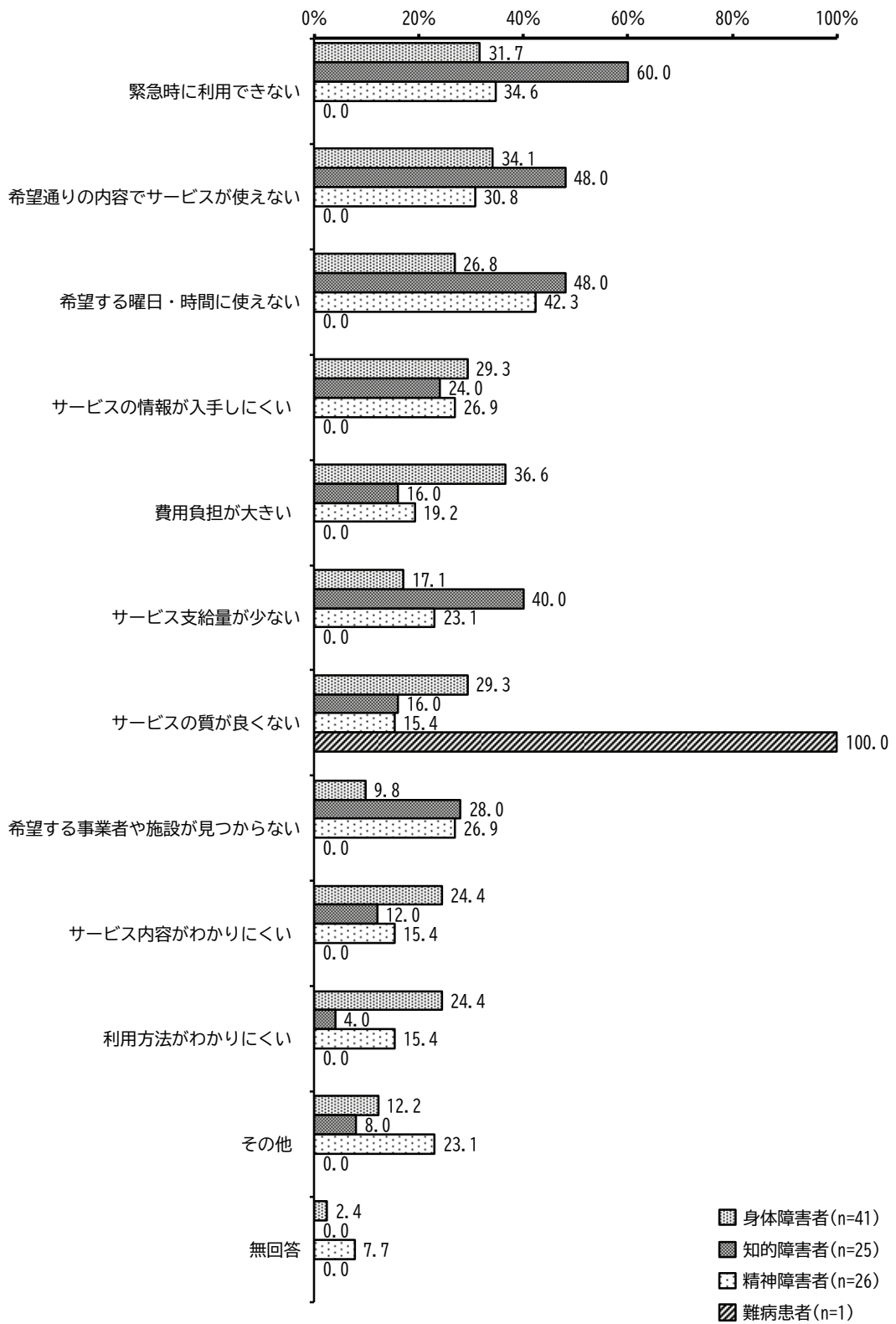


【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「費用負担が大きい」(36.6%)が最も多く、次いで「希望通りの内容でサービスが使えない」(34.1%)、「緊急時に利用できない」(31.7%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「緊急時に利用できない」(60.0%)が最も多く、次いで「希望通りの内容でサービスが使えない」(48.0%)と、「希望する曜日・時間に使えない」(48.0%)が同率で続いている。
- ・ 精神障害者は「希望する曜日・時間に使えない」(42.3%)が最も多く、次いで「緊急時に利用できない」(34.6%)、「希望通りの内容でサービスが使えない」(30.8%)が続いている。
- ・ 難病患者は回答者数が1人であるが、「サービスの質が良くない」と回答している。

図表 サービスの不満な理由(障害等の種類別：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>



【重度心身障害者】

- ・ 重度心身障害者 33 人のうち、問 6 の(1)～(8)で 1 つでも「やや不満」、「不満」と回答した 9 人に障害者福祉サービスの不満な理由をたずねた。
- ・ 「緊急時に利用できない」が 6 人と最も多く、次いで「希望通りの内容でサービスが使えない」、「サービス支給量が少ない」がそれぞれ 4 人で続いている。

図表 サービスの不満な理由(重度心身障害者：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

		(人)											
		緊急時に 利用でき ない	希望通り の内容で サービス が使えな い	希望する 曜日・時 間に使え ない	サービス の情報が 入手しに くい	費用負担 が大きい	サービス 支給量が 少ない	サービス の質が良 くない	希望する 事業者や 施設が見 つからな い	サービス 内容がわ かりにく い	利用方法 がわかり にくい	その他	無回答
重度心身障害者	(n=9)	6	4	0	1	0	4	0	2	0	0	3	0

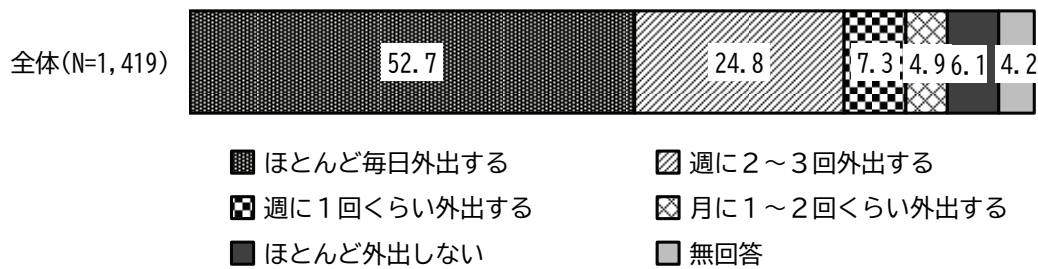
(5) 日ごろの活動について

問7 あなたは、普段の生活の中でどれくらい外出しますか。(1つに○)

- ・「ほとんど毎日外出する」(52.7%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(24.8%)が続いている。

図表 外出の頻度(全体)

(%)

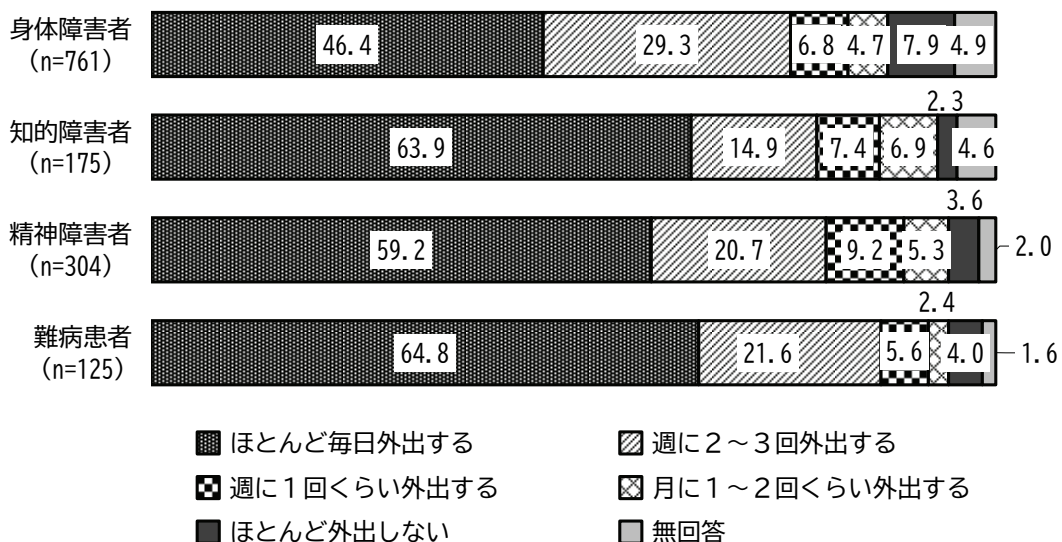


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ほとんど毎日外出する」(46.4%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(29.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「ほとんど毎日外出する」(63.9%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(14.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「ほとんど毎日外出する」(59.2%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(20.7%)が続いている。
- ・難病患者は「ほとんど毎日外出する」(64.8%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(21.6%)が続いている。

図表 外出の頻度(障害等の種類別)

(%)



問8 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(17.5%)と「やや満足」(34.6%)をあわせた<満足>は52.1%、「やや不満」(23.3%)と「不満」(4.4%)をあわせた<不満>は27.7%である。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(全体)

(%)

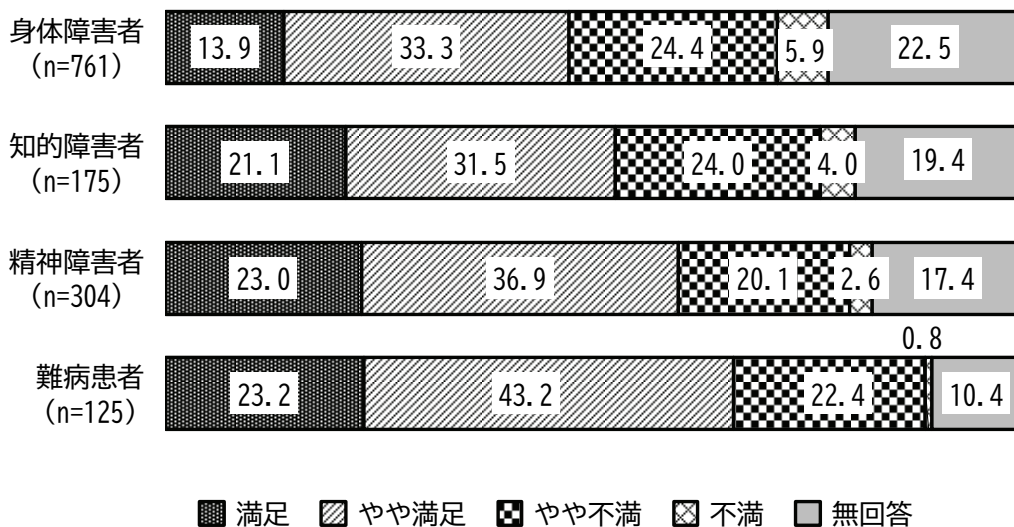


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「満足」(13.9%)と「やや満足」(33.3%)をあわせた<満足>は47.2%、「やや不満」(24.4%)と「不満」(5.9%)をあわせた<不満>は30.3%である。
- ・知的障害者は「満足」(21.1%)と「やや満足」(31.5%)をあわせた<満足>は52.6%、「やや不満」(24.0%)と「不満」(4.0%)をあわせた<不満>は28.0%である。
- ・精神障害者は「満足」(23.0%)と「やや満足」(36.9%)をあわせた<満足>は59.9%、「やや不満」(20.1%)と「不満」(2.6%)をあわせた<不満>は22.7%である。
- ・難病患者は「満足」(23.2%)と「やや満足」(43.2%)をあわせた<満足>は66.4%、「やや不満」(22.4%)と「不満」(0.8%)をあわせた<不満>は23.2%である。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(障害等の種類別)

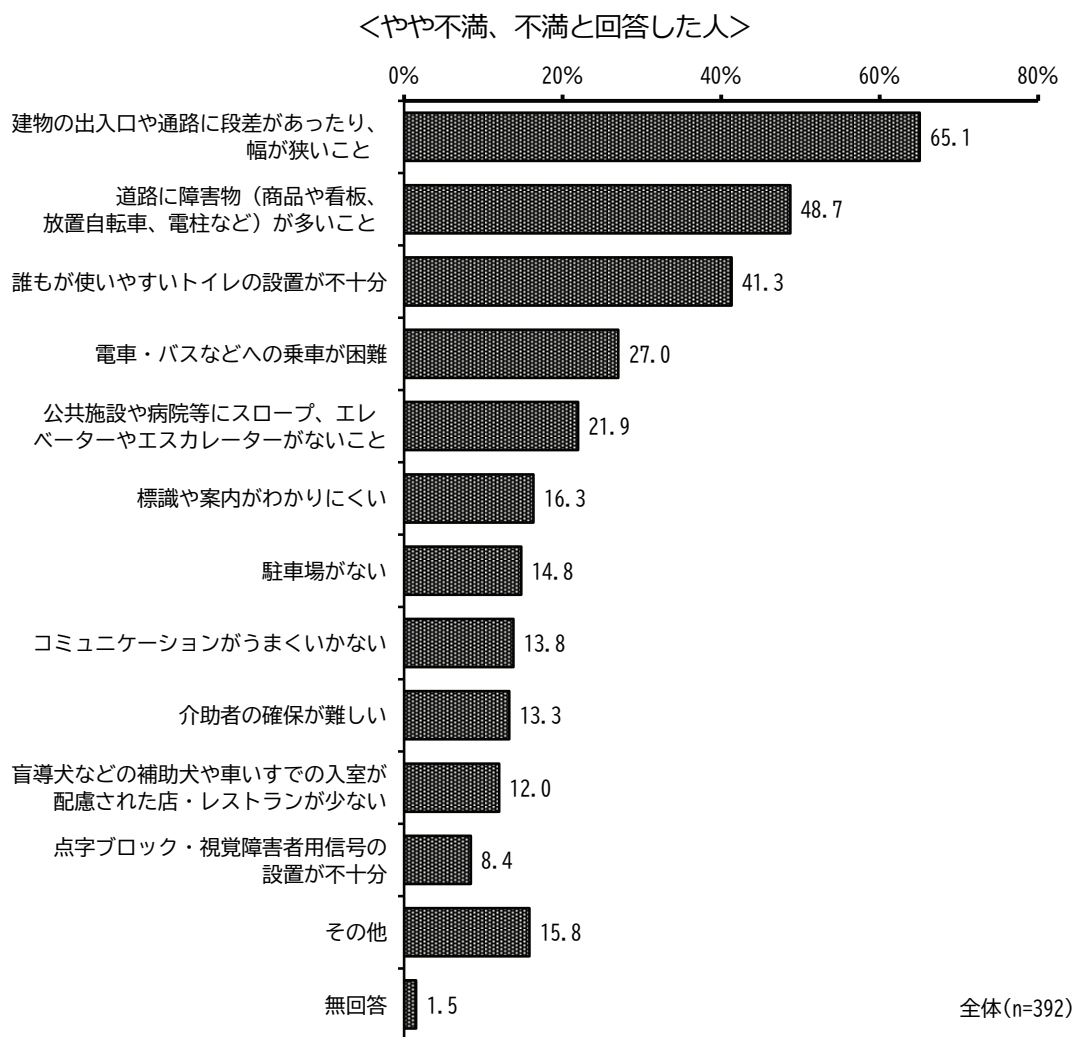
(%)



問8-1 問8で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(65.1%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(48.7%)、「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(41.3%)が続いている。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の不満な理由(全体：複数回答)

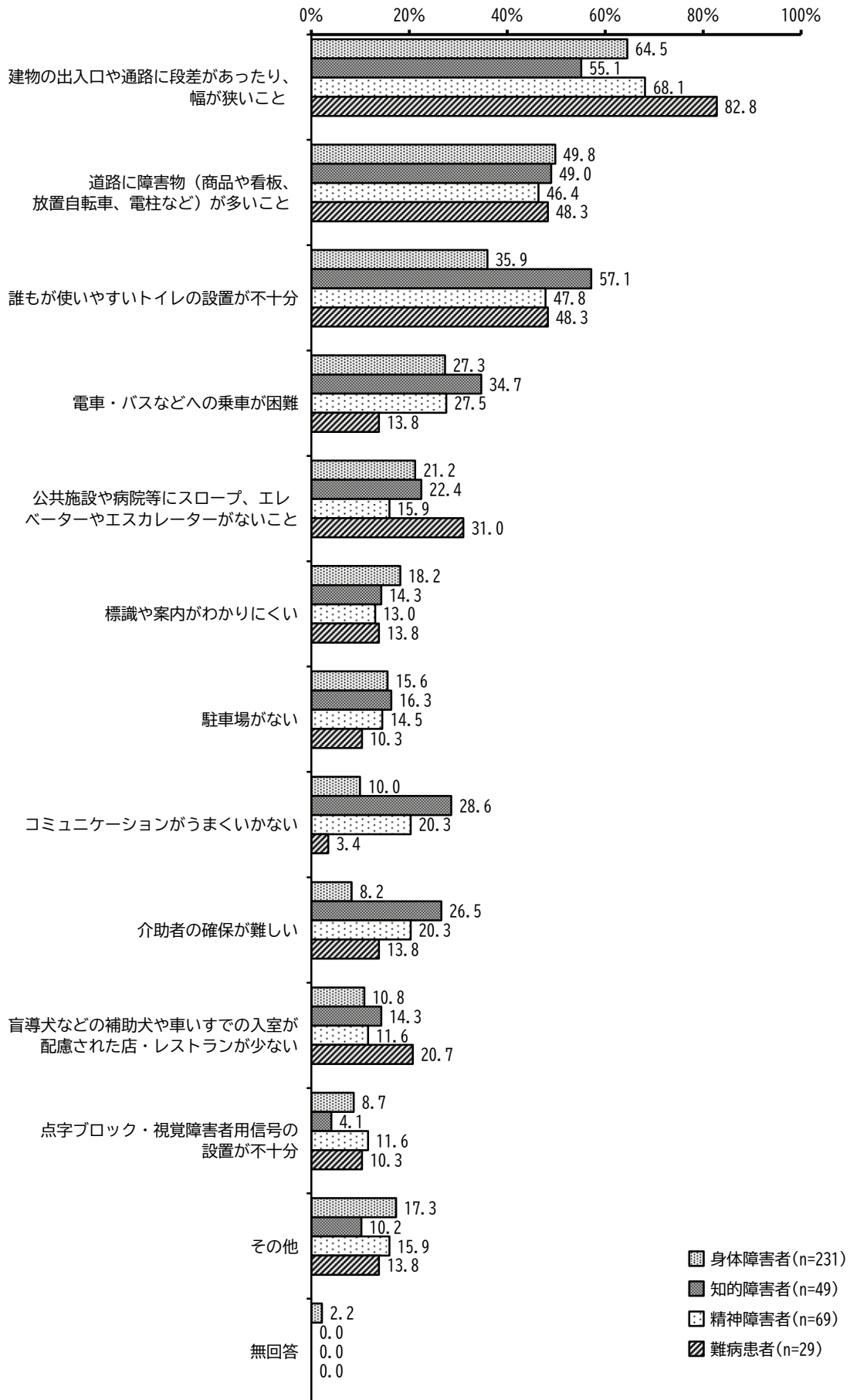


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(64.5%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(49.8%)、「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(35.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(57.1%) が最も多く、次いで「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(55.1%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(49.0%)が続いている。全体と比べて「コミュニケーションがうまくいかない」(28.6%)は14.8ポイント、「介助者の確保が難しい」(26.5%)は13.2ポイント高い。
- ・精神障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(68.1%)が最も多く、次いで「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(47.8%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(46.4%)が続いている。
- ・難病患者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(82.8%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(48.3%)と「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(48.3%)が同率で続いている。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の不满な理由(障害等の種類別：複数回答)

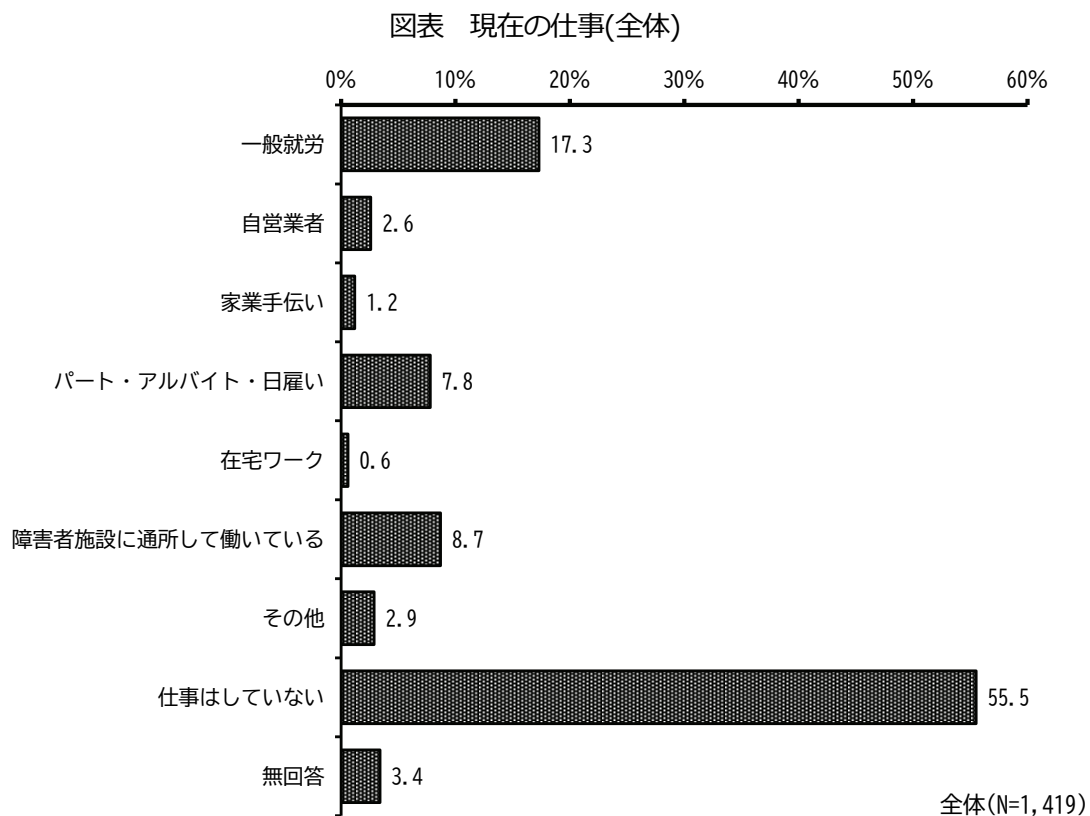
<やや不満、不満と回答した人>



(6) 就労について

問9 あなたは現在どのような仕事をしていますか。(1つに○)

- ・「仕事はしていない」(55.5%)と「無回答」(3.4%)を除くと、<仕事をしている人>は41.1%である。「一般就労」(17.3%)が最も多く、次いで「障害者施設に通所して働いている」(8.7%)、「パート・アルバイト・日雇い」(7.8%)が続いている。



【障害等の種類×年代別】

- ・ 身体障害者は 18～39 歳で 52.4%、40～64 歳で 60.4%が仕事をしている。18～39 歳は 33.3%、40～64 歳は 40.6%が「一般就労」である。
- ・ 知的障害者は 18～39 歳で 79.9%、40～64 歳で 67.5%が仕事をしている。18～39 歳と 40～64 歳は「障害者施設に通所して働いている」（18～39 歳：41.1%、40～64 歳：42.5%）が最も多く、次いで「一般就労」（18～39 歳：22.6%、40～64 歳：12.5%）が多い。
- ・ 精神障害者は 18～39 歳で 64.0%、40～64 歳で 47.4%が仕事をしている。18～39 歳は「障害者施設に通所して働いている」（24.0%）が最も多く、次いで「一般就労」（18.4%）、「パート・アルバイト・日雇い」（13.6%）が続いている。40～64 歳は「一般就労」（17.9%）が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」（12.8%）、「障害者施設に通所して働いている」（10.3%）が続いている。40～64 歳は、他の障害に比べ、仕事をしている人が少ない。
- ・ 難病患者は、18～39 歳で 78.8%、40～64 歳で 67.9%が仕事をしている。18～39 歳は「一般就労」（45.5%）が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い」（24.2%）が続いている。40～64 歳は「一般就労」（51.7%）が最も多く、他は 1 割に満たない。

図表 現在の仕事(全体、障害等の種類×年代別)

			仕事をしている人							仕事はしていない	無回答	仕事をしている人(再掲)
			一般就労	障害者施設に通所して働いている	パート・アルバイト・日雇い	自営業者	家業手伝い	在宅ワーク	その他			
全体		(N=1,419)	17.3	8.7	7.8	2.6	1.2	0.6	2.9	55.5	3.4	41.1
障害等の種類 ×年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	33.3	0.0	9.5	0.0	0.0	4.8	4.8	47.6	0.0	52.4
		40～64歳 (n=192)	40.6	1.6	8.9	5.2	1.0	0.5	2.6	36.5	3.1	60.4
		65歳以上 (n=533)	3.2	0.6	4.5	3.0	1.3	0.6	1.9	81.5	3.4	15.1
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	22.6	41.1	8.9	0.0	0.8	0.0	6.5	16.9	3.2	79.9
		40～64歳 (n=40)	12.5	42.5	10.0	2.5	0.0	0.0	25.0	7.5	67.5	
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	77.8	11.1	11.1	
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	18.4	24.0	13.6	0.8	1.6	0.0	5.6	35.2	0.8	64.0
		40～64歳 (n=156)	17.9	10.3	12.8	1.3	1.9	0.6	2.6	50.0	2.6	47.4
		65歳以上 (n=21)	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	71.4	9.5	19.1
	難病患者	18～39歳 (n=33)	45.5	0.0	24.2	0.0	3.0	6.1	0.0	21.2	0.0	78.8
		40～64歳 (n=56)	51.7	0.0	5.4	5.4	1.8	0.0	3.6	32.1	0.0	67.9
		65歳以上 (n=35)	8.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	85.6	2.9	11.5

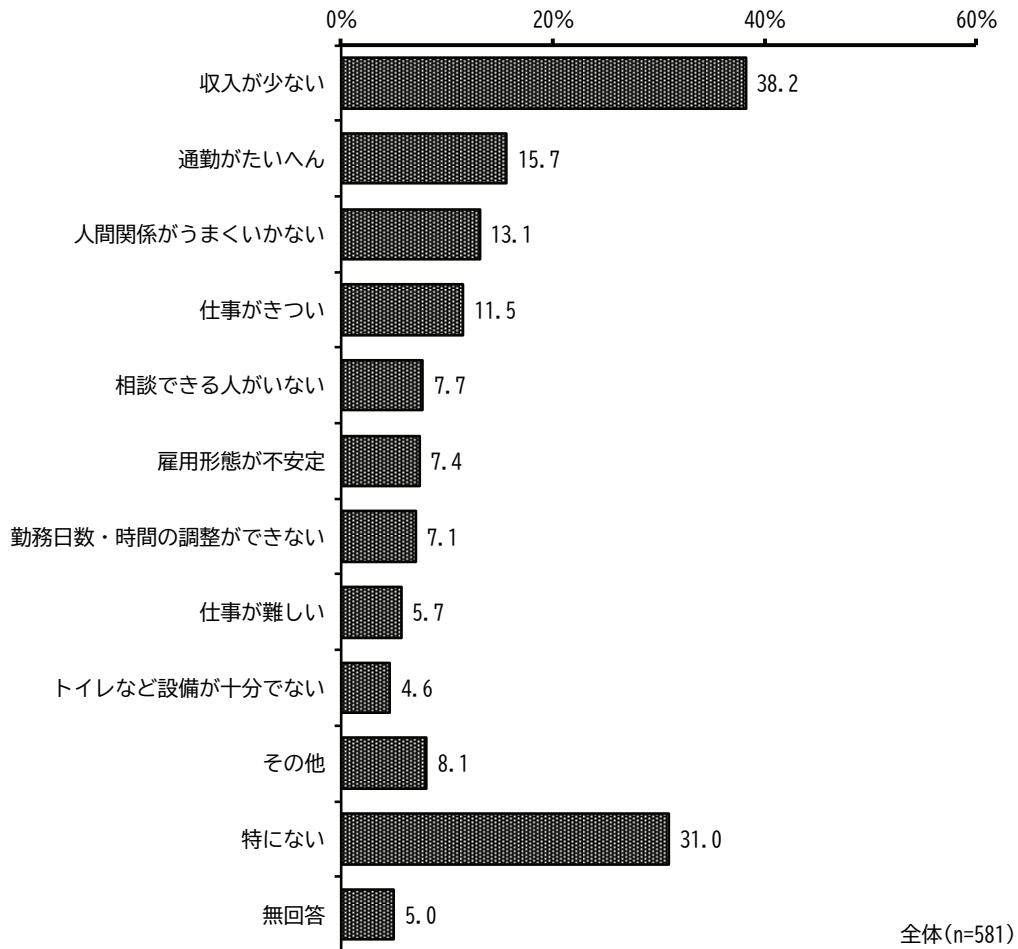
問9-1 問9で「1」～「7」と答えた方におたずねします。

仕事をするうえで不安がありますか。(いくつでも○)

- ・「収入が少ない」(38.2%)が最も多く、「通勤がたいへん」(15.7%)、「人間関係がうまくいかない」(13.1%)が続いている。

図表 仕事上の不安(全体：複数回答)

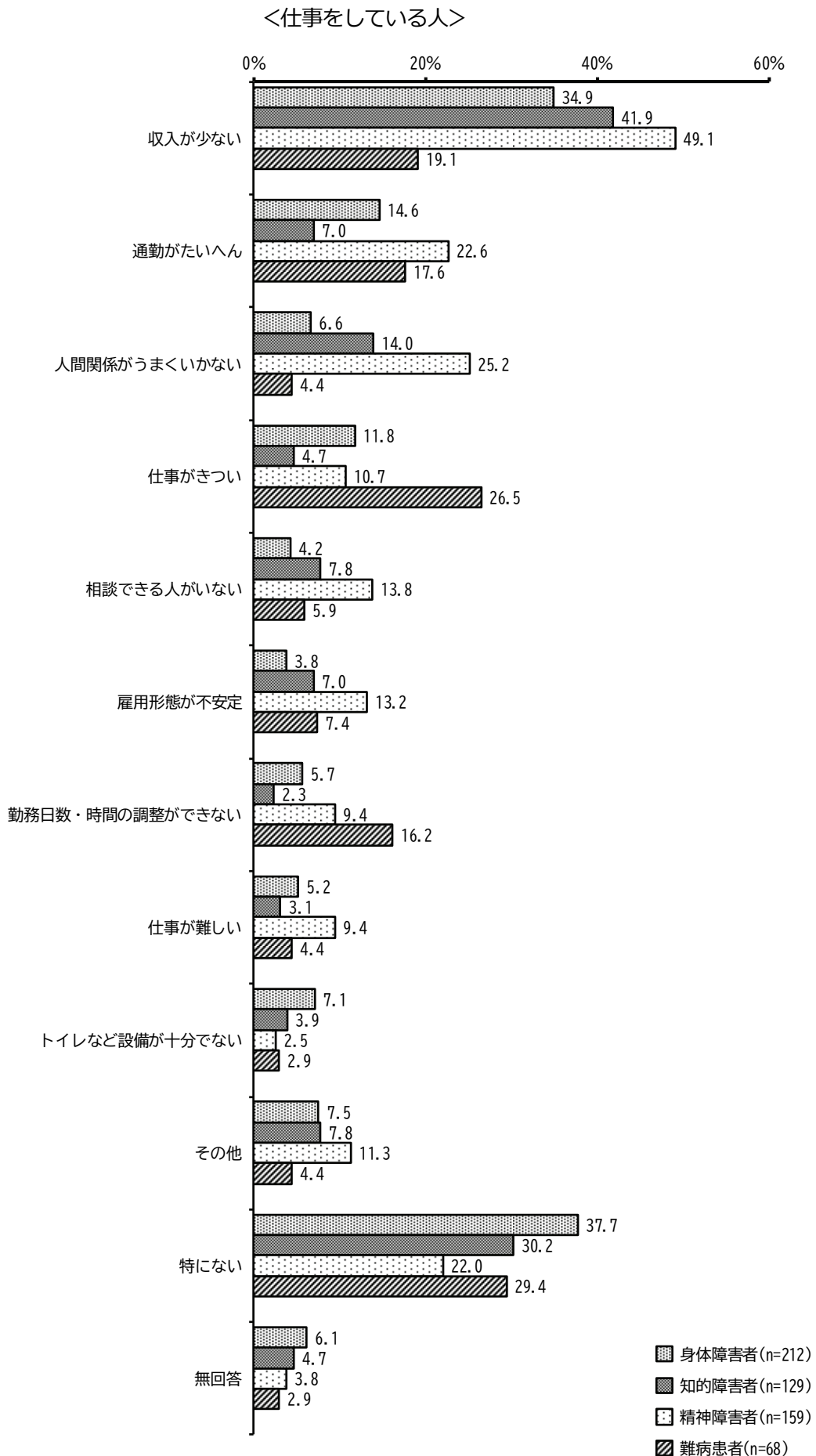
<仕事をしている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者ともに、「収入が少ない」(身体：34.9%、知的：41.9%、精神：49.1%)が最も多い。
- ・「収入が少ない」以外では、身体障害者は「通勤がたいへん」(14.6%)、知的障害者と精神障害者は「人間関係がうまくいかない」(知的：14.0%、精神：25.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「通勤がたいへん」(22.6%)が2割を超えている。また、「相談できる人がいない」(13.8%)は全体より6.1ポイント、「雇用形態が不安定」(13.2%)は全体より5.8ポイント高い。
- ・難病患者は、「仕事がつい」(26.5%)が最も多く、2割を超えている。

図表 仕事上の不安(障害等の種類別：複数回答)

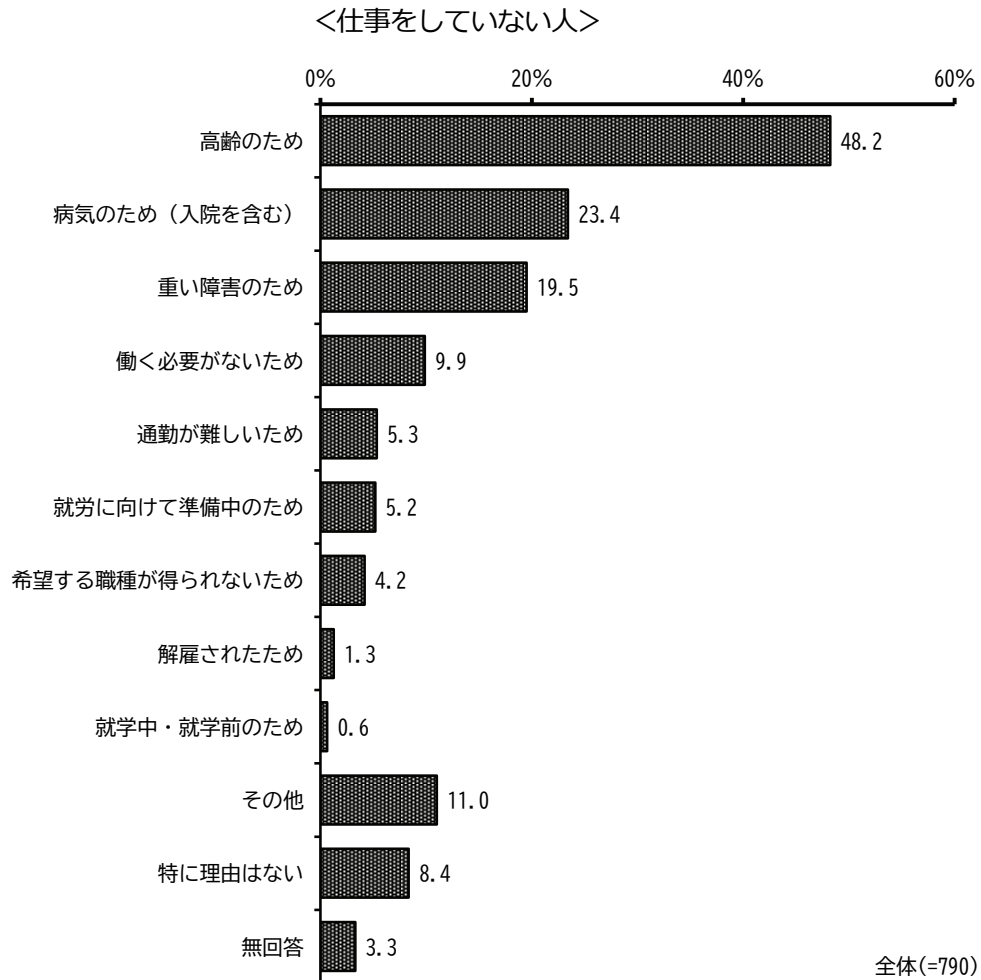


問9-2 問9で「8.仕事はしていない」と答えた方におたずねします。

仕事をしていない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「高齢のため」(48.2%)が最も多く、「病気のため(入院を含む)」(23.4%)、「重い障害のため」(19.5%)が続いている。

図表 仕事をしていない理由(全体：複数回答)



【障害等の種類×年代別】

- ・「高齢のため」、「重い障害のため」、「病気のため(入院を含む)」以外の理由について、障害の種類・年代別に分析する。
- ・18～39歳は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「就労に向けて準備中のため」(身体：30.0%、知的：14.3%、精神：25.0%、難病：28.6%)が多い。
- ・身体障害者は、18～39歳は「働く必要がないため」(20.0%)、「その他」(30.0%)も多い。「その他」の内容は、ペースメーカーが入っている、体調がよくない、子どもがいる、などがみられる。
- ・知的障害者は、18～39歳と40～64歳で「希望する職種が得られないため」(18～39歳：9.5%、40～64歳：10.0%)も1割程度である。
- ・精神障害者は、18～39歳は「就労に向けて準備中のため」(25.0%)が最も多く、「通勤が難しいため」(18.2%)、「その他」も多い。「その他」の内容は、体調が安定しない、通院日が多くそれほど休みがとれない、などがみられる。40～64歳は「希望する職種が得られないため」(12.8%)も多い。
- ・難病患者は、18～39歳で「通勤が難しいため」と「就労に向けて準備中のため」が7人中2人(28.6%)、「希望する職種が得られないため」と「解雇されたため」が7人中1人(14.3%)、40～64歳で「その他」(11.1%)が多い。「その他」の内容は、働ける体力がない、定年退職後再任用として働き卒業した、子どもが小さいためなどがみられる。65歳以上で「働く必要がないため」(20.0%)が多い。

図表 仕事をしていない理由(全体、障害等の種類×年代別：複数回答)

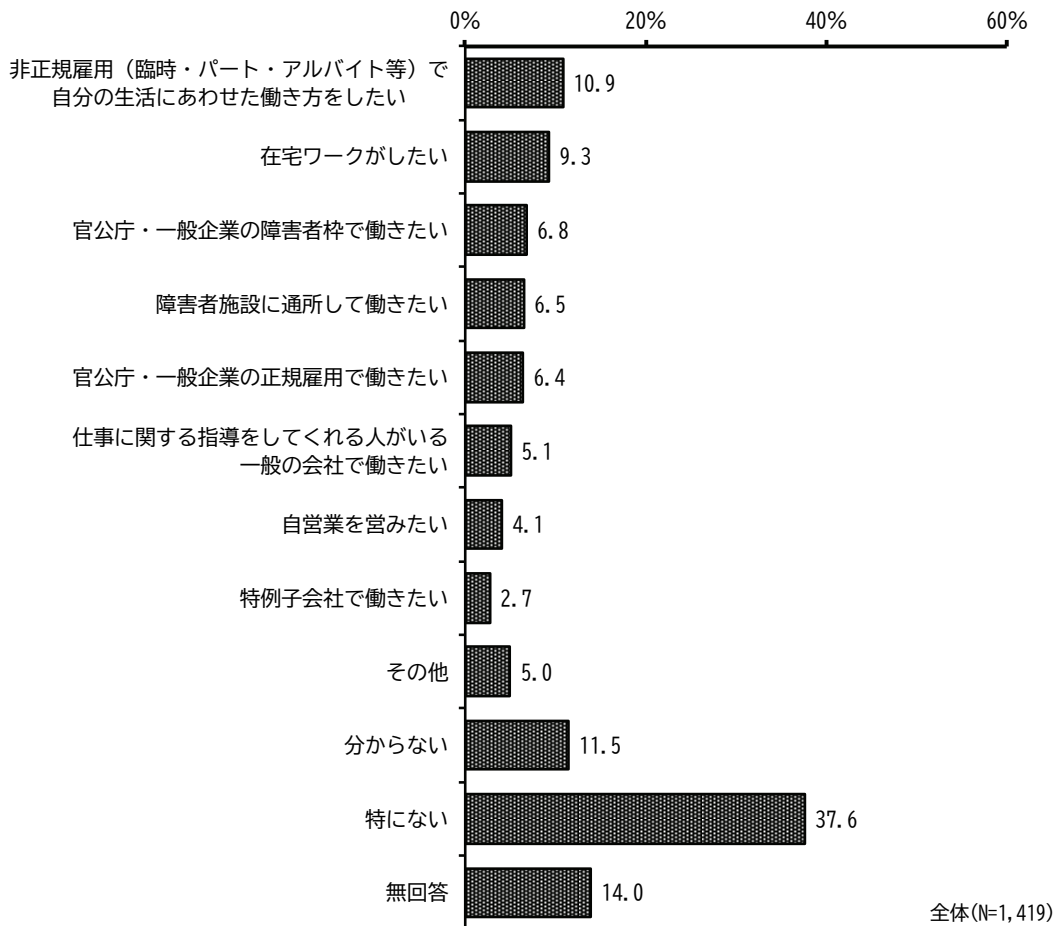
<仕事をしていない人>

		(n=790)	高齢のため	病気のため(入院を含む)	重い障害のため	働く必要がないため	通勤が難しいため	就労に向けて準備中のため	希望する職種が得られないため	解雇されたため	就学中・就学前のため	その他	特に理由はない	無回答	
全体		(n=790)	48.2	23.4	19.5	9.9	5.3	5.2	4.2	1.3	0.6	11.0	8.4	3.3	
障害等の種類×年代	身体障害者	18～39歳	(n=10)	0.0	40.0	30.0	20.0	0.0	30.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	
		40～64歳	(n=70)	10.0	22.9	30.0	2.9	17.1	10.0	1.4	0.0	15.7	11.4	5.7	
		65歳以上	(n=435)	70.8	15.2	17.2	12.9	2.3	0.7	1.8	1.1	0.0	7.8	9.0	3.2
	知的障害者	18～39歳	(n=21)	0.0	9.5	61.9	0.0	0.0	14.3	9.5	0.0	9.5	4.8	4.8	0.0
		40～64歳	(n=10)	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
		65歳以上	(n=7)	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
	精神障害者	18～39歳	(n=44)	0.0	29.5	27.3	4.5	18.2	25.0	6.8	0.0	4.5	27.3	0.0	2.3
		40～64歳	(n=78)	6.4	51.3	15.4	7.7	9.0	10.3	12.8	1.3	0.0	20.5	5.1	3.8
		65歳以上	(n=15)	46.7	26.7	33.3	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7
	難病患者	18～39歳	(n=7)	0.0	71.4	0.0	0.0	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
		40～64歳	(n=18)	11.1	66.7	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	11.1	16.7	5.6
		65歳以上	(n=30)	63.3	33.3	6.7	20.0	6.7	0.0	0.0	3.3	0.0	10.0	0.0	0.0

問10 あなたは、今後どのような仕事がしたいですか。(いくつでも○)

- ・「特にない」(37.6%)と「分からない」(11.5%)以外では、「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(10.9%)が最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(9.3%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(6.8%)が続いている。

図表 今後したい仕事 (全体：複数回答)



【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者は、18～39歳は「在宅ワークがしたい」(28.6%)と「官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい」(28.6%)が同率で最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(19.0%)と「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(19.0%)が同率で続いている。40～64歳では「在宅ワークがしたい」(17.2%)が最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(15.1%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(14.1%)が続いている。
- ・知的障害者は、18～39歳は「障害者施設に通所して働きたい」(29.0%)が最も多く、次いで「仕事に関する指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい」(14.5%)、「特例子会社で働きたい」(13.7%)が続いている。40～64歳では「障害者施設に通所して働きたい」(25.0%)が最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(12.5%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(7.5%)が続いている。
- ・精神障害者は18～39歳は「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(16.8%)と「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(16.8%)が同率で最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(16.0%)と「仕事に関する指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい」(16.0%)が同率で続いている。40～64歳では「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(17.3%)と「在宅ワークがしたい」(17.3%)が同率で最も多く、次いで「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(14.1%)が続いている。
- ・難病患者は18～39歳は「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(36.4%)と「官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい」(36.4%)が同率で最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(33.3%)が続いている。40～64歳では「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(28.6%)が最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(12.5%)と「官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい」(12.5%)が同率で続いている。

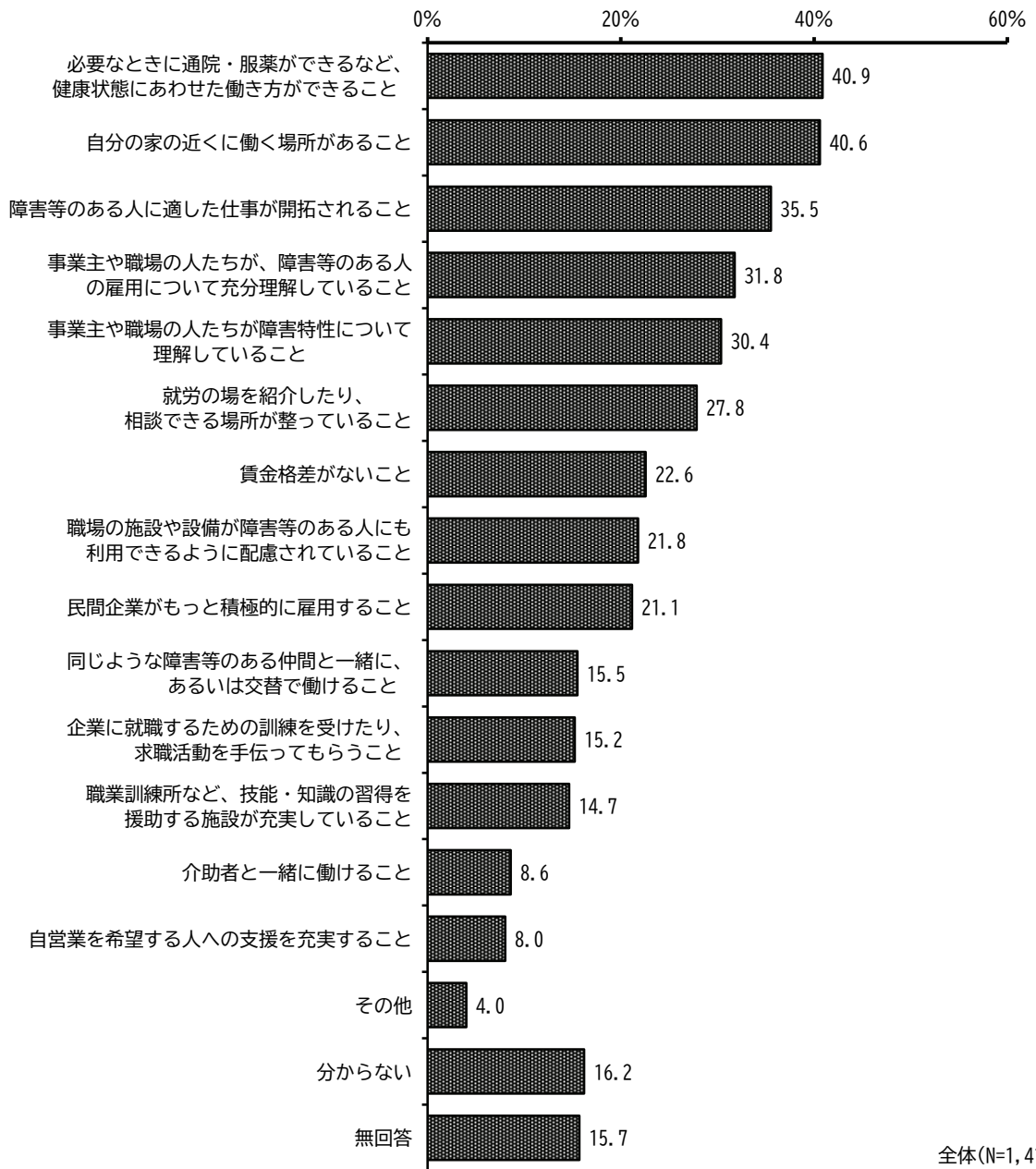
図表 今後したい仕事 (全体、障害等の種類×年代別：複数回答)

			(%)	非正規雇用 (臨時・ パート・ア ルバイト 等)で自分 の生活にあ わせた働き 方をしたい	在宅ワーク がしたい	官公庁・一 般企業の障 害者枠で働 きたい	障害者施設 に通所して 働きたい	官公庁・一 般企業の正 規雇用で働 きたい	仕事に関す る指導をし てくれる人 がいる一般 の会社で働 きたい
全体			(N=1,419)	10.9	9.3	6.8	6.5	6.4	5.1
障害等の種類 ×年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	19.0	28.6	19.0	4.8	28.6	0.0
		40～64歳	(n=192)	15.1	17.2	14.1	1.6	12.5	3.1
		65歳以上	(n=533)	5.3	3.6	0.8	1.1	0.6	0.6
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	4.0	4.0	9.7	29.0	2.4	14.5
		40～64歳	(n=40)	12.5	0.0	7.5	25.0	0.0	5.0
		65歳以上	(n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	16.8	16.0	16.8	14.4	13.6	16.0
		40～64歳	(n=156)	17.3	17.3	14.1	9.6	10.3	12.8
		65歳以上	(n=21)	9.5	9.5	4.8	4.8	0.0	4.8
	難病患者	18～39歳	(n=33)	36.4	33.3	3.0	0.0	36.4	0.0
		40～64歳	(n=56)	28.6	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0
		65歳以上	(n=35)	5.7	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9
				自営業を営 みたい	特例子会社 で働きたい	その他	分からない	特にない	無回答
全体			(N=1,419)	4.1	2.7	5.0	11.5	37.6	14.0
障害等の種類 ×年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	4.8	4.8	14.3	4.8	23.8	0.0
		40～64歳	(n=192)	8.3	1.6	5.2	14.1	28.1	8.9
		65歳以上	(n=533)	1.7	0.2	2.3	8.3	57.4	21.2
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	1.6	13.7	6.5	12.9	16.9	8.9
		40～64歳	(n=40)	0.0	5.0	5.0	25.0	17.5	17.5
		65歳以上	(n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	8.8	7.2	10.4	14.4	13.6	2.4
		40～64歳	(n=156)	7.7	3.2	8.3	19.2	16.0	5.1
		65歳以上	(n=21)	0.0	0.0	0.0	9.5	47.6	19.0
	難病患者	18～39歳	(n=33)	3.0	0.0	9.1	9.1	15.2	3.0
		40～64歳	(n=56)	10.7	0.0	7.1	8.9	33.9	3.6
		65歳以上	(n=35)	0.0	0.0	2.9	2.9	65.7	20.0

問11 障害等のある人が働くためにはどのようなことを希望しますか。(いくつでも○)

- ・「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」(40.9%)が最も多く、「自分の家の近くに働く場所があること」(40.6%)、「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」(35.5%)が続いている。

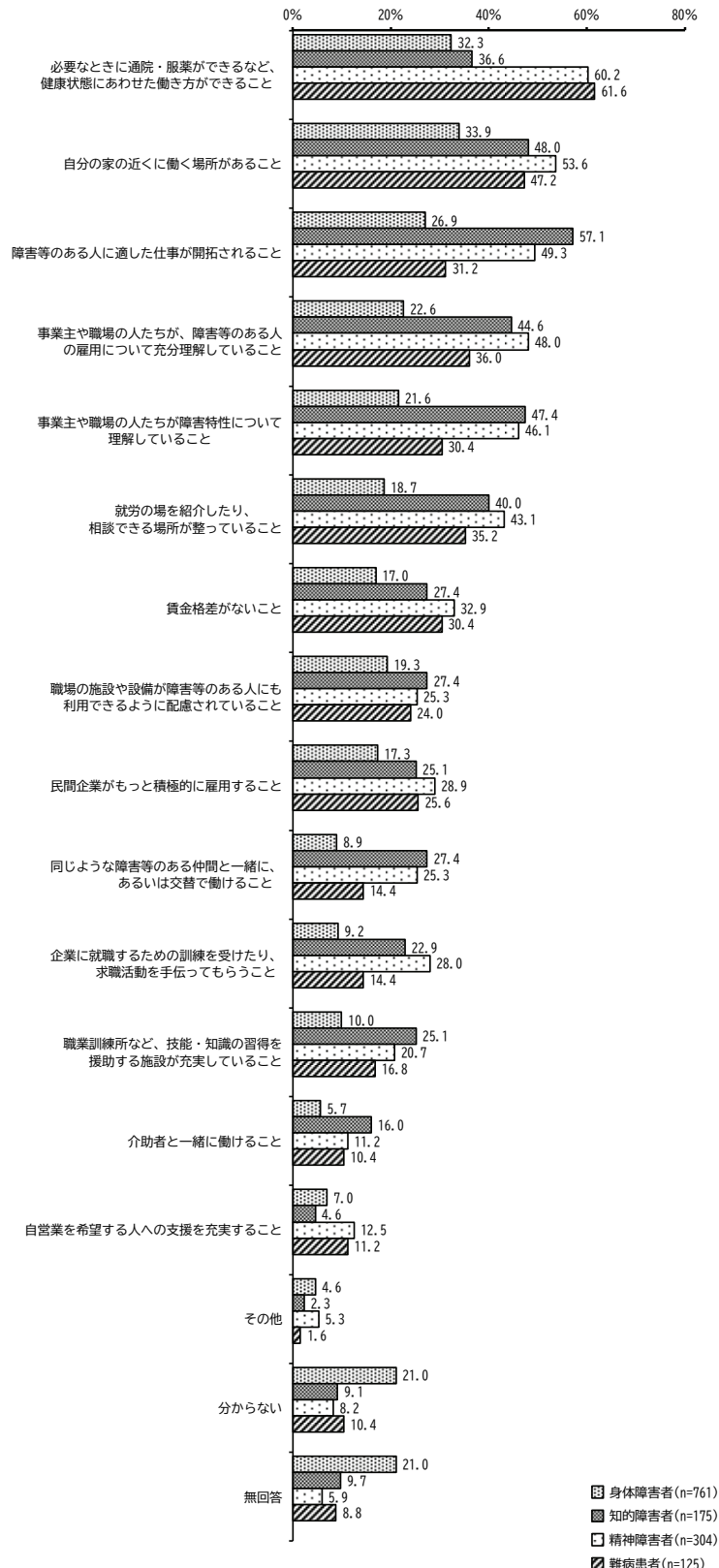
図表 障害等のある人が働くために希望すること (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」(33.9%)、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」(57.1%)、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」(精神：60.2%、難病：61.6%)が最も多い。

図表 障害等のある人が働くために希望すること(障害等の種類別：複数回答)

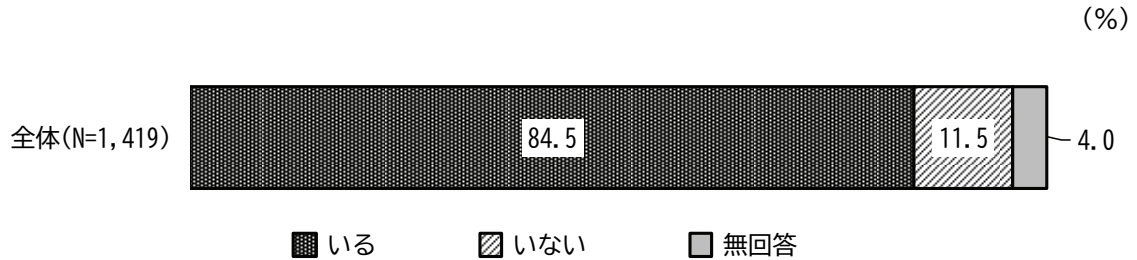


(7) 相談・権利擁護について

問12 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- ・「いる」が84.5%、「いない」が11.5%である。

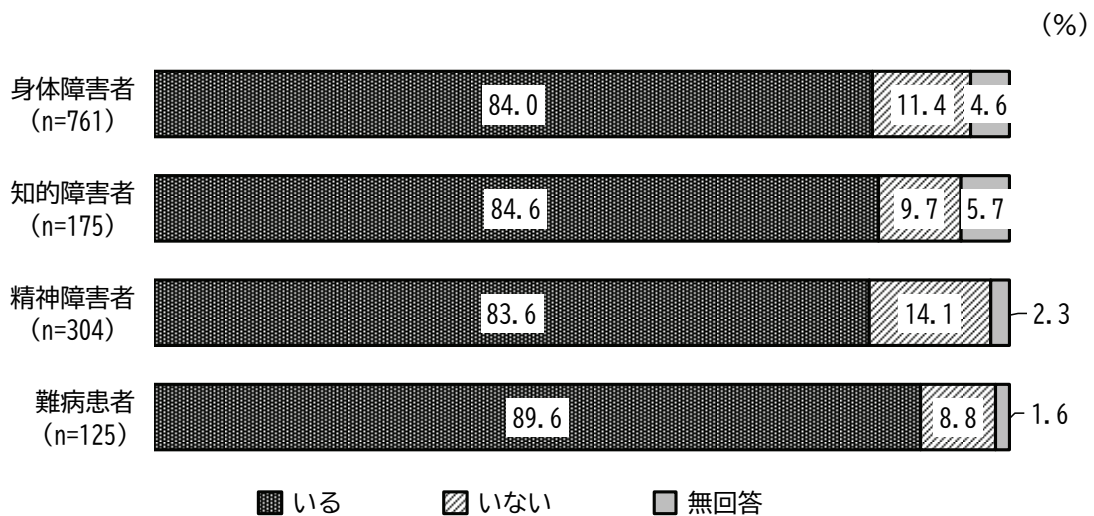
図表 相談できる人の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、全体と同様「いる」が8割を超えている。

図表 相談できる人の有無(障害等の種類別)

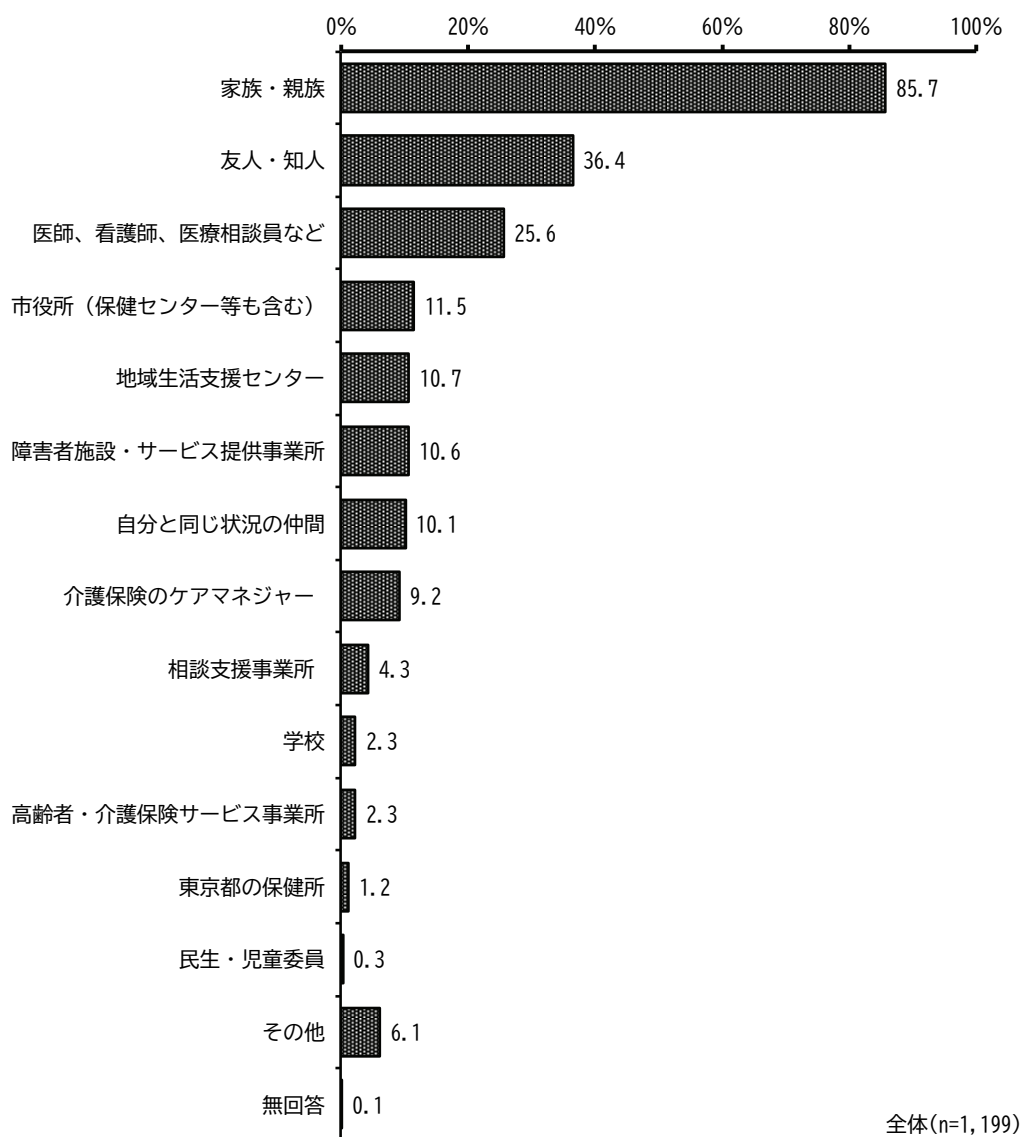


問12-1 問12で「1.いる」と答えた方におたずねします。

悩みや困りごとについて、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも○)

- ・問12で「いる」と回答した人に悩みや困りごとの相談先についてたずねたところ、「家族・親族」(85.7%)が最も多く、「友人・知人」(36.4%)、「医師、看護師、医療相談員など」(25.6%)が続いている。「市役所(保健センター等も含む)」(11.5%)、「地域生活支援センター」(10.7%)、「障害者施設・サービス提供事業所」(10.6%)、「自分と同じ状況の仲間」(10.1%)も1割を超えている。

図表 相談先(全体：複数回答)
 <相談できる人がいると回答した人>

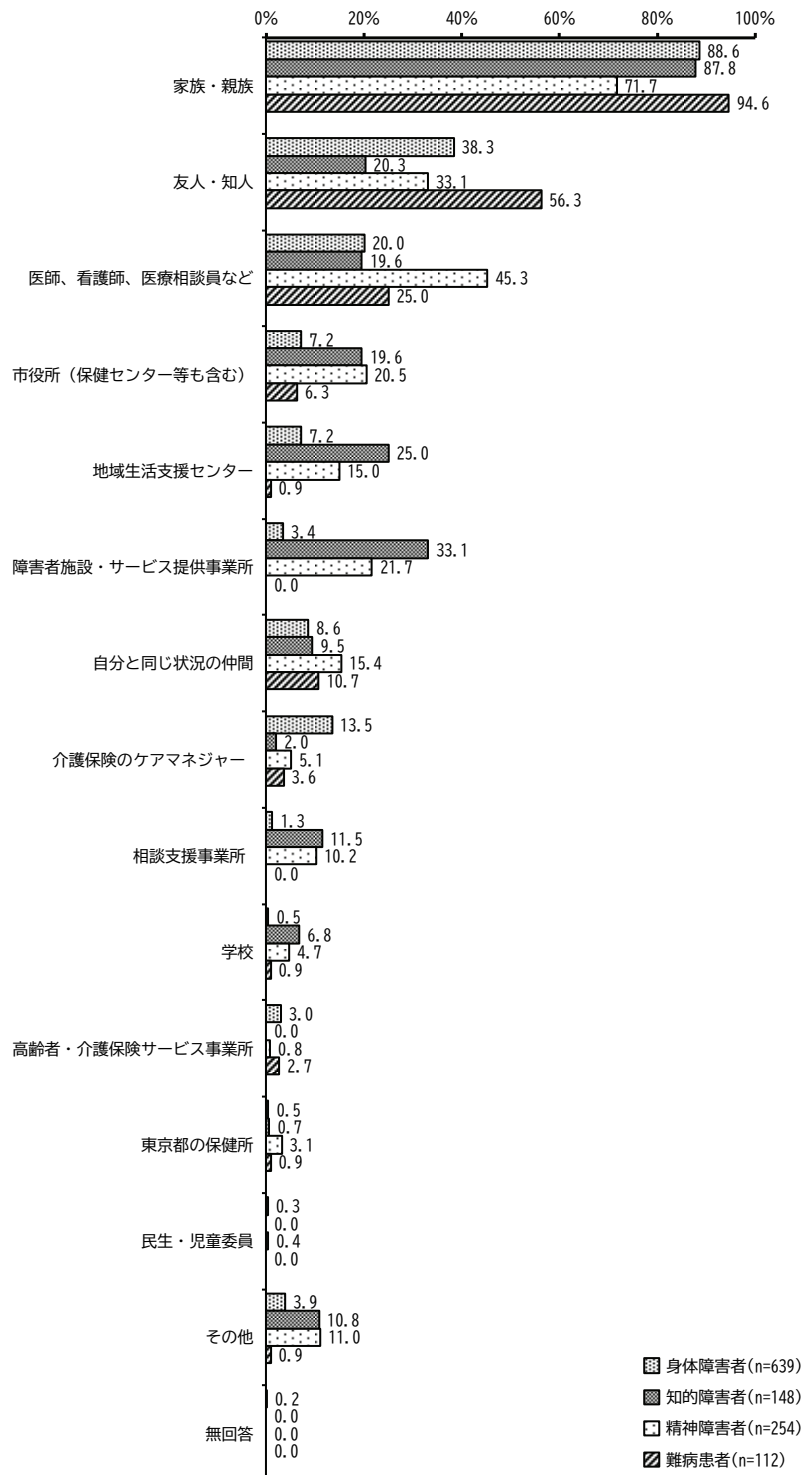


【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「家族・親族」(身体：88.6%、知的：87.8%、精神：71.7%、難病：94.6%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者と難病患者は「友人・知人」(身体：38.3%、難病患者：56.3%)、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」(33.1%)、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など」(45.3%)となっている。

図表 相談先(障害等の種類別：複数回答)

<相談できる人がいると回答した人>



問13 あなたは、次の府中市内の障害等のある人のための相談機関等を知っていますか。

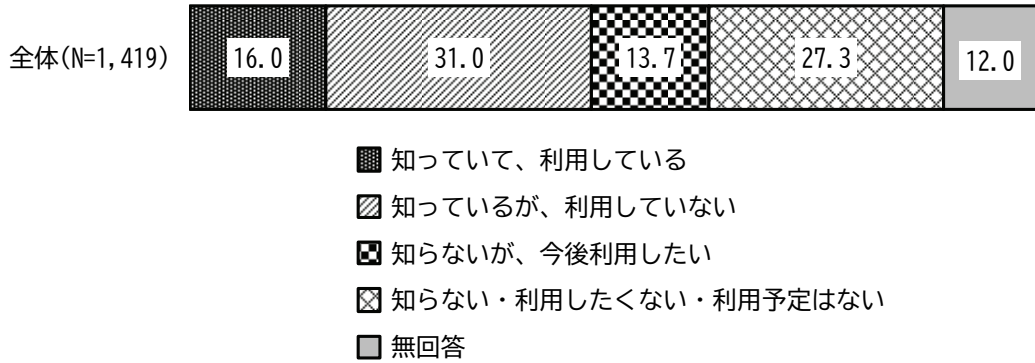
((1)~(4)について、それぞれ1つに○)

(1)地域生活支援センター(み〜な、あけぼの、プラザ、ふらっと)

・「知っている、利用している」(16.0%)と「知っているが、利用していない」(31.0%)をあわせたく知っている>は47.0%である。「知らないが、今後利用したい」は13.7%である。

図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター(全体)

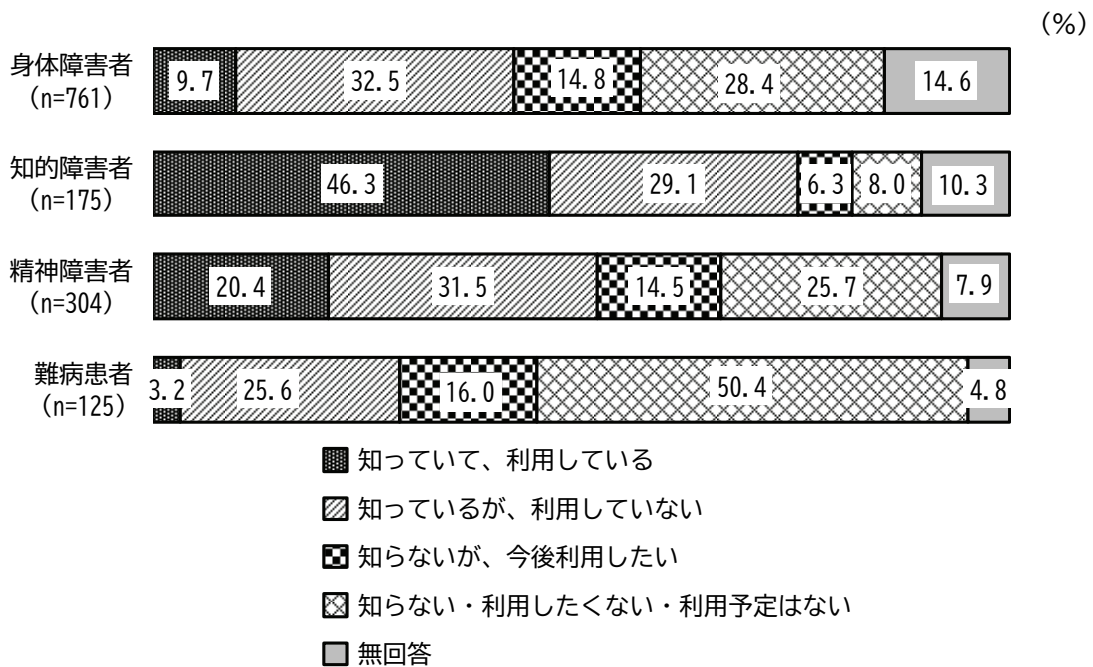
(%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(9.7%)と「知っているが、利用していない」(32.5%)をあわせて<知っている>は42.2%である。「知らないが、今後利用したい」は14.8%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(46.3%)と「知っているが、利用していない」(29.1%)をあわせて<知っている>は75.4%である。「知らないが、今後利用したい」は6.3%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(20.4%)と「知っているが、利用していない」(31.5%)をあわせて<知っている>は51.9%である。「知らないが、今後利用したい」は14.5%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」(3.2%)と「知っているが、利用していない」(25.6%)をあわせて<知っている>は28.8%である。「知らないが、今後利用したい」は16.0%である。

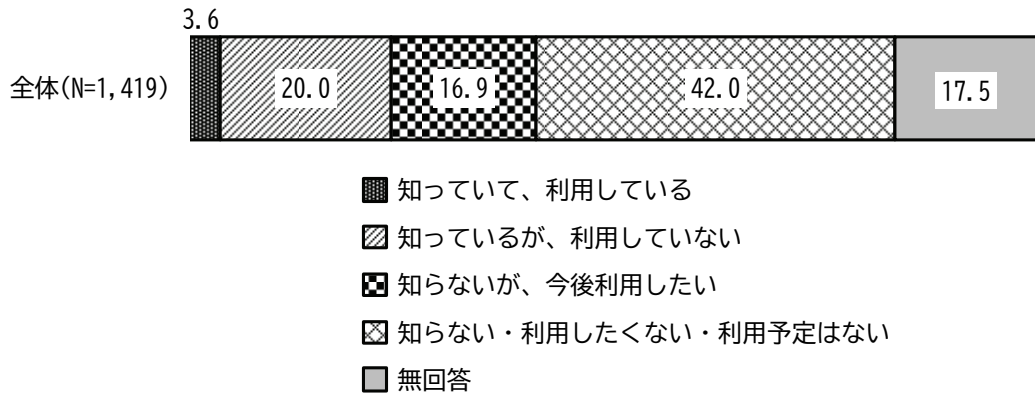
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター(障害等の種類別)



(2)身体障害者相談員・知的障害者相談員

- ・「知っている、利用している」(3.6%)と「知っているが、利用していない」(20.0%)をあわせたく知っている>は23.6%である。「知らないが、今後利用したい」は16.9%である。

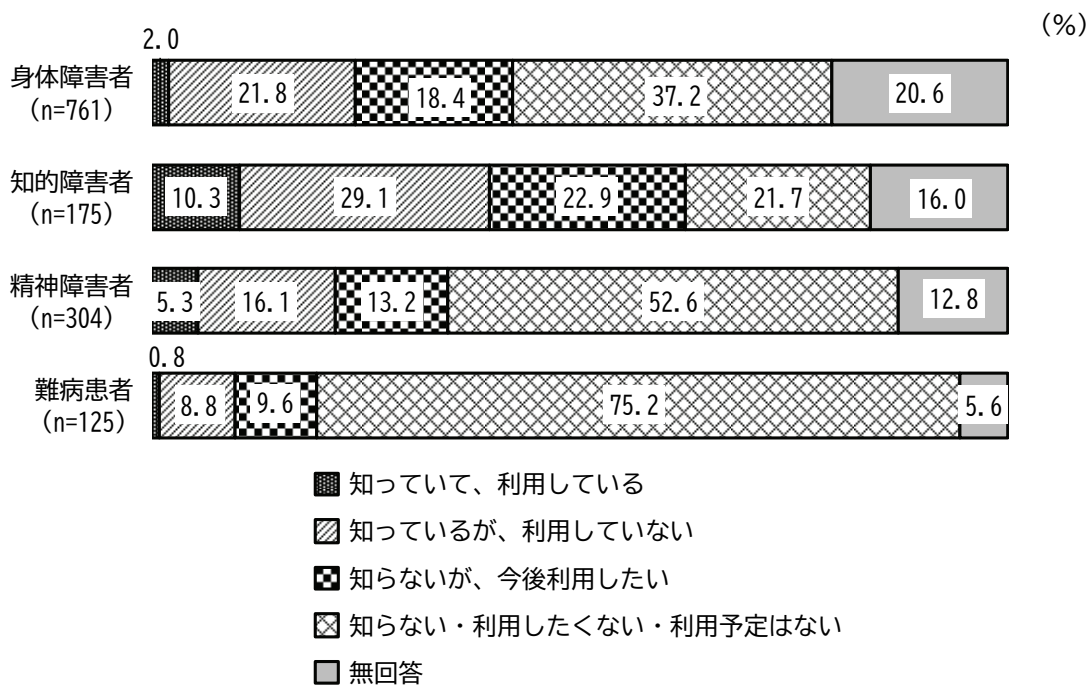
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員(全体)
(%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(2.0%)と「知っているが、利用していない」(21.8%)をあわせて<知っている>は23.8%である。「知らないが、今後利用したい」は18.4%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(10.3%)と「知っているが、利用していない」(29.1%)をあわせて<知っている>は39.4%である。「知らないが、今後利用したい」は22.9%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(5.3%)と「知っているが、利用していない」(16.1%)をあわせて<知っている>は21.4%である。「知らないが、今後利用したい」は13.2%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」(0.8%)と「知っているが、利用していない」(8.8%)をあわせて<知っている>は9.6%である。「知らないが、今後利用したい」は9.6%である。

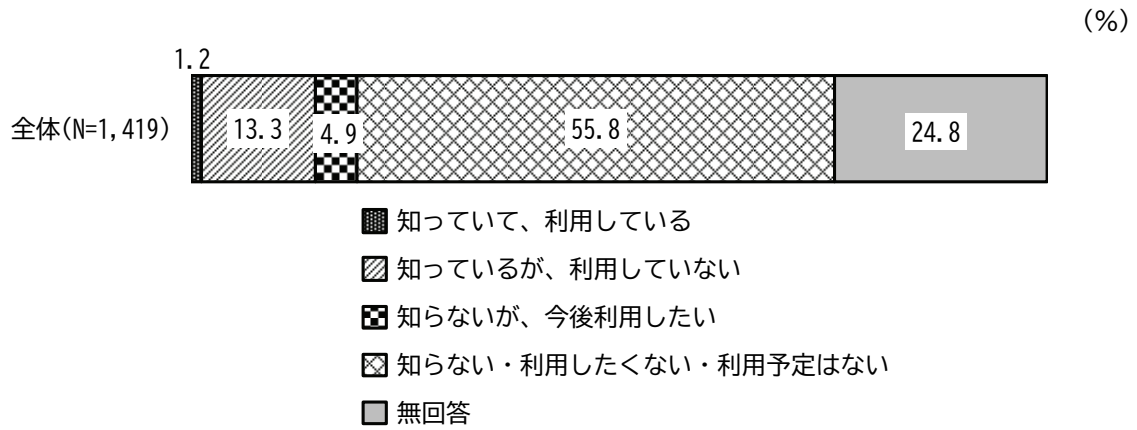
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員(障害等の種類別)



(3)聴覚障害者相談事業

- ・「知っている、利用している」(1.2%)と「知っているが、利用していない」(13.3%)をあわせたく知っている>は14.5%である。「知らないが、今後利用したい」は4.9%である。

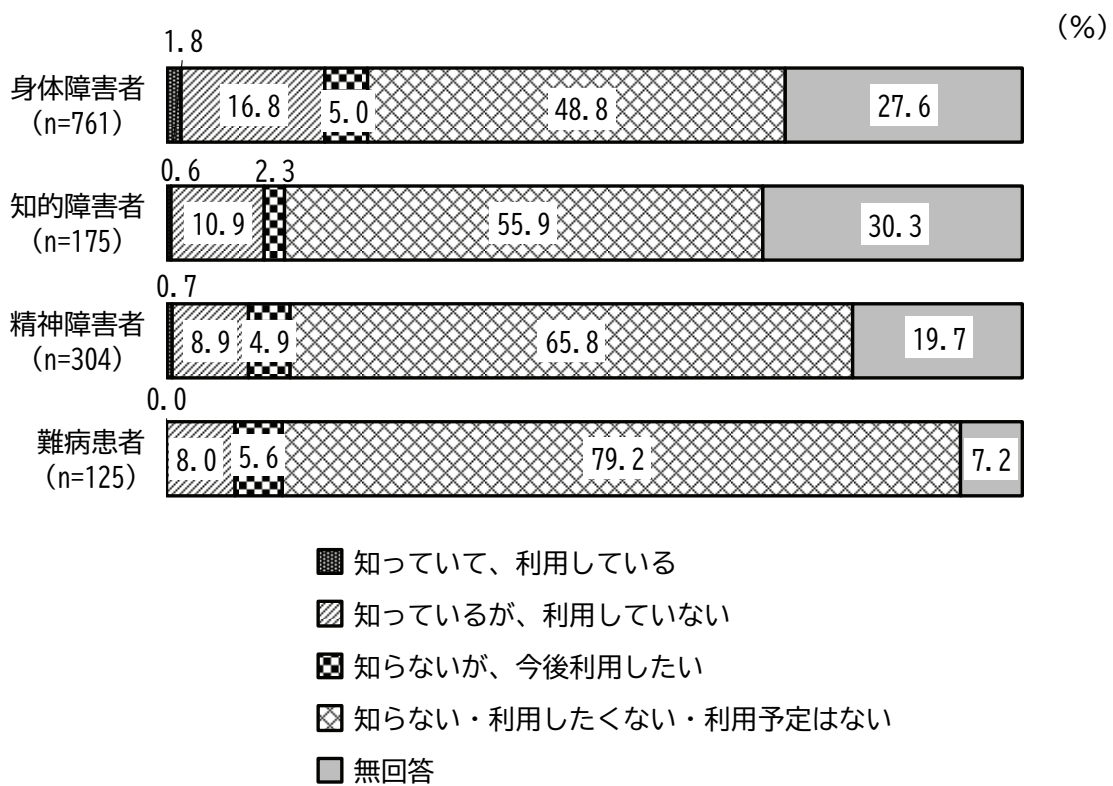
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(1.8%)と「知っているが、利用していない」(16.8%)をあわせて<知っている>は18.6%である。「知らないが、今後利用したい」は5.0%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(0.6%)と「知っているが、利用していない」(10.9%)をあわせて<知っている>は11.5%である。「知らないが、今後利用したい」は2.3%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(0.7%)と「知っているが、利用していない」(8.9%)をあわせて<知っている>は9.6%である。「知らないが、今後利用したい」は4.9%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.0%)をあわせて<知っている>は8.0%である。「知らないが、今後利用したい」は5.6%である。

図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業(障害等の種類別)

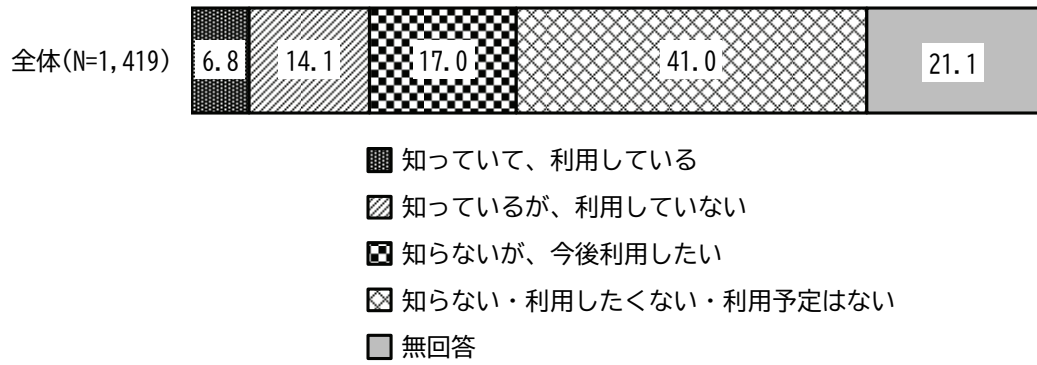


(4)計画相談支援事業所

- ・「知っている、利用している」(6.8%)と「知っているが、利用していない」(14.1%)をあわせたく知っている>は20.9%である。「知らないが、今後利用したい」は17.0%である。

図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：計画相談支援事業所(全体)

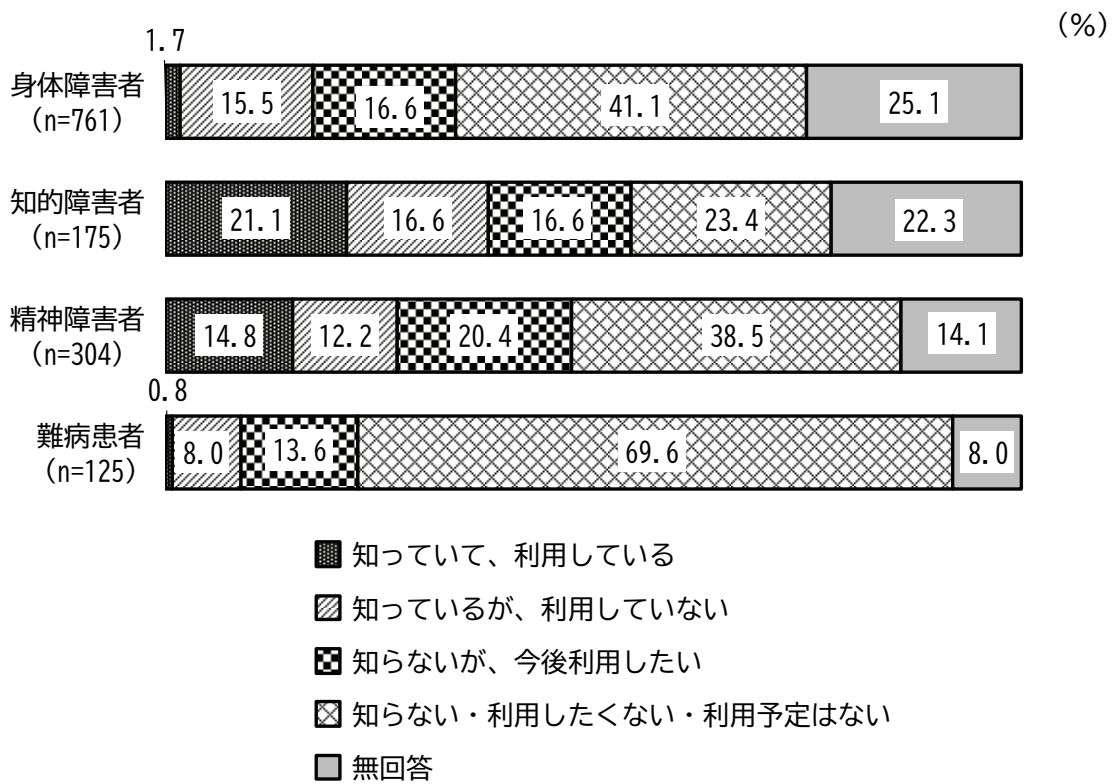
(%)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「知っていて、利用している」(1.7%)と「知っているが、利用していない」(15.5%)をあわせて<知っている>は17.2%である。「知らないが、今後利用したい」は16.6%である。
- ・ 知的障害者は「知っていて、利用している」(21.1%)と「知っているが、利用していない」(16.6%)をあわせて<知っている>は37.7%である。「知らないが、今後利用したい」は16.6%である。
- ・ 精神障害者は「知っていて、利用している」(14.8%)と「知っているが、利用していない」(12.2%)をあわせて<知っている>は27.0%である。「知らないが、今後利用したい」は20.4%である。
- ・ 難病患者は「知っていて、利用している」(0.8%)と「知っているが、利用していない」(8.0%)をあわせて<知っている>は8.8%である。「知らないが、今後利用したい」は13.6%である。

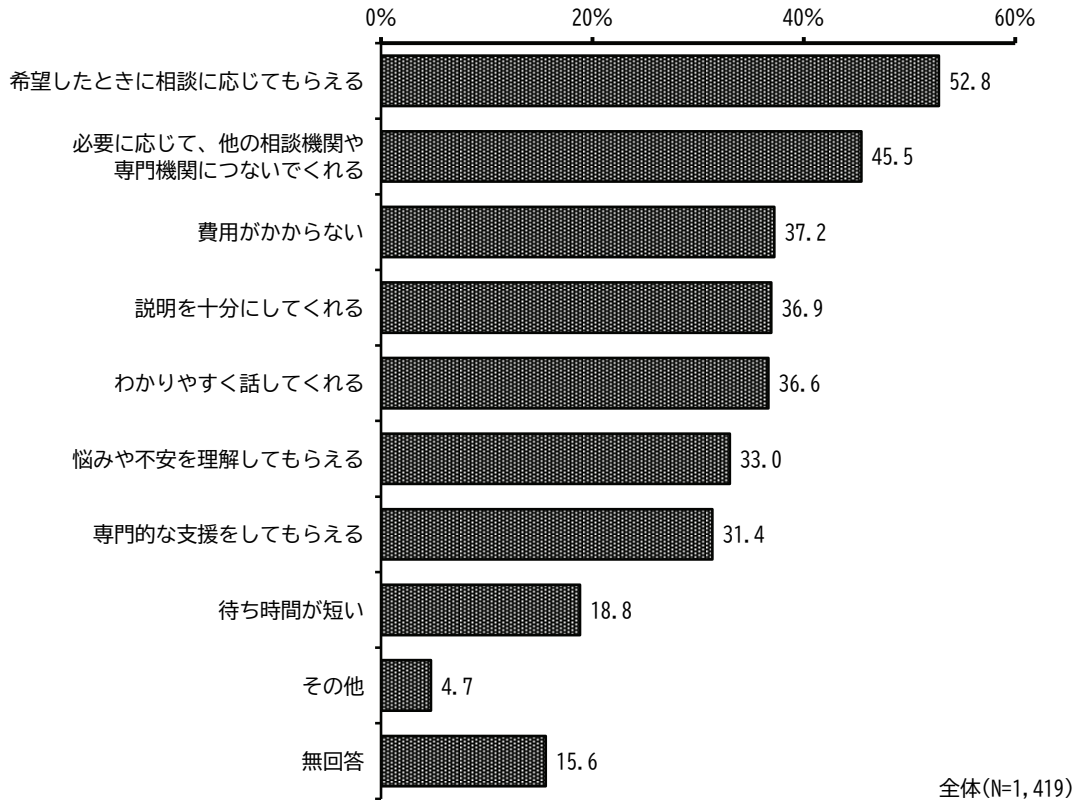
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：計画相談支援事業所(障害等の種類別)



問14 府中市内の障害等のある人のための相談機関等に求めることは何ですか。(いくつでも○)

- ・「希望したときに相談に応じてもらえる」(52.8%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(45.5%)、「費用がかからない」(37.2%)が続いている。

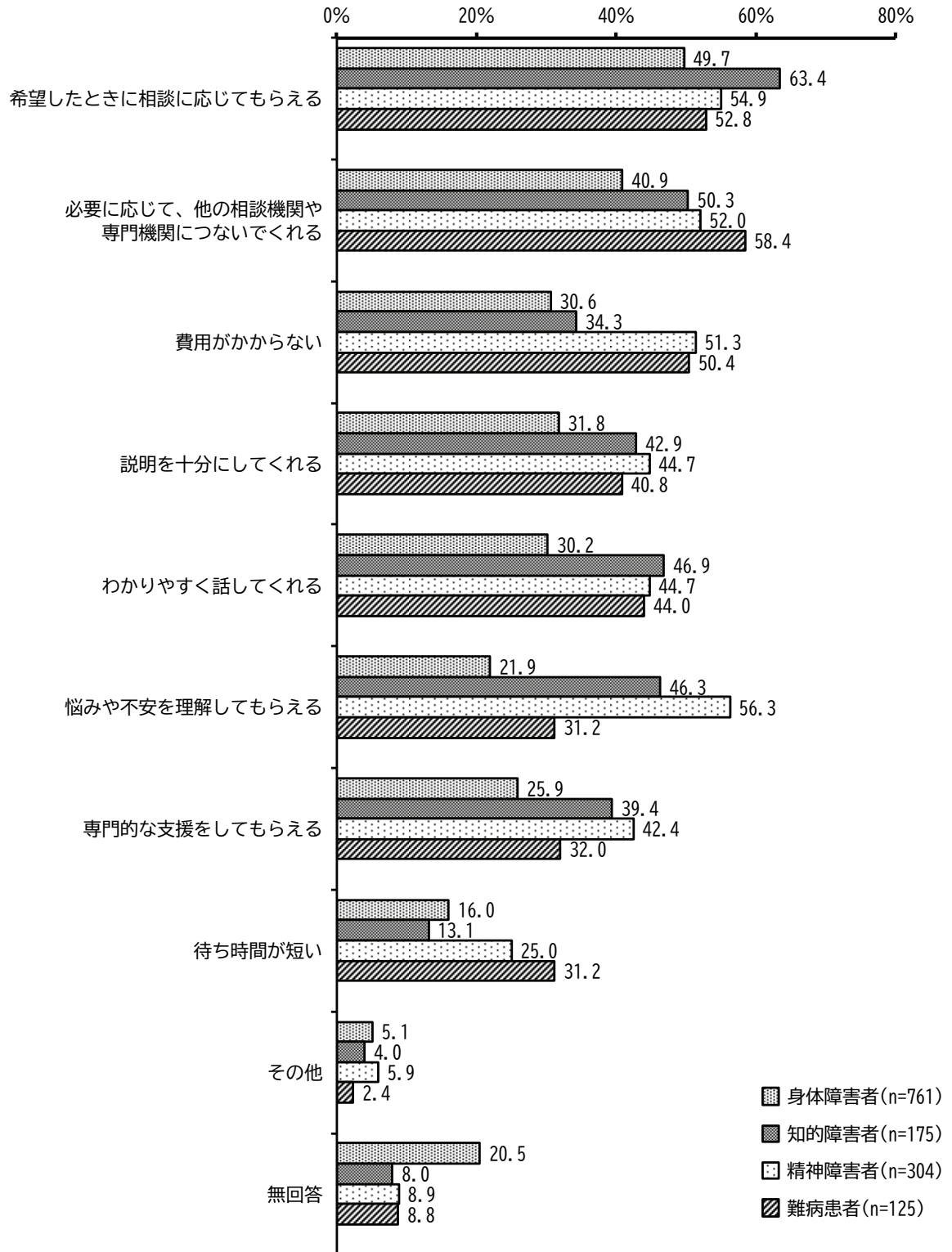
図表 市内の相談機関等に求めること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「希望したときに相談に応じてもらえる」(49.7%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(40.9%)、「説明を十分にしてくれる」(31.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「希望したときに相談に応じてもらえる」(63.4%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(50.3%)、「わかりやすく話してくれる」(46.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「悩みや不安を理解してもらえる」(56.3%)が最も多く、次いで「希望したときに相談に応じてもらえる」(54.9%)、「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(52.0%)が続いている。
- ・難病患者は「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(58.4%)が最も多く、次いで「希望したときに相談に応じてもらえる」(52.8%)、「費用がかからない」(50.4%)が続いている。

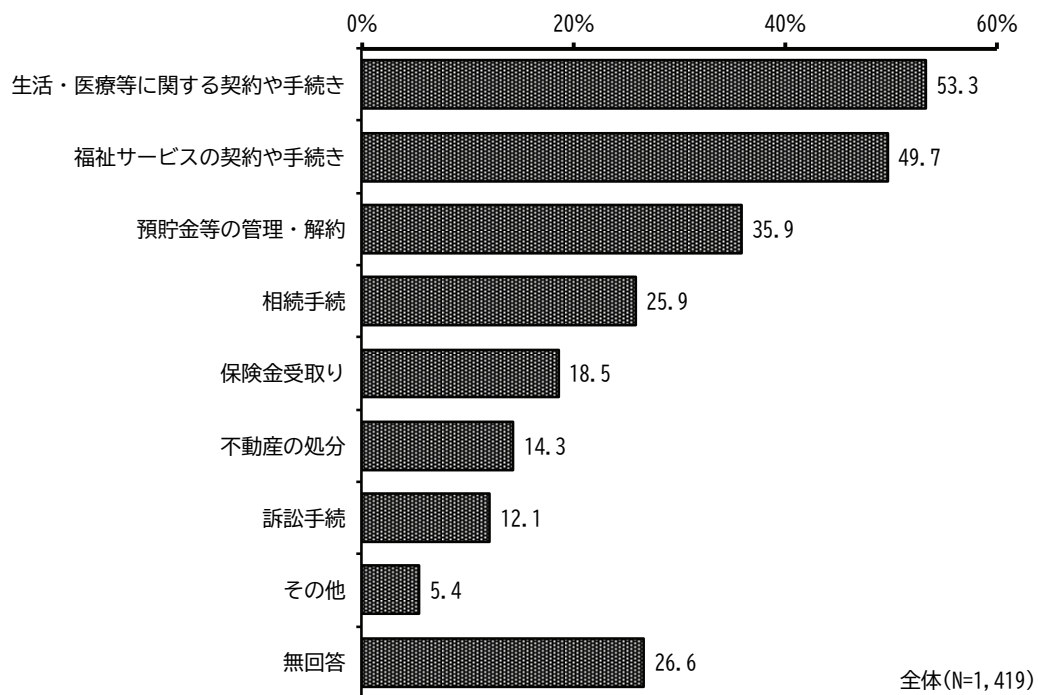
図表 市内の相談機関等に求めること(障害等の種類別：複数回答)



問 15 認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者(「成年後見人」等)をつけることで、本人を法律的に支援する制度として、成年後見制度があります。あなたは、今後成年後見制度を利用するとした場合、成年後見人等にやってほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「生活・医療等に関する契約や手続き」(53.3%)が最も多く、「福祉サービスの契約や手続き」(49.7%)、「預貯金等の管理・解約」(35.9%)が続いている。

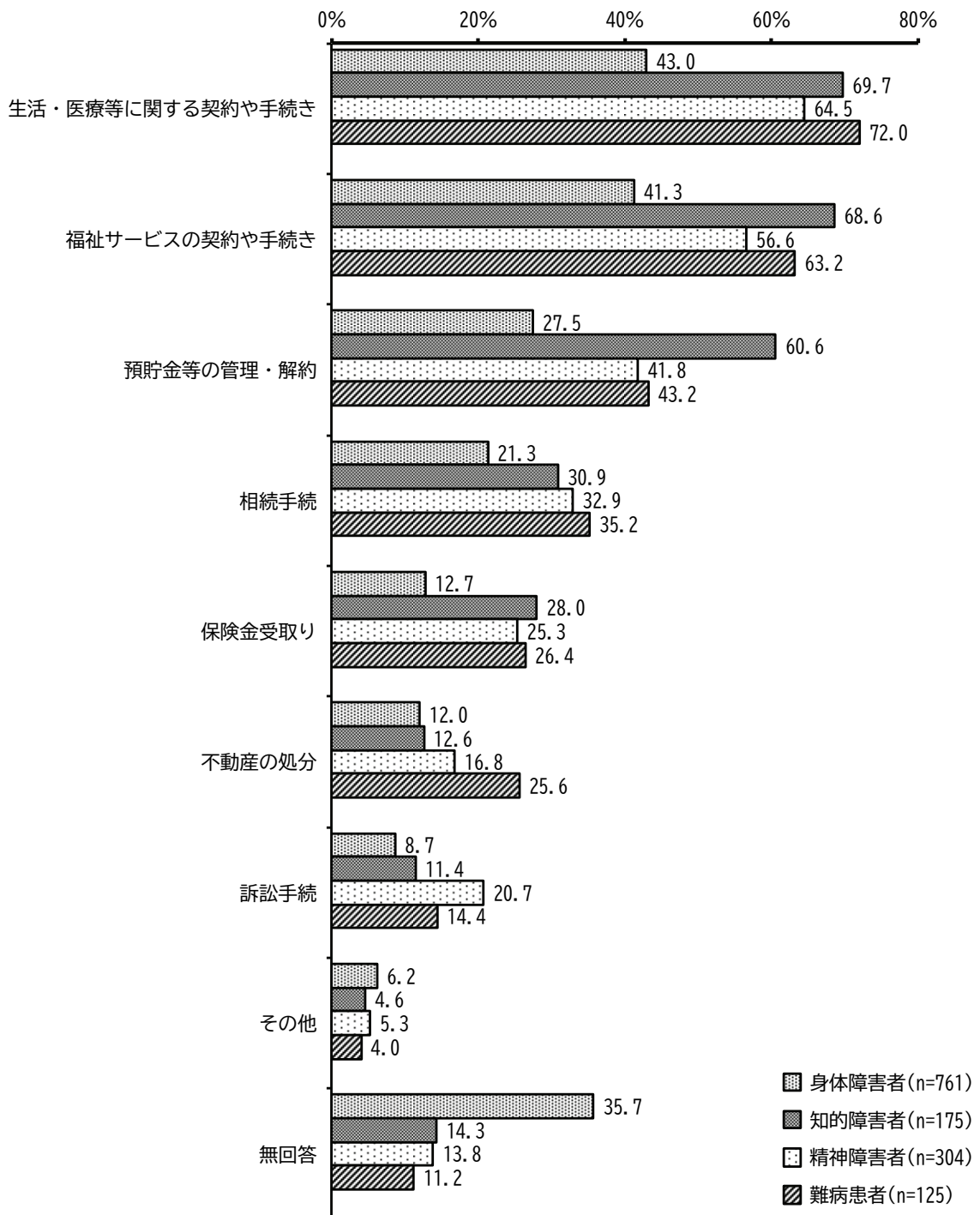
図表 成年後見人等にやってほしいこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、上位3位は全体と同様の傾向を示している。「生活・医療等に関する契約や手続き」（身体：43.0%、知的：69.7%、精神：64.5%、難病：72.0%）が最も多く、次いで「福祉サービスの契約や手続き」（身体：41.3%、知的：68.6%、精神：56.6%、難病：63.2%）、「預貯金等の管理・解約」（身体：27.5%、知的：60.6%、精神：41.8%、難病：43.2%）となっている。

図表 後見人等によってほしいこと(障害等の種類別：複数回答)

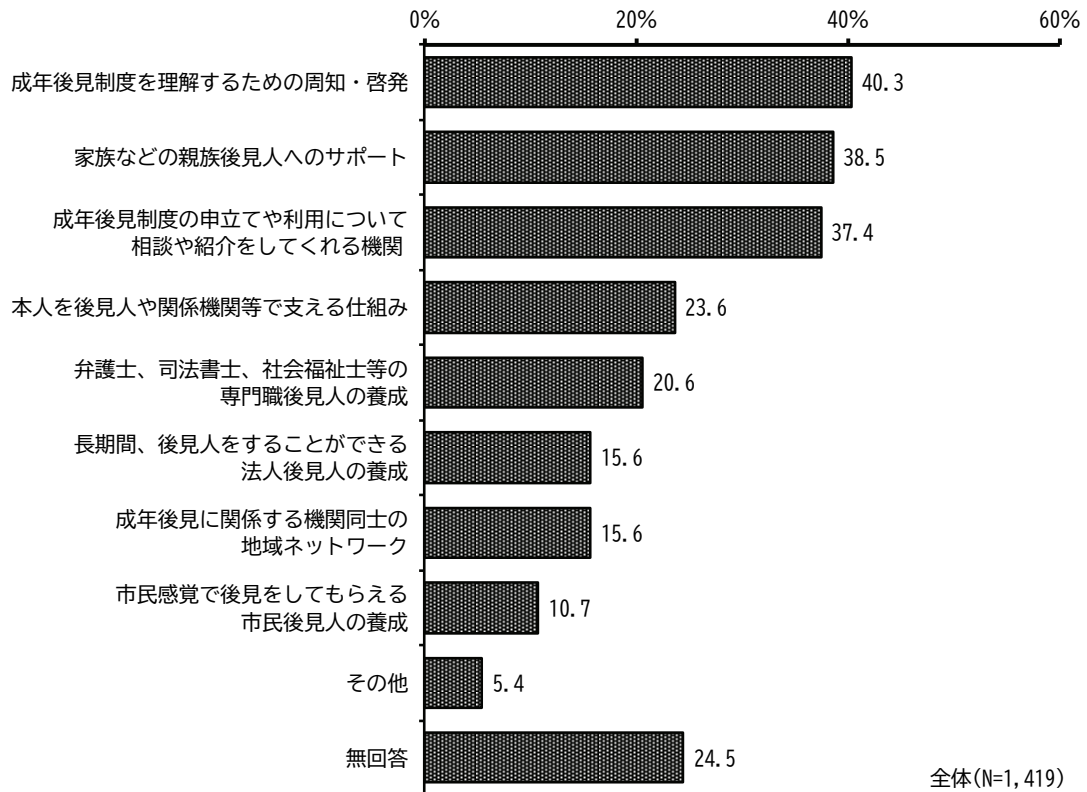


問16 あなたは、成年後見制度が利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(いくつでも○)

- ・「成年後見制度を理解するための周知・啓発」(40.3%)が最も多く、「家族などの親族後見人へのサポート」(38.5%)、「成年後見制度の申立てや利用について相談や紹介をしてくれる機関」(37.4%)が続いている。

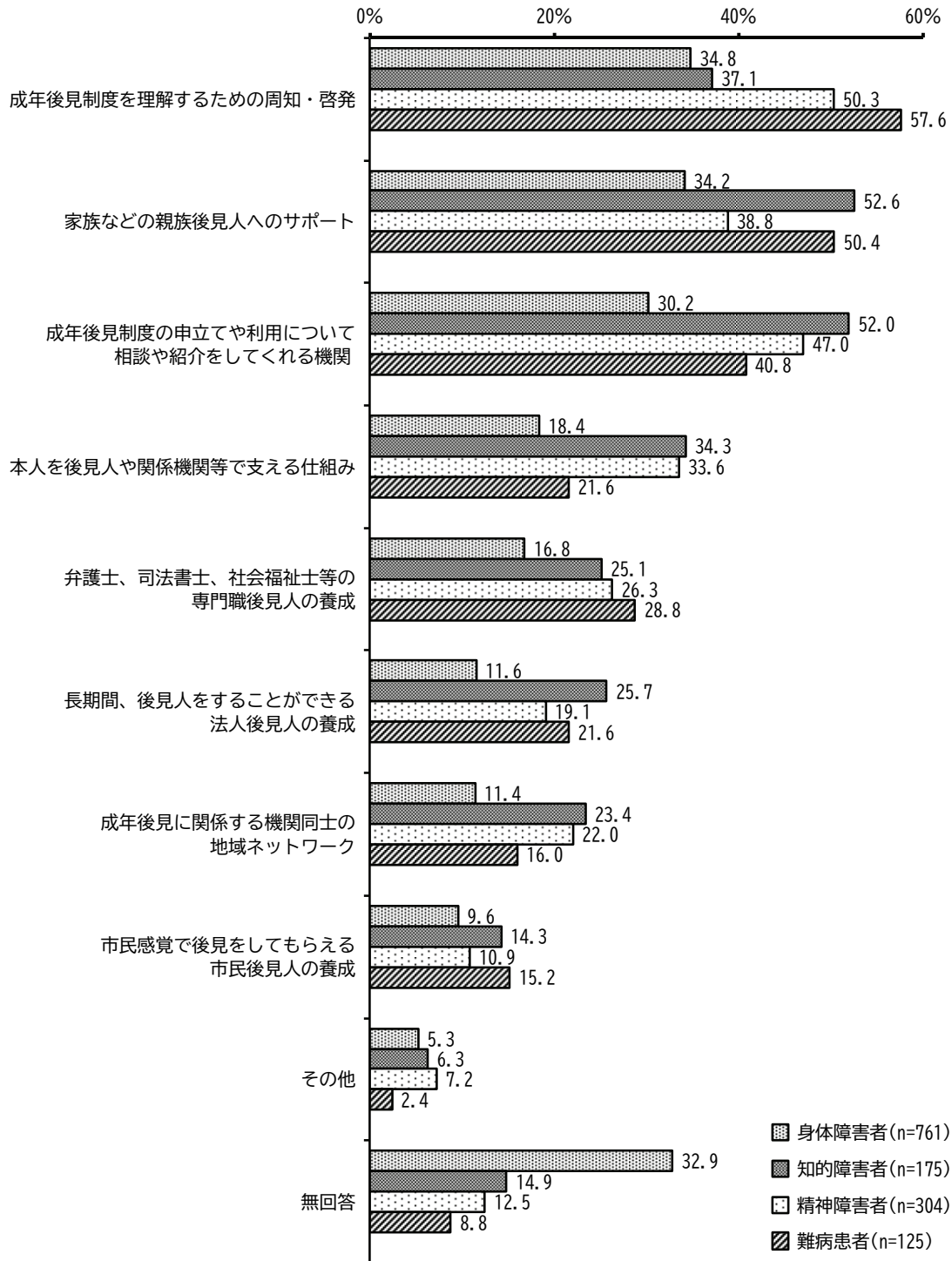
図表 成年後見制度を利用しやすくするために必要なこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は「成年後見制度を理解するための周知・啓発」(身体：34.8%、精神：50.3%、難病：57.6%)が最も多い。知的障害者は「家族などの親族後見人へのサポート」(52.6%)が最も多い。

図表 成年後見制度を利用しやすくするために必要なこと(障害等の種類別：複数回答)

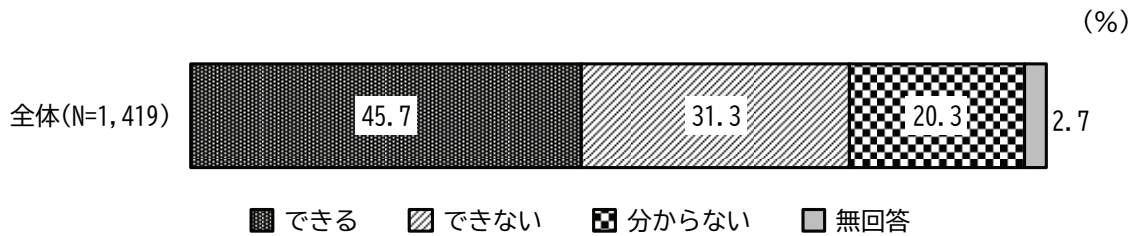


(8) 防災について

問17 あなたは、地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができますか。(1つに○)

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は31.3%である。

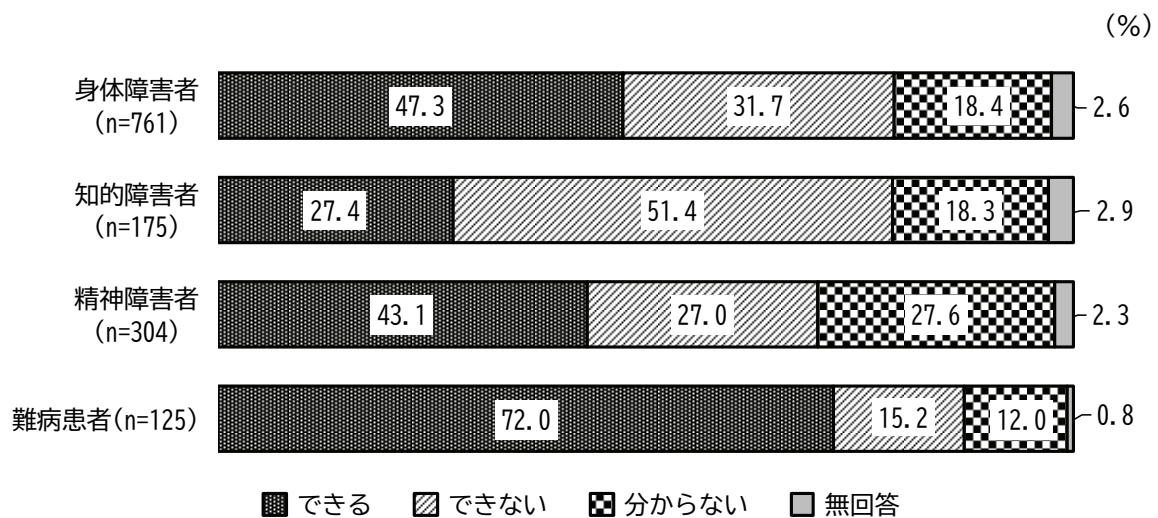
図表 緊急時の単独避難ができるか(全体)



【障害等の種類別】

- ・知的障害者は「できない」と回答した人が51.4%と半数を超えている。

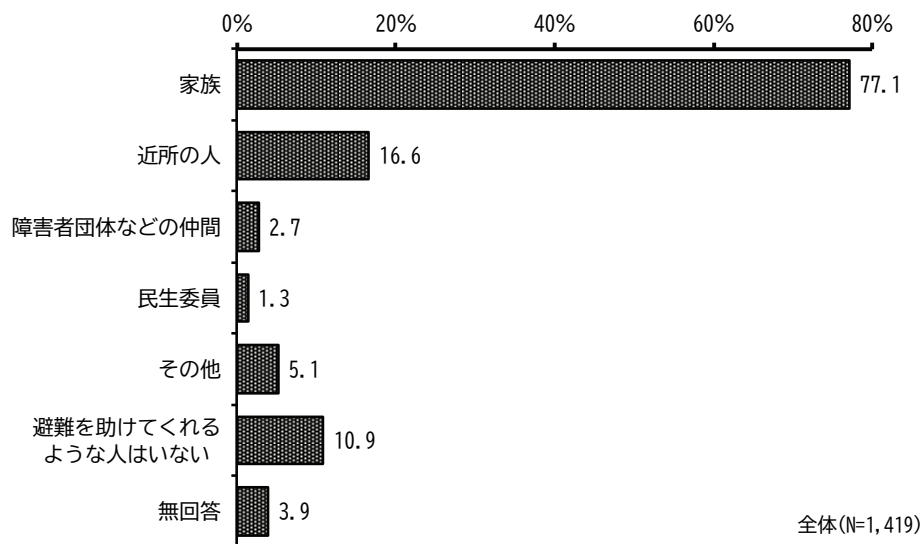
図表 緊急時の単独避難ができるか(障害等の種類別)



問18 地震や災害などが起きた場合に、避難を助けてくれるような人がいますか。(いくつでも○)

- ・「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は10.9%である。

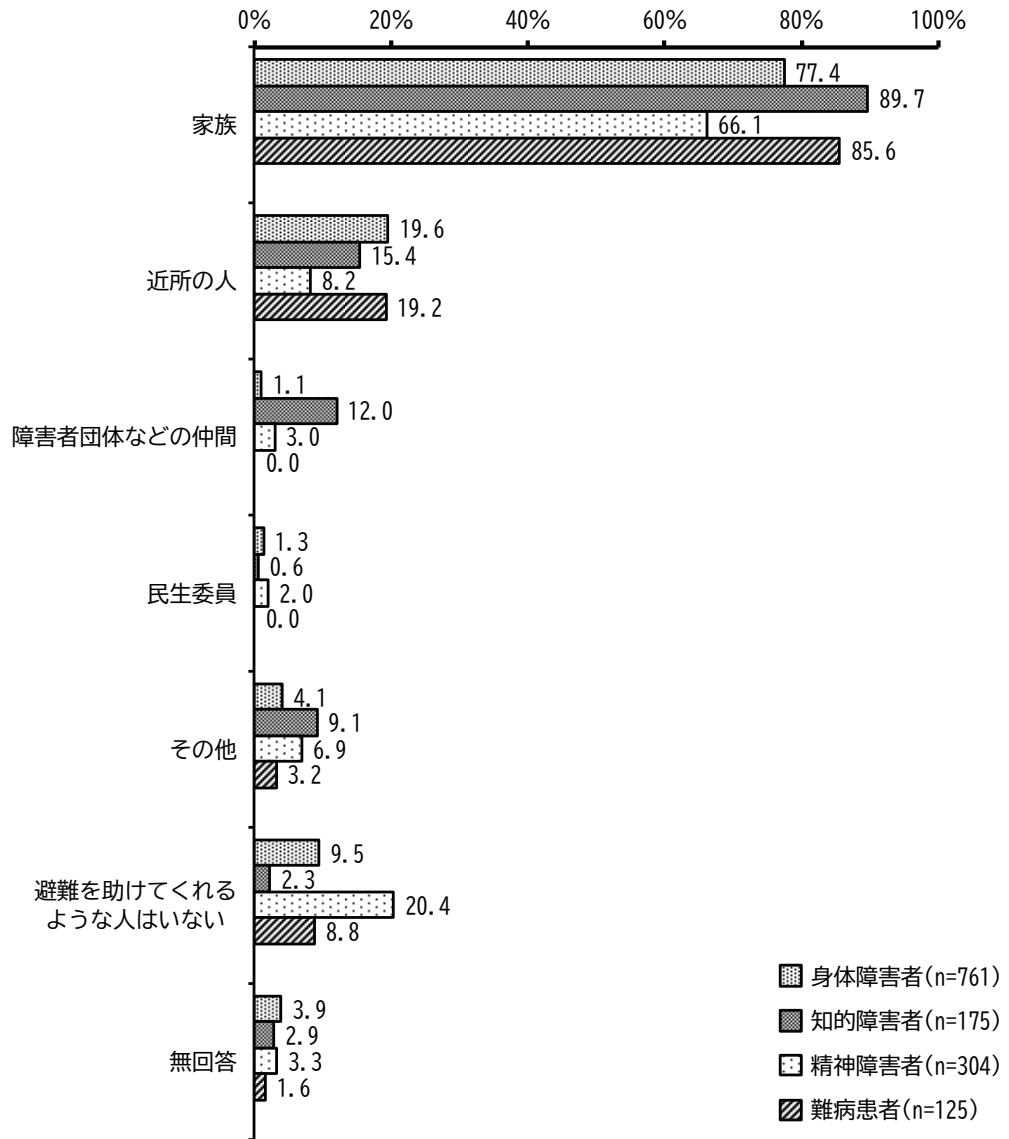
図表 地震や災害時に避難を助けてくれる人(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

・精神障害者は、「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人が20.4%である。

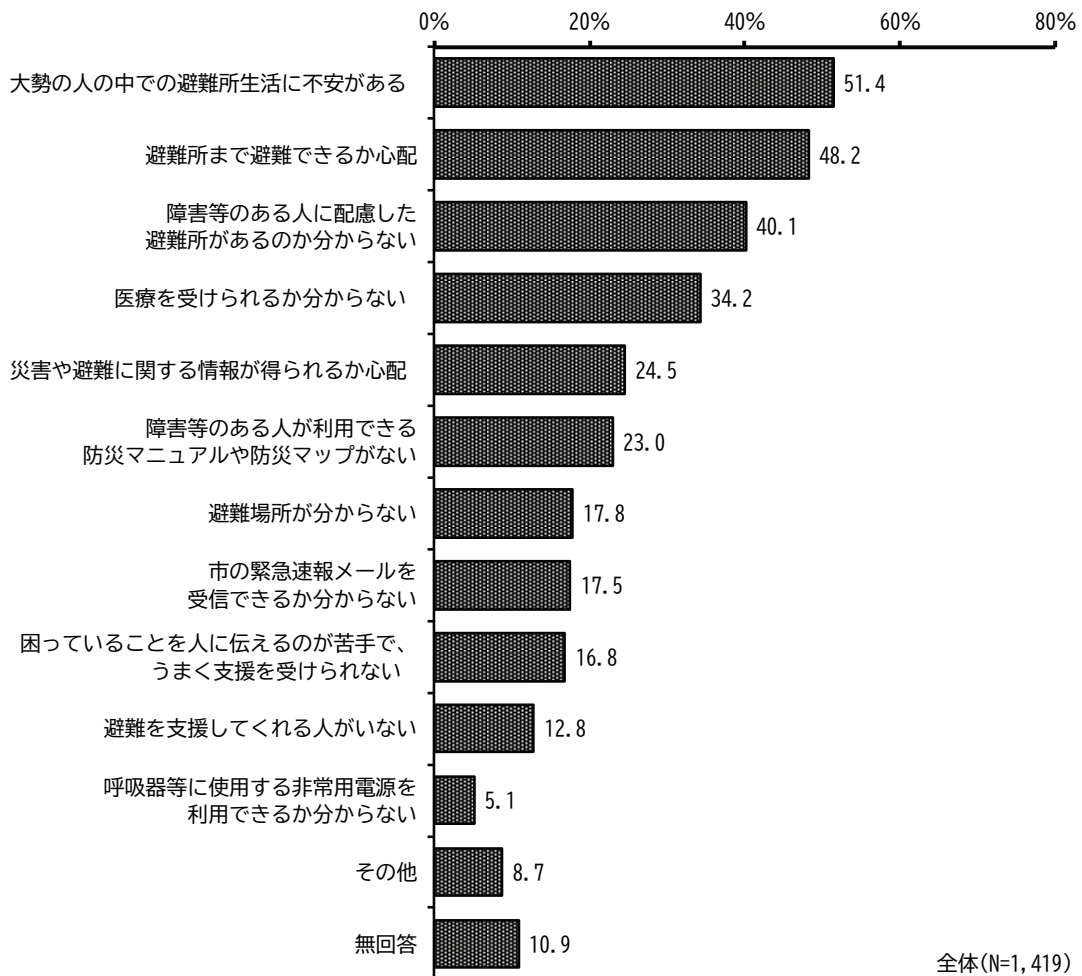
図表 地震や災害時に避難を助けてくれる人(障害等の種類別：複数回答)



問19 あなたが災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(51.4%)が最も多く、「避難所まで避難できるか心配」(48.2%)、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(40.1%)が続いている。

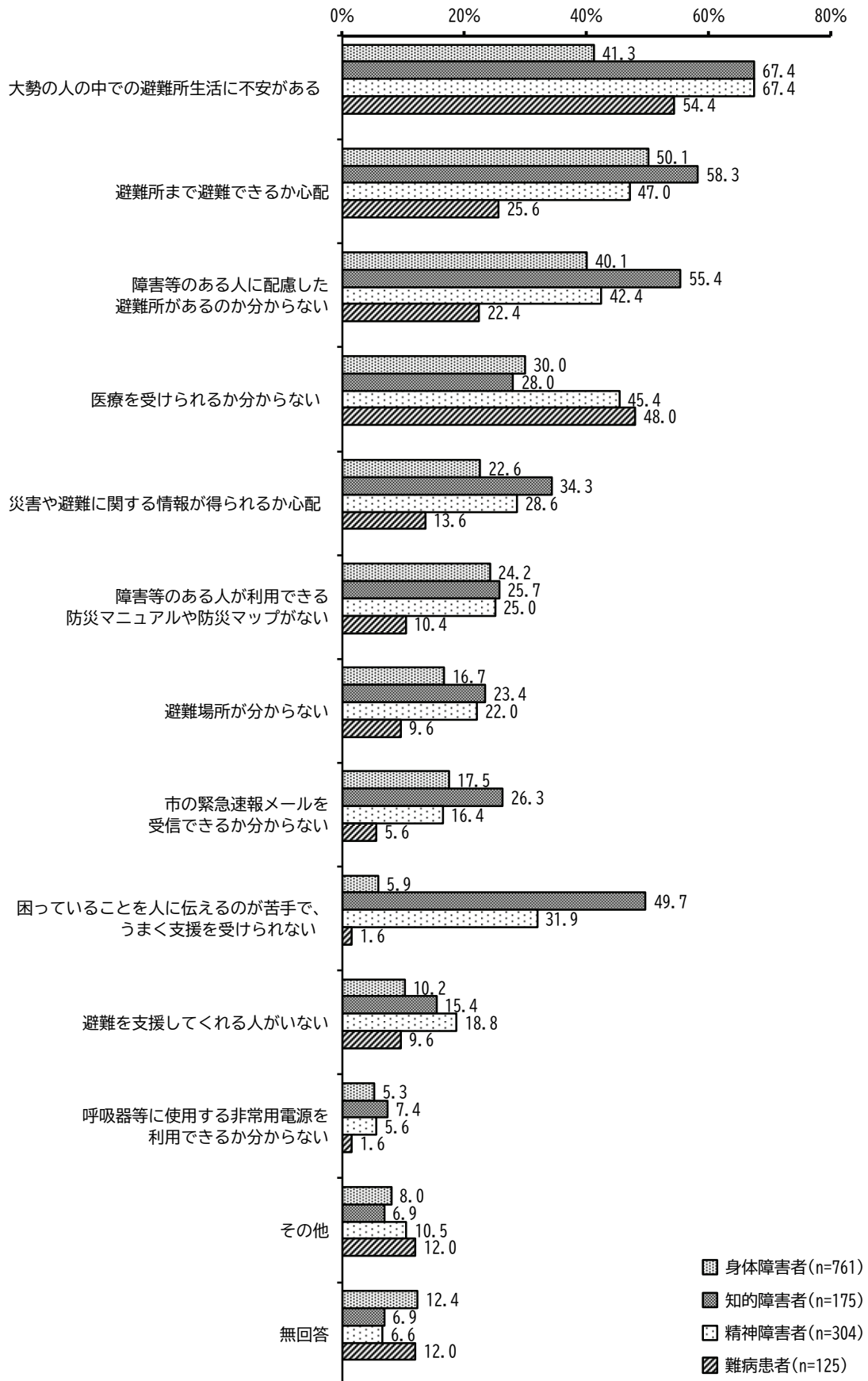
図表 災害時の不安や心配ごと (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「避難所まで避難できるか心配」(50.1%)が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者、難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：67.4%、精神：67.4%、難病：54.4%)が最も多い。
- ・知的障害者は「避難所まで避難できるか心配」(58.3%)、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(55.4%)が5割を超えている。「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない」(49.7%)も5割弱となっている。また、「災害や避難に関する情報が得られるか心配」(34.3%)は全体より9.8ポイント、「市の緊急速報メールを受信できるか分からない」(26.3%)は全体より8.8ポイント高い。
- ・精神障害者、難病患者は「医療を受けられるか分からない」(精神：45.4%、難病：48.0%)が4割を超えている。

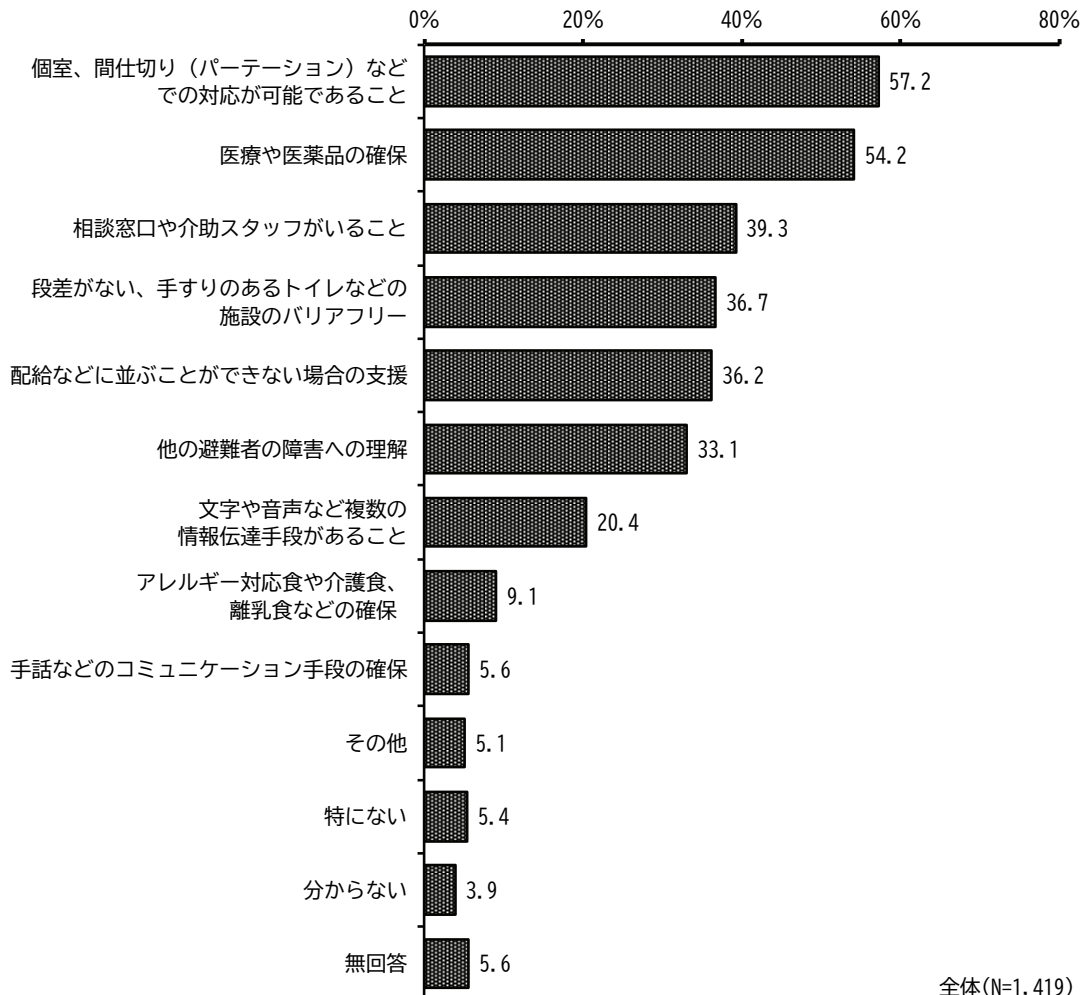
図表 災害時の不安や心配ごと(障害等の種類別：複数回答)



問20 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(57.2%)が最も多く、次いで「医療や医薬品の確保」(54.2%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(39.3%)が続いている。

図表 避難場所で希望する配慮 (全体：複数回答)

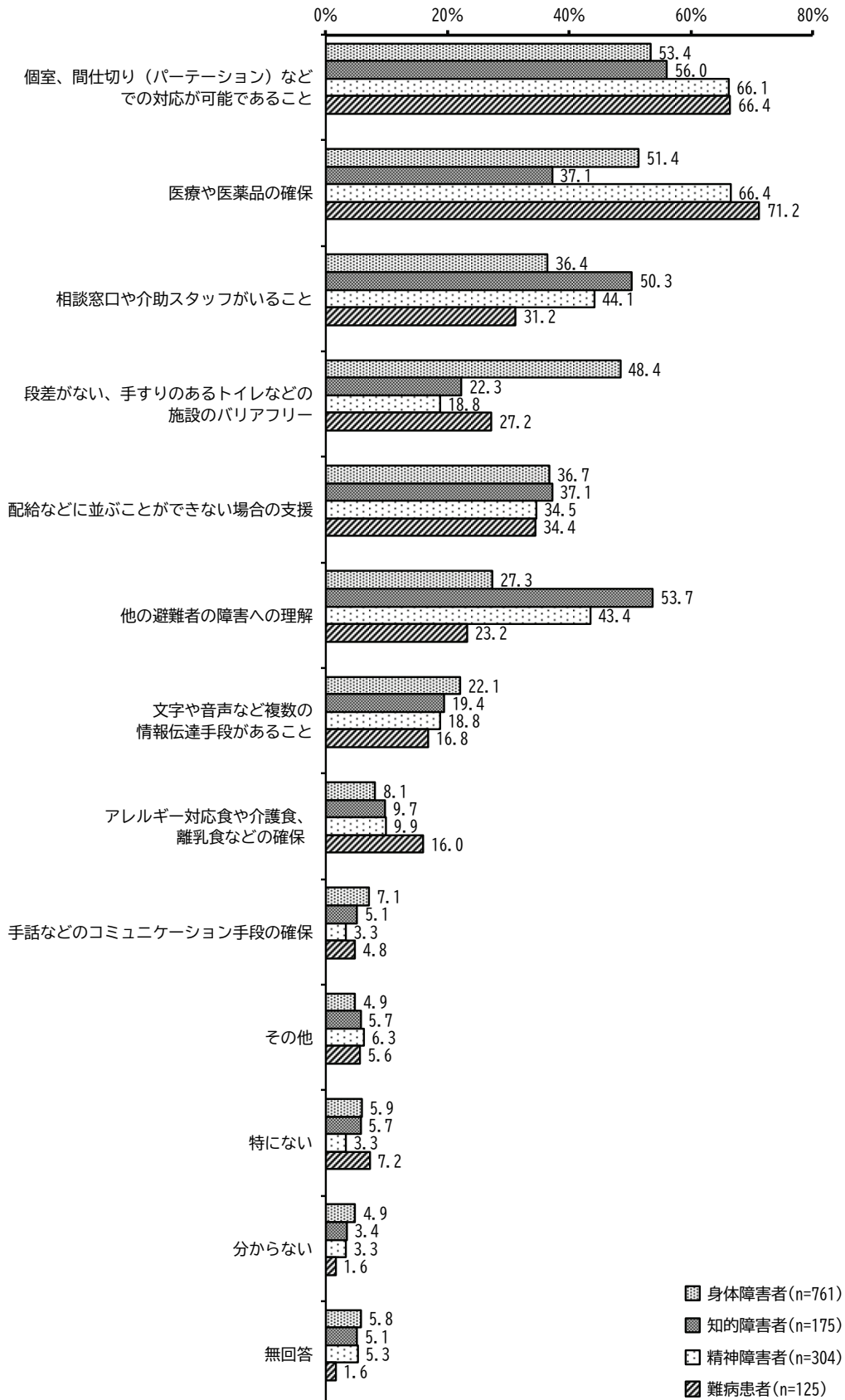


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(53.4%)が最も多く、次いで「医療や医薬品の確保」(51.4%)、「段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー」(48.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(56.0%)が最も多く、次いで「他の避難者の障害への理解」(53.7%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(50.3%)が続いている。
- ・精神障害者は「医療や医薬品の確保」(66.4%)が最も多く、次いで「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(66.1%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(44.1%)が続いている。

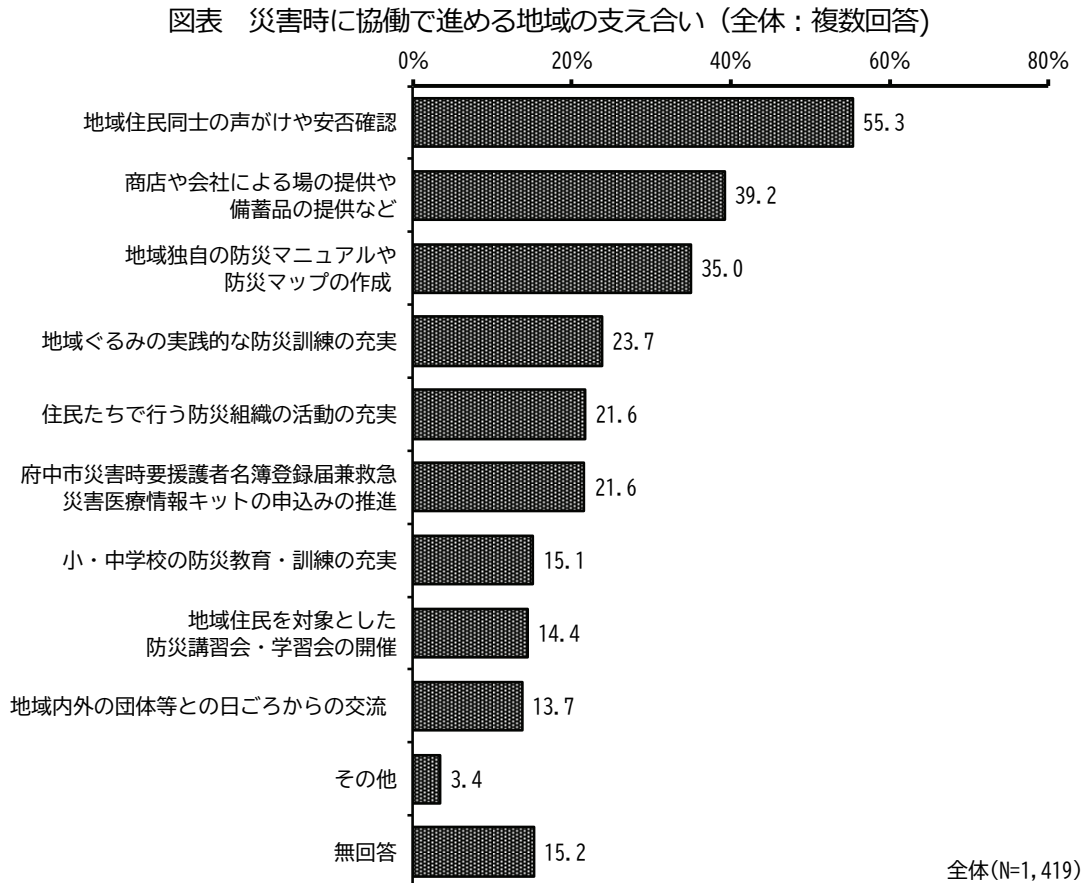
- ・ 難病患者は「医療や医薬品の確保」(71.2%)が最も多く、次いで「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(66.4%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(34.4%)、が続いている。

図表 避難場所で希望する配慮(障害等の種類別：複数回答)



問 21 あなたが、災害に備えて市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも○)

- ・「地域住民同士の声かけや安否確認」(55.3%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(39.2%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(35.0%)が続いている。

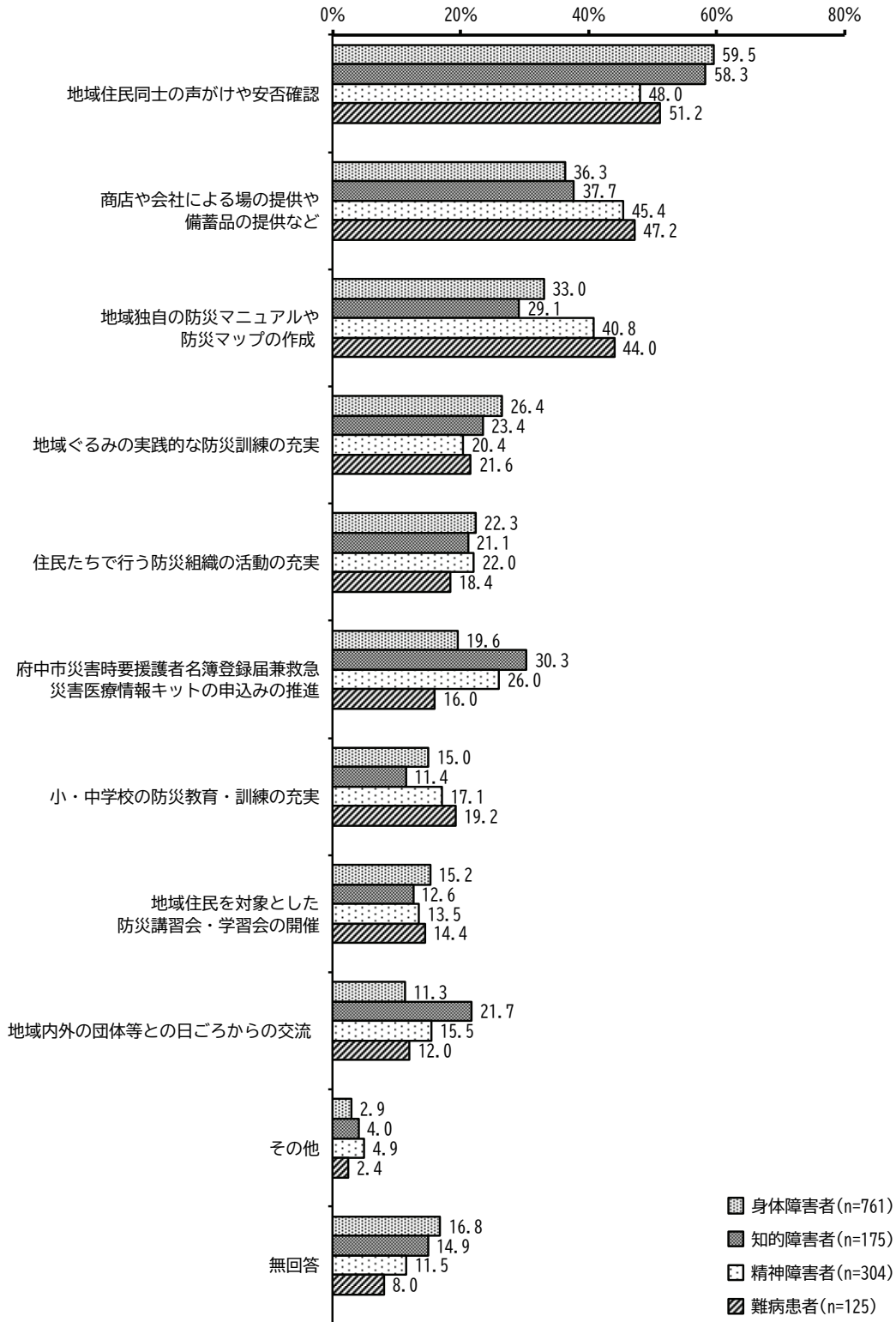


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(59.5%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(36.3%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(33.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(58.3%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(37.7%)、「府中市災害時要援護者名簿登録届兼救急災害医療情報キットの申込みの推進」(30.3%)が続いている。
- ・精神障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(48.0%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(45.4%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(40.8%)が続いている。

- ・ 難病患者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(51.2%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(47.2%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(44.0%)が続いている。

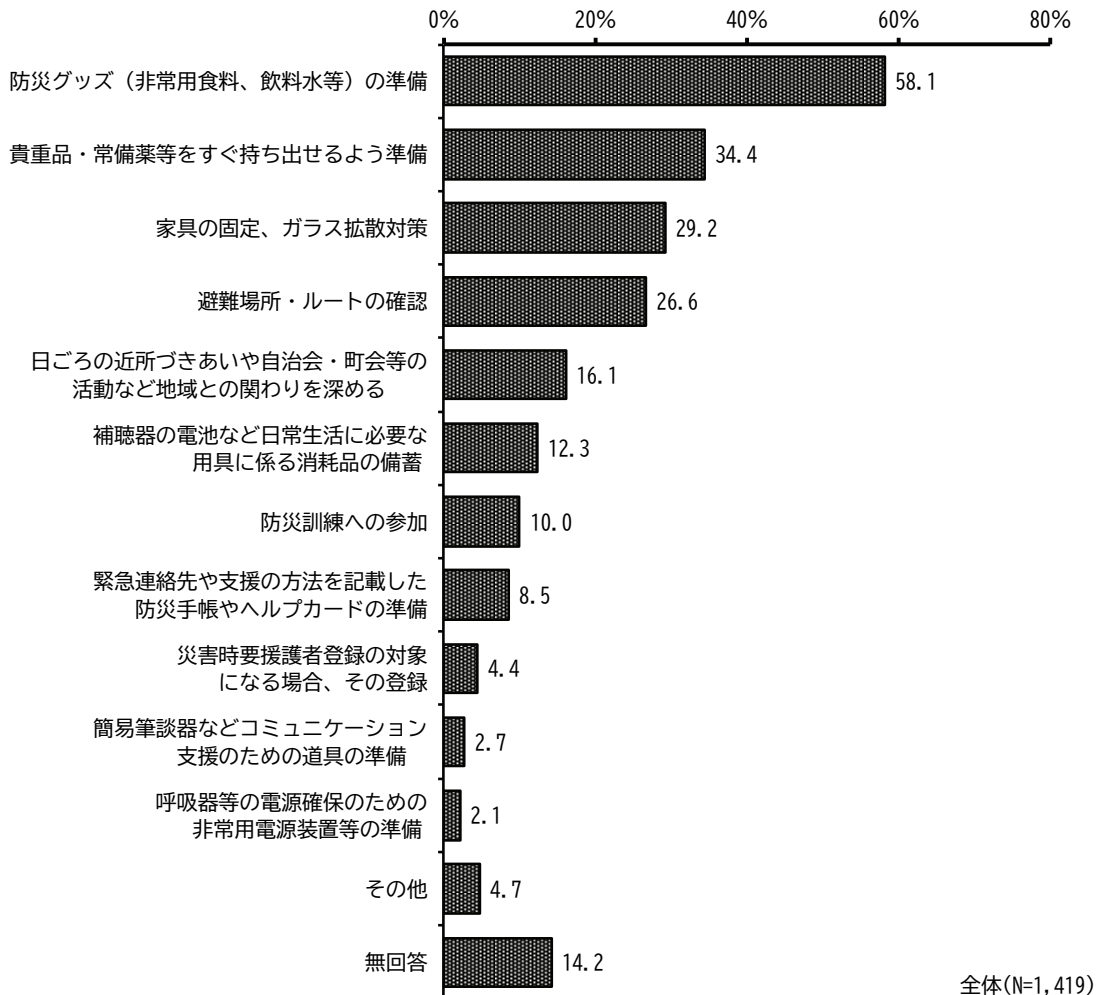
図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(障害等の種類別：複数回答)



問22 あなたが災害対策としてふだんから行っていることは何ですか。(いくつでも○)

- ・「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(58.1%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(34.4%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(29.2%)が続いている。

図表 災害対策としてふだんから行っていること (全体：複数回答)

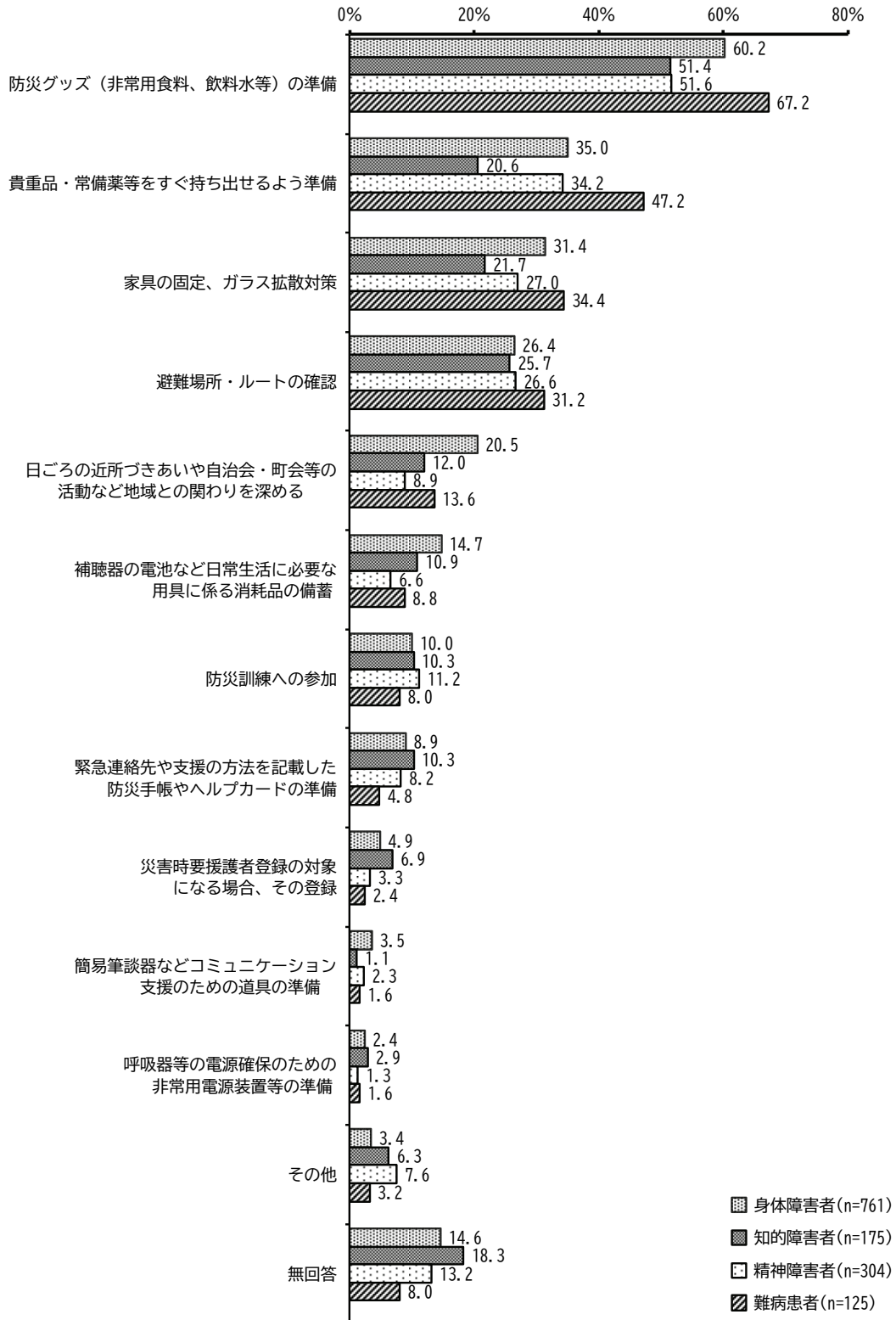


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(60.2%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(35.0%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(31.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(51.4%)が最も多く、次いで「避難場所・ルートの確認」(25.7%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(21.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(51.6%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(34.2%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(27.0%)が続いている。

- ・ 難病患者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(67.2%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(47.2%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(34.4%)が続いている。

図表 災害対策としてふだんから行っていること(障害等の種類別：複数回答)



(9) 医療について

問23 あなたは、入院したことがありますか。(1つに○)

- ・「ある」は77.2%である。

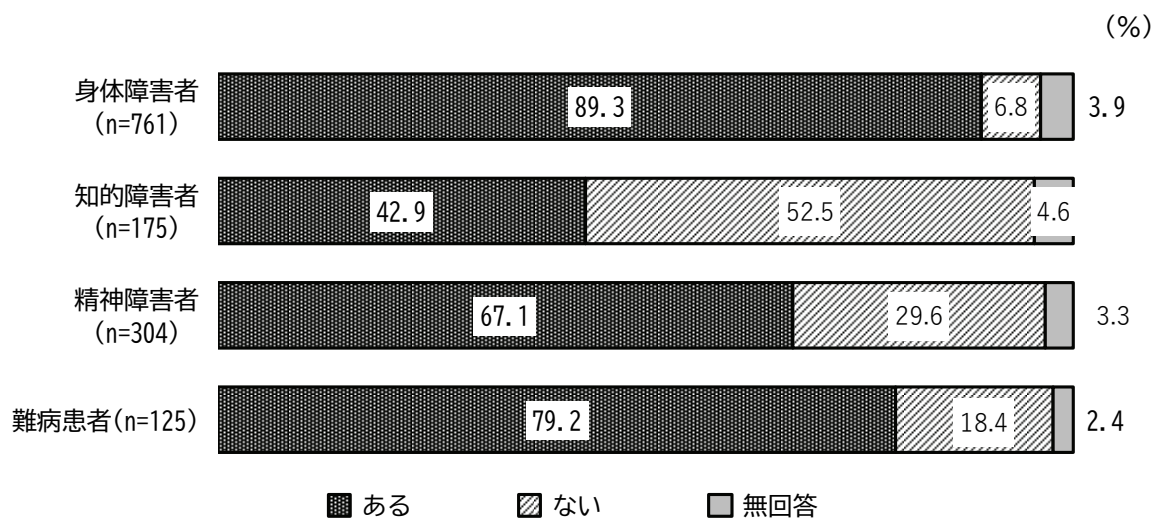
図表 入院経験の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ある」が89.3%で、全体より12.1ポイント高い。

図表 入院経験の有無(障害等の種類別)

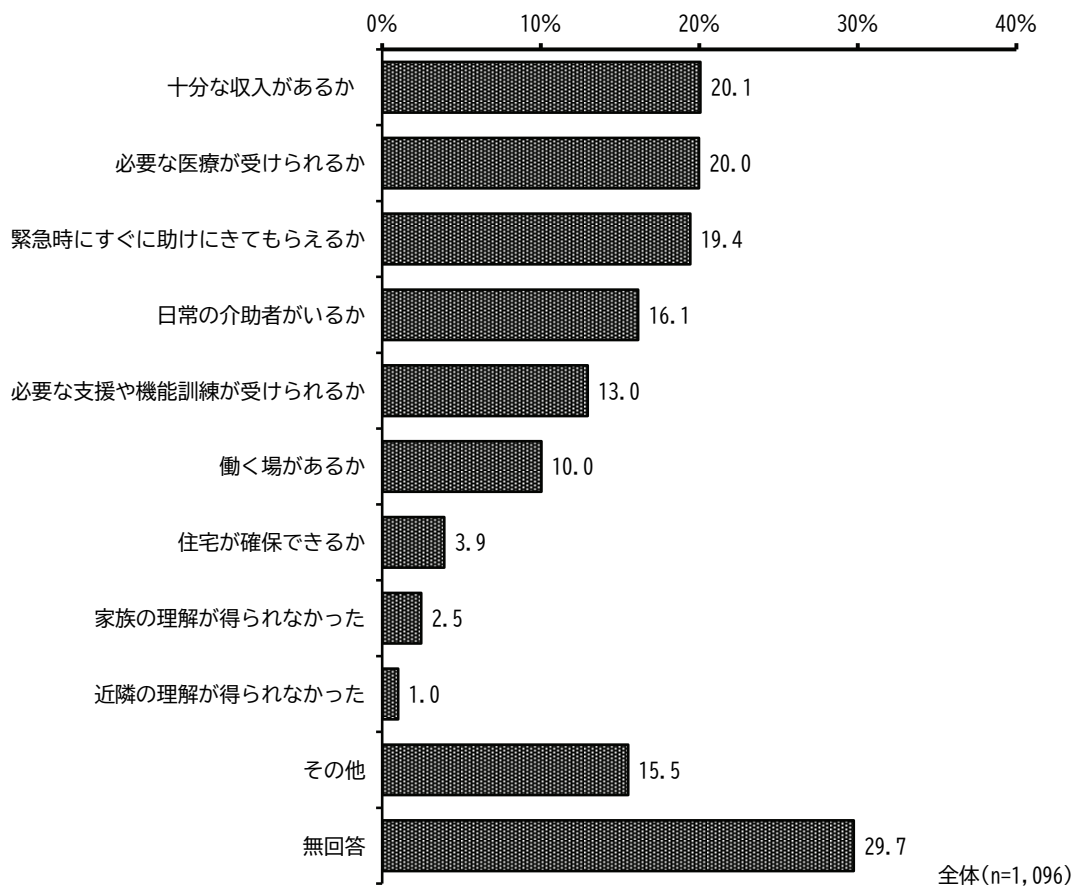


問23-1 問23で「1.ある」と答えた方におたずねします。

退院するにあたり困ったことはありましたか。(いくつでも○)

- ・「十分な収入があるか」(20.1%)が最も多く、「必要な医療が受けられるか」(20.0%)、「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(19.4%)が続いている。

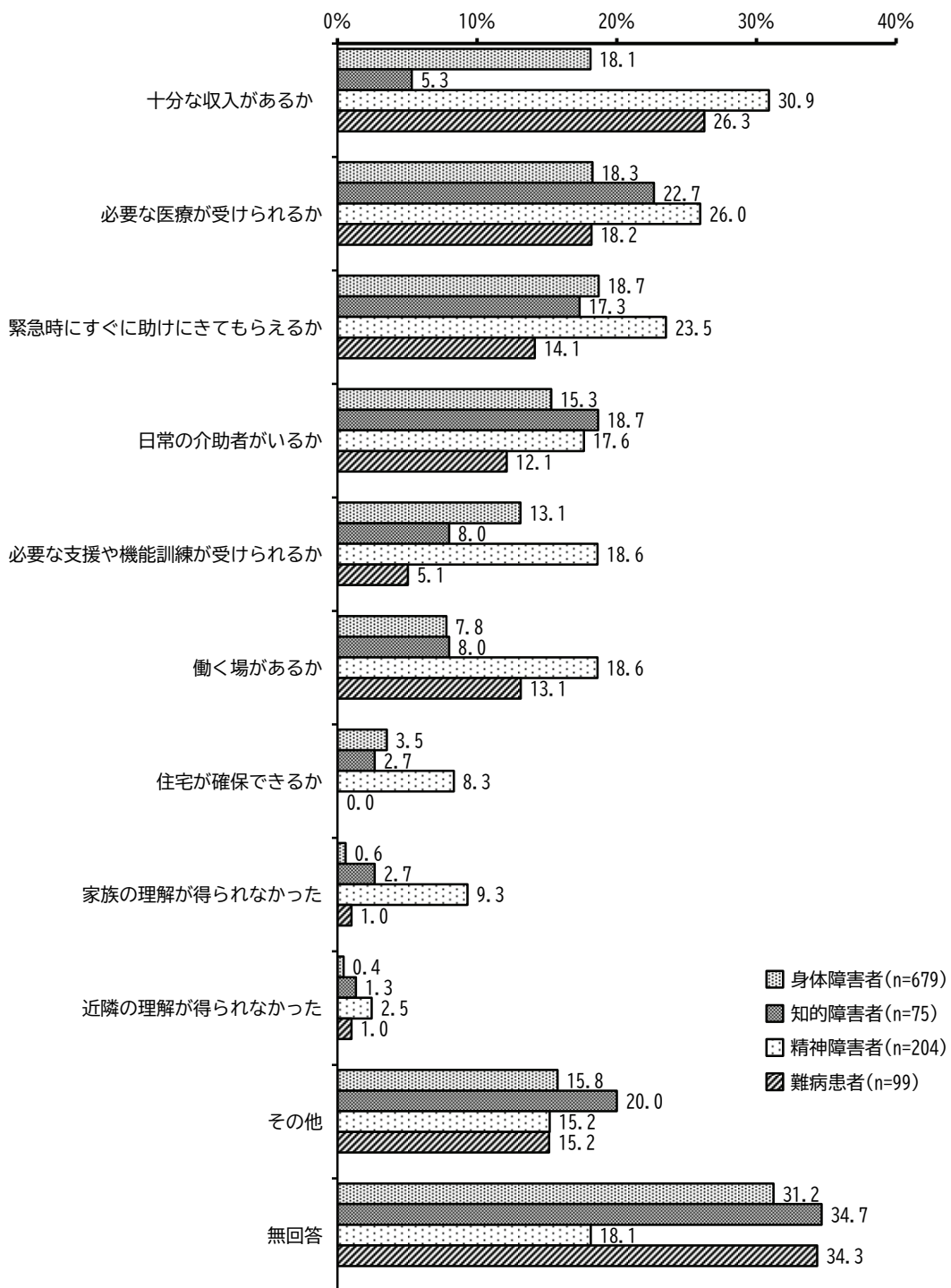
図表 退院するにあたっての困りごと (全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(18.7%)が最も多く、「必要な医療が受けられるか」(18.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「必要な医療が受けられるか」(22.7%)が最も多く、「日常の介助者がいるか」(18.7%)が続いている。
- ・精神障害者と難病患者は「十分な収入があるか」(精神：30.9%、難病：26.3%)が最も多く、「必要な医療が受けられるか」(精神：26.0%、難病：18.2%)が続いている。

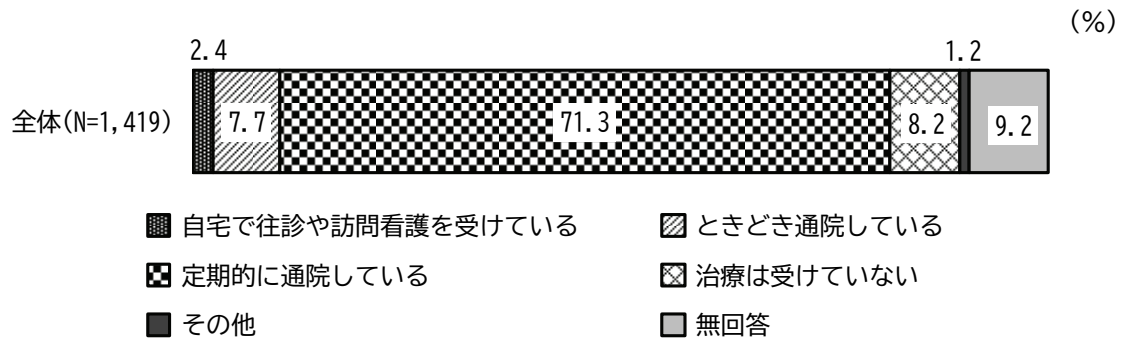
図表 退院するにあたっての困りごと(障害等の種類別:複数回答)



問24 あなたは、現在、通院して医師の治療を受けていますか。(1つに○)

- ・「定期的に通院している」(71.3%)が7割を超えている。

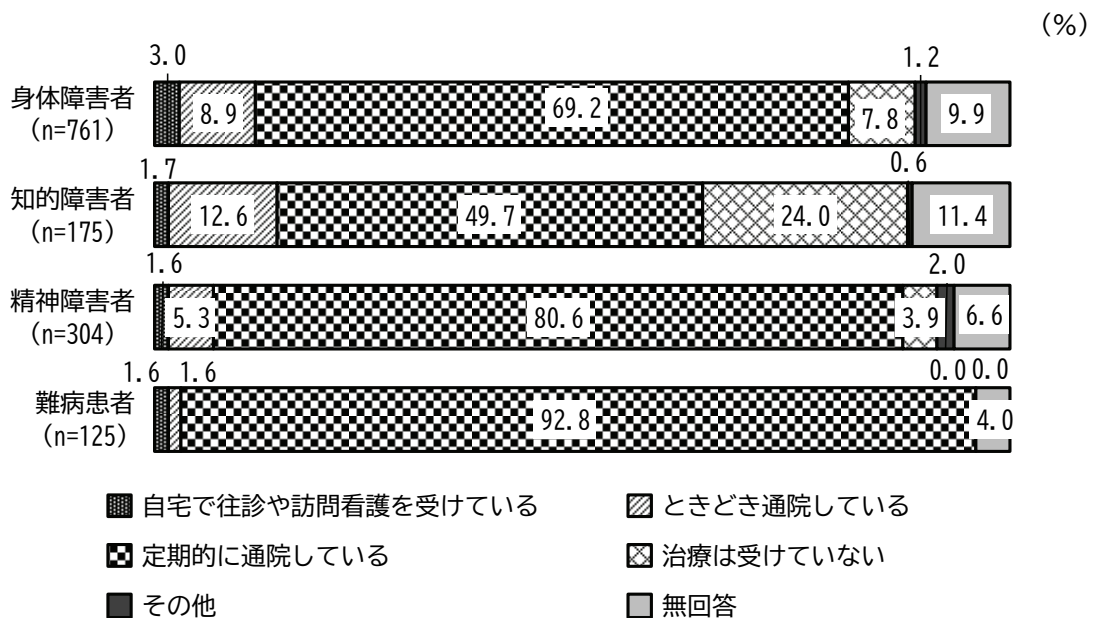
図表 現在受けている医療(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「定期的に通院している」(身体:69.2%、知的:49.7%、精神:80.6%、難病:92.8%)が最も多い。全体と比べて、精神障害者は9.3ポイント、難病患者は21.5ポイント高い。

図表 現在受けている医療(障害等の種類別)

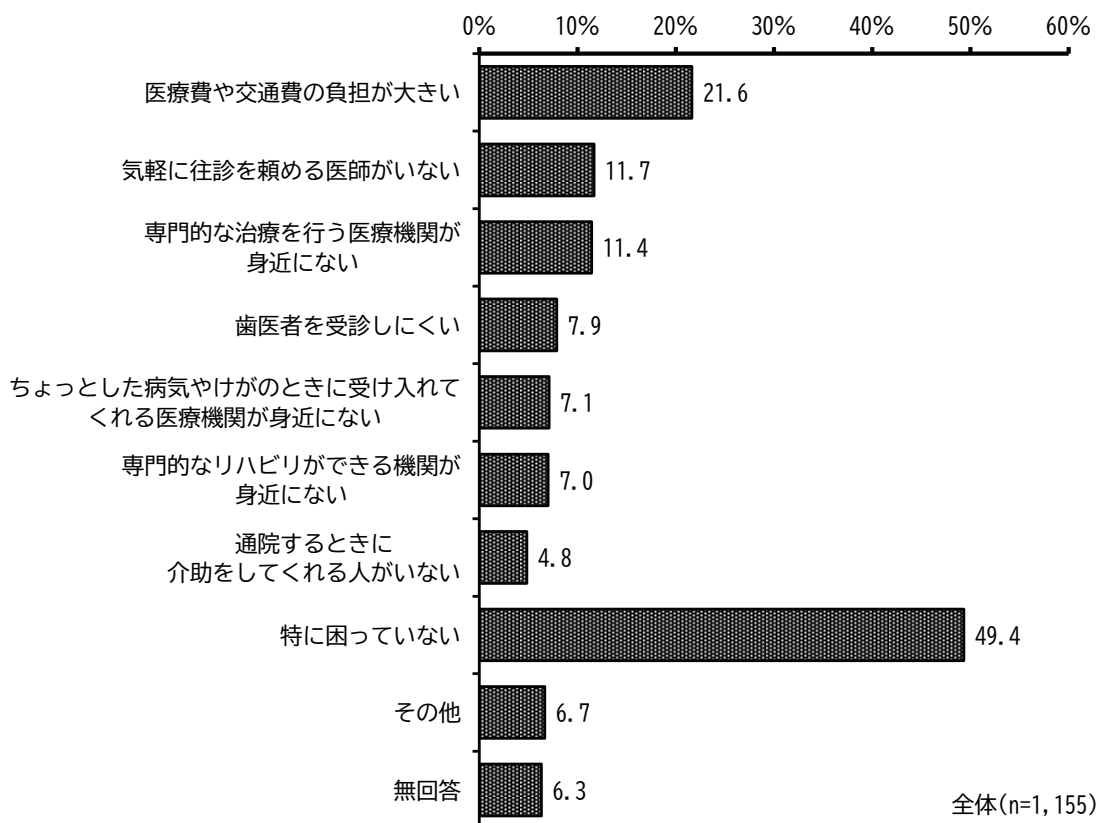


問24-1 問24で「1」、「2」、「3」と答えた方におたずねします。

通院などでお困りのことはありますか。(いくつでも○)

- ・ 困りごとの理由の中では、「医療費や交通費の負担が大きい」(21.6%)が最も多く、次いで「気軽に往診を頼める医師がいない」(11.7%)、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」(11.4%)が続いている。「特に困っていない」は49.4%である。

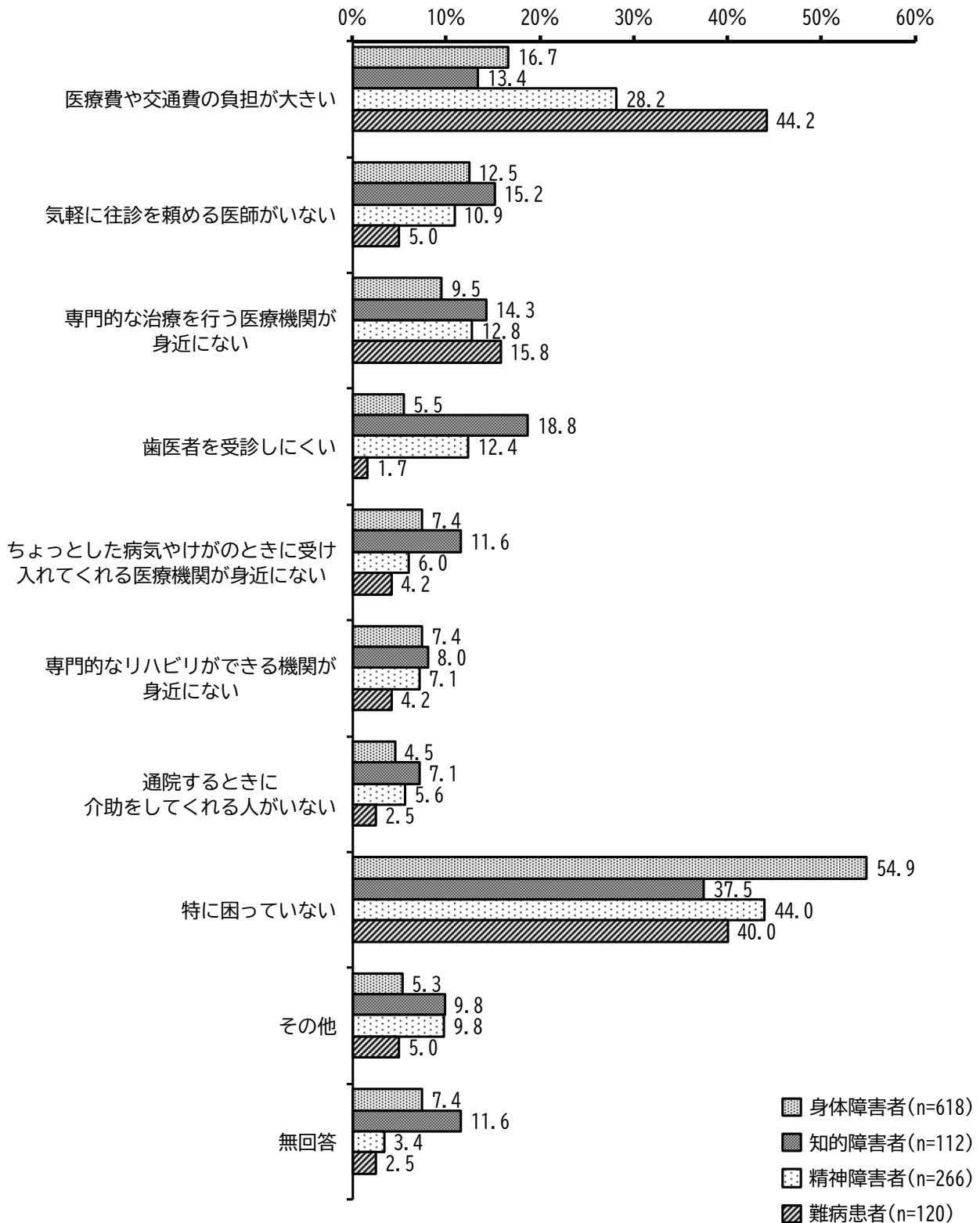
図表 通院などでの困りごと (全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は「医療費や交通費の負担が大きい」(身体:16.7%、精神:28.2%、難病:44.2%)が最も多い。
- ・知的障害者は「歯医者を受診しにくい」(18.8%)が最も多い。

図表 通院などでの困りごと(障害等の種類別:複数回答)



(10) 地域・共生社会について

問25 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(34.9%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(19.5%)、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」(12.4%)が続いている。

図表 近所づきあいの現状 (全体)

(%)



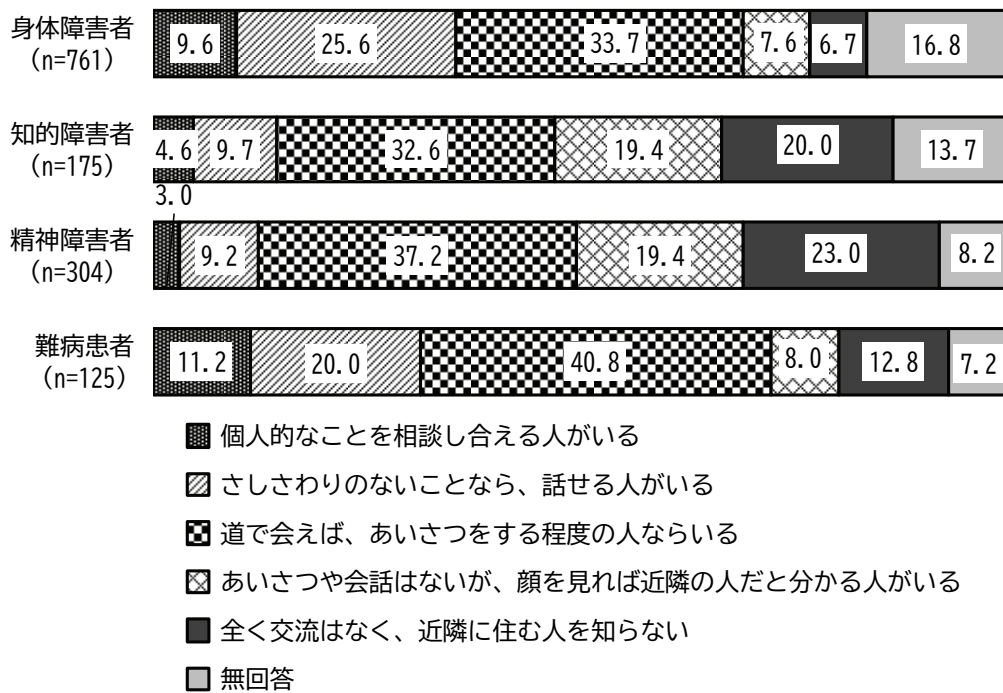
- 個人的なことを相談し合える人がいる
- さしさわりのないことなら、話せる人がいる
- 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる
- あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる
- 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない
- 無回答

【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」（身体：33.7%、知的：32.6%、精神：37.2%、難病：40.8%）が最も多い。
- ・身体障害者、難病患者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」（身体：25.6%、難病：20.0%）が2割台である。
- ・知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」（知的：20.0%、精神：23.0%）が2割台である。

図表 近所づきあいの現状（障害等の種類別）

(%)



【圏域別】

- ・ 武蔵台文化センター圏域、新町文化センター圏域は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(武蔵台：33.3%、新町：24.7%)は、全体よりそれぞれ13.8ポイント、5.2ポイント高い。
- ・ 白糸台文化センター圏域、紅葉丘文化センター圏域、押立文化センター圏域は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(白糸台：41.9%、紅葉丘：40.2%、押立：43.2%)が全体よりそれぞれ7.0ポイント、5.3ポイント、8.3ポイント高い。
- ・ 是政文化センター圏域は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」(18.3%)が全体より5.9ポイント高い。

図表 近所づきあいの現状(全体、圏域別)

			(%)					
			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はなくても、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
全体		(N=1,419)	7.6	19.5	34.9	11.6	12.4	14.0
圏域別	中央文化センター圏域	(n=231)	6.1	17.3	32.8	15.2	17.3	11.3
	白糸台文化センター圏域	(n=141)	10.6	14.9	41.9	11.3	9.2	12.1
	西府文化センター圏域	(n=88)	8.0	15.9	34.1	12.5	12.5	17.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=96)	5.2	33.3	34.4	7.3	6.3	13.5
	新町文化センター圏域	(n=162)	11.1	24.7	32.2	11.7	8.0	12.3
	住吉文化センター圏域	(n=152)	7.9	23.0	29.0	9.9	13.8	16.4
	是政文化センター圏域	(n=120)	5.0	20.0	34.2	11.7	18.3	10.8
	紅葉丘文化センター圏域	(n=107)	10.3	18.7	40.2	8.4	11.2	11.2
	押立文化センター圏域	(n=58)	8.6	13.8	43.2	10.3	6.9	17.2
	四谷文化センター圏域	(n=66)	10.6	19.7	36.3	7.6	10.6	15.2
	片町文化センター圏域	(n=124)	5.6	16.9	39.6	12.9	12.1	12.9

問 26 これからは、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。

①あなたは地域で次のようなことを頼みたいと思いますか。【地域で頼みたいこと】

②また、地域で次のようなことを頼まれたらできますか。【地域で頼まれたらできること】

(1)～(8)について、①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

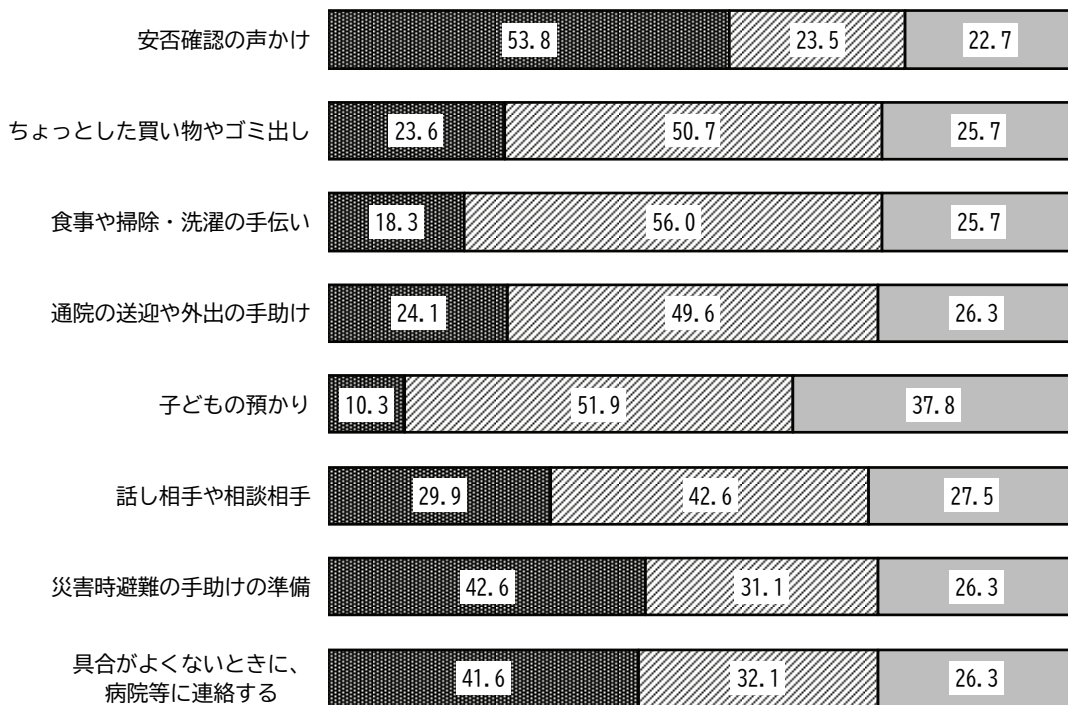
◎地域で頼みたいこと(問 26①)

- ・『安否確認の声かけ』(53.8%)が最も多く、次いで『災害時避難の手助けの準備』(42.6%)、『具合がよくないときに、病院等に連絡する』(41.6%)が続いている。

図表 地域で頼みたいこと (全体)

全体(N=1,419)

(%)



■ 頼みたい・頼みたいと思ったことがある ▨ 頼みたくない □ 無回答

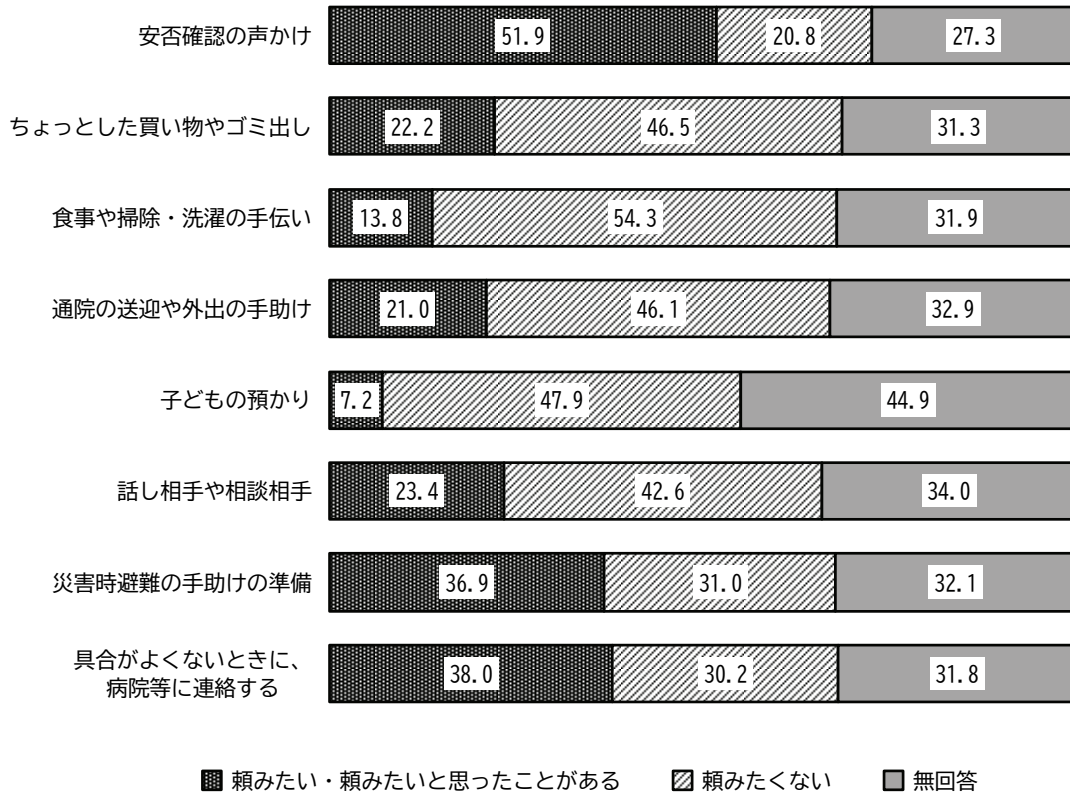
【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも『安否確認の声かけ』(身体：51.9%、知的：59.4%、精神：55.6%、難病：58.4%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者と難病患者は『具合がよくないときに、病院等に連絡する』(身体：38.0%、難病：44.0%)、知的障害者と精神障害者は『災害時避難の手助けの準備』(知的：54.3%、精神：52.6%)となっている。

図表 地域で頼みたいこと（障害等の種類別）

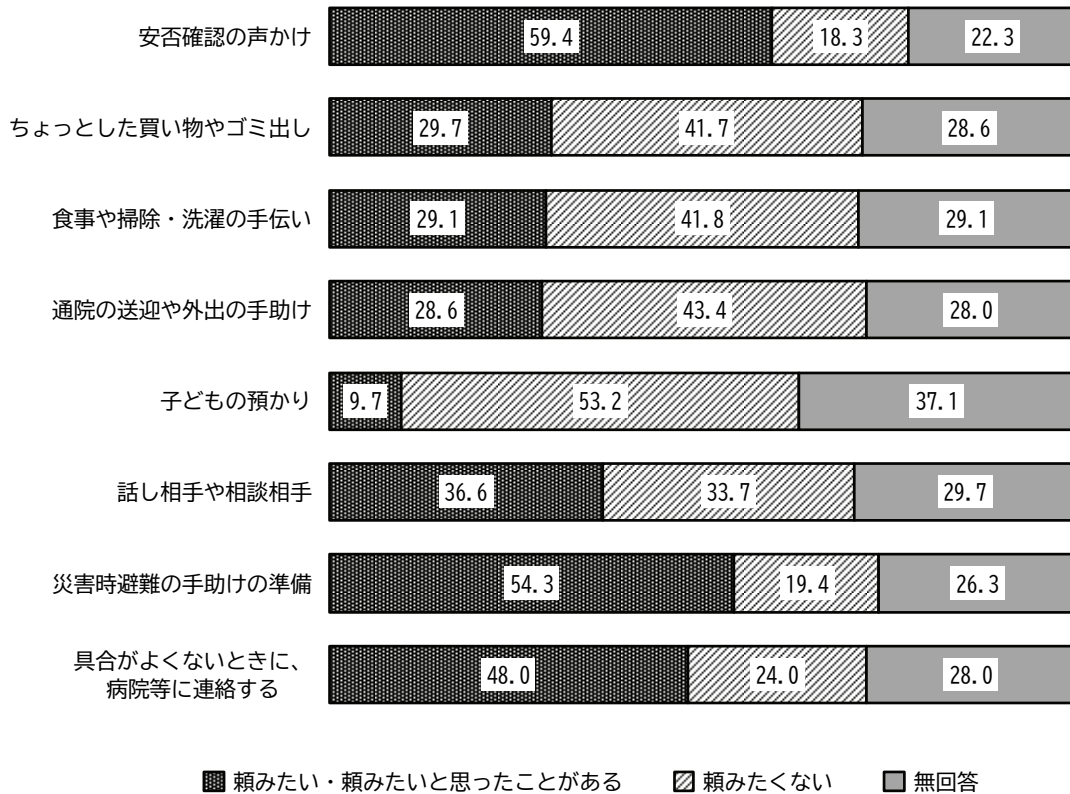
身体障害者(n=761)

(%)



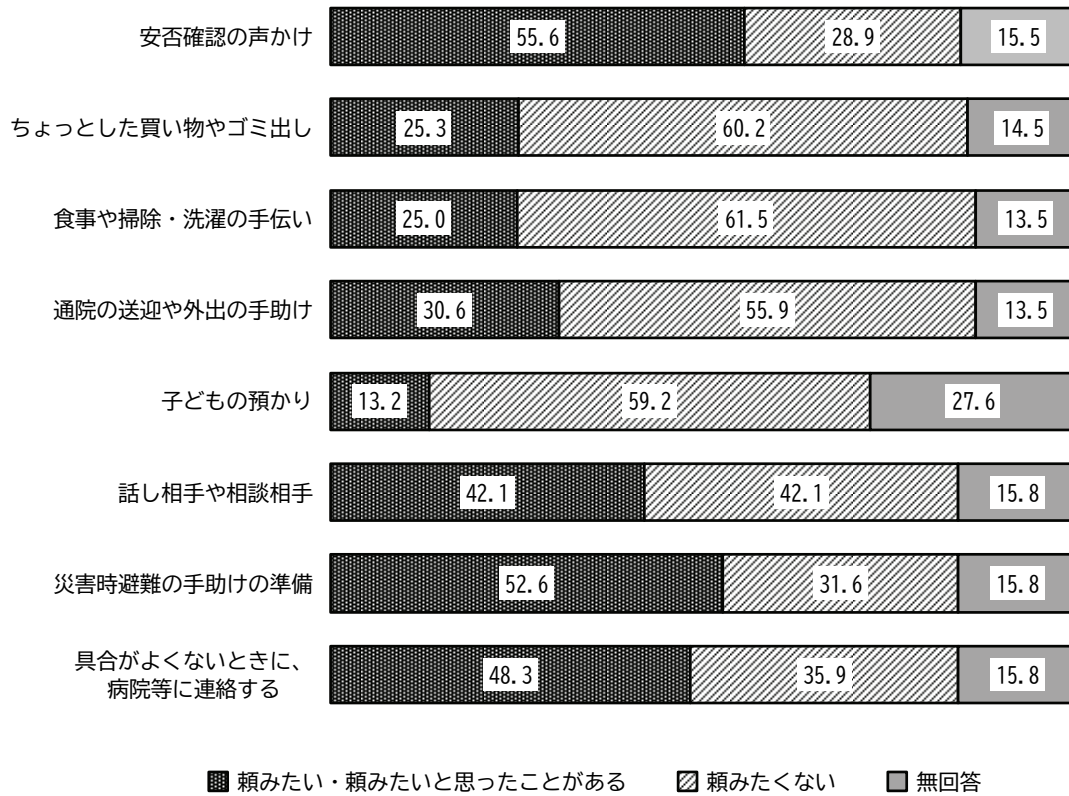
知的障害者(n=175)

(%)



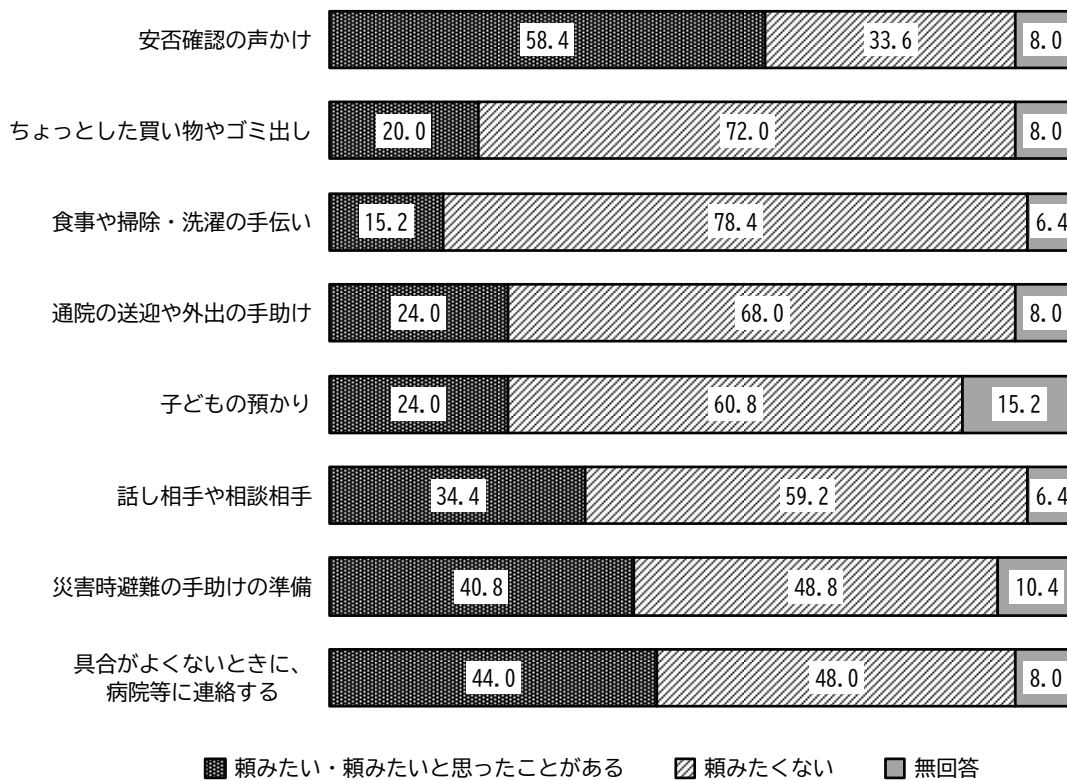
精神障害者(n=304)

(%)



難病患者(n=125)

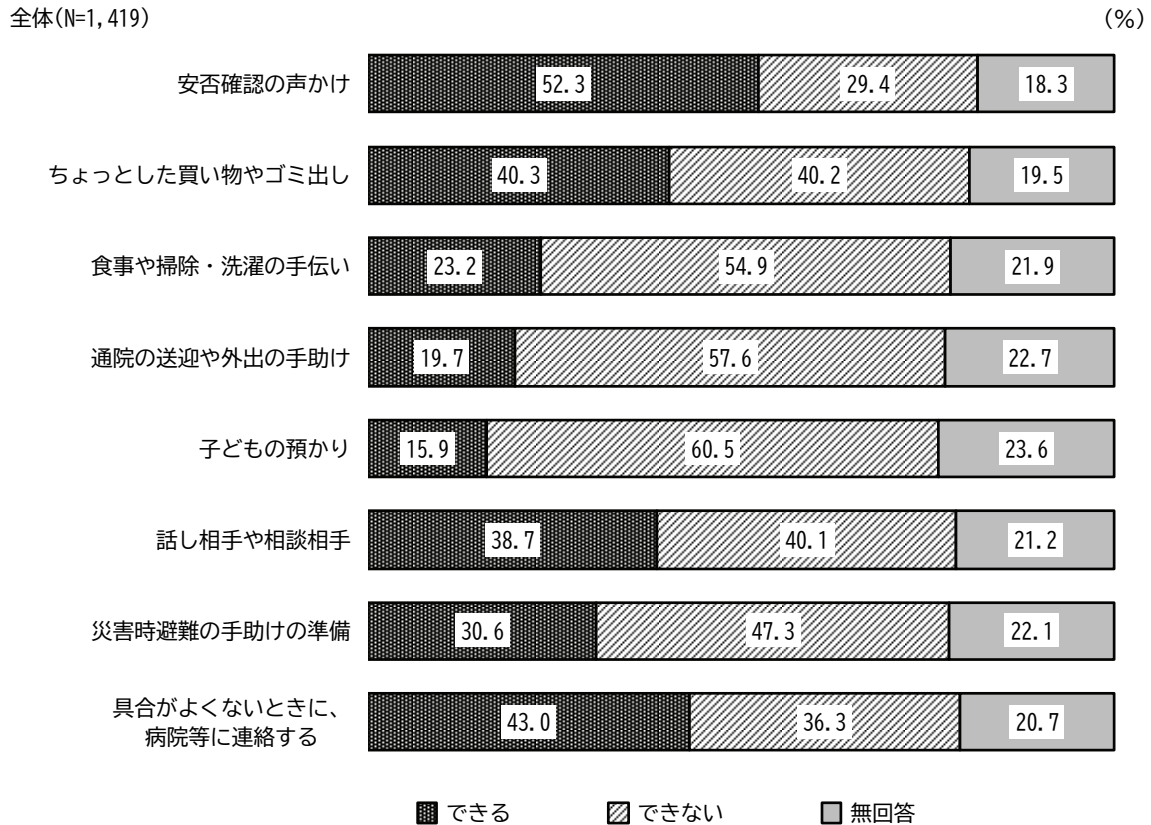
(%)



◎頼まれたらできること(問 26②)

- ・『安否確認の声かけ』(52.3%)が最も多く、次いで『具合がよくないときに、病院等に連絡する』(43.0%)、『ちょっとした買い物やゴミ出し』(40.3%)が続いている。

図表 頼まれたらできること (全体)



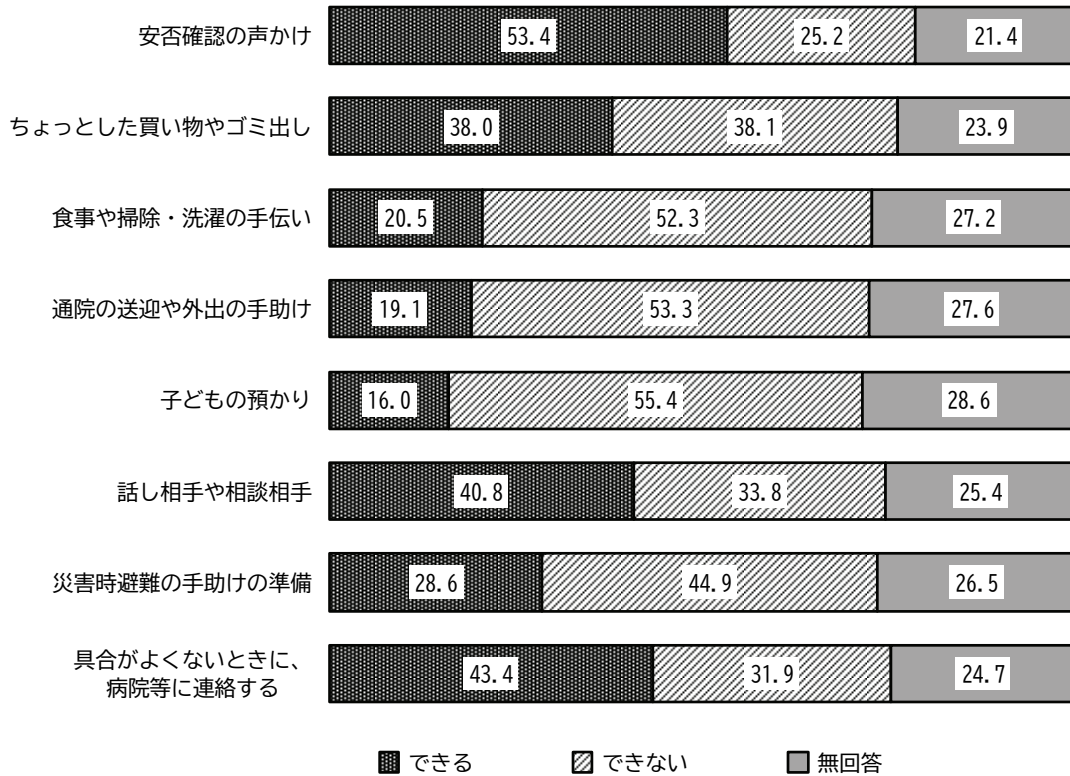
【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は『安否確認の声かけ』(身体：53.4%、精神：51.3%、難病：81.6%)が最も多い。知的障害者は『ちょっとした買い物やゴミ出し』(34.3%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者、精神障害者、難病患者は『具合がよくないときに、病院等に連絡する』(身体：43.4%、精神：47.7%、難病：72.0%)、知的障害者は『安否確認の声かけ』(30.3%)となっている。

図表 頼まれたらできること（障害等の種類別）

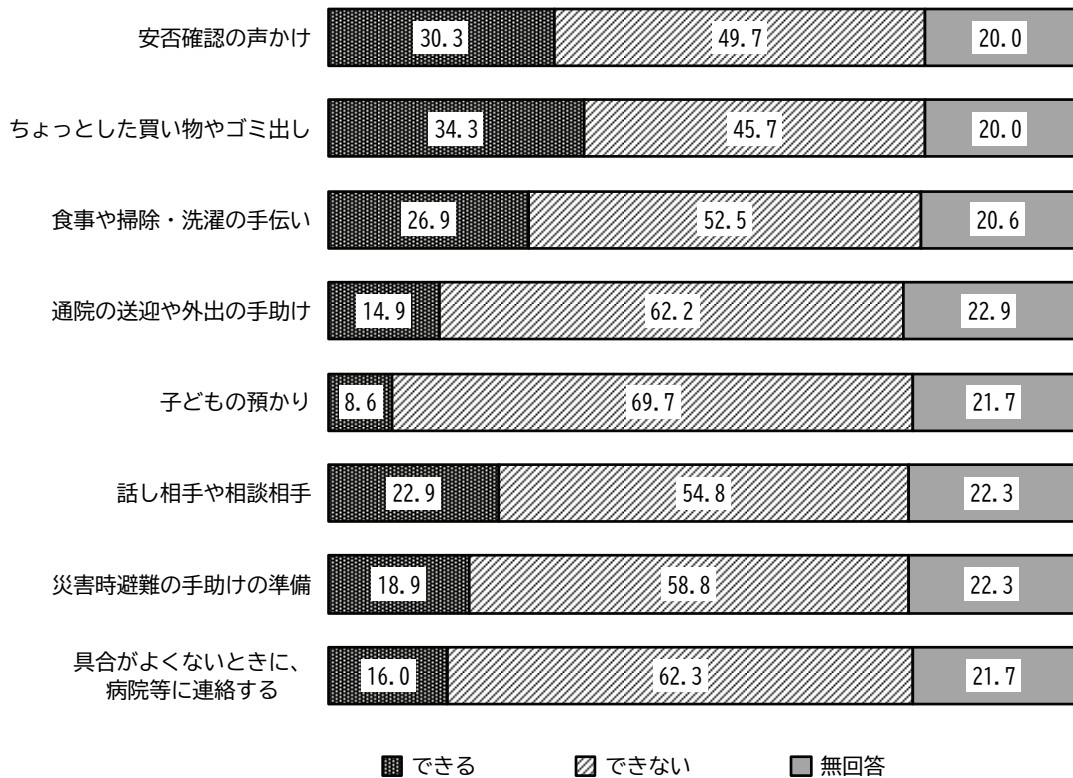
身体障害者(n=761)

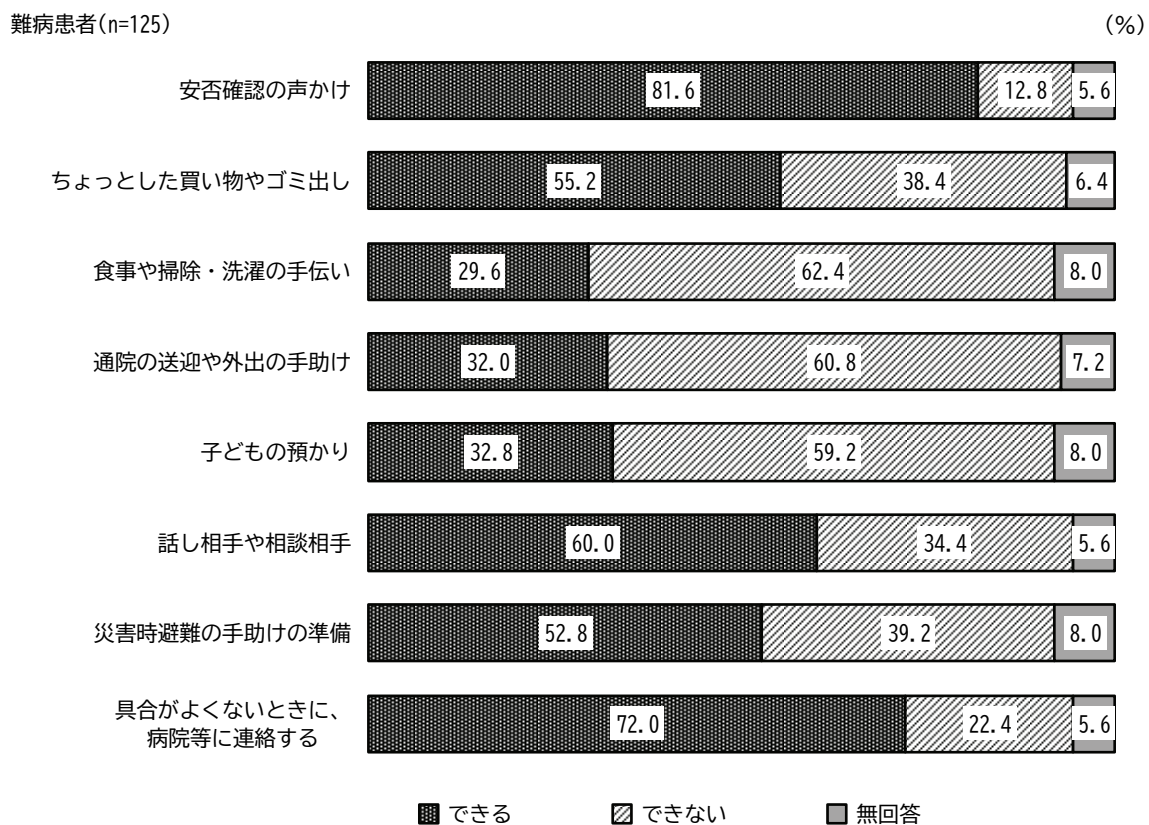
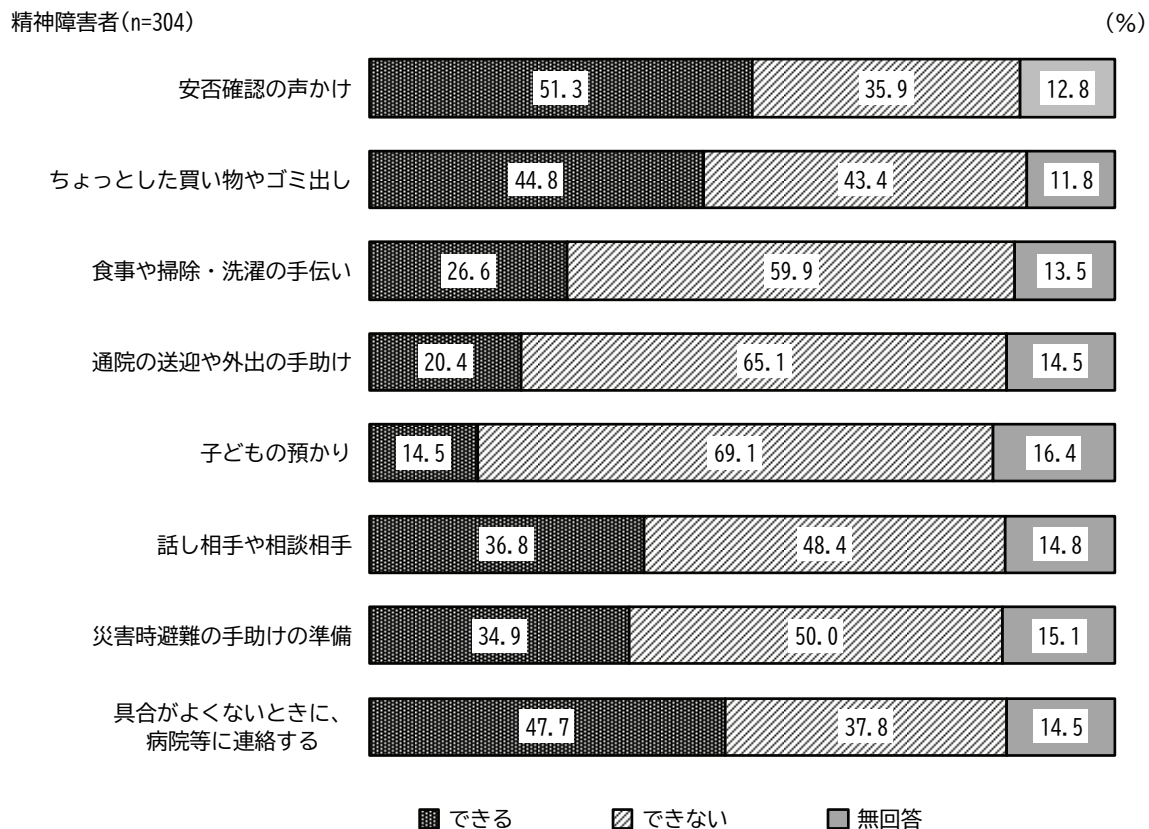
(%)



知的障害者(n=175)

(%)



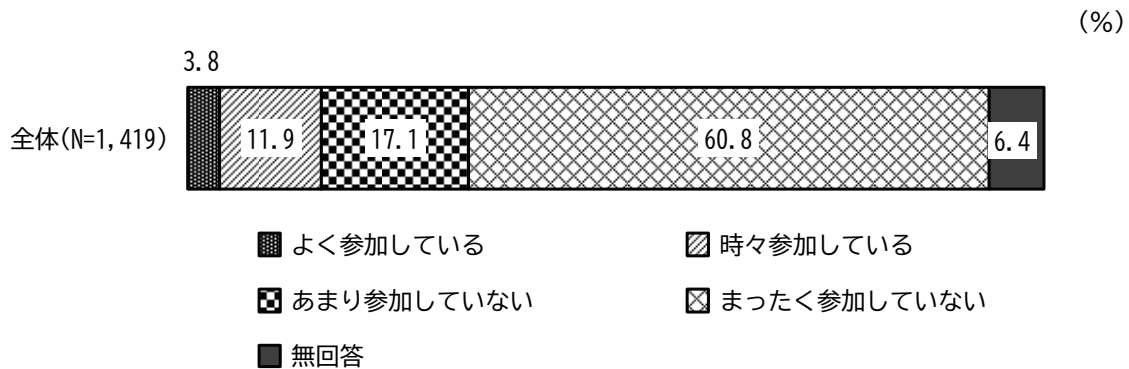


問27 あなたは、地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事にどの程度参加していますか。

(1つに○)

- ・「よく参加している」(3.8%)と「時々参加している」(11.9%)をあわせた<参加している>は15.7%である。「あまり参加していない」(17.1%)と「まったく参加していない」(60.8%)をあわせた<参加していない>は77.9%である。

図表 地域活動への参加程度 (全体)



【圏域別】

- ・西府文化センター圏域と押立文化センター圏域は、「時々参加している」(西府:19.3%、押立:17.2%)が全体より5ポイント以上高い。
- ・押立文化センター圏域と四谷文化センター圏域は、「あまり参加していない」(押立:24.1%、四谷:25.8%)が全体より5ポイント以上高い。

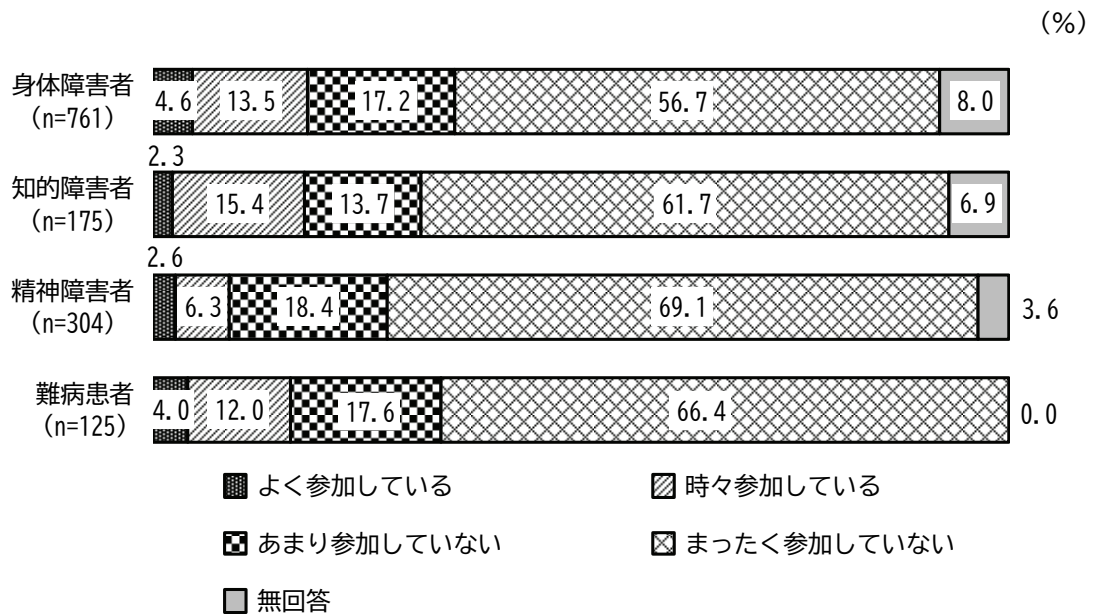
図表 地域活動への参加程度 (圏域別)

			(%)				
			よく参加している	時々参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答
全体		(N=1,419)	3.8	11.9	17.1	60.8	6.4
圏域別	中央文化センター圏域	(n=231)	4.3	12.1	19.5	59.8	4.3
	白糸台文化センター圏域	(n=141)	3.5	10.6	17.0	63.2	5.7
	西府文化センター圏域	(n=88)	4.5	19.3	13.6	60.3	2.3
	武蔵台文化センター圏域	(n=96)	5.2	7.3	16.7	64.5	6.3
	新町文化センター圏域	(n=162)	6.8	11.1	19.1	58.1	4.9
	住吉文化センター圏域	(n=152)	2.6	13.2	11.8	63.2	9.2
	是政文化センター圏域	(n=120)	1.7	9.2	17.5	64.1	7.5
	紅葉丘文化センター圏域	(n=107)	2.8	14.0	16.8	61.7	4.7
	押立文化センター圏域	(n=58)	1.7	17.2	24.1	51.8	5.2
	四谷文化センター圏域	(n=66)	1.5	12.1	25.8	56.1	4.5
	片町文化センター圏域	(n=124)	3.2	13.7	17.7	59.8	5.6

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「よく参加している」(4.6%)と「時々参加している」(13.5%)をあわせて「参加している」は18.1%である。「あまり参加していない」(17.2%)と「まったく参加していない」(56.7%)をあわせて「参加していない」は73.9%である。
- ・知的障害者は「よく参加している」(2.3%)と「時々参加している」(15.4%)をあわせて「参加している」は17.7%である。「あまり参加していない」(13.7%)と「まったく参加していない」(61.7%)をあわせて「参加していない」は75.4%である。
- ・精神障害者は「よく参加している」(2.6%)と「時々参加している」(6.3%)をあわせて「参加している」は8.9%である。「あまり参加していない」(18.4%)と「まったく参加していない」(69.1%)をあわせて「参加していない」は87.5%である。
- ・難病患者は「よく参加している」(4.0%)と「時々参加している」(12.0%)をあわせて「参加している」は16.0%である。「あまり参加していない」(17.6%)と「まったく参加していない」(66.4%)をあわせて「参加していない」は84.0%である。

図表 地域活動への参加程度 (障害等の種類別)

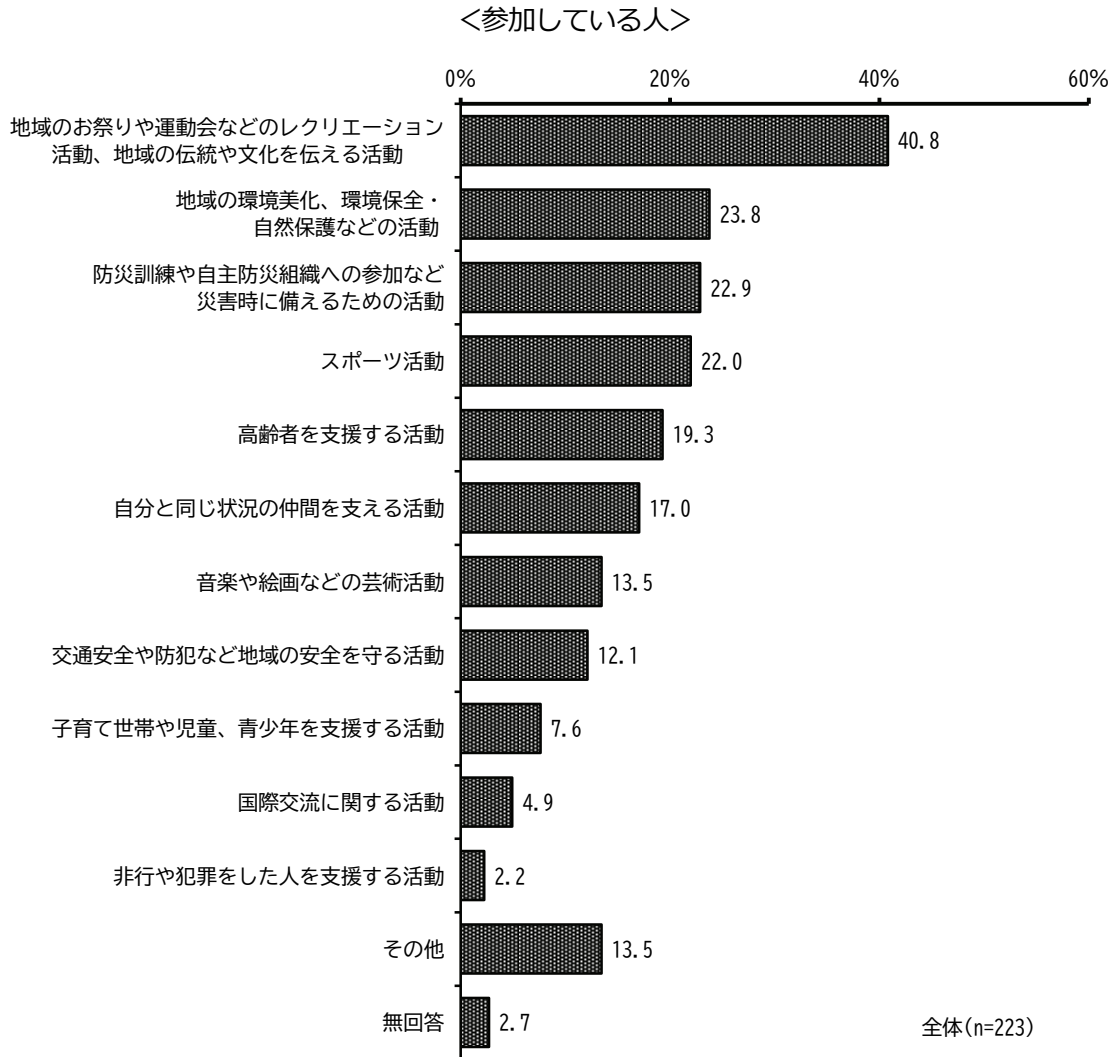


問 27-1 問 27 で「1」「2」と答えた方におたずねします。

どのような地域での活動やボランティアに参加していますか。(いくつでも○)

- ・「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(40.8%)が最も多く、次いで「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(23.8%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(22.9%)が続いている。

図表 参加している地域活動の種類 (全体：複数回答)



【圏域別】

- ・ 白糸台文化センター圏域は「子育て世帯や児童、青少年を支援する活動」(20.0%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 西府文化センター圏域は「高齢者を支援する活動」(33.3%)、「音楽や絵画などの芸術活動」(23.8%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 武蔵台文化センター圏域は「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(33.3%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(41.7%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 新町文化センター圏域は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(27.6%)と「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(34.5%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 住吉文化センター圏域は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(58.3%)と「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(33.3%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 是政文化センター圏域は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(61.5%)と「国際交流に関する活動」(23.1%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 紅葉丘文化センター圏域は「スポーツ活動」(33.3%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 四谷文化センター圏域は回答者数が 9 人と少ないが「高齢者を支援する活動」(4人:44.4%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(3人:33.3%)、「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(2人:22.2%)が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ 片町文化センター圏域は「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(38.1%)と「スポーツ活動」(33.3%)が全体より 10 ポイント以上高い。

図表 参加している地域活動の種類（全体、圏域別：複数回答）

<参加している人>

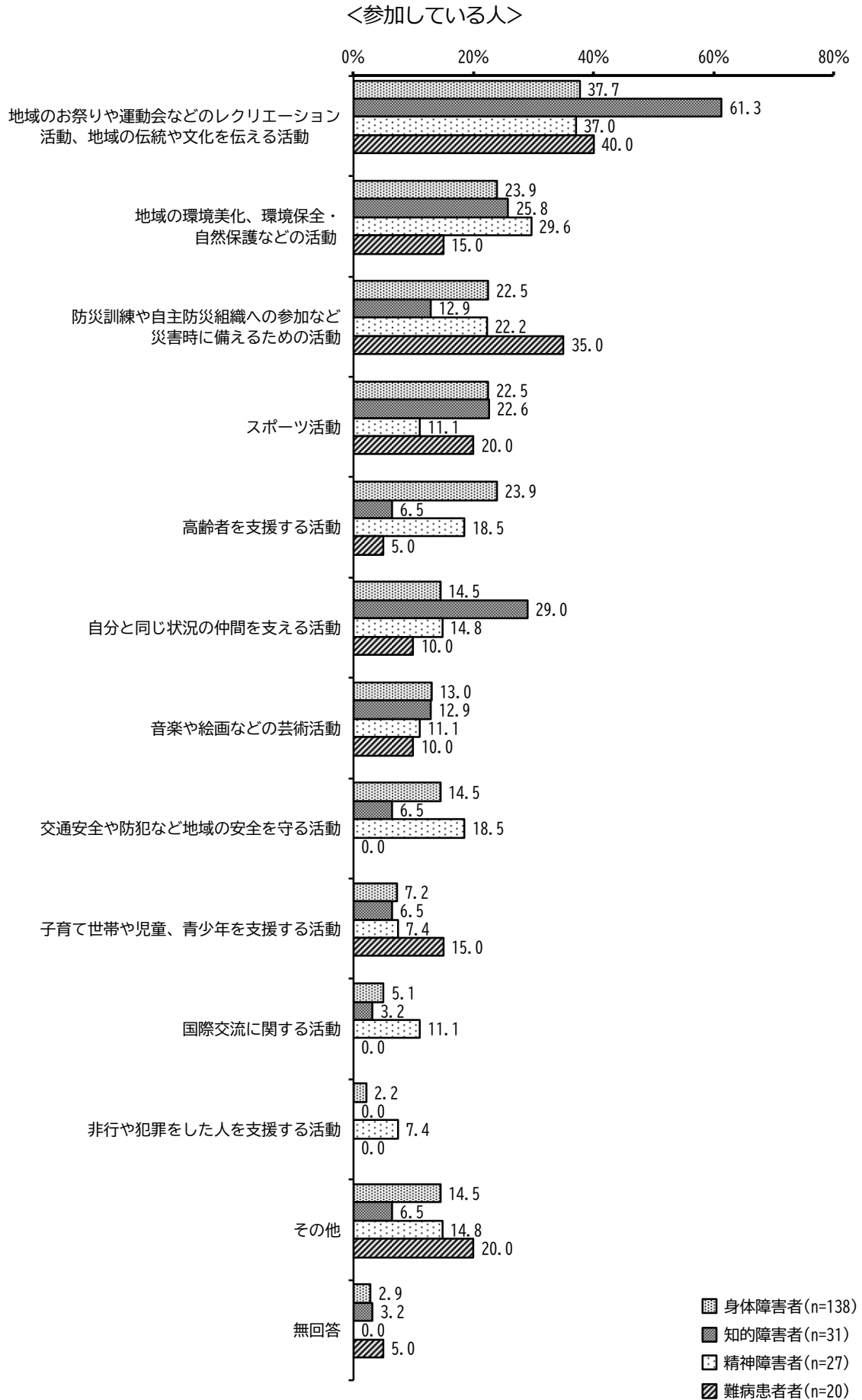
			地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	スポーツ活動	高齢者を支援する活動	自分と同じ状況の仲間を支える活動	音楽や絵画などの芸術活動
全体	(n=223)	40.8	23.8	22.9	22.0	19.3	17.0	13.5	
圏域別									
	中央文化センター圏域 (n=38)	44.7	21.1	15.8	15.8	15.8	15.8	13.2	
	白糸台文化センター圏域 (n=20)	40.0	20.0	15.0	30.0	25.0	25.0	10.0	
	西府文化センター圏域 (n=21)	28.6	19.0	19.0	14.3	33.3	9.5	23.8	
	武蔵台文化センター圏域 (n=12)	16.7	16.7	41.7	8.3	16.7	25.0	16.7	
	新町文化センター圏域 (n=29)	31.0	34.5	31.0	13.8	17.2	27.6	6.9	
	住吉文化センター圏域 (n=24)	58.3	20.8	33.3	29.2	8.3	16.7	16.7	
	是政文化センター圏域 (n=13)	61.5	30.8	15.4	23.1	23.1	15.4	0.0	
	紅葉丘文化センター圏域 (n=18)	44.4	16.7	11.1	33.3	11.1	11.1	22.2	
	押立文化センター圏域 (n=11)	36.4	27.3	18.2	27.3	18.2	0.0	18.2	
	四谷文化センター圏域 (n=9)	33.3	11.1	33.3	22.2	44.4	0.0	22.2	
	片町文化センター圏域 (n=21)	47.6	38.1	23.8	33.3	9.5	14.3	9.5	

			交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	子育て世帯や児童、青少年を支援する活動	国際交流に関する活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	無回答
全体	(n=223)	12.1	7.6	4.9	2.2	13.5	2.7	
圏域別								
	中央文化センター圏域 (n=38)	10.5	5.3	7.9	0.0	18.4	2.6	
	白糸台文化センター圏域 (n=20)	10.0	20.0	0.0	0.0	15.0	0.0	
	西府文化センター圏域 (n=21)	9.5	4.8	4.8	9.5	9.5	9.5	
	武蔵台文化センター圏域 (n=12)	33.3	8.3	8.3	0.0	16.7	0.0	
	新町文化センター圏域 (n=29)	3.4	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	
	住吉文化センター圏域 (n=24)	20.8	12.5	4.2	4.2	4.2	4.2	
	是政文化センター圏域 (n=13)	7.7	7.7	23.1	0.0	15.4	7.7	
	紅葉丘文化センター圏域 (n=18)	11.1	11.1	0.0	0.0	16.7	5.6	
	押立文化センター圏域 (n=11)	18.2	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	
	四谷文化センター圏域 (n=9)	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	
	片町文化センター圏域 (n=21)	9.5	4.8	4.8	4.8	9.5	0.0	

【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」（37.7%）が最も多く、次いで「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（23.9%）と「高齢者を支援する活動」（23.9%）が同率で続いている。
- ・ 知的障害者は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」（61.3%）が最も多く、次いで「自分と同じ状況の仲間を支える活動」（29.0%）、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（25.8%）が続いている。
- ・ 精神障害者は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」（37.0%）が最も多く、次いで「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（29.6%）、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」（22.2%）が続いている。
- ・ 難病患者は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」（40.0%）が最も多く、次いで「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」（35.0%）、「スポーツ活動」（20.0%）が続いている。

図表 参加している地域活動の種類 (障害等の種類別：複数回答)



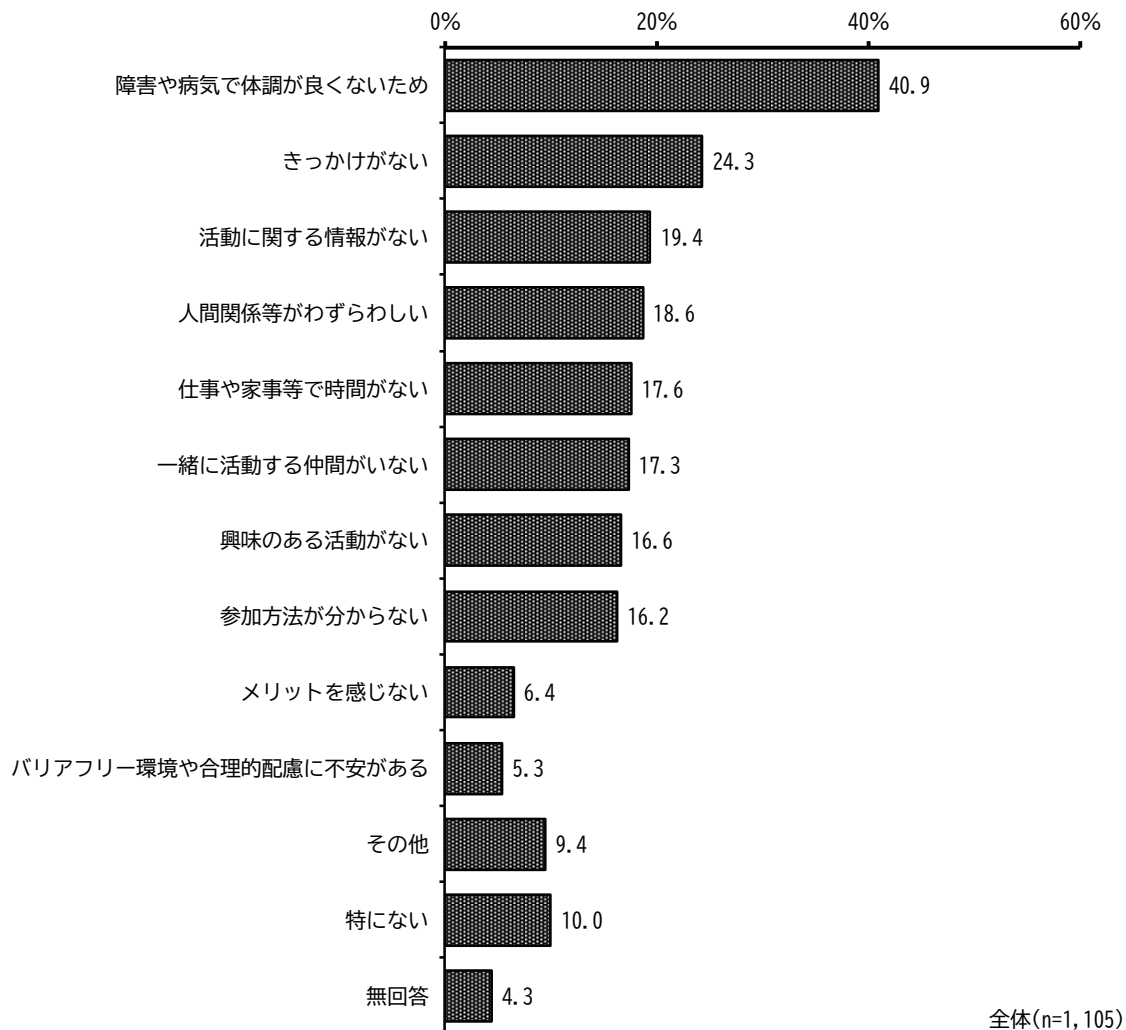
問27-2 問27で「3」「4」と答えた方におたずねします。

活動や行事に参加していない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「障害や病気で体調が良くないため」(40.9%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(24.3%)、「活動に関する情報がない」(19.4%)が続いている。

図表 参加していない理由 (全体：複数回答)

<参加していない人>

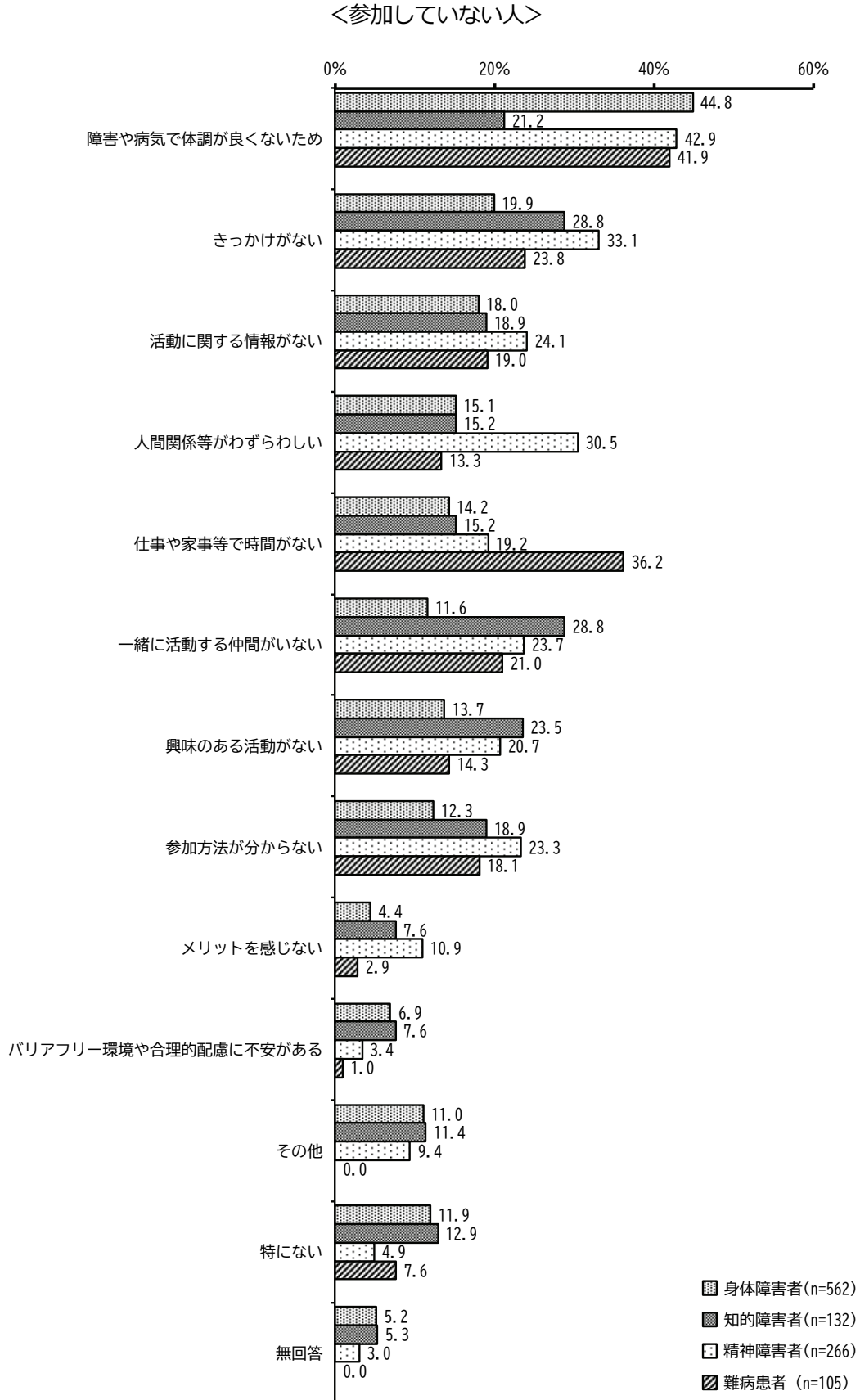


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害や病気で体調が良くないため」(44.8%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(19.9%)、「活動に関する情報がない」(18.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「きっかけがない」(28.8%)と「一緒に活動する仲間がいない」(28.8%)が同率で最も多く、次いで「興味のある活動がない」(23.5%)が続いている。
- ・精神障害者は「障害や病気で体調が良くないため」(42.9%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(33.1%)、「人間関係等がわずらわしい」(30.5%)が続いている。

- ・ 難病患者は「障害や病気で体調が良くないため」(41.9%)が最も多く、次いで「仕事や家事等で時間がない」(36.2%)、「きっかけがない」(23.8%)が続いている。

図表 参加していない理由（障害等の種類別：複数回答）

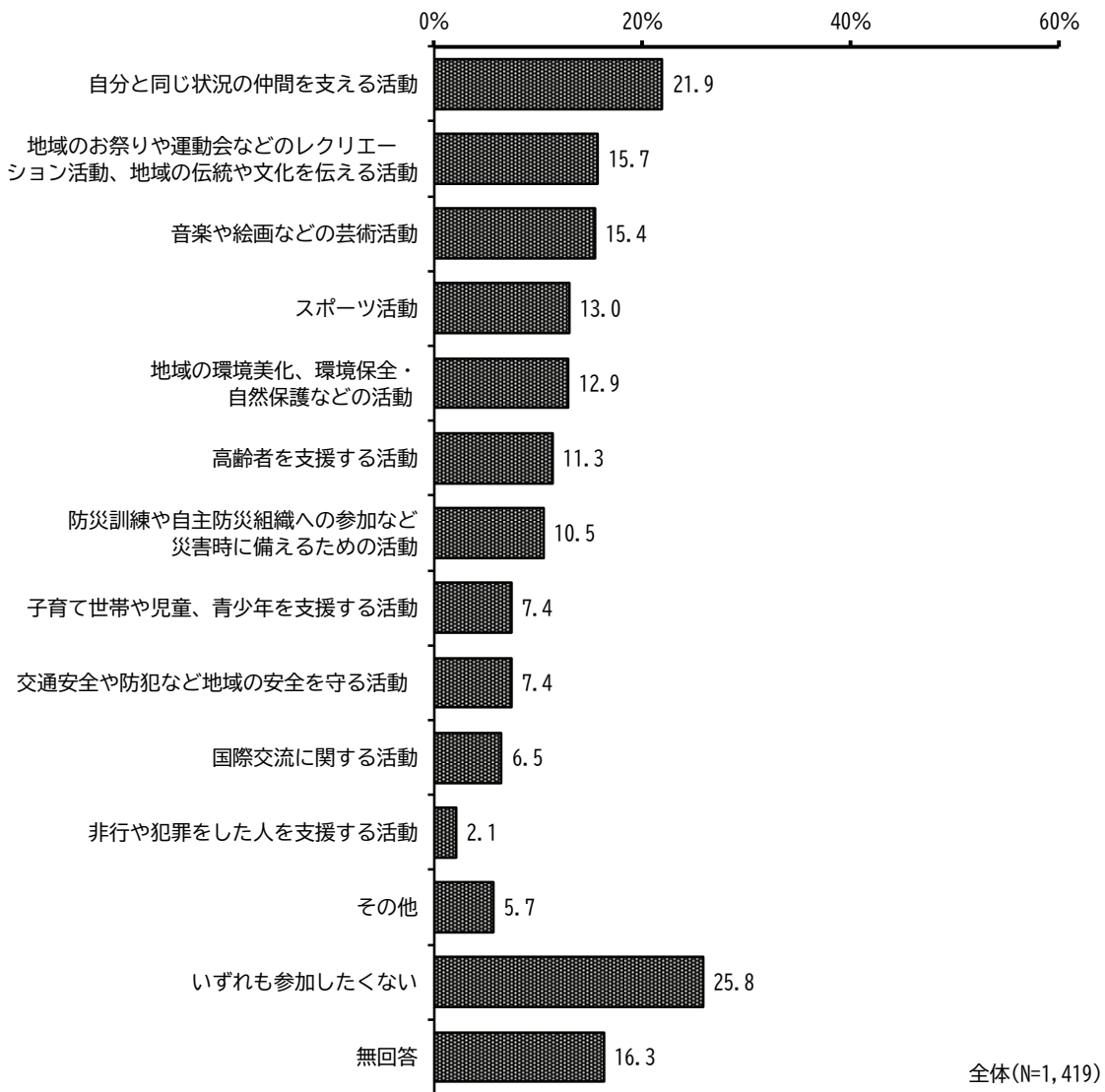


問28 今後参加したい、継続して参加したい地域活動やボランティア活動は、次のどれですか。

(いくつでも○)

- ・「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(21.9%)が最も多く、次いで「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(15.7%)、「音楽や絵画などの芸術活動」(15.4%)が続いている。

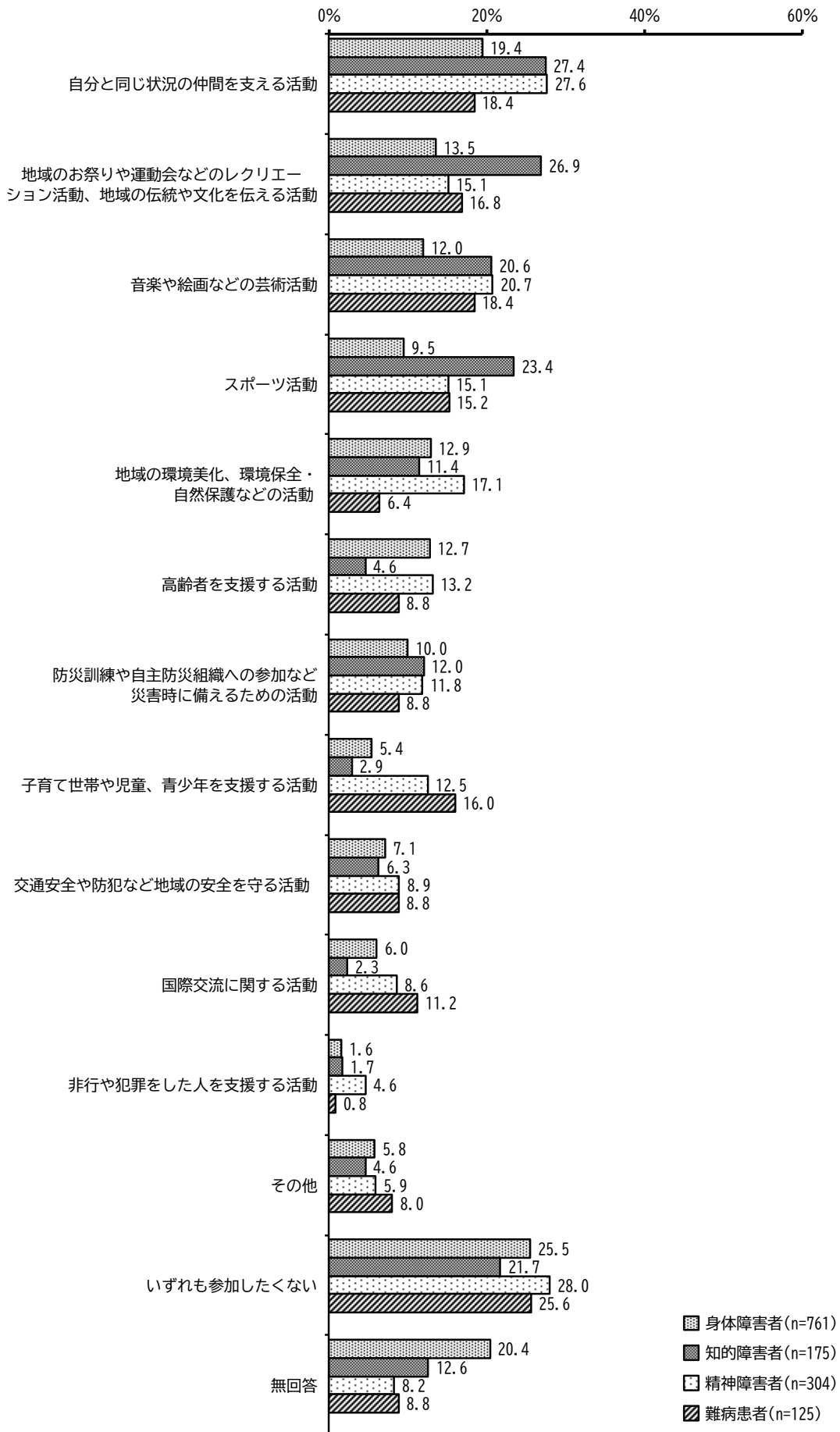
図表 今後参加したい、継続して参加したい地域活動（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(19.4%)が最も多く、次いで「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(13.5%)、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(12.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(27.4%)が最も多く、次いで「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(26.9%)、「スポーツ活動」(23.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(27.6%)が最も多く、次いで「音楽や絵画などの芸術活動」(20.7%)、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(17.1%)が続いている。
- ・難病患者は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(18.4%)と「音楽や絵画などの芸術活動」(18.4%)が同率で最も多く、次いで、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(16.8%)が続いている。

図表 今後参加したい、継続して参加したい地域活動（障害等の種類別：複数回答）



問29 障害等のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことをめざす「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方がありますが、この「共生社会(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに○)

- ・「はい」が19.2%、「いいえ」が64.1%である。

図表 市民のノーマライゼーションの理解 (全体)

(%)

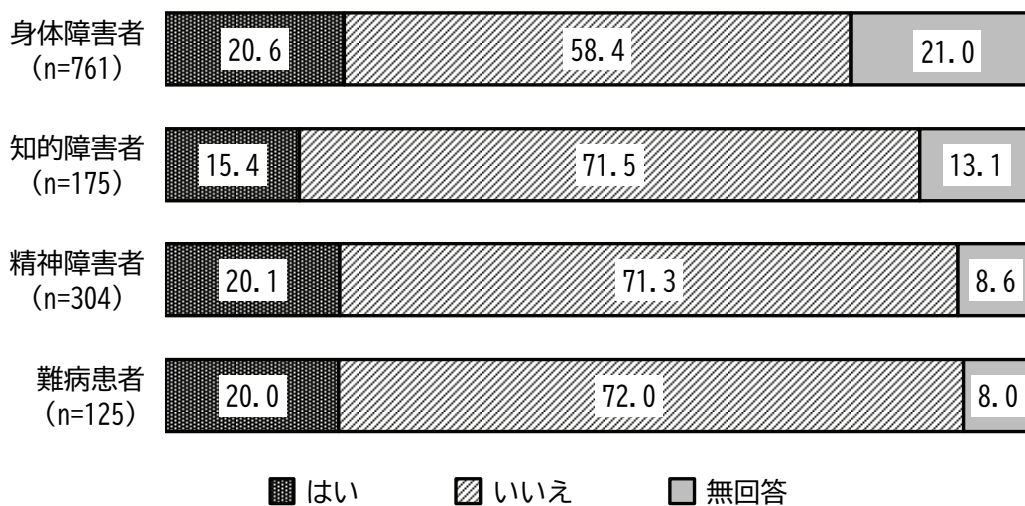


【障害等の種類別】

- ・知的障害者、精神障害者、難病患者は「いいえ」(知的：71.5%、精神：71.3%、難病：72.0%)が全体より5ポイント以上高い。

図表 市民のノーマライゼーションの理解 (障害等の種類別)

(%)

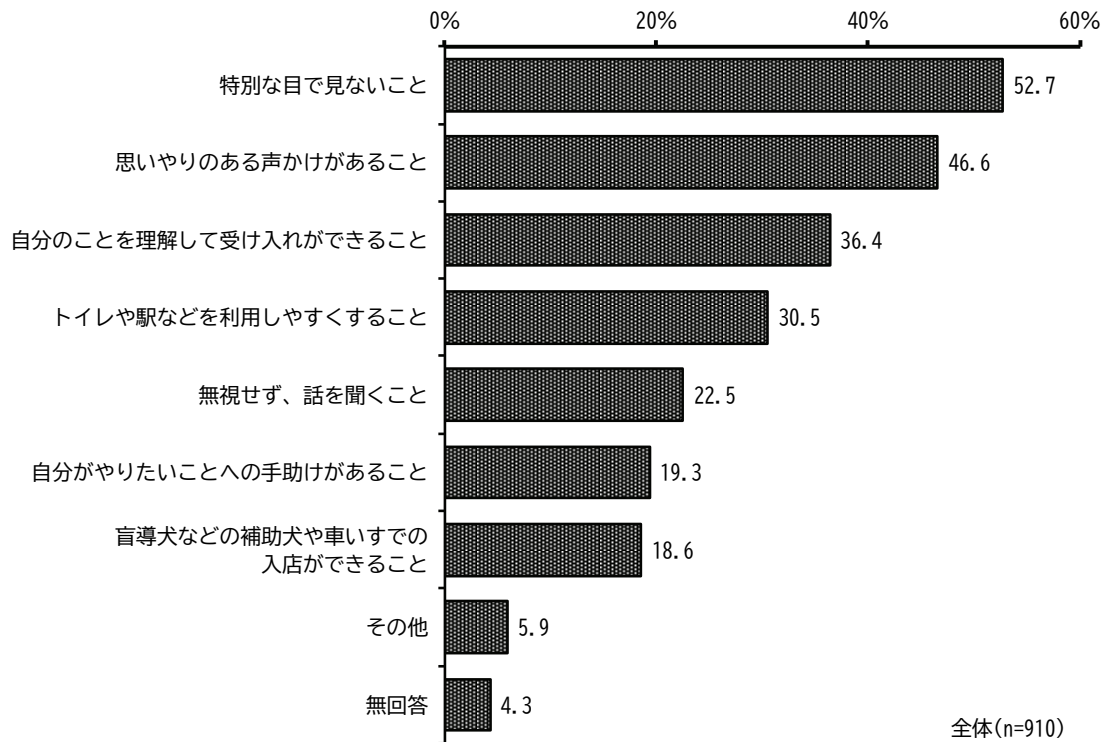


問 29-1 問 29 で「2.いいえ」と答えた方におたずねします。

どのようなことがあれば「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- ・「特別な目で見ないこと」(52.7%)が最も多く、次いで「思いやりのある声かけがあること」(46.6%)、「自分のことを理解して受け入れができること」(36.4%)が続いている。

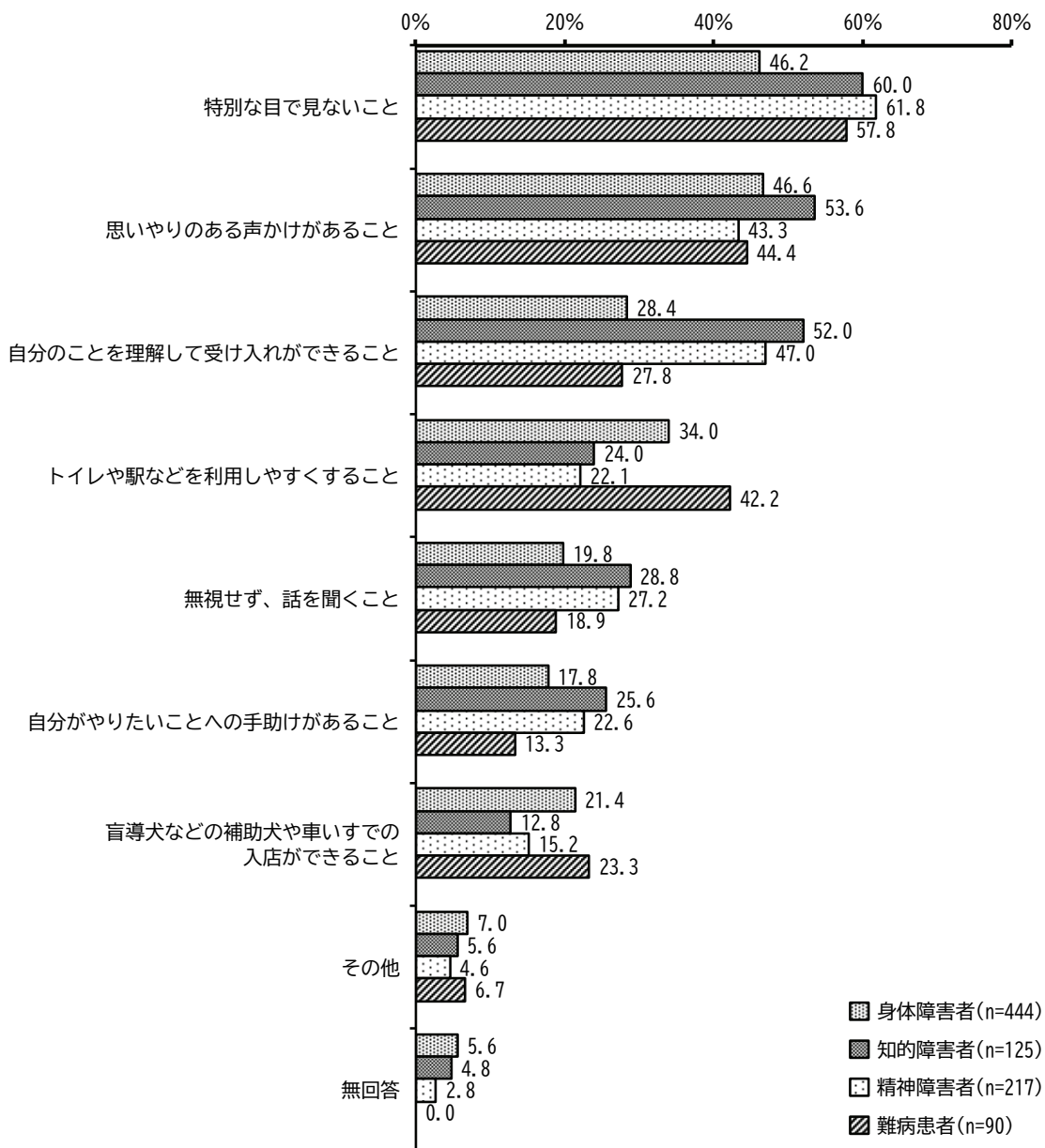
図表 どのようなことがあれば理解されていると思うか（全体：複数回答）
 <共生社会(ノーマライゼーション)は市民に十分理解されていないと答えた人>



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「思いやりのある声かけがあること」(46.6%)、知的障害者は「特別な目で見ないこと」(知的：60.0%、精神：61.8%、難病：57.8%)が最も多い。
- ・ 知的障害者と精神障害者は、「自分のことを理解して受け入れができること」(知的：52.0%、精神：47.0%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・ 難病患者は、「トイレや駅などを利用しやすくすること」(42.2%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 どのようなことがあれば理解されていると思うか（障害等の種類別：複数回答）
 <共生社会(ノーマライゼーション)は市民に十分理解されていないと答えた人>



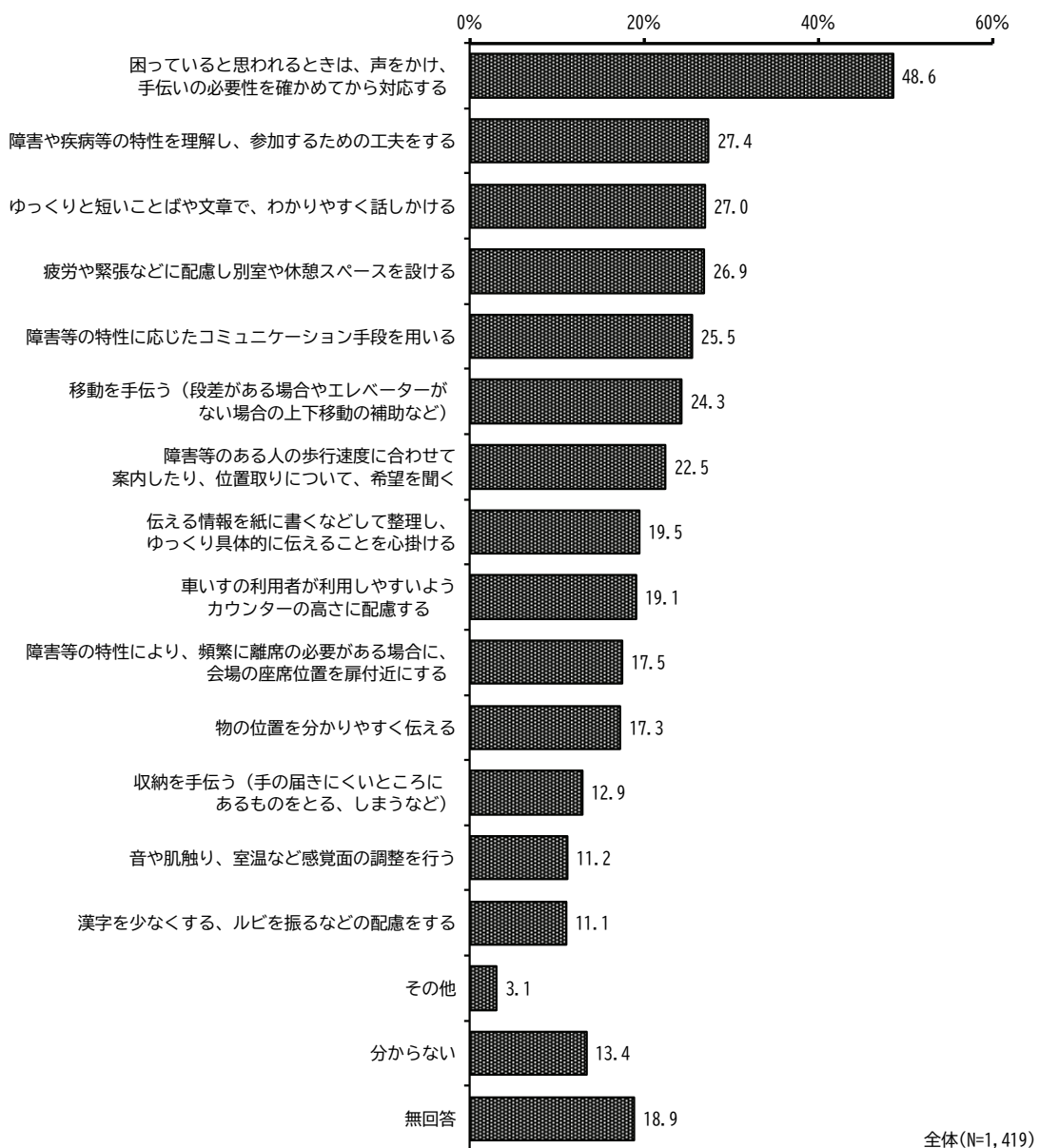
問30 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

あなたは役所、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を必要としていますか。

(いくつでも○)

- ・「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(48.6%)が最も多く、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(27.4%)、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(27.0%)が続いている。

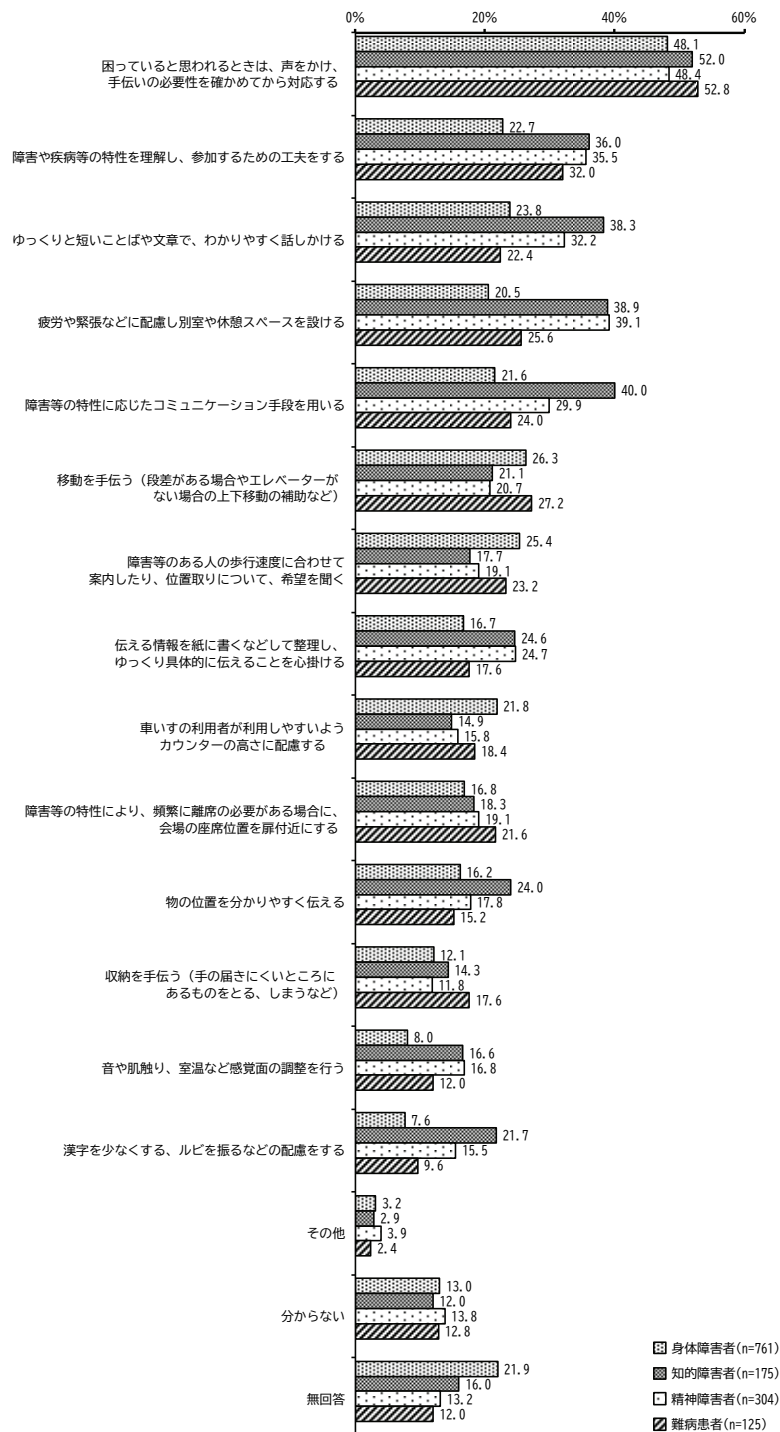
図表 必要とする合理的配慮（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(身体：48.1%、知的：52.0%、精神：48.4%、難病：52.8%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など)」(26.3%)、知的障害者は「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」(40.0%)、精神障害者は「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(39.1%)、難病患者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するために工夫をする」(32.0%)となっている。

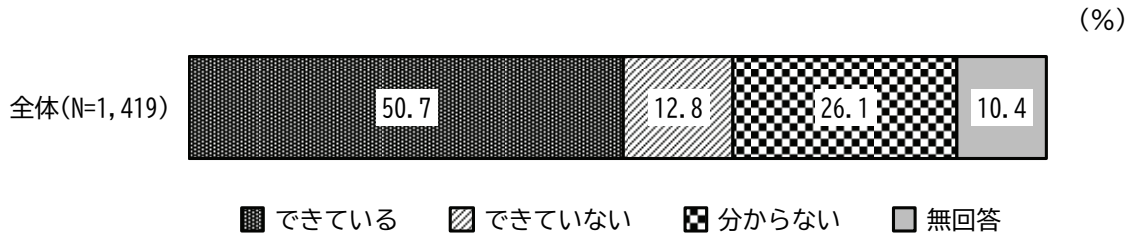
図表 必要とする合理的配慮（障害等の種類別：複数回答）



問31 あなたは、地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていますか。(1つに○)

- ・「できている」は50.7%、「できていない」は12.8%である。

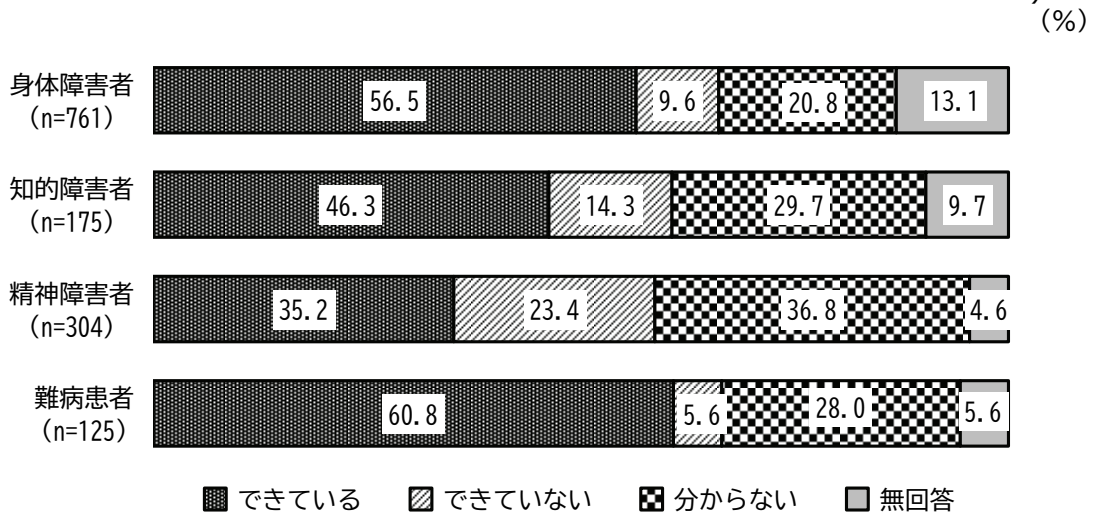
図表 地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか(全体)



【障害等の種類別】

- ・精神障害者は「できていない」(23.4%)が全体より10.6ポイント高い。

図表 地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか(障害等の種類別)



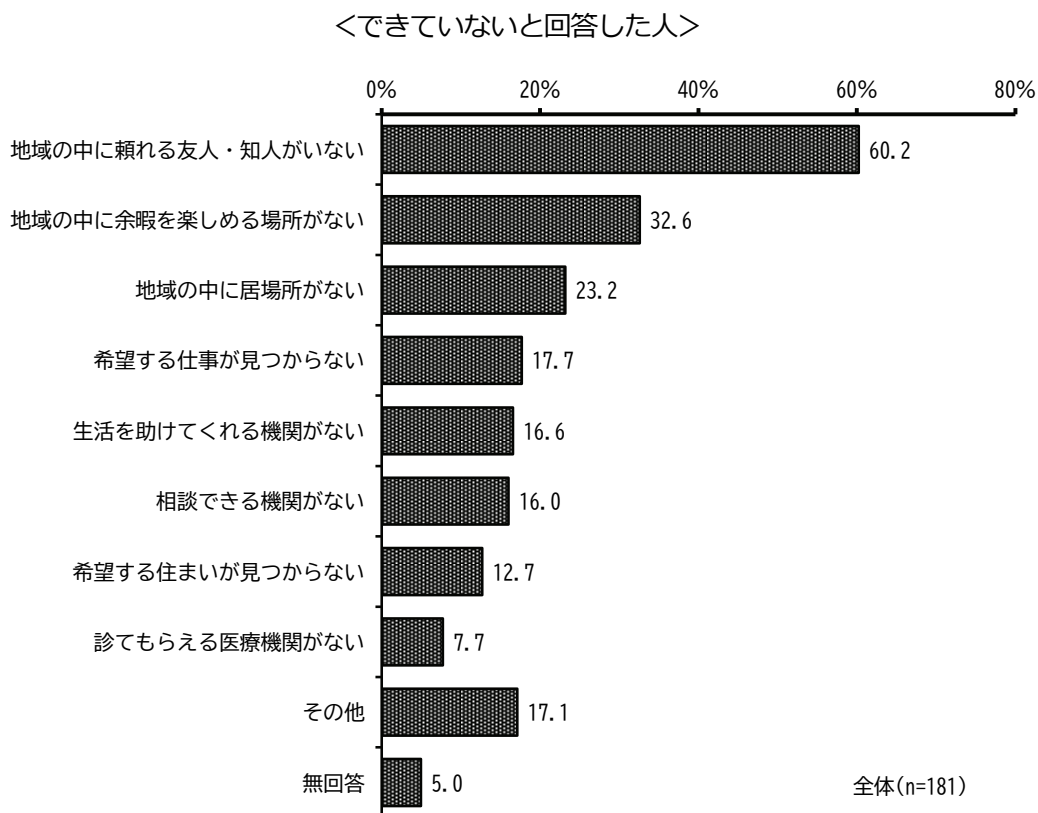
問31-1 問31で「2.できていない」と答えた方におたずねします。

地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていないと感じる理由は何ですか。

(いくつでも○)

- ・「地域の中に頼れる友人・知人がいない」(60.2%)が最も多く、次いで「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」(32.6%)、「地域の中に居場所がない」(23.2%)が続いている。

図表 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（全体：複数回答）

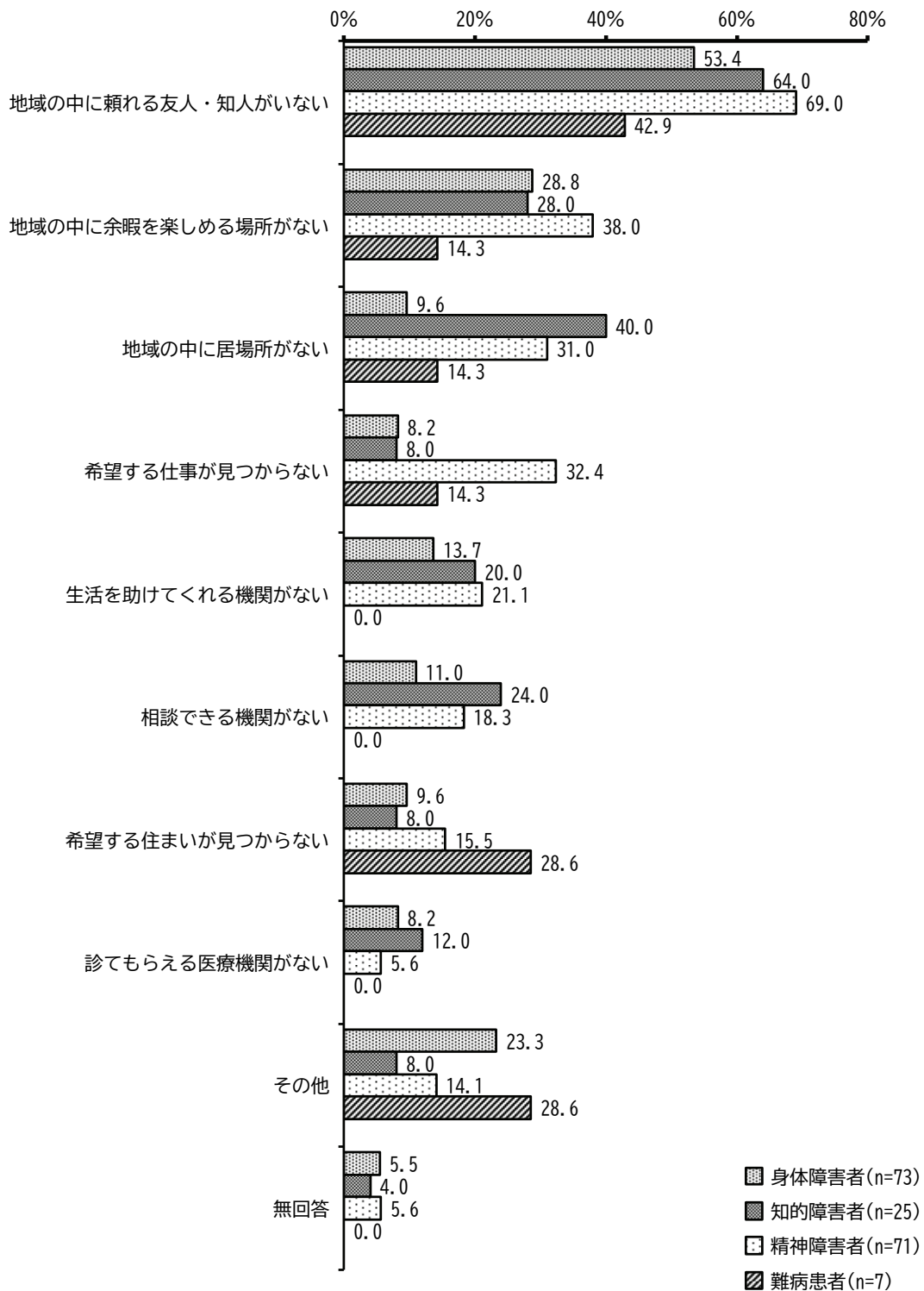


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「地域の中に頼れる友人・知人がいない」(身体：53.4%、知的：64.0%、精神：69.0%、難病：42.9%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者と精神障害者は「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」(身体：28.8%、精神：38.0%)である。知的障害者は「地域の中に居場所がない」(40.0%)である。

図表 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（障害等の種類別：複数回答）

<できていないと回答した人>

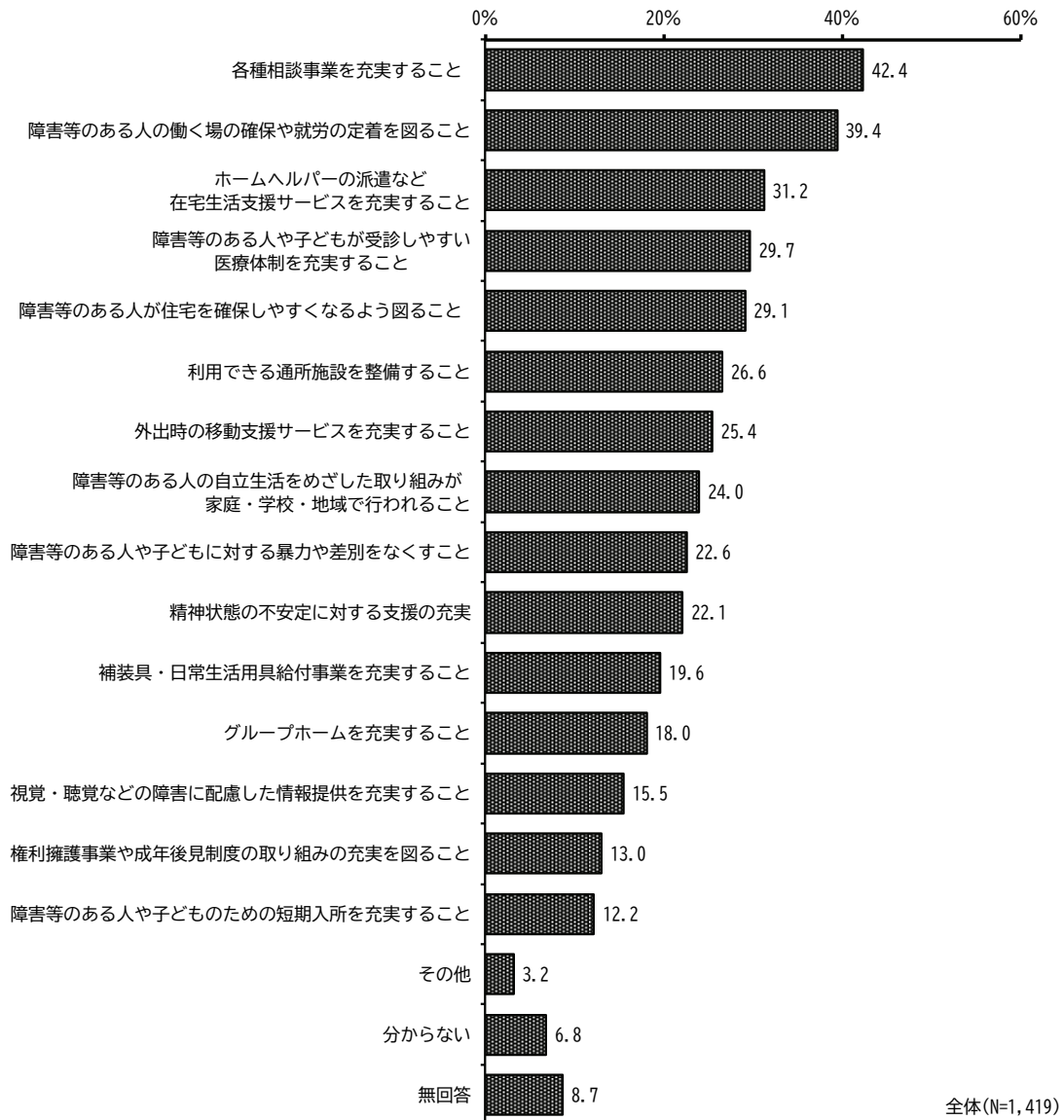


(11) 施策について

問32 府中市は障害等のある人の施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。次の項目の中から、優先順位の高いものを5つ、下記の に番号を記入してください。

- ・「各種相談事業を充実すること」(42.4%)が最も多く、次いで「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(39.4%)、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」(31.2%)が続いている。

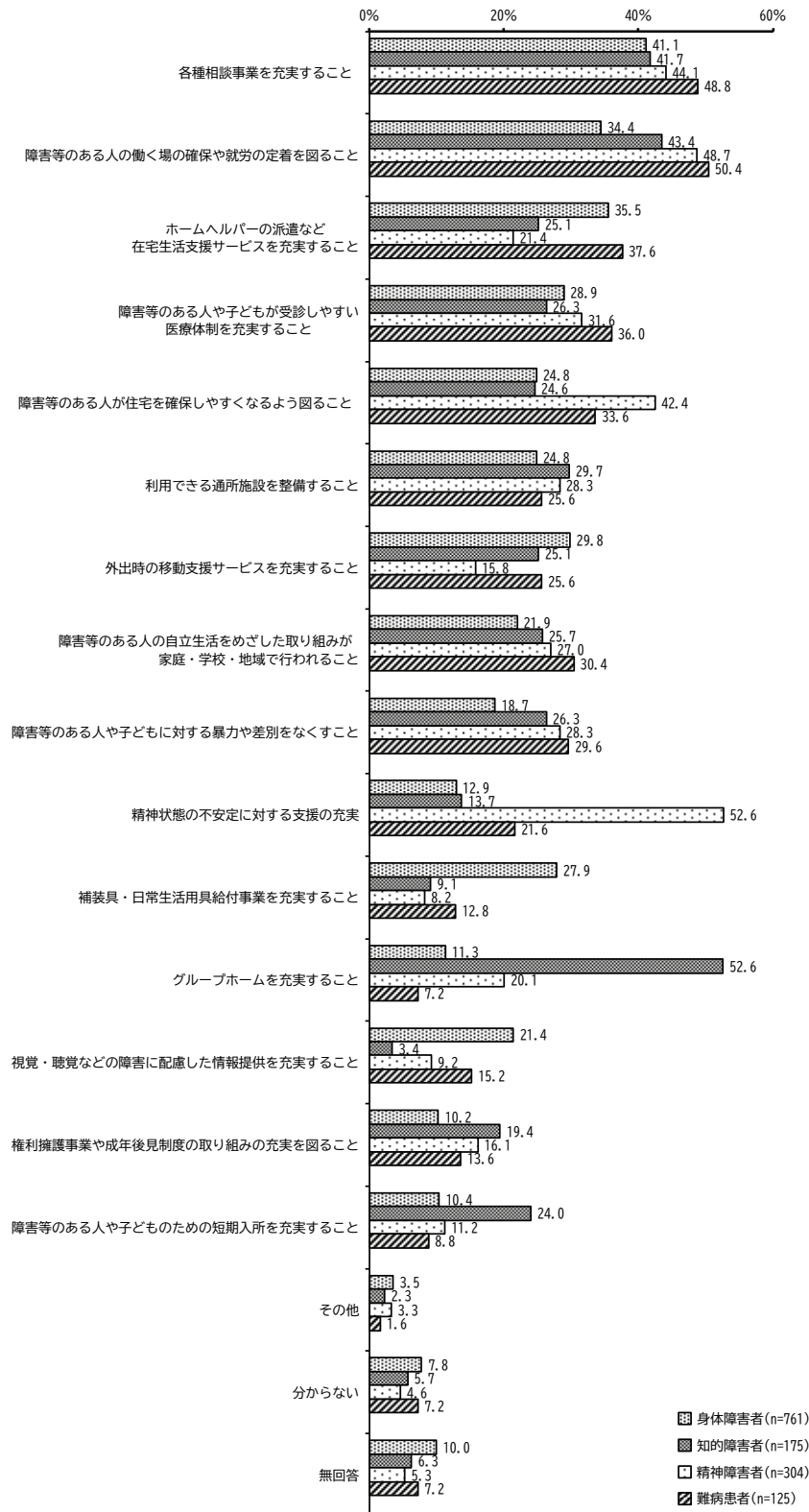
図表 充実を望む施策（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「各種相談事業を充実すること」(41.1%)、知的障害者は「グループホームを充実すること」(52.6%)、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」(52.6%)、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(50.4%)が最も多い。

図表 充実を望む施策（障害等の種類別：複数回答）



【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(18～39歳：66.7%、40～64歳：52.1%)、65歳以上は「各種相談事業を充実すること」(40.7%)が最も多い。その他の項目では、18～39歳と40～64歳で「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」、「視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- ・知的障害者では、18～39歳は「グループホームを充実すること」(58.1%)、40～64歳と65歳以上は「各種相談事業を充実すること」(40～64歳：52.5%、65歳以上：44.4%)が最も多い。その他の項目では、40～64歳で「権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること」、「グループホームを充実すること」、「障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- ・精神障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(18～39歳：57.6%、40～64歳：47.4%)、65歳以上は「利用できる通所施設を整備すること」(42.9%)が最も多い。その他の項目では、18歳～39歳は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」と「グループホームを充実すること」、「障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること」、40歳～64歳は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- ・難病患者では、18～39歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(63.6%)、40～64歳と65歳以上は「各種相談事業を充実すること」(40～64歳：48.2%、65歳以上：51.4%)が最も多い。その他の項目では、18歳～39歳で「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」、「障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること」、「障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。40歳～64歳は「障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。65歳以上は「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」が10ポイント以上高くなっている。

図表 充実を望む施策(全体、障害等の種類×年代別：複数回答)

(96)

			各種相談事業を充実すること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなるように図ること	利用できる通所施設を整備すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすこと	
全体			(N=1,419)	42.4	39.4	31.2	29.7	29.1	26.6	25.4	24.0	22.6
障害等の種類×年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	28.6	66.7	28.6	33.3	42.9	19.0	19.0	28.6	47.6
		40～64歳	(n=192)	45.3	52.1	31.3	37.5	33.3	25.0	33.9	30.7	18.2
		65歳以上	(n=533)	40.7	26.6	37.3	25.9	20.8	25.5	29.3	18.8	17.4
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	37.9	46.8	24.2	26.6	23.4	33.9	28.2	32.3	27.4
		40～64歳	(n=40)	52.5	35.0	27.5	25.0	30.0	25.0	17.5	10.0	27.5
		65歳以上	(n=9)	44.4	22.2	33.3	33.3	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	45.6	57.6	16.8	37.6	40.0	27.2	12.8	36.0	33.6
		40～64歳	(n=156)	44.9	47.4	23.1	30.1	46.2	27.6	17.3	21.8	26.3
		65歳以上	(n=21)	33.3	9.5	38.1	9.5	33.3	42.9	23.8	14.3	9.5
	難病患者	18～39歳	(n=33)	48.5	63.6	21.2	45.5	45.5	24.2	27.3	48.5	36.4
		40～64歳	(n=56)	48.2	46.4	39.3	41.1	33.9	21.4	25.0	26.8	32.1
		65歳以上	(n=35)	51.4	45.7	51.4	20.0	22.9	34.3	25.7	20.0	20.0

			精神状態の不安定に対する支援の充実	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	グループホームを充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること	障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること	その他	分からない	無回答	
全体			(N=1,419)	22.1	19.6	18.0	15.5	13.0	12.2	3.2	6.8	8.7
障害等の種類×年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	19.0	61.9	9.5	52.4	0.0	9.5	9.5	0.0	0.0
		40～64歳	(n=192)	12.0	36.5	8.9	27.6	10.9	7.3	6.8	5.7	3.1
		65歳以上	(n=533)	13.1	23.3	12.2	18.2	10.1	11.3	2.3	8.6	12.8
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	14.5	8.9	58.1	3.2	17.7	22.6	3.2	4.8	5.6
		40～64歳	(n=40)	12.5	10.0	40.0	5.0	27.5	27.5	0.0	7.5	5.0
		65歳以上	(n=9)	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	22.2
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	48.8	8.0	31.2	6.4	20.0	16.0	4.8	4.8	1.6
		40～64歳	(n=156)	59.0	8.3	13.5	10.9	13.5	6.4	2.6	5.1	5.8
		65歳以上	(n=21)	28.6	9.5	4.8	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	19.0
	難病患者	18～39歳	(n=33)	18.2	15.2	0.0	12.1	12.1	6.1	3.0	3.0	3.0
		40～64歳	(n=56)	26.8	14.3	8.9	17.9	16.1	8.9	0.0	7.1	7.1
		65歳以上	(n=35)	17.1	8.6	11.4	14.3	11.4	11.4	2.9	8.6	11.4

問 33 府中市の障害等のある人の施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・府中市の障害等のある人への施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、自由記述形式でたずねたところ、395件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係を記している。

(1)まちづくり (37件)

【身体障害者】

- ・狭い歩道に点字ブロックが中心にあり歩きづらい。自転車がスピードを出す、歩道上を通行している時危ない。緑信号が短い。(男性、65歳以上)
- ・日本には盲導犬に対する理解が得られにくく盲導犬利用者には外出しにくい環境になっている。公共の場所、店、レストランなど受け入れ可能な社会にしてもらい、視覚障害者が暮らしやすい環境づくりを希望する。(女性、35～39歳)
- ・横断歩道を渡る時、青に変わってからすぐに歩き出してもぎりぎりの場合がよくあります。ゆっくり歩いても安心して渡れる位の時間のゆとりがほしいです。(女性、55～59歳)
- ・分倍河原駅の駅前歩きにくく、でこぼこです。早急に修理して欲しいです。JRに続く橋も歩きづらいです。エスカレーター等の設置もお願いしたいです。(女性、65歳以上)
- ・いつも転倒に気をつけています。エスカレーターよりもエレベーターを利用したいです(場所の表示をわかりやすくして欲しいです)。(女性、65歳以上)

【精神障害者】

- ・子どもたちがママと同伴で遊べる安全な公園など作ったらいいです。(女性、60～64歳)

【難病患者】

- ・個室が3～4個位のトイレがいっぱいあるより、何十分も並ばなくてもいいような、個室がたくさんある大きさのトイレを作ってほしいです。(女性、45～49歳)
- ・我が家周辺の歩道が平坦ではなく、かなりデコボコ状態で雨が降ると大きな水溜りができ、転んでしまうリスクが高いです。街灯はあるものの、夜は暗い。犬のフンが後始末されていないことも多く、持病により免疫がないので、衛生上不安です。(女性、50～54歳)

(2)障害者施策全般 (27件)

【知的障害者】

- ・障害の理解・障害別の手助けのやり方(手助けをしたいが、やり方がわからないと聞いたことがある)。親亡き後の重度障害者の受け入れ先(入所施設、グループホーム等)。障害の特性に合わせた避難所。(男性、18～24歳)【母親】

【精神障害者】

- ・ サービス提供事業者の人員不足で受けられない時が多々ある。医療的ケア対応できる看護師も含め、人員の充実、確保をお願いしたい。(男性、25～29歳)【母親】
- ・ 障害等のある家庭の内部金銭状態をもっと理解して私達の納めている税金の使い道を考えなおしてほしい。(女性、18～24歳)
- ・ ひとり暮らし、仕事ができないほど病気を抱えている状態であるにも関わらず、受けられる支援がほとんどない。支援内容を充実させることと、支援を受ける理由は一人一人違うということを知りたい。(女性、35～39歳)

【難病患者】

- ・ 「障害」と「難病」のサービス格差が大きすぎると感じます。「難病」にも同じような法やサービスを望みます。(女性、30～34歳)
- ・ 障害の程度など個人差があるが、どうしても一まとめにしてしまう傾向がある。一人一人に寄り添う公共サービスがもう少し整うとよいと思う。(女性、60～64歳)

(3)障害・難病への理解 (26件)

【身体障害者】

- ・ 聴覚障害は(他にも難病など)、目でみて障害者とわからないので、無視されている。目でみて、わからない障害者がいる事を啓蒙して欲しい。(男性、65歳以上)
- ・ 緊急時、一人生活の障害者に助けの手がほしい。(男性、65歳以上)
- ・ 地域の方の温かい心と偏見のない目が一番だと思います。(女性、65歳以上)

【知的障害者】

- ・ 軽度の障害者に対する支援を充実してほしい。(女性、40～44歳)

【精神障害者】

- ・ 障害等のある人の兄弟までも偏見の目で見られることがあり、障害は遺伝ではなく育て方が悪かったわけでもないことを広く世間に知ってもらいたいです。(男性、18～24歳)【母親】
- ・ 学校教育での障害者への理解を強くして頂きたいです。(男性、18～24歳)

【難病患者】

- ・ 健常者、障害者と分けるのではなく、普通学校での受け入れ等で、小さい頃から障害者に普通に接することができるようにしていくことだと思います。(女性、40～44歳)

(4)施設、グループホーム (24 件)

【身体障害者】

- ・重症の身体障害者の実態を把握してほしい。この人たちの声を聞いて施設に取り入れてほしい。(男性、45～49 歳)【父親】

【知的障害者】

- ・毎年何人くらいの新卒者が福祉就労を希望しそうか、人数の予測はつくはずですが、作業所不足は毎年言われているのに全く改善されていません。数年先を見越して障害者の通所施設の新設・整備にもっと力を入れてください。(男性、18～24 歳)【母親】
- ・障害者が地域で暮してゆくのは、たやすい事ではありません。小さな集団、グループホーム等で仲間と共に支援を受けながら生活することが望ましいと思います。当事者・家族と共に話し合い、進めるべきです。(女性、45～49 歳)【母親】

【精神障害者】

- ・グループホームの拡充・整備。(男性、45～49 歳)【父親】

(5)在宅生活支援 (16 件)

【身体障害者】

- ・施設でのネット環境の充実(情報収集、コミュニケーションの為)。(男性、55～59 歳)【配偶者】
- ・リハビリ等に力を入れてほしい。(女性、60～64 歳)

(6)情報提供 (15 件)

【身体障害者】

- ・災害ピクトグラムの普及・情報格差をなくす。(女性、45～49 歳)

【知的障害者】

- ・相談支援サービスを利用したいですが、事業所がなく方法もわかりません。案内が欲しいです。申請を待っていないで市役所からアウトリーチして下さい。(男性、18～24 歳)【母親】
- ・障害者用の医療機関の情報を広く開示する必要があると感じます。(男性、25～29 歳)【父親】

【精神障害者】

- ・ホームページに記載していると、よくあるが障害があれば、収入が少なくなる傾向にあり、ホームページを見る手段を持っていない。(男性、45～49 歳)
- ・障害の種別、等級などで利用できるサービスを探すのに項目、種別、等級など、選択していくと自分に合った情報が一覧で見られると便利。(男性、50～54 歳)
- ・市役所で相談する時に個室がほしい。(男性、50～54 歳)

(7)手続きや窓口対応 (15 件)

【身体障害者】

- ・ 当事者の意見が、広く反映するようなシステム作りが必要。たとえば、自立支援協議会や、施策委員会などに市内に住んでいる当事者を複数入れるなど。福祉サービスをもっと受けやすくしてほしい(条件や枠組みをもっと広く、柔軟にしてほしい)。(女性、40～44 歳)
- ・ 情報提供や相談できる窓口の一本化をお願いしたいです。(男性、45～49 歳)【配偶者】

【精神障害者】

- ・ 障害福祉の窓口を土曜日も開けてほしいです。(男性、25～29 歳)

(8)手当や経済的な支援 (14 件)

【身体障害者】

- ・ 補聴器・電池の購入補助制度の復活を希望。(男性、60～64 歳)

【知的障害者】

- ・ 通所施設まで通所するための交通費を補助して頂けると助かります。(女性、18～24 歳)【母親】

【難病患者】

- ・ これからの生活費が心配です。パートでも働ける場を用意していただけると安心して治療出来ます。非課税世帯だけでなく中所得者の生活援助もよろしくお願いします。(男性、55～59 歳)【配偶者】
- ・ 難病の為、働ける期間と休職を繰り返し、収入が安定していない。手当金をもう少し増やしてほしい。(女性、30～34 歳)

(9)移動支援、通院介助 (14 件)

【身体障害者】

- ・ 車椅子タクシーを使用する時、予約していないと受け付けられないとか、特に夜間はほとんど断られる。緊張と不安がつる。(男性、65 歳以上)【配偶者】

【知的障害者】

- ・ 新しい場所に行くとき、医療機関などに、行くとき、つきそってくれる人が、いたらうれしい(障害が、軽くても、やっぱり不安だから)。(女性、45～49 歳)

【精神障害者】

- ・ 府中市から遠方(他の区)への定期的(月1度など)通院に対する送迎の手伝いをしていただけたら有難い。(男性、65 歳以上)

(10)相談 (12 件)

【身体障害者】

- ・いつでも(何でも)相談できる窓口を設けてほしい。福祉だけでなく生活全般にわたって、それを一本化したものが助かる。(男性、60～64 歳)

【精神障害者】

- ・民生委員の方がサポートして下さるのか。サポートして下さるのであれば、どのような内容をサポートしてもらえるのかよくわからない。(男性、18～24 歳)【母親】
- ・気軽に相談できるような場所がもっとあれば。もしくは知らないだけかも。もっと認知されればよい。(女性、25～29 歳)
- ・仕事が平日フルタイムなので障害関係の市役所窓口に行くには仕事を休まないとなりません。土曜開庁のときに関係事務を扱ってください。(男性、50～54 歳)
- ・障害を持っている人が集えるお茶の間のフリースペースが必要。そこで相談できたり、悩みをきいてもらいたい。(男性、55～59 歳)
- ・相談出来る人材のスキルをアップ、安定し、安心して相談できる所を多く設置して欲しい。(女性、30～34 歳)【母親】

(11)災害時の不安 (11 件)

【身体障害者】

- ・マンション内に車イス(障害者)の方がいるが、防災訓練には参加されず、遠慮している様子だった。本当はその方こそ一番防災訓練に参加すべきで、皆が助け合う、理解必要なので、どうしたら参加しやすくできるか気になる所です。(男性、45～49 歳)【配偶者】
- ・災害時の対応医療器機が必要な障害者の為の非常用電源(蓄電池)などの確保や給付等。(女性、40～44 歳)

【知的障害者】

- ・台風の時、避難勧告が来たが、避難所での生活は難しいと思い、自宅にいました。障害を持つ人に配慮していただける避難所を確保していただきたいと思いました。(男性、25～29 歳)【母親】

【精神障害者】

- ・台風などによる避難判断がやはり難しい。また市役所にて災害時要援護者登録したものの、その支援になって下さる人の面接や連絡が来なくてそろそろ 1 年以上経つので落ち着いたらまた行こうかと。(女性、35～39 歳)

【難病患者】

- ・台風避難勧告の時に行政と人とのつながりが大事だと思いました。(女性、65 歳以上)

(12)生活の不安 (9件)

【知的障害者】

- ・ 普通には就労できず、障害者枠では収入が低くすぎて、今後家庭を築いていくのに、生活できない。将来設計が不安です。20万以下では、家庭を持ってない。(男性、18～24歳)【母親】

【精神障害者】

- ・ 親の支援無き後自立、生活できるように手助けをしてほしい。(男性、18～24歳)

(13)就労 (9件)

【身体障害者】

- ・ 年齢が高くても働ける場。(女性、65歳以上)

【知的障害者】

- ・ 市の施設での働く場を増やしてほしい(市役所、文化センター、給食センターなど)。(男性、25～29歳)【母親】
- ・ 現在、一般就労で務めておりますが、生活の支援をして下さっている方が自分の相談、悩みを聞いていただけるので感謝の気持ちが大きいです。障害者の方もやがて健常者と同等に働ける環境を作っていただくことが今後の私自身のご要望でもあります。(男性、40～44歳)

【精神障害者】

- ・ まずは自立できることが必要と考えます。就労支援や住宅補助、必要に応じて利用できる相談窓口を充実させることを切に希望します。(女性、40～44歳)

(14)住宅 (8件)

【身体障害者】

- ・ 車イス等の生活になった時のリフォームに予算はないので、とても不安です。(女性、65歳以上)

【精神障害者】

- ・ 自立したく都営住宅市営住宅を希望しましたが、何度も落ちあきらめました。障害年金も数ヶ月不払いの為もらえず、働く収入もこれから先かぎられているので、一般の賃貸住宅しかないとなると、なかなかきびしいものです。そういった者にも、入居できる住まいが多くあったのなら、と考えます。(男性、30～34歳)【不明】

(15)交流 (8件)

【身体障害者】

- ・ 常に地域の皆と良いコミュニケーションが取れている事が大切。(男性、65歳以上)

- ・外へ出づらい。どこへでもどんな人が集まるのが普通な生活ができたらと思う。(女性、50～54歳)
- ・声がけ運動が大切。笑顔で、やさしく暖かい言葉を一言かけましょう。(女性、65歳以上)

(16)文化・スポーツ活動 (6件)

【身体障害者】

- ・私は視覚障害者です。朗読CD 図書を充実してほしい。(女性、65歳以上)【その他】

【知的障害者】

- ・知的障害はあっても「くらやみ祭り」に参加出来る仕組みがあればいいと思う。(男性、18～24歳)【母親】

(17)親亡き後の不安 (6件)

【知的障害者】

- ・親が面倒を見る事が出来なくなっからの対応について、相談にのってほしい。(女性、18～24歳)【母親】

(18)交通手段 (5件)

【身体障害者】

- ・交通網の充実(ちゅうバスの普及、経路の拡大)。(男性、60～64歳)
- ・西府町には、ちゅうバスが走っていません。これから高齢になると、配偶者も年なので、運転があぶなくなり、どこへも出かけられなくなります。(女性、65歳以上)

(19)近所づきあい (3件)

【身体障害者】

- ・地域の人の障害状況をある程度把握できると、見守りや手助けができると思います。こちらが注意することで、配慮もできると思います。(男性、65歳以上)【子ども】

(20)放課後等デイサービス (2件)

【精神障害者】

- ・高等部までは放課後等デイサービスがあり余暇を他の方と過ごせる時間があったのですが、卒業後、余暇を過ごす場所がなくなり、生活が変わってしまった。移動支援もヘルパー不足。障害者が共有できる施設をつくって頂きたいです。(男性、18～24歳)【母親】

(21)教育 (2件)

【知的障害者】

- ・ 家庭の取り組みにより、かなり生き方に差が生じているところがあると思います。子育ての段階から学校等と市が連携し見守る体制を具体的につくり、障害等のある人たちが自分らしく幸せに暮らせる取り組みを行っていただきたいです。(男性、18～24歳)【母親】

【難病患者】

- ・ 健常者と一緒に自由に生活できるようにバリアフリー化をすすめる。小学校、中学校、高校でも障害者と一緒に教育を受けるようにする。(男性、55～59歳)

(22)家族への支援 (2件)

【精神障害者】

- ・ 親が仕事を続けられる環境ではない。卒業後、急に朝はゆっくりの遅い時間に帰りは早い時間に。作業開始時間 10 時は遅い。9 時半位でないと、親は毎回遅刻で仕事が回らない。(女性、18～24歳)【母親】

(23)医療 (2件)

(24)謝意や政策への期待 (27件)

【精神障害者】

- ・ 今後も当事者の声を聞きながら一つ一つの施策実現のために頑張ってください。(男性、18～24歳)【母親】
- ・ 府中市は福祉サポートが、他の区や市に比べても整っていると思います。いい病院も多いし、住みやすいです。公共施設もきれいで使いやすいのが嬉しいです。(女性、25～29歳)

(25)その他 (93件)

第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

2-1 調査結果の概要

(1) 回答者について

記入される方とあて名のお子さん(以下、お子さん)との関係についておたずねします。

(1つに○)(F1)

- ・「母親」(89.5%)が最も多く、次いで「父親」(9.5%)が続いている。

図表 記入者とお子さんの関係 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：84.3%、知的：89.0%、精神：97.1%、難病：80.0%、サービス利用：92.1%)が最も多く、次いで「父親」(身体：14.3%、知的：9.8%、精神：2.9%、難病：20.0%、サービス利用：7.9%)が続いている。

図表 記入者とお子さんの関係 (障害等の種類別)

		(%)					
		母親	父親	祖父	祖母	その他	無回答
全体	(N=651)	89.5	9.5	0.0	0.5	0.2	0.3
障害等の種類	身体障害 (n=70)	84.3	14.3	0.0	0.0	0.0	1.4
	知的障害 (n=348)	89.0	9.8	0.0	0.6	0.3	0.3
	精神障害者 (n=34)	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	92.1	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 子どもの基本属性について

お子さんはどちらにお住まいですか。(1つに○)(F2)

*市内にお住まいの方は 内にも記入してください。

- ・「市内」が99.2%である。
- ・「市内」と回答した人を市内11か所の文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(16.0%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(11.6%)、「住吉文化センター圏域」(11.3%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「市内」(身体:98.6%、知的:99.4%、精神:100.0%、難病:100.0%、サービス利用:99.4%)である。
- ・身体障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(14.7%)が最も多く、次いで「西府文化センター圏域」(13.0%)、「住吉文化センター圏域」(13.0%)が同率で続いている。
- ・知的障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(17.5%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(11.6%)、「住吉文化センター圏域」(10.7%)が続いている。
- ・精神障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(17.8%)が最も多く、次いで「是政文化センター圏域」(17.6%)、「白糸台文化センター圏域」(14.7%)と「紅葉丘文化センター圏域」(14.7%)が同率で続いている。
- ・難病患者を文化センター圏域ごとにとみると「新町文化センター圏域」が40.0%(5人中2人)、「片町文化センター圏域」が20.0%(5人中1人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者を文化センター圏域ごとにとみると「片町文化センター圏域」(14.9%)が最も多く、次いで「中央文化センター圏域」(13.1%)、「住吉文化センター圏域」(12.5%)が続いている。

図表 文化センター圏域 (全体、障害等の種類別)

		(%)						
		中央文化センター圏域	白糸台文化センター圏域	西府文化センター圏域	武蔵台文化センター圏域	新町文化センター圏域	住吉文化センター圏域	
全体	(n=646)	16.0	11.6	9.4	5.4	7.6	11.3	
障害等の種類	身体障害者 (n=69)	14.7	11.6	13.0	5.8	2.9	13.0	
	知的障害者 (n=346)	17.5	11.6	8.7	7.2	8.7	10.7	
	精神障害者 (n=34)	17.8	14.7	8.8	8.8	0.0	5.9	
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=176)	13.1	11.9	10.8	1.1	8.5	12.5	

		是政文化センター圏域	紅葉丘文化センター圏域	押立文化センター圏域	四谷文化センター圏域	片町文化センター圏域	無回答
全体	(n=646)	8.2	9.1	2.9	5.4	10.2	2.9
障害等の種類	身体障害者 (n=69)	10.1	7.2	2.9	4.3	8.7	5.8
	知的障害者 (n=346)	6.9	9.0	2.9	5.8	9.0	2.0
	精神障害者 (n=34)	17.6	14.7	0.0	8.8	2.9	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=176)	8.5	9.1	2.8	4.5	14.9	2.3

お子さんの性別と年齢をお答えください。(1つに○)(F3)

性別 *戸籍上の区別とは別にお子さんのお気持ちを踏まえて、ご記入ください。(F3(1))

- ・「男性」が65.9%、「女性」が33.5%である。

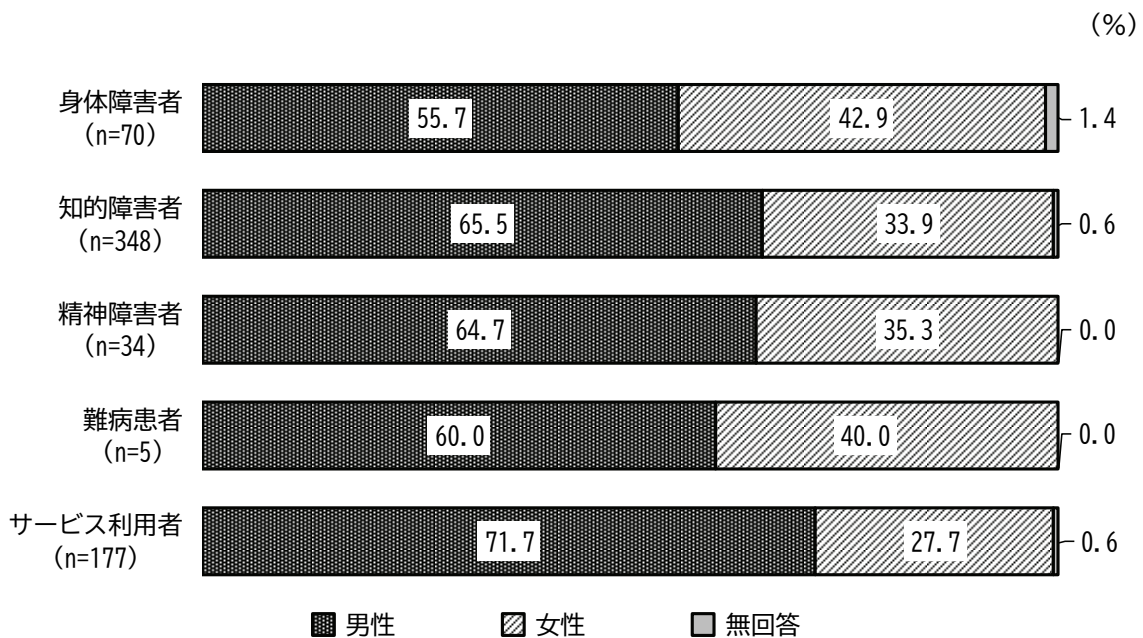
図表 宛名のお子さんの性別 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「男性」が55.7%、「女性」が42.9%である。
- ・知的障害者は「男性」が65.5%、「女性」が33.9%である。
- ・精神障害者は「男性」が64.7%、「女性」が35.3%である。
- ・難病患者は「男性」が60.0%(5人中3人)、「女性」が40.0%(5人中2人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「男性」が71.7%、「女性」が27.7%である。

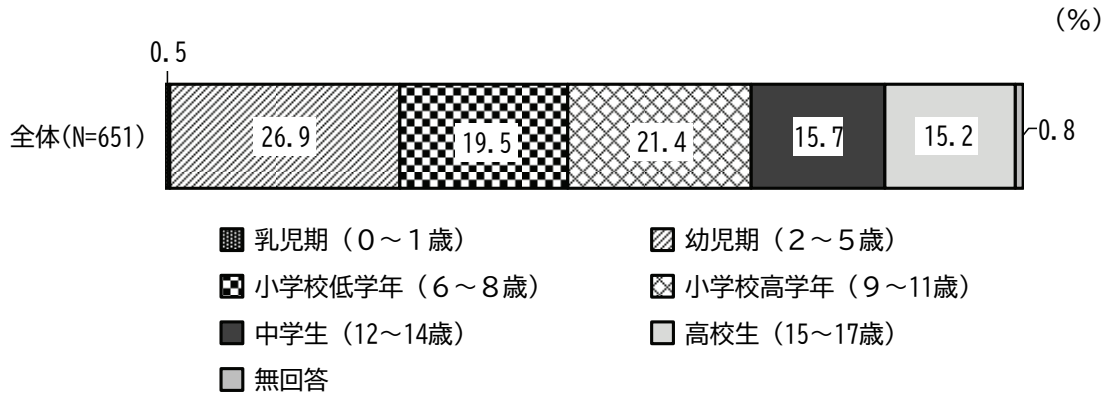
図表 宛名のお子さんの性別 (障害等の種類別)



年齢 *平成31年4月1日現在の年齢でお答えください。(F3(2))

- ・「幼児期(2～5歳)」(26.9%)が最も多く、次いで「小学校高学年(9～11歳)」(21.4%)、「小学校低学年(6～8歳)」(19.5%)が続いている。

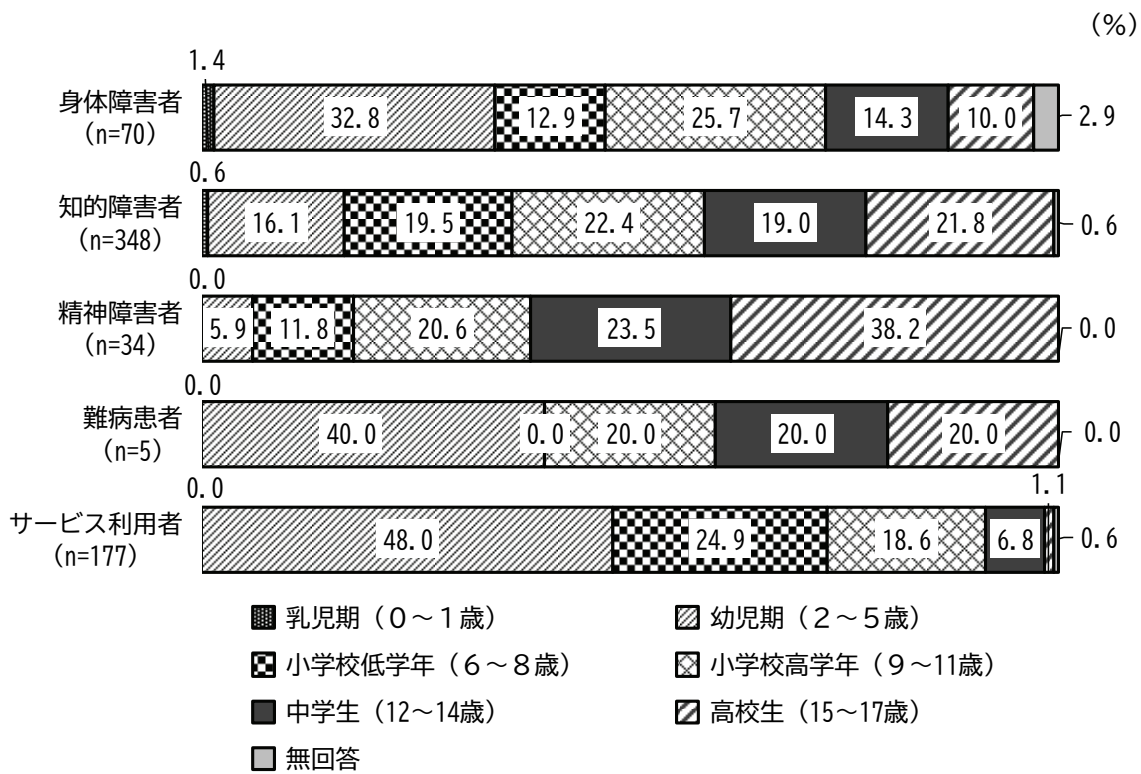
図表 宛名のお子さんの年齢（全体）



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「幼児期(2～5歳)」(32.8%)が最も多く、次いで「小学校高学年(9～11歳)」(25.7%)、「中学生(12～14歳)」(14.3%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「小学校高学年(9～11歳)」(22.4%)が最も多く、次いで「高校生(15～17歳)」(21.8%)、「小学校低学年(6～8歳)」(19.5%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「高校生(15～17歳)」(38.2%)が最も多く、次いで「中学生(12～14歳)」(23.5%)、「小学校高学年(9～11歳)」(20.6%)が続いている。
- ・ 難病患者は「幼児期(2～5歳)」(40.0%)が5人中2人で最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「幼児期(2～5歳)」(48.0%)が最も多く、次いで「小学校低学年(6～8歳)」(24.9%)、「小学校高学年(9～11歳)」(18.6%)が続いている。

図表 宛名のお子さんの年齢（障害等の種類別）



お子さんがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。(F4)

- ・ 身体障害者手帳の所持者は130人である。等級は「1級」(50人)が最も多く、次いで「2級」(30人)、「3級」(23人)が続いている。年代別では学齢期が56人と最も多い。
- ・ 愛の手帳の所持者は348人である。「4度」(169人)が最も多く、次いで「2度」(96人)、「3度」(76人)が続いている。年代別では学齢期が146人と最も多い。
- ・ 精神障害者保健福祉手帳の所持者は36人である。「3級」(26人)が最も多く、次いで「2級」(9人)、「1級」(1人)である。年代別では中学校卒業後～17歳が22人と最も多い。
- ・ 特定医療費受給者証の所持者は16人である。年代別では中学校卒業後～17歳が7人と最も多い。
- ・ 児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の所持者は369人である。年代別では学齢期が159人と最も多い。

図表 所持する手帳の程度(全体、年代別)

【身体障害者手帳】

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	所持者数 (再掲)
全体	(N=651)	50	30	23	16	5	6	521	130
年代別									
	乳幼児期 (n=179)	8	9	6	7	0	1	148	31
	学齢期 (n=266)	28	11	8	5	2	2	210	56
	中学校卒業後～17歳 (n=201)	14	10	9	3	2	3	160	41

【愛の手帳】

		1度	2度	3度	4度	非該当	所持者数 (再掲)
全体	(N=651)	7	96	76	169	303	348
年代別							
	乳幼児期 (n=179)	0	6	14	38	121	58
	学齢期 (n=266)	4	40	36	66	120	146
	中学校卒業後～17歳 (n=201)	3	49	25	65	59	142

【精神障害者保健福祉手帳】

		1級	2級	3級	非該当	所持者数 (再掲)
全体	(N=651)	1	9	26	615	36
年代別						
	乳幼児期 (n=179)	1	2	0	176	3
	学齢期 (n=266)	0	1	10	255	11
	中学校卒業後～17歳 (n=201)	0	6	16	179	22

【特定医療費受給者証】

		受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体	(N=651)	16	121	514	16
年代別					
	乳幼児期 (n=179)	3	27	149	3
	学齢期 (n=266)	6	48	212	6
	中学校卒業後～17歳 (n=201)	7	45	149	7

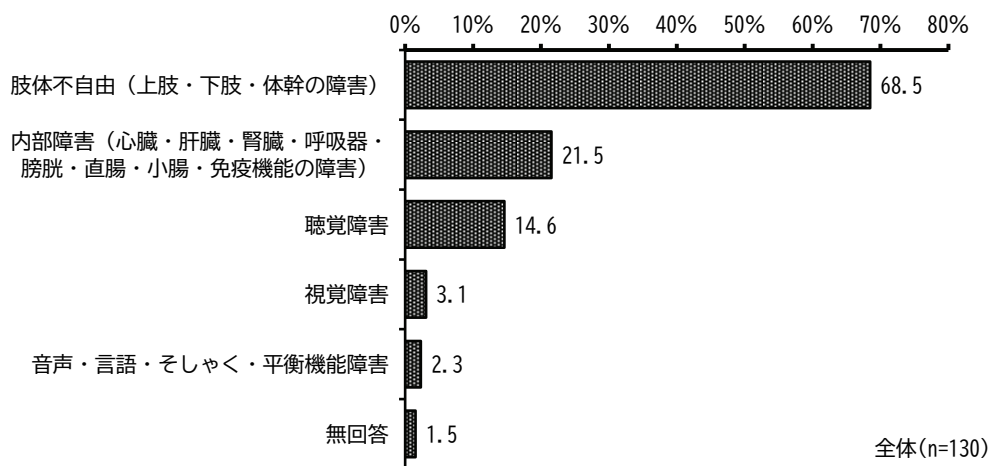
【児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証】

		受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体	(N=651)	369	46	236	369
年代別					
	乳幼児期 (n=179)	126	10	43	126
	学齢期 (n=266)	159	16	91	159
	中学校卒業後～17歳 (n=201)	82	19	100	82

身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。お子さんの身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。(いくつでも○)(F5)

- ・「肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)」(68.5%)が最も多く、次いで「内部障害(心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害)」(21.5%)、「聴覚障害」(14.6%)が続いている。

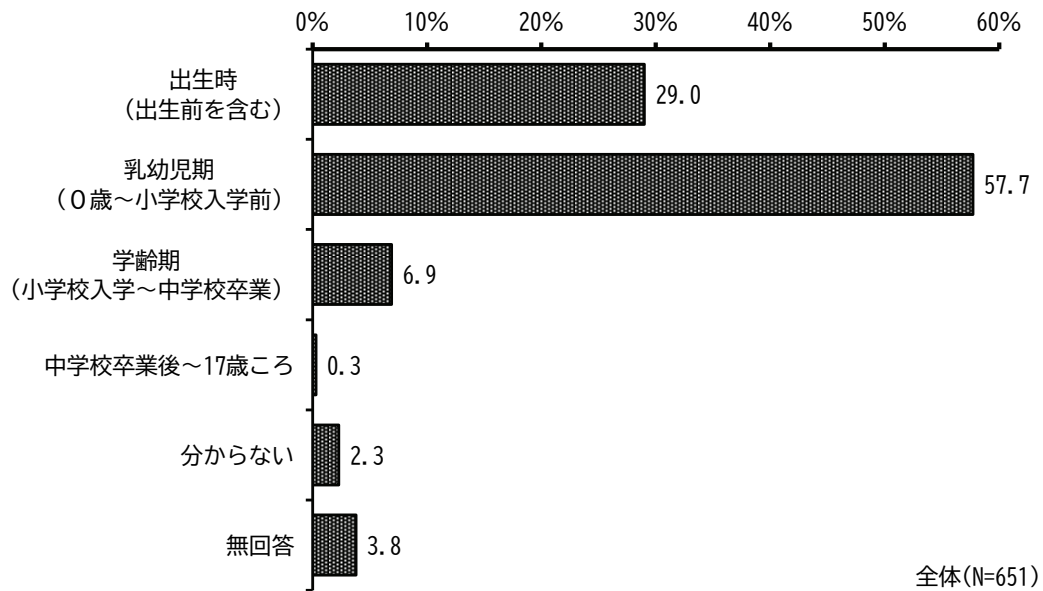
図表 身体障害者手帳に記載された項目 (全体)



お子さんの主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)(F6)

- ・「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(57.7%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(29.0%)、「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(6.9%)が続いている。8割以上が小学校入学前に主な障害や疾病が生じている。

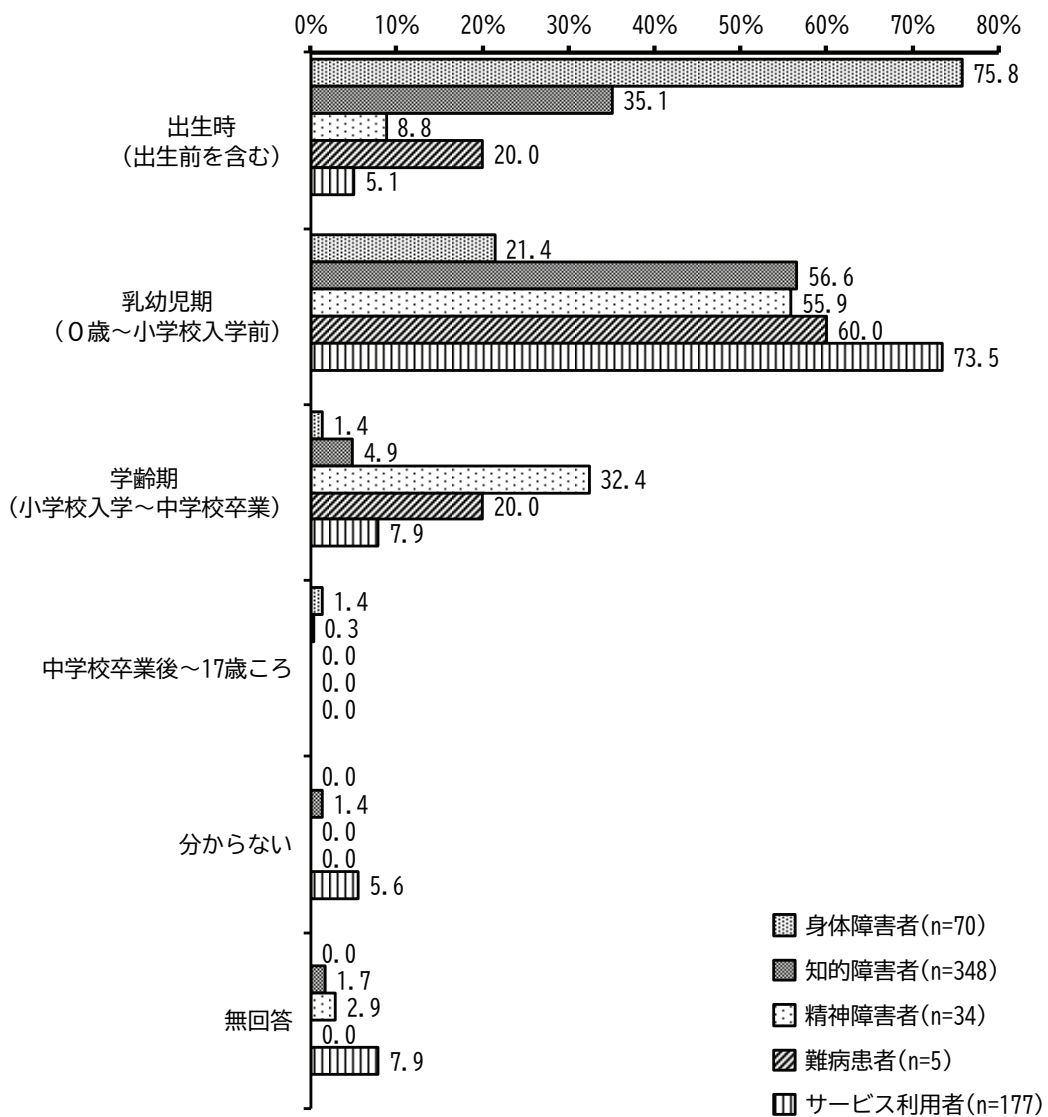
図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「出生時(出生前を含む)」(75.8%)が最も多く、次いで「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(21.4%)となっている。
- ・知的障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(56.6%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(35.1%)となっている。
- ・精神障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(55.9%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(32.4%)となっている。
- ・難病患者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(60.0%)が5人中3人と最も多い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(73.5%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(7.9%)となっている。

図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期（障害等の種類別）



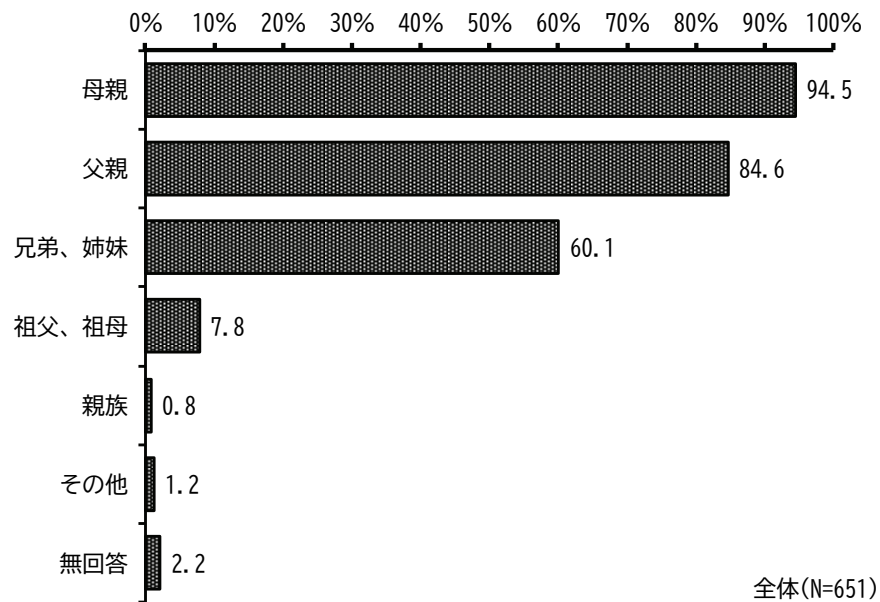
お子さんと同居*している方はどなたですか。(いくつでも○)(F7)

*2世帯住宅は同居としてお答えください。

*お子さんの父母の親族を含めてお答えください。

- ・「母親」(94.5%)が最も多く、次いで「父親」(84.6%)、「兄弟、姉妹」(60.1%)が続いている。

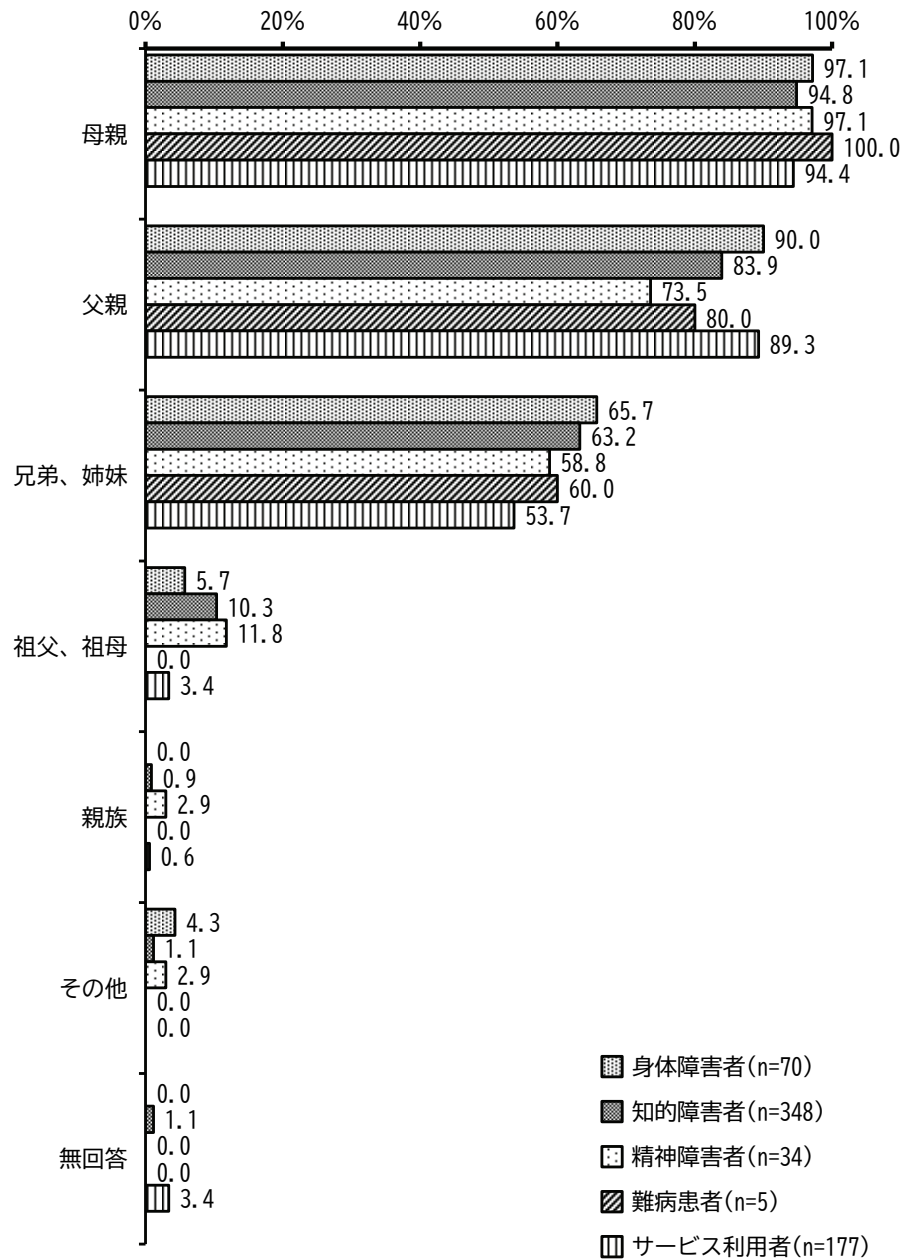
図表 宛名のお子さんの同居者（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：97.1%、知的：94.8%、精神：97.1%、難病：100.0%、サービス利用：94.4%)が最も多く、次いで「父親」(身体：90.0%、知的：83.9%、精神：73.5%、難病：80.0%、サービス利用：89.3%)、「兄弟、姉妹」(身体：65.7%、知的：63.2%、精神：58.8%、難病：60.0%、サービス利用：53.7%)となっている。

図表 宛名のお子さんの同居者（障害等の種類別：複数回答）

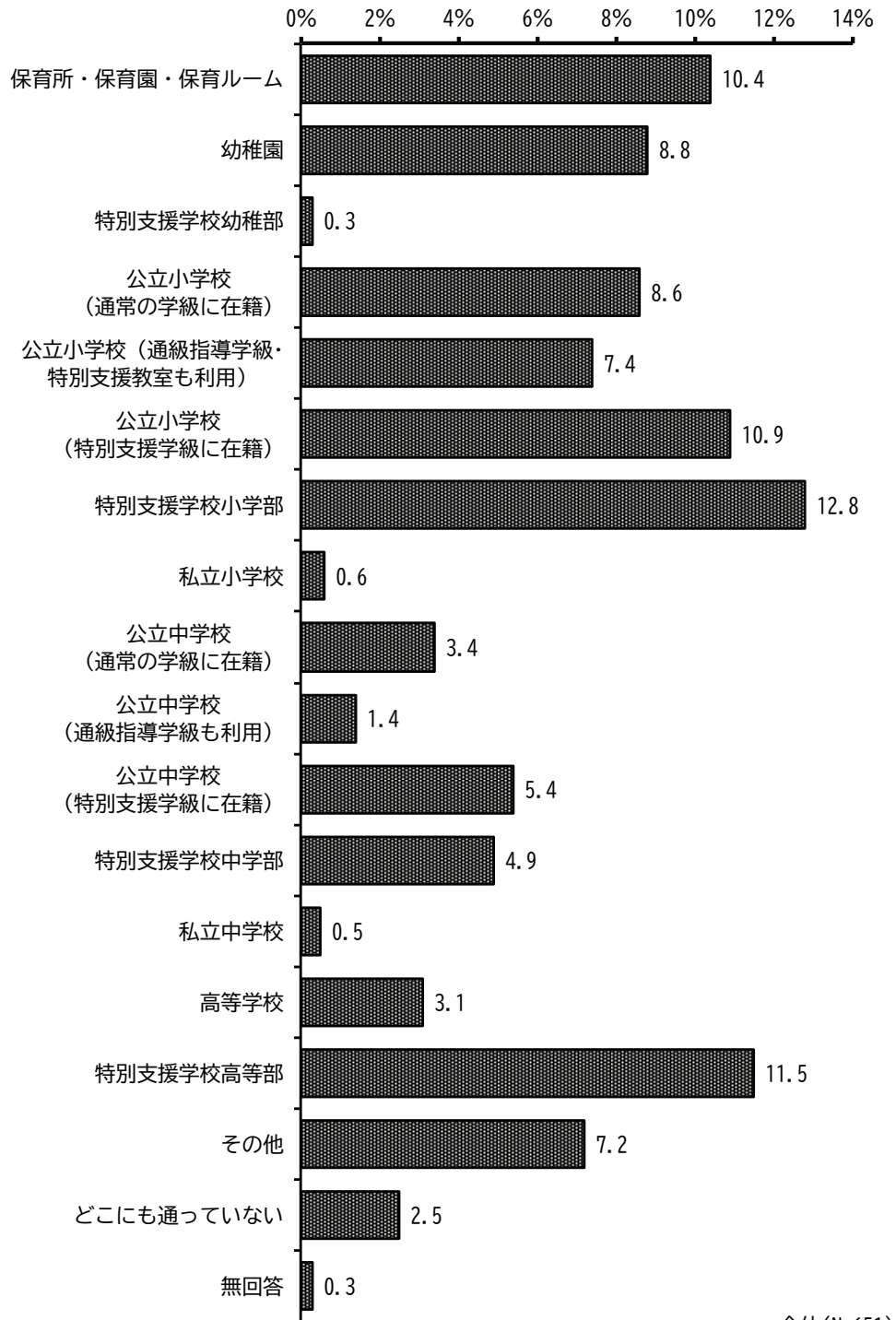


(3) 通園・通学の状況について

問1 お子さんは現在、保育所・保育園・幼稚園や学校に通っていますか。(1つに○)

- ・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた〈現在、通園・通学している人〉は97.2%である。

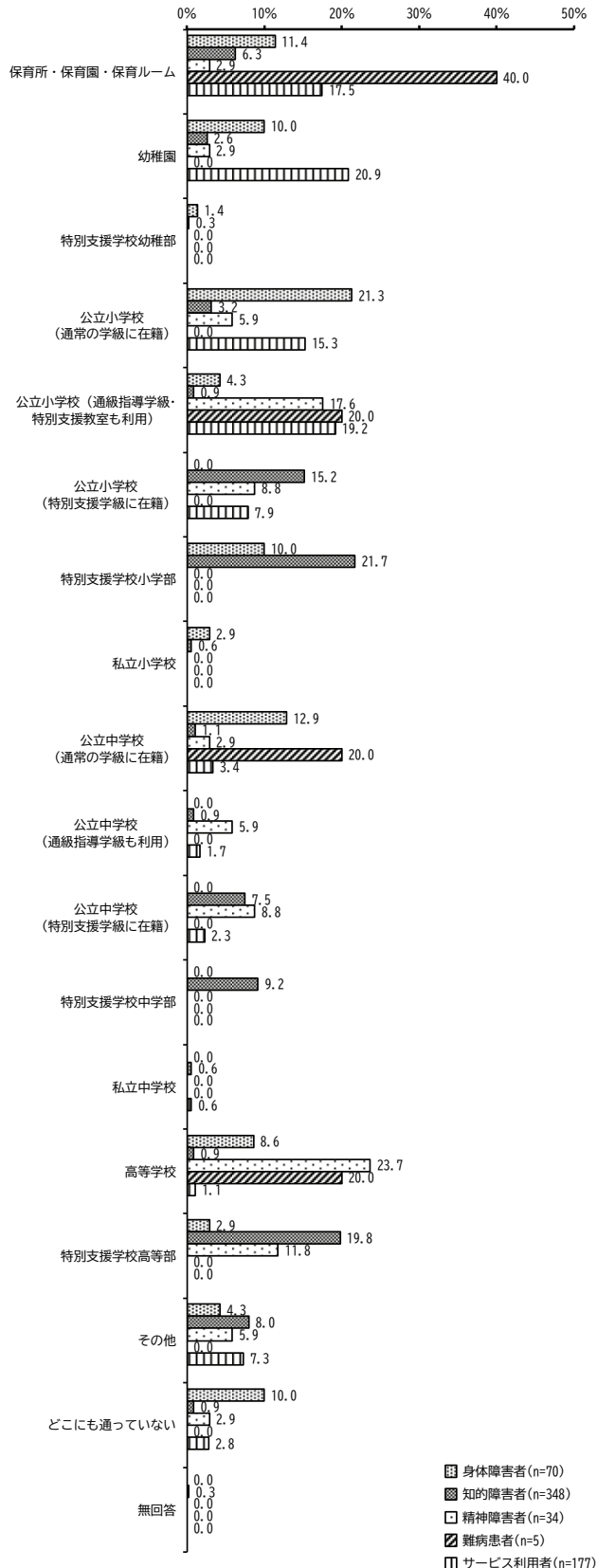
図表 通園・通学先（全体）



【障害等の種類別】

・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた<現在、通園・通学している人>は、身体障害者は90.0%、知的障害者は98.8%、精神障害者は97.1%、難病患者は100.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は97.2%である。

図表 通園・通学先（障害等の種類別）

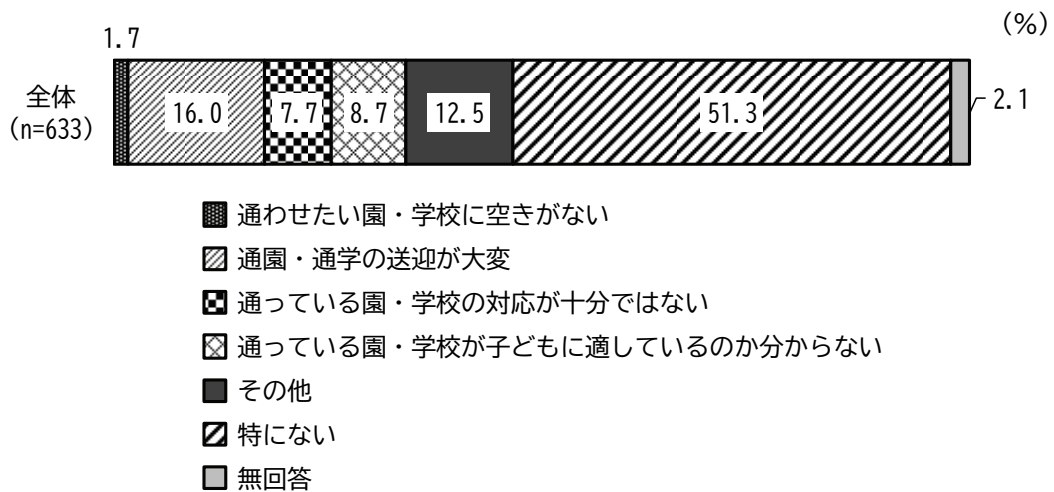


問 1-1 問 1 で「1」～「16」と答えた方におたずねします。

お子さんの通園・通学で、困っていることはありますか。(1つに○)

- ・ 通園・通学で困っていることは、「特にない」(51.3%)と「無回答」(2.1%)を除く 46.6%がなんらかの理由で困っている。「通園・通学の送迎が大変」(16.0%)が最も多い。「その他」(12.5%)として、障害への理解がない、医療的ケアが必要、学区内の学校に特別支援学級がない、小学校の時の子どもの状況などが中学校へひきつがれていない、などの記述があった。

図表 通園・通学での困りごと (全体)
 <通園・通学している人>

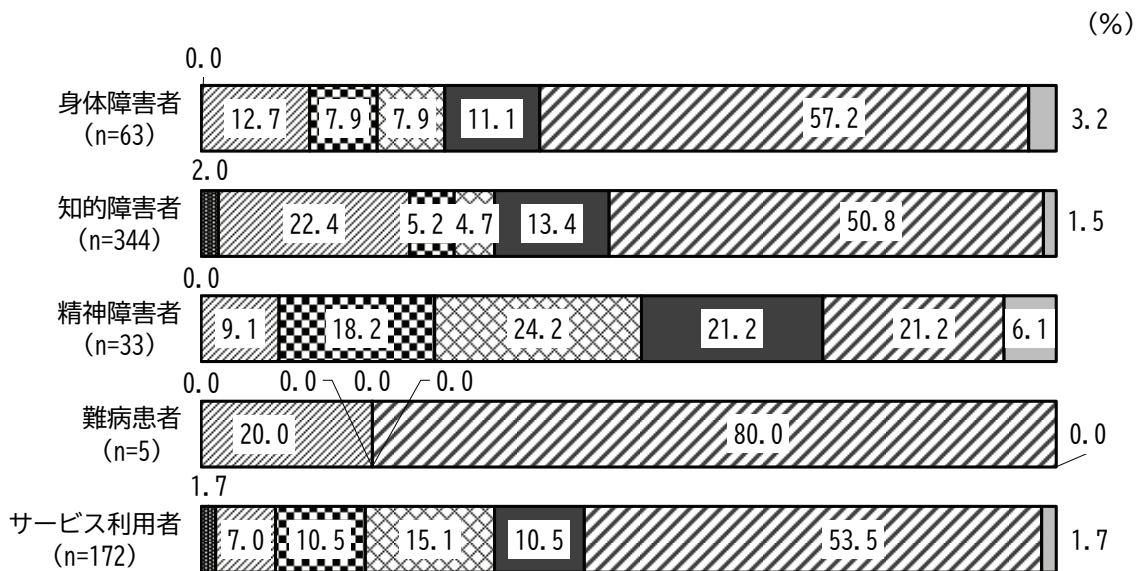


【障害等の種類別】

- ・ 「特にない」と「無回答」を除き、身体障害者は 39.6%、知的障害者は 47.7%、精神障害者は 72.7%、難病患者は 20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は 44.8%がなんらかの理由で困っている。
- ・ 身体障害者、知的障害者、難病患者は「通園・通学の送迎が大変」(身体：12.7%、知的：22.4%、難病：20.0%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」(24.2%)が最も多く、「通っている園・学校の対応が十分ではない」(18.2%)が続いているが、それぞれ全体より 15.5 ポイント、10.5 ポイント高い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」(15.1%)が最も多い。

図表 通園・通学での困りごと (障害等の種類別：複数回答)

<通園・通学している人>

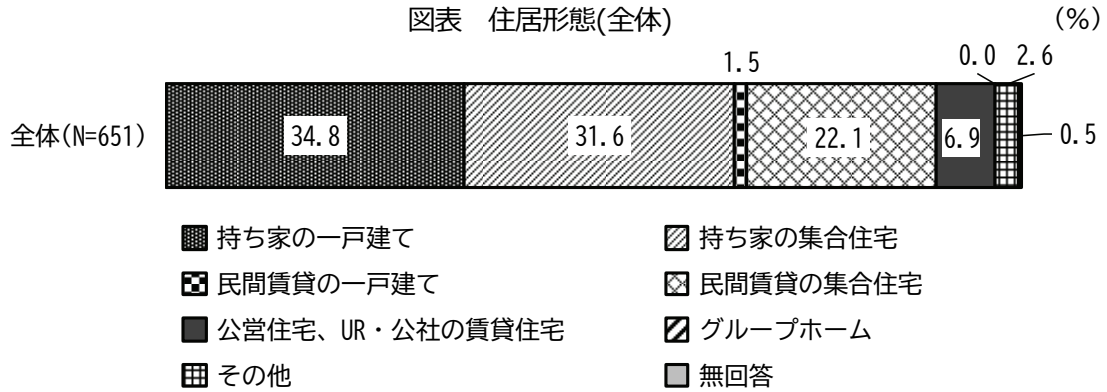


- 通わせたい園・学校に空きがない
- ▨ 通園・通学の送迎が大変
- ▩ 通っている園・学校の対応が十分ではない
- ▧ 通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない
- その他
- ▨ 特にない
- 無回答

(4) 回答者の住まいについて

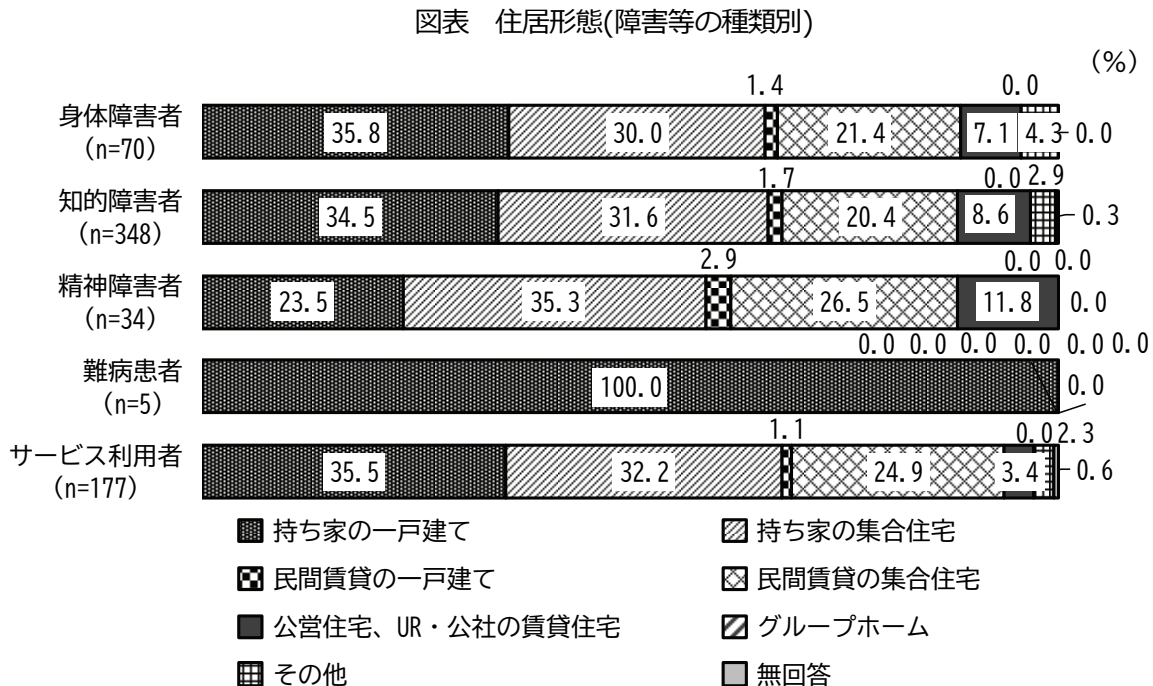
問2 あなた(記入者)のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「持ち家の一戸建て」(34.8%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(31.6%)、「民間賃貸の集合住宅」(22.1%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は全体の傾向と同様、「持ち家の一戸建て」(身体: 35.8%、知的: 34.5%、サービス利用: 35.5%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(身体: 30.0%、知的: 31.6%、サービス利用: 32.2%)、「民間賃貸の集合住宅」(身体: 21.4%、知的: 20.4%、サービス利用: 24.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「持ち家の集合住宅」(35.3%)が最も多く、次いで「民間賃貸の集合住宅」(26.5%)、「持ち家の一戸建て」(23.5%)が続いている。全体と比べて「公営住宅、UR・公社の賃貸住宅」は約5ポイント程度高い。
- ・難病患者は5人中5人が「持ち家の一戸建て」(100.0%)である。

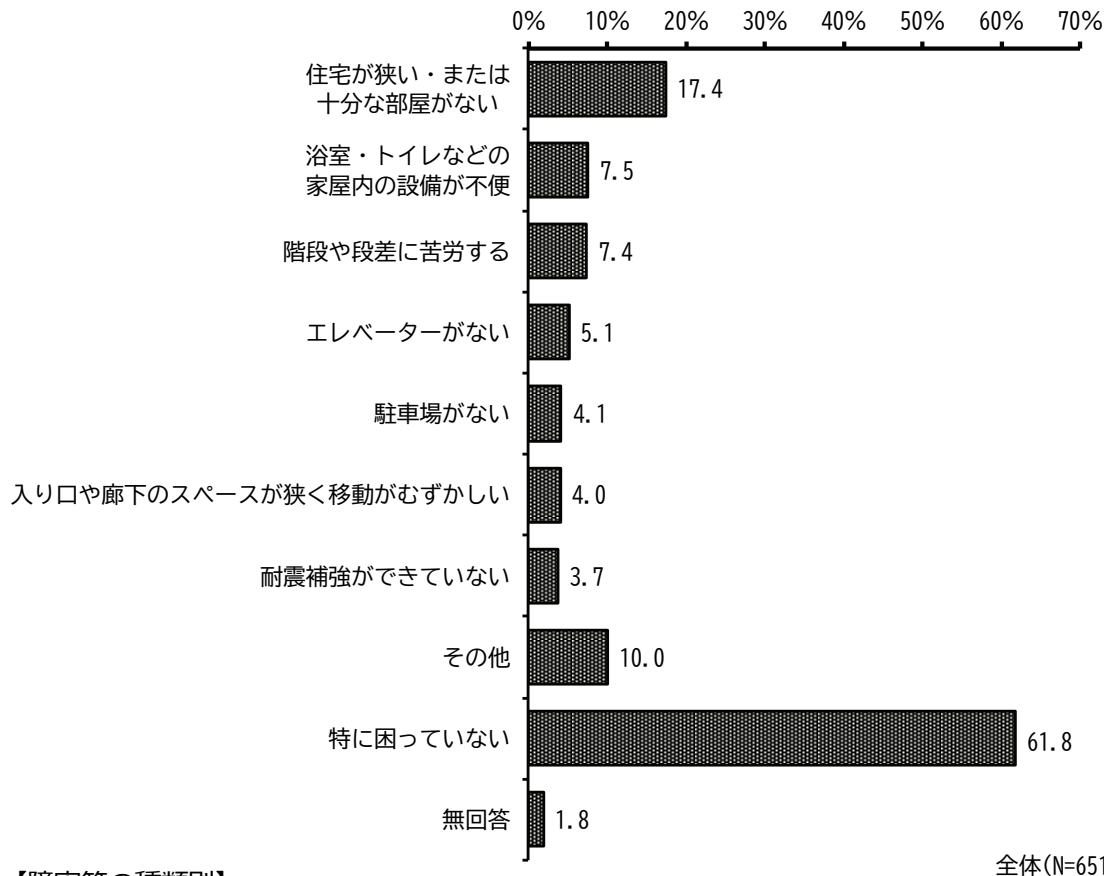


問3 お住まいについて何か困っていることがありますか。

(1)設計・設備について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(61.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.4%)が最も多く、次いで「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(7.5%)、「階段や段差に苦勞する」(7.4%)が続いている。「その他」の具体的な内容は、子どもが壁をはがして直すお金がたいへん、音が伝わりやすい、聴覚障害なので訪問者に気づかない、などである。

図表 設計・設備について困っていること：設計・設備(全体：複数回答)

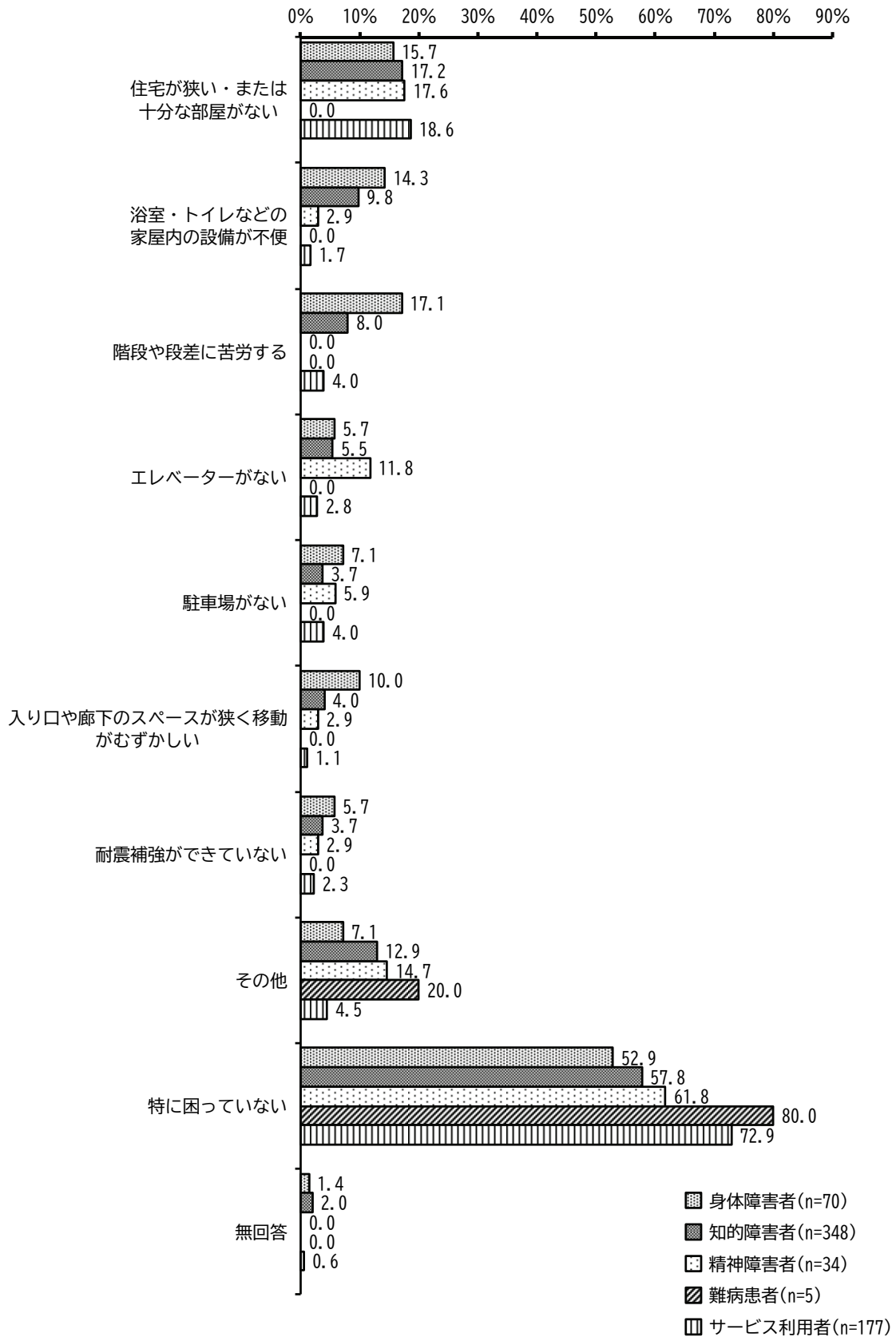


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(52.9%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦勞する」(17.1%)が最も多く、次いで「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(15.7%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(14.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(57.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.2%)、「その他」(12.9%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(9.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(61.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.6%)、「エレベーターがない」(11.8%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(80.0%)である。

- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「特に困っていない」(72.9%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(18.6%)、「その他」(4.5%)、「階段や段差に苦労する」(4.0%)と「駐車場がない」(4.0%)が同率で続いている。

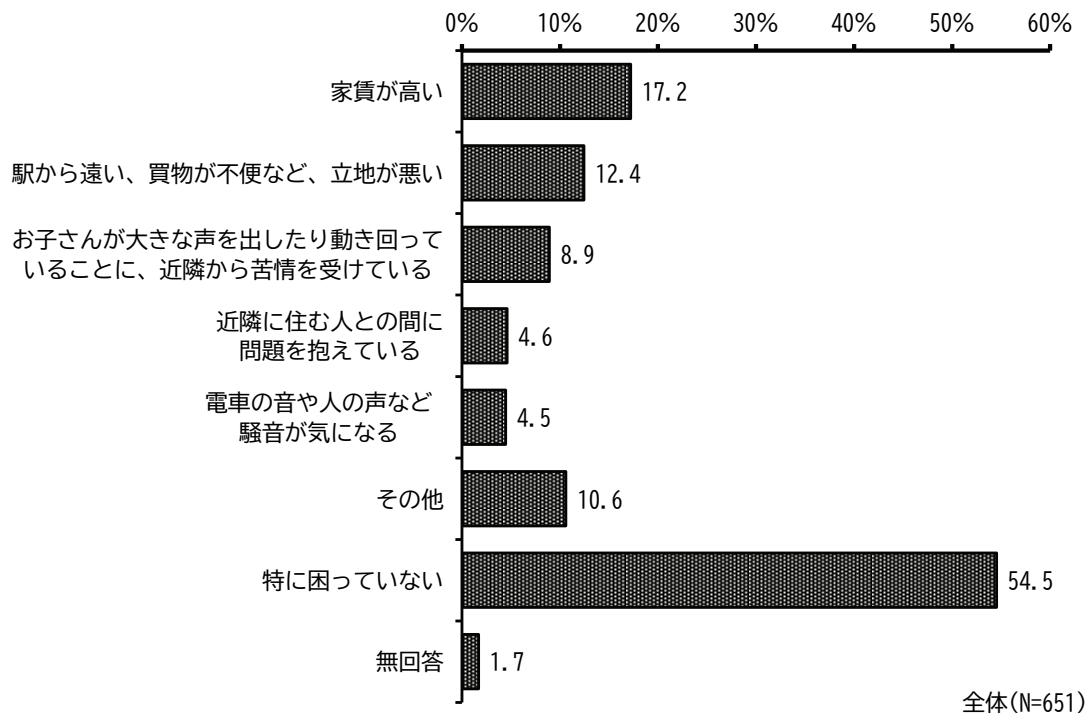
図表 設計・設備について困っていること：設計・設備(障害等の種類別：複数回答)



(2)住宅事情について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(54.5%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(17.2%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(12.4%)、「その他」(10.6%)が続いている。「その他」の具体的な内容は、学校が遠い、建物が古い、周囲への理解を得る必要がある、交流がない、などである。

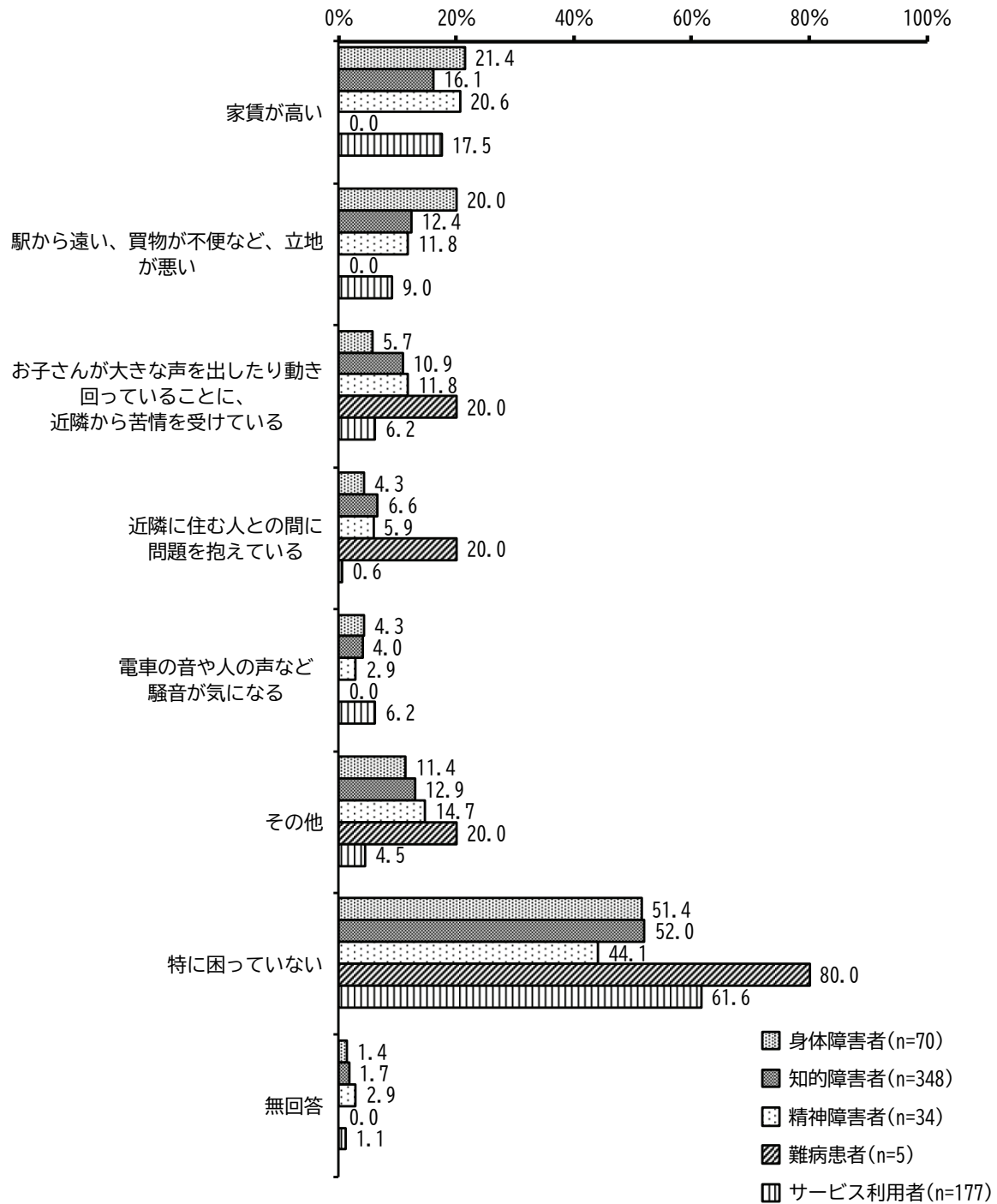
図表 住宅事情について困っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(51.4%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(21.4%)が最も多く、次いで「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(20.0%)、「その他」(11.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(52.0%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(16.1%)、「その他」(12.9%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(12.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(44.1%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(20.6%)、「その他」(14.7%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(11.8%)と「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(11.8%)が同率で続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(80.0%)が最も多いが、それ以外では「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(20.0%)や「近隣に住む人との間に問題を抱えている」(20.0%)、「その他」(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「特に困っていない」(61.6%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(17.5%)が最も多く、次いで「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(9.0%)、「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(6.2%)と「電車の音や人の声など騒音が気になる」(6.2%)が同率で続いている。

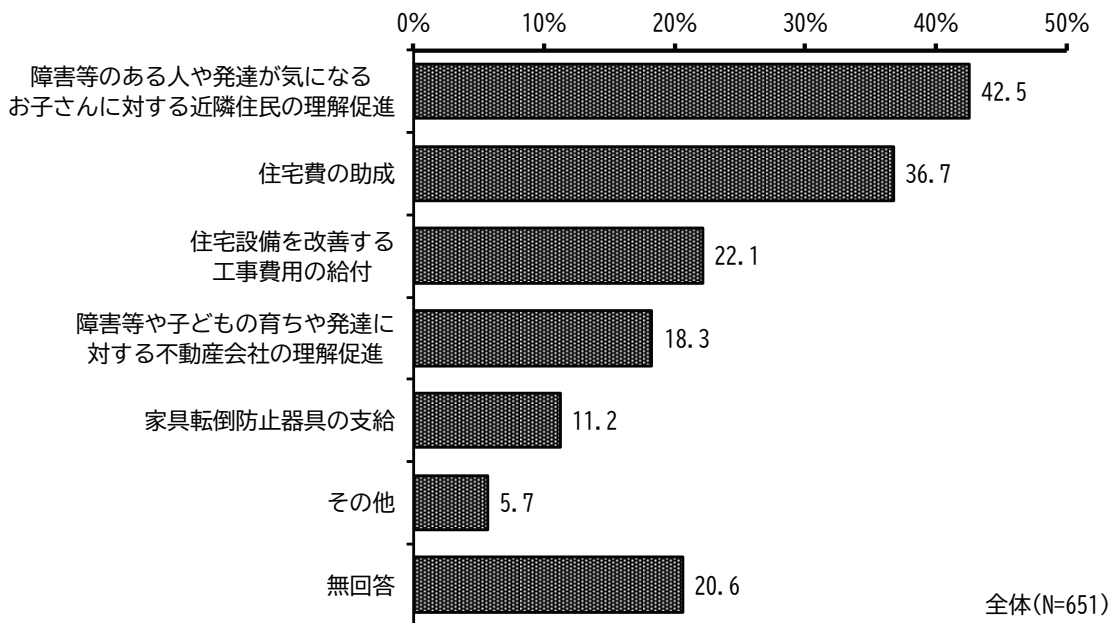
図表 住宅事情について困っていること(障害等の種類別：複数回答)



問4 お住まいに関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(42.5%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(36.7%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(22.1%)が続いている。

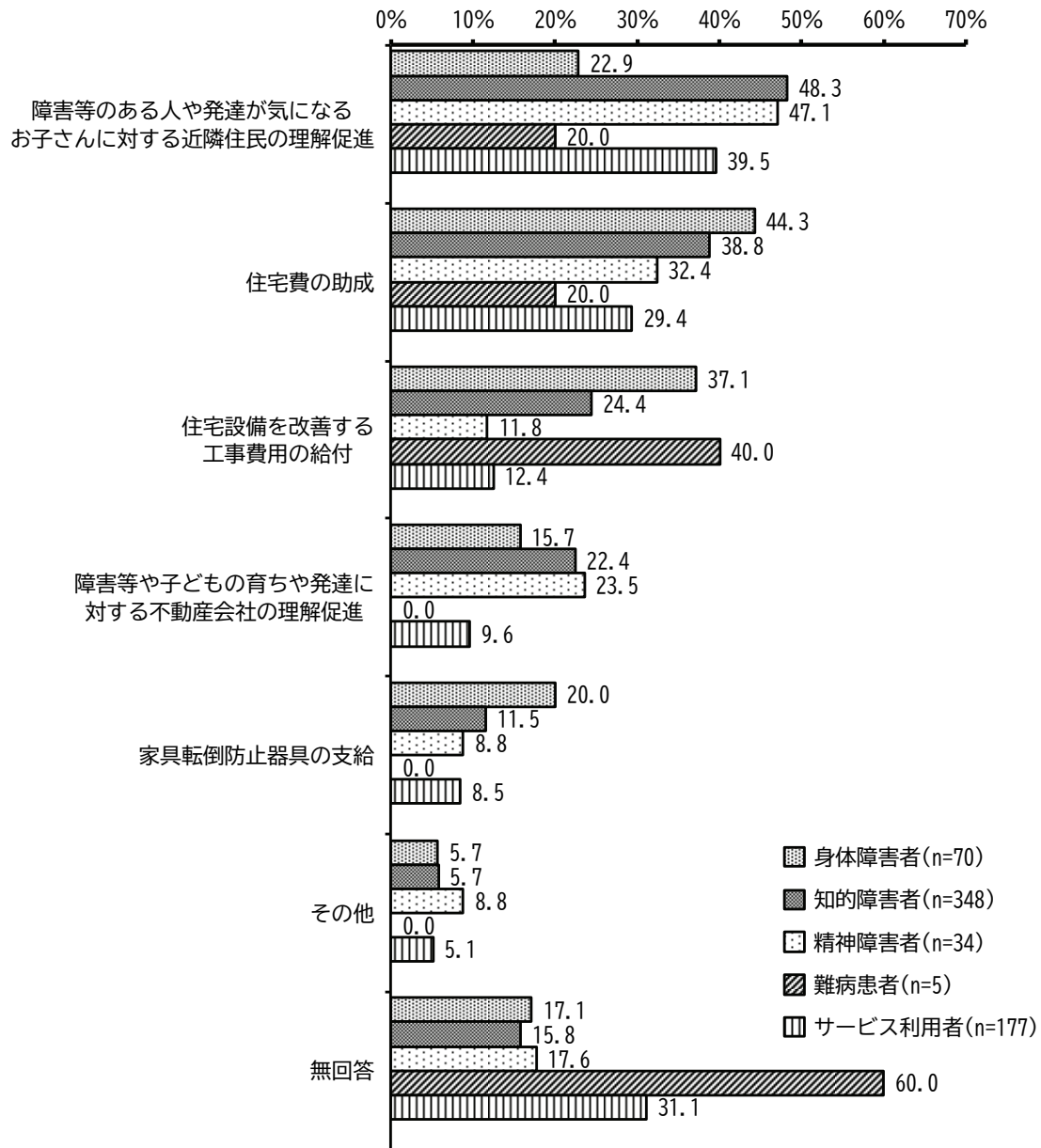
図表 住居の困りごとに対して希望する支援(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「住宅費の助成」(44.3%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(37.1%)、「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(22.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(48.3%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(38.8%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(24.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(47.1%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(32.4%)、「障害等や子どもの育ちや発達に対する不動産会社の理解促進」(23.5%)が続いている。
- ・難病患者は5人中2人が「住宅設備を改善する工事費用の給付」である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(39.5%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(29.4%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(12.4%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援(障害等の種類別：複数回答)



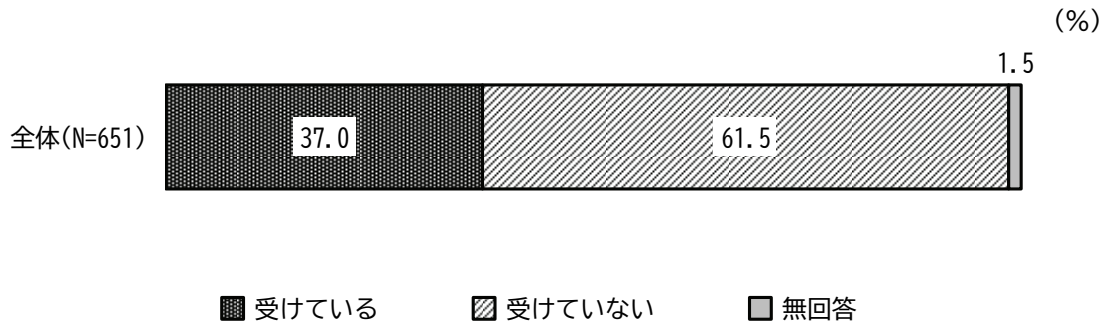
(5) 日常生活について

問5 お子さんは、日常生活において障害や疾病などがあるために何らかの介助を受けていますか。

(1つに○)

- ・「受けている」は37.0%、「受けていない」は61.5%である。

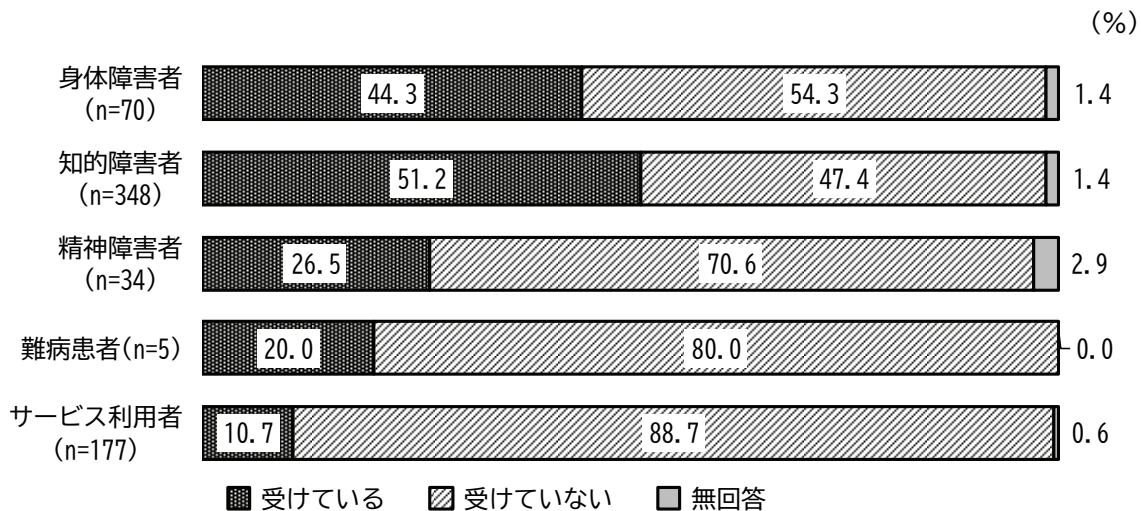
図表 介助の状況(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けている」は44.3%、「受けていない」は54.3%である。
- ・知的障害者は「受けている」は51.2%、「受けていない」は47.4%である。
- ・精神障害者は「受けている」は26.5%、「受けていない」は70.6%である。
- ・難病患者は「受けている」は20.0%、「受けていない」は80.0%である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「受けている」は10.7%、「受けていない」は88.7%である。

図表 介助の状況(障害等の種類別)

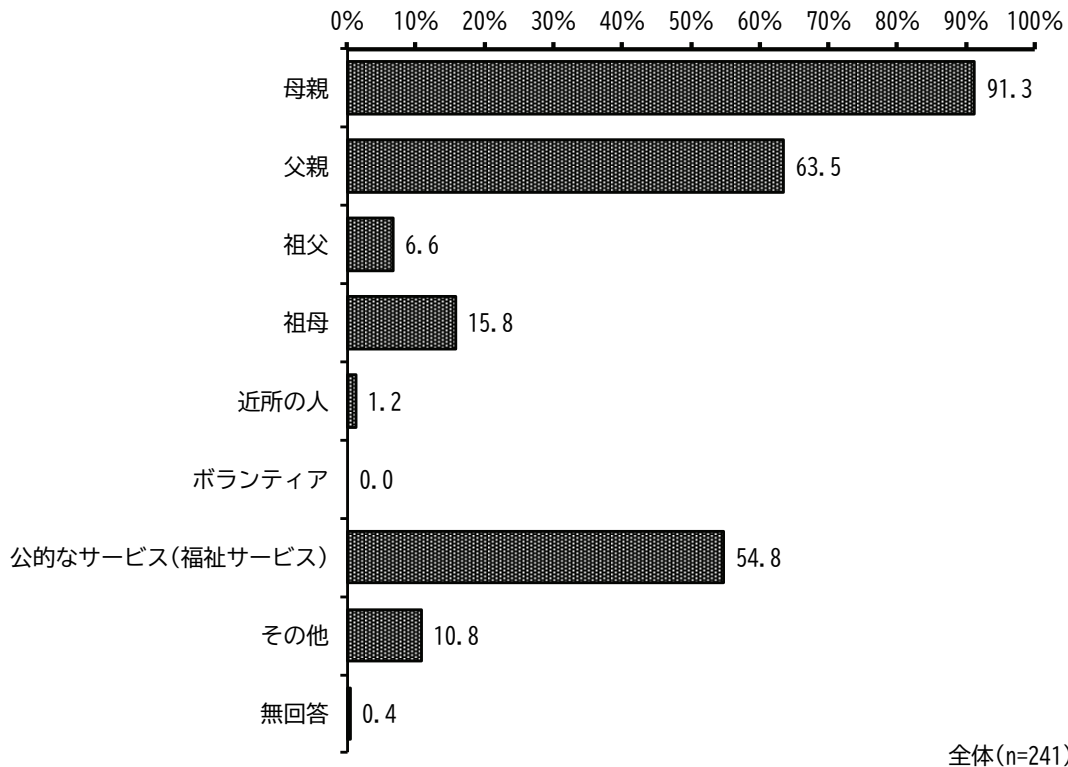


問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(1)介助をしている人はどなたですか。(いくつでも○)

- ・「母親」(91.3%)が最も多く、次いで「父親」(63.5%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(54.8%)が続いている。

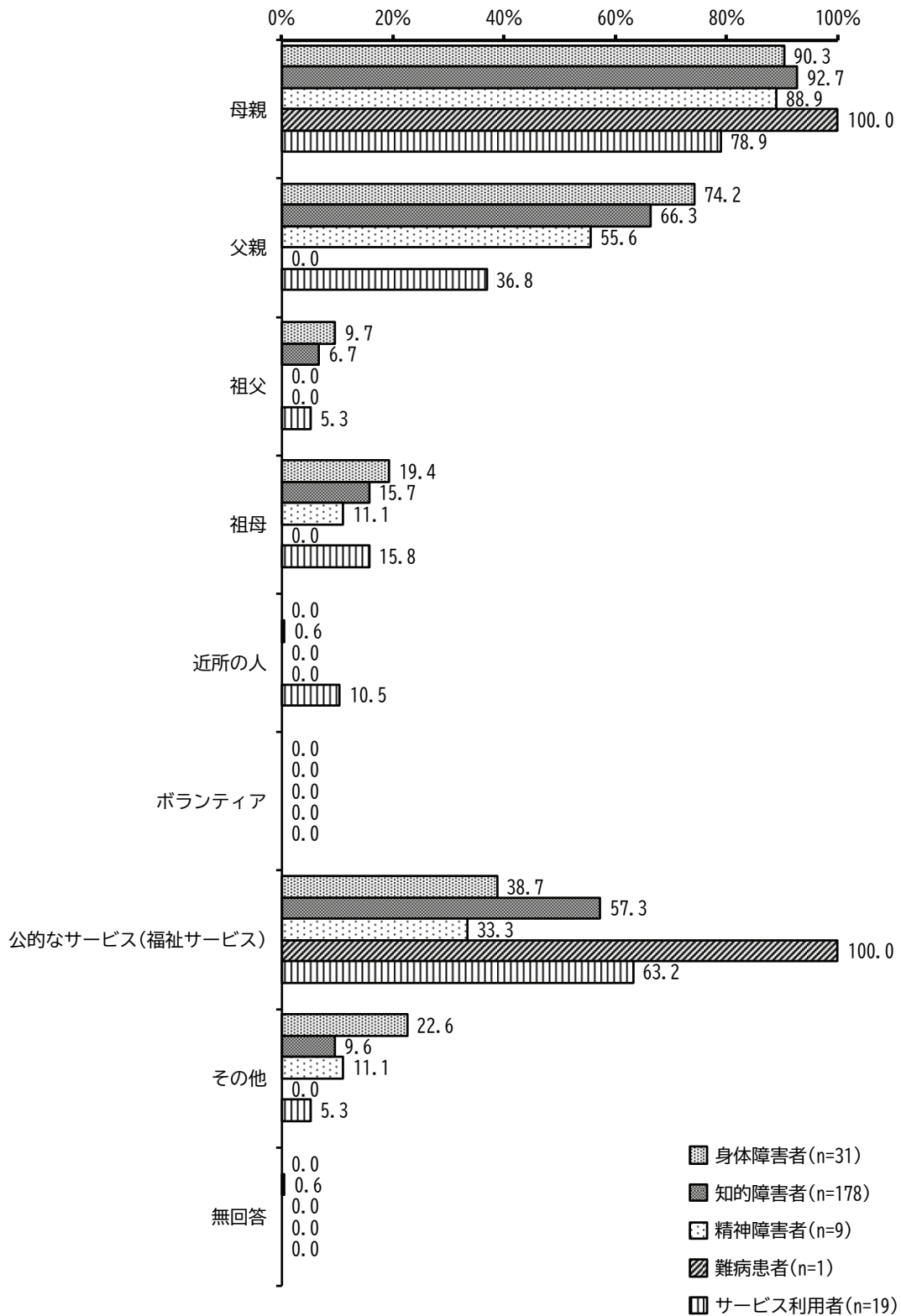
図表 介助の状況(全体：複数回答)
 <介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は全体と同様、「母親」(身体：90.3%、知的：92.7%、精神：88.9%)が最も多く、次いで「父親」(身体：74.2%、知的：66.3%、精神：55.6%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(身体：38.7%、知的：57.3%、精神：33.3%)が続いている。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「母親」(78.9%)が最も多く、次いで「公的なサービス(福祉サービス)」(63.2%)、「父親」(36.8%)が続いている。「公的なサービス(福祉サービス)」は全体より8.4ポイント高い。

図表 介助の状況(障害等の種類別：複数回答)
 <介助を受けている人>



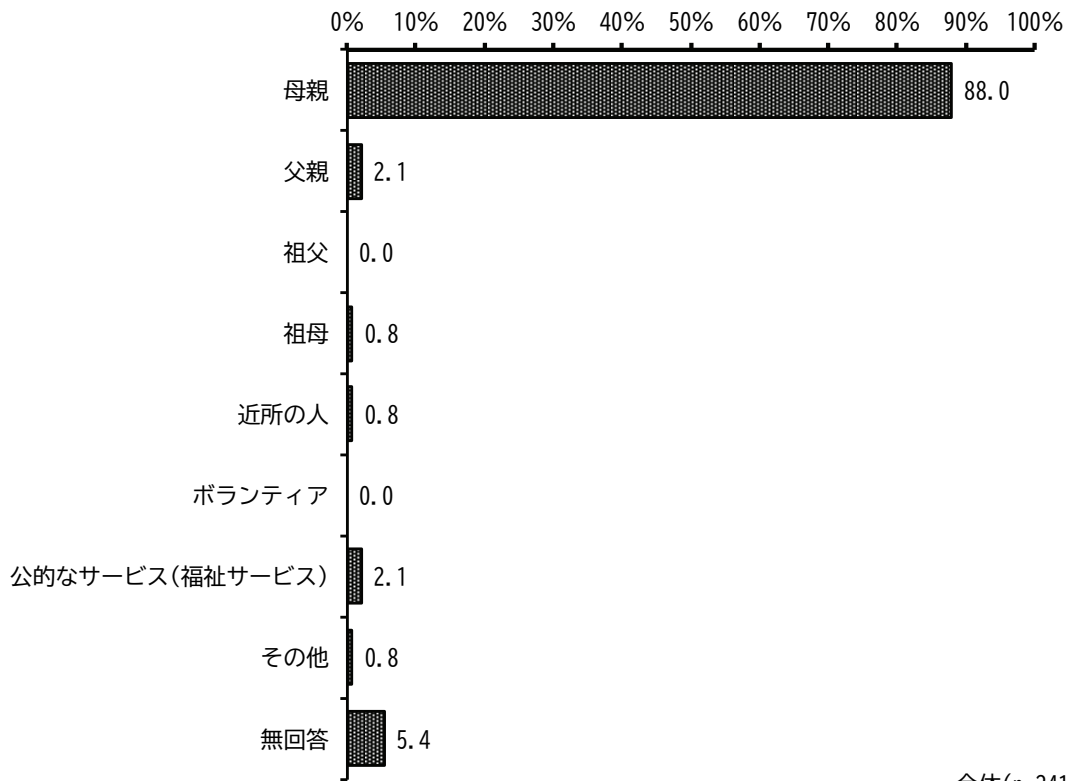
問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(2)主に介助している人はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

- ・「母親」(88.0%)が最も多く、それ以外は1割に満たない。

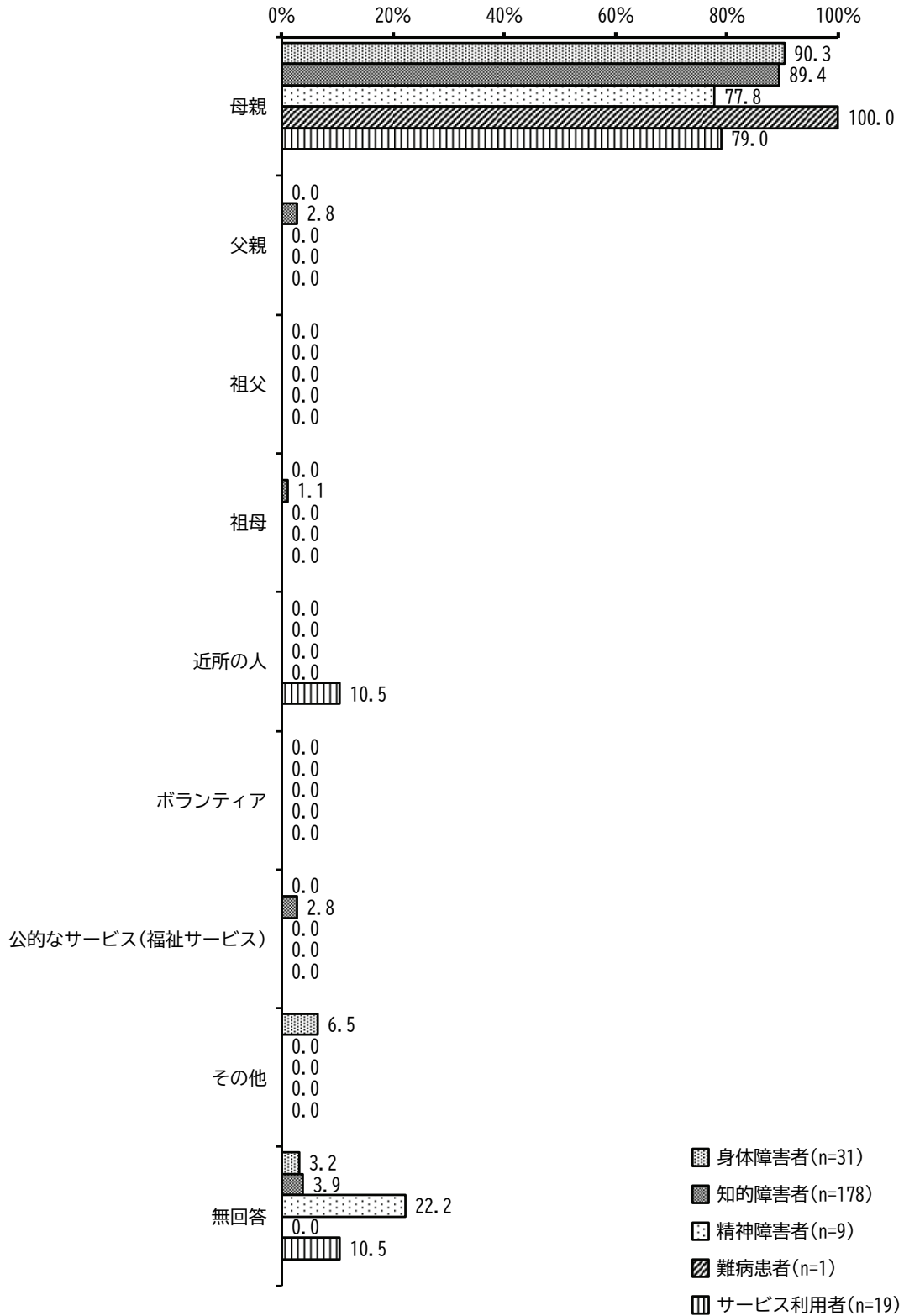
図表 主に介助している人(全体)
<介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：90.3%、知的：89.4%、精神：77.8%、サービス利用：79.0%)が最も多い。

図表 主に介助している人(障害等の種類別)
<介助を受けている人>



問5-2 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

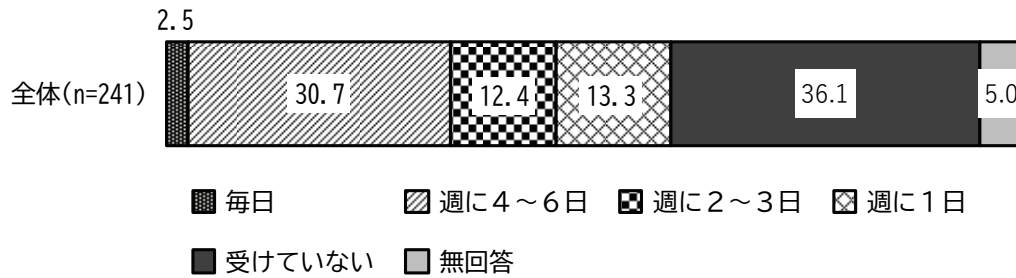
お子さんは、障害や疾病などの支援として公的なサービス(例：ホームヘルプ・訪問看護)による介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「受けていない」(36.1%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(30.7%)、「週に1日」(13.3%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(全体)

<介助を受けている人>

(%)



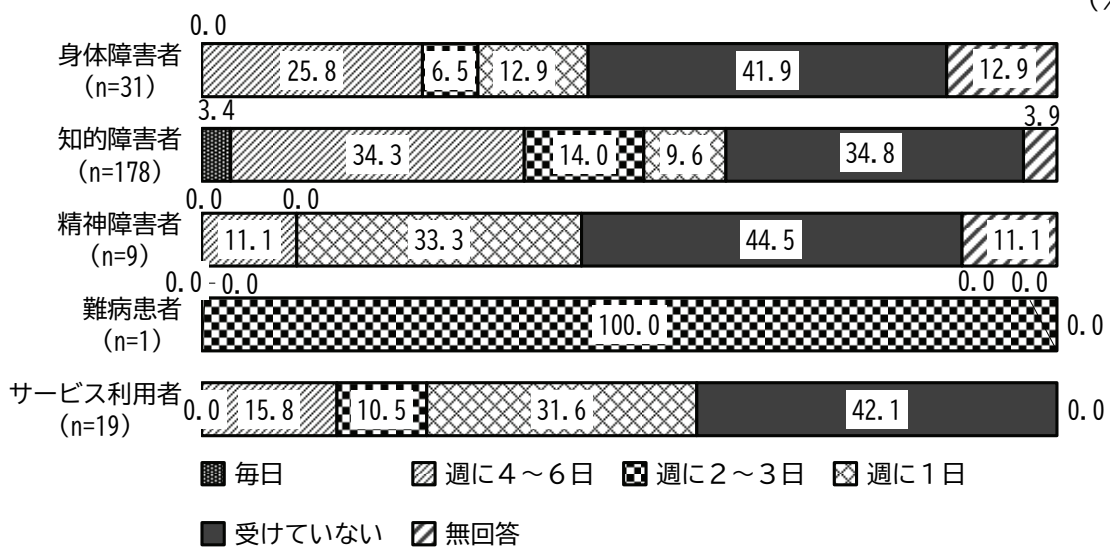
【障害等の種類別】

- ・身体障害者と知的障害者は「受けていない」(身体：41.9%、知的：34.8%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(身体：25.8%、知的：34.3%)が続いている。
- ・精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「受けていない」(精神：44.5%、サービス利用：42.1%)が最も多く、次いで「週に1日」(精神：33.3%、サービス利用：31.6%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(障害等の種類別)

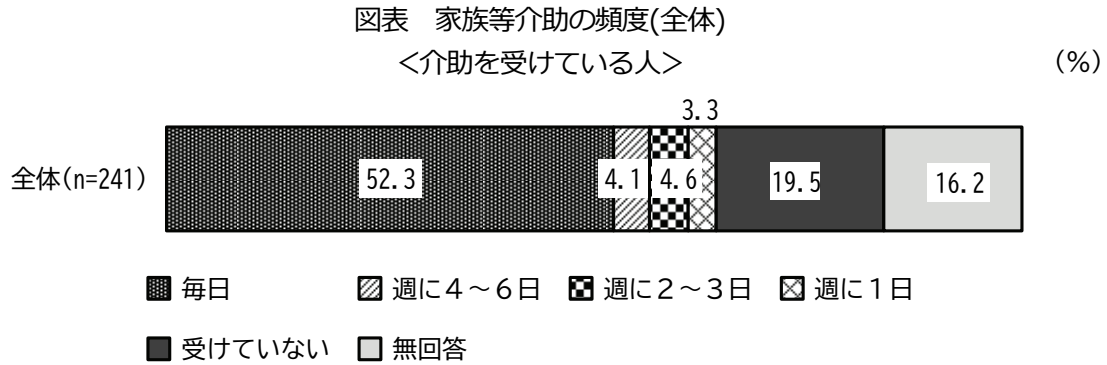
<介助を受けている人>

(%)



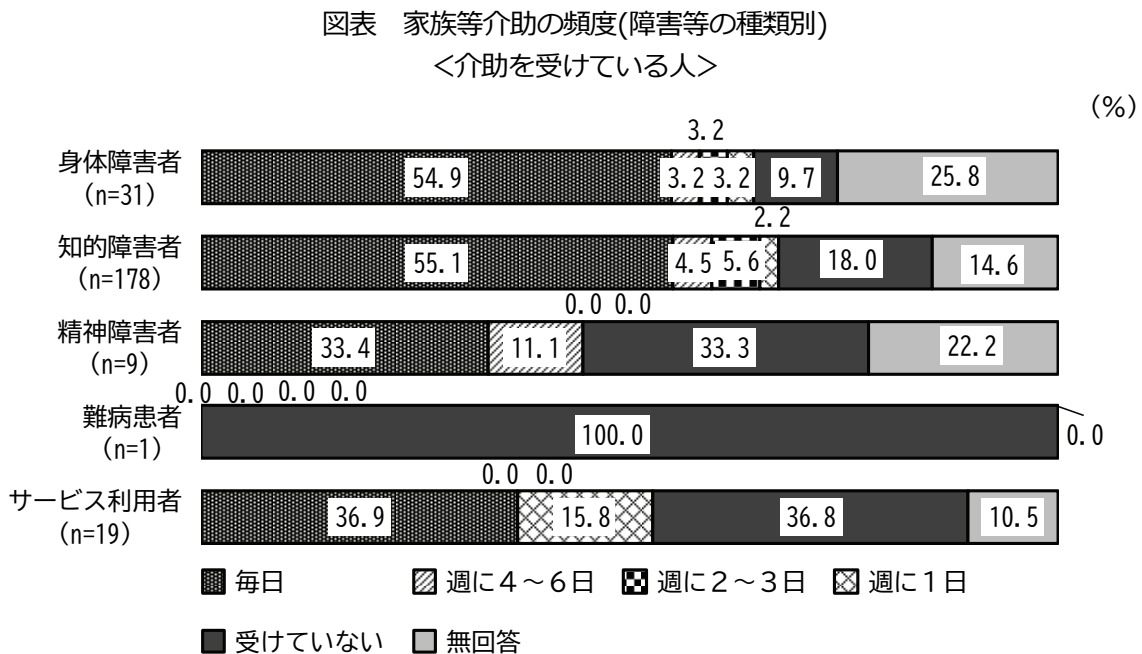
問5-3 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。お子さんは、障害や疾病などの支援として家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「毎日」(52.3%)が最も多く、次いで「受けていない」(19.5%)、「週に2~3日」(4.6%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも、「毎日」(身体: 54.9%、知的: 55.1%、精神: 33.4%、サービス利用: 36.9%)が最も多く、次いで「受けていない」(身体: 9.7%、知的: 18.0%、精神: 33.3%、サービス利用: 36.8%)が続いている。



(6) 福祉サービスの利用について

問6 お子さんの福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(15)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『放課後等デイサービス』(49.5%)が最も多く、次いで『児童発達支援』(28.9%)、『障害児相談支援』(16.6%)、『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(13.5%)、『子ども発達支援センターあゆの子外来グループ』(12.5%)が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『日中一時支援』(35.8%)が最も多く、次いで『移動支援』(30.8%)、『放課後等デイサービス』(30.6%)が続いている。『短期入所(ショートステイ)』(28.2%)、『児童発達支援』(24.8%)、『障害児相談支援』(23.4%)、『医療型児童発達支援』(22.1%)、『行動援護』(20.8%)も2割を超えている。

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(41.4%)、<未利用者層>では『日中一時支援』(32.8%)が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(60.9%)、<未利用者層>では『日中一時支援』(47.4%)が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(32.3%)、<未利用者層>では『児童発達支援』(44.2%)が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『医療型児童発達支援』と『放課後等デイサービス』がそれぞれ5人中1人(20.0%)、<未利用者層>では『医療型児童発達支援』が5人中2人(40.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は、<利用者層>では『児童発達支援』(54.3%)、<未利用者層>では『放課後等デイサービス』(38.4%)が最も多い。

第2部 調査結果の概要

図表 福祉サービスの利用状況、利用意向(全体、障害等の種類別)

(1) 居宅介護(ホームヘルプ)

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	4.3	0.0	0.0	18.6	20.0	38.6	18.6	4.3	18.6
	知的障害者 (n=348)	4.9	3.7	1.1	1.4	13.8	19.8	29.9	26.7	8.6	16.3
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	41.2	20.6	23.5	0.0	14.7
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	1.1	0.6	0.0	1.7	1.1	37.9	18.6	39.5	1.7	2.8

(2) 同行援護

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	1.4	7.1	22.9	44.3	24.3	0.0	8.5
	知的障害者 (n=348)	0.6	0.0	0.6	0.6	4.6	21.6	38.5	33.6	0.6	5.8
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.1	23.5	29.4	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	40.1	18.6	40.1	0.0	1.1

(3) 行動援護

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	24.3	48.6	24.3	0.0	2.9
	知的障害者 (n=348)	1.7	2.0	3.2	2.0	26.1	10.9	29.3	25.6	3.7	31.3
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	8.8	2.9	20.6	26.5	20.6	26.5	0.0	32.3
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.6	1.1	3.4	34.5	20.3	40.1	0.0	5.1

(4) 短期入所(ショートステイ)

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.2
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	2.9	1.4	2.9	0.0	20.0	18.6	34.3	21.4	4.3	22.9
	知的障害者 (n=348)	5.5	6.6	7.5	4.6	28.4	12.1	19.0	20.1	12.1	40.5
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	0.0	29.4	32.4	14.7	20.6	0.0	32.3
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.6	2.3	4.0	34.5	17.5	41.2	0.0	6.9

(5) 児童発達支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	21.7	7.2	3.8	4.9	16.1	8.1	18.9	21.7	28.9	24.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	5.7	2.9	0.0	2.9	20.0	12.9	32.9	24.3	8.6	22.9
	知的障害者 (n=348)	15.2	6.6	4.9	4.6	17.5	8.0	22.7	23.0	21.8	27.0
	精神障害者 (n=34)	2.9	8.8	5.9	11.8	26.5	14.7	8.8	23.5	11.7	44.2
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	44.1	10.2	2.3	5.1	9.6	4.5	8.5	18.1	54.3	17.0

(6) 医療型児童発達支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	4.1	2.8	2.3	3.8	16.0	15.5	26.9	29.8	6.9	22.1
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	4.3	2.9	0.0	1.4	21.4	12.9	34.3	24.3	7.2	22.8
	知的障害者 (n=348)	3.7	2.6	2.9	3.2	14.1	14.9	31.6	29.0	6.3	20.2
	精神障害者 (n=34)	2.9	0.0	0.0	8.8	29.4	23.5	14.7	20.6	2.9	38.2
	難病患者 (n=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	4.5	4.0	2.8	5.1	12.4	16.4	18.6	36.2	8.5	20.3

(7) 放課後等デイサービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	36.9	12.6	6.1	3.5	21.0	6.1	9.5	8.6	49.5	30.6
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	5.7	4.3	2.9	5.7	20.0	12.9	34.3	15.7	10.0	28.6
	知的障害者 (n=348)	45.1	15.8	6.3	3.7	16.7	4.9	6.9	5.7	60.9	26.7
	精神障害者 (n=34)	14.7	17.6	11.8	2.9	17.6	20.6	11.8	11.8	32.3	32.3
	難病患者 (n=5)	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	39.5	9.6	6.8	2.8	28.8	2.3	4.0	10.2	49.1	38.4

(8) 保育所等訪問支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	0.8	0.3	1.8	1.5	10.9	18.3	34.7	32.3	1.1	14.2
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	4.3	18.6	14.3	37.1	27.1	0.0	22.9
	知的障害者 (n=348)	0.6	0.3	2.6	0.9	6.0	16.1	40.2	34.2	0.9	9.5
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	0.0	5.9	41.2	23.5	26.5	0.0	8.8
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	1.7	0.6	1.1	1.1	18.1	18.1	26.6	32.8	2.3	20.3

第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(9) 居宅訪問型児童発達支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.4	5.1
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	1.4	0.0	1.4	1.4	10.0	21.4	41.4	25.7	1.4	12.8
	知的障害者 (n=348)	0.0	0.3	0.9	0.6	4.3	21.3	37.4	35.3	0.3	5.8
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	23.5	26.5	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	35.0	23.2	40.1	0.0	1.7

(10) 障害児相談支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.4
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	5.7	0.0	0.0	0.0	21.4	18.6	32.9	21.4	5.7	21.4
	知的障害者 (n=348)	20.1	2.3	6.3	1.4	17.2	7.8	24.1	22.1	22.4	24.9
	精神障害者 (n=34)	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	26.5	29.4	20.6	5.9	17.7
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	9.6	2.8	1.7	3.4	17.5	7.9	24.3	33.3	12.4	22.6

(11) 移動支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.3	30.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	1.4	24.3	17.1	40.0	17.1	0.0	25.7
	知的障害者 (n=348)	7.8	8.6	7.5	2.6	32.2	5.7	20.7	19.5	16.4	42.3
	精神障害者 (n=34)	2.9	2.9	5.9	0.0	23.5	29.4	20.6	14.7	5.8	29.4
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.6	0.0	0.6	0.6	10.2	26.0	24.3	37.9	0.6	11.4

(12) 日中一時支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	2.9	0.0	0.0	1.4	31.4	12.9	34.3	17.1	2.9	32.8
	知的障害者 (n=348)	2.9	2.9	4.0	6.3	37.1	7.8	19.0	22.7	5.8	47.4
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	2.9	26.5	23.5	23.5	0.0	0.0	32.3
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.6	1.1	1.7	13.0	20.9	26.6	36.2	0.6	15.8

(13) 意思疎通支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	1.4	1.4	0.0	0.0	10.0	17.1	45.7	24.3	2.8	10.0
	知的障害者 (n=348)	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	23.0	38.5	36.2	0.0	2.9
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	26.5	32.4	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	36.2	22.6	40.1	0.0	1.7

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	27.1	14.3	1.4	0.0	22.9	5.7	18.6	10.0	41.4	24.3
	知的障害者 (n=348)	10.9	5.2	0.0	0.9	4.3	17.0	31.0	31.0	16.1	5.2
	精神障害者 (n=34)	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	41.2	26.5	26.5	2.9	2.9
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.6	0.6	0.0	0.6	2.8	31.6	23.7	40.1	1.2	3.4

(15) 子ども発達支援センターあゆの子外来グループ

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない						今後、利用したい
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	4.3	1.4	0.0	0.0	8.6	14.3	45.7	25.7	5.7	8.6
	知的障害者 (n=348)	8.6	2.9	0.6	0.3	4.9	18.1	32.2	33.0	11.5	5.8
	精神障害者 (n=34)	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	41.2	17.6	17.6	11.8	11.8
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	15.8	2.8	2.3	0.6	10.2	17.5	20.3	30.5	18.6	13.1

第2部 調査結果の概要

【所持手帳等の種類別】

- ・身体障害者手帳所持者は、〈利用者層〉では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(56.2%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(47.7%)が最も多い。
- ・愛の手帳所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(60.9%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(47.4%)が最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(33.3%)、〈未利用者層〉では『児童発達支援』(41.7%)が最も多い。
- ・特定医療費受給者証所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(37.6%)と『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(37.6%)、〈未利用者層〉では『短期入所(ショートステイ)』(50.1%)が最も多い。
- ・児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(61.3%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(39.3%)が最も多い。

図表 福祉サービスの利用状況、利用意向(全体、所持手帳等の種類別)

(1)居宅介護(ホームヘルプ)

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	7.7	7.7	2.3	1.5	24.6	10.8	27.7	19.2	15.4	28.4
愛の手帳所持者	(n=348)	4.9	3.7	1.1	1.4	13.8	19.8	29.9	26.7	8.6	16.3
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	2.8	0.0	0.0	13.9	38.9	19.4	25.0	2.8	13.9
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	12.5	6.3	0.0	12.5	12.5	18.8	25.0	12.5	18.8	25.0
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	4.3	2.4	1.1	1.6	10.3	27.1	24.9	29.8	6.7	13.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(2)同行援護

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	0.0	0.0	0.8	1.5	9.2	15.4	43.8	29.2	0.0	11.5
愛の手帳所持者	(n=348)	0.6	0.0	0.6	0.6	4.6	21.6	38.5	33.6	0.6	5.8
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	44.4	22.2	30.6	0.0	2.8
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	37.5	37.5	0.0	6.3
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	0.5	0.0	0.0	0.5	1.9	29.5	31.2	36.3	0.5	2.4

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(3)行動援護

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.8
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	0.0	0.0	0.8	0.8	16.9	15.4	40.8	25.4	0.0	18.5
愛の手帳所持者	(n=348)	1.7	2.0	3.2	2.0	26.1	10.9	29.3	25.6	3.7	31.3
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	2.8	8.3	2.8	22.2	25.0	19.4	25.0	2.8	33.3
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	18.8	43.8	18.8	6.3	12.5
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	0.5	1.4	2.4	1.6	18.4	20.6	26.0	30.4	1.9	22.4

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(4)短期入所(ショートステイ)

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.2
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	6.2	7.7	11.5	4.6	23.8	10.8	21.5	18.5	13.9	39.9
愛の手帳所持者	(n=348)	5.5	6.6	7.5	4.6	28.4	12.1	19.0	20.1	12.1	40.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	0.0	5.6	0.0	30.6	30.6	13.9	19.4	0.0	36.2
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	0.0	25.0	18.8	6.3	18.8	25.0	6.3	0.0	50.1
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	5.4	4.3	7.0	4.1	19.5	20.9	16.0	25.7	9.7	30.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(5) 児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	21.7	7.2	3.8	4.9	16.1	8.1	18.9	21.7	28.9	24.8
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	9.2	4.6	2.3	2.3	19.2	9.2	28.5	26.2	13.8	23.8
	愛の手帳所持者 (n=348)	15.2	6.6	4.9	4.6	17.5	8.0	22.7	23.0	21.8	27.0
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	8.3	5.6	11.1	25.0	13.9	11.1	22.2	13.9	41.7
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	12.5	6.3	12.5	6.3	18.8	25.0	12.5	18.8	25.1
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	31.4	10.6	3.5	4.3	11.1	5.4	15.4	20.6	42.0	18.9

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(6) 医療型児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	4.1	2.8	2.3	3.8	16.0	15.5	26.9	29.8	6.9	22.1
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	6.9	3.8	1.5	1.5	19.2	8.5	30.8	28.5	10.7	22.2
	愛の手帳所持者 (n=348)	3.7	2.6	2.9	3.2	14.1	14.9	31.6	29.0	6.3	20.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	0.0	0.0	8.3	27.8	22.2	13.9	22.2	5.6	36.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	12.5	0.0	0.0	0.0	31.3	18.8	25.0	12.5	12.5	31.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	5.4	4.6	3.0	3.3	13.8	13.8	24.7	32.2	10.0	20.1

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(7) 放課後等デイサービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	36.9	12.6	6.1	3.5	21.0	6.1	9.5	8.6	49.5	30.6
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	27.7	10.8	3.1	6.9	15.4	8.5	20.0	10.8	38.5	25.4
	愛の手帳所持者 (n=348)	45.1	15.8	6.3	3.7	16.7	4.9	6.9	5.7	60.9	26.7
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	13.9	19.4	11.1	2.8	19.4	19.4	11.1	11.1	33.3	33.3
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	18.8	18.8	6.3	6.3	18.8	12.5	12.5	12.5	37.6	31.4
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	45.3	16.0	6.5	2.2	23.6	1.6	4.6	6.0	61.3	32.3

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(8) 保育所等訪問支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	0.8	0.3	1.8	1.5	10.9	18.3	34.7	32.3	1.1	14.2
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.0	0.0	0.8	3.1	13.1	10.8	40.8	32.3	0.0	17.0
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.6	0.3	2.6	0.9	6.0	16.1	40.2	34.2	0.9	9.5
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	2.8	0.0	8.3	38.9	22.2	27.8	0.0	11.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	18.8	50.0	18.8	0.0	12.6
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	1.1	0.3	2.2	1.1	13.3	15.4	34.1	33.3	1.4	16.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(9) 居宅訪問型児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.4	5.1
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.8	0.0	1.5	0.8	10.0	16.2	40.8	31.5	0.8	12.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.0	0.3	0.9	0.6	4.3	21.3	37.4	35.3	0.3	5.8
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	47.2	22.2	27.8	0.0	2.8
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	25.0	37.5	25.0	0.0	12.6
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	0.3	0.0	1.1	1.4	3.0	27.6	30.1	37.1	0.3	5.5

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(10) 障害児相談支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用できる	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.4
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	15.4	2.3	3.1	0.0	19.2	11.5	27.7	20.8	17.7	22.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	20.1	2.3	6.3	1.4	17.2	7.8	24.1	22.1	22.4	24.9
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	0.0	0.0	5.6	13.9	25.0	27.8	22.2	5.6	19.5
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	18.8	18.8	25.0	25.0
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	18.7	2.7	4.6	3.3	18.7	6.0	22.8	24.7	21.4	26.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

第2部 調査結果の概要

(11) 移動支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.3	30.8
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	4.6	6.2	3.1	3.1	28.5	9.2	29.2	17.7	10.8	34.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	7.8	8.6	7.5	2.6	32.2	5.7	20.7	19.5	16.4	42.3
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	2.8	5.6	5.6	0.0	25.0	27.8	19.4	13.9	8.4	30.6
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	12.5	18.8	0.0	12.5	12.5	31.3	12.5	18.8	31.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	4.9	5.4	5.4	1.6	26.0	13.8	21.7	24.9	10.3	33.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(12) 日中一時支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	5.4	0.0	3.8	7.7	36.2	6.9	23.1	18.5	5.4	47.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	2.9	2.9	4.0	6.3	37.1	7.8	19.0	22.7	5.8	47.4
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	2.8	2.8	27.8	22.2	22.2	25.0	0.0	33.4
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	0.0	12.5	12.5	18.8	12.5	18.8	18.8	6.3	43.8
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	2.2	1.6	4.1	3.8	31.4	11.7	21.7	25.5	3.8	39.3

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(13) 意思疎通支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.8	0.8	0.0	0.8	6.9	15.4	43.8	31.5	1.6	7.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	23.0	38.5	36.2	0.0	2.9
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.9	27.8	33.3	0.0	0.0
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	12.5	50.0	31.3	0.0	6.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	0.0	0.0	0.5	0.8	2.4	27.1	32.2	37.7	0.0	3.7

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	36.2	20.0	0.8	0.8	13.1	3.1	12.3	13.8	56.2	14.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	10.9	5.2	0.0	0.9	4.3	17.0	31.0	31.0	16.1	5.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	38.9	25.0	27.8	5.6	2.8
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	31.3	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5	18.8	37.6	18.9
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	8.4	3.8	0.5	0.5	5.4	22.5	26.3	32.8	12.2	6.4

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(15) 子ども発達支援センターあゆの子 外来グループ

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5
所持手帳の種類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	3.8	0.8	0.0	0.8	8.5	11.5	46.9	27.7	4.6	9.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	8.6	2.9	0.6	0.3	4.9	18.1	32.2	33.0	11.5	5.8
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	38.9	19.4	19.4	11.2	11.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	31.3	37.5	18.8	6.3	6.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	11.9	3.3	1.4	0.3	8.1	17.1	28.2	30.1	15.2	9.8

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

【身体障害者手帳の記載項目別】

- ・ 視覚障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（4人中3人）、＜未利用者層＞では『同行援護』（4人中3人）が最も多い。
- ・ 聴覚障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（70.0%）、＜未利用者層＞では『放課後等デイサービス』（30.0%）と『意思疎通支援』（30.0%）が同率で最も多い。
- ・ 音声・言語・そしゃく・平衡機能障害は、＜利用者層＞では『児童発達支援』（6人中3人）、＜未利用者層＞では『障害児相談支援』（6人中4人）が最も多い。
- ・ 肢体不自由は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（59.8%）、＜未利用者層＞では『日中一時支援』（58.7%）が最も多い。
- ・ 内部障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（30.0%）、＜未利用者層＞では『日中一時支援』（33.3%）が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、身体障害者手帳記載項目別）

(1) 居宅介護（ホームヘルプ）

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	35.0	35.0	25.0	0.0	5.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	10.9	9.8	3.3	2.2	33.7	5.4	21.7	15.2	20.7	39.2
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	3.3	6.7	0.0	3.3	10.0	20.0	36.7	20.0	10.0	13.3
内部障害	(n=30)	3.3	6.7	0.0	3.3	10.0	20.0	36.7	20.0	10.0	13.3

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(2) 同行援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	0.0	0.0	0.0	1.1	10.9	8.7	47.8	30.4	0.0	13.1
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0
内部障害	(n=30)	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(3) 行動援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.8
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	35.0	25.0	0.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	33.4
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	0.0	1.1	1.1	1.1	21.7	9.8	40.2	25.0	1.1	23.9
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0
内部障害	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(4) 短期入所（ショートステイ）

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.2
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	30.0	30.0	25.0	15.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	8.7	9.8	16.3	6.5	27.2	7.6	16.3	14.1	18.5	50.0
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	3.3	0.0	3.3	6.7	16.7	16.7	40.0	16.7	3.3	26.7
内部障害	(n=30)	3.3	0.0	3.3	6.7	16.7	16.7	40.0	16.7	3.3	26.7

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

第2部 調査結果の概要

(5) 児童発達支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	21.7	7.2	3.8	4.9	16.1	8.1	18.9	21.7	28.9	24.8
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
視覚障害	(n=20)	0.0	5.0	0.0	5.0	15.0	20.0	35.0	25.0	5.0	20.0
聴覚障害	(n=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	50.0	16.7
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	13.0	7.6	3.3	2.2	17.4	6.5	26.1	25.0	20.6	22.9
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	10.0	0.0	0.0	3.3	16.7	16.7	30.0	23.3	10.0	20.0
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(6) 医療型児童発達支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	4.1	2.8	2.3	3.8	16.0	15.5	26.9	29.8	6.9	22.1
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0	20.0	35.0	25.0	0.0	25.0
聴覚障害	(n=6)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	8.7	5.4	2.2	1.1	17.4	4.3	31.5	29.3	14.1	20.7
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	16.7	36.7	16.7	10.0	20.0
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(7) 放課後等デイサービス

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	36.9	12.6	6.1	3.5	21.0	6.1	9.5	8.6	49.5	30.6
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
視覚障害	(n=20)	20.0	0.0	0.0	5.0	25.0	20.0	15.0	20.0	20.0	30.0
聴覚障害	(n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7	50.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	33.7	15.2	3.3	8.7	16.3	5.4	15.2	5.4	48.9	28.3
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	13.3	0.0	3.3	3.3	10.0	16.7	36.7	16.7	13.3	16.6
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(8) 保育所等訪問支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	0.8	0.3	1.8	1.5	10.9	18.3	34.7	32.3	1.1	14.2
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	5.0	15.0	20.0	35.0	25.0	0.0	20.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	0.0	0.0	1.1	3.3	12.0	8.7	42.4	33.7	0.0	16.4
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	16.7	46.7	26.7	0.0	10.0
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(9) 居宅訪問型児童発達支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.4	5.1
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	5.0	0.0	10.0	30.0	35.0	20.0	0.0	15.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.4
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	1.1	0.0	2.2	1.1	13.0	12.0	41.3	31.5	1.1	16.3
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	0.0	0.0	3.3	0.0	10.0	20.0	43.3	26.7	0.0	13.3
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(10) 障害児相談支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.4
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
視覚障害	(n=20)	5.0	0.0	0.0	0.0	15.0	30.0	25.0	25.0	5.0	15.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	33.3	0.0	66.7
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	21.7	3.3	4.3	0.0	18.5	8.7	27.2	16.3	25.0	22.8
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3	20.0	36.7	23.3	6.7	13.3
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(11) 移動支援

	(N=651)	利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない						今後、利 用したい
全体	(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.3	30.8
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
視覚障害	(n=20)	5.0	5.0	0.0	0.0	25.0	25.0	20.0	20.0	10.0	25.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	4.3	8.7	4.3	4.3	32.6	4.3	27.2	16.3	13.0	41.2
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	23.3	43.3	13.3	0.0	20.0
内部障害											

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(12) 日中一時支援

		利用者層					未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からない	無回答					
		(N=651)	(n=4)	(n=20)	(n=6)	(n=92)	(n=30)	(n=4)	(n=20)					
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8			
身体障害者手帳に記載された項目														
	視覚障害	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0			
	聴覚障害	0.0	0.0	0.0	10.0	15.0	25.0	30.0	20.0	0.0	25.0			
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0			
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	6.5	0.0	5.4	10.9	42.4	2.2	17.4	17.4	6.5	58.7			
	内部障害	3.3	0.0	0.0	3.3	30.0	13.3	40.0	10.0	3.3	33.3			

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(13) 意思疎通支援

		利用者層					未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からない	無回答					
		(N=651)	(n=4)	(n=20)	(n=6)	(n=92)	(n=30)	(n=4)	(n=20)					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3			
身体障害者手帳に記載された項目														
	視覚障害	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0			
	聴覚障害	5.0	5.0	0.0	0.0	30.0	10.0	35.0	15.0	10.0	30.0			
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3	0.0	0.0	16.7			
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	15.2	46.7	34.8	0.0	3.3			
	内部障害	0.0	0.0	0.0	0.0	23.3	50.0	26.7	0.0	0.0	0.0			

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

		利用者層					未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からない	無回答					
		(N=651)	(n=4)	(n=20)	(n=6)	(n=92)	(n=30)	(n=4)	(n=20)					
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9			
身体障害者手帳に記載された項目														
	視覚障害	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0			
	聴覚障害	50.0	20.0	0.0	0.0	10.0	5.0	15.0	0.0	70.0	10.0			
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	16.7	16.7			
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	37.0	22.8	1.1	1.1	17.4	1.1	4.3	15.2	59.8	19.6			
	内部障害	20.0	10.0	0.0	3.3	13.3	13.3	30.0	10.0	30.0	16.6			

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(15) 子ども発達支援センターあゆの子 外来グループ

		利用者層					未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からない	無回答					
		(N=651)	(n=4)	(n=20)	(n=6)	(n=92)	(n=30)	(n=4)	(n=20)					
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5			
身体障害者手帳に記載された項目														
	視覚障害	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0			
	聴覚障害	5.0	5.0	0.0	0.0	10.0	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0			
	音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	16.7	16.7			
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	4.3	0.0	0.0	1.1	7.6	8.7	51.1	27.2	4.3	8.7			
	内部障害	3.3	0.0	0.0	0.0	10.0	16.7	46.7	23.3	3.3	10.0			

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

【重度心身障害児】

- ・ 身体障害者手帳（1級または2級）および愛の手帳（1度または2度）の所持者は33人である。
- ・ <利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（23人）が最も多く、次いで『放課後等デイサービス』（21人）、『居宅介護』（10人）が続いている。
- ・ <未利用者層>では『日中一時支援』（19人）が最も多く、次いで『短期入所（ショートステイ）』（18人）、『居宅介護（ホームヘルプ）』（15人）が続いている。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（重度心身障害児）

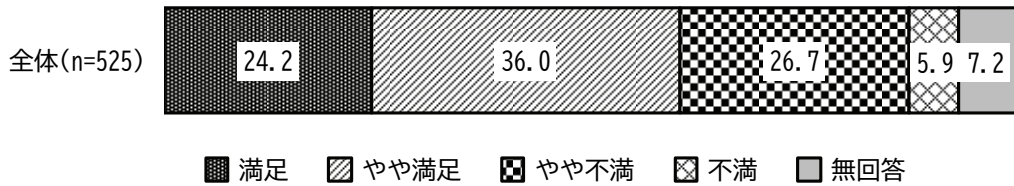
		利用者層					未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所に空き がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からない	無回答					
(1) 居宅介護(ホームヘルプ)	(n=33)	6	4	0	1	14	0	4	4	10	15			
(2) 同行援護	(n=33)	0	0	0	0	5	2	16	10	0	5			
(3) 行動援護	(n=33)	0	0	0	0	6	2	15	10	0	6			
(4) 短期入所(ショートステイ)	(n=33)	3	3	3	4	11	1	2	5	6	18			
(5) 児童発達支援	(n=33)	3	2	1	1	5	1	9	10	5	7			
(6) 医療型児童発達支援	(n=33)	4	1	1	0	5	0	11	11	5	6			
(7) 放課後等デイサービス	(n=33)	16	5	1	3	3	1	1	3	21	7			
(8) 保育所等訪問支援	(n=33)	0	0	1	1	3	1	15	12	0	5			
(9) 居宅訪問型児童発達支援	(n=33)	0	0	0	0	5	2	14	12	0	5			
(10) 障害児相談支援	(n=33)	6	1	1	0	8	0	10	7	7	9			
(11) 移動支援	(n=33)	3	2	0	2	10	0	9	7	5	12			
(12) 日中一時支援	(n=33)	2	0	2	3	14	0	4	7	2	19			
(13) 意思疎通支援	(n=33)	0	0	0	1	1	5	15	11	0	2			
(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付	(n=33)	13	10	0	1	1	0	2	6	23	2			
(15) 子ども発達支援センターあゆの子外来グループ	(n=33)	0	0	0	1	2	3	19	8	0	3			

問6-1 問6の(1)～(15)で1つでも「1」「2」と答えた方におたずねします。福祉サービスについて、満足していますか。(1つに○)。

- 福祉サービスの満足度は、「満足」(24.2%)と「やや満足」(36.0%)をあわせた<満足層>は、60.2%である。「やや不満」(26.7%)と「不満」(5.9%)をあわせた<不満層>は32.6%である。

図表 福祉サービスの満足度(全体)
<福祉サービスを利用している人>

(%)

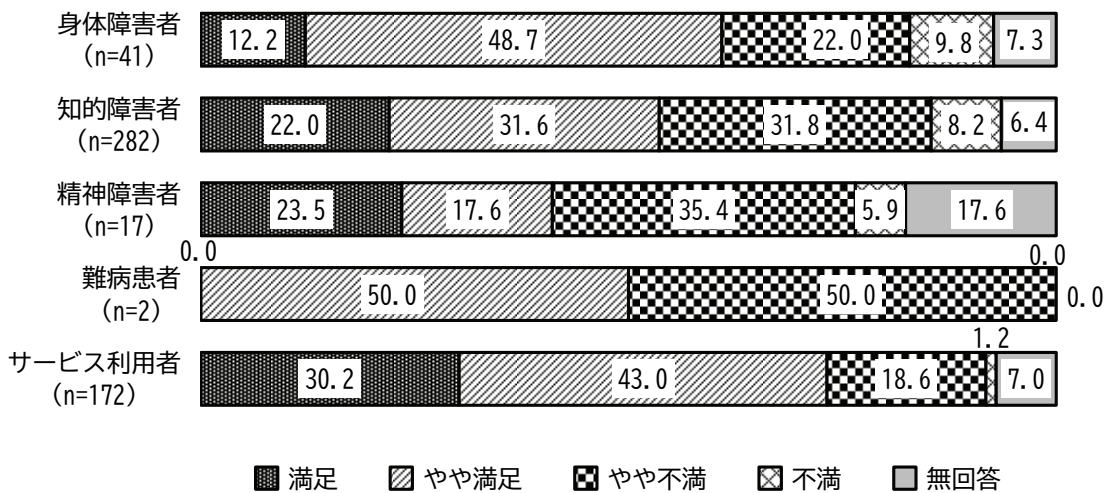


【障害等の種類別】

- 身体障害者と知的障害者は、<満足層>(身体:60.9%、知的:53.6%)が<不満層>(身体:31.8%、知的:40.0%)を上回っている。
- 精神障害者は、<満足層>(41.1%)と<不満層>(41.3%)である。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は、<満足層>73.2%が<不満層>19.8%を上回っている。

図表 福祉サービスの満足度(障害等の種類別)
<福祉サービスを利用している人>

(%)



【重度心身障害者】

- ・ 重度心身障害者 33 人のうち、問 6 の(1)～(8)で 1 つでも「希望通り利用できている」、「利用しているが希望通りではない」と回答した 29 人に障害福祉サービスの満足度をたずねた。無回答の 2 人を除き、〈満足層〉は、17 人、〈不満層〉は 10 人である。

図表 障害福祉サービスの満足度(重度心身障害児)

〈障害福祉サービスを利用している人〉

		満足層		不満層		無回答	(人)	
		満足	やや満足	やや不満	不満		満足層 (再掲)	不満層 (再掲)
重度心身障害児	(n=29)	6	11	7	3	2	17	10

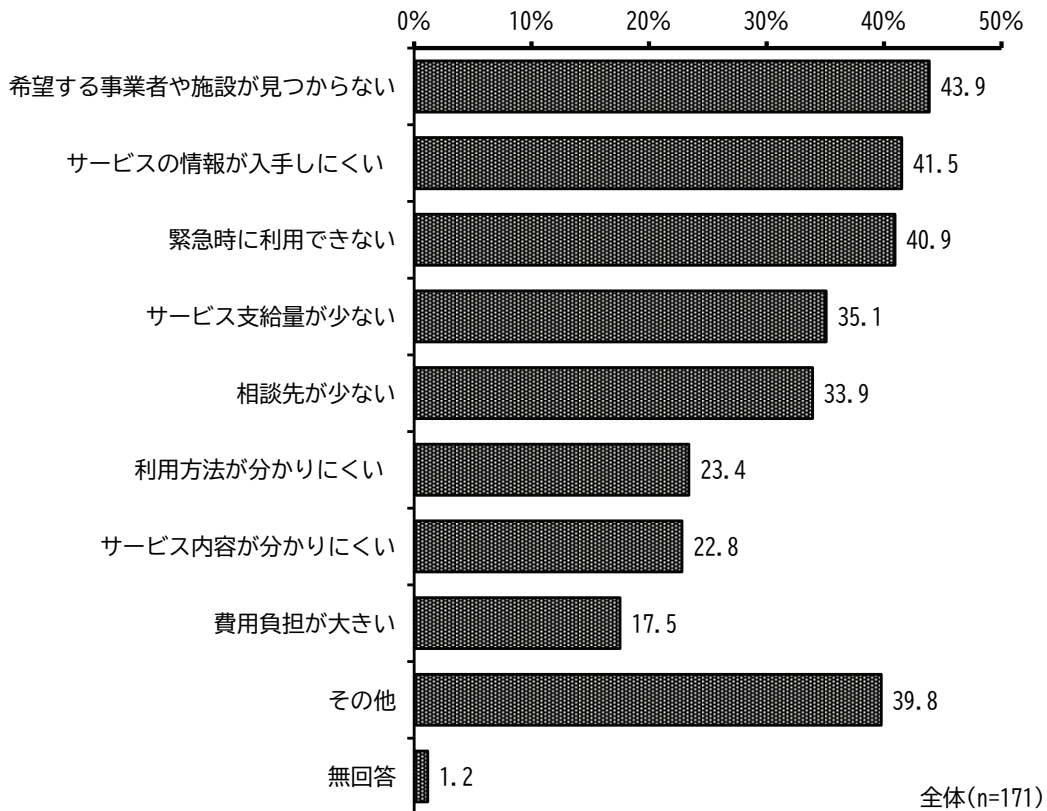
問 6-2 問 6-1 で「3」「4」と答えた方におたずねします。

福祉サービスの不満な理由はどれですか。(いくつでも○)

- ・ 「希望する事業者や施設が見つからない」(43.9%)が最も多く、「サービスの情報が入手しにくい」(41.5%)、「緊急時に利用できない」(40.9%)が続いている。

図表 福祉サービスの不満な理由(全体：複数回答)

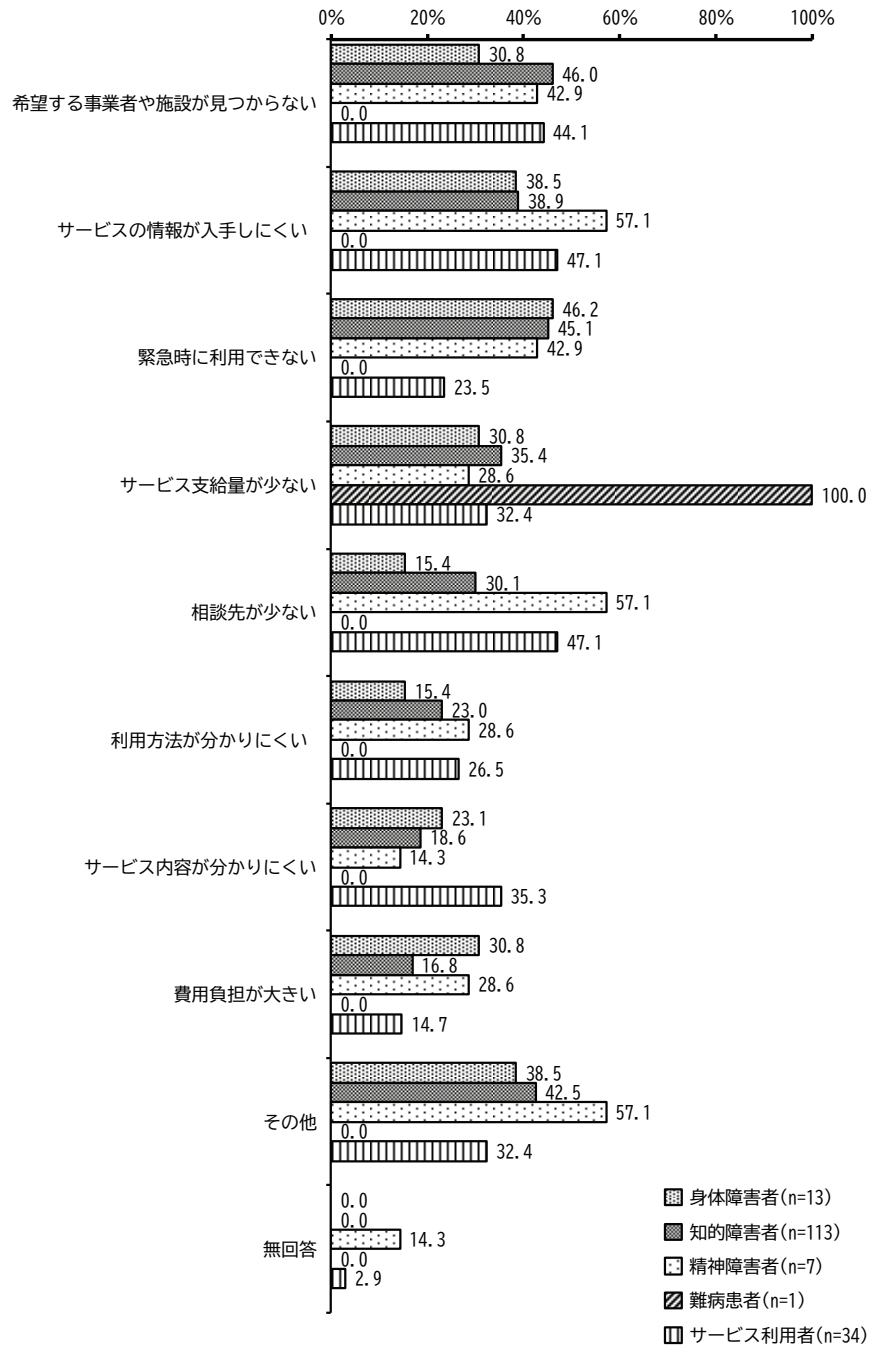
〈サービスの利用にあたって不満を感じている人〉



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は、「緊急時に利用できない」(46.2%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は、「希望する事業者や施設が見つからない」(46.0%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は、「サービスの情報が入手しにくい」(57.1%)と「相談先が少ない」(57.1%)が同率で最も多い。
- ・ 難病患者は、回答者が1人しかいないが、「サービス支給量が少ない」(100.0%)となっている。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は、「サービスの情報が入手しにくい」(47.1%)と「相談先が少ない」(47.1%)が同率で最も多い。

図表 福祉サービスの不満な理由(障害等の種類別：複数回答)
 <サービスの利用にあたって不満を感じている人>



【重度心身障害児】

- ・ 重度心身障害者 33 人のうち、問 6 の(1)～(8)で 1 つでも「やや不満」、「不満」と回答した 10 人に障害福祉サービスの不満な理由をたずねた。
- ・ 「サービス支給量が少ない」と「緊急時に利用できない」がともに 4 人で最も多く、次いで「費用負担が大きい」、「サービスの情報が入手しにくい」がともに 3 人で続いている。

図表 福祉サービスの不満な理由(重度心身障害児：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

		(人)									
		希望する事業者や施設が見つからない	サービスの情報が入手しにくい	緊急時に利用できない	サービス支給量が少ない	相談先が少ない	利用方法が分かりにくい	サービス内容が分かりにくい	費用負担が大きい	その他	無回答
重度心身障害児	(n=10)	2	3	4	4	1	2	2	3	3	0

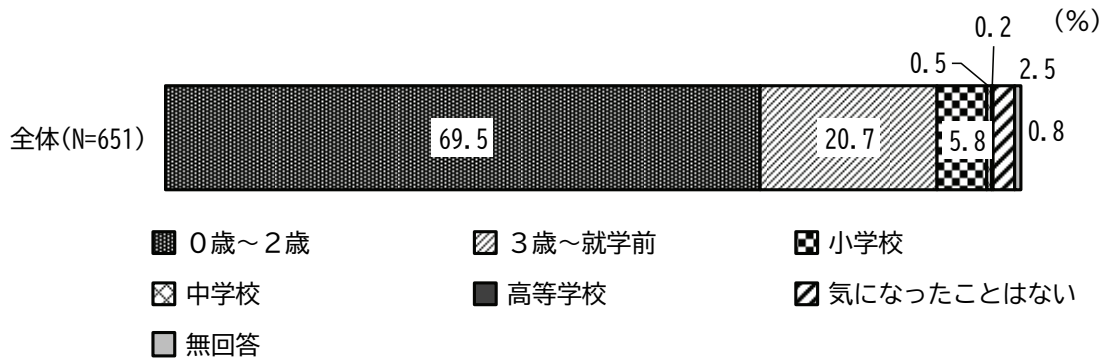
(7) 子どもの育ちや発達の状況について

問7 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、気になったことはありますか。

初めて気になった時期についてお答えください。(1つに○)

- ・「0歳～2歳」(69.5%)が最も多く、「3歳～就学前」(20.7%)が続いている。就学前が約9割である。

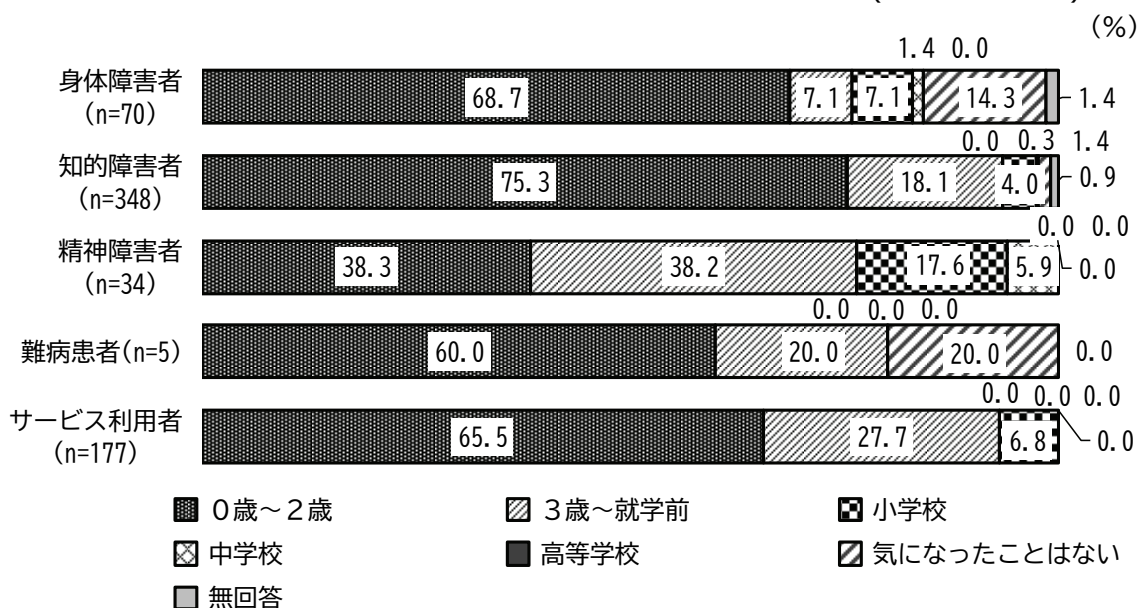
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「0歳～2歳」(身体：68.7%、知的：75.3%、精神：38.3%、難病：60.0%、サービス利用：65.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は、「3歳～就学前」(38.2%)も3割を超えている。

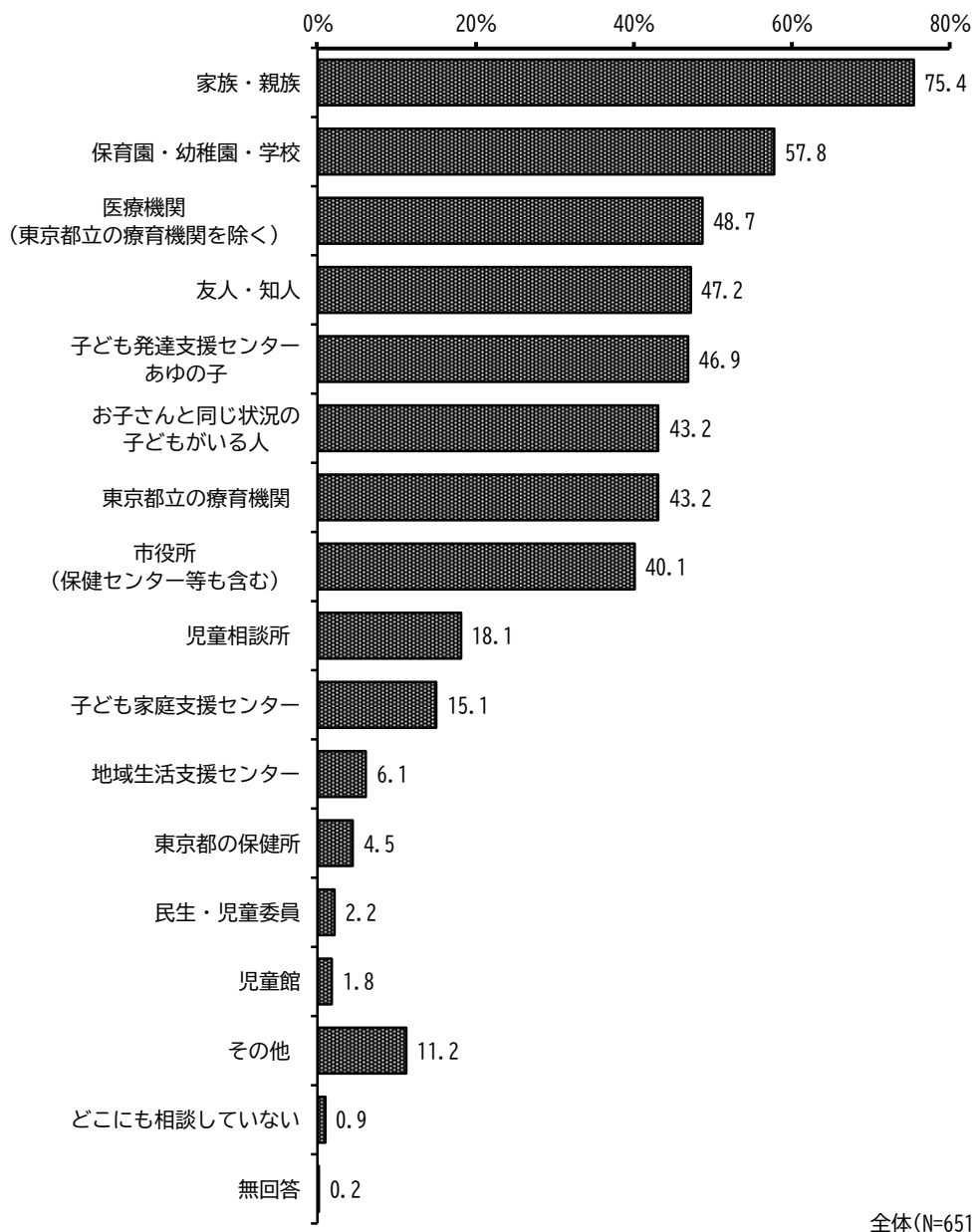
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(障害等の種類別)



問8 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも○)

- ・「どこにも相談していない」と「無回答」を除いた〈相談経験のある人〉は98.9%である。
- ・相談先は「家族・親族」(75.4%)が最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(57.8%)、「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(48.7%)、「友人・知人」(47.2%)、「子ども発達支援センターあゆの子」(46.9%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(43.2%)、「東京都立の療育機関」(43.2%)、「市役所(保健センター等も含む)」(40.1%)が続き、いずれも4割を超えている。

図表 相談した人・相談機関等(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ <相談経験のある人> は、身体障害者は97.2%、知的障害者は99.1%、精神障害者は100.0%、難病患者は5人中4人(80.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は99.4%である。
- ・ 相談先は、「家族・親族」(身体:75.7%、知的:73.9%、精神:67.6%、難病:80.0%、サービス利用:80.2%)が最も多い。精神障害者は「保育園・幼稚園・学校」(67.6%)、難病患者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(80.0%)も同率1位である。
- ・ 相談先として2番目に多い項目をみると、身体障害者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(60.0%)、知的障害者は「保育園・幼稚園・学校」(55.2%)、精神障害者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(58.8%)、難病患者は「保育園・幼稚園・学校」(60.0%)と「友人・知人」(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「保育園・幼稚園・学校」(68.4%)となっている。

図表 相談した人・相談機関等(障害等の種類別：複数回答)

		(%)									
		家族・親族	保育園・幼稚園・学校	医療機関 (東京都立の療育機関を除く)	友人・知人	子ども発達支援センターあゆの子	お父さんと同じ状況の子がいる人	東京都立の療育機関	市役所(保健センター等も含む)	児童相談所	
全体	(N=651)	75.4	57.8	48.7	47.2	46.9	43.2	43.2	40.1	18.1	
障害等の種類											
身体障害者	(n=70)	75.7	38.6	60.0	42.9	10.0	24.3	35.7	30.0	0.0	
知的障害者	(n=348)	73.9	55.2	46.6	44.3	49.1	45.1	51.1	38.5	26.1	
精神障害者	(n=34)	67.6	67.6	58.8	55.9	38.2	38.2	29.4	38.2	35.3	
難病患者	(n=5)	80.0	60.0	80.0	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0	
児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	80.2	68.4	46.9	53.1	59.9	48.0	36.2	46.3	6.2	

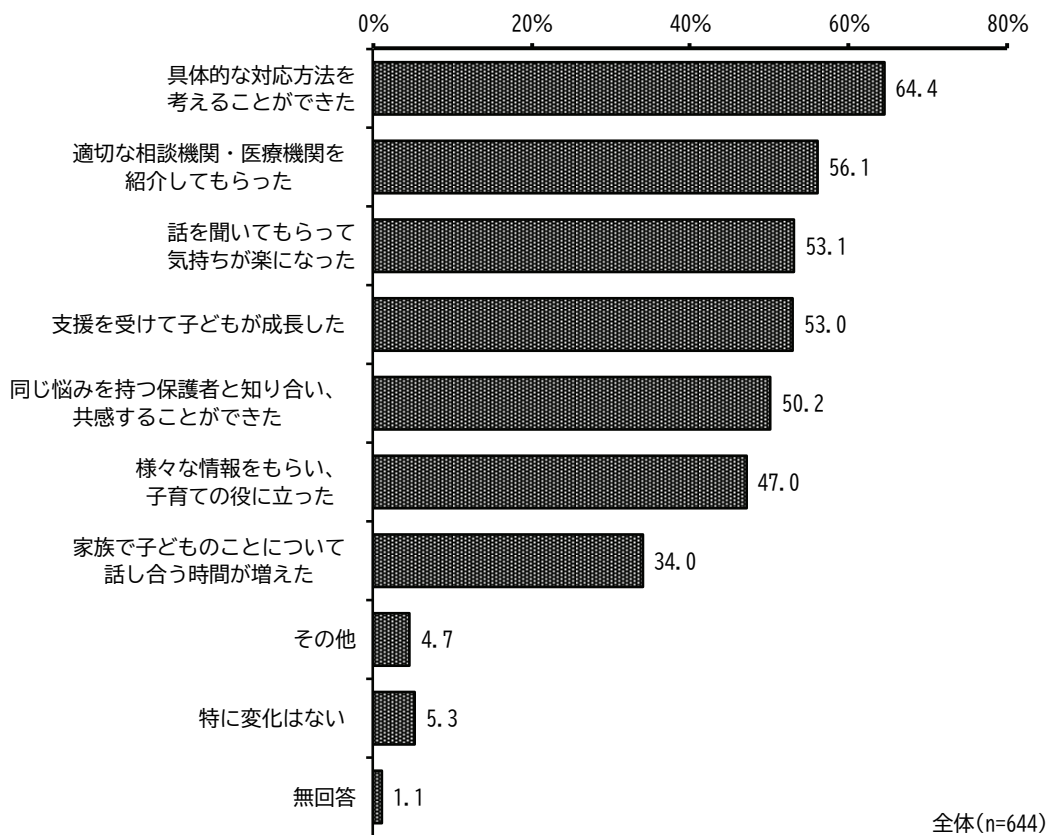
		子ども家庭支援センター	地域生活支援センター	東京都の保健所	民生・児童委員	児童館	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人(再掲)
全体	(N=651)	15.1	6.1	4.5	2.2	1.8	11.2	0.9	0.2	98.9
障害等の種類										
身体障害者	(n=70)	7.1	0.0	2.9	2.9	0.0	7.1	1.4	1.4	97.2
知的障害者	(n=348)	11.8	7.2	5.2	1.7	1.7	8.6	0.9	0.0	99.1
精神障害者	(n=34)	20.6	5.9	5.9	2.9	0.0	26.5	0.0	0.0	100.0
難病患者	(n=5)	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	80.0
児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	23.2	5.6	3.4	1.7	2.3	14.7	0.6	0.0	99.4

問8-1 問8で「1」～「15」のいずれかを選んだ方におたずねします。相談をしたことで、どのような効果がありましたか。(いくつでも○)

- ・「具体的な対応方法を考えることができた」(64.4%)が最も多く、次いで「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(56.1%)、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(53.1%)が続いている。
- ・「支援を受けて子どもが成長した」(53.0%)、「同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた」(50.2%)も5割を超えている。

図表 相談の効果(全体：複数回答)

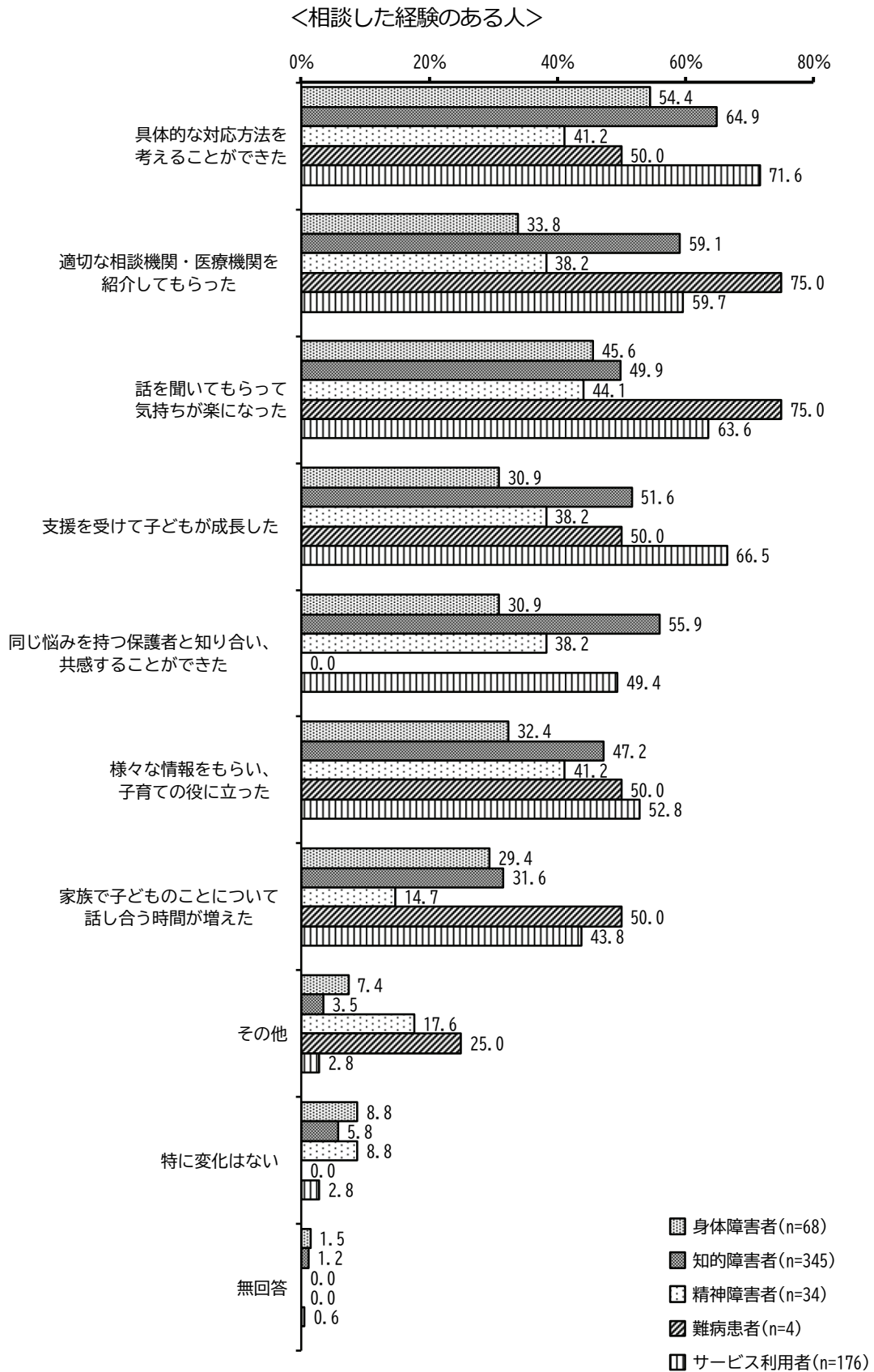
<相談した経験のある人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「具体的な対応方法を考えることができた」(身体：54.4%、知的：64.9%、サービス利用：71.6%)が最も多い。
- ・精神障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(44.1%)が最も多い。
- ・難病患者は4人中3人が「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(75.0%)、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(75.0%)と回答している。
- ・2番目に多い項目をみると、身体障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(45.6%)、知的障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(59.1%)、精神障害者は「具体的な方法を考えることができた」(41.2%)と「様々な情報をもらい、子育ての役に立った」(41.2%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「支援を受けて子どもが成長した」(66.5%)となっている。

図表 相談の効果(障害等の種類別：複数回答)

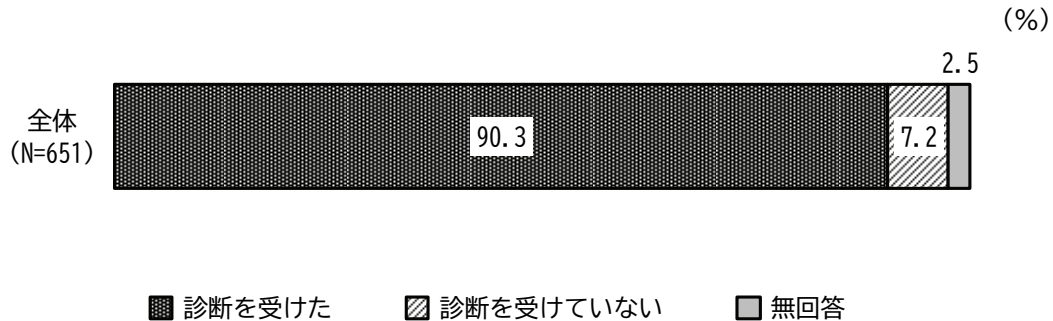


問9 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、医療機関で診断を受けましたか。

(1つに○)

- ・「診断を受けた」は90.3%、「診断を受けていない」は7.2%である。

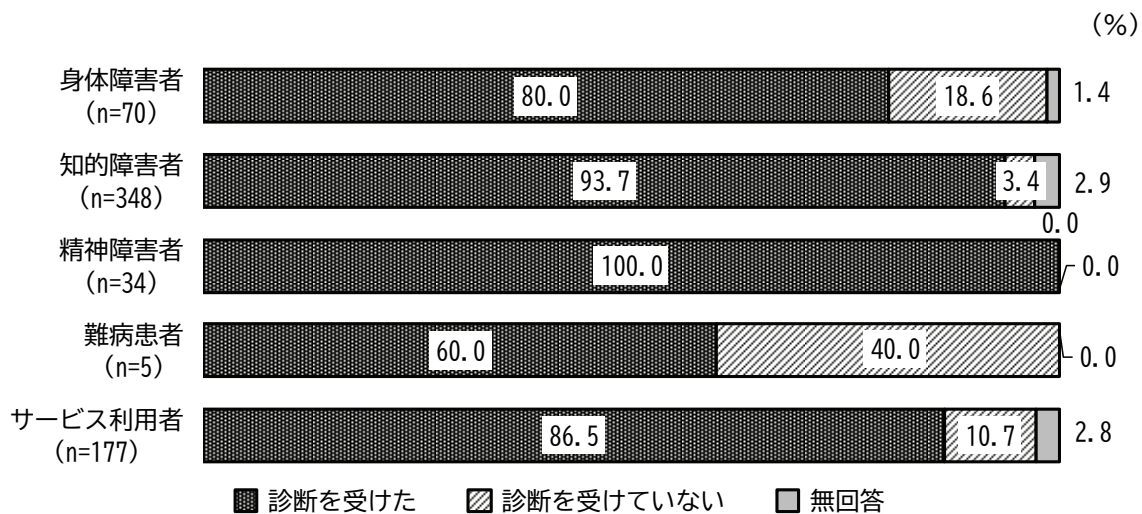
図表 育ちや発達に関する診断の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・「診断を受けた」は、身体障害者は80.0%、知的障害者は93.7%、精神障害者は100.0%、難病患者は5人中3人(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は86.5%となっている。

図表 育ちや発達に関する診断の有無(障害等の種類別)

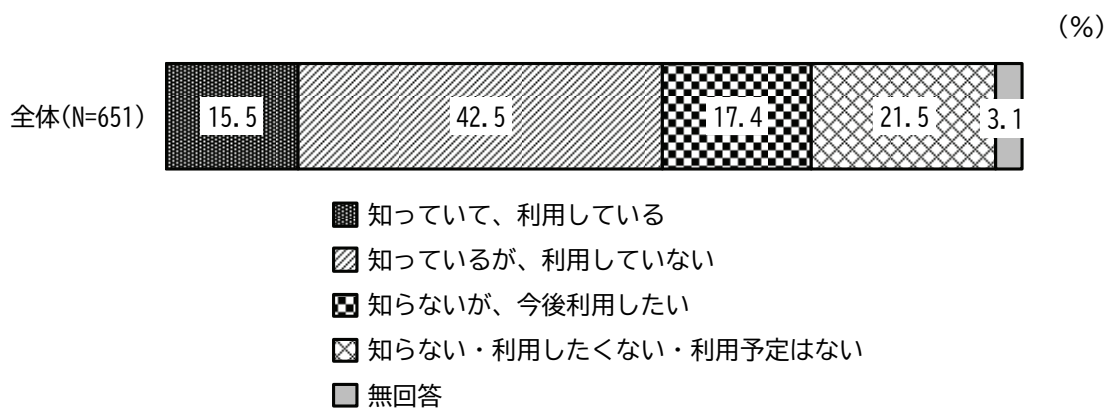


問 10 あなた(記入者)は、障害等のある人や育ちや発達が気になる子に関する府中市内の次の相談機関等を知っていますか。((1)~(5)について、それぞれ1つに○)

(1)地域生活支援センター (み〜な、あけぼの、プラザ、ふらっと)

・「知っているが、利用していない」(42.5%)が最も多い。「知っていて、利用している」と「知っているが、利用していない」(15.5%)をあわせた<知っている>は 58.0%である。「知らないが、今後利用したい」は 17.4%である。

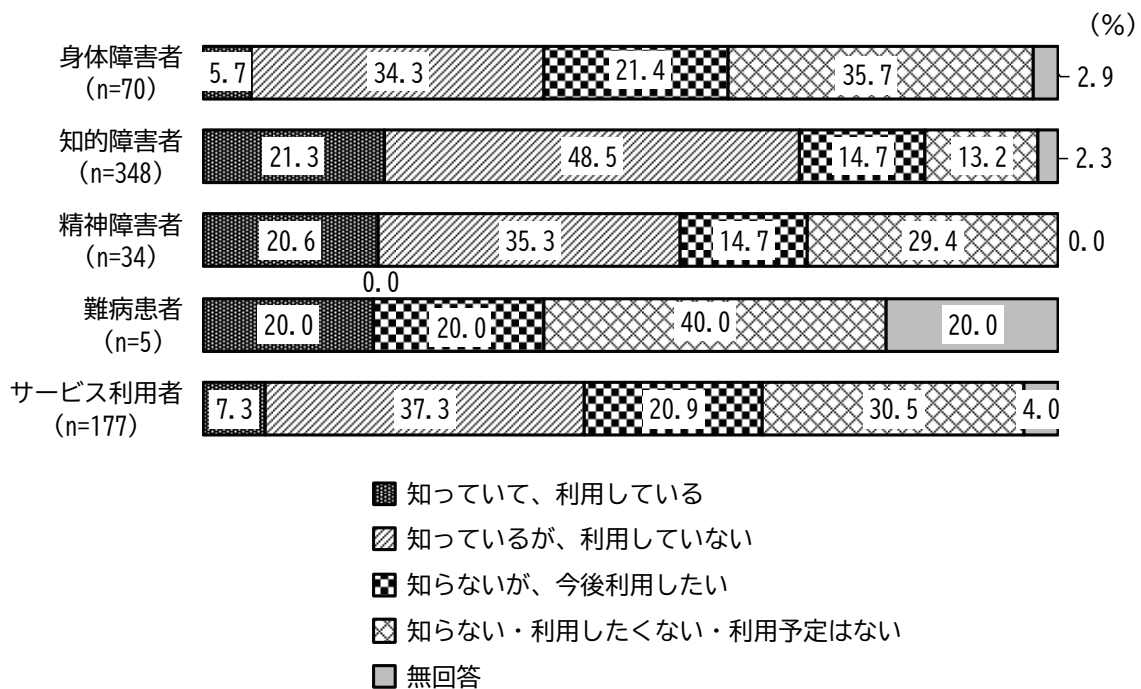
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター
(み〜な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(5.7%)と「知っているが、利用していない」(34.3%)をあわせたと知っている>は40.0%である。「知らないが、今後利用したい」は21.4%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(21.3%)と「知っているが、利用していない」(48.5%)をあわせたと知っている>は69.8%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(20.6%)と「知っているが、利用していない」(35.3%)をあわせたと知っている>は55.9%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中1人(20.0%)と「知っているが、利用していない」(0.0%)をあわせたと知っている>は5人中1人(20.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中1人(20.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(7.3%)と「知っているが、利用していない」(37.3%)をあわせたと知っている>は44.6%である。「知らないが、今後利用したい」は20.9%である。

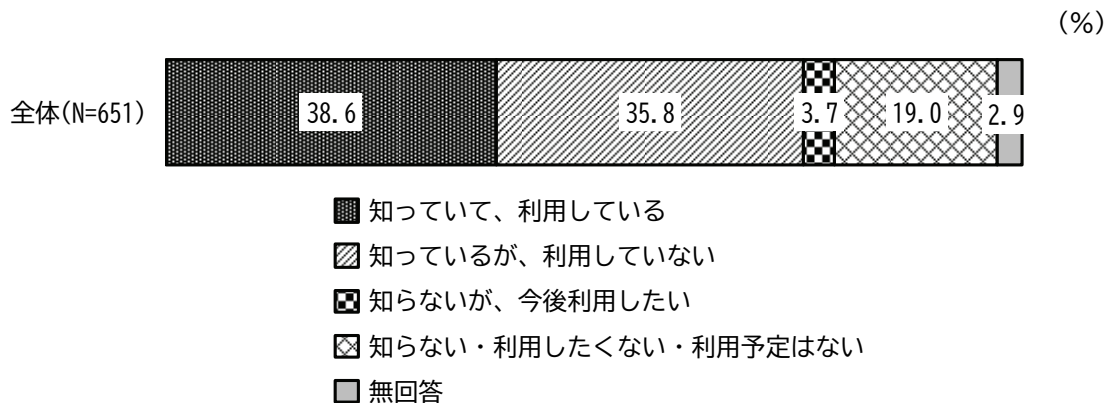
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター
(み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (障害等の種類別)



(2)子ども発達支援センター あゆの子

・「知っている、利用している」(38.6%)が最も多い。「知っている、利用している」と「知っているが、利用していない」(35.8%)をあわせた<知っている>は74.4%である。「知らないが、今後利用したい」は3.7%である。

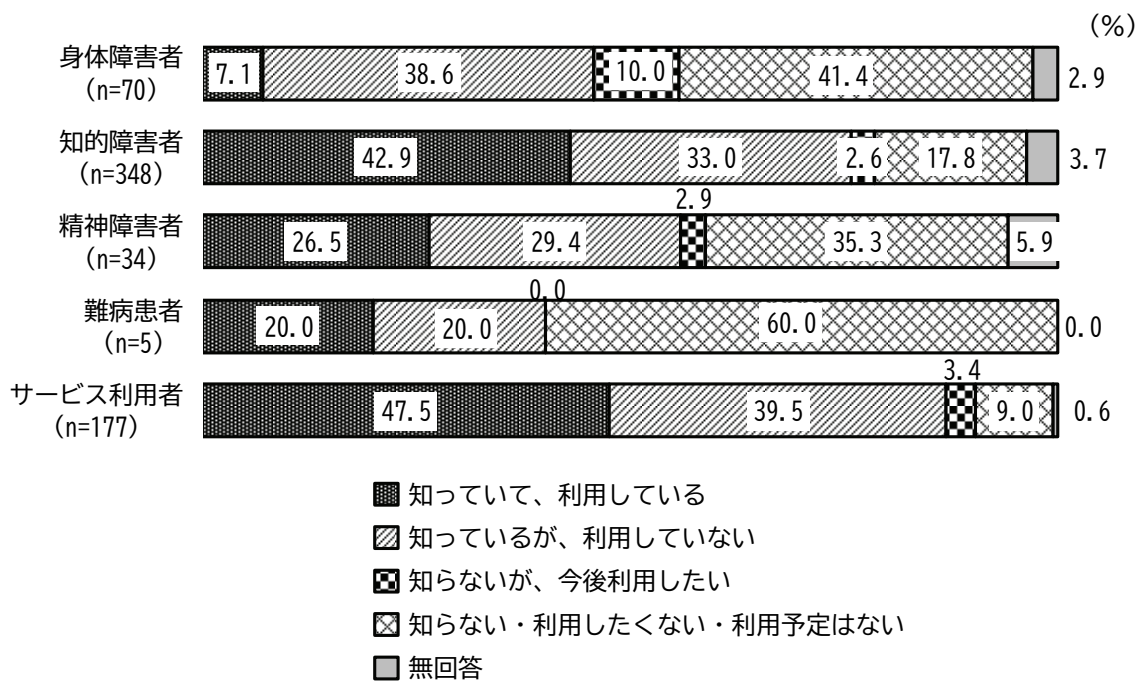
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター あゆの子（全体）



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「知っている、利用している」(7.1%)と「知っているが、利用していない」(38.6%)をあわせた<知っている>は45.7%である。「知らないが、今後利用したい」は10.0%である。
- ・ 知的障害者は「知っている、利用している」(42.9%)と「知っているが、利用していない」(33.0%)をあわせた<知っている>は75.9%である。「知らないが、今後利用したい」は2.6%である。
- ・ 精神障害者は「知っている、利用している」(26.5%)と「知っているが、利用していない」(29.4%)をあわせた<知っている>は55.9%である。「知らないが、今後利用したい」は2.9%である。
- ・ 難病患者は「知っている、利用している」5人中1人(20.0%)と「知っているが、利用していない」5人中1人(20.0%)をあわせた<知っている>は5人中2人(40.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は0.0%である。
- ・ サービス利用者は「知っている、利用している」(47.5%)と「知っているが、利用していない」(39.5%)をあわせた<知っている>は87.0%である。「知らないが、今後利用したい」は3.4%である。

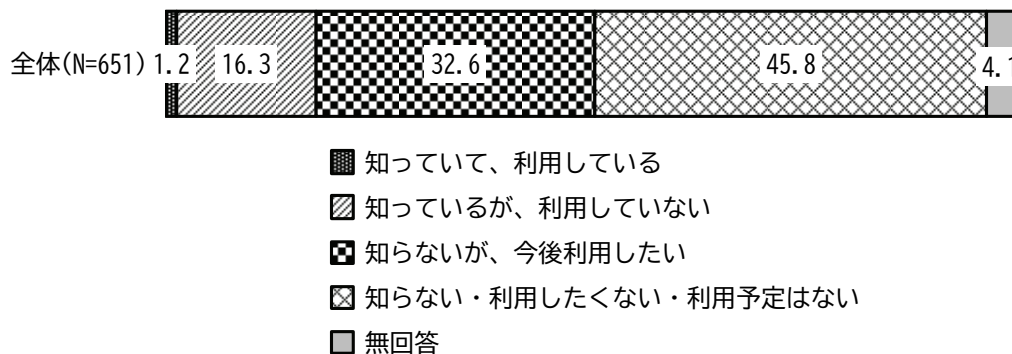
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター あゆの子
(障害等の種類別)



(3)身体障害者相談員・知的障害者相談員

・「知っている、利用している」(1.2%)と「知っているが、利用していない」(16.3%)をあわせたく知っている>は17.5%である。「知らないが、今後利用したい」は32.6%である。

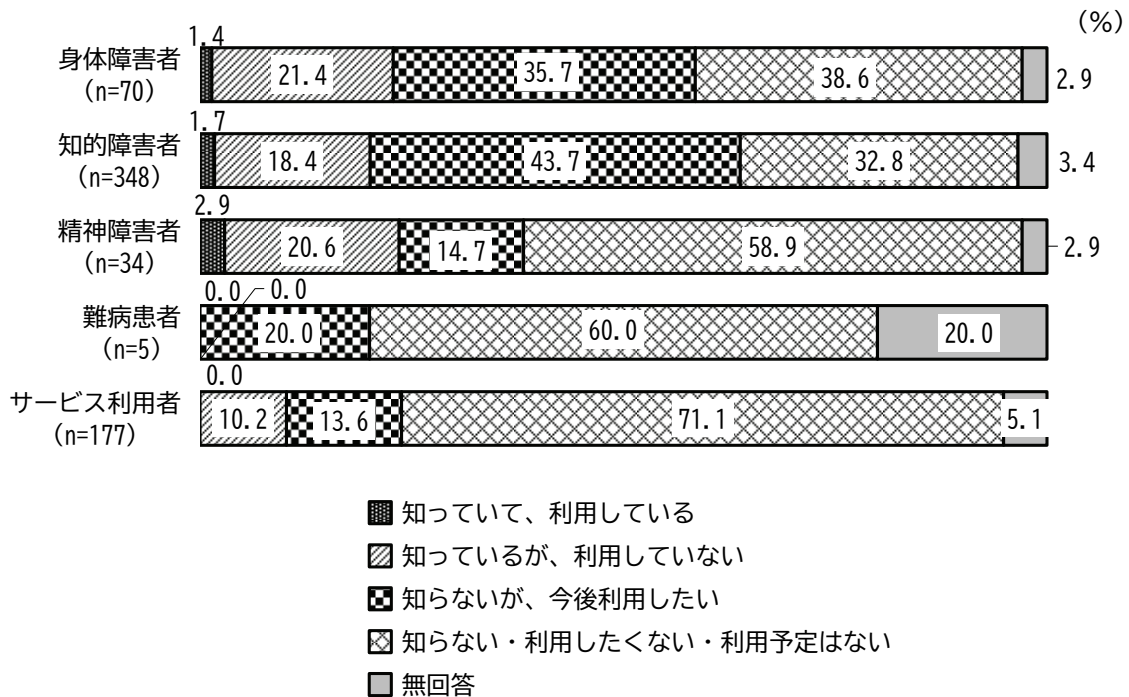
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員（全体）
(%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(1.4%)と「知っているが、利用していない」(21.4%)をあわせた<知っている>は22.8%である。「知らないが、今後利用したい」は35.7%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(1.7%)と「知っているが、利用していない」(18.4%)をあわせた<知っている>は20.1%である。「知らないが、今後利用したい」は43.7%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(2.9%)と「知っているが、利用していない」(20.6%)をあわせた<知っている>は23.5%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中1人(20.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(10.2%)をあわせた<知っている>は10.2%である。「知らないが、今後利用したい」は13.6%である。

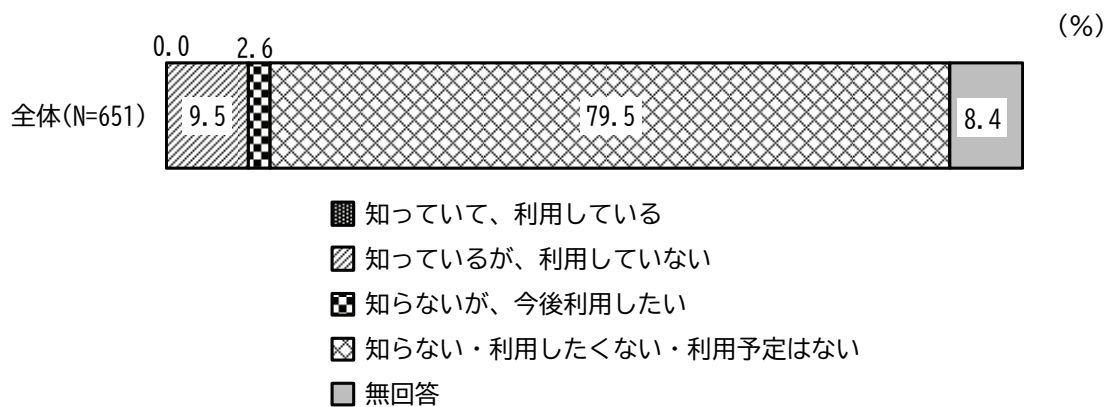
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員
(障害等の種類別)



(4)聴覚障害者相談事業

- ・「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(9.5%)をあわせた<知っている>は9.5%である。「知らないが、今後利用したい」は2.6%である。

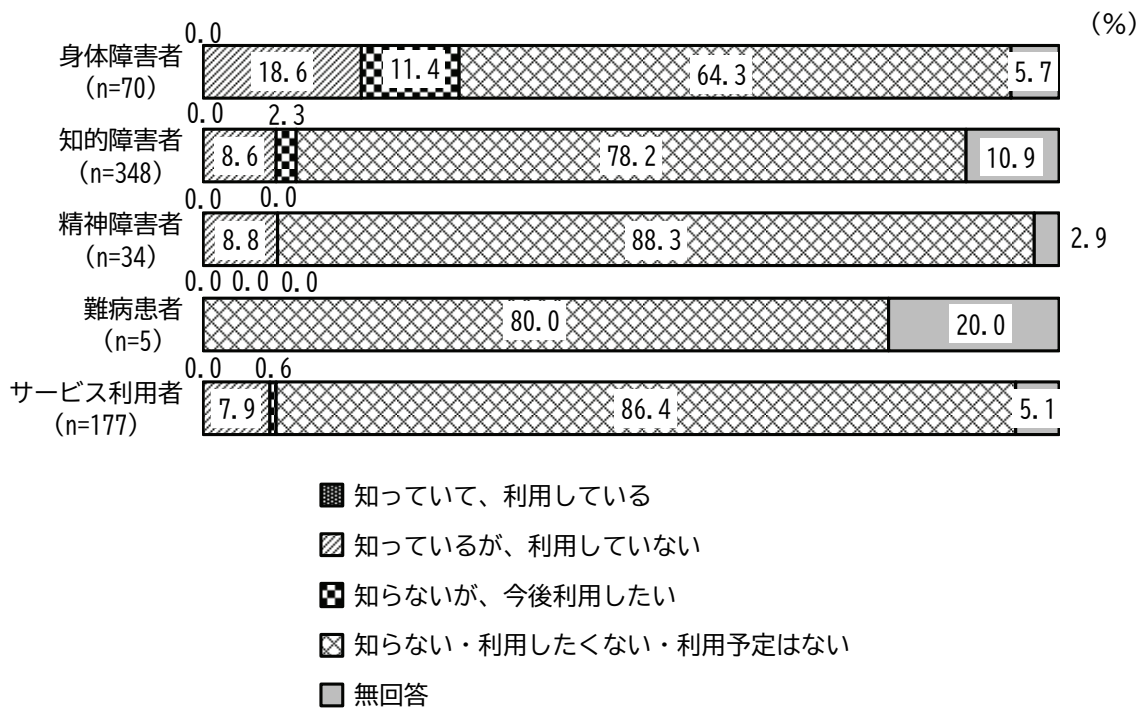
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(18.6%)をあわせた<知っている>は18.6%である。「知らないが、今後利用したい」は11.4%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.6%)をあわせた<知っている>は8.6%である。「知らないが、今後利用したい」は2.3%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.8%)をあわせた<知っている>は8.8%である。「知らないが、今後利用したい」は0.0%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中0人(0.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(7.9%)をあわせた<知っている>は7.9%である。「知らないが、今後利用したい」は0.6%である。

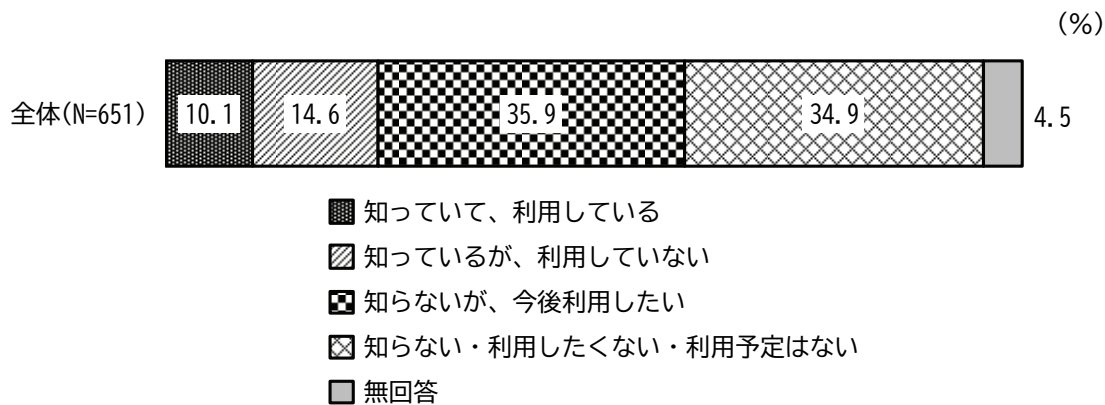
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（障害等の種類別）



(5)障害児相談支援事業所

- ・「知っている、利用している」(10.1%)と「知っているが、利用していない」(14.6%)をあわせたく知っている>は24.7%である。「知らないが、今後利用したい」は35.9%である。

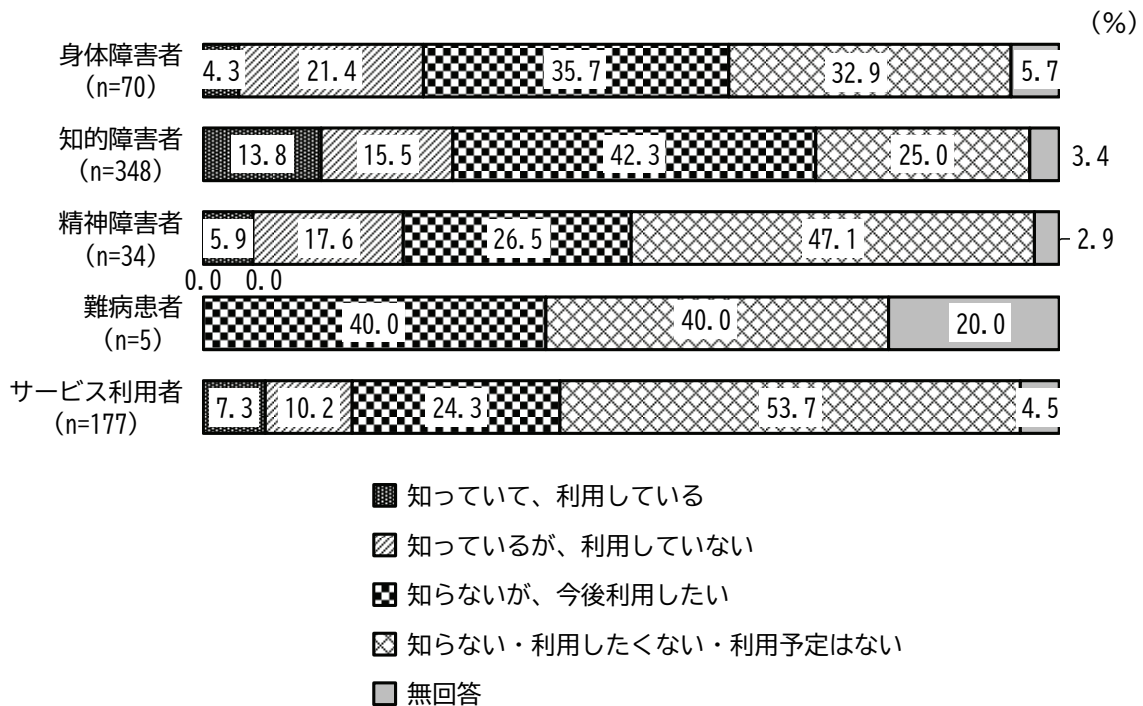
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(4.3%)と「知っているが、利用していない」(21.4%)をあわせた<知っている>は25.7%である。「知らないが、今後利用したい」は35.7%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(13.8%)と「知っているが、利用していない」(15.5%)をあわせた<知っている>は29.3%である。「知らないが、今後利用したい」は42.3%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(5.9%)と「知っているが、利用していない」(17.6%)をあわせた<知っている>は23.5%である。「知らないが、今後利用したい」は26.5%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中2人(40.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(7.3%)と「知っているが、利用していない」(10.2%)をあわせた<知っている>は17.5%である。「知らないが、今後利用したい」は24.3%である。

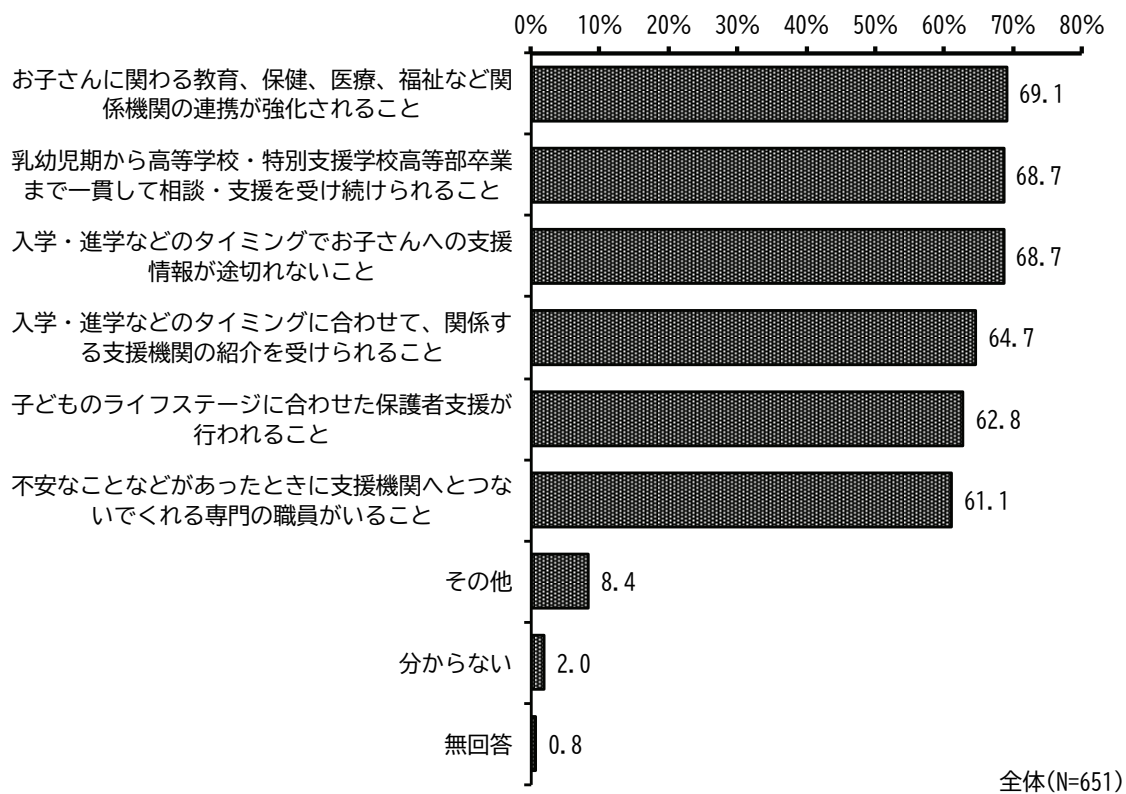
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（障害等の種類別）



問 11 あなた(記入者)は、お子さんの育ちや発達へのライフステージに合わせた切れ目のない支援として、次のうちどのようなことを希望されますか。(いくつでも)

- ・「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(69.1%)が最も多く、「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(68.7%)、「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(68.7%)が続いている。
- ・「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(64.7%)、「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」(62.8%)、「不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」(61.1%)も6割を超えている。

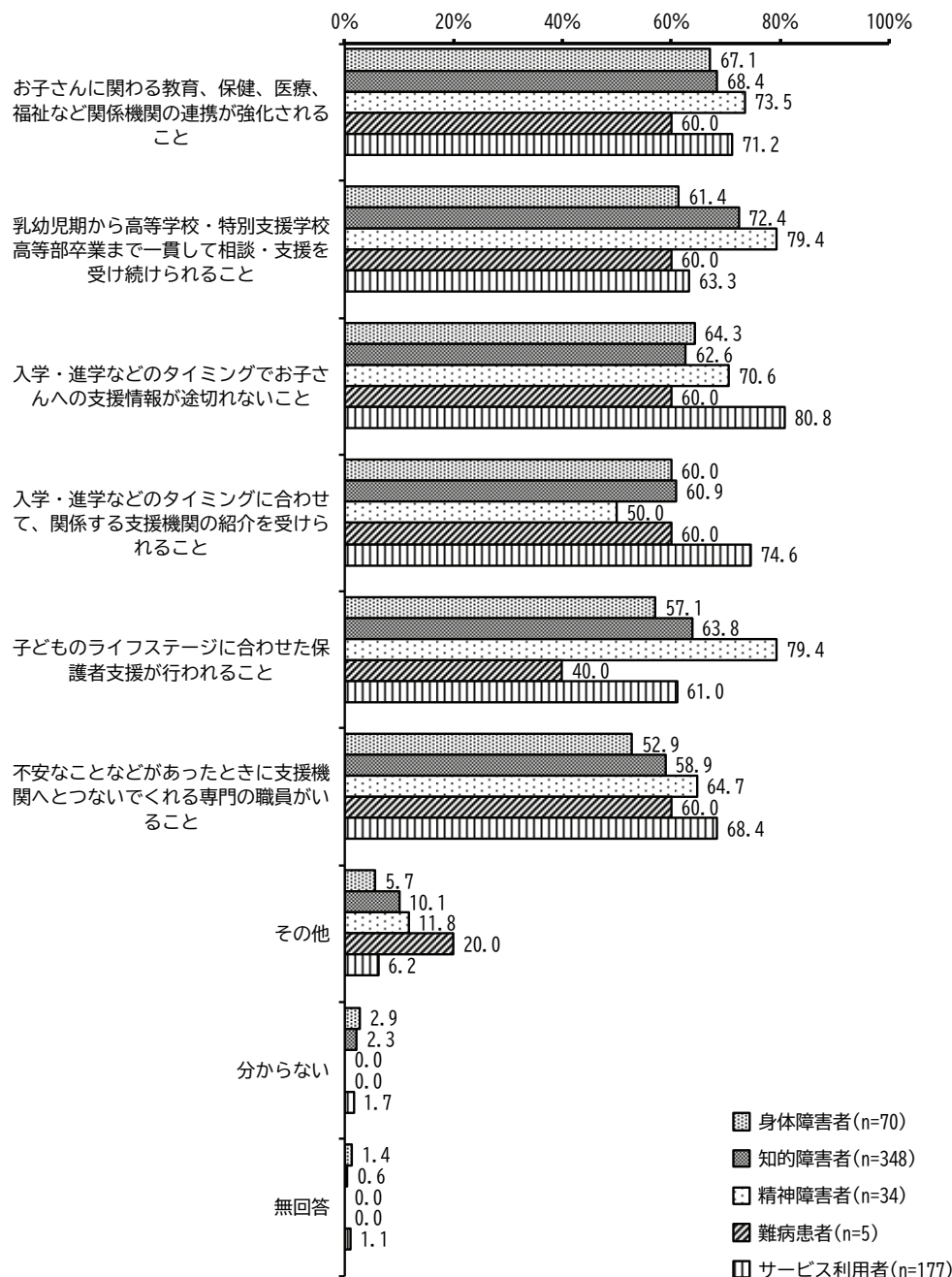
図表 ライフステージに応じた支援として希望すること (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(67.1%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(72.4%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(79.4%)と「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」(79.4%)が最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(80.8%)が最も多い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること（障害等の種類別：複数回答）



【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者は、学齢期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(81.5%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・知的障害者は、乳幼児期でいずれの項目も全体より10ポイント以上高い。
- ・精神障害者は、学齢期でほとんどの項目で全体より10ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は乳幼児期では「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(87.1%)、「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(82.4%)、「不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」(78.8%)で全体より10ポイント以上高い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること
(全体、障害等の種類別、障害等の種類×年代別：複数回答)

			お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること	乳幼児期から高等学校卒業まで一貫して相談・支援を受けられること	入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと	入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること	子どものライフステージに合わせて支援が行われること	不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること	その他	分からない	無回答	
全体		(N=651)	69.1	68.7	68.7	64.7	62.8	61.1	8.4	2.0	0.8	
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	67.1	61.4	64.3	60.0	57.1	52.9	5.7	2.9	1.4	
	知的障害者	(n=348)	68.4	72.4	62.6	60.9	63.8	58.9	10.1	2.3	0.6	
	精神障害者	(n=34)	73.5	79.4	70.6	50.0	79.4	64.7	11.8	0.0	0.0	
	難病患者	(n=5)	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0	
児童通所・障害福祉サービス利用者		(n=177)	71.2	63.3	80.8	74.6	61.0	68.4	6.2	1.7	1.1	
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	66.7	66.7	70.8	45.8	50.0	50.0	8.3	4.2	0.0
		学齢期	(n=27)	70.4	59.3	63.0	81.5	70.4	63.0	7.4	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	70.6	64.7	64.7	52.9	52.9	47.1	0.0	0.0	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	91.4	89.7	87.9	87.9	77.6	72.4	10.3	1.7	0.0
		学齢期	(n=146)	65.8	71.9	63.0	60.3	63.7	56.8	6.8	2.7	0.7
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	62.0	66.9	52.1	50.7	58.5	55.6	13.4	2.1	0.0
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=11)	81.8	100.0	90.9	54.5	90.9	72.7	9.1	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	66.7	71.4	57.1	47.6	76.2	61.9	9.5	0.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	76.5	72.9	87.1	82.4	67.1	78.8	8.2	0.0	1.2	
	学齢期	(n=77)	67.5	54.5	76.6	70.1	58.4	61.0	5.2	1.3	1.3	
	中学校卒業後～17歳	(n=14)	64.3	57.1	71.4	57.1	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	

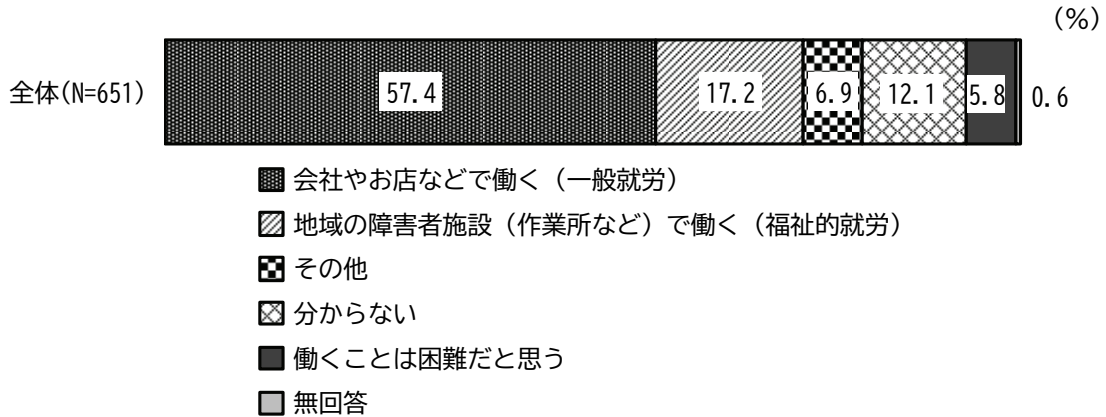
(%)

問12 あなた(記入者)は、将来、お子さんにどのようなところで働いてほしいと考えていますか。

(1つに○)

- ・「会社やお店などで働く(一般就労)」(57.4%)が最も多く、次いで「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(17.2%)、「分からない」(12.1%)が続いている。

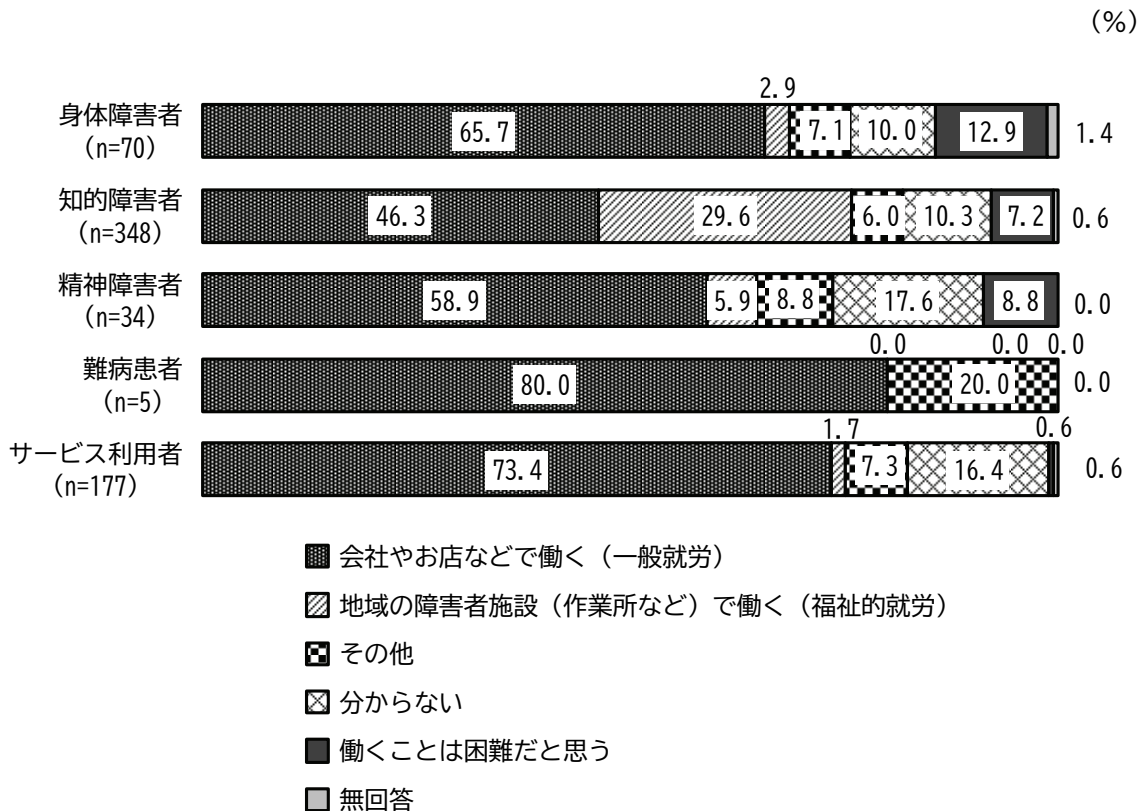
図表 お子さんの将来の希望 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「会社やお店などで働く(一般就労)」(身体：65.7%、知的：46.3%、精神：58.9%、難病：5人中4人(80.0%)、サービス利用：73.4%)が最も多い。
- ・知的障害者は「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(29.6%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「会社やお店などで働く(一般就労)」(73.4%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 お子さんの将来の希望 (障害等の種類別)

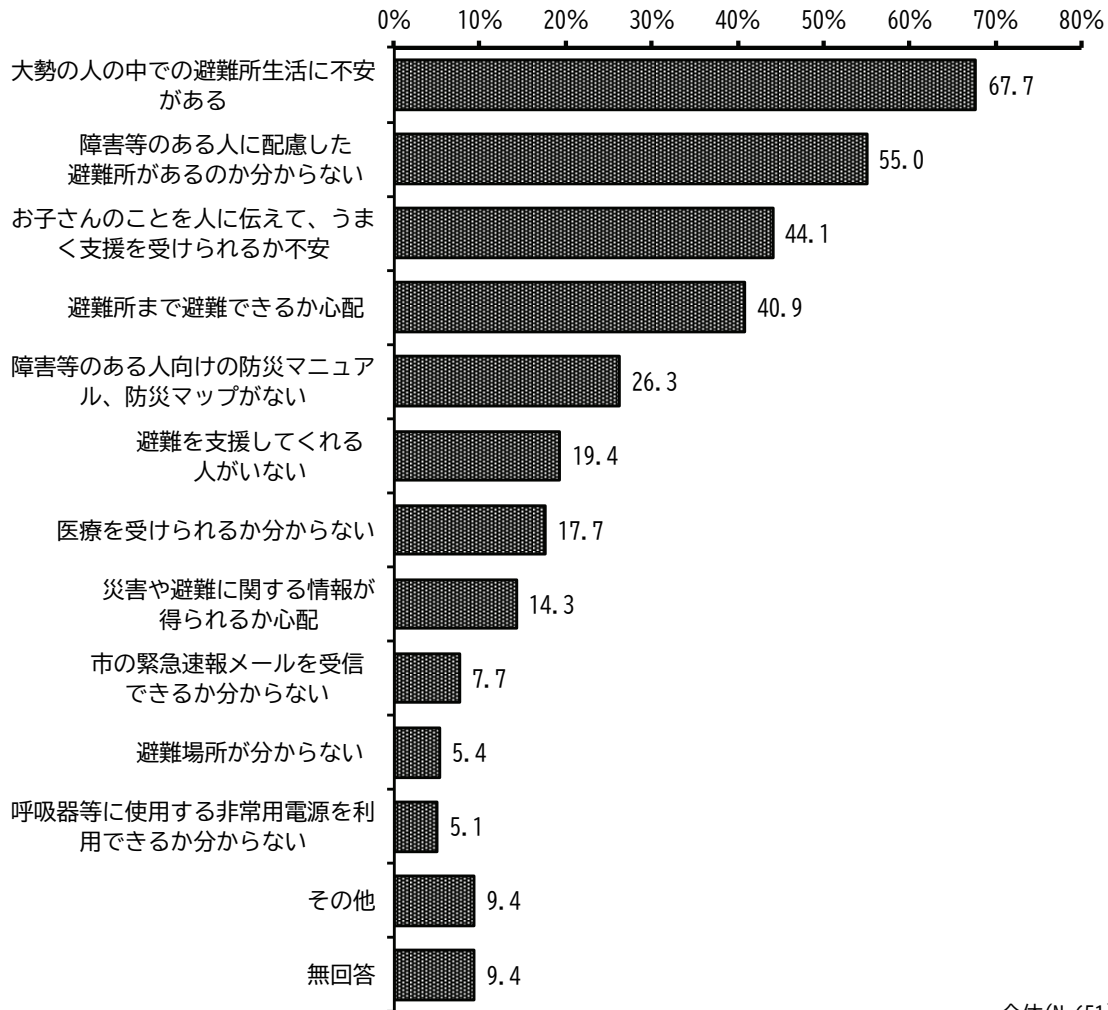


(8) 防災について

問13 災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(67.7%)が最も多く、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(55.0%)、「お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安」(44.1%)、「避難所まで避難できるか心配」(40.9%)が続いている。

図表 災害時に困ること・不安なこと(全体：複数回答)

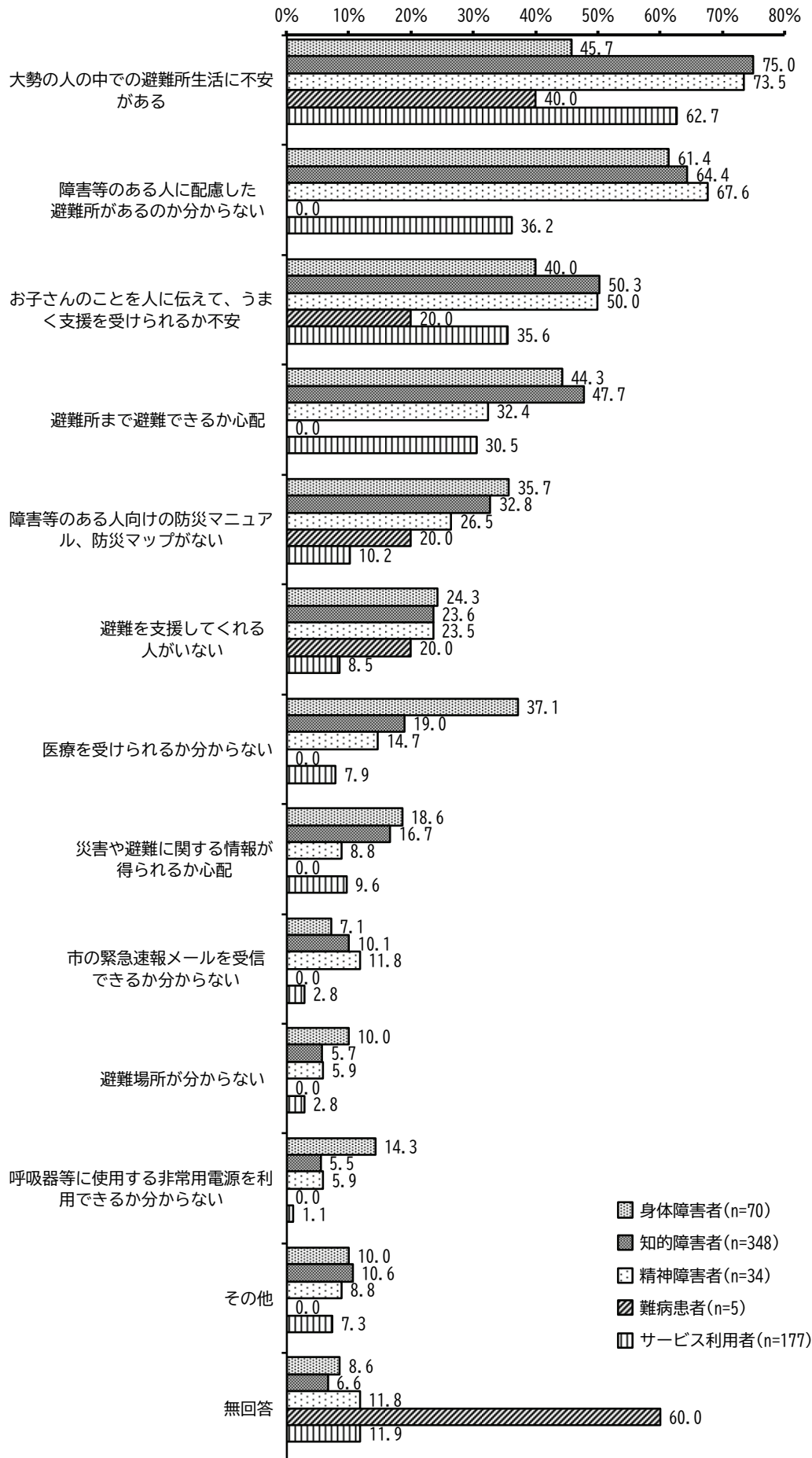


全体(N=651)

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(61.4%)、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：75.0%、精神：73.5%、難病：40.0%、サービス利用：62.7%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(45.7%)、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(知的：64.4%：精神：67.6%、サービス利用：36.2%)である。

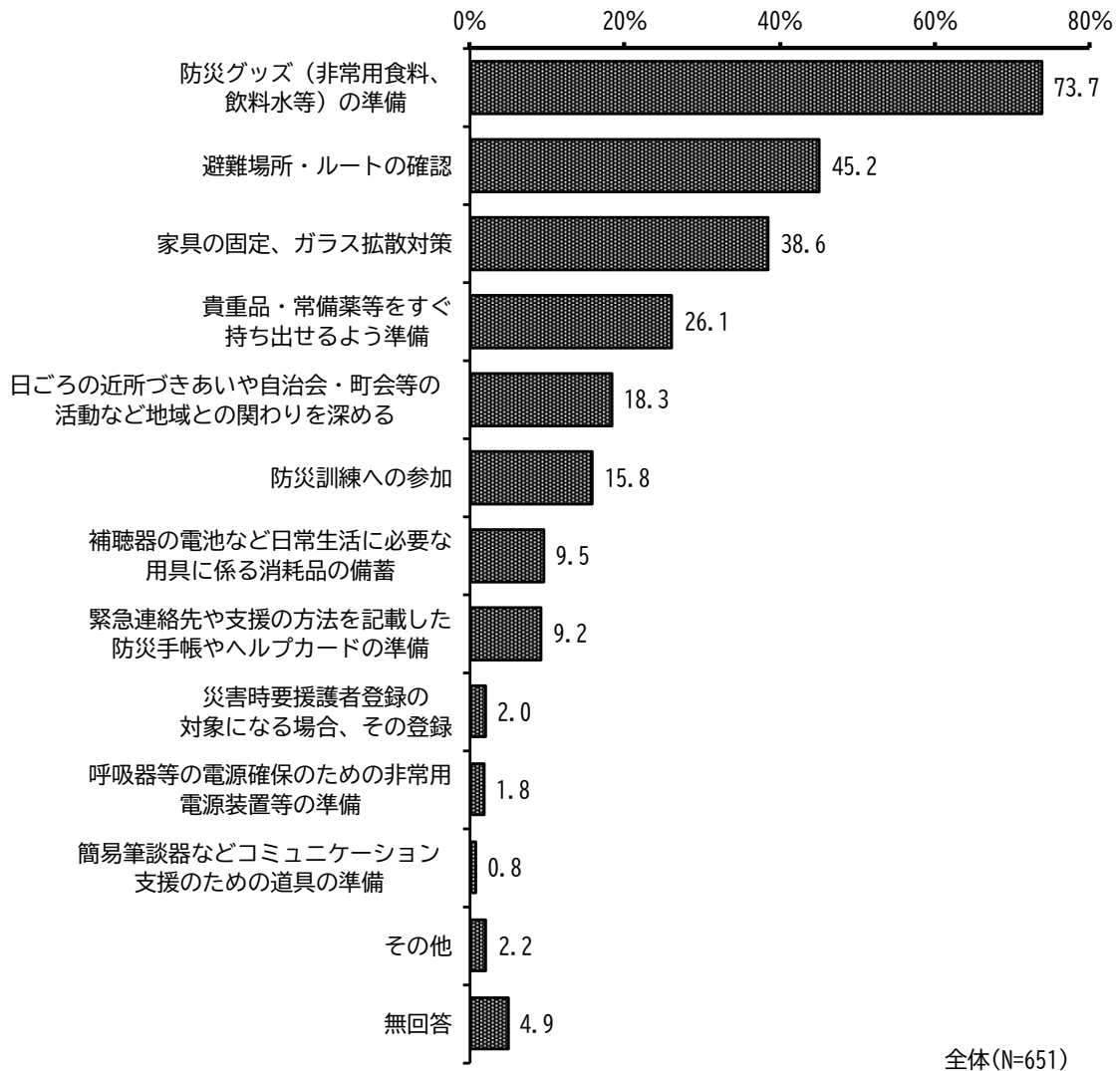
図表 災害時に困ること・不安なこと(障害等の種類別：複数回答)



問14 災害時に備えて、ふだんからどのようなことを行っていますか。(いくつでも○)

- ・「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(73.7%)が最も多く、次いで「避難場所・ルートの確認」(45.2%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(38.6%)が続いている。

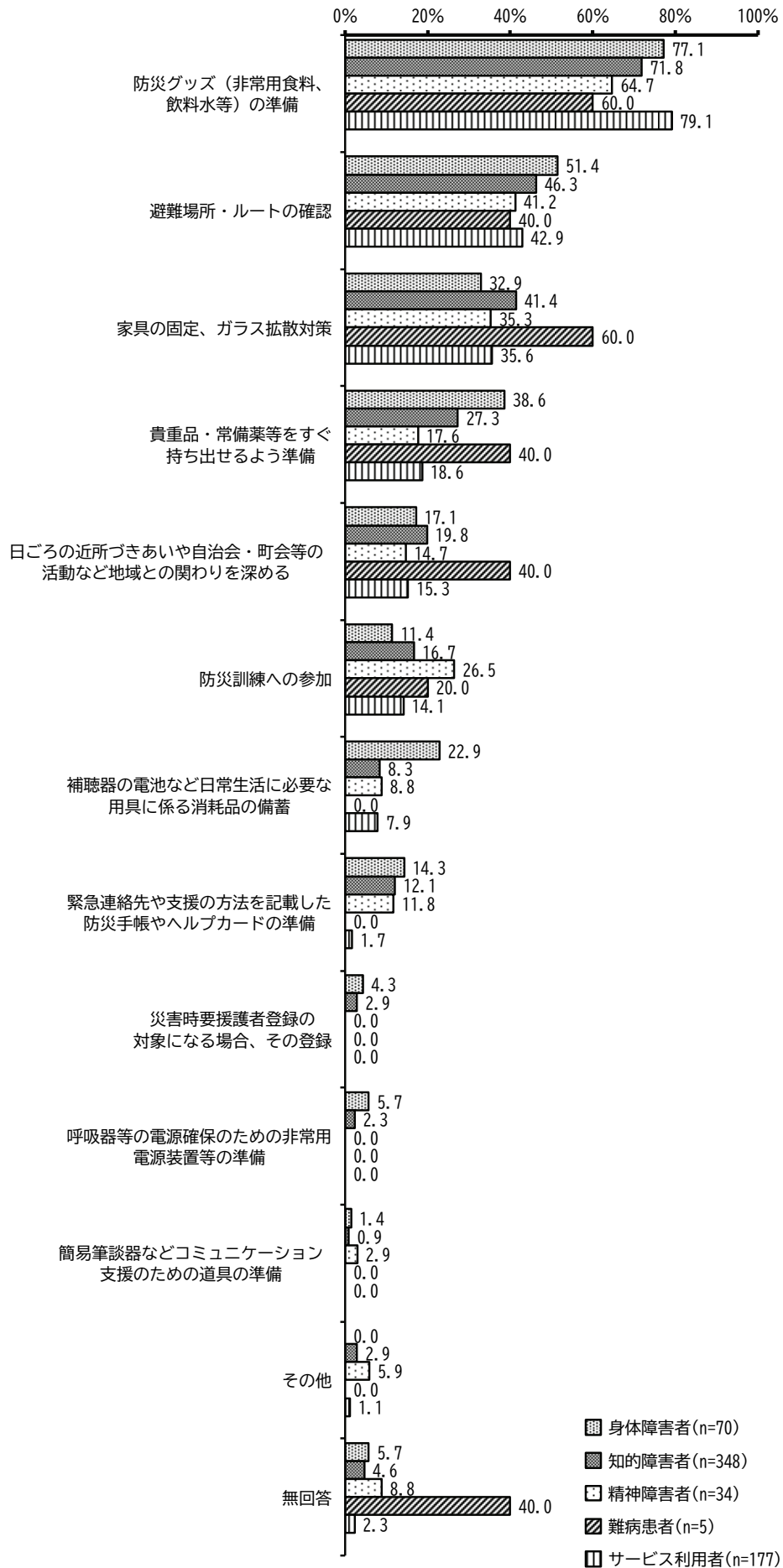
図表 災害対策としてふだんから行っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

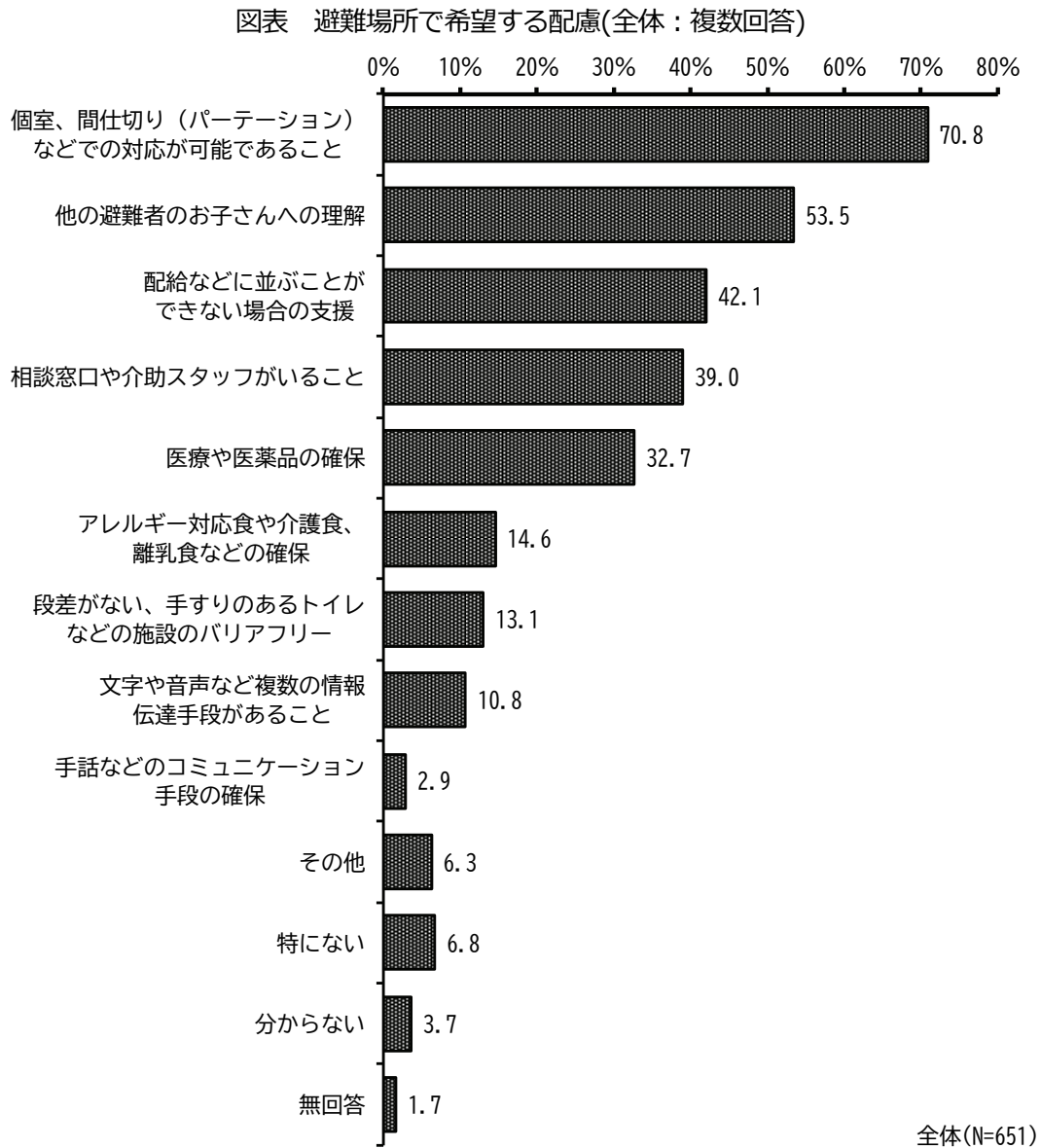
- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(身体:77.1%、知的:71.8%、精神:64.7%、サービス利用:79.1%)が最も多い。
- ・身体障害者は「貴重品・常備菜等をすぐ持ち出せるよう準備」(38.6%)、「補聴器の電池など日常生活に必要な用具に係る消耗品の備蓄」(22.9%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「防災訓練への参加」(26.5%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 災害対策としてふだんから行っていること(障害等の種類別：複数回答)



問15 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(70.8%)が最も多く、次いで「他の避難者のお子さんへの理解」(53.5%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(42.1%)が続いている。

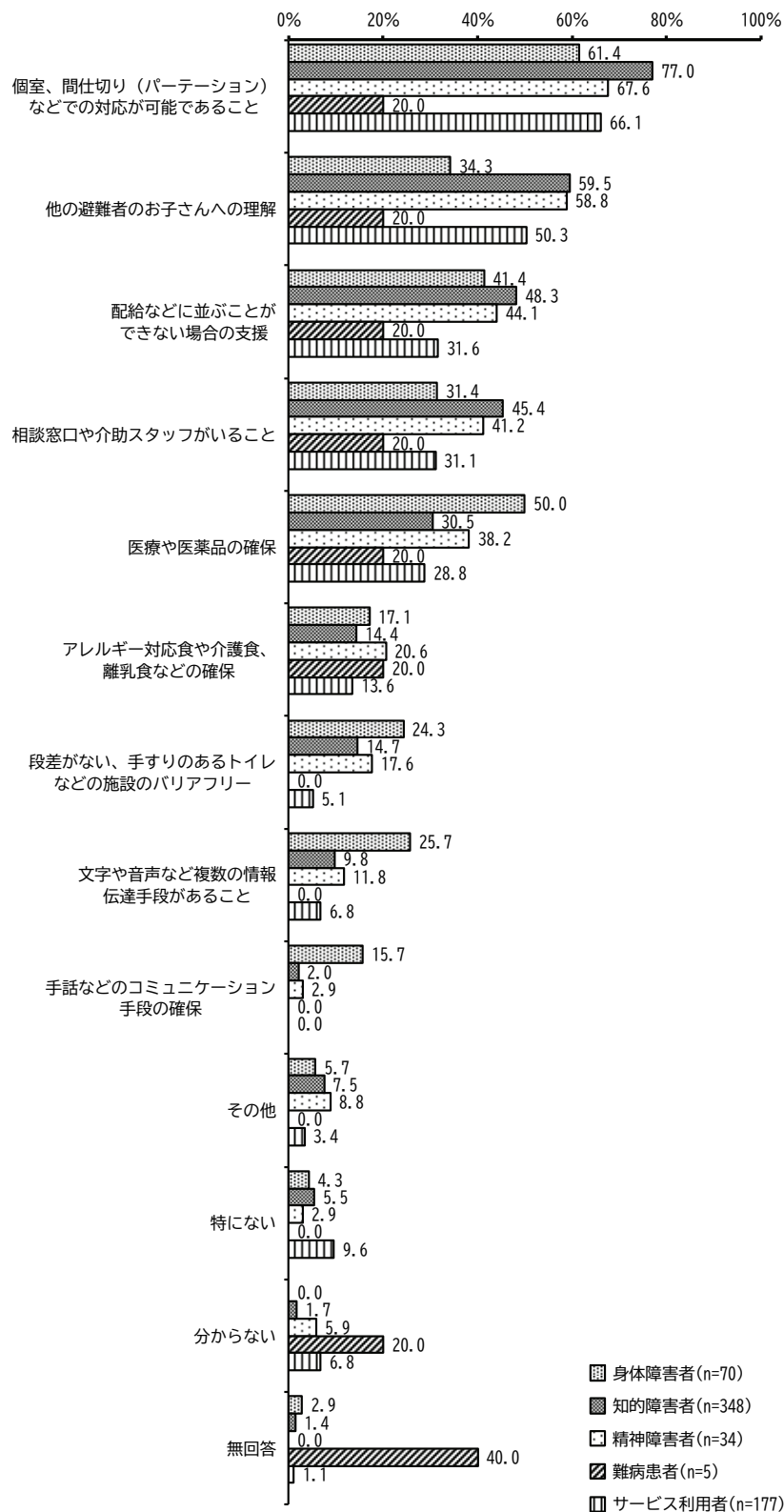


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、いずれも「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(身体:61.4%、知的:77.0%、精神:67.6%、サービス利用:66.1%)が最も多い。
- ・身体障害者は「医療や医薬品の確保」(50.0%)、「段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー」(24.3%)、「文字や音声など複数の情報伝達手段があること」(25.7%)、「手話などのコミュニケーション手段の確保」(15.7%)が全体より10ポイント以上高い。

- ・ 知的障害者は「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(77.0%)、「他の避難者のお子さんへの理解」(59.5%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(48.3%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(45.4%)が全体より5ポイント以上高い。
- ・ 精神障害者は「他の避難者のお子さんへの理解」(58.8%)、「医療や医薬品の確保」(38.2%)、「アレルギー対応食や介護食、離乳食などの確保」(20.6%)が全体より5ポイント以上高い。

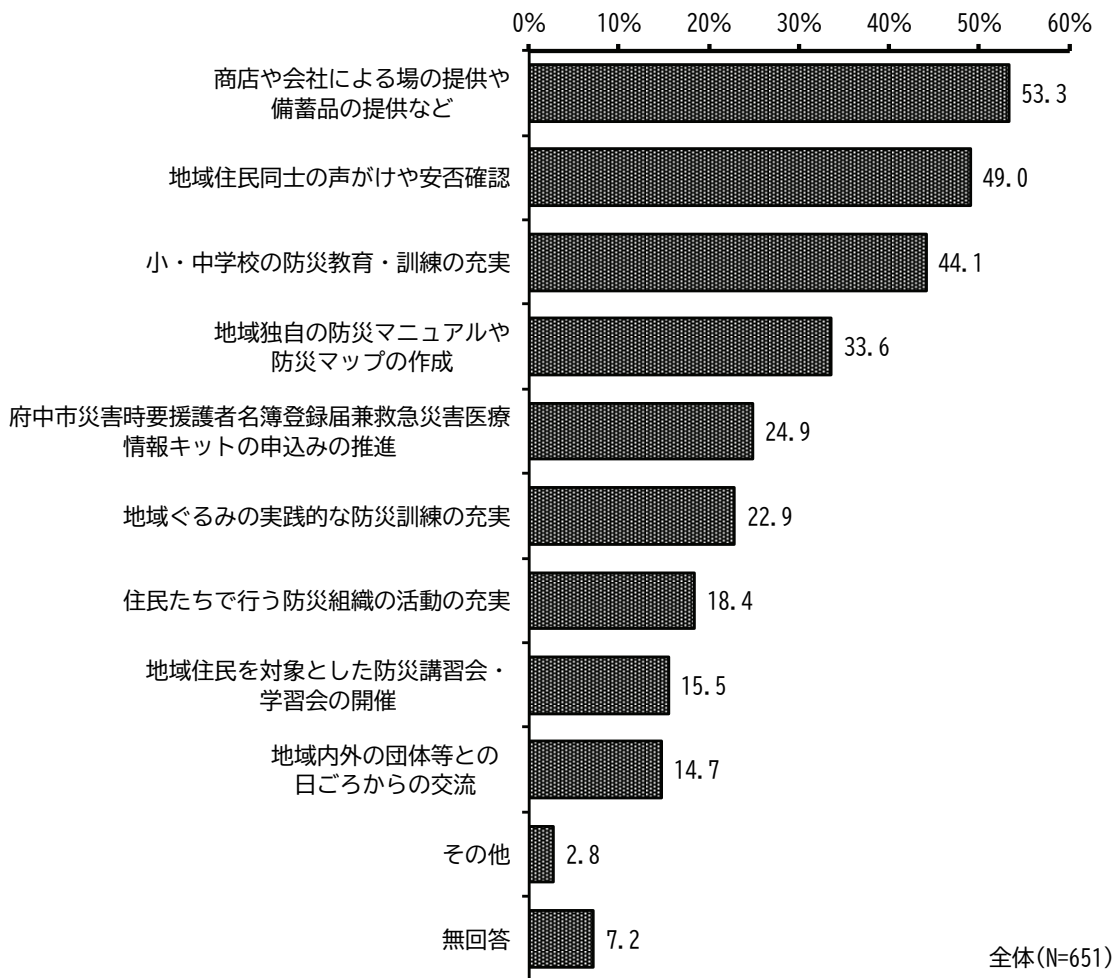
図表 避難場所で希望する配慮(障害等の種類別：複数回答)



問16 災害に備えて、市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。
(いくつでも○)

- ・「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(53.3%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(49.0%)、「小・中学校の防災教育・訓練の充実」(44.1%)が続いている。

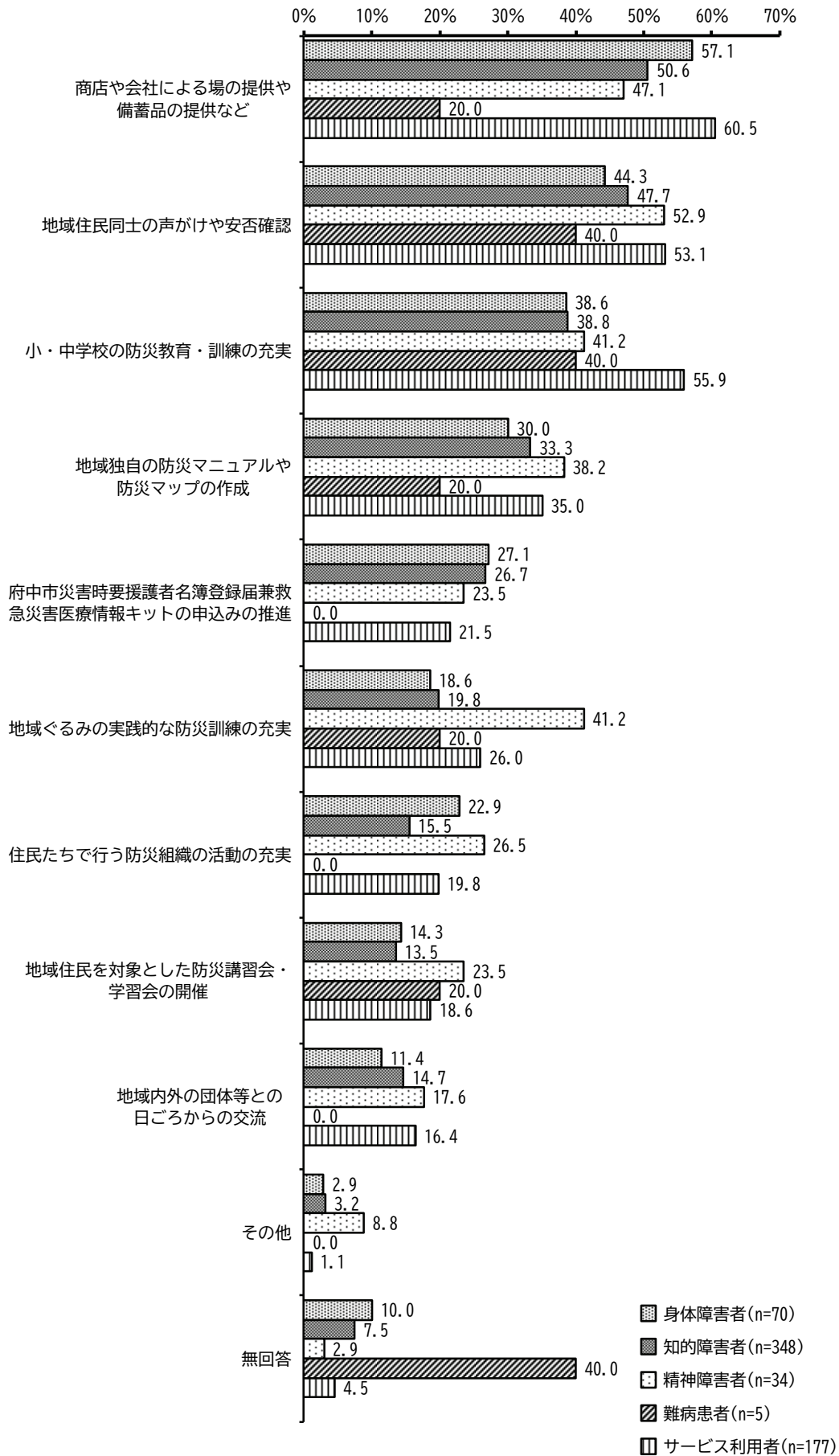
図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(身体：57.1%、知的：50.6%、サービス利用：60.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(52.9%)が最も多い。
- ・精神障害者は「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(26.5%)は全体より5ポイント以上、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(41.2%)は全体より15ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(60.5%)は全体より5ポイント以上、「小・中学校の防災教育・訓練の充実」(55.9%)は全体より10ポイント以上高い。

図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(障害等の種類別：複数回答)



(9) 医療・医療的ケアについて

問 17 お子さんは、日常的に何らかの医療・医療的ケアを必要としていますか。障害者手帳所持の有無に関わらずお答えください。(1つに○)

- ・「必要としている」は24.9%である。

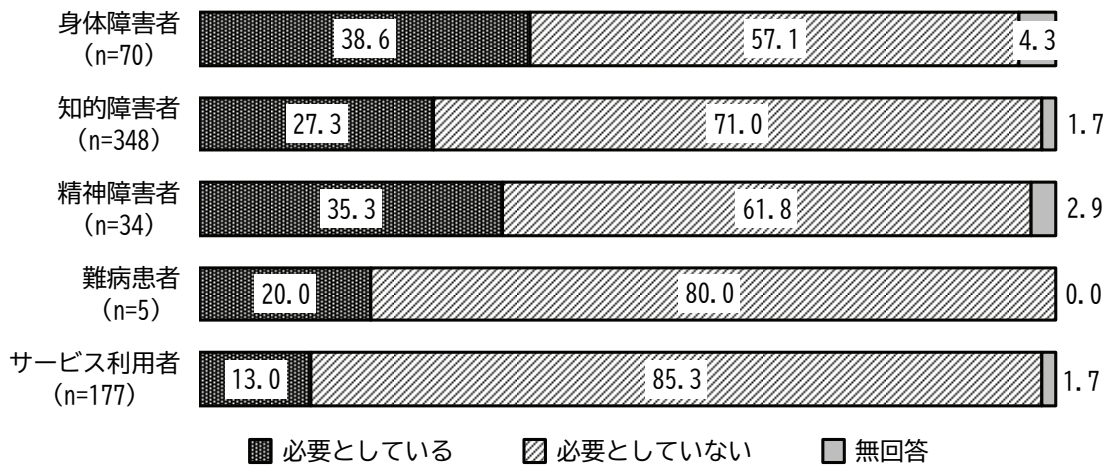
図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(全体) (%)



【障害等の種類別】

- ・「必要としている」は、身体障害者で38.6%、知的障害者で27.3%、精神障害者で35.3%、難病患者で20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者で13.0%である。

図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(障害等の種類別) (%)

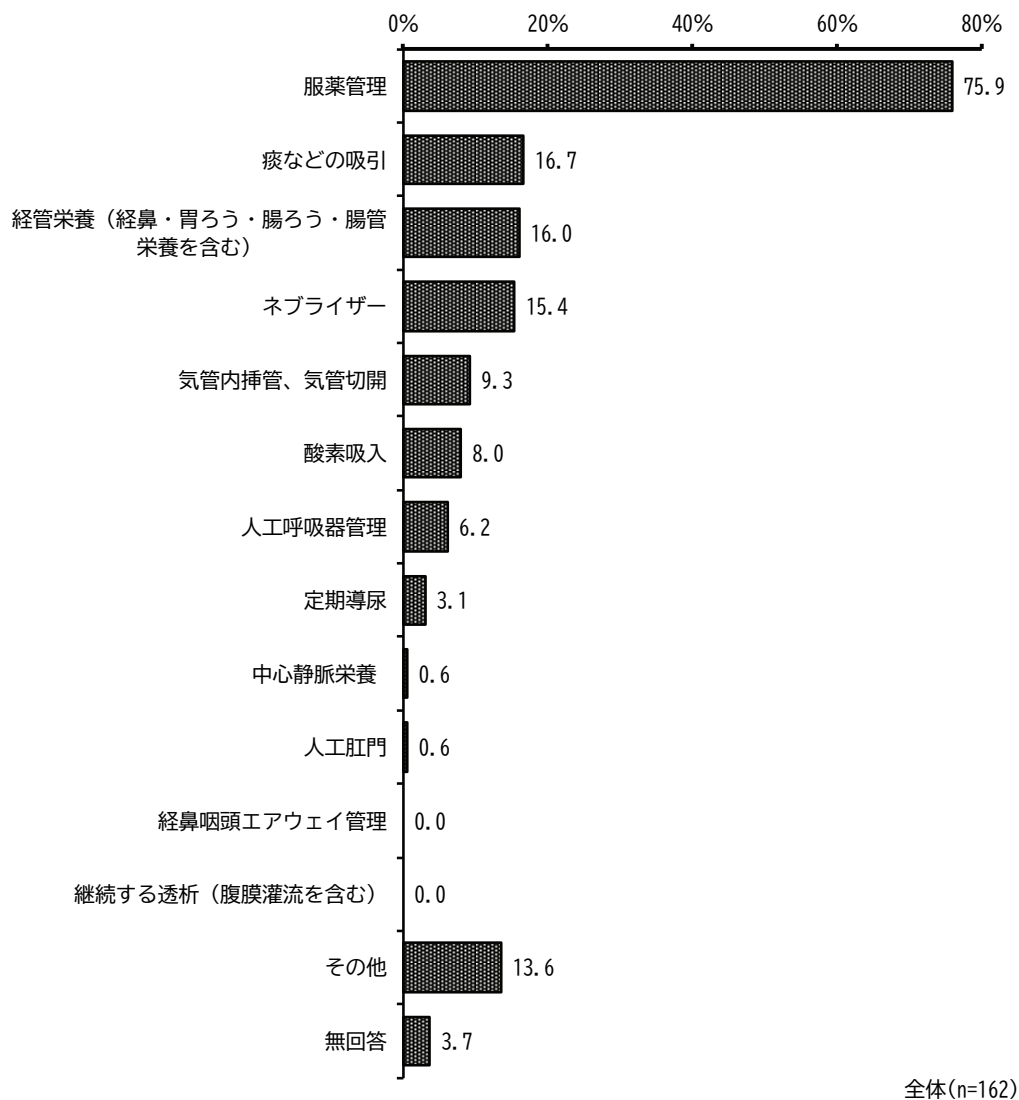


問 17-1 問 17で「1.必要としている」とお答えの方におたずねします。

現在、お子さんはどのような医療・医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

- ・「服薬管理」(75.9%)が最も多く、「痰などの吸引」(16.7%)、「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(16.0%)、「ネブライザー」(15.4%)が続いている。

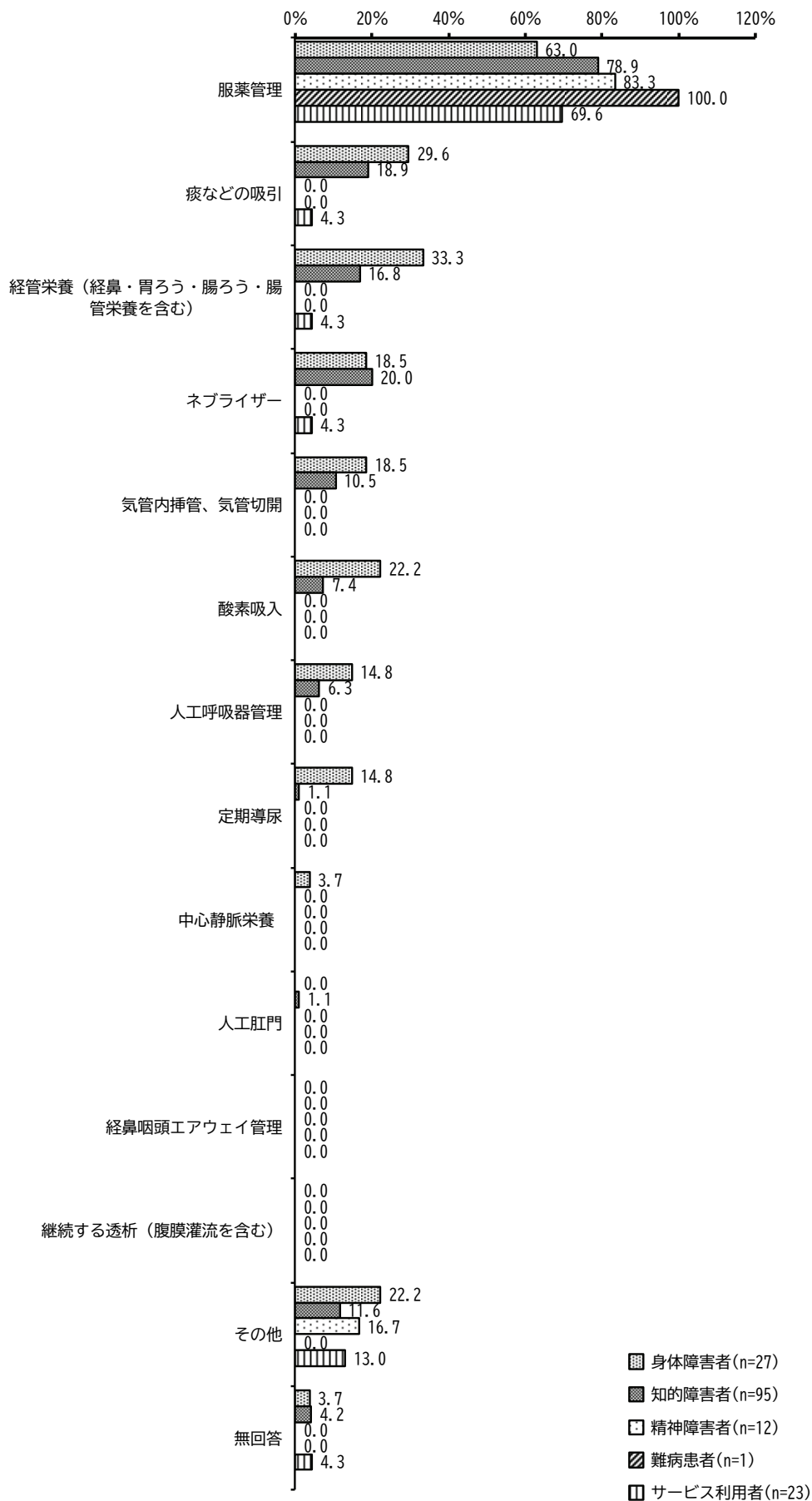
図表 現在受けている医療・医療的ケア(全体：複数回答)
 <医療・医療的ケアを必要としている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「服薬管理」(身体：63.0%、知的：78.9%、精神：83.3%、難病：100.0%、サービス利用：69.6%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(33.3%)、知的障害者は「ネブライザー」(20.0%)、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「その他」(精神：16.7%、サービス利用：13.0%)である。
- ・その他の具体的内容は、精神障害者は「カウンセリング」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「精神的ケア」などである。

図表 現在受けている医療・医療的ケア(障害等の種類別：複数回答)
 <医療・医療的ケアを必要としている人>

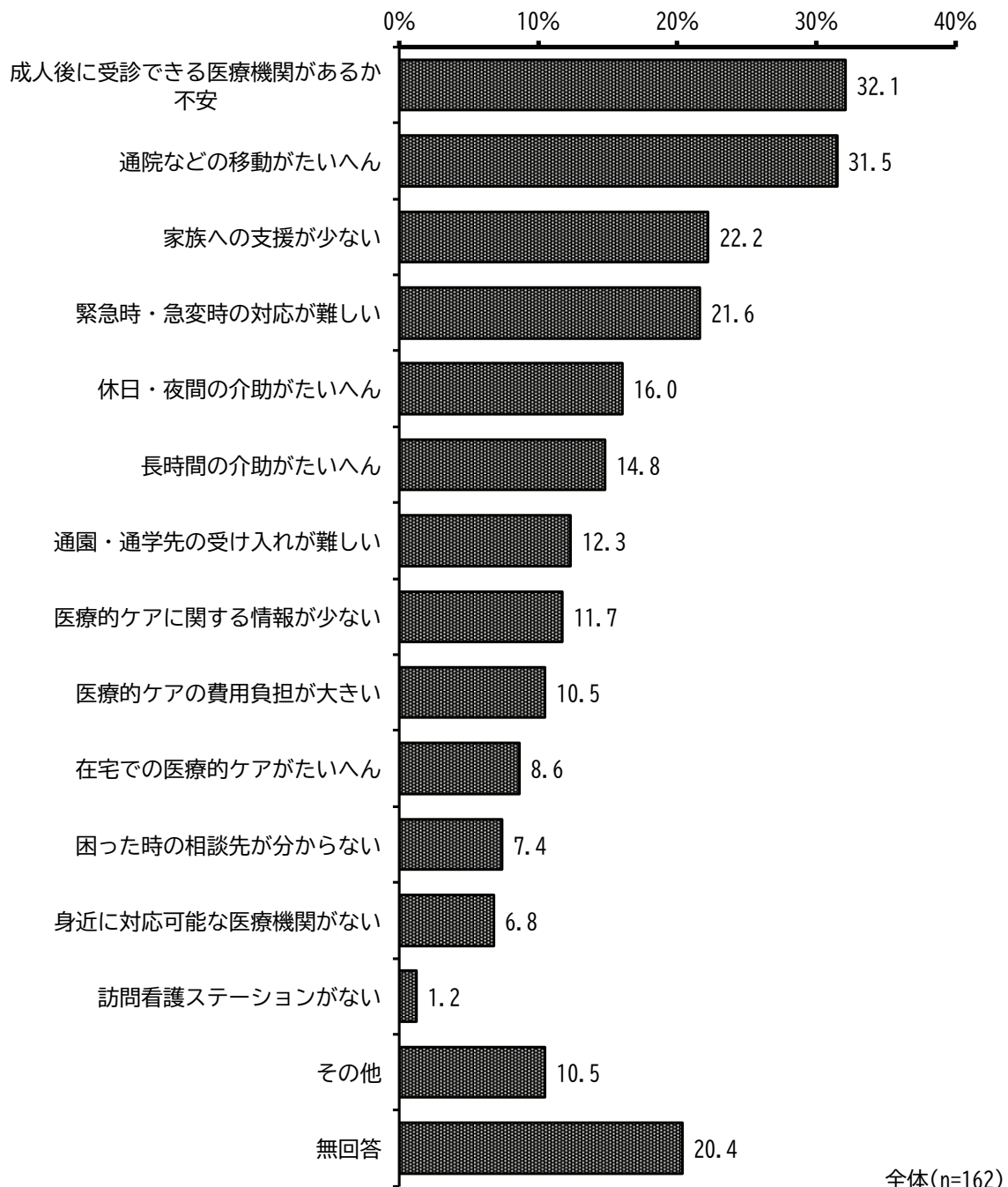


問17-2 問17で「1.必要としている」とお答えの方におたずねします。

お子さんの医療・医療的ケアにあたって、困りごとはありますか。(いくつでも○)

- ・「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(32.1%)が最も多く、「通院などの移動がたいへん」(31.5%)、「家族への支援が少ない」(22.2%)、「緊急時・急変時の対応が難しい」(21.6%)が続いている。

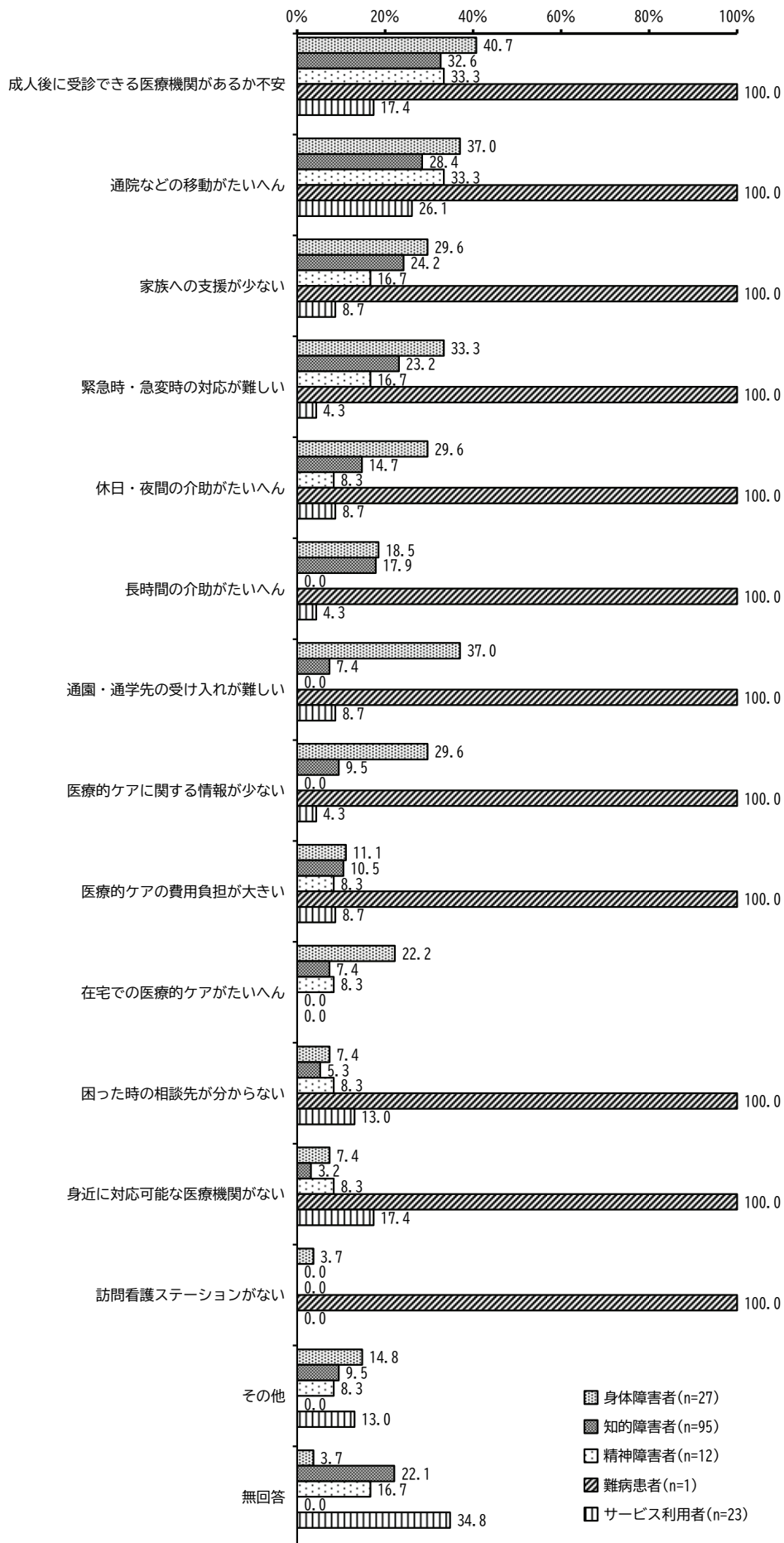
図表 医療・医療的ケアの困りごと(全体：複数回答)
 <医療・医療的ケアを必要としている人>



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(身体:40.7%、知的:32.6%)が最も多い。精神障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(33.3%)、「通院などの移動がたいへん」(33.3%)が同率で最も多い。児童通所・障害福祉サービス利用者は「通院などの移動がたいへん」(26.1%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「通院などの移動がたいへん」(37.0%)と「通園・通学先の受け入れが難しい」(37.0%)、知的障害者は「通院などの移動がたいへん」(28.4%)、精神障害者は「家族への支援が少ない」(16.7%)と「緊急時・急変時の対応が難しい」(16.7%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(17.4%)と「身近に対応可能な医療機関がない」(17.4%)である。

図表 医療・医療的ケアの困りごと(障害等の種類別：複数回答)
 <医療・医療的ケアを必要としている人>

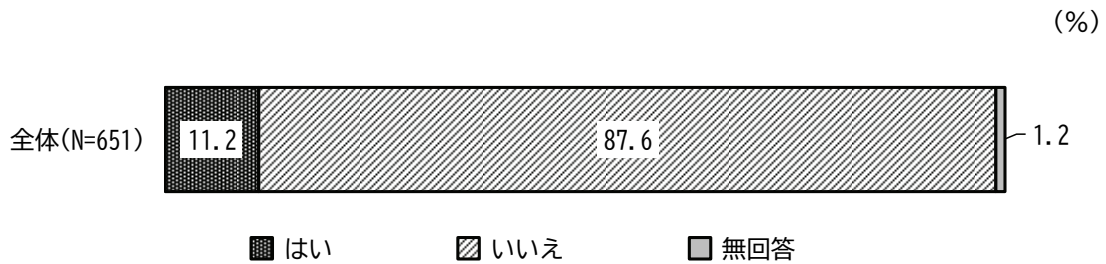


(10) 地域・共生社会について

問 18 障害等のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことをめざす「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方がありますが、この「共生社会(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに○)

- ・ 「はい」 11.2%、「いいえ」 87.6%である。

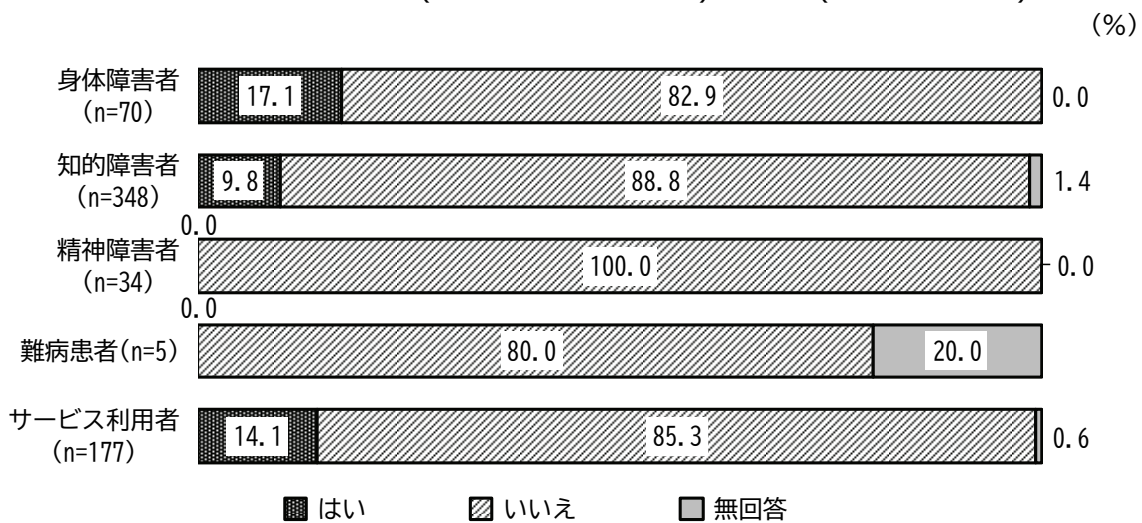
図表 市民の「共生社会(ノーマライゼーション)」の理解(全体)



【障害等の種類別】

- ・ 「いいえ」は、身体障害者は 82.9%、知的障害者は 88.8%、精神障害者は 100.0%、難病患者は 80.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は 85.3%である。

図表 市民の「共生社会(ノーマライゼーション)」の理解(障害等の種類別)

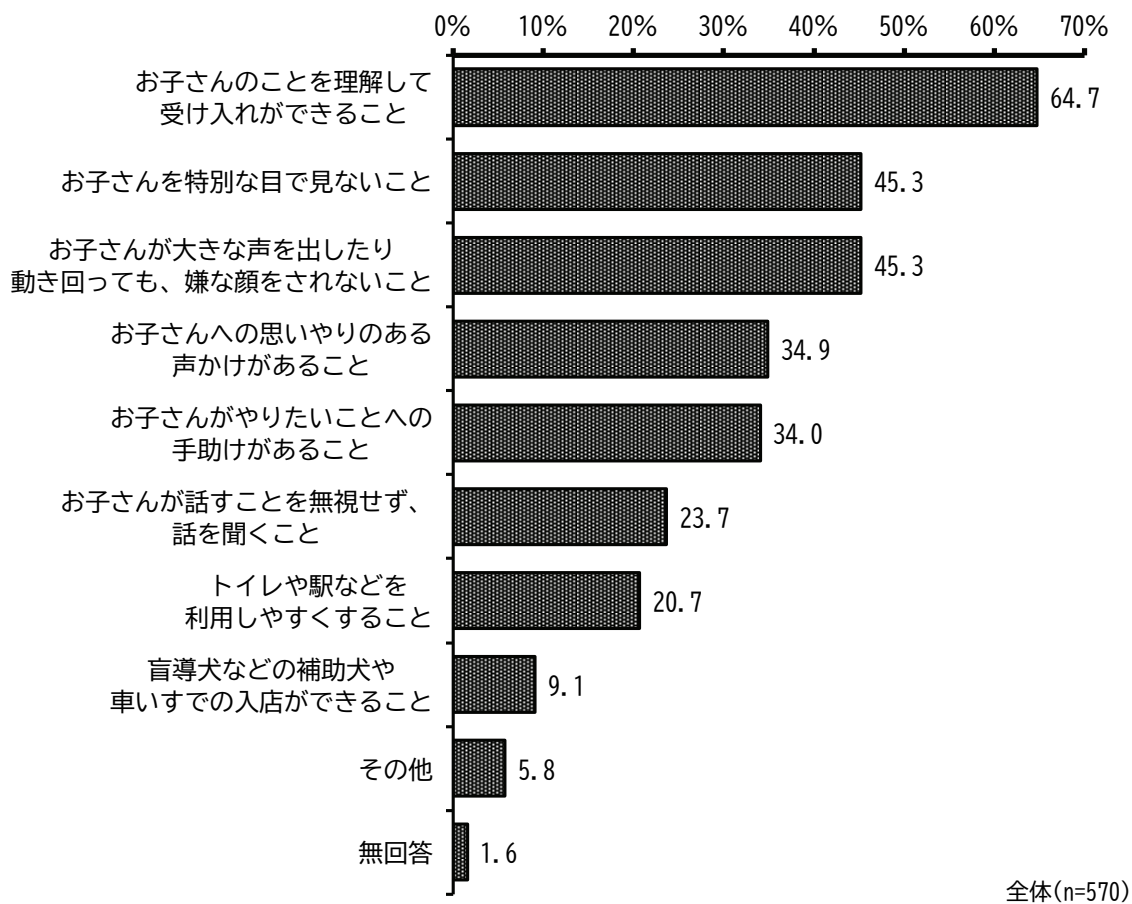


問 18-1 問 18 で「2.いいえ」と答えた方におたずねします。

どのようなことがあればお子さんが「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- ・「お子さんのことを理解して受け入れができること」(64.7%)が最も多く、「お子さんを特別な目で見ないこと」(45.3%)、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」(45.3%)が同率で続いている。

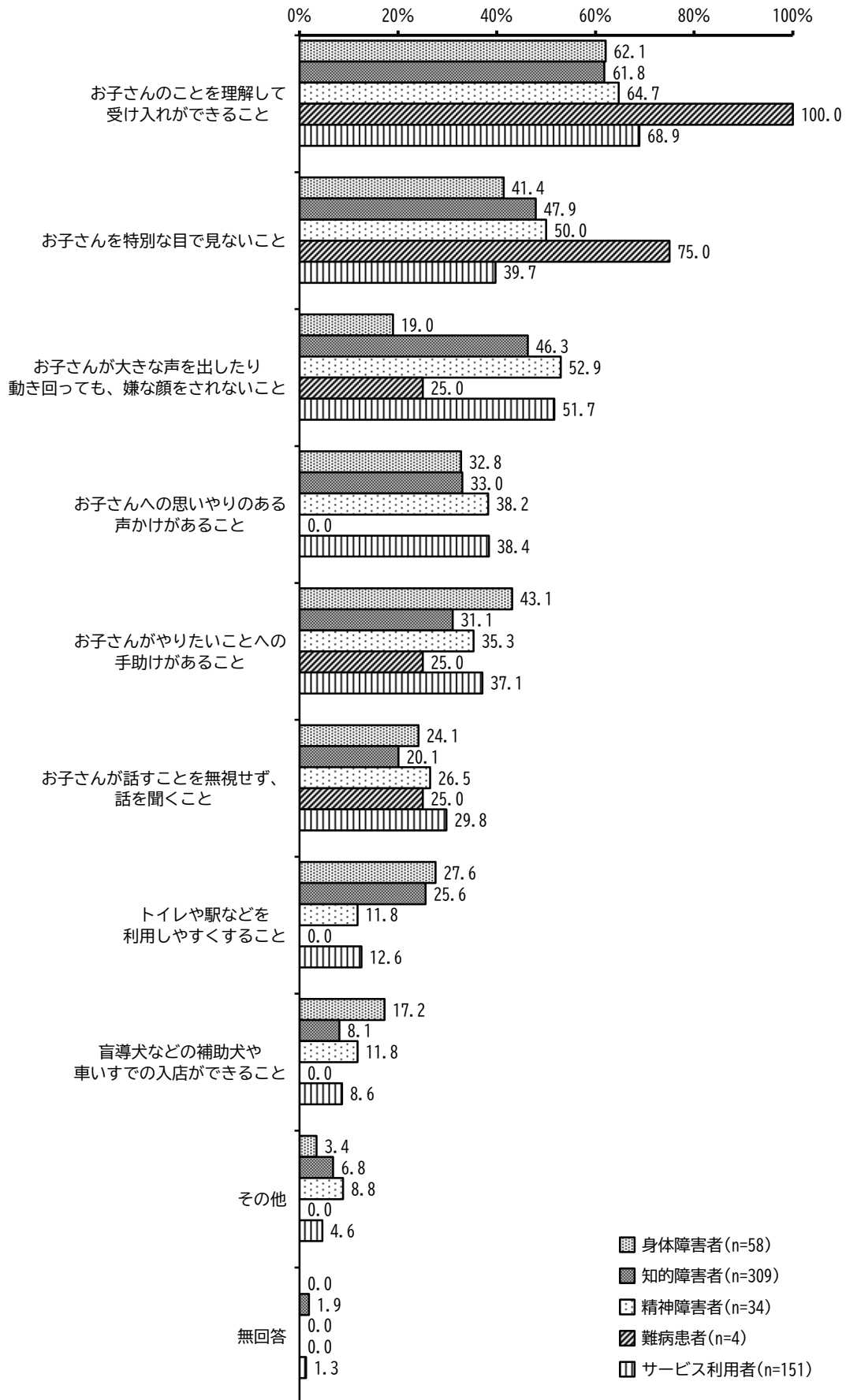
図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(全体：複数回答)
 <共生社会(ノーマライゼーション)が理解されていないと答えた人>



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも、「お子さんのことを理解して受け入れができること」(身体：62.1%、知的：61.8%、精神：64.7%、難病：100.0%、サービス利用：68.9%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「お子さんがやりたいことへの手助けがあること」(43.1%)、知的障害者と難病患者は「お子さんを特別な目で見ないこと」(知的：47.9%、難病：75.0%)、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「お子さんが大きな声を出したり動きまわっても、嫌な顔をされないこと」(精神：52.9%、サービス利用：51.7%)となっている。

図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(障害等の種類別：複数回答)
 <共生社会(ノーマライゼーション)が理解されていないと答えた人>

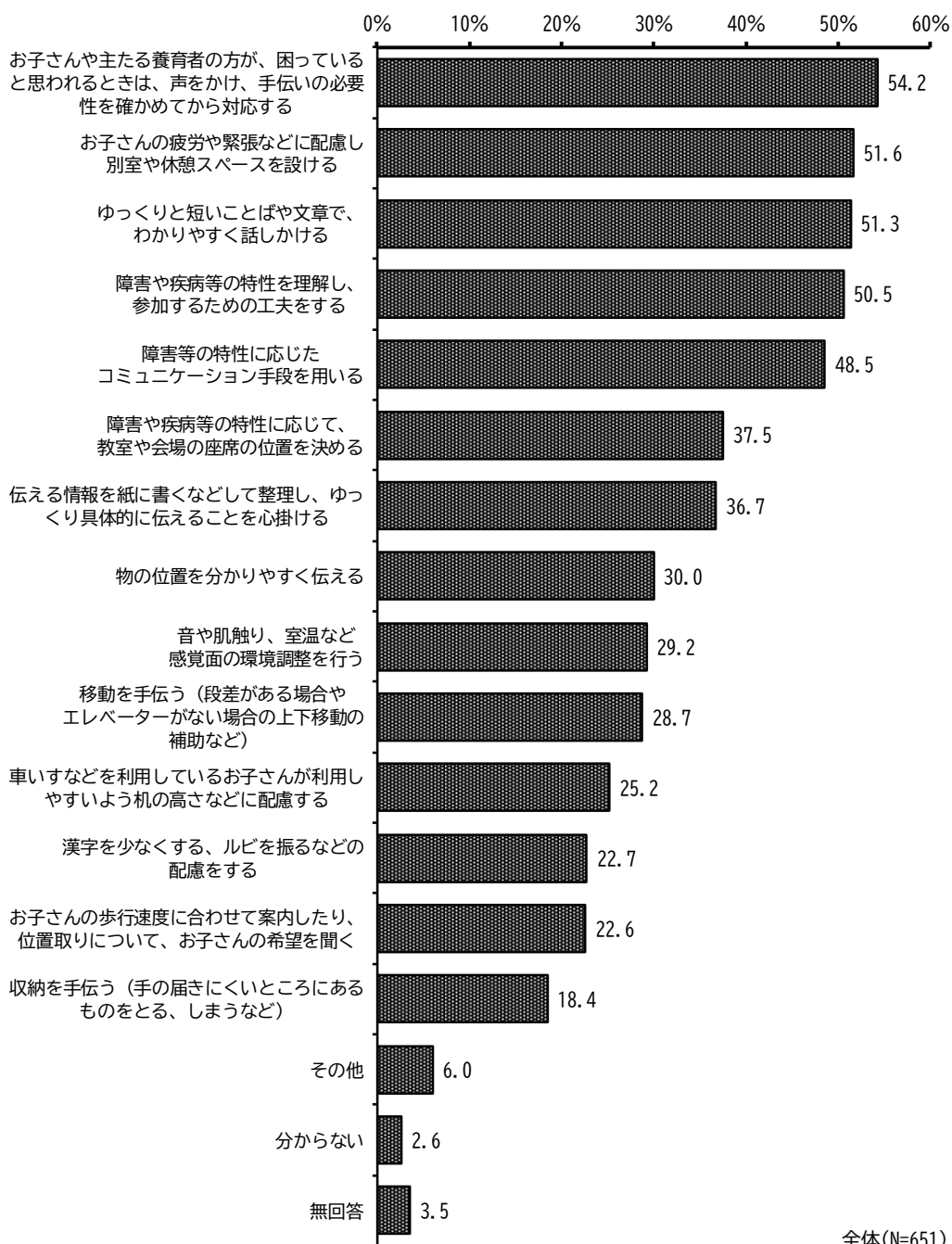


問19 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

役所、保育所・保育園・幼稚園、学校、会社、お店などで、どのような合理的配慮があればよいと思いますか。(いくつでも○)

- ・「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(54.2%)が最も多く、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(51.6%)、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(51.3%)、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(50.5%)が続いている。

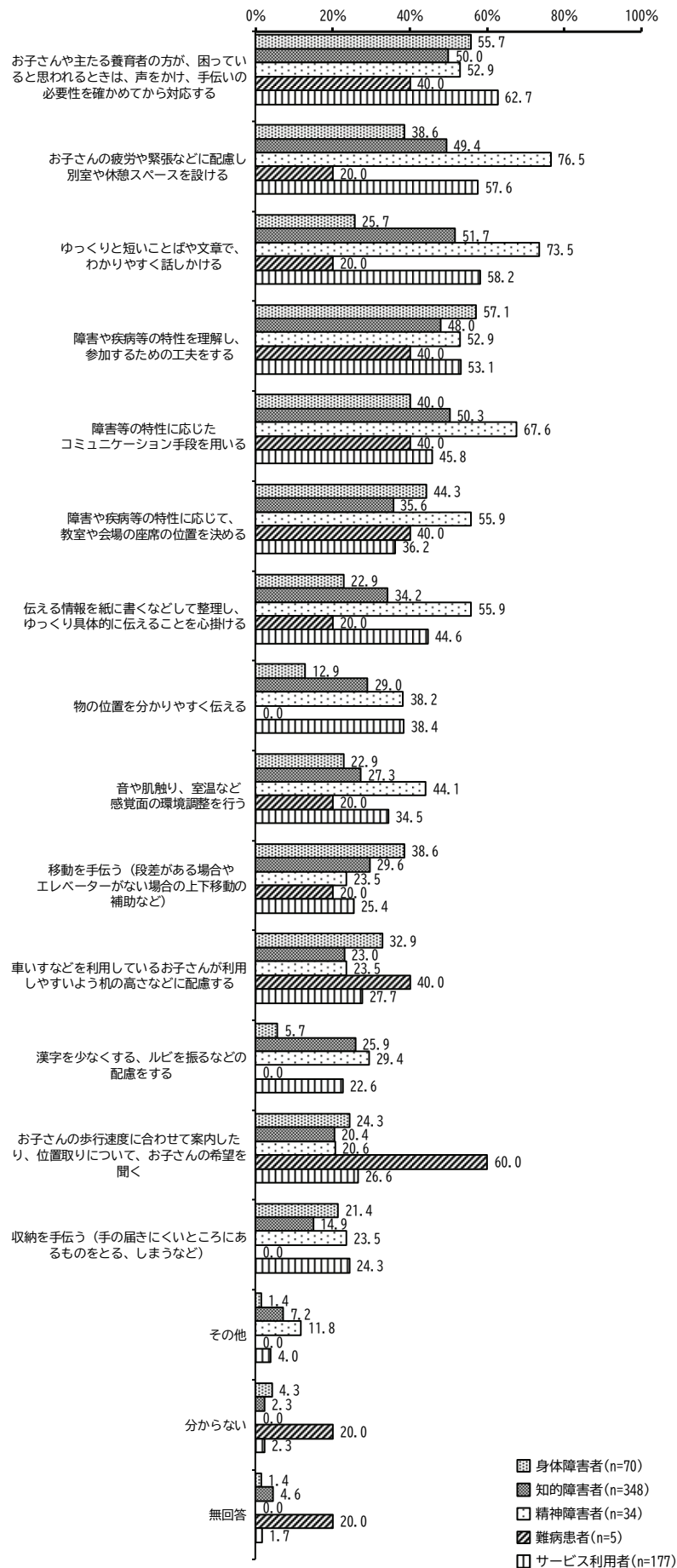
図表 必要とする合理的配慮(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(57.1%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(51.7%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(76.5%)が最も多い。
- ・ 難病患者は「お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く」(60.0%)が最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は、「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(62.7%)が最も多い。

図表 必要とする合理的配慮(障害等の種類別：複数回答)



問20 あなた(記入者)は、地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じますか(1つに○)

- ・「とても感じる」(8.8%)と「まあ感じる」(38.1%)をあわせた<感じる>は46.9%、「あまり感じない」(40.2%)と「全く感じない」(12.0%)をあわせた<感じない>は52.2%である。

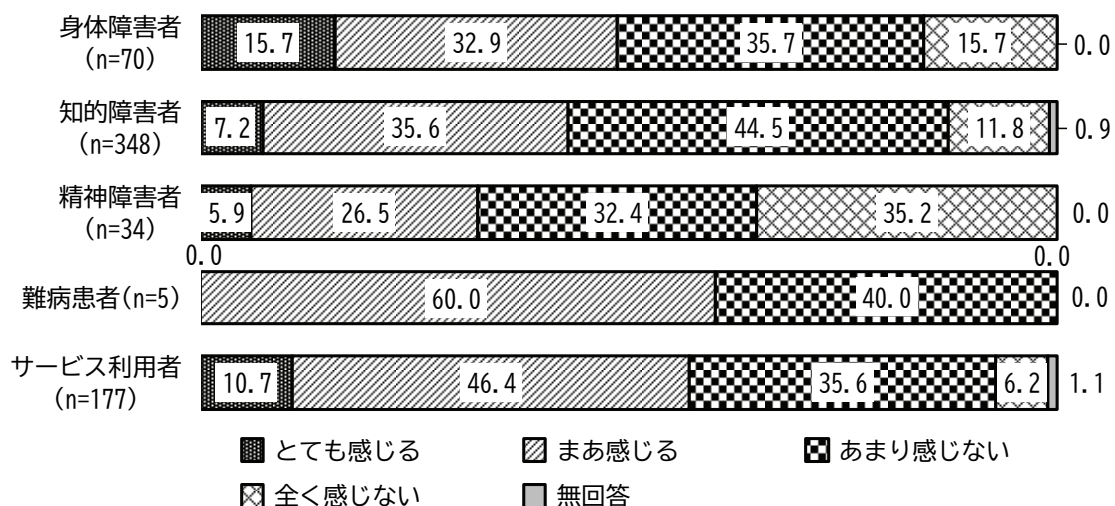
図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じるか (全体：複数回答) (%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「とても感じる」(15.7%)と「まあ感じる」(32.9%)をあわせた<感じる>は48.6%、「あまり感じない」(35.7%)と「全く感じない」(15.7%)をあわせた<感じない>は51.4%である。
- ・知的障害者は「とても感じる」(7.2%)と「まあ感じる」(35.6%)をあわせた<感じる>は42.8%、「あまり感じない」(44.5%)と「全く感じない」(11.8%)をあわせた<感じない>は56.3%である。
- ・精神障害者は「とても感じる」(5.9%)と「まあ感じる」(26.5%)をあわせた<感じる>は32.4%、「あまり感じない」(32.4%)と「全く感じない」(35.2%)をあわせた<感じない>は67.6%である。<感じない>は全体より15ポイント以上高い。
- ・難病患者は「とても感じる」(0.0%)と「まあ感じる」(60.0%)をあわせた<感じる>は60.0%(5人中3人)、「あまり感じない」(40.0%)と「全く感じない」(0.0%)をあわせた<感じない>は40.0%(5人中2人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「とても感じる」(10.7%)と「まあ感じる」(46.4%)をあわせた<感じる>は57.1%、「あまり感じない」(35.6%)と「全く感じない」(6.2%)をあわせた<感じない>は41.8%である。<感じる>は全体より10ポイント以上高い。

図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じるか (障害等の種類別：複数回答) (%)



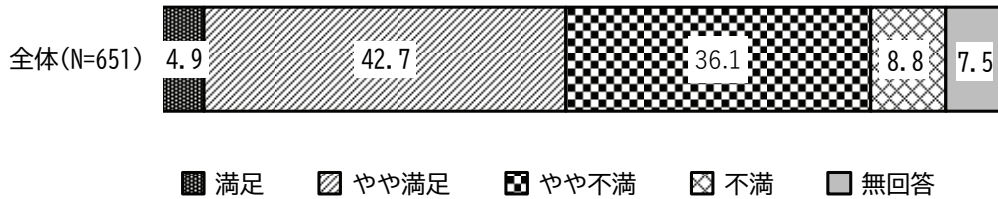
(11) 施策について

問21 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(4.9%)と「やや満足」(42.7%)を合わせた<満足>は47.6%、「やや不満」(36.1%)と「不満」(8.8%)を合わせた<不満>は44.9%である。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(全体)

(%)

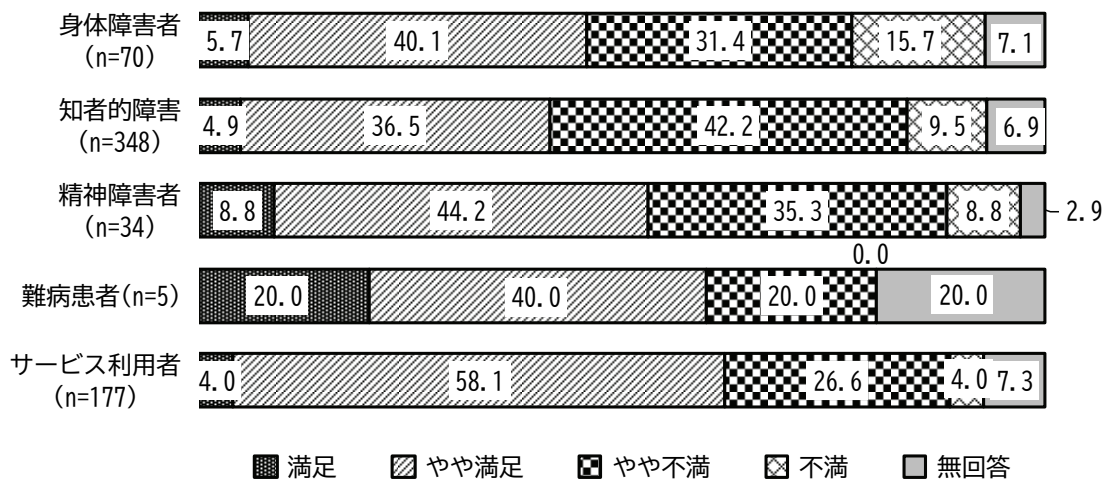


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「満足」(5.7%)と「やや満足」(40.1%)を合わせた<満足>は45.8%、「やや不満」(31.4%)と「不満」(15.7%)を合わせた<不満>は47.1%である。
- ・知的障害者は「満足」(4.9%)と「やや満足」(36.5%)を合わせた<満足>は41.4%、「やや不満」(42.2%)と「不満」(9.5%)を合わせた<不満>は51.7%である。<不満>51.7%は全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「満足」(8.8%)と「やや満足」(44.2%)を合わせた<満足>は53.0%、「やや不満」(35.3%)と「不満」(8.8%)を合わせた<不満>は44.1%である。
- ・難病患者は「満足」(20.0%)と「やや満足」(40.0%)を合わせた<満足>は60.0%、「やや不満」(20.0%)と「不満」(0.0%)を合わせた<不満>は20.0%である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「満足」(4.0%)と「やや満足」(58.1%)を合わせた<満足>は62.1%、「やや不満」(26.6%)と「不満」(4.0%)を合わせた<不満>は30.6%である。

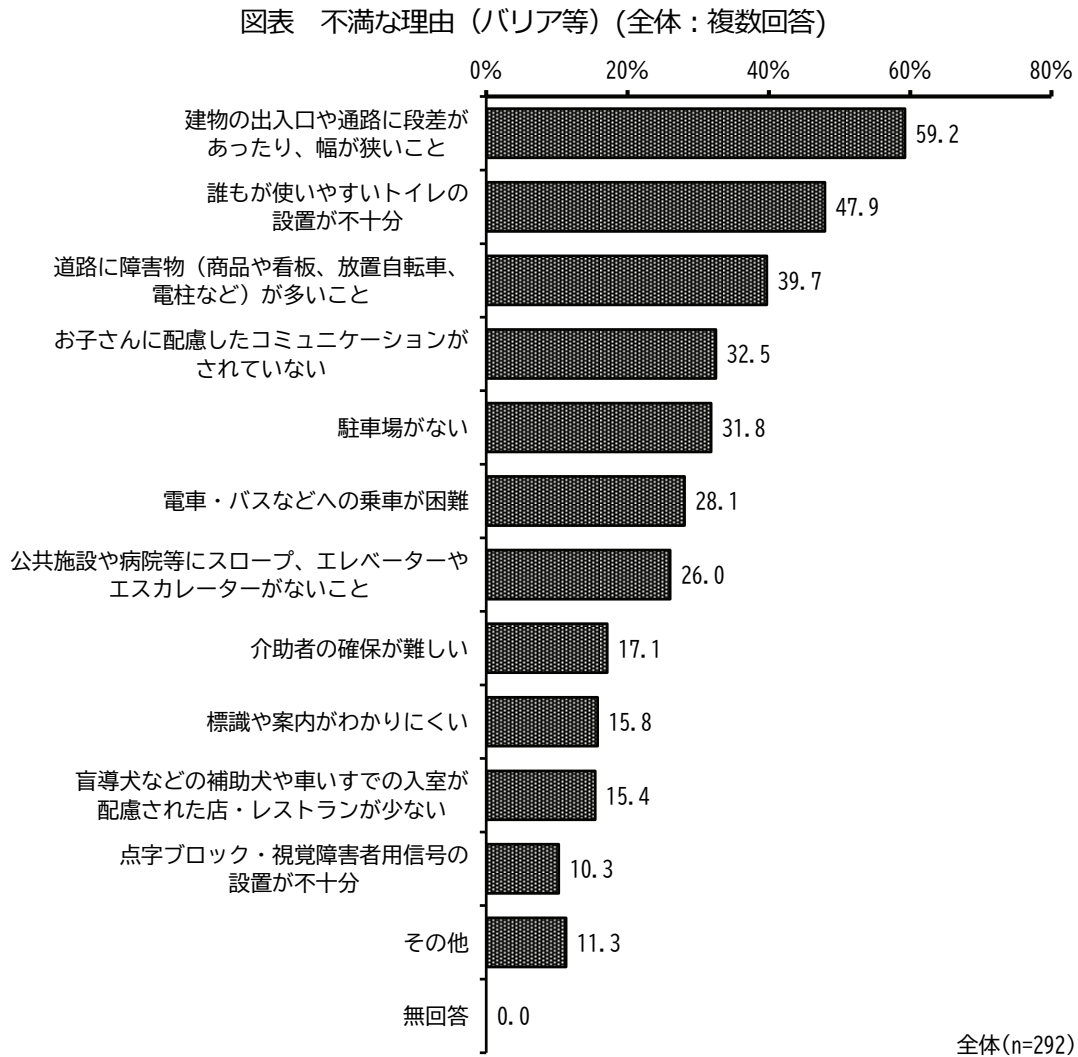
図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(障害等の種類別)

(%)



問 21-1 問 21 で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

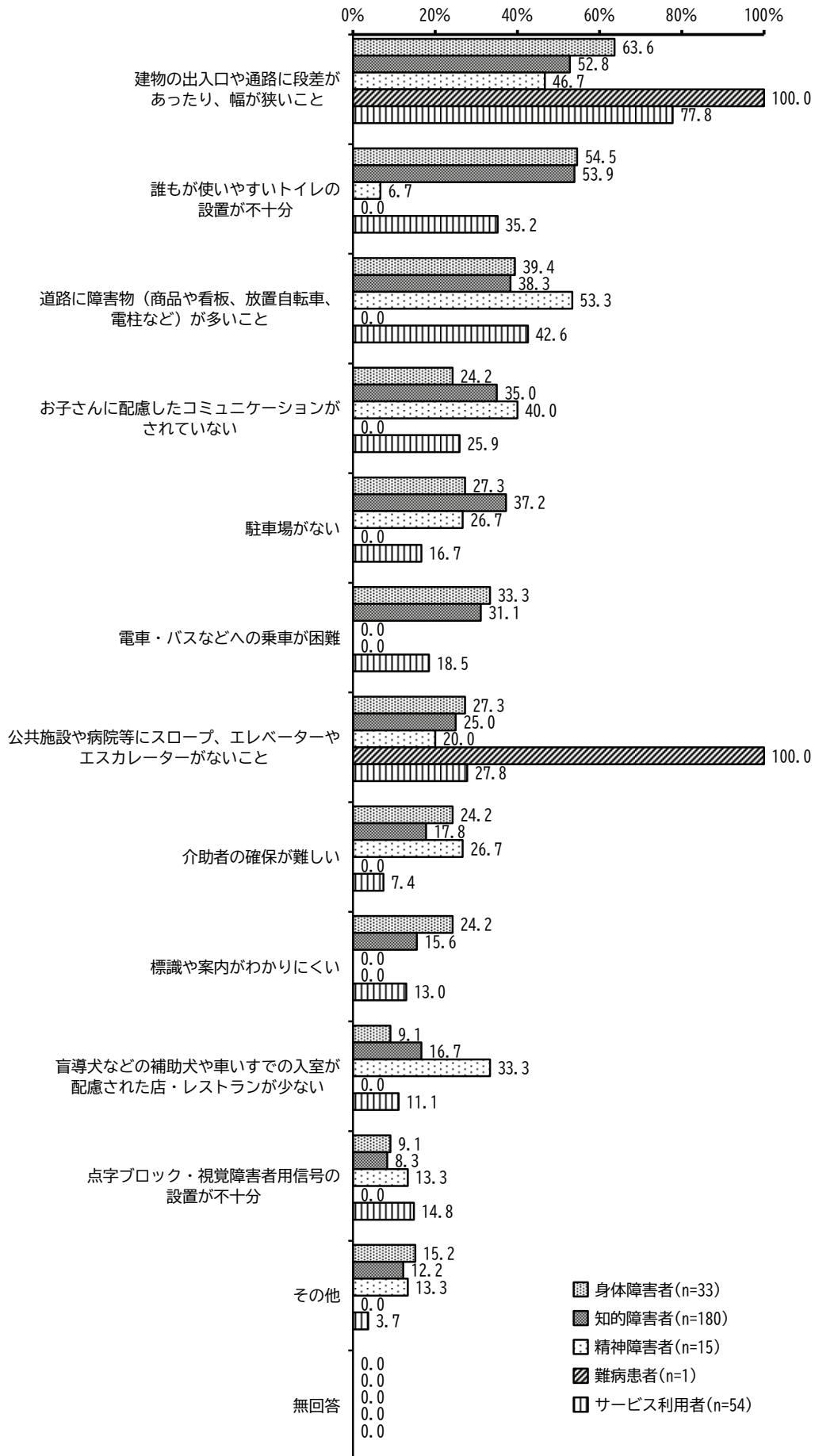
- ・「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(59.2%)が最も多く、次いで「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(47.9%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(39.7%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(63.6%)が最も多い。
- ・知的障害者は「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(53.9%)が最も多く、全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(53.3%)が最も多く、全体より10ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(77.8%)が最も多く、全体より15ポイント以上高い。

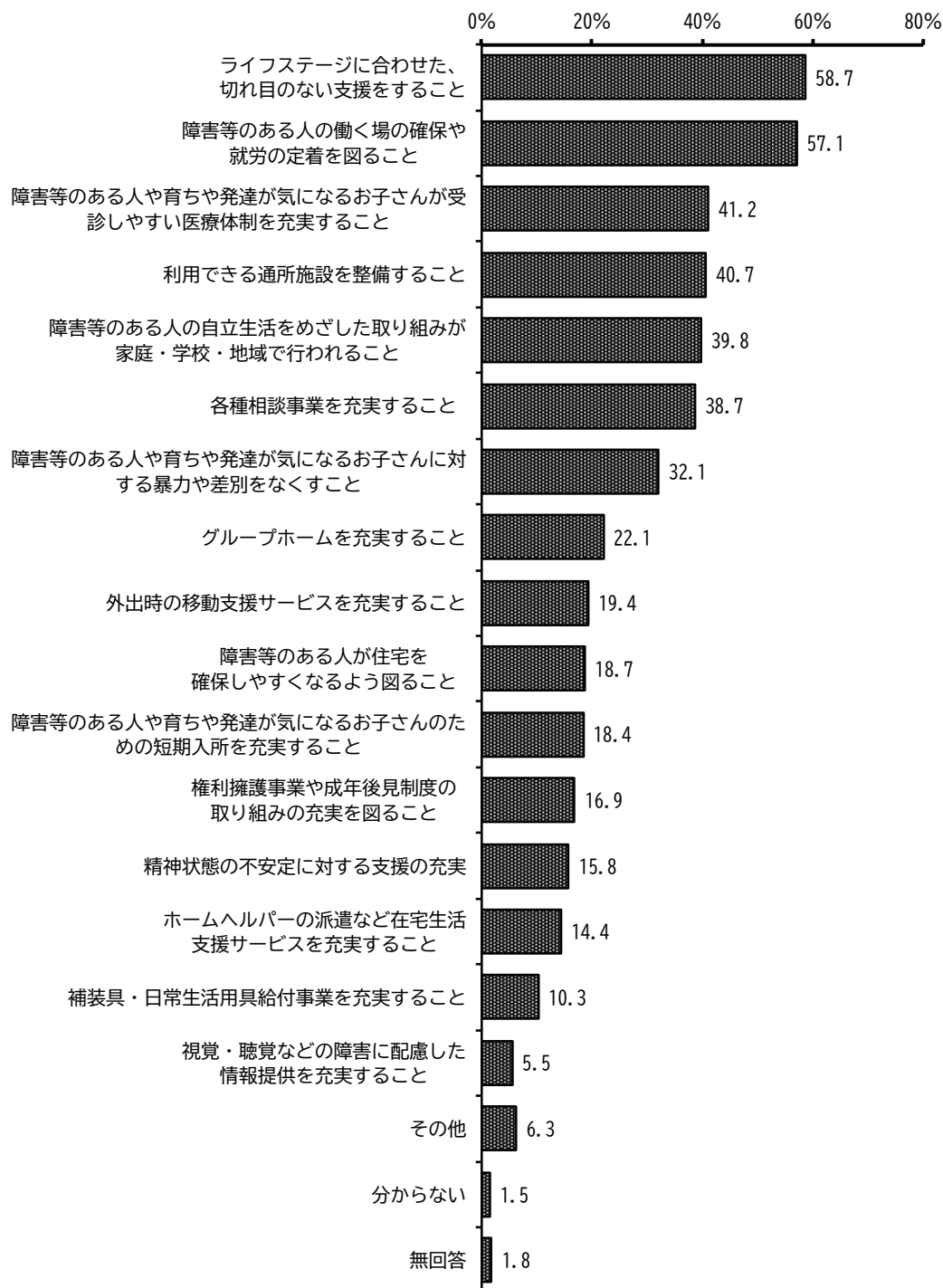
図表 不満な理由（バリア等）（障害等の種類別：複数回答）



問 22 府中市は障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(重要なものに5つまで○)

- ・「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(58.7%)が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(57.1%)、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」(41.2%)、「利用できる通所施設を整備すること」(40.7%)が続いている。

図表 充実を望む施策(全体：複数回答)



全体(N=651)

【障害等の種類別】

- ・身体障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(身体：57.1%、サービス利用：74.6%)が最も多い。
- ・知的障害者と精神障害者は、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(知的：66.7%、精神：61.8%)が最も多い。

【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者では、乳幼児期と中学校卒業後～17歳は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(乳幼児期：54.2%、中学校卒業後：70.6%)、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(63.0%)が最も多い。
- ・知的障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(65.5%)、学齢期と中学校卒業後～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(学齢期：67.8%、中学校卒業後：71.8%)が最も多い。
- ・精神障害者では、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(54.5%)、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(54.5%)が最も多い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者では、いずれの年代も「ライフステージにあわせた、切れ目のない支援をすること」(乳幼児期：77.6%、学齢期：72.7%、中学校卒業後：71.4%)が最も多い。

図表 充実を望む施策(全体、障害等の種類別、障害等の種類×年代別：複数回答)

			(%)										
			ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお父さんやお母さんが受診しやすい医療体制を充実すること	利用できる通所施設を整備すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	各種相談事業を充実すること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお父さんに対する暴力や差別をなくすること	グループホームを充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなること	
全体		(N=651)	58.7	57.1	41.2	40.7	39.8	38.7	32.1	22.1	19.4	18.7	
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	57.1	50.0	40.0	25.7	42.9	27.1	27.1	2.9	20.0	22.9	
	知的障害者	(n=348)	52.9	66.7	35.9	40.5	35.9	37.4	30.5	35.3	27.6	22.7	
	精神障害者	(n=34)	55.9	61.8	44.1	20.6	58.8	32.4	32.4	17.6	8.8	26.5	
	難病患者	(n=5)	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	74.6	43.5	52.5	52.0	44.1	48.0	36.7	7.3	6.8	7.3	
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	54.2	25.0	41.7	41.7	41.7	20.8	20.8	0.0	20.8	16.7
		学齢期	(n=27)	51.9	63.0	29.6	25.9	48.1	33.3	29.6	3.7	25.9	25.9
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	70.6	58.8	58.8	5.9	35.3	23.5	35.3	5.9	11.8	23.5
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	65.5	53.4	44.8	53.4	46.6	44.8	27.6	25.9	22.4	15.5
		学齢期	(n=146)	51.4	67.8	39.7	39.7	34.2	34.9	31.5	28.8	27.4	22.6
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	49.3	71.8	28.2	35.9	33.8	37.3	30.3	46.5	30.3	25.4
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		学齢期	(n=11)	54.5	54.5	36.4	18.2	36.4	45.5	36.4	9.1	9.1	27.3
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	61.9	66.7	52.4	23.8	71.4	23.8	28.6	19.0	4.8	23.8
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
		学齢期	(n=1)	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	77.6	35.3	55.3	70.6	35.3	54.1	32.9	5.9	9.4	5.9
		学齢期	(n=77)	72.7	49.4	48.1	37.7	54.5	48.1	42.9	10.4	5.2	6.5
		中学校卒業後～17歳	(n=14)	71.4	57.1	57.1	21.4	42.9	14.3	21.4	0.0	0.0	21.4
			障害等のある人や育ちや発達に気になるお父さんやお母さんのための短期入所を充実すること	権利擁護事業や成年後見制度の取組の充実を図ること	精神状態の不安定に対する支援の充実	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	その他	分からない	無回答		
全体		(N=651)	18.4	16.9	15.8	14.4	10.3	5.5	6.3	1.5	1.8		
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	15.7	4.3	11.4	18.6	37.1	17.1	7.1	0.0	1.4		
	知的障害者	(n=348)	23.0	24.4	15.2	17.8	10.1	3.4	6.3	2.0	1.4		
	精神障害者	(n=34)	8.8	8.8	32.4	8.8	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0		
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0		
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	14.7	9.0	15.8	6.8	2.3	6.2	5.6	1.1	0.6		
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	25.0	4.2	4.2	29.2	25.0	12.5	12.5	0.0	4.2	
		学齢期	(n=27)	11.1	3.7	22.2	18.5	55.6	14.8	0.0	0.0	0.0	
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	11.8	5.9	5.9	5.9	29.4	29.4	11.8	0.0	0.0	
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	20.7	19.0	22.4	19.0	6.9	6.9	13.8	1.7	0.0	
		学齢期	(n=146)	24.7	20.5	12.3	19.2	11.6	4.1	6.2	2.7	1.4	
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	22.5	31.0	15.5	16.2	9.9	1.4	3.5	1.4	1.4	
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		学齢期	(n=11)	18.2	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	4.8	9.5	33.3	9.5	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
		学齢期	(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	16.5	7.1	16.5	9.4	1.2	5.9	2.4	0.0	1.2	
		学齢期	(n=77)	13.0	6.5	15.6	5.2	2.6	3.9	9.1	2.6	0.0	
		中学校卒業後～17歳	(n=14)	14.3	28.6	14.3	0.0	7.1	21.4	7.1	0.0	0.0	

問 23 府中市の障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

府中市の障害等のある人への施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、自由記述形式でたずねたところ、307件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。【 】内に本人と記入者との関係を記している。

(1) 教育 (70件)

【身体障害者】

- ・単純な医療的ケア児を受け入れてくれる機関が少ない。幼稚園を探すのに大分苦労しました。今後小学校進学等不安があります。(女性、幼児期)【母親】
- ・定期導尿が必要な子供が幼稚園を探す際、保健師さんに相談させてもらいました。看護師のいる幼稚園はないので、あとは自分で探す様にとのことでした。細かな調整が必要なので、一緒に考えたり探したりしてくれると心強かったと思います。訪問看護という手段があること、また、小児相手にケアを行ってくれるスタッフ数の増加、手技の向上などを願っております。(女性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・小学校などで、普通級と支援学級間の支援を受けたい子どもが行きやすい学校を作ってほしいです。普通級と支援学級のプログラムが違いすぎて、交流が現実的ではないのも気になります。もっと柔軟に行き来できるシステムが必要だと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・保育園のすくすく枠は、兄弟の小学校の土曜日の参観や、地域の子供会やPTAの手伝いの際に利用できず、障害児を連れて行くのは困難でした。兄弟の用事の場合は預かってもらえる様に配慮してくれると助かります。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・固定の支援級に加えて固定の通級指導学級の設置が必要ではないでしょうか。毎日同じ空間での指導でもっとのびると思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・公立の特別支援学級に通っております。もっと普通級の子もたちと交流が増えると本人の経験も増えもっと成長できると思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・児童の頃から体の不自由な子どもと過ごすことで、人は違うことがふつうで、困っている友達に対してどうすればいいのかと日々感じ、それが学びになると思う。学校でたった1回の車イス体験をするより、思いやりの心が育つと思う。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・特別支援学級のある小学校・中学校で、新入生保護者説明会の際に特別支援学級についても説明して下さる様、各校の校長に働きかけて下さい。何の為に特別支援学級が設置されているのか、保護者の方々が知って下さればと思います。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・すべての小、中学校に特別支援学級を作ってもらいたいです。学区外で、30分かけて登校していますが、来年は中学生になります。障害等のある子どもにどうやって行かせるのでしょうか。仕事もあり、ずっとつきそうことはできません。(女性、小学校高学年)【母親】

- ・普通の高等学校での軽度知的障害や発達障害児の受け入れに動いてほしいと思います。(男性、中学生)【父親】
- ・もう少し学校の先生方の指導をきちんとしてほしい。発達に問題のある子供に対しての対応ができていないと思う。ボーダーラインの子供に対して、ただできない子という目でしか対応してくれなかった。(男性、高校生)【母親】
- ・全小中学校に支援学級を置く、または他市の様に学校への送迎バスの運行があれば保護者の負担も少なくなるのではと思います。そして、健常者と障害者の間と言われるボーダーラインに居る子供達や青年への支援を広げていただきたいです。(男性、高校生)【母親】

【精神障害者】

- ・小学校に情緒固定級が必要だと思う。小学校で特別支援教室(通級)の利用時間を週に8時間つかえるようにする(現在府中市では最大3時間と言われている)。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・障害を理解した上で宿題や勉強を見てくれる、施設や塾があると助かります(最低限の生活で必要な学びはありますが、一歩踏み込んだ個々に合わせた対応がない為)。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・発達障害があるが、知的障害が無い人の中学校入学がむずかしい。知的障害がないと、通常級に行く道しがなく、登校拒否やいじめの原因になっている。早く固定級を作って下さい。(男性、高校生)【母親】

【サービス利用者】

- ・子ども発達支援センターあゆの子とすくすく保育の募集に落ちてしまうと、通園させる施設がない。民間の児童発達支援施設も申し込みが多く、すぐに入ることができない。せめて公立保育園のすくすく枠だけでも、すべての公立保育園が毎年年少、年中、年長それぞれ募集があれば良いのと思う。(男性、幼児期)【母親】
- ・現在保育所に通っていますが、先生方の対応に不満があります。先生方の知識や理解が深まっていくとよいと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・障害等のある子どもの特性を理解し、適切な対応が取れるように、学校でも話し合いの場を作って欲しいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・学校の先生が見えない障害(発達障害)に対し知識を身に付けていただき、理解を深め、子ども達の接し方を勉強していただけるとうれしいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・高校になると通級指導教室がほとんどないのが不安でならない。府中市だけではなく、全国で高校も通級指導教室があってほしい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・小学校、中学校の特別支援学級での補助員の数が少なすぎます。早急に補助員(固定)の増員を求めます。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・今、自閉症の子が不登校になっています。発達検査の数値ばかりを重視され、どんなに困っていても普通級に在籍することになってしまい、通級にさえ入れてもらえません。国分寺市に(情緒の固定学

級があるとのことで)移る方も多いとのことですが、母子家庭ではそれも難しいです。(女性、小学校高学年)【母親】

- ・市立の小学校と中学校の連携が全くつながらず、理解してもらい、支援を受けるまで1年の時間を要した。合理的配慮や個別対応について「不公平」と扱われてしまう。地域に浸透する頃には、自分の子どもは義務教育期間を終えている頃と思われる。(男性、中学生)【父親】

(2) 療育、発達支援 (30件)

【知的障害者】

- ・療育機関が少なすぎる。子ども発達支援センターあゆの子も遠すぎて通所できない。また人数が少ないため参加もできない。働く母の事を考えていない時間の療育カリキュラムしかない。共働きがこれだけ増加しているのだから、働く人間の事を考えて欲しい。(男性、幼児期)【母親】
- ・子ども発達支援センターあゆの子には大変お世話になりました。子ども発達支援センターあゆの子の定員を増やしてほしいと思います。必要としている人がたくさんいますから。(男性、幼児期)【父親】
- ・ライフステージに合わせた切れ目のない支援を切に願います。1つの機関で医療、生活、発達、就学、就労の情報をまとめ、その子に必要な支援(放課後等デイサービス、リハビリ、療育など)を紹介、提案し連携して頂けるととてもスムーズに安心して考える事ができると思います。(女性、幼児期)【母親】

【サービス利用者】

- ・子ども発達支援センターあゆの子での療育が月に1回程度しかない。少なすぎる。週に1回にしてほしい。(男性、幼児期)【母親】
- ・小学校から中学校になるにつれ、療育の場が急激に減っていきます。放課後等デイサービスが足りていない状況でもあります。もっと増えてくれるとありがたいです。個人指導ができる場がどんどんできてくれると尚ありがたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・療育や多摩療育でのリハなどが、就学すると受けられないことにとっても不安を感じています。(女性、幼児期)【母親】

(3) 障害・難病への理解 (26件)

【身体障害者】

- ・幼稚園や保育園の頃から障害児を排除せずに健常児とふれ合えば大きくなってからも“見慣れる”ことにより、障害等のある人に何の偏見なく自然に生活を送ることができる。小さい頃から見慣れるということが重要だと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・学校で障害教育をしていますが、精神疾患(見て分からない含む)についての学習がないので、さまざまな子がいることを知る機会の必要あり。(女性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・発達障害やヘルプマークに関する資料などを配布するなどして周りの理解が得られるように支援をしてほしい。(女性、幼児期)【母親】
- ・まだ発達障害などの理解が浸透していないと思います。市民の理解も深める講演会など増えて欲しいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・全ての人に障害の理解を広め、障害等のある人が受け入れられる社会であってほしいと思います。障害ゆえの生きづらさがなくなり、障害も個性として認められるよう願っています。(男性、小学校高学年)【母親】

【精神障害者】

- ・「発達障害」の名称変更を強く希望します。名称から生じる印象、それによって生じるであろう差別に強い不安を感じます。障害の“害”の文字の使用は何かならないものではないでしょうか。世の中に害を及ぼす存在の様な印象を生じさせる様に思うのですが、何かさわやかさを与える表現があると良いのですが。(女性、高校生)【母親】

【サービス利用者】

- ・生活保護、低所得世帯での支援。主に親が発達障害や障害の場合の子の支援・いわゆるグレーゾーン、障害等のある子どもと言われている子どもへの合理的配慮の充実。(男性、幼児期)【母親】
- ・矢崎小学校でお世話になっていますが、先生方の理解配慮にとっても助けられています。子どもがすくすく、楽しく暮らせることが一番なので、周囲の理解や手助けがとても大切だと本当に思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・障害に対する差別観をなくしていくことが必要だと思います。そのために、幼稚園や小学校から、障害を持つ子どもたちとの交流が不可欠だと思います。障害とはどういうことか、学習できるいい機会だと思うので、もっと授業の中で交流できる工夫をしてもらいたいです。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・学校で(普通級)教室で過ごすことが難しい子供たちが安心して、落ち着いて過ごせる場所があり、先生が常に付いて頂ける環境があれば、発達障害が理由で不登校の子達も、グレーゾーンの子も登校できる確率が高くなると思います。(女性、小学校高学年)【母親】

(4) 情報提供 (23件)

【身体障害者】

- ・どのようなサービスが受けられるのかよくわからないし、どこに相談すれば良いのかわからない。(女性、幼児期)【母親】
- ・どのような支援やサービスが受けられるのか自分で調べないと分からないことばかりです。(男性、中学生)【母親】

【知的障害者】

- ・ ホームページなどに『この場合こんな選択肢』があるとまとめて明記されていると分かりやすい。今は情報が分かりづらく、どうしていいか分からなくて何もできない。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 保護者がかなり積極的に動かないと支援先につながれないという印象があります。医療機関からダイレクトに支援先につながれる様にぜひ市にサポートして頂きたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 助成を知るにあたっては福祉のしおりを渡されても見きれていない部分があり、自分の子供が対象である内容が分からず、受けられる助成を何か月～年単位で知らずに過ごしてきました。日々におわれて読んでいる時間もなかつたりします。当事者によりそって分かりやすく教えて頂けると助かります。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 障害者向けの医療ガイドなどがあると助かります。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・ 手話を使える人が増えてほしい。あいさつや指文字でもいいので。何かそのようなプリントを作製して下さるとか、手話理解を高めてもらえたらありがたいです。国分寺のように、小学校が少し習うなど、すばらしいと思います。(男性、中学生)【母親】
- ・ とにかく情報が入手しにくい。ライフステージに合わせた支援は今すぐにでも教えて欲しい。1人の子どもの一生を例えば、何才になったら〇〇を申請する”など分かりやすいツールがあるとうれしい。(男性、高校生)【母親】

(5) 相談 (23件)

【身体障害者】

- ・ なかなか相談しにくい方もいると思います。(特に知らない方にペラペラ言えないと思います。)「お悩みアプリ」とか作ってはどうか。「一人言」を言う様な感じですか。(男性、中学生)【母親】

【知的障害者】

- ・ 本人も家族も相談しやすい場所がほしい。(男性、幼児期、知的障害者)【母親】
- ・ 現時点では、障害児相談支援事業所が不足していて利用できていない。早く利用したい。早急に改善してほしいです。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 気持ちに寄りそってくださる相談員の担当制を望みます。1つの窓口で全ての話の見通しが出来たら良いと思います。(男性、中学生)【母親】
- ・ 生まれてから亡くなるまで、安心して生活ができる様に相談施設が欲しい。(男性、中学生)【母親】
- ・ 大変な頃、市の電話相談にも相談したが「大変ですね」と言われるだけで、何の解決策もなかった。電話相談窓口を作るなら、マニュアルを整備する等、質を上げる必要があると思います。(女性、中学生)【母親】

【サービス利用者】

- ・他市から転入した際に、保健師さんへの相談や受けた助言はあまり適切なものではなかったように感じます。専門機関へのつなぎだけでも適切に行って頂きたかったです。(男性、幼児期)【母親】
- ・発達障害について知識を多く持っている方、(実際に子が発達障害、グレーゾーンで悩んでいた方)に、支援員になってもらいたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・乳幼児期から高校まで続けて相談・情報提供を受けられる施設がほしい。(男性、幼児期)【母親】
- ・受給者証を使い、児童発達支援の施設を通うにあたり、計画相談の事業所が不足しており、セルフプランの人が多し。もっと計画相談の事業所を増やして欲しい。(男性、幼児期)【母親】
- ・支援が必要だが、受けられない子たちにも何かしら相談できる場所が欲しいと思います(専門的な視点から)。(男性、幼児期)【母親】
- ・市や病院等の相談先で、子どもに必要な支援、療育の情報を得ても、その支援を受けようとしても空きがなかったり、軽度の子は受けられなかったり、府中市にはなかったりということが、よくあります。アドバイスを受けても、実際には支援を受けられなくて、歯がゆい思いをしています。(男性、幼児期)【母親】

(6) 放課後等デイサービス (14 件)

【身体障害者】

- ・肢体不自由児用の放課後等デイサービスを作ってほしい。(男性、小学校高学年)【母親】

【知的障害者】

- ・どの放課後等デイサービスもいっぱいで本当に支援を受けたい知的障害のある子どもや重度の子どもが支援を受けられない。放課後等デイサービスの充実をしてほしいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・放課後等デイサービスが増えるのはいいが、従事している人の知識不足や対応がとても気になります。資格なし経験なし OK でアルバイトの募集をしているが、預ける立場からすると大丈夫なのかと心配になる。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・放課後等デイサービスが増えましたが質の向上が必要だと思います。その為に利用料負担を上げてても良いと思います。小学生から高校生まで同じ内容では、高校生にもなると利用できない。(女性、高校生)【母親】

【サービス利用者】

- ・どこに、どんな放課後等デイサービスがあるのか、利用できるのか(空き状況)知りたい。(女性、小学校高学年)【母親】

(7) 障害者施策全般 (14 件)

【身体障害者】

- ・ 社会福祉協議会も障害者福祉課も皆当事者ではありません。いくらお伝えしても当事者の抱えた困難を理解されることはありませんでした。この施策の主役は誰ですか。計画する側、働く側にとって良いものを作るのではなく、当事者にとって使いやすいもの、安心して生活できるものをぜひ作ってほしいです。他市に負けない施策とその実行性をお願いします。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ 計画や施策が立てるだけにならないよう、施行後のフォローが必要です。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 障害者とひとくくりせず、それぞれの障害に対しての施策やサービス等を考えてほしい(身体障害者・知的障害者・精神障害者は全く別物です)。(女性、幼児期)【母親】
- ・ 支援者のストレスによる不適切な対応を防ぐため支援者の充実をはかれるような人員配置や給与の充実をはかってほしい。障害者がストレスのはけ口にならない社会を希望します。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 医療、教育、子育てなど障害者権利条約やこどもの権利条約に則った施設をお願いしたいです。(女性、小学校高学年)【母親】

(8) 移動支援、通院介助 (13 件)

【知的障害者】

- ・ 小学校の支援学級に通っています。家族で小学校に送りが必要ですが毎日でたいへんです。帰りは児童、放課後等デイサービスを利用しています。支援学校のようにスクールバスなどの利用ができれば助かります。親が仕事を持っているので、対応策を考えていただけたらと思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 医療的ケアがあってもバスに乗れるように看護師の確保を急いで欲しい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 移動支援サービスを通学に使用できるようにしてほしい。(男性、高校生)【母親】

(9) 手続きや窓口対応 (11 件)

【身体障害者】

- ・ 申請書などの記入の仕方が、ややこしく、わかりにくい。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ いろんな書類を出すのにいちいち市役所まで行くのが面倒。封筒をくれればすむのに障害児をつれて出かけるのはこちらもつかれる。(男性、小学校低学年)【母親】

- ・子どもが大人になるまで、何度も説明をして、その度に記入する用紙等が多いと感じます。各関係機関で情報を共有して一本化してつながるサービスがあれば、対応する方も親も、もっと楽になるのでは・・・前向きな対応をお願いします。(女性、小学校低学年)【母親】

【サービス利用者】

- ・自宅、職場、ちょっとした空き時間などに、市役所に電話や来所しなくてもできる web サービスを導入してほしいです。通院や療育で有休をたくさん使うので、市役所へ問い合わせたり、行ったり、郵送したりする時間がなかなかとりづらいのが、障害児のいる共働き世帯の現状です。(男性、小学校低学年)【母親】

(10)在宅生活支援 (11 件)

【身体障害者】

- ・6歳以下の障害がある子どもに対して、居宅介護をまったく市が許可しないというのはどうかと思う。主たる介護者である母親が大けがをして介護ができない状態に係わらず、短期入所もできず、どうやって地域で暮らせというのか。サービスがない以前に困っている人に対する思いやりがない。(男性、幼児期)【母親】

(11)まちづくり (11 件)

【身体障害者】

- ・出入口や道のバリアフリー化を進めるだけでも、車イスで町に出やすくなる。バリアフリー化を少しでも確実に続けてもらえることで障害者も町に出やすくなり、いろいろな人の目に触れ、いろいろな人がいるということを知ってもらえることで、理解がすすむことを願います。(男性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・障害等のある子どもだけの遊び場がほしいです。体が安定していない子の遊び場や交流の場があればと思っています。(女性、幼児期)【母親】
- ・「誰でもトイレ」にベッドがないところをどうにかしてほしいです。(男性、高校生)【母親】
- ・都市整備を担当されている技術系の職員の方たちは、障害者も暮らしやすい街づくりをどのように理解されていますでしょうか。障害も種別や程度によって様々ですが、高齢者や障害者本人、介助者でないと認識しづらい事などもあると思います。移動困難者が今よりも安全で快適に利用しやすく、もっと出かけたい、府中市って障害者でも暮らしやすいよね、遊びに行きたくなるよねというまちづくりをお願いします。(女性、高校生)【母親】

(12) 学校卒業後の生活 (11 件)

【知的障害者】

- ・ 学校を卒業した後の生活の充実のため、就労先の他に過ごせる場所がない。学童期のデイサービスのようサービスを成人ももっと気軽に受けられるようにしてほしい。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 高校卒業後とともにデイサービス事業もなくなり、介助者が仕事をすることや息抜きをする時間、兄弟などに向ける時間もなくなり、介助する者も高齢になるため体力・気力が持てるのか心配。また、本人の余暇活動(息ぬきの為)も縮小してしまう。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 高校卒業後、就労が困難な人達が通える施設が不足していると思う。安心して通える施設の充実を希望します。(女性、小学校高学年)【父親】
- ・ 府中市はグループホーム、入所施設、短期入所施設、作業所すべてにおいて少ない・足りていないと思います。男性ヘルパーが見つからず、移動支援も受けることができなくなっています。この状態が続くと、学校卒業後は府中市に住み続けるのは難しいと思っています。(男性、中学生)【母親】
- ・ 本人が将来、地域で働いて、暮らして、結婚もできるように生活全般の親に代わるような細かいサポートもほしいです。(男性、中学生)【母親】

(13)医療、医療的ケア (7 件)

【身体障害者】

- ・ 医療的ケアがある子どもを受け入れてくれるサービスがほとんどなく、親の負担や疲労は溜まりつづけている。保育園に預けることもできず、居宅訪問型も、府中市は当分始まる予定はないとあっさり言われ、泣く泣く退職した。医療的ケアがあるとファミリーサポートも利用できず、保育園等も利用できず、福祉の面でもサポートが不十分であると強く感じている。どうか医療的ケア児とその家族に対する支援等の充実を一日でも早く行ってほしい。このままでは家族全員つぶれる。(女性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ 耳鼻科や歯科など、体の大きい知的障害だと暴れて治療してもらえないことがあるので、とても困っています。都立小児医療センターへの紹介をしてもらえるように窓口を作ってほしいです。たとえば、年1回の障害者の健康診断を行い(歯・眼・耳・内科)、問診を行い、必要となれば、都立小児医療センターへの紹介状を出していただけるシステム。その時一緒に悩み事相談ができればとても良いと思います。(男性、小学校高学年)【母親】

(14)家族への支援 (6件)

【知的障害者】

- ・府中市はとても親身になってサービスを提供してくれていると思います。しかし、すすく保育などの受け入れがあまりに少なく、親がどんどん働きたいと思ってもなかなかうまくいきません。

(女性、乳児期)【母親】

- ・両親共に、就労しなくては、生活が大変であるが、夏休みなど長期休みの時に、あずける場所・時間も短く、フルタイムで働くことが不可能で、大変なため、困る。共にフルタイムで働け、家庭が健全に保たれるための支援を考えてほしい。(男性、高校生)【母親】

- ・子どもになるべくストレスなく向き合えるよう日々疲弊している親・家族に対してもケアが必要だし、レスパイト事業を増やして欲しいです(たった1日でもリフレッシュになります)。(女性、高校生)【母親】

【サービス利用者】

- ・子どもが小さい間母親が孤立しないような支援が必要と思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・グレーゾーンならではの悩みでもあると思います。そういった人たち・支援者・家族が悩みを話せる場所もこれから必要だと思います。(女性、幼児期)【母親】

(15)手当や経済的な支援 (5件)

【知的障害者】

- ・世帯収入(取得制限)により、通所支援サービスの利用頻度と料金に差が出るのは、納得できません。(女性、小学校高学年)【父親】

- ・サービス利用上限負担額が大きすぎる。府中市としての補助などもなく困っています。(男性、中学生)【母親】

(16)交流 (4件)

(17)施設、グループホーム (4件)

【知的障害者】

- ・今1番困っている事はショートステイ先がない事です。府中市には全然ありません。日帰りでも1日中預けられる所がないのでこまっています。(男性、中学生)【母親】

- ・知的と身体両方がある人の場合、受け入れ施設がほとんどない。地域で生活していくためにはこうした人たちも対象となるグループホームを市が積極的に作る対策を押し進めて行ってほしい。

(男性、中学生)【父親】

(18)就労（4件）

【知的障害者】

- ・ 障害等のあるなしに関わらず、就職(仕事を持つ)することの意義は大きいと考えます。決まった曜日に外に出て、いつものメンバーで仕事をする。お給料を持って、何を買おうか考える。生きがいの一つになるかもしれません。元気が出ない日でもいつものメンバーの顔に会うだけで、笑顔になるかもしれません。個々の状態に合わせて、様々な仕事のあり方、その施設(設備)の検討をしていただきたいです。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・ どんどん就労をしている場があれば、市民にも共生が伝わっていくと思う。障害者は隠された場所で隠れて働かされている感じがする。もっと、市役所など、オープンな所で働けるようにしてほしい。(男性、高校生)【母親】

【精神障害者】

- ・ 普通の子に比べて将来のイメージがつかみにくく進路を決めるのに本人も親も困ってしまう。具体的なことを見学やシミュレーションでイメージつけさせる、あるいは病気を理解できる社長や上司などのところで働けるよう支援してもらおう等のことが必要だと思っています。(男性、中学生)【母親】

(19)謝意や政策への期待（3件）

(20)災害時の不安（3件）

【身体障害者】

- ・ 障害者のみを受け入れる避難所(福祉避難所)の設置を早急に対応して欲しい(国からも指示が出ています)。(男性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・ 府中市内の避難所+福祉避難所マップみたいな物を作って頂きたいと思いました。しっかりした建物、高さのある建物は災害時には開放してもらえると常にうるさい我が子いるうちの様な家庭もそんなに人様にご迷惑をかけずに避難できるのになあと思いました。(男性、小学校高学年)【母親】

(21)文化・スポーツ活動（2件）

【サービス利用者】

- ・ 高校生以降に気軽に通えるグループ活動や運動の場を作ってほしいです。(男性、中学生)【母親】

(22)親亡き後の不安 (2件)

【知的障害者】

- ・ 障害者は親亡き後がとても不安です。本人が様々なことを相談でき支えていただけるシステムがあると親としてとても安心致します。(女性、中学生)【母親】

(23)近所づきあい (1件)

【身体障害者】

- ・ 地域で生活し、近隣の人々とコミュニケーションをとり、理解をしてもらうことです。遠くはなれた特別支援学校などに通っていると、なかなか近隣の友だちができないし、子どもがそこに暮らしていることすら気づかないこともあります。同じ学校や地域の集まりに参加していれば、自然と理解が進んでいくものだと思います。そのような形で自然と障害等のある人もない人も同じ場において互いに理解できるような地域づくりにとりくむことが重要だと思います。(女性、小学校高学年)【母親】

(24)交通手段 (1件)

【知的障害者】

- ・ 来年から小学校ですが、家から30分以上歩かないと行けない為、どのように行くかまよっています。せめてバス等交通手段も考えて頂きたいです。(女性、幼児期)【母親】

(25)住宅 (1件)

【知的障害者】

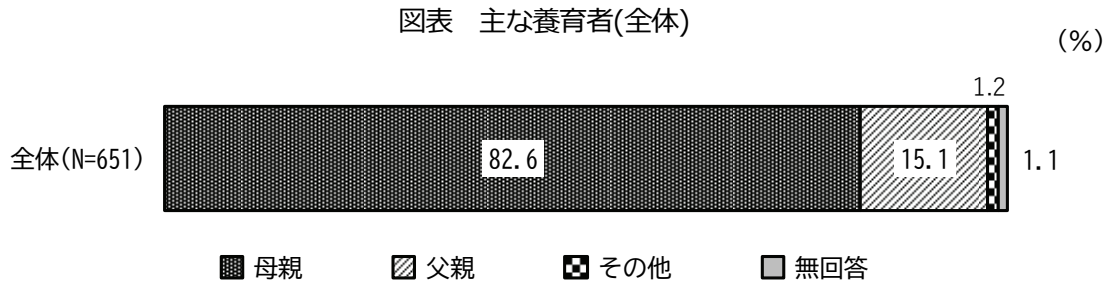
- ・ 住宅に困っていて住宅を確保しやすくなるように募集をする数を増やしてほしいです。(女性、幼児期)【母親】

(26)その他 (7件)

(12) 子どもを主に養育している人について

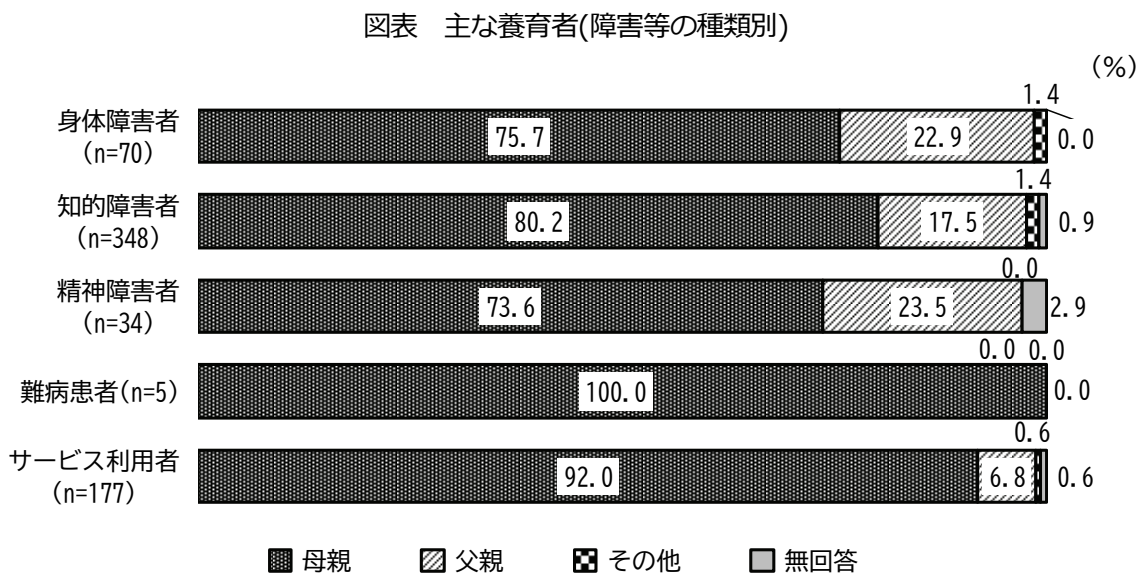
問24 お子さんを主に養育している人はどなたですか。(1つに○)

- ・「母親」が82.6%、「父親」が15.1%である。



【障害等の種類別】

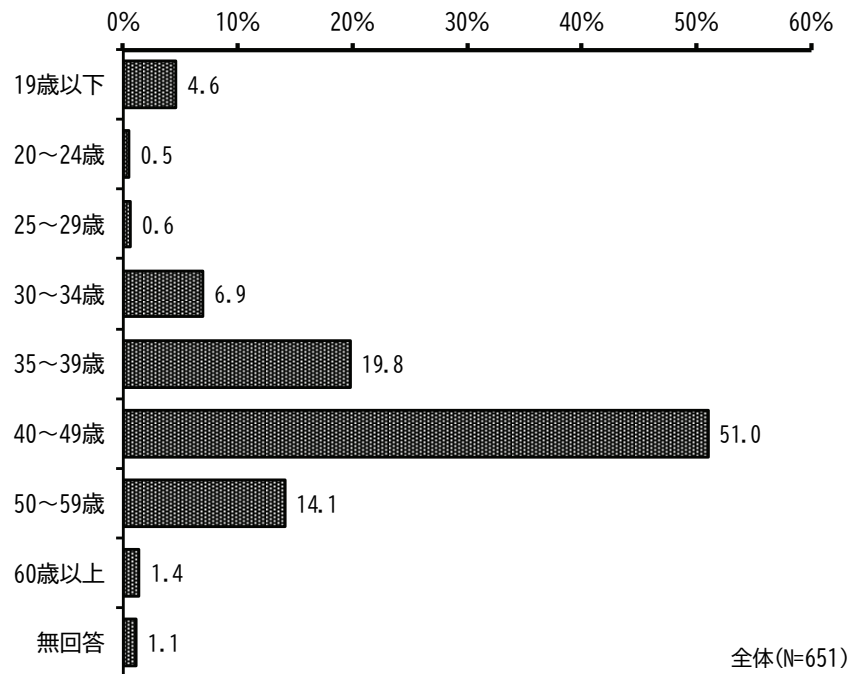
- ・身体障害者は「母親」が75.7%、「父親」が22.9%である。
- ・知的障害者は「母親」が80.2%、「父親」が17.5%である。
- ・精神障害者は「母親」が73.6%、「父親」が23.5%である。
- ・難病患者は5人中5人が「母親」である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「母親」が92.0%、「父親」が6.8%である。



問25 主に養育している人の年齢を教えてください。(1つに○)

- ・「40～49歳」(51.0%)が最も多く、次いで「35～39歳」(19.8%)、「50～59歳」(14.1%)が続いている。

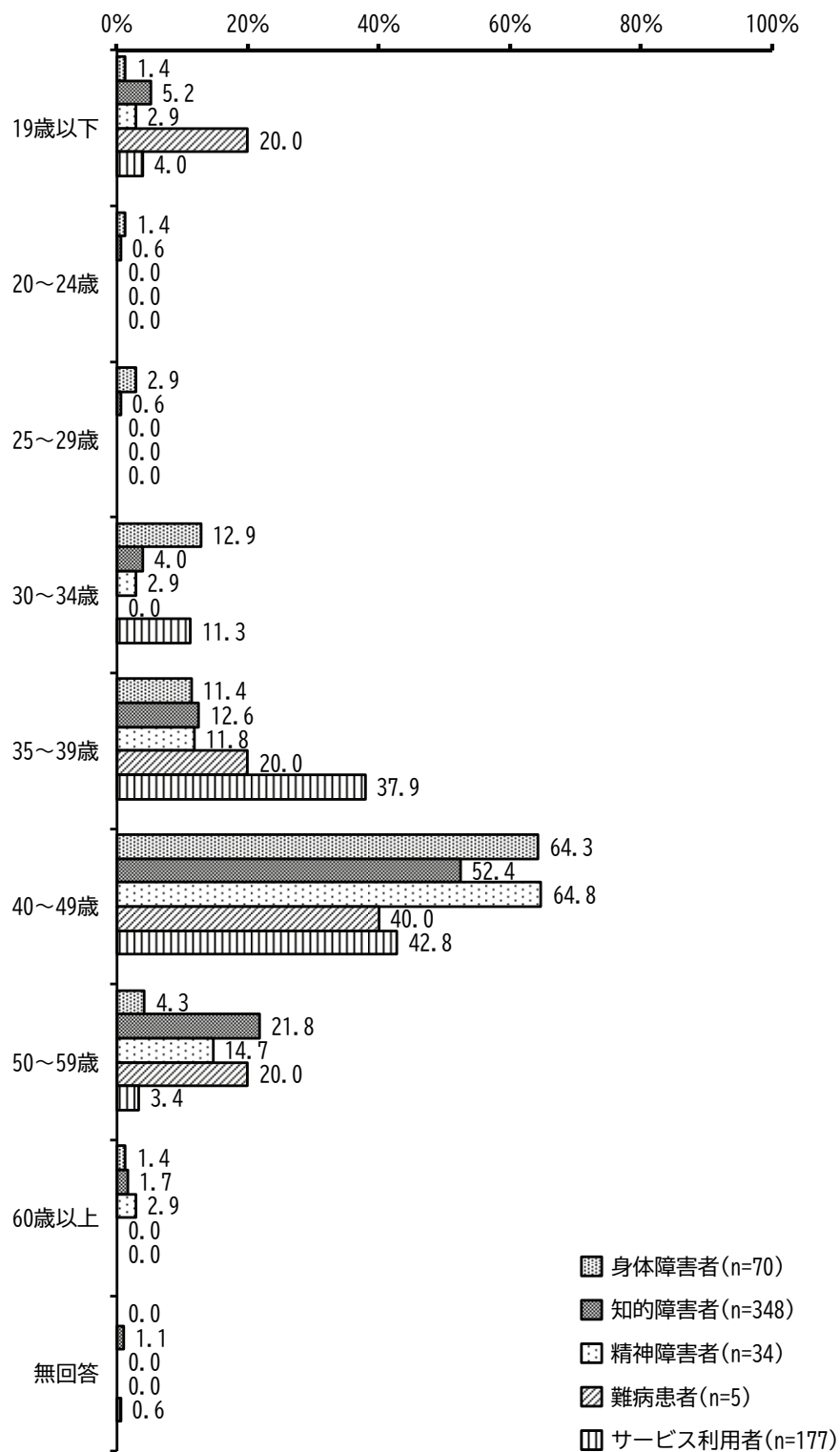
図表 主な養育者の年齢(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「40～49歳」(64.3%)が最も多く、次いで「30～34歳」(12.9%)、「35～39歳」(11.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「40～49歳」(52.4%)が最も多く、次いで「50～59歳」(21.8%)、「35～39歳」(12.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「40～49歳」(64.8%)が最も多く、次いで「50～59歳」(14.7%)、「35～39歳」(11.8%)が続いている。
- ・難病患者は5人中2人(40.0%)が「40～49歳」、「19歳以下」と「35～39歳」と「50～59歳」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「40～49歳」(42.8%)が最も多く、次いで「35～39歳」(37.9%)、「30～34歳」(11.3%)が続いている。

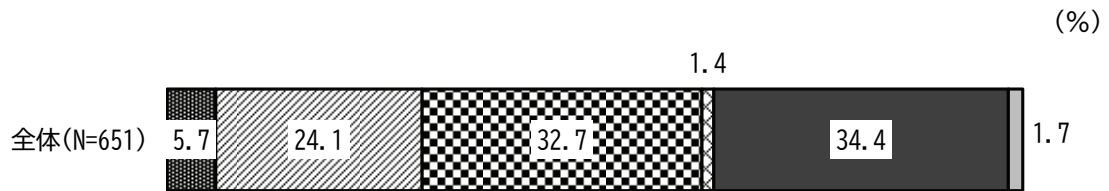
図表 主な養育者の年齢(障害等の種類別)



問 26 主に養育している人の就労状況等を教えてください(1つに○)

- ・「働いていない」(34.4%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(32.7%)、「正規雇用(正社員等)」(24.1%)が続いている。

図表 保護者の就労状況(全体)

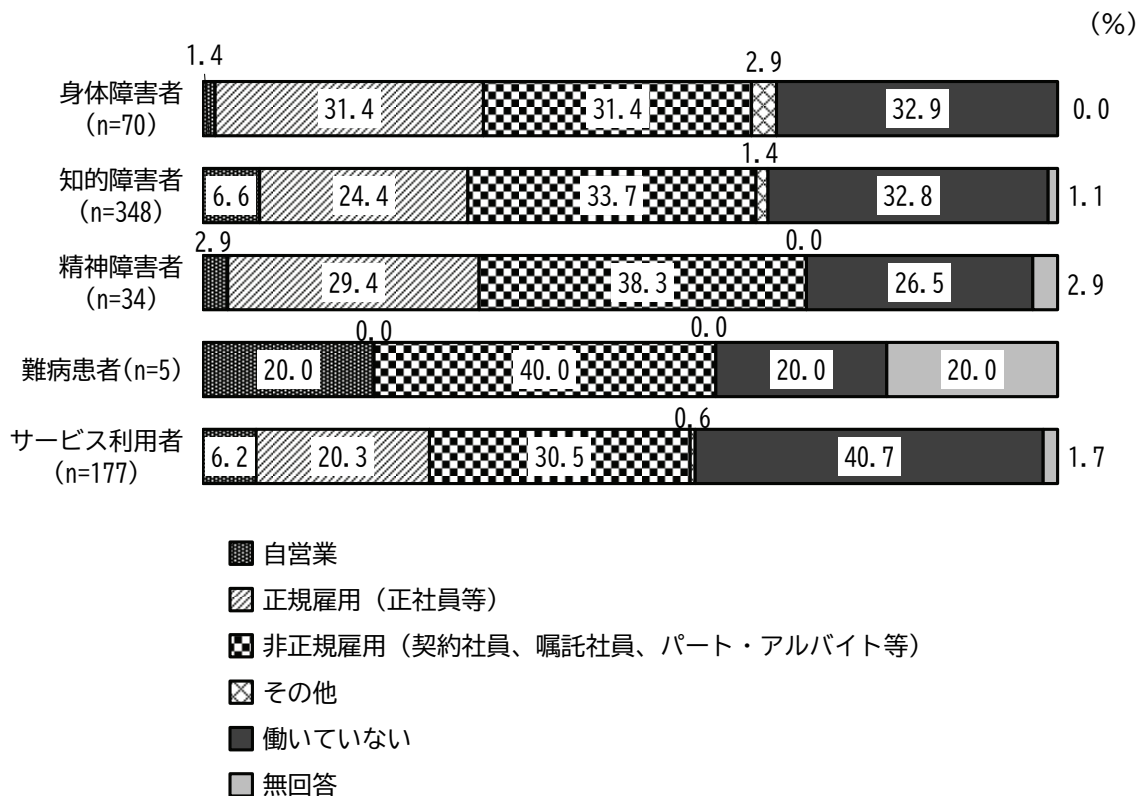


- 自営業
- ▨ 正規雇用 (正社員等)
- ▩ 非正規雇用 (契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)
- ▧ その他
- 働いていない

【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「働いていない」(32.9%)が最も多く、次いで「正規雇用(正社員等)」(31.4%)、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(31.4%)が同率で続いている。
- ・ 知的障害者は「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(33.7%)が最も多く、次いで「働いていない」(32.8%)、「正規雇用(正社員等)」(24.4%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(38.3%)が最も多く、次いで「正規雇用(正社員等)」(29.4%)、「働いていない」(26.5%)が続いている。
- ・ 難病患者は5人中2人(40.0%)が「自営業」、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」と「働いていない」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「働いていない」(40.7%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(30.5%)、「正規雇用(正社員等)」(20.3%)が続いている。

図表 保護者の就労状況(障害等の種類別)

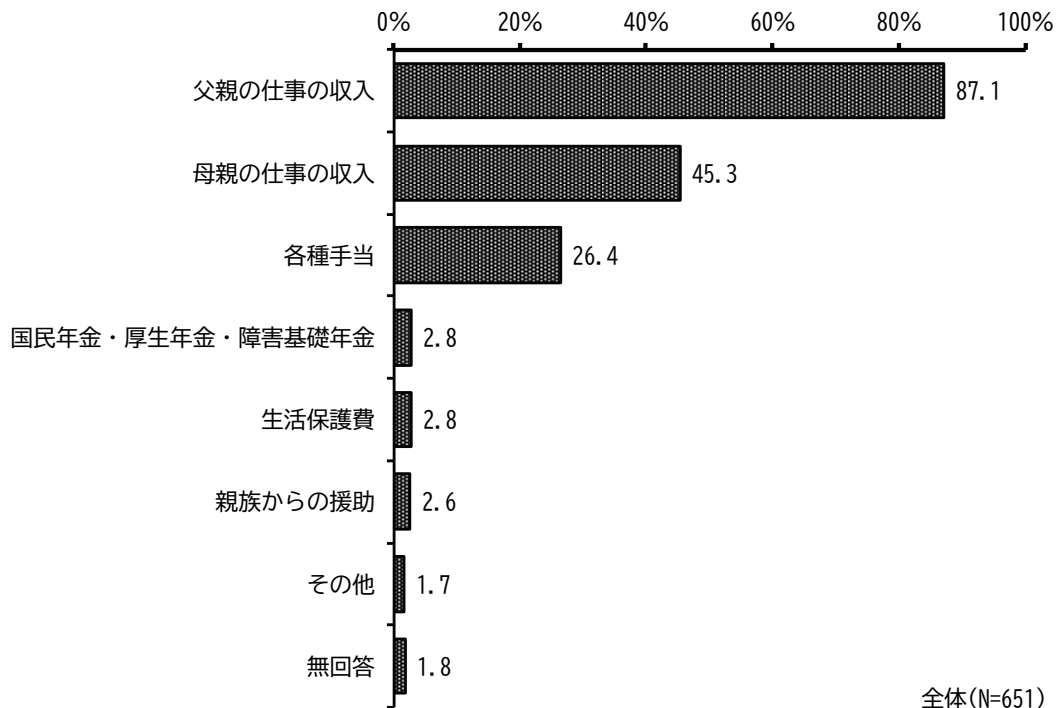


問 27 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(1)世帯の収入源(いくつでも○)

- ・「父親の仕事の収入」(87.1%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(45.3%)、「各種手当」(26.4%)が続いている。

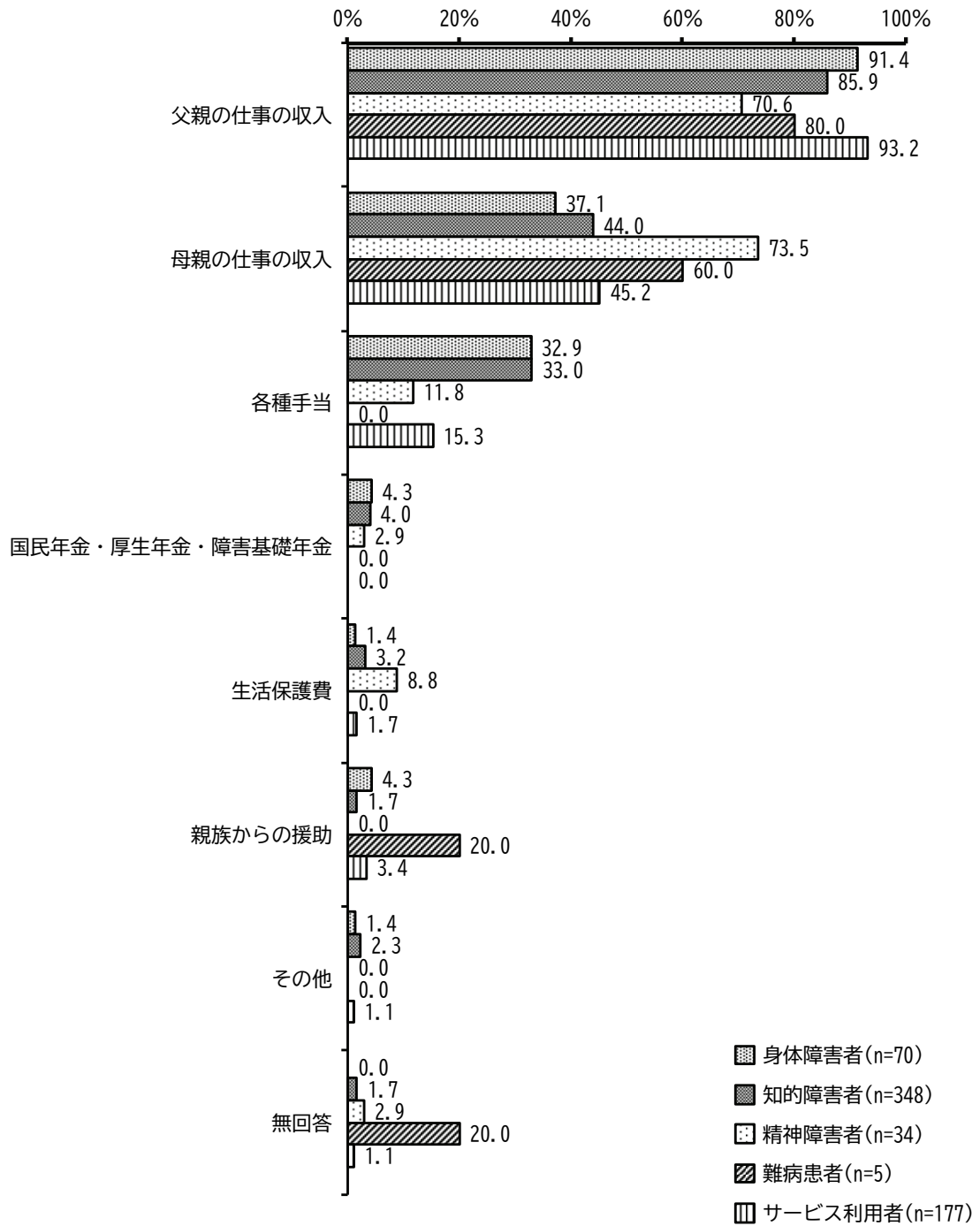
図表 収入源 (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「父親の仕事の収入」(91.4%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(37.1%)、「各種手当」(32.9%)が続いている。全体と比べ、「各種手当」が6.5ポイント高い。
- ・知的障害者は「父親の仕事の収入」(85.9%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(44.0%)、「各種手当」(33.0%)が続いている。全体と比べ、「各種手当」が6.6ポイント高い。
- ・精神障害者は「母親の仕事の収入」(73.5%)が最も多く、次いで「父親の仕事の収入」(70.6%)、「各種手当」(11.8%)が続いている。全体と比べ、「母親の仕事の収入」の割合が28.2ポイント、「生活保護費」が6.0ポイント高い。
- ・難病患者は5人中4人(80.0%)が「父親の仕事の収入」、3人(60.0%)が「母親の仕事の収入」、1人が「親族からの援助」(20.0%)となっている。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「父親の仕事の収入」(93.2%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(45.2%)、「各種手当」(15.3%)が続いている。

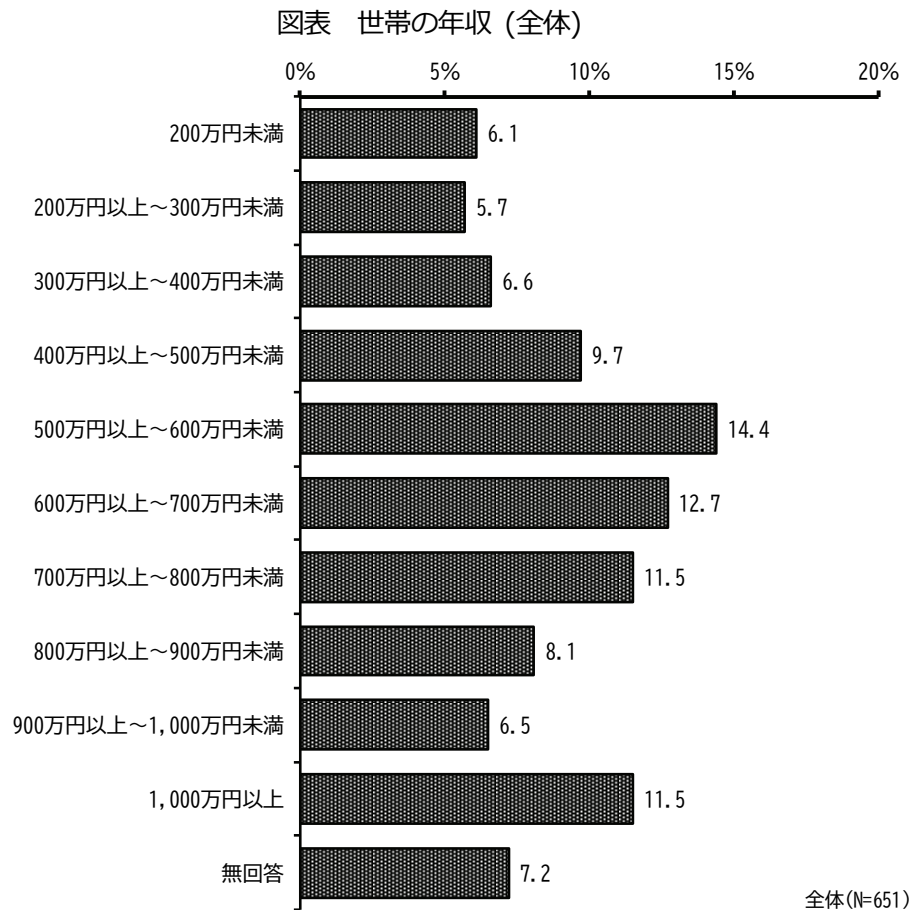
図表 収入源 (障害等の種類別：複数回答)



問 27 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(2)世帯の年収(1つに〇)

- ・「500万円以上～600万円未満」(14.4%)が最も多く、次いで「600万円以上～700万円未満」(12.7%)、「700万円以上～800万円未満」(11.5%)と「1,000万円以上」(11.5%)が同率で続いている。

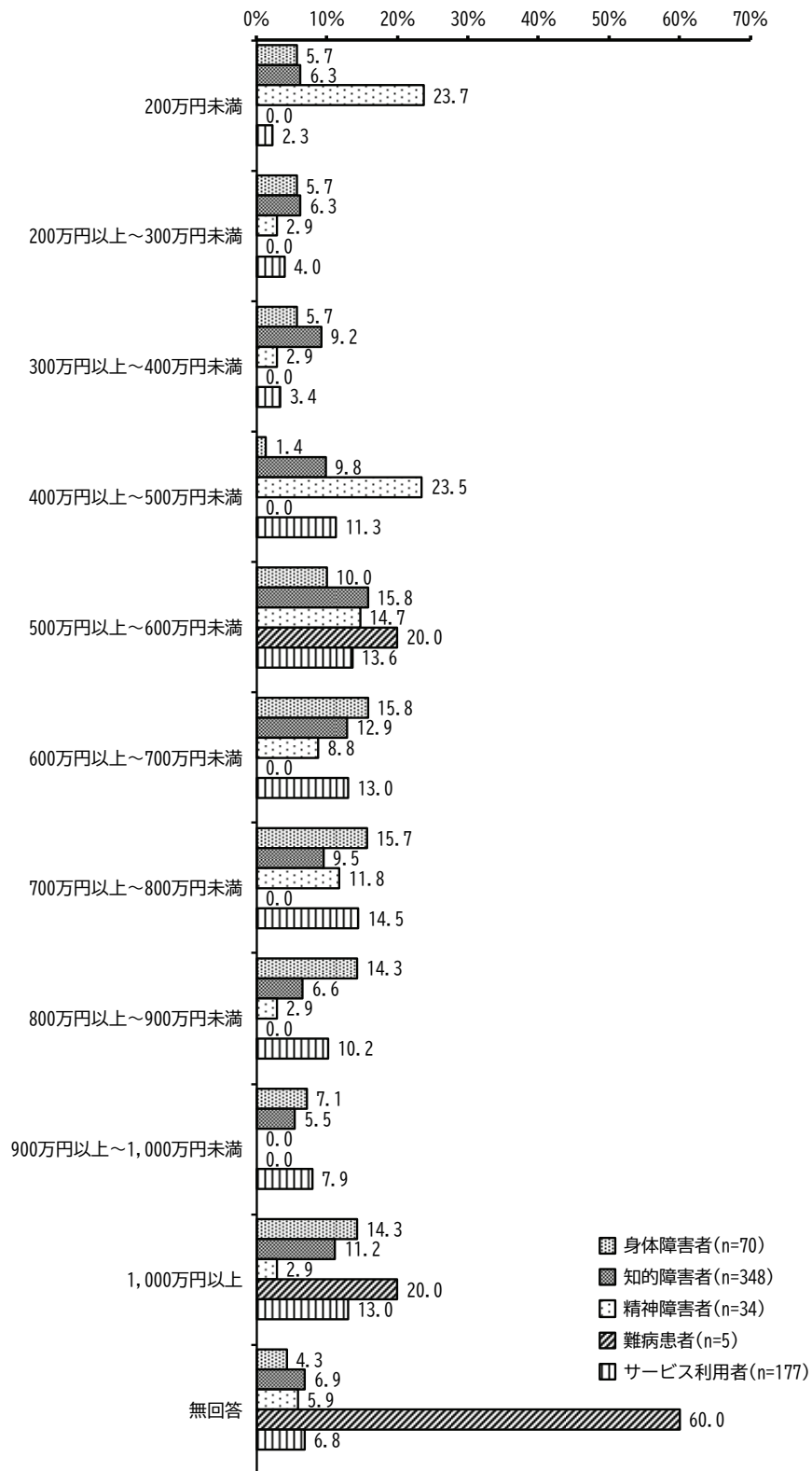


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「600万円以上～700万円未満」(15.8%)が最も多く、次いで「700万円以上～800万円未満」(15.7%)、「800万円以上～900万円未満」(14.3%)と「1,000万円以上」(14.3%)が同率で続いている。
- ・知的障害者は「500万円以上～600万円未満」(15.8%)が最も多く、次いで「600万円以上～700万円未満」(12.9%)、「400万円以上～500万円未満」(9.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「200万円未満」(23.7%)が最も多く、次いで「400万円以上～500万円未満」(23.5%)、「500万円以上～600万円未満」(14.7%)が続いている。「200万円未満」と「400万円以上～500万円未満」が全体より10ポイント以上高い。
- ・難病患者は5人中3人(60.0%)が無回答、「500万円以上～600万円未満」と「1,000万円以上」がそれぞれ1人(20.0%)である。

- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「700万円以上～800万円未満」(14.5%)が最も多く、次いで「500万円以上～600万円未満」(13.6%)、「600万円以上～700万円未満」(13.0%)と「1,000万円以上」(13.0%)が同率で続いている。

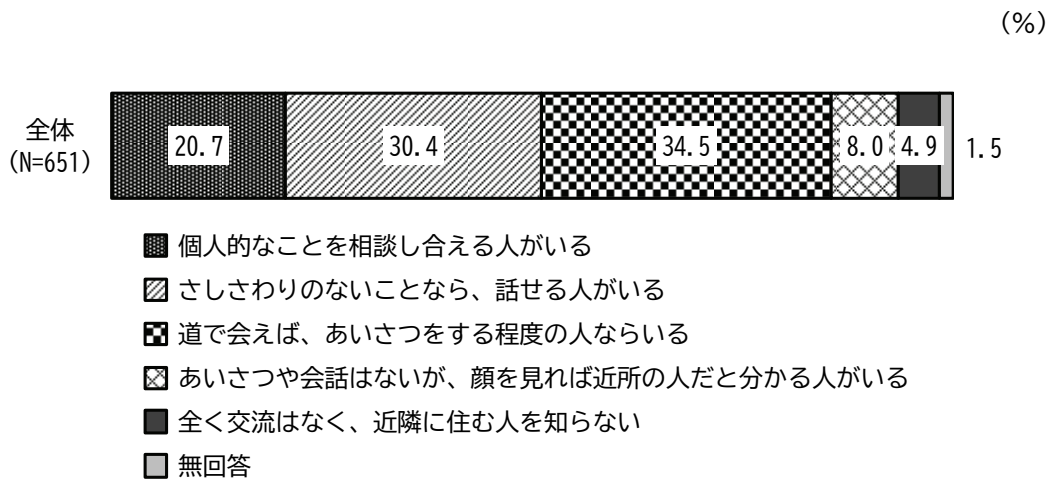
図表 世帯の年収(障害等の種類別)



問28 主に養育している人は、近隣に住む人と、どの程度おつきあいでいますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(34.5%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(30.4%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(20.7%)が続いている。

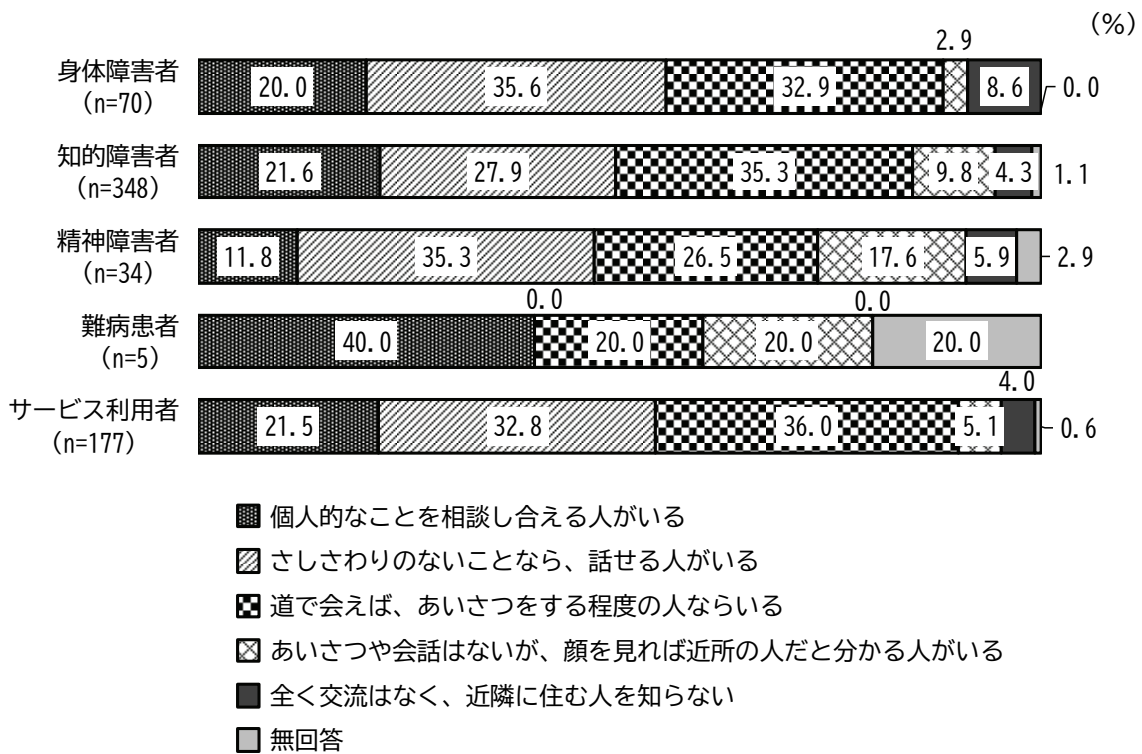
図表 近所づきあいの現状 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(35.6%)が最も多く、次いで「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(32.9%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(20.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(35.3%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(27.9%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(21.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(35.3%)が最も多く、次いで「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(26.5%)、「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」(17.6%)が続いている。「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」は全体より9.6ポイント高い。
- ・難病患者は「個人的なことを相談し合える人がいる」が5人中2人(40.0%)である。「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」と「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(36.0%)が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(32.8%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(21.5%)が続いている。

図表 近所づきあいの現状 (障害等の種類別)

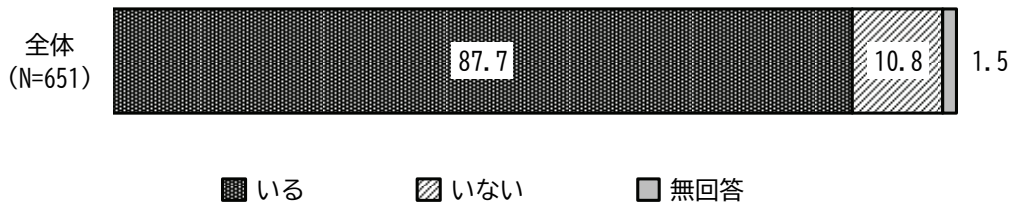


問29 主に養育している人は、ご自身の悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- ・「いる」は87.7%、「いない」は10.8%である。

図表 相談できる人の有無 (全体)

(%)

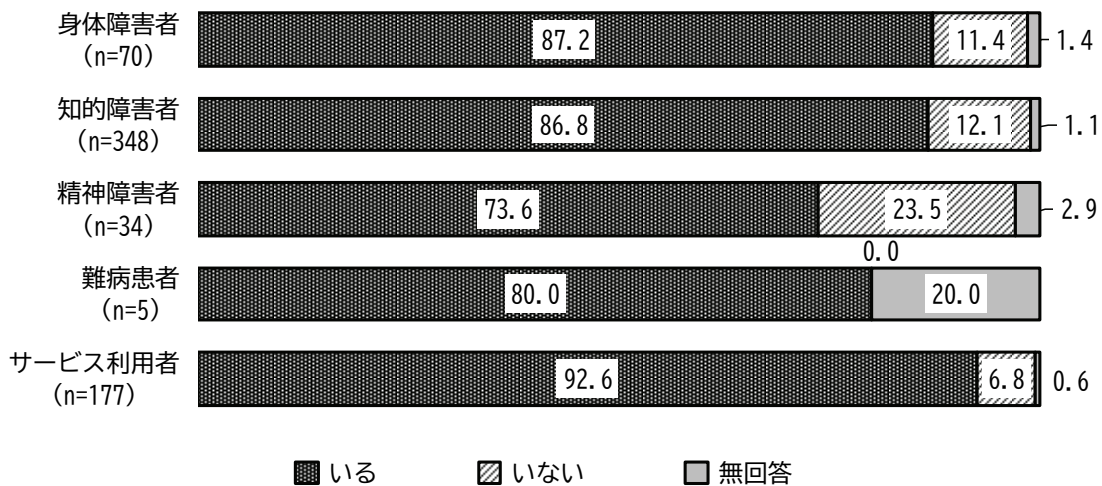


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「いる」は87.2%、「いない」は11.4%である。
- ・知的障害者は「いる」は86.8%、「いない」は12.1%である。
- ・精神障害者は「いる」は73.6%、「いない」は23.5%である。「いない」は全体より12.7ポイント高い。
- ・難病患者は5人中4人(80.0%)が「いる」、1人(20.0%)が「無回答」である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「いる」は92.6%、「いない」は6.8%である。

図表 相談できる人の有無 (障害等の種類別)

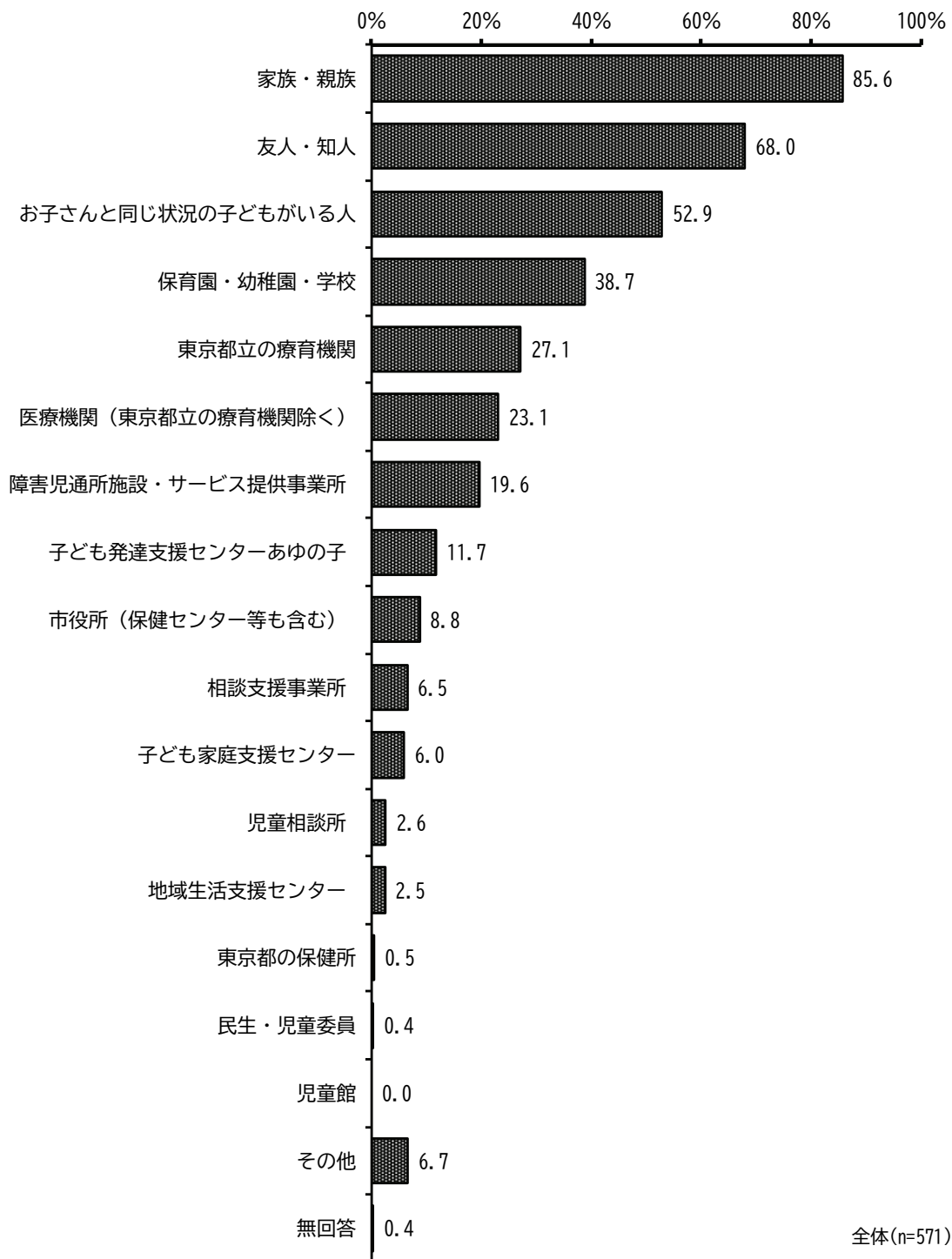
(%)



問29-1 問29で「1.いる」と答えた方におたずねします。次の人・相談機関等に相談しますか。
(いくつでも○)

- ・「家族・親族」(85.6%)が最も多く、次いで「友人・知人」(68.0%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(52.9%)が続いている。

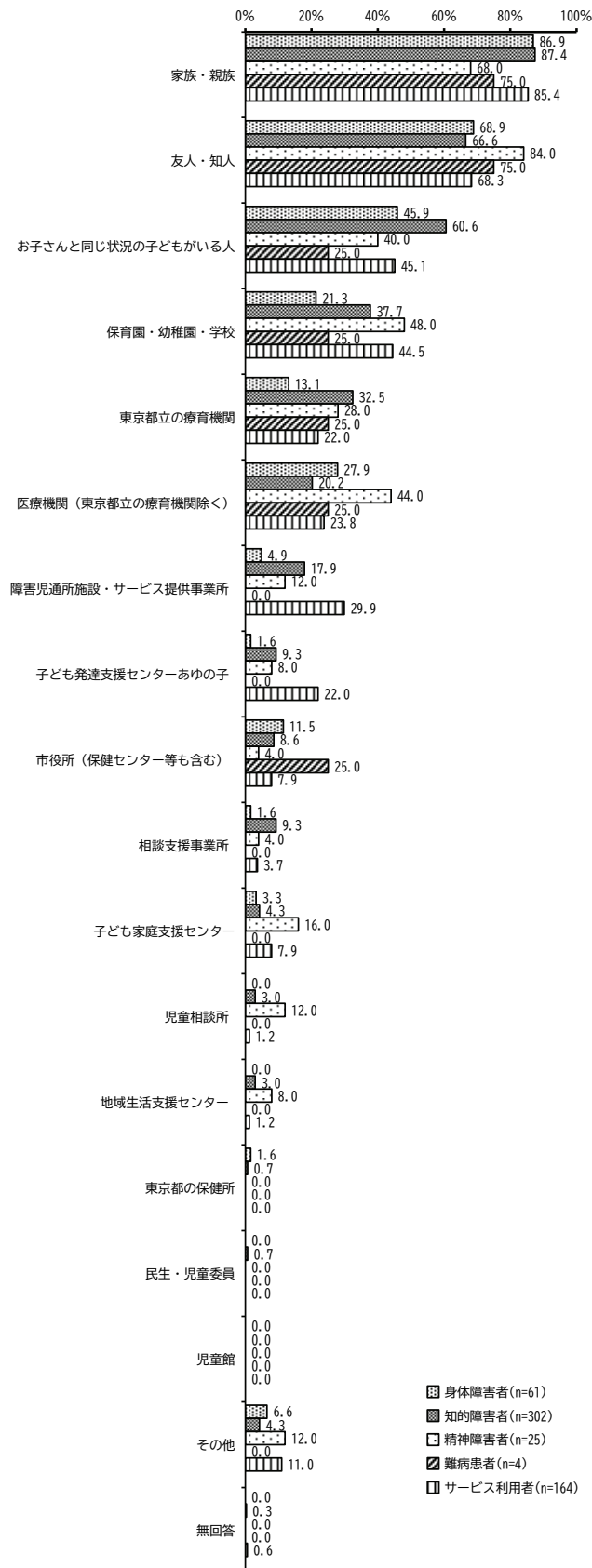
図表 相談先 (全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「家族・親族」（身体：86.9%、知的87.4%、サービス利用者：85.4%）が最も多い。精神障害者は「友人・知人」（84.0%）が最も多い。

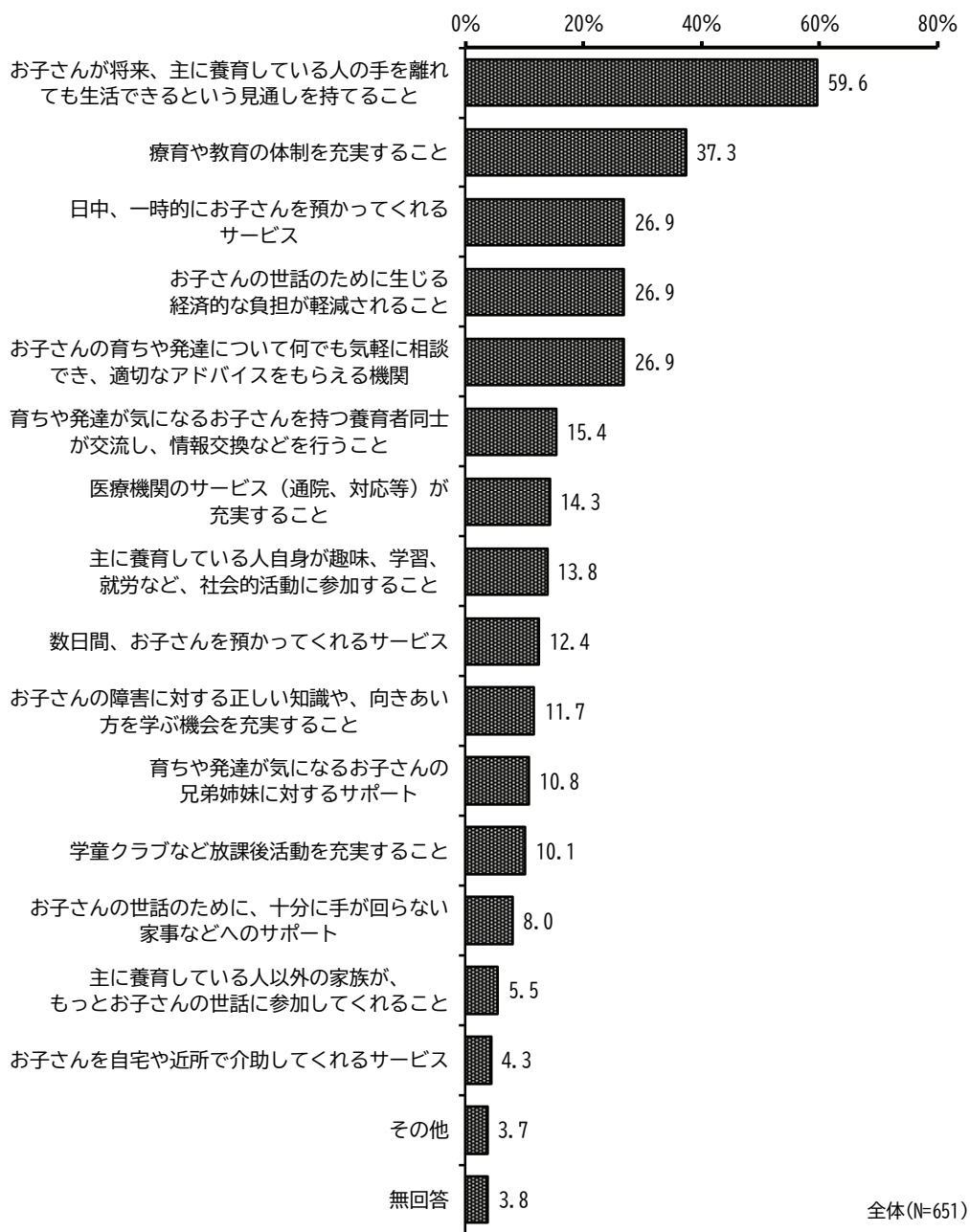
図表 相談先（障害等の種類別：複数回答）



問 30 育ちや発達が気になるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることは何ですか。次の項目の中から、優先順位の高いものを3つ、下記の に番号を記入してください。

- ・「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(59.6%)が最も多く、「療育や教育の体制を充実すること」(37.3%)、「日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス」(26.9%)、「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」(26.9%)、「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」(26.9%)が続いている。

図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(身体：52.9%、知的：66.1%、精神：61.8%)、難病患者は「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」と「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関」がともに5人中3人(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「療育や教育の体制を充実すること」(54.8%)が最も多い。

図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(障害等の種類別：複数回答)

		(%)									
		お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること	療育や教育の体制を充実すること	日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス	お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること	お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関	育ちや発達に気になるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと	医療機関のサービス(通院、対応等)が充実すること	主に養育している人自身が趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること	数日間、お子さんを預かってくれるサービス	
全体	(N=651)	59.6	37.3	26.9	26.9	26.9	15.4	14.3	13.8	12.4	
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	52.9	32.9	28.6	28.6	20.0	12.9	18.6	18.6	14.3	
	知的障害者 (n=348)	66.1	30.5	28.2	28.7	24.4	12.6	14.4	14.7	16.4	
	精神障害者 (n=34)	61.8	29.4	14.7	29.4	32.4	14.7	17.6	14.7	11.8	
	難病患者 (n=5)	40.0	40.0	20.0	60.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	51.4	54.8	26.0	21.5	31.6	21.5	10.7	10.7	5.1	

		お子さんの障害に対する正しい知識や、向きあい方を学ぶ機会を充実すること	育ちや発達に気になるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート	学童クラブなど放課後活動を充実すること	お子さんの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート	主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること	お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス	その他	無回答
全体	(N=651)	11.7	10.8	10.1	8.0	5.5	4.3	3.7	3.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	18.6	15.7	5.7	12.9	10.0	2.9	4.3	0.0
	知的障害者 (n=348)	8.9	12.9	10.1	7.5	3.4	6.3	4.9	3.7
	精神障害者 (n=34)	17.6	11.8	8.8	8.8	0.0	2.9	5.9	5.9
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	13.0	5.1	13.0	7.3	9.0	1.1	0.6	5.1

第3章 障害者福祉団体調査

3-1 調査結果の概要

(1) 団体の概要

問1 貴団体の名称、連絡先等についておたずねします。

- ・市内11団体のうち、8団体から回答があった。

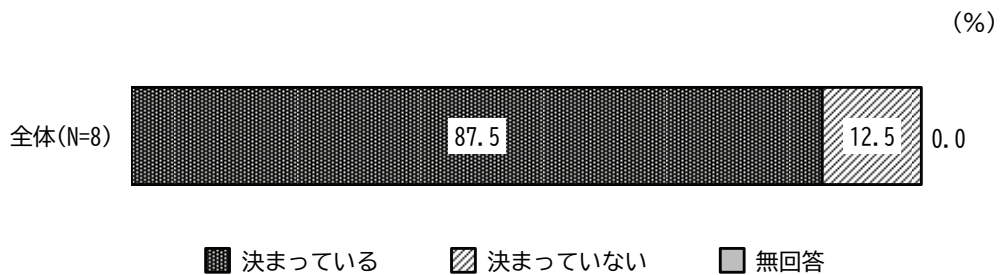
問2 貴団体の令和元年9月1日時点の会員数、運営に携わっている人数を記入してください。

- ・会員数の平均は54.8人となっている。
- ・運営に携わっている人数の平均は7.6人となっている。

問3 貴団体の活動拠点は決まっていますか。(1つに○)

- ・8団体中、7団体は「決まっている(87.5%)」と回答している。具体的な場所は、「府中市文化センター」、「府中市市民活動センタープラッツ」、「府中市立ふれあい会館」など市内施設が多く、1団体は民間のマンションを借りているとなっている。

図表 活動拠点の有無(全体)



問4 貴団体の運営にかかる経費の収入源は何ですか。次の項目の中から、収入が多いものから順に、
 へ番号を記入してください。(それぞれ番号を1つ記入)

- ・収入源として最も多いものは、6団体が「会員からの会費」(75.0%)と回答している。2番目に多いものは、5団体が「市からの補助金」(62.5%)と回答している。

図表 運営経費の収入源(全体)

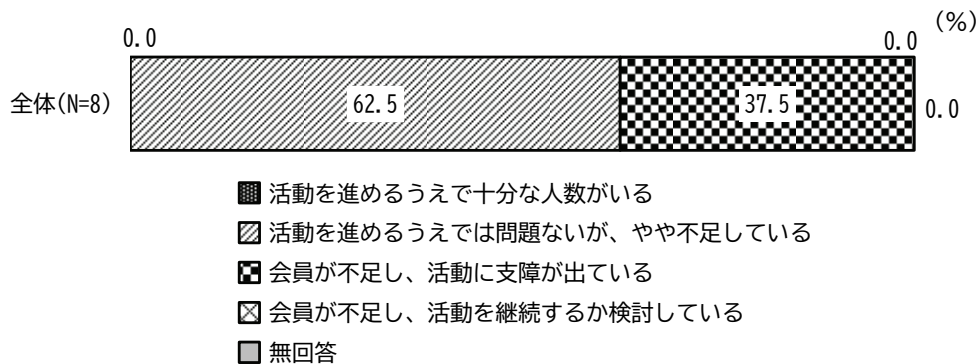
(N=8)	最も多いもの		2番目		3番目	
	団体数	割合 (%)	団体数	割合 (%)	団体数	割合 (%)
市からの補助金	1	12.5	5	62.5	0	0.0
市以外からの補助金	0	0.0	0	0.0	2	25.0
寄付金	1	12.5	0	0.0	1	12.5
会員からの会費	6	75.0	1	12.5	1	12.5
事業収入	0	0.0	0	0.0	1	12.5
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	2	25.0	3	37.5

問5 貴団体の活動に関わる現在の会員の充足状況についておたずねします。

(1)現在の会員数は活動を進めるうえで足りていますか。(1つに○)

- ・「活動を進めるうえでは問題ないが、やや不足している」が5団体(62.5%)で最も多く、次いで「会員が不足し、活動に支障が出ている」が3団体(37.5%)となっている。

図表 活動する上で足りているか(全体)

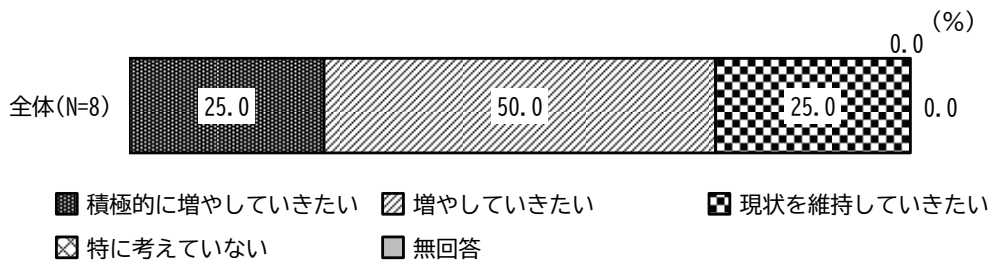


問5 貴団体の活動に関わる現在の会員の充足状況についておたずねします。

(2)今後の会員数の充実について、どのように考えていますか。(1つに○)

- ・「増やしていきたい」が4団体(50.0%)で最も多く、次いで「積極的に増やしていきたい」、「現状を維持していきたい」がそれぞれ2団体(25.0%)となっている。

図表 今後の充実に向けて(全体)



問5-1 問5で「1」または「2」と回答された方におたずねします。

貴団体では、会員を増やすために何か取り組みを行っていますか。(1つに○)

- ・問5で「積極的に増やしていきたい」、「増やしていきたい」と回答した6団体すべてが、会員を増やすための取り組みを「行っている」(100.0%)と回答している。

図表 会員を増やすための取り組みの有無(全体)



問5-2 問5-1で「1.行っている」と回答された方におたずねします。

貴団体では、どのような取り組みを行っていますか。

- ・ 活動の担い手を増やす取り組みとして行っていることは、チラシや会報の配布、学習会・講演会などでの呼びかけ、相談利用者や利用者の家族への案内となっている。

<具体的な意見>

【府中市パーキンソン病友の会】

- ・ 月例会に一般参加の呼びかけを実施している（府中市の広報誌に年2回掲載）。
- ・ チラシを作成し、市民活動センターに置いている。また近隣薬局にも依頼している。
- ・ ケアマネジャーや看護師他、患者間の口コミ。

【府中市視覚障害者福祉協会】

- ・ 定期的につどいを開催したり、ブログ等で啓発している。

【府中市肢体不自由児者父母の会】

- ・ 年3回会報を発行し、会員以外の人に情報提供をする。
- ・ 会員が学校の同級生など、自分の身近なところにいる人に呼びかけをしている。
- ・ 学習会等の案内を会員以外も対象にして行っている。

【「つばさの会」府中】

- ・ 毎年「聴こえ」に関する講演会を催し、市報に載せたりサークルなどにチラシを配布し、参加を呼びかけている。また、アンケート用紙に今後の講演会のお知らせ希望欄を作り、希望の人にはチラシを郵送している。

【府中進行性筋萎縮症協会】

- ・ 病院等で出会った同じ病気の方に、会の行事や毎月行っている定例会に誘っている。

【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

- ・ 相談にいらした方が、相談に満足し、かつ入会を希望される方に入会していただいている。
- ・ 「いこいの部屋」を利用された方の家族が入会を望む時に入会していただいている。
- ・ 口コミで当会を知り、訪ねていらした方で入会を望む方に入会していただいている。

問6 活動するうえで困っていることはありますか。(いくつでも○)

- ・「後継者問題」が7団体(87.5%)で最も多く、次いで「財政的支援」が4団体(50.0%)、「活動場所の確保」、「社会の認識」、「人的支援」がそれぞれ3団体(37.5%)となっている。

図表 活動する上で困っていること(全体)

(N=8)	団体数	割合(%)
事業の企画	2	25.0
運営方法	0	0.0
活動場所の確保	3	37.5
会員の意識	2	25.0
後継者問題	7	87.5
社会の認識	3	37.5
ネットワークづくり	1	12.5
行政支援	0	0.0
財政的支援	4	50.0
人的支援	3	37.5
その他	1	12.5
特にない	0	0.0
無回答	0	0.0

(2) 団体の相談支援体制について

問7 貴団体では、障害者福祉に関する市の相談体制についてどのようなことを望んでおられますか。

- ・市の相談体制に望むことを自由記述形式でたずねたところ、切れ目のない相談体制やいつでも相談できる環境、他分野との連携、相談や窓口における職員の専門性や質が求められている。
- ・また、障害者福祉団体への情報提供のあり方や当事者同士の相談環境のほか、一般市民の精神保健の相談窓口の充実についても期待されている。

<具体的な意見>

- ・障害者福祉団体への情報提供のあり方について検討を要望します。市担当者と各団体との相互コミュニケーションにより、もっと密な相談体制確立の可能性が高いと考えます。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・専門の相談員も必要ですが、障害者には同一の障害を持った当事者による相談が有要だと思います。【府中市視覚障害者福祉協会】
- ・◆ライフステージが変わっても切れ目なく継続して相談できること。◆24時間、休日も緊急時に対応できること。◆相談員の専門性(知識・対応の仕方)があること。◆他分野との連携が確保されていること。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・難聴者に対する理解が殆どないと思います。市職員ですら「聴こえません」と言うと、大きな声で話されます。大きい声を出したら聞こえるというのは間違いです。「筆談」をお願いしたいです。【「つばさの会」府中】
- ・障害者福祉の充実。ケースワーカーの人数、経験などに不足があると思います。相談してもきちんと向き合ってもらえません。【府中市自閉症児者親の会】
- ・いつでも相談できる場が身近にあり、必要に合わせて専門的な分野との連携、ネットワーク作りができるよう支援する相談体制を望みます。その時々で相談ができる体制と、乳幼児期、学齢期、学校卒業後、親亡きあと、と相談内容が引き継がれて、生涯を通して相談ができるような体制を望みます。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・一般市民の精神保健の相談窓口の充実として、自殺や暴力事件を防ぐためにも、予防的な意味で都の保健所、市の「障害者福祉課」以外の一般市民の健康を守る部署で、精神的に不安のある一般市民の相談や、いじめ等の被害を受けている市民の相談も、精神医療機関にかかる前の段階で臨床心理士や看護師、保健師に傾聴していただけるような体制ができないでしょうか。聞いてもらえるだけで孤立・絶望から開放され、持ち直す人は多いと思います。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

(3) 災害時の支援について

問8 震災等の災害時に、障害等のある人々が安心して過ごせるために、どのような支援が必要だとお考えですか。避難所の問題、救出方法の問題等、どのようなことでもけっこうですのでご記入ください。

- ・災害時にどのような支援が必要かたずねたところ、避難所に関する意見が多い。特に早期の福祉避難所の開設が求められている。その他に避難所等の情報の伝達方法、避難所での行動の仕方、駐車スペースなどの避難所の環境について希望がでている。
- ・また、医療機関との連携、備蓄や電源の確保策、地域の要援護者を把握し支える仕組みについても意見が出ている。

<具体的な意見>

- ・障害等のある人への対応は一般対応と異なり、医療関係との連絡も密に行う必要があります。資格を持った障害者対応担当者の確保をお願いします。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・避難所への避難のアナウンスがされていましたが、その場所に行ってどうするか、具体的な説明を受けながら実践的な訓練の指導をしてほしい。【府中きすげの会】
- ・一般の避難所では、視覚障害者が生活することは困難だと思われます。例えば、食料を配給すると掲示板に書かれても、視覚障害者はそれを見ることができないため、食料にありつけないケースがあると考えられます。また、トイレの場所なども初めての場所は誘導がない限り行きません。視覚障害者は、安全であれば避難所よりも自宅の方が安心できます。【府中市視覚障害者福祉協会】
- ・◆肢体不自由者が避難するためには車が不可欠になるので、避難所に駐車スペースを確保することが必要です。◆避難所開設等の情報伝達手段を複数確保し、確実に要支援者に届くようにしてほしい。◆福祉避難所の早期の立ち上げが必要です。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・◆台風の時、市の拡声器による呼びかけは何を言っているかわからなかった。◆スマホに緊急速報が入るかわからない、障害者の避難場所の提示がなかった。◆災害課に電話しても繋がらなかった。【「つばさの会」府中】
- ・避難所で一般の人達と一緒に過ごすことには無理があります。特に自閉症の人にとっては混雑した中で平静でいられることは難しく、始めから別の場所を設けてほしいです。【府中市自閉症児者親の会】
- ・長期間停電となった場合、特に24時間人工呼吸器を装着している患者は、個人での蓄電池の確保が必要だと思います。様々な障害に合った対応ができる福祉避難所を、特別支援学校や作業所などを利用して開設し、備蓄物や自家発電機や必要なものを予算化することが必要だと考えます。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・◆平常時から障害等のある人で救出を希望する方を地域の支援体制の中で把握しておき、災害発生時に誰が助けるのか、担当者を決めておいてはどうでしょう。近所の方やボランティアでもよいとし、普段から顔を合わせ、お互いを知り合っておきます。◆避難所は、発達障害のように音や光に敏感な方や、障害や精神症状のために人とうまく共同生活ができない方のために、二次的な避難所を用意します。一般の避難者は利用できないことにして、一般の方には知られない方がよいと思います。◆交

通手段が使えない場合、救出を希望された方の住所・電話番号などを消防署等に知らせ、個々の安否確認と救出をお願いしてはどうでしょうか。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

(4) 制度の谷間にある方への支援について

問9 現状では、障害等のあるすべての人が必要なサービスを受けられる制度となっておりません。障害者福祉制度の谷間にある方々に対する支援としてどのようなことが必要とお考えですか。

- ・福祉制度の谷間の問題について自由記述形式でたずねたところ、福祉制度の谷間にある方々の把握、個々の相談に対応できる支援や相談窓口の整備、趣味活動による仲間づくり支援などが望まれている。

<具体的な意見>

- ・人的支援対応の柔軟な運用が必要と考えます。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・障害者団体にアンケートをとって、一番困っていて助けてほしいことを聞き出し(ケースバイケースなので)、きめ細かく対応し、解決してあげることが必要だと思います。【府中きすげの会】
- ・例えば、重症心身障害ではない医療的ケア児者は、短期入所を利用できない場合が多いです。現行制度の中で対応が難しい人のサービスについて、市が加算措置をするなどして対応する必要があると思います。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・町会体制を利用して、町会ごとにひとり暮らし、障害者、問題を抱えている人などを把握し、市に状況を届け出るとしてはどうでしょうか。【「つばさの会」府中】
- ・「制度の谷間」といっても、障害の幅は広く深いので、まず何が谷間となっているかを把握することが最初だと思われます。【府中市自閉症児者親の会】
- ・福祉制度の谷間にある方々に制度の仕組みや利用できる事業所の紹介など、個々の相談に丁寧に対応できるような支援が必要だと考えます。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・◆話を丁寧に聞いてもらえる場、困りごとを正直に話せる場を創り、市報などで参加を呼びかける。
◆地域の人々の役に立つ活動で、本人がやりがいと価値を感じる役割の創設。できれば有償参加で、自立できる方向での支援。
◆地域の企業の理解ある雇用の拡大。
◆趣味へのつながりと趣味仲間をつくる支援。費用は一定限度内で公費負担をしてほしい。
◆趣味活動をしている方々の実績を、シンポジウムを開催するなどして市民に知ってもらう。
◆定期的に相談を受けられる窓口の整備。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

(5) 地域共生社会づくりに向けた協力意向について

問 10 平成 28 年度に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」にて、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、だれもが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。地域共生社会の実現に向けて、府中市民にもっと意識を持ってもらうようにするには、貴団体としてどのようなことができますか。

- ・ 地域共生社会に向けた市民向けの意識啓発の取り組みを自由記述形式でたずねたところ、学習会や講演会などを通しての啓発、市や社会福祉協議会の事業への参加を通じた啓発活動などの回答があった。

<具体的な意見>

- ・ 医療講演会を開催し、専門的情報を定期的に発信します。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・ 社会福祉協議会の「わがまち支えあい協議会」に参加する。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・ 私達難聴者は、手話、筆談などなかったら、他者とのコミュニケーションは取れません。多くを要約筆記者、手話通訳者に支えられています。他者とのコミュニケーションの取れない私達が支え手になれるとしたら、それは同じ障害のさみしくされている方を会に誘って同じ仲間として元気をあげることです。【「つばさの会」府中】
- ・ 障害から逃げずに障害と向き合って、地道に社会生活(日常生活)を営んでいくことで、周囲への働きかけを果たしていると思います。【府中市自閉症児者親の会】
- ・ 障害や難病についてまずは知ってもらうことが大事であるため、福祉まつりや市や社会福祉協議会で開催される行事に積極的に参加し、啓発していきます。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・ 市民学習会や講演会などを開催できれば、当会の役員が出席して、そこで「地域の共生社会を実現するためには、日々の家族同士や住民同士での「温かい対話」がいかに大切であるか」を、先進国の精神保健医療での対話による治療(「オープンダイアログ」「未来語りのダイアログ」)による成功例等をあげて、お話しすることはできます。その「対話」により、市民同士の信頼とつながりが深まり、地域の困りごとの解消に向けて一緒に喜びを持って活動し、発展させられる可能性が高まります。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

問 11 地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、団体として何か協力できることはありますか。

- ・ 市民向けの意識啓発の取り組みのほかに、地域共生社会に向けて協力できることはあるか自由記述形式でたずねたところ、市とのコミュニケーション強化、市民とつながる機会への参加や講演活動、団体が実施する傾聴事業などの回答があった。

<具体的な意見>

- ・ できる範囲で協力していこうと考えますが、まずは市と団体のコミュニケーションの改善、強化ではないかと考えます。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・ 私達団体は、平均年齢85歳近くで、地域包括支援センターにお世話になる人々の集まりで、他のお世話ができません。お世話になることが多いので、地域共生社会でのお手伝いができる立場ではありません。【府中きすげの会】
- ・ 福祉まつりなど市主催の行事に積極的に参加する。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・ 残念ながら団体としてはその余力はありません。【府中市自閉症児者親の会】
- ・ 芸術やスポーツが日常的に一般市民と楽しめるような色々な機会に積極的に参加していく。学校などで障害や難病の理解を深めるよう講演を行う。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・ 市民の悩み事を、当会の事務所を使い、ただ傾聴するだけのサービスはできます。もちろん、個人情報のお秘密は厳守されます。誰でも苦しみがある人は、適切に聞いてもらうことにより、心のストレスが軽減されます。市民同士の支え合いの一環となればありがたいです。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

(6) 障害福祉施策について

問 12 平成 28 年度 4 月より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行され、国・地方公共団体等は「不当な差別的取扱いの禁止」「合理的配慮の提供」が法的に義務付けられています。なお、「合理的配慮の提供」については、平成 30 年 10 月施行の東京都条例下において民間事業者も義務化されました。

貴団体は障害等のある人への合理的配慮として、特に必要だと思うことは何ですか。また、合理的配慮の好事例がございましたら、合わせてお書きください。

- ・ 障害者に対する合理的配慮として、特に必要なことを自由記述形式でたずねたところ、障害に対する理解促進、当事者の立場に立った支援、障害特性を踏まえた情報提供のあり方、施設設備が求められている。
- ・ また、教育環境では設備や人的配置の配慮、インクルーシブ教育が望まれている。

<具体的な意見>

- ・ 相互理解が必要なことは当たり前のことですが、到達点として世代を超えた先を見据えて、地道に一步一步続けることが必要です。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・ 飲食ができる場所に、注入道具などを洗浄する場所、設備を提供してほしい。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・ 公的機関主催の講演会には必ず、情報保障をつけて頂きたい。「必要な人は連絡ください」の一言をチラシに載せてほしい。また、問い合わせ先の電話番号に F A X 番号も載せてほしい。聴こえの悪い人たちへの配慮が本当に欠けています。【「つばさの会」府中】
- ・ 自閉症スペクトラムの人達の困りごとは、人によって大きく違うので、まず「障害への理解」を持ってください。【府中市自閉症児者親の会】
- ・ どんな障害があっても、本人の望む場所で教育が受けることができるよう、設備や人的配置が適切に提供されることが必要で、可能な限り地域で共に学べるインクルーシブ教育が必要だと思います。(事例：普通学校でトイレの改修工事やスロープの設置などを行い、介助者をつけて共に学ぶことで、良い関係を築き、卒業後も友達関係を継続している。)【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・ ◆当事者を「障害者」として上から見るのではなく、普通の人間としてみる。普通の人が精神症状(障害)で困っていると考え、こちらも同じ立場に立つ努力をして一緒に解決策を考える。◆できないことに目を向けるのではなく、人間として美しい精神面や障害がありながらも努力している面を高く評価して受け入れ、自信が高まり前に進めるように接する。◆当会の当事者の居場所「いこいの部屋」に新しい方が来て、その方が症状の苦しさから仲間を責め立てたりするので、誰も来なくなったことがある。スタッフはその方の良いところを認め、人間関係を調整した結果、皆に受け入れられるようになり、また皆が集まるようになった。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

問 13 府中市では、府中市福祉のまちづくり計画や障害者計画等に基づいて、市内におけるバリアフリー施策を推進しています。

貴団体は府中市のバリアフリー施策に関して、どのようなことを期待しますか。

- ・市のバリアフリーの施策で期待することを自由記述形式でたずねたところ、ハード面のバリアフリーに関する意見が多いが、バリアフリー施策の検討のあり方、ハード面以外のバリアフリーの配慮や就労における待遇などの意見も寄せられている。

<具体的な意見>

- ・ 府中駅の再開発を例にあげると、全体計画においてバリアフリー化を十分に検討されたかどうか疑問視されるような結果となっているように感じます。今後の計画では、バリアフリーに特化した検討ではなく、もっと当たり前のこととして、計画立案を期待したいです。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・ 車いすでどこにでも行ける建物や部屋、道など、車いすで行動、家から一歩出ても自立できる整備をしてほしい。【府中きすげの会】
- ・ ◆一定の人数が利用する駅、商業施設、文化施設、医療機関等に大人が使用できるオムツ替え用のシートを、多目的トイレに設置する。◆様々な場面において、障害者も含め、いろいろな人がいるということを念頭におけるように市民に啓発する。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・ できれば歩道の幅を広くして、自転車、子供連れ歩行者が安心して行き交えられるようにしてほしい。【府中市自閉症児者親の会】
- ・ 施設や道路など、ハード面のバリアフリーだけでなく、すべての障害者団体にヒアリングしていただき、ユニバーサルデザインに配慮されたバリアフリー施策になることを期待します。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・ ◆最近、府中市の職員募集において、精神障害者もようやく対象に入れられましたが、待遇面で身体障害者に比べてやや責任の軽い位置づけになっています。本人の希望があり、能力が同じであれば、同じ待遇にすべきです。◆府中市の市民の精神的健康面における対応で、「精神障害者」と「健常者」との間に大きな開きがあると感じています。市民が精神的に不調を感じた時に「障害者福祉課」に相談に行くのは、自分をはじめから「精神障害者」の仲間入りさせるようで、大きな抵抗を感じると思います。一般市民が気楽に相談でき、障害者になるのを防ぐ体制が必要です。【府中市精神障害者を守る家族会(通称：府中梅の木会)】

問 14 府中市の障害等のある人の施策に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・市の障害福祉施策への意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、就労支援、人材の確保・育成、情報提供のあり方や障害等のある人の意見を聞く取り組みなどの幅広い意見が寄せられている。

<具体的な意見>

- ・広報誌の発行において、一般と障害等のある人の区別をせずに、誰もが互いに理解し合える誌面づくりを期待します。「福祉」の内容をもっと一般誌面に載せてほしいです。【府中市パーキンソン病友の会】
- ・施策の具体的内容が勉強不足ですが分からないので、意見などが書くことができません。【府中きすげの会】
- ・◆障害者に関する施策だけでなく、市が取り組む幅広い事業について、障害者の意見を聞く機会を持ってほしい。◆市の窓口業務が平日の9時から午後5時までになっており、就業している保護者が手続きをできないので、時間延長や休日の窓口対応を検討してほしい。【府中市肢体不自由児者父母の会】
- ・基幹相談支援センターを設置し、市の直営で経験を有する専門職の職員を十分な必要な人数確保して運営し、福祉の担い手となる人材を育ててください。【府中市自閉症児者親の会】
- ・通勤が困難であったり医療的ケアが必要な障害者も、在宅で就労できる機会を今後も継続拡大してほしい。個々に福祉・医療・保健のネットワーク作りをして、いつまでも地域・在宅で安心して暮らせるような社会であることを願います。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・当事者の意見や気持ちを、対面しながらもっともっと拾い上げ、市民や行政、支援者が直接的に理解するための長期的取り組みが必要です。行政や支援者は、法律や制度に従い、調査結果に基づいた間接的理解をもとに活動しているので、当事者のニーズの一面しか見えず、見えている部分に、今できる範囲で対応しているのが実態です。当事者は、行政や支援者が分かっていない苦しみを個人として抱え、自らの辛い境遇を諦めの気持ちで受け入れながら日々を過ごしています。【府中市精神障害者を守る家族会(府中梅の木会)】

第4章 障害福祉サービス事業所調査

4-1 調査結果の概要

(1) 事業所の概要

問1 貴事業所の活動状況について教えてください。

① 組織形態(1つに○)

- ・「株式会社」が63事業所(31.2%)で最も多く、「社会福祉法人」が54事業所(26.9%)、「NPO」が41事業所(20.4%)で続いている。

図表 組織形態 (全体、事業別)

	(上段：事業所数 下段：%)											
	社会福祉法人	社会福祉協議会	福祉公社・事業団	社団法人	財団法人	医療法人	株式会社	有限会社	NPO	その他	無回答	
全体	201	54	8	0	8	0	3	63	13	41	4	7
	100.0	26.9	4.0	0.0	4.0	0.0	1.5	31.2	6.5	20.4	2.0	3.5
居宅介護	29	3	0	0	0	0	1	13	3	6	2	1
	100.0	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	45.0	10.3	20.7	6.9	3.4
重度訪問介護	25	2	0	0	1	0	1	12	3	4	0	2
	100.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	48.0	12.0	16.0	0.0	8.0
同行援護	9	2	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0
	100.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	44.5	0.0	0.0
行動援護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度障害者等包括支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	10	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
自立訓練(機能訓練)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	5	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労継続支援(A型)	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労継続支援(B型)	16	12	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0
	100.0	74.9	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
就労定着支援	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立生活援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
施設入所支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	13	4	0	0	3	0	0	0	1	5	0	0
	100.0	30.8	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	7.7	38.4	0.0	0.0
計画相談支援	15	4	1	0	1	0	0	5	2	2	0	0
	100.0	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	33.3	13.3	13.3	0.0	0.0
地域移行支援	5	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	100.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
地域定着支援	6	2	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0
	100.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
移動支援	18	2	0	0	0	0	1	6	1	6	0	2
	100.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	33.3	5.6	33.3	0.0	11.1
地域活動支援センター	5	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	100.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
日中一時支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童発達支援	8	1	1	0	0	0	0	2	0	4	0	0
	100.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	17	0	0	0	1	0	0	10	0	6	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	58.8	0.0	35.3	0.0	0.0
障害児相談支援	9	1	1	0	0	0	0	4	2	1	0	0
	100.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	44.5	22.2	11.1	0.0	0.0
保育所等訪問支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問1 貴事業所の活動状況について教えてください。

②貴事業所において実施しているすべての事業(調査対象となっている事業含む)(いくつでも○)

- ・「居宅介護」が84事業所(41.8%)で最も多く、次いで「重度訪問介護」が75事業所(37.3%)、「移動支援」が53事業所(26.4%)で続いている。

図表 実施している事業（全体、事業別：複数回答）

		事業所数	割合 (%)
全体		201	100.0
事業別	居宅介護	84	41.8
	重度訪問介護	75	37.3
	同行援護	31	15.4
	行動援護	5	2.5
	重度障害者等包括支援	2	1.0
	生活介護	18	9.0
	自立訓練（機能訓練）	0	0.0
	自立訓練（生活訓練）	0	0.0
	就労移行支援	9	4.5
	就労継続支援（A型）	0	0.0
	就労継続支援（B型）	28	13.9
	就労定着支援	9	4.5
	療養介護	0	0.0
	短期入所	5	2.5
	自立生活援助	0	0.0
	施設入所支援	4	2.0
	グループホーム	20	10.0
	計画相談支援	42	20.9
	地域移行支援	20	10.0
	地域定着支援	20	10.0
	移動支援	53	26.4
	地域活動支援センター	18	9.0
	日中一時支援	4	2.0
	児童発達支援	14	7.0
	医療型児童発達支援	2	1.0
	訪問型児童発達支援	0	0.0
	福祉型障害児入所支援	0	0.0
医療型障害児入所支援	0	0.0	
放課後等デイサービス	25	12.4	
障害児相談支援	28	13.9	
保育所等訪問支援	2	1.0	
その他	6	3.0	
無回答	3	1.5	

問1 貴事業所の活動状況について教えてください。

③調査対象となっている事業(②の選択肢の中から1つ枠内にご記入ください)

- ・「居宅介護」が29事業所(14.1%)で最も多く、次いで「重度訪問介護」が25事業所(12.4%)、「移動支援」が18事業所(9.0%)で続いている。

図表 調査対象となっている事業（全体、事業別）

		事業所数	割合 (%)
全体		201	100.0
事業別	居宅介護	29	14.1
	重度訪問介護	25	12.4
	同行援護	9	4.5
	行動援護	0	0.0
	重度障害者等包括支援	0	0.0
	生活介護	10	5.0
	自立訓練（機能訓練）	0	0.0
	自立訓練（生活訓練）	0	0.0
	就労移行支援	5	2.5
	就労継続支援（A型）	2	1.0
	就労継続支援（B型）	16	8.0
	就労定着支援	3	1.5
	療養介護	0	0.0
	短期入所	2	1.0
	自立生活援助	0	0.0
	施設入所支援	1	0.5
	グループホーム	13	6.5
	計画相談支援	15	7.5
	地域移行支援	5	2.5
	地域定着支援	6	3.0
	移動支援	18	9.0
	地域活動支援センター	5	2.5
	日中一時支援	1	0.5
	児童発達支援	8	4.0
	医療型児童発達支援	1	0.5
	訪問型児童発達支援	0	0.0
	福祉型障害児入所支援	0	0.0
	医療型障害児入所支援	0	0.0
	放課後等デイサービス	17	8.5
	障害児相談支援	9	4.5
保育所等訪問支援	1	0.5	
その他	0	0.0	
無回答	0	0.0	

問1 貴事業所の活動状況についてお教えてください。

(3)調査対象となっている事業の定員数と利用者数を記入してください。

(令和元年9月1日現在)

- ・調査対象となっている事業の定員、利用者は、以下のとおりである。

図表 調査対象となっている事業の定員、利用者数（事業別）

調査対象となっている事業	回答事業所数 (事業所)	定員（平均） (人)	利用者数（平均） (人)
居宅介護	29	17	16
重度訪問介護	25	4	2
同行援護	9	5	6
生活介護	10	30	31
就労移行支援	5	14	12
就労継続支援（A型）	2	15	7
就労継続支援（B型）	16	19	25
就労定着支援	3	-	11
短期入所	2	-	-
施設入所支援	1	32	31
グループホーム	13	9	8
計画相談支援	15	5	42
地域移行支援	5	1	2
地域定着支援	6	1	1
移動支援	18	5	9
地域活動支援センター	5	-	115
日中一時支援	1	-	-
児童発達支援	8	8	22
医療型児童発達支援	1	40	51
放課後等デイサービス	17	6	20
障害児相談支援	9	6	21
保育所等訪問支援	1	-	1

※「-」は回答なし

問1 貴事業所の活動状況についてお教えてください。

(4)現在、実施していない事業についてお教えてください。

①上記の(2)②の選択肢の中で、事業として必要性を感じているが、現在実施していない事業は何ですか。必要性を感じている順に下記の欄に番号を記入してください。

(それぞれ番号を1つ記入)

- ・ 1番目に必要性を感じているが実施していない事業は、「同行援護」が15事業所で最も多く、次いで「グループホーム」14事業所、「生活介護」と「計画相談支援」がともに12事業所で続いている。
- ・ 2番目に必要性を感じているが実施していない事業は、「行動援護」が20事業所で最も多く、次いで「グループホーム」13事業所、「重度訪問介護」10事業所が続いている。
- ・ 3番目に必要性を感じているが実施していない事業は、「生活介護」が14事業所で最も多く、次いで「移動支援」11事業所、「グループホーム」10事業所が続いている。

図表 必要性を感じているが、現在実施していない事業（全体）

(上段：事業名 下段：回答事業所数)

	最も必要性を感じているが 実施していない事業	2番目に必要性を感じているが 実施していない事業	3番目に必要性を感じているが 実施していない事業
第1位	同行援護 15	行動援護 20	生活介護 14
第2位	グループホーム 14	グループホーム 13	移動支援 11
第3位	生活介護 計画相談支援 12	重度訪問介護 10	グループホーム 10

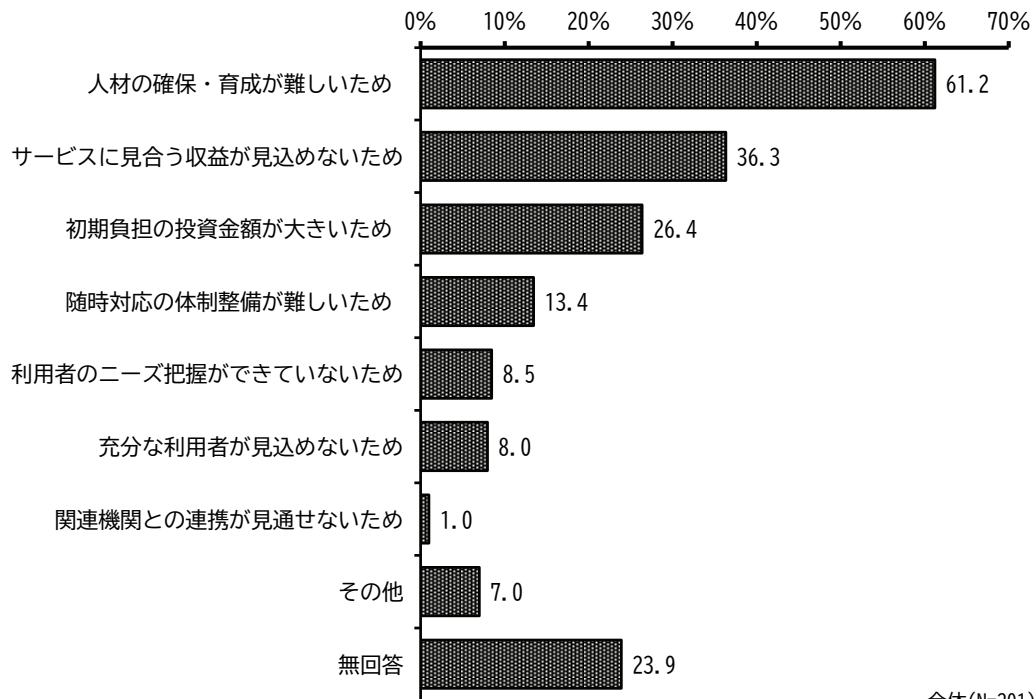
問1 貴事業所の活動状況について教えてください。

(4)現在、実施していない事業について教えてください。

②現在、実施されていない理由として近いものは、次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・「人材の確保・育成が難しいため」(61.2%)が最も多く、次いで「サービスに見合う収益が見込めないため」(36.3%)、「初期負担の投資金額が大きいため」(26.4%)が続いている。

図表 実施されていない理由として近いもの(全体：複数回答)



問2 今後、具体的にどのくらいのサービス提供量を考えていますか。現時点での考えをご記入ください。
 人数は現行人数(問1(3))を基準に記入してください。
 (1)調査対象となっている事業についてご記入ください。

- ・ 今後の提供量の見込みは、以下の通りである。

図表 今後の提供量の見込み(事業別)

事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
居宅介護	525	507	518	525	540
重度訪問介護	49	46	51	55	58
同行援護	52	59	57	55	56
行動援護	-	-	-	-	-
重度障害者等包括支援	-	-	-	-	-
生活介護	320	328	355	328	331
自立訓練(機能訓練)	-	-	-	-	-
自立訓練(生活訓練)	-	-	-	-	-
就労移行支援	83	88	88	88	88
就労継続支援(A型)	14	15	15	15	15
就労継続支援(B型)	463	442	437	409	413
就労定着支援	41	13	15	17	20
療養介護	-	-	-	-	-
短期入所	2	2	2	2	2
自立生活援助	-	-	-	-	-
施設入所支援	32	32	32	32	32
グループホーム	109	110	126	140	149
計画相談支援	661	718	683	713	738
地域移行支援	16	29	41	42	43
地域定着支援	9	15	21	27	33
移動支援	171	142	146	146	153
地域活動支援センター	440	455	470	485	495
日中一時支援	1	1	1	1	1
児童発達支援	165	157	148	143	133
医療型児童発達支援	-	-	-	-	-
訪問型児童発達支援	-	-	-	-	-
福祉型障害児入所支援	-	-	-	-	-
医療型障害児入所支援	-	-	-	-	-
放課後等デイサービス	313	260	265	265	270
障害児相談支援	194	221	197	203	209
保育所等訪問支援	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-

※「-」は回答なし

※各事業所の回答のうち、提供量の増減を記載しているものは、提供量の総数に補正した。

問2 今後、具体的にどのくらいのサービス提供量を考えていますか。現時点での考えをご記入ください。
 人数は現行人数(問1(3))を基準に記入してください。
 (2)法人として回答してください。新規で開始する予定の事業がある場合、ご記入ください。
 実施が決定しているもののほか、検討中の事業も記入ください。

- ・新規で開始する予定の事業の提供量は、以下の通りである。

図表 新規で開始する予定の事業の提供量(事業別)

事業名	(人)				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
居宅介護	-	-	-	-	-
重度訪問介護	-	-	-	-	-
同行援護	-	-	-	-	-
行動援護	-	-	-	-	-
重度障害者等包括支援	-	-	-	-	-
生活介護	80	85	85	90	90
自立訓練(機能訓練)	-	-	-	-	-
自立訓練(生活訓練)	-	-	-	-	-
就労移行支援	-	-	-	-	-
就労継続支援(A型)	-	-	-	-	-
就労継続支援(B型)	40	70	82	94	100
就労定着支援	-	-	-	-	-
療養介護	-	-	-	-	-
短期入所	-	-	-	-	-
自立生活援助	-	-	-	-	-
施設入所支援	-	-	-	-	-
グループホーム	19	37	37	42	47
計画相談支援	-	-	-	-	-
地域移行支援	-	-	-	-	-
地域定着支援	-	-	-	-	-
移動支援	-	-	-	-	-
地域活動支援センター	-	-	-	-	-
日中一時支援	-	-	-	-	-
児童発達支援	-	-	-	-	-
医療型児童発達支援	-	-	-	-	-
訪問型児童発達支援	-	-	-	-	-
福祉型障害児入所支援	-	-	-	-	-
医療型障害児入所支援	-	-	-	-	-
放課後等デイサービス	-	-	-	-	-
障害児相談支援	-	10	15	20	25
保育所等訪問支援	-	-	-	-	-
その他(東京都重症心身障害者通所事業)	-	-	10	-	-

※「-」は回答なし

※同一法人の複数の事業所が回答しているため、重複を除いて集計した。

問3 貴事業所の利用者で、ボランティア団体等が行う見守りや家事等のインフォーマルなサービスを希望されている方はいらっしゃいますか。

インフォーマルなサービスの希望状況やどのようなことを希望されているか、差支えない範囲で自由にお書きください。

- ・利用者で、ボランティア団体等が行う見守りや家事等のインフォーマルなサービスを希望されている方がいるかどうかについて、自由記述形式でたずねた。以下、主なものを掲載する。

【日常生活の支援】

- ・一時的な部屋の片付け、ゴミ出し。(地域活動支援センター)
- ・車でなければ運べないような買物を手伝ってくれる方(ヘルパーでは対応が難しい)。(地域定着支援)
- ・移動支援対象者は室内のことができないので、毎回ではないが必要時室内のこと身体のことができるとうれしい。(移動支援)
- ・障害福祉でできないこと(趣味の手伝い、カーテン洗い、ベランダ掃除、家具の移動、公的なもの以外)の入金、代読、代筆)。(居宅介護、重度訪問介護、同行援護)
- ・単身で生活している障害者の中には必要としている方がいると思われまます。(生活介護)

【移動支援、付き添い、送迎支援】

- ・当事業所は送迎を行っていない為、送迎の部分をフォローしてくれる所があればよい。(放課後等デイサービス)
- ・移動支援では学校送迎が原則認められていないので、インフォーマルサービスがあれば希望される方は多いが、つながっていないのが実態である。(障害児相談支援)

【障害児相談支援】

- ・バス停までの送迎。(生活介護、計画相談支援)
- ・循環バスのバス停までの送迎介助。(生活介護)
- ・通所からの移動、院内介助。(計画相談支援)
- ・医療ケアを必要とする方の付き添い送迎。(障害児相談支援)

【見守り】

- ・ヘルパーのサービスだけでは時間が足りない場合、主に自宅での見守り等。(計画相談支援)
- ・居宅介護においては見守りのサービスがなく、インフォーマルサービスを希望される方は多いが、実際はつながっていないことがほとんど。移動支援についても同様。(計画相談支援)
- ・重心の方に対応した見守り支援。(地域定着支援、計画相談支援、地域移行支援)
- ・ちょっとした見守り。(居宅介護)
- ・災害時の安否確認等。(地域活動支援センター)

【話し相手、交流支援】

- ・見守りや話し相手をご希望の方はいらっしゃいました。当事者同士の集まり。(就労継続支援(B型))
- ・いつでも話し相手になって欲しい(相手も女性を希望) 就労継続支援 B 型作業所に月数回通所しているが、仕事ばかりで話し相手がいない。(計画相談支援)
- ・障害福祉サービスの日中活動先とは違う、市民やボランティア等が集うインフォーマルな交流の場への参加を希望されている方がいる。また、居宅介護とは違い、話し相手として訪問してくれる方。(地域活動支援センター)
- ・居宅介護の対象とならないような家事援助や見守り、とくに話し相手として自宅を訪ねてきてほしいという希望をもっている方は何人もいらっしゃいます。(計画相談支援)

【余暇活動の支援】

- ・事業所が休みの休日に余暇活動を一緒に過ごしてくれる(ヘルパー等)サービスを利用希望されている方がいる。(家庭での長時間の生活が困難な方)(放課後等デイサービス)
- ・余暇活動、生涯学習 平日の事業所終了後や週末に、個別又はグループでの活動や、社会生活に関する、多様なスキルを学ぶ、などの社会参加のサポート(就労継続支援(B型))
- ・宿泊を伴う同行援護サービスに近いサービス。(同行援護)

【家族への支援】

- ・兄弟の幼稚園、保育園など送迎時の障害児の見守り。(保育所等訪問支援、医療型障害児発達支援)
- ・買い物(障害児を連れて出かけにくいので)、障害児の外出(公園などで遊ばせるなど)の手伝い。(保育所等訪問支援、医療型障害児発達支援)
- ・特別支援学校スクールバス停から学童保育までの送迎。(保育所等訪問支援、医療型障害児発達支援)
- ・療育施設までの車での送迎の手伝い(費用負担の少ないもの)(保育所等訪問支援、医療型障害児発達支援)
- ・障害児の下に子ども(きょうだい)が生まれた後、保育園へ入るまでの期間だけでもヘルパーを入れてほしい。(児童発達支援)
- ・送迎、体調不良時のあずかり(親/子)きょうだいあずかり。(児童発達支援)
- ・車を運転できない(母の病気や内服薬により)場合の移送サービス、あるいは支援。(児童発達支援)
- ・放課後等デイサービスの送りの時間から、母が帰宅するまでの1~2時間の預け先がなくお困りのかたがいらっしゃいます。(放課後等デイサービス)
- ・家庭の事情が年々高齢化していますので、サービスがあれば希望されると思います。(計画相談支援)
- ・自宅とスクールバス停までの送迎(小学校)。(障害児相談支援)
- ・兄弟児の小・幼への送迎時の障害児在宅での見守り。(障害児相談支援)
- ・通所、短期入所先へ送迎児の保護者の補助(荷物が多い車の運転できない)。(障害児相談支援)

【短期入所】

- ・ 短期入所、移動支援。(放課後等デイサービス、児童発達支援)

【その他】

- ・ 公的サービスでは出来ない事や家事(共有部分)、学校の送迎。(居宅介護、移動支援、同行援護)
- ・ 障害特性上、客観的にインフォーマルなサービスは必要で充実すべきと考えるが、利用者から希望が出ることは無い。(グループホーム)
- ・ 基本は制度に則ったサービスを希望していると思います。(生活介護)
- ・ 該当者なし。(重度の自閉症者が多く在籍しているため、環境変化(支援者の出入り)に対応できないため)(グループホーム)
- ・ 利用者の大半が重度の知的障害がある方であるため、一定の専門的な知識が必要な状況です。ヘルパーやショートステイなどの利用希望はたくさんありますが、インフォーマルなサービスという内容では不十分と思われる。(生活介護)
- ・ 今提供されているインフォーマルなサービスを把握できていないため、利用者の方にニーズがあったとしても、そのニーズを拾いあげることができておりません。何か支援者が学ぶ機会を頂けると、こちらもそのニーズを拾って、つないでいくことができると思います。(地域移行支援)

(2) 今後の事業運営について

問4 お差支えなければ事業所、法人それぞれお答えください。

昨年度の事業の採算はいかがでしたか。

(1)事業所(1つに○) (2)法人(1つに○)

- ・事業所(201事業所)は「黒字」60事業所(29.9%)、「赤字」82事業所(40.7%)、「損益はない」38事業所(18.9%)である。

図表 昨年度の事業の採算(事業所)

(上段:実数 下段:%)

	事業所					
	事業所数	黒字	赤字	損益はない	その他	無回答
全体	201	60	82	38	4	17
	100.0	29.9	40.7	18.9	2.0	8.5
事業別						
居宅介護	29	11	8	9	0	1
	100.0	38.0	27.6	31.0	0.0	3.4
重度訪問介護	25	9	9	5	0	2
	100.0	36.0	36.0	20.0	0.0	8.0
同行援護	9	3	3	3	0	0
	100.0	33.4	33.3	33.3	0.0	0.0
行動援護	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度障害者等包括支援	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	10	5	4	0	1	0
	100.0	50.0	40.0	0.0	10.0	0.0
自立訓練(機能訓練)	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	5	1	2	0	0	2
	100.0	20.0	40.0	0.0	0.0	40.0
就労継続支援(A型)	2	0	1	0	0	1
	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
就労継続支援(B型)	16	6	7	2	0	1
	100.0	37.5	43.7	12.5	0.0	6.3
就労定着支援	3	1	0	0	1	1
	100.0	33.4	0.0	0.0	33.3	33.3
療養介護	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所	2	1	1	0	0	0
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
自立生活援助	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
施設入所支援	1	0	1	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	13	7	3	3	0	0
	100.0	53.8	23.1	23.1	0.0	0.0
計画相談支援	15	0	13	2	0	0
	100.0	0.0	86.7	13.3	0.0	0.0
地域移行支援	5	0	4	1	0	0
	100.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
地域定着支援	6	0	5	1	0	0
	100.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
移動支援	18	5	6	6	0	1
	100.0	27.8	33.3	33.3	0.0	5.6
地域活動支援センター	5	0	3	1	0	1
	100.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0
日中一時支援	1	1	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童発達支援	8	5	1	0	0	2
	100.0	62.5	12.5	0.0	0.0	25.0
医療型児童発達支援	1	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	17	4	5	3	2	3
	100.0	23.5	29.5	17.6	11.8	17.6
障害児相談支援	9	1	6	2	0	0
	100.0	11.1	66.7	22.2	0.0	0.0
保育所等訪問支援	1	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
その他	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

第2部 調査結果の概要

- ・法人（95 法人）は「黒字」29 法人(30.5%)、「赤字」37 法人(38.9%)、「損益はない」20 法人(21.1%)である。

図表 昨年度の事業の採算（法人）

（上段：実数 下段：％）

		法人					
		法人数	黒字	赤字	損益はない	その他	無回答
全体		95	29	37	20	1	8
		100.0	30.5	38.9	21.1	1.1	8.4
事業別	居宅介護	28	9	9	9	0	1
		100.0	32.1	32.1	32.1	0.0	3.6
	重度訪問介護	23	5	10	6	0	2
		100.0	21.7	43.5	26.1	0.0	8.7
	同行援護	8	3	4	1	0	0
		100.0	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0
	行動援護	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	重度障害者等包括支援	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活介護	9	3	5	1	0	0
		100.0	33.3	55.6	11.1	0.0	0.0
	自立訓練（機能訓練）	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自立訓練（生活訓練）	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就労移行支援	5	3	1	0	0	1
		100.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	就労継続支援（A型）	2	1	1	0	0	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	就労継続支援（B型）	15	3	10	0	0	2
		100.0	20.0	66.7	0.0	0.0	13.3
	就労定着支援	3	1	1	0	0	1
		100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
	療養介護	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	短期入所	2	0	1	0	0	1
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	自立生活援助	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	施設入所支援	1	0	1	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
グループホーム	13	5	4	3	0	1	
	100.0	38.5	30.8	23.1	0.0	7.7	
計画相談支援	15	4	5	5	0	1	
	100.0	26.7	33.3	33.3	0.0	6.7	
地域移行支援	5	0	2	3	0	0	
	100.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
地域定着支援	5	0	2	3	0	0	
	100.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
移動支援	18	5	7	5	0	1	
	100.0	27.8	38.9	27.8	0.0	5.6	
地域活動支援センター	5	1	1	1	0	2	
	100.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	
日中一時支援	1	0	1	0	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
児童発達支援	7	3	2	0	0	2	
	100.0	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	
医療型児童発達支援	1	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
福祉型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
医療型障害児入所支援	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
放課後等デイサービス	11	1	6	1	1	2	
	100.0	9.1	54.5	9.1	9.1	18.2	
障害児相談支援	9	3	2	2	0	2	
	100.0	33.3	22.2	22.2	0.0	22.2	
保育所等訪問支援	1	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
その他	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

※全体は、同一の法人が複数の事業を実施している場合は、重複を除いて集計した。

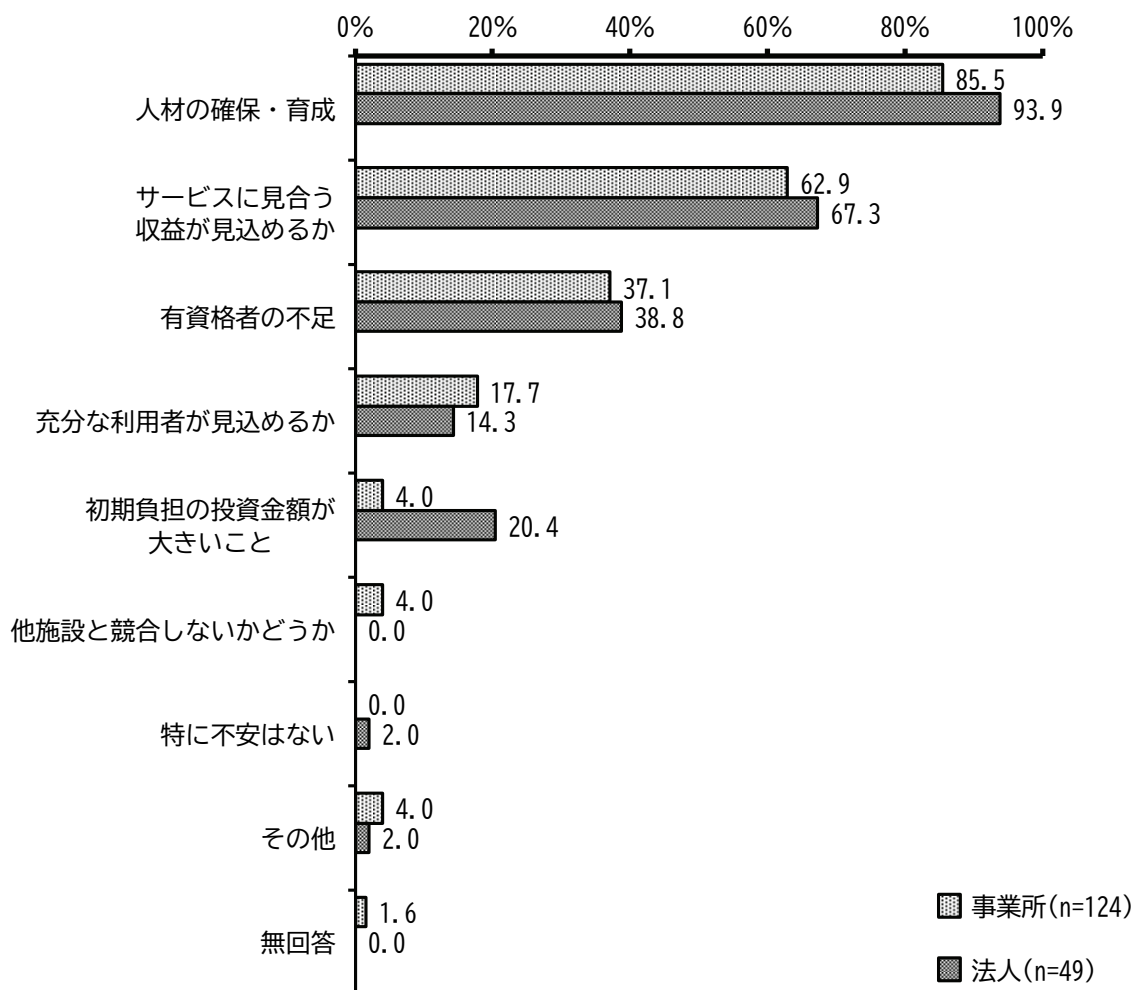
※事業別は、同一法人が同種の事業を複数の事業所で実施している場合は、重複を除いて集計した。

問5 事業所または法人としてご回答ください。

運営上の不安は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・事業所は「人材の確保・育成」(85.5%)が最も多く、次いで「サービスに見合う収益が見込めるか」(62.9%)、「有資格者の不足」(37.1%)が続いている。
- ・法人は「人材の確保・育成」(93.9%)が最も多く、次いで「サービスに見合う収益が見込めるか」(67.3%)、「有資格者の不足」(38.8%)が続いている。

図表 運営上の不安(事業所・法人別:複数回答)

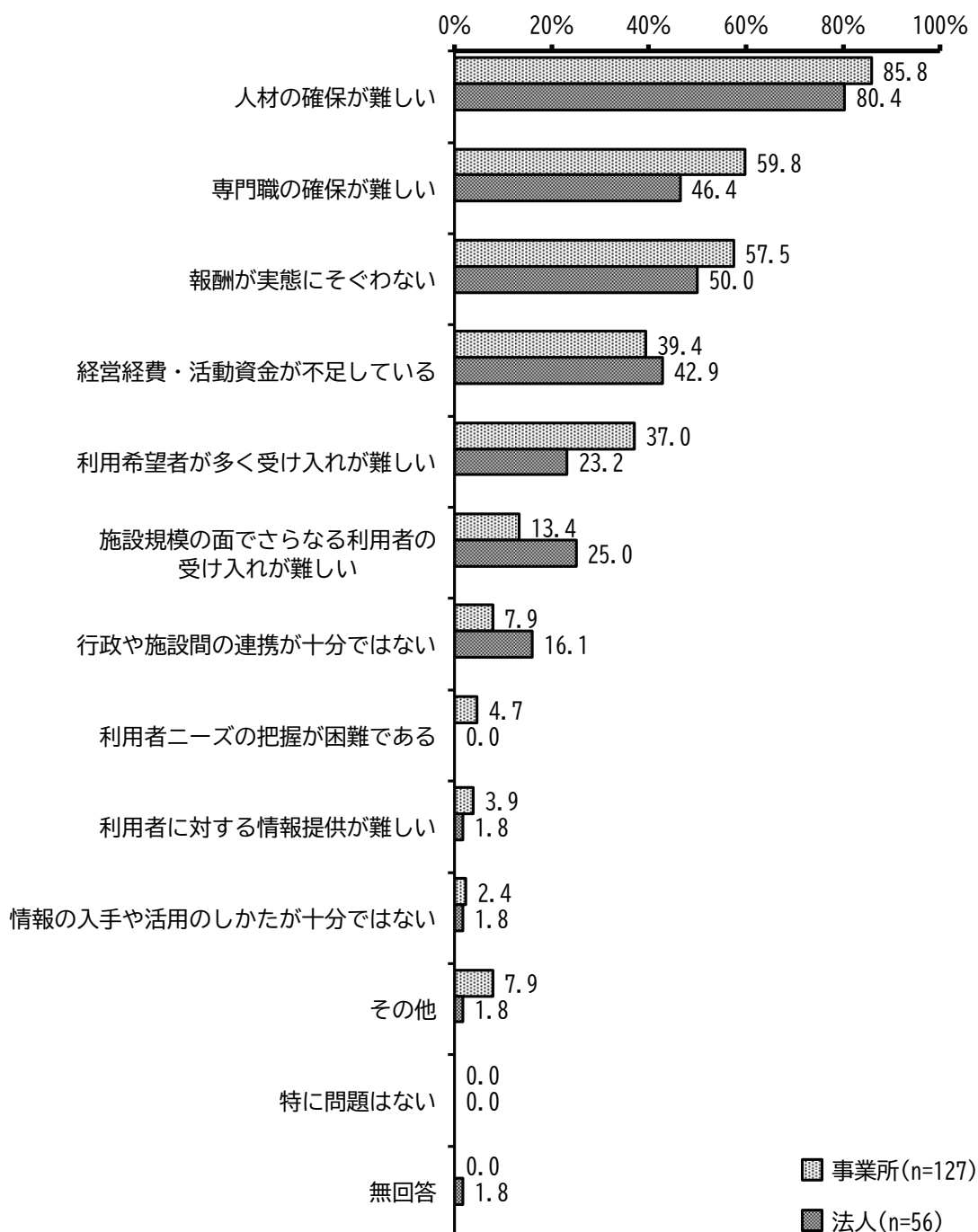


問6 事業所または法人としてご回答ください。

サービスを実施するうえで問題があると考えているのは、どのようなことですか。(いくつでも○)

- ・ 事業所は「人材の確保が難しい」(85.8%)が最も多く、次いで「専門職の確保が難しい」(59.8%)、「報酬が実態にそぐわない」(57.5%)が続いている。
- ・ 法人は「人材の確保が難しい」(80.4%)が最も多く、次いで「報酬が実態にそぐわない」(50.0%)、「専門職の確保が難しい」(46.4%)が続いている。

図表 サービスを実施するうえでの問題（事業所・法人別：複数回答）

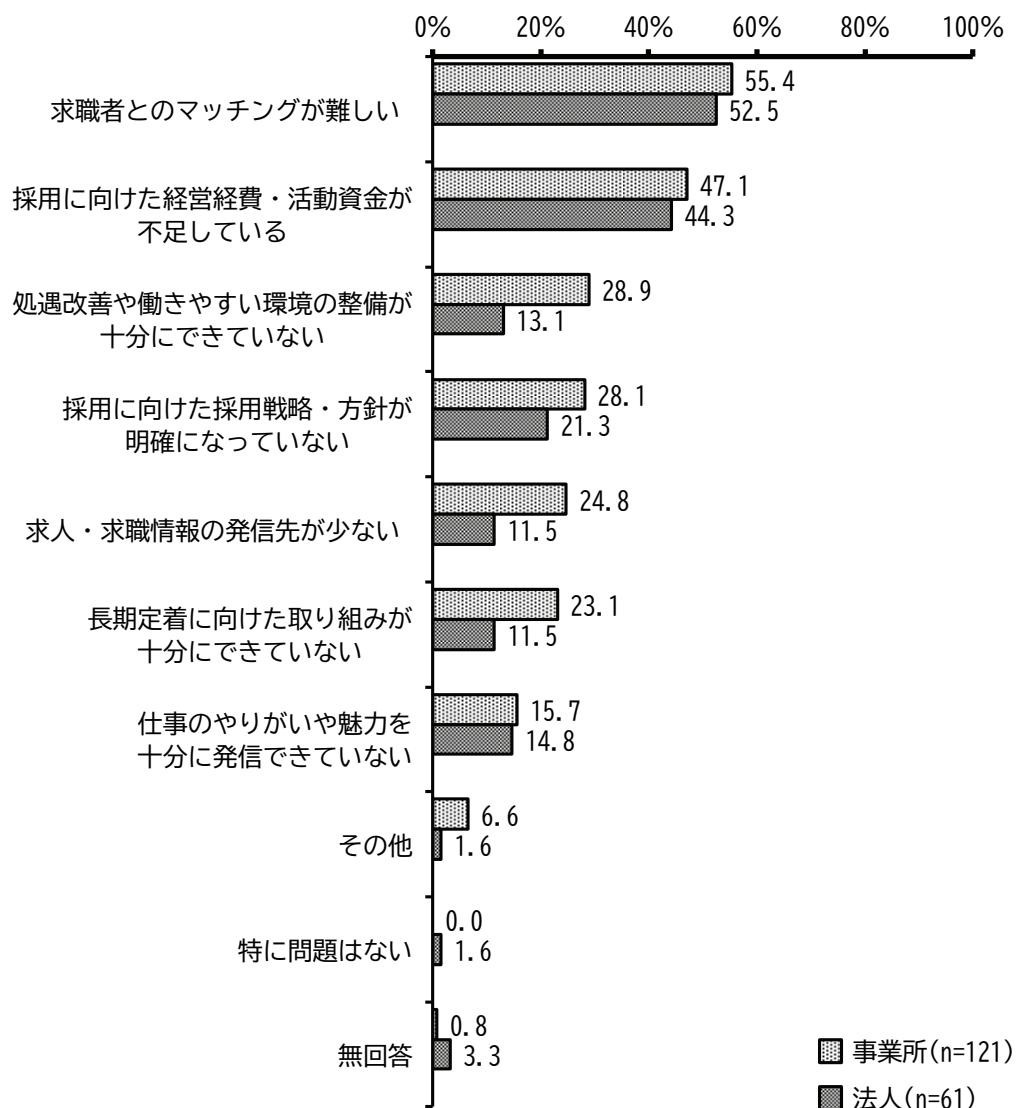


問7 事業所または法人としてご回答ください。

人材確保に向けての課題は、どのようなことですか。(いくつでも○)

- ・ 事業所は「求職者とのマッチングが難しい」(55.4%)が最も多く、次いで「採用に向けた経営経費・活動資金が不足している」(47.1%)、「処遇改善や働きやすい環境の整備が十分にできていない」(28.9%)が続いている。
- ・ 法人は「求職者とのマッチングが難しい」(52.5%)が最も多く、次いで「採用に向けた経営経費・活動資金が不足している」(44.3%)、「採用に向けた採用戦略・方針が明確になっていない」(21.3%)が続いている。

図表 人材確保に向けての課題（事業所・法人別：複数回答）



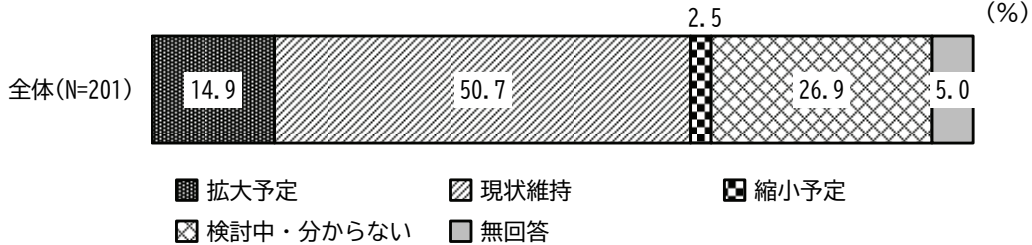
問8 対象となっている事業についてお答えください。

貴事業所では、今後5年のうちに対象となっている事業の事業規模を拡大する予定はありますか。

(1つに○)

- ・「拡大予定」14.9%、「現状維持」50.7%、「縮小予定」2.5%、「検討中・分からない」26.9%となっている。

図表 今後5年間の事業規模拡大予定（全体）



図表 今後5年間の事業規模拡大予定（全体、事業別）

	(上段：事業所数 下段：%)		拡大予定	現状維持	縮小予定	検討中・ 分からない	無回答
	事業所数	%					
全体	201	100.0	30 (14.9)	102 (50.7)	5 (2.5)	54 (26.9)	10 (5.0)
居宅介護	29	100.0	3 (10.3)	19 (65.6)	1 (3.4)	6 (20.7)	0 (0.0)
重度訪問介護	25	100.0	1 (4.0)	17 (68.0)	1 (4.0)	4 (16.0)	2 (8.0)
同行援護	9	100.0	0 (0.0)	7 (77.8)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)
行動援護	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
重度障害者等包括支援	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
生活介護	10	100.0	3 (30.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	1 (10.0)
自立訓練（機能訓練）	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
自立訓練（生活訓練）	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
就労移行支援	5	100.0	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)
就労継続支援（A型）	2	100.0	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)
就労継続支援（B型）	16	100.0	5 (31.3)	8 (49.9)	0 (0.0)	3 (18.8)	0 (0.0)
就労定着支援	3	100.0	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)
療養介護	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
短期入所	2	100.0	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)
自立生活援助	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
施設入所支援	1	100.0	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
グループホーム	13	100.0	6 (46.1)	3 (23.1)	0 (0.0)	4 (30.8)	0 (0.0)
計画相談支援	15	100.0	2 (13.3)	6 (40.0)	1 (6.7)	6 (40.0)	0 (0.0)
地域移行支援	5	100.0	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
地域定着支援	6	100.0	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	3 (50.0)	0 (0.0)
移動支援	18	100.0	1 (5.6)	13 (72.1)	0 (0.0)	3 (16.7)	1 (5.6)
地域活動支援センター	5	100.0	0 (0.0)	4 (80.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)
日中一時支援	1	100.0	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
児童発達支援	8	100.0	2 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (75.0)	0 (0.0)
医療型児童発達支援	1	100.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
訪問型児童発達支援	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
福祉型障害児入所支援	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
医療型障害児入所支援	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
放課後等デイサービス	17	100.0	1 (5.9)	6 (35.3)	0 (0.0)	9 (52.9)	1 (5.9)
障害児相談支援	9	100.0	0 (0.0)	6 (66.7)	1 (11.1)	2 (22.2)	0 (0.0)
保育所等訪問支援	1	100.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
その他	0	0.0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

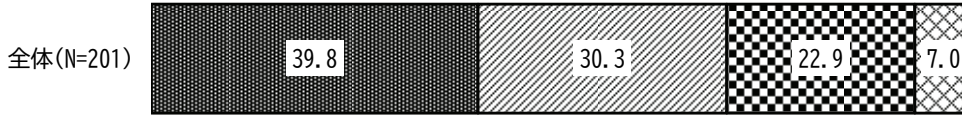
問9 対象となっている事業についてお答えください。

今後5年間で府中市の利用者をさらに受け入れる余裕がありますか。(1つに○)

- ・「ある」は39.8%、「ない」は30.3%である。

図表 今後5年間の利用者受け入れの余裕(全体)

(%)



■ ある ▨ ない ▩ その他 ▪ 無回答

図表 今後5年間の利用者受け入れ余裕(全体、事業別)

(上段：事業所数、下段：%)

	ある	ない	その他	無回答	
全体	201 100.0	80 39.8	61 30.3	46 22.9	14 7.0
居宅介護	29 100.0	9 31.0	13 44.9	6 20.7	1 3.4
重度訪問介護	25 100.0	4 16.0	16 64.0	2 8.0	3 12.0
同行援護	9 100.0	5 55.6	3 33.3	1 11.1	0 0.0
行動援護	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
重度障害者等包括支援	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
生活介護	10 100.0	6 60.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0
自立訓練(機能訓練)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
自立訓練(生活訓練)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
就労移行支援	5 100.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
就労継続支援(A型)	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
就労継続支援(B型)	16 100.0	12 75.0	0 0.0	4 25.0	0 0.0
就労定着支援	3 100.0	1 33.4	1 33.3	0 0.0	1 33.3
療養介護	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
短期入所	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
自立生活援助	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設入所支援	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
グループホーム	13 100.0	6 46.2	0 0.0	7 53.8	0 0.0
計画相談支援	15 100.0	8 53.3	4 26.7	3 20.0	0 0.0
地域移行支援	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
地域定着支援	6 100.0	4 66.7	0 0.0	2 33.3	0 0.0
移動支援	18 100.0	6 33.3	8 44.4	3 16.7	1 5.6
地域活動支援センター	5 100.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0
日中一時支援	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
児童発達支援	8 100.0	2 25.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5
医療型児童発達支援	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
訪問型児童発達支援	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
福祉型障害児入所支援	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医療型障害児入所支援	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
放課後等デイサービス	17 100.0	4 23.5	4 23.5	6 35.4	3 17.6
障害児相談支援	9 100.0	5 55.6	3 33.3	1 11.1	0 0.0
保育所等訪問支援	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

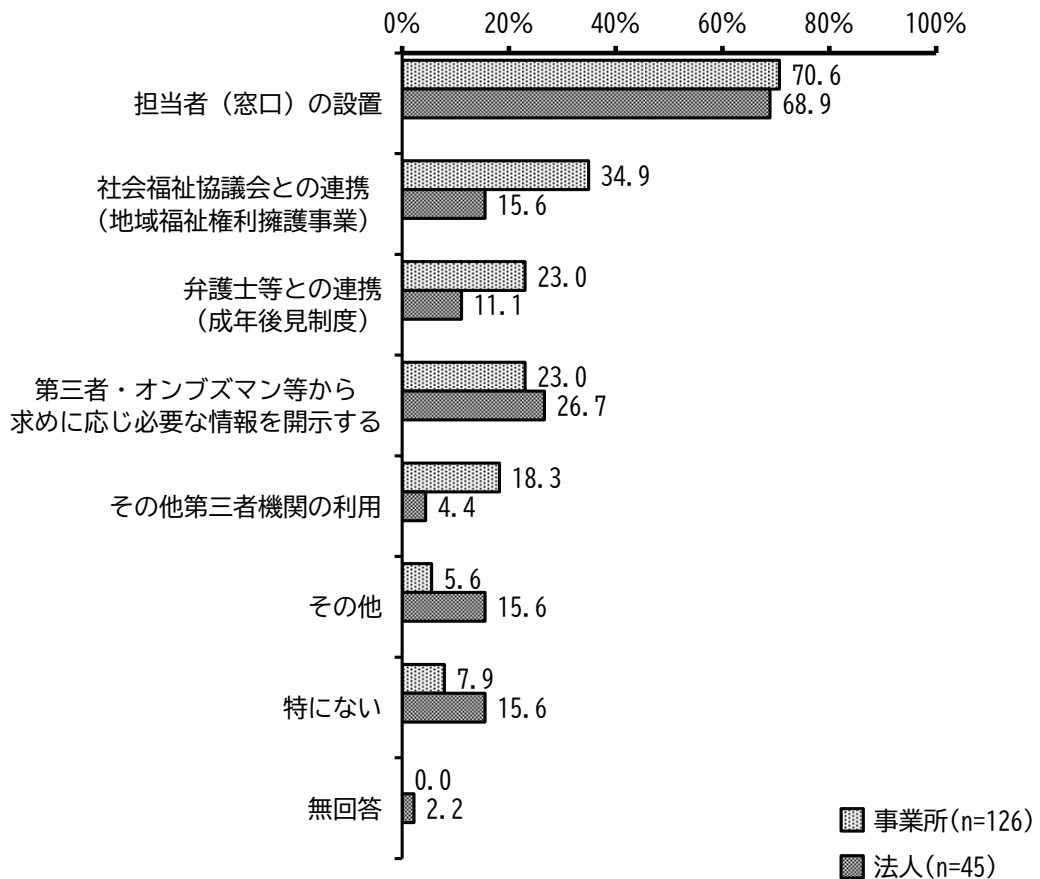
(3) 利用者本位のしくみについて

問10 事業所または法人としてご回答ください。

利用者の権利擁護について実施していることはありますか。(いくつでも○)

- ・ 事業所は「担当者(窓口)の設置」(70.6%)が最も多く、次いで「社会福祉協議会との連携(地域福祉権利擁護事業)」(34.9%)、「弁護士等との連携(成年後見制度)」(23.0%)と「第三者・オンブズマン等から求めに応じ必要な情報を開示する」(23.0%)が同率で続いている。
- ・ 法人は「担当者(窓口)の設置」(68.9%)が最も多く、次いで「第三者・オンブズマン等から求めに応じ必要な情報を開示する」(26.7%)、「社会福祉協議会との連携(地域福祉権利擁護事業)」(15.6%)と「その他」(15.6%)が同率で続いている。「その他」の具体的な内容は、職員アンケートの実施、相談・通報・届出先の掲示、職員研修などがあがっている。

図表 権利擁護のために取り組んでいること(事業所・法人別：複数回答)

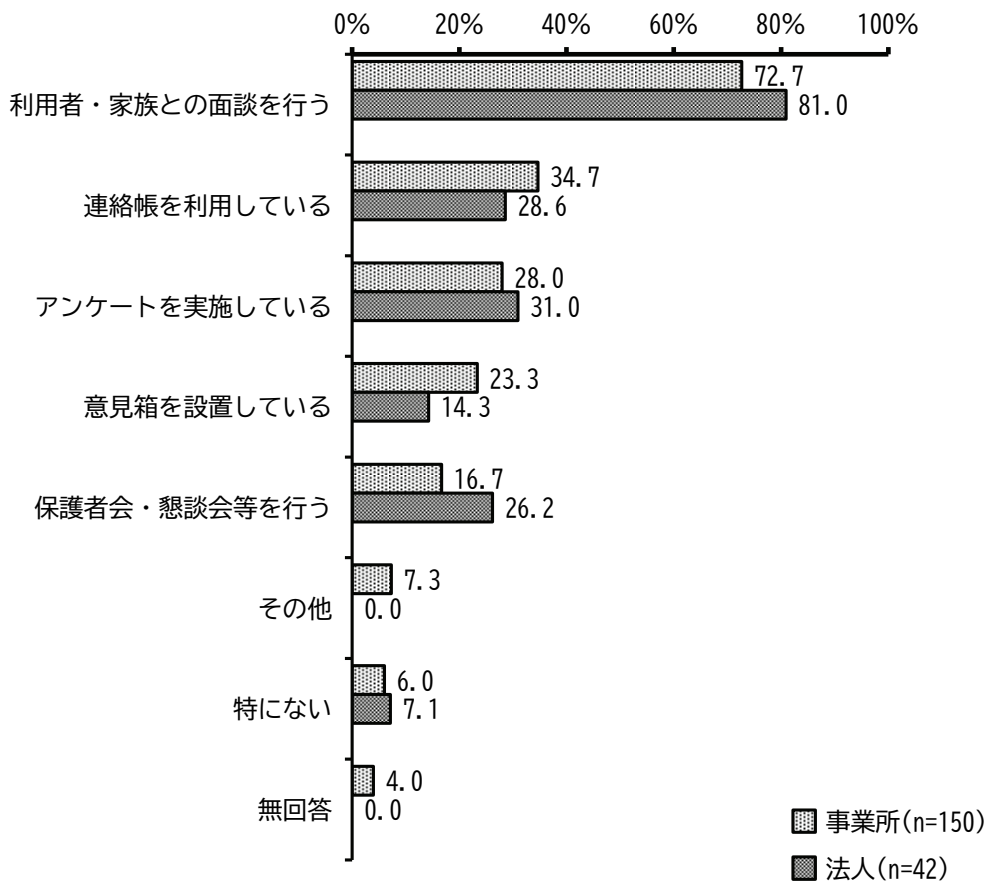


問11 事業所または法人としてご回答ください。

貴施設では苦情・意見等を取り入れるため、どのような工夫をしていますか。(いくつでも○)

- ・ 事業所は「利用者・家族との面談を行う」(72.7%)が最も多く、次いで「連絡帳を利用している」(34.7%)、「アンケートを実施している」(28.0%)が続いている。
- ・ 法人は「利用者・家族との面談を行う」(81.0%)が最も多く、次いで「アンケートを実施している」(31.0%)、「連絡帳を利用している」(28.6%)が続いている。

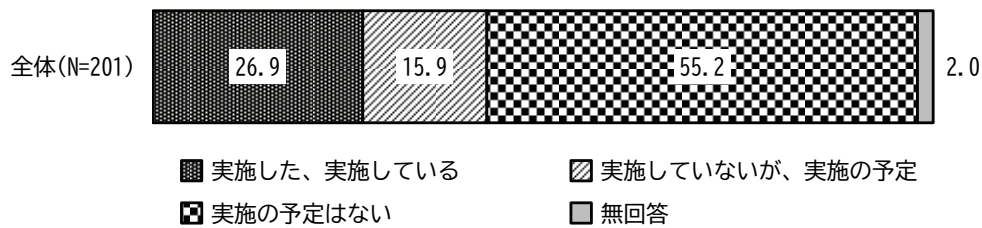
図表 苦情・意見等を取り入れるため、工夫していること(事業所・法人別：複数回答)



問 12 事業所として回答してください。サービスの質の向上を図るために、第三者評価が重要になっています。第三者評価を実施しましたか。(1つに○)

- ・「実施の予定はない」(55.2%)が最も多く、次いで「実施した、実施している」(26.9%)、「実施していないが、実施の予定」(15.9%)が続いている。
- ・「実施した、実施している」(26.9%)と「実施していないが、実施の予定」(15.9%)をあわせたく実施>は42.8%である。

図表 第三者評価の実施の有無（全体）



問 12-1 問 12 で「3.実施の予定はない」と答えた事業所におたずねします。その理由はつぎのうちどれですか。(1つに○)

- ・「費用がかかりすぎる」(34.2%)、「メリットが分からない」(22.5%)となっている。
- ・「その他」(40.6%)の理由として、会社として実施していない、利用者が少ない、設立後間もない、利用者に直接アンケートを実施している、などがあがっている。

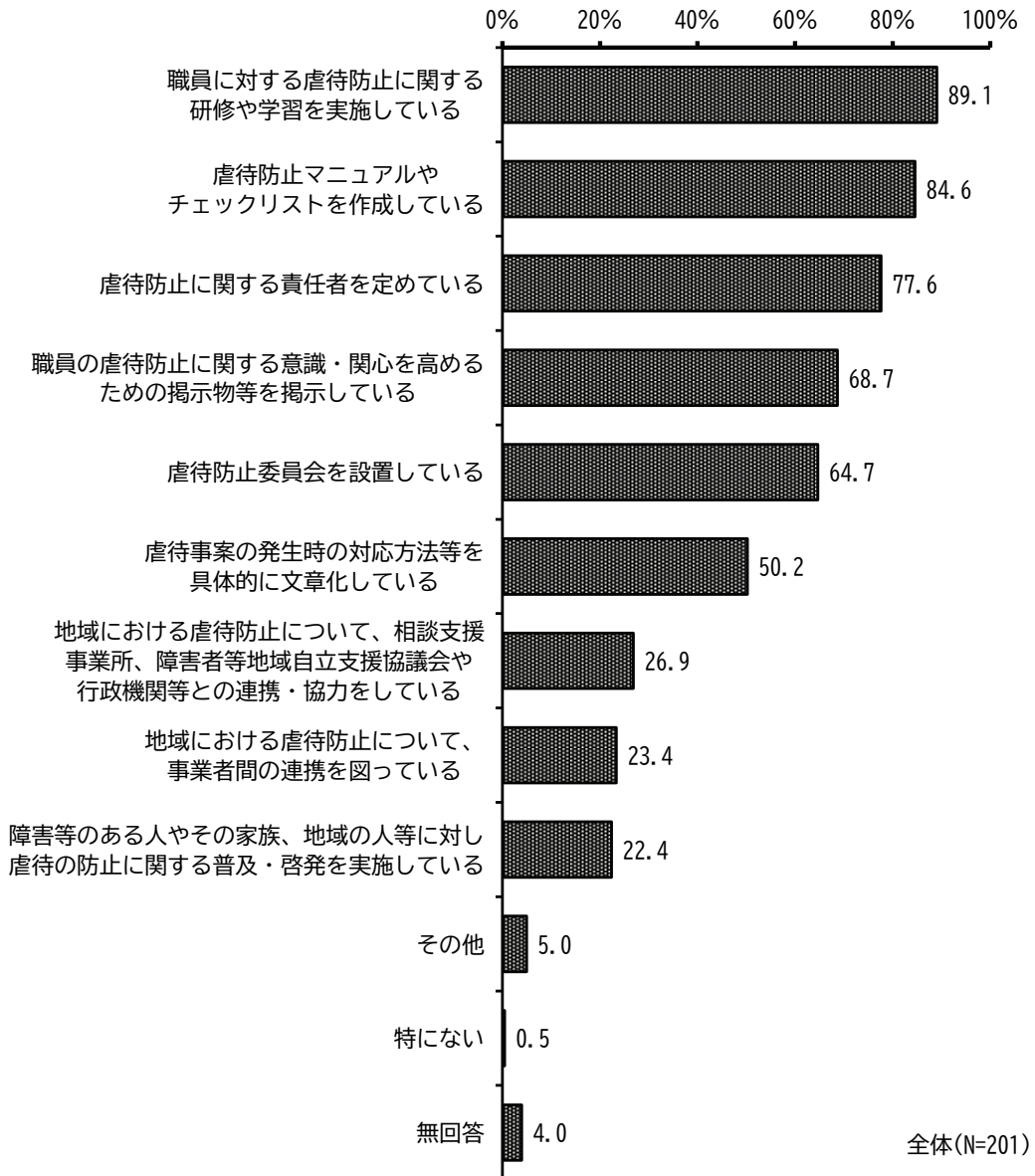
図表 実施の予定はない理由（全体）



問 13 事業所として回答してください。本市においても福祉施設職員や家族による虐待の事例が報告されています。貴事業所において、障害のある人の虐待防止に向けて取り組んでいることを選んでください。(いくつでも○)

- ・「職員に対する虐待防止に関する研修や学習を実施している」(89.1%)が最も多く、次いで「虐待防止マニュアルやチェックリストを作成している」(84.6%)、「虐待防止に関する責任者を定めている」(77.6%)が続いている。

図表 障害者の虐待防止に向けて取り組んでいること (全体：複数回答)



問 14 事業所として回答してください。貴事業所がサービス提供するうえで、実際に虐待等の場面に遭遇したなどの経験はありますか。(1つに○)

- ・「経験がある」は18.4%、「経験はない」は79.6%である。

図表 サービスを提供するうえで、虐待等の場面に遭遇した経験（全体）



問 14-1 問 14 で「1.経験がある」と答えた事業所におたずねします。

差支えなければお答えください。遭遇した事例の内容とその際にどのような対応をされたかお書きください。

- ・ 遭遇した虐待等の事例と対応について、自由記述形式でたずねた。虐待の事例等としては、家族からの虐待、経済的搾取、支援者からの虐待などに関する記述があった。
- ・ 家族からの虐待の場合、市への報告、虐待防止センターへの通報、他機関との連携などにより対応している。経済的搾取の場合、虐待通報、権利擁護センターとも連携し、後見人をつけて対応している。
- ・ 支援者からの虐待の場合、マニュアルに従い通報、第三者を含む委員会による調査の実施、再発防止に向けた改善策の検討・実施などにより対応している。

(4) 地域共生社会づくりに向けた協力意向について

問 15 事業所または法人としてご回答ください。

平成 28 年度に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」にて、支えて側と受け手側に分かれるのではなく、だれもが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。

地域共生社会の実現に向けて、府中市民にもっと意識を持ってもらうようにするには、貴事業所または法人としてどのようなことができますか。

- ・ 地域共生社会の実現に向けて、府中市民にもっと意識を持ってもらうようにするには、貴事業所または法人としてどのようなことができるか、自由記述形式でたずねた。地域共生社会の実現に向けて、事業所ができることとして、講演会、研修会、出前講座などに関すること、情報提供に関すること、交流、場の提供に関すること、地域との関係づくりに関すること、学校との連携に関すること、災害時の支援に関すること、雇用促進に関すること、ボランティアの受け入れに関することなどの記述があった。以下、主なものを掲載する。

(1)講演会、研修会、出前講座などに関すること

- ・ 地域共生社会実現のための講演会。定期的な交流集会。(居宅介護、重度訪問介護、移動支援)
- ・ 市民に対して障害者理解を促すための市民公開講座等の開催。(地域活動支援センター、障害児相談支援)
- ・ 障害に対する理解を深める為等の勉強会の実施等。啓発活動への協力。(計画相談支援、地域活動支援センター、障害児相談支援)
- ・ 「全ての人に役割がある。」という理念に基づき、当法人は事業運営にあたっております。障害は、決して他人事ではなく、ほぼ全員の方のすぐ側に存在するものであること。また、その障害を全員で共有できる社会に向かっていくことこそ、共生社会の実現に向けての大切なことだと信じます。このことを広く一般市民の方々にも分かりやすく説明できるよう、市民向けの講演や研修会を行っています。(グループホーム)
- ・ 小学校などでの出前講座。(地域定着支援、地域移行支援)
- ・ 利用者と外食、外出をする際の周りへの気くばりの声かけ、ゆずってもらって当たり前の考えではなく手助けや気くばりをしてもらった時の感謝の気持ちを伝える事。偏見として見られる事ではなく、お互いに気持ち良く声かけや会話や意志の疎通が出来るような環境を作って行く事を発信して行けたらと思います。(重度訪問介護、移動支援)
- ・ 文化祭を開催して地域の人々の理解を得る。(生活介護)
- ・ 普及啓発活動への協力やサロンへの場所提供など。(就労継続支援(A型)、就労継続支援(B型))
- ・ さまざまな行事に参加させていただき、作業所の存在等を知っていただく。(就労継続支援(B型))
- ・ 主に精神障害者の方に対する市民への理解を深めるための普及啓発活動に協力することができる。(計画相談支援、地域移行支援)
- ・ 精神障害者のある方が地域で当たり前暮らしていくために必要な配慮やかかわりについて、市民への理解を深めるための普及啓発活動に協力することができる。(地域定着支援、地域活動支援センター)

- ・発達障害に関する啓発活動。(計画相談支援、障害児相談支援、児童発達支援、放課後等デイサービス)
- ・医療を必要としている在宅の医療的ケア児が多い地域と知ってもらえるよう周知を図れる場を設けて実施。(障害児相談支援)
- ・車イスを押してバスや電車に乗ること。映画館や、コンサート、図書館等に外出すること。(児童発達支援)

(2)情報提供に関すること

- ・安定したサービスの提供・ヘルパーの育成・訪問介護についてのプロモーション活動。(居宅介護)
- ・当法人は、障害児の支援～就労、生活の支援までを提供しています。各事業所の活動をホームページ等で発信し、多くの方々に興味・関心を持ってもらう。(就労継続支援(B型))
- ・各事業所の活動をHPなどで発信し、多くの方々に興味・関心を持ってもらう。(グループホーム)
- ・機関紙などの発行。(生活介護)
- ・普及啓発のためのポスターや冊子があれば、事業所内に提示する。(就労継続支援(B型)、児童発達支援)
- ・チラシ、パンフレットがあれば配布可能。(計画相談支援、地域定着支援)
- ・関わる者に対して我々の役割を伝えること。また今の地域現状を周知していくこと。(計画相談支援)
- ・様々な相談を受け、活躍できる場を紹介する。(地域移行支援、地域定着支援、障害児相談支援)
- ・地域に密着し、子どもたちの活動を外に発信、行動する事で、府中市民の方々に理解と認知をして頂く。(児童発達支援、放課後等デイサービス)
- ・放課後等デイサービスの事業が働きたい保護者にとっていかに貴重なものであるかということの理解を広めていく。(放課後等デイサービス)

(3)交流、場の提供に関すること

- ・地域交流によって健常者の方にも障害者と接してもらい理解を深めてもらう。(放課後等デイサービス)
- ・もっと地域の人たちに自分から発信して行く。(放課後等デイサービス)
- ・多世代交流の場カフェを運営している。事務所も含み居場所づくりその活用。(居宅介護、同行援護、移動支援)
- ・喫茶店の運営、地域での販売イベント等に参加し、交流をもっている。(就労継続支援(B型))
- ・喫茶店・2階食堂を利用し、地域交流をはかる。(計画相談支援)
- ・地域の方と会話し、障害を持った方の行動や、病気による症状などをお伝えしていき、理解をしてもらう。(居宅介護、重度訪問介護、移動支援)
- ・コミュニケーションの大切さだと思う。地域のお祭から始まり、市のイベント等、たくさんの事に参加していく事が大事。(居宅介護)

- ・自分という存在を認めてもらえる環境作りが必要と思います。イベント等に参加など。(居宅介護、移動支援)
- ・障害・高齢・事業者・市民が、交流できる機会、イベントの企画を行う。現在、契約している、介護・障害の利用者から始め、徐々に、法人外の利用者、事業者も入れていきたい。(居宅介護)
- ・去年から、夏まつりを行っています。地域の公園を借りて、利用者の家族、地域の方も自由に参加していただいております。活動として、公園、レストランまつり等、一緒に出かけ、買物にも参加していただいております。これらの活動は継続してまいります。草の根活動として。(放課後等デイサービス)
- ・店舗やイベント出店など地域住民との交流を図っている。(就労定着支援、就労継続支援(B型))

(4)地域との関係づくりに関すること

- ・グループホームにとって地域との友好関係は必須と考えている。今後も地域との関係を深めるための取り組みを検討していく。(グループホーム)
- ・わがまち支えあい協議会等に職員、利用者が参加、協力する程度は出来る(行っている)。(グループホーム、計画相談支援)
- ・地域とのつながりを深め、助け合う関係を作る必要がある。そのためには事業所や障害というものを知ってもらう。(グループホーム)
- ・笑顔で挨拶が出来る様に支援している。時間が掛かると思われるが地域共生社会には一番必要と思われるので、粘り強く支援してゆく。(グループホーム)

(5)学校との連携に関すること

- ・現状、学校側との連携を深める事が第一歩と考えます。特別支援学級は、教員は知識もなかったり、同じ学校内でありながら別の部署のような扱いで、理解をしようとしてくれない方もいる中、講習会等、理解してもらえるように直接はできなくても何かできるように、働きかけたいと考えています。(放課後等デイサービス)
- ・地域の行事などに参加する。(放課後等デイサービス)

(6)災害時の支援に関すること

- ・災害時の福祉避難所としての機能を持つこと。(生活介護)
- ・町の自主防災会に事業所として参加、防災訓練に参加、バザーを通して障害者と地域の住民との交流し、会話が広がり、住民と障害者との壁がなくなりつつある。(就労継続支援(B型))
- ・利用者に地域活動に参加してもらうこと、地域活動(お祭り等)のサービスを受ける側でなく提供する側で活動してもらいたい。(グループホーム)
- ・イベントなどに優先的に参加させて頂き、もっと人々に障害者とふれあえる機会を作ってもらう。例：ラグビーなどのイベント。(グループホーム)
- ・地域住民も参加できるイベントを企画する。(保育所等訪問支援)

(7)雇用促進に関すること

- ・ 障害者雇用の促進などで実際に接して頂くことで理解が深まり、考えるキッカケとなると思うので、就労支援を行う当事業所では、安定した(長く働ける)就職者の輩出が必要と考えています。(就労移行支援)
- ・ 障害をお持ちの方々に一人でも多くの方が「自分らしく生き生きと就業生活が送れるよう」サポートをしていきます。(社会に参画出来るように)その為の生活や就労訓練や就労支援・就労定着支援等を行っていきます。その様子を関係機関の方々へも周知していきます。地域連携のイベントを企画していきます。(就労移行支援、就労継続支援(A型))
- ・ 府中市民の積極的な採用。(居宅介護、重度訪問介護)
- ・ 働き方改革により、高齢者の就労促進をアピール。(居宅介護)
- ・ 関係者、関係機関向けに、就労移行支援または当事業所の取り組みを説明する。(就労移行支援)
- ・ 施設にて働くことを実現している利用者や就労している障害者のことを知ってもらう活動。(就労継続支援(B型))
- ・ 地域の方々に障害を持った人たちが働く作業所がある事をアピールし、お互いに知る機会を作ればと思っています。(就労継続支援(B型))

(8)ボランティアの受け入れに関すること

- ・ ボランティアの受け入れを行い、利用者(障害者の方)の「今」を知ってもらうこと。(グループホーム)
- ・ 地域のボランティアや実習生を積極的に受け入れたたり、活動を通して地域に出る機会を設けることで、地域住民と関わる機会を設け、障害を理解する機会にしてもらう。(生活介護、就労継続支援(B型))

問 16 事業所または法人としてご回答ください。

地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、貴事業所または法人として何か協力できることはありますか。

- ・ 地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、貴事業所または法人として協力できることについて、自由記述形式でたずねた。地域共生社会の実現に向けて、市民に意識をもってもらう取り組みのほかに、協力できることとして、サービスの充実に関すること、人材の育成・確保に関すること、連携の強化に関すること、地域活動への参加に関すること、地域の課題解決に関することなどの記述があった。以下、主なものを掲載する。

(1)サービスの充実に関すること

- ・ 事業の拡大。(居宅介護)
- ・ サービスの提供。(居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援)
- ・ サービスの向上。(児童発達支援)
- ・ 府中市内で、まだ作業所やグループホームが不足しています。当法人で府中市の協力のもと、B型の就労継続支援事業所の新設、10人定員規模のグループホームの新設を考えています。
(グループホーム)

(2)人材の育成・確保に関すること

- ・ 就職説明会への参加、市主催の勉強会への参加。(居宅介護、重度訪問介護)
- ・ 65歳以降の継続雇用・定年延長を行う。(居宅介護、重度訪問介護)
- ・ ボランティアや実習生の受け入れ。(グループホーム)
- ・ 利用者のボランティア活動への参加。(就労移行支援)
- ・ 関係機関、関係者向けにセミナーを開催すること。(就労移行支援)

(3)連携の強化に関すること

- ・ 行政・医療・福祉・教育・企業の場面で連携を強化していきます。障害福祉サービスや障害者雇用・生活困窮者等の取り組み等。(就労移行支援、就労継続支援(A型)、計画相談支援)
- ・ 他機関との連携や市民活動、わがまち支えあい協議会との連携。(計画相談支援)
- ・ まずは福祉団体での共有、顔合わせなどをして徐々に広げていくこと、一つのテーマを持って関係機関を集めて活かしていく。(計画相談支援)
- ・ 福祉、教育、医療、子育て分野の社会資源の連携をはかり、障害分野の取り組みをより広く市民の生活につなげていくこと。(計画相談支援、地域定着支援、地域移行支援、地域活動支援センター)
- ・ 他の関係機関との連携を深め(縦横・連携)支援の狭間ができないよう協力すること。
(児童発達支援、障害児相談支援)

(4)地域活動への参加に関すること

- ・ 事業所として地域活動への協力をしていく。お祭りや自治会などに協力していく。(就労継続支援(A型)、就労継続支援(B型))
- ・ 地域美化活動等への参加など。(就労継続支援(B型))
- ・ 公園清掃、アパート清掃に参加して地域の美化に障害者も、働ける、役に立っていることを誇がもてるようになってきた。働くことで役に立てる自信、1人では参加できないが施設として参加すれば役に立てることを学んできた。(就労継続支援(B型))
- ・ 余裕ができたならば、地域で求められる活動に参加できるかも知れません。(グループホーム)
- ・ 小さな組織ですが、地域に開かれた施設として努力しています。(1)自治会の廃品回収協力、(2)盆踊りの練習参加、本番の参加、(3)グループホームの見学、(4)近隣の方を招いてのパーティー等。(グループホーム)

(5)地域の課題解決に関すること

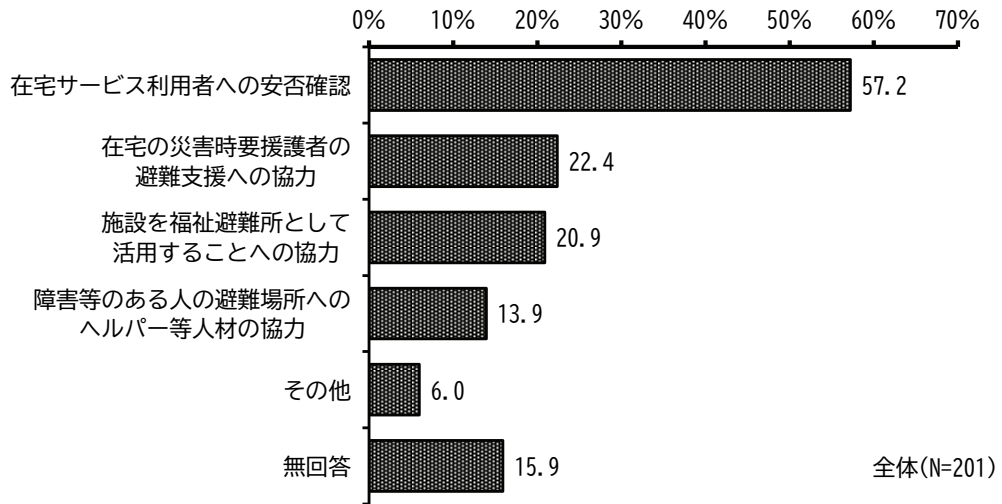
- ・ 地域の方々とお話しをする中で、障害を持った方で、介護が必要な方の早期発見、早期援助へ繋げる。(居宅介護)
- ・ わがまち支えあい協議会の取り組みをとおり、地域の生活課題解決のためのしくみづくりに取り組み、住民全体の福祉のまちづくりを推進していく。(生活介護)
- ・ 地域の方との意見交換。(グループホーム)

問17 事業所として回答してください。災害時に事業所として協力できることはありますか。

(いくつでも○)

- ・「在宅サービス利用者への安否確認」(57.2%)が最も多く、「在宅の災害時要援護者の避難支援への協力」(22.4%)、「施設を福祉避難所として活用することへの協力」(20.9%)が続いている。

図表 災害時に事業所として協力できること（全体：複数回答）



(5) 事業所が特に力を入れていることについて

問18 事業所として回答してください。貴事業所が、最も力を入れている点についてお書きください。

- ・ 事業所が最も力を入れていることについて、自由記述形式でたずねた。以下、実施事業ごとに、主なものを掲載する。

(1) 居宅介護

- ・ 利用者が安心して生活できるようにする。(株式会社)
- ・ 住みなれた自宅での在宅介護を支えるとともに社会参加への支援に力をいれています。(NPO)
- ・ 「障害」のある人たちが地域で尊厳を保ちながら自立した生活を営むために必要なサービスを提供すること。(NPO)
- ・ 利用者のニーズに合ったサービスを提供すること。(株式会社)
- ・ 利用者が自分らしく生活できるようにサービスを提供する。(株式会社)
- ・ 障害・介護、共にニーズ、希望に合うよう、努力している。(有限会社)
- ・ 可能な限り困難ケースを受けている。(社会福祉法人)
- ・ 毎日サービスがある方に対する積極的な受け入れ。(株式会社)
- ・ 公平なサービスを心がけています。また、できる限りニーズに応えるよう努力しているつもりです。(その他)
- ・ 利用者を選ばない。(NPO)
- ・ 人材確保、育成。(株式会社)
- ・ ヘルパー等の人材不足解消と募集で来た資格取得に対する援助を行なっている。(株式会社)
- ・ 研修の実施により質の高いサービスを行う。(－)
- ・ メンバーのスキルアップ。(株式会社)
- ・ 府中市にたすけあいの仕組みを作ろう。お互いに助け、助けられる関係、地域づくり、営利を目的にせずメンバー全員で運営労働を担いそれぞれの力を活かせる働き方。(NPO)
- ・ 他職種の連携強化と地域の見守り。(医療法人)
- ・ 障害者(児)本人のケアと家族の介護負担の軽減を図り悩み相談にもものる。(有限会社)

(2) 重度訪問介護

- ・ 確実なサービスの提供。(社会福祉法人)
- ・ 利用者が安心して生活できるようにする。(株式会社)
- ・ 住みなれた自宅での在宅介護を支えるとともに社会参加への支援に力をいれています。(NPO)
- ・ 障害者(児)本人のケアと家族の介護負担の軽減を図り悩み相談にもものる。(有限会社)
- ・ 「障害」のある人たちが地域で尊厳を保ちながら自立した生活を営むために必要なサービスを提供すること。(－)
- ・ 利用者が自分らしく生活できるようにサービスを提供する。(株式会社)
- ・ 毎日サービスがある方に対する積極的な受け入れ。(株式会社)

- ・利用者を選ばない。(NPO)
- ・利用者の要望を最大限とり入れ、利用者の自立生活を支えるため万全の体制を築き続けること。
(社団法人)
- ・人材確保、育成。(株式会社)
- ・多様な人材の確保。(株式会社)
- ・重度訪問介護についてはサービス体制(人員)がきびしく、増員はなかなかできませんが、移動支援については、増員は今後もニーズに合わせて対応していきます。(株式会社)
- ・研修の実施により質の高いサービスを行う。(有限会社)
- ・ヘルパー等の人材不足、現在でも募集をかけているが、人材が集まらないのが現状でそれに対する経費も大きい、1人の利用者に1人のヘルパーではなくバックアップができるヘルパーを集める事。
(株式会社)
- ・他職種の連携強化と地域の見守り。(医療法人)

(3)同行援護

- ・利用者を選ばない。(NPO)
- ・可能な限り困難ケースを受けている。(社会福祉法人)
- ・住みなれた自宅での在宅介護を支えるとともに社会参加への支援に力を入れています。(NPO)
- ・府中市にたすけあいの仕組みを作ろう。お互いに助け、助けられる関係、地域づくり。営利を目的にせずメンバー全員で運営労働を担いそれぞれの力を活かせる働き方。(NPO)
- ・人材確保・育成。(株式会社)

(4)生活介護

- ・どんなに障害が重くても必要な人を受け入れる。働くことを大切にする。(社会福祉法人)
- ・市内特別支援学校の卒業生の進路先となること。(社会福祉法人)
- ・現在のサービスの質の向上。(社会福祉法人)
- ・重度の知的障害、自閉症の方を対象としている施設として行動障害のある方も含めて支援できる支援者養成に力を入れています。(社会福祉法人)
- ・障害等のある人も役割を持って生き生きと通所できる場を作っていくこと。(社会福祉法人)
- ・障害等のある人があたり前に働き、地域で暮らすことができるよう連携機関と協力しています。医療的ケアを必要とする障害等のある人を支援できるよう、体制を整えています。障害の程度に関わらず、働くことに関わる機会を大切に、社会の中で何らかの役割を担えるよう努力しています。
(社会福祉法人)
- ・身体、知的に障害のある様々な方を対象に、集団活動や社会生活の場を提供することにより、地域での生活が充実したものとなるよう、活動を通じて支援すること。(－)

(5)就労移行支援

- ・利用者増。(株式会社)
- ・就労支援、職場定着支援。(社会福祉法人)
- ・自分らしく働ける社会をつくる企業理念の下、事業活動をしています。利用者にとって必要なスキルをどう身につけてもらうかの、仕組み作りに力を入れています。(株式会社)
- ・地域連携。(ケース会議、情報共有、見学受付)(株式会社)

(6)就労継続支援(A型)

- ・利用者の方が安心して働いて頂ける様に心がけています。(社会福祉法人)
- ・地域連携(ケース会議、情報共有、見学受付)。(株式会社)

(7)就労継続支援(B型)

- ・地域で暮らす障害者が豊かな人生をおくれるようにする事。(社会福祉法人)
- ・働きたい障害者への働く場の提供。(社会福祉法人)
- ・障害等のある人があたり前に働き、くらすことを支えている。(社会福祉法人)
- ・利用者個々が力を発揮して働きながら、地域に開かれた店、場として広く市民の方の憩いの場、交流の場を提供していけるよう努めている。(社会福祉協議会)
- ・通所を希望される方にとって、敷居の低い、通所しやすくなる様な運営に力を入れています。週1日でも通所して頂けたらと考えています。(社会福祉法人)
- ・障害の特性とし、むずかしい仕事や高度の作業はできないが、紙袋の作成、1~10までの数をならべ、知的利用者を増やしタックを付ける、軽作業を中心にケーキ屋の紙袋・ゆうパックの袋など目に見える完成品を造ってもらう。工賃 up。(NPO)
- ・少しでも高い工賃の支給、地域とのかかわりを強く持つこと、通所者の意見を良く聞き運営に反映すること、職員の研修。(社会福祉法人)
- ・本人主体の希望に沿った支援、サービス提供。(社会福祉法人)
- ・自己決定してもらうこと(本人主体で)、こちらが決めず提案はするが考えてもらう。(社会福祉法人)
- ・障害等のある人も役割を持って生き生きと通所できる場を作っていくこと。(社会福祉法人)
- ・一般就労への移行に力を入れています。(社団法人)
- ・利用者の希望を尊重した個別的支援、支援機関連携した支援、人材育成。(NPO)
- ・引きこもり等、通所日数が少ない方の受け入れ。(社会福祉法人)
- ・地域との交流をもち、自治会との連携も密にしている。利用者のみならず家族の生活や生きがいをも支援する。地域の人たちとともに歩み幸せを語り合えるだれもが住みやすい社会を目指す(めざすもの)。(社会福祉法人)
- ・①利用者の尊重、②安定した経営、③地域に開かれた施設運営、④向上心豊かな職員。(社会福祉法人)

(8)就労定着支援

- ・ 就労支援、職場定着支援。(社会福祉法人)
- ・ 本人主体で希望に沿った支援。(社会福祉法人)
- ・ 訓練時代のアセスメントに基づく配慮事項の見直し。(株式会社)

(9)短期入所

- ・ 事業を継続すること。(社会福祉法人)

(10)グループホーム

- ・ 利用者が個人の尊厳を保持しつつ、地域社会において安心して健康な生活が出来るように支援していること。(社会福祉法人)
- ・ 前法人時に事件が発生して以来、地域や関係先との連携がうまくとれていませんでした。グループホームの運営に際し、地域や関係先との連携を再構築するため、法人全体で取り組んでいます。(NPO)
- ・ 共生していく為に必要となる地域生活者との意見交換。(NPO)
- ・ 現行提供サービスの質のさらなる向上。(社会福祉法人)
- ・ セルフアドボカシーに沿った、本人の意思を尊重した上での、より良いサポートができるように、一人一人の能力に応じた丁寧な説明を行い、本人の満足度の高い支援を目指しています。(NPO)
- ・ 利用者への個別支援。(社会福祉法人)
- ・ 利用者が安心して安全に生活できる家庭的な居場所作り。(社団法人)
- ・ 独居を目標に、一人一人のペースに合わせて出来ることを増やしていけるような支援(社団法人)
- ・ どの様な障害をもっている、差別せず、いきいきと地域で生活がおくれる様にする支援。(社会福祉法人)
- ・ 昔、今から24年程前(社・福)の傘下で始めた頃は、生活寮と言っておりました、私共は今も生活寮であると思っています。難しいことではなく、季節行事を忘れず、毎日の暮らし方を基本から学んで頂き、近所の方々ときちんと挨拶が出来る様になって欲しい。(NPO)
- ・ 自宅と大幅に変らない住まいの場となるよう取りくんでいる。(有限会社)
- ・ 実際のマンションタイプの部屋をいくつか借りて運営しており、隣・上階・下階が一般の方なので、通過型グループホーム卒業後のイメージが付きやすい。その上で卒業後のことを考えて、一人一人の目指すところをそれぞれに想定して、支援を行っている。(社団法人)

(11)計画相談支援

- ・ 年齢、障害種別を問わず相談にのる。(有限会社)
- ・ 地域の中で安心して生活ができるようていねいな相談支援。(社会福祉法人)
- ・ 精神障害者の安心できる地域生活のための支援、精神科病院に長期入院している方の退院支援。(社会福祉法人)
- ・ 利用者との関係性の構築と不安の解消を考えています。(株式会社)

- ・ 地域生活自立支援。(株式会社)
- ・ 本人主体で希望に沿った支援がすみやかに行える様にする。(社会福祉法人)
- ・ 利用者本位に立っての支援、こまめな対応力。(株式会社)
- ・ 意思決定と利用者の自己実現への取り組み。(有限会社)
- ・ 自立支援(宿泊体験)。(NPO)
- ・ 多問題家族や困難ケースに対応していくこと。(社会福祉協議会)
- ・ 支援機関同士をつなぐ橋渡しの役割。お子さんの計画相談。(NPO)
- ・ 重度訪問介護利用の利用者への対応。(株式会社)
- ・ 通所先事業所との連携による情報共有。(社会福祉法人)
- ・ IT化。(社団法人)

(12)地域移行支援

- ・ 精神障害者の安心できる地域生活のための支援、精神科病院に長期入院している方の退院支援。(社会福祉法人)
- ・ 自立支援(宿泊体験)。(－)
- ・ 地域の中で安心して生活ができるようていねいな相談支援。(社会福祉法人)
- ・ 病院から退院してこられる方のご支援には力を入れていきたいと思っています。まだ事業を始めたばかりなので、力不足のところも多々ありますが、何かこちらがお役に立てることがあればご相談頂ければと思っています。(社団法人)

(13)地域定着支援

- ・ 自立支援(宿泊体験)。(NPO)
- ・ 精神障害のある方が安心して地域での生活をおくれるための支援、とくに、一人ぐらしをはじめた方、退院からまもない方への見守りとサポート。(社会福祉法人)
- ・ 地域の中で安心して生活ができるようていねいな相談支援。(社会福祉法人)

(14)移動支援

- ・ 障害者(児)本人のケアと家族の介護負担の軽減を図り悩み相談にもものる。(有限会社)
- ・ 住みなれた自宅での在宅介護を支えるとともに社会参加への支援に力を入れています。(NPO)
- ・ 「障害」のある人たちが地域で尊厳を保ちながら自立した生活を営むために必要なサービスを提供すること。(NPO)
- ・ 障害福祉の事業として利用者のニーズに合ったサービスを提供しています。(株式会社)
- ・ 利用者を選ばない。(NPO)
- ・ 可能な限り困難ケースを受けている。(社会福祉法人)
- ・ 人材確保。(株式会社)
- ・ ヘルパー等の人材不足解消と資格取得に対する援助を行なっている。(株式会社)

- ・府中市にたすけあいの仕組みを作ろう。お互いに助け、助けられる関係、地域づくり、営利を目的にせずメンバー全員で運営労働を担いそれぞれの力を活かせる働き方。(NPO)
- ・他職種の連携強化と地域の見守り。(医療法人)

(15)地域活動支援センター

- ・精神障害者の安心できる地域生活のための支援、精神科病院に長期入院されている方の退院支援。(社会福祉法人)
- ・地域の中で安心して生活ができるようていねいな相談支援。(社会福祉法人)
- ・過ごしやすい場所、環境の提供・外出機会の少ない方への余暇支援。(有限会社)
- ・困難ケース(多問題家族等)の相談専門職を活用しての支援。(社会福祉協議会)

(16)児童発達支援

- ・利用者の家族と密に接し、相談しながら将来において希望が持てる様活動する。(株式会社)
- ・大きなテーマとして「生きる力をつける」その為に一人一人に必要な支援・援助を家族と一緒に考え、社会に出た際に自分の力を発揮出来るような力をつけてもらいたい。(株式会社)
- ・利用されているお子さんだけでなく、お子さんを支える家族に寄り添い、支援を行っています。家族を通して、別の通われている機関への助言等も行っています。(NPO)
- ・未就学児への支援を行っていけるよう努めていきたいと思っております。(NPO)
- ・府中市の療育の充実。(社会福祉協議会)
- ・医療的ケア児の対応、安全に利用していただけるような対策。(NPO)
- ・無事故、安全性。(NPO)

(17)放課後等デイサービス

- ・保護者が安心して児童を通所させられる場の提供 外出活動を通じて、社会性の発達、余暇活動の充実へつながる支援。(株式会社)
- ・保護者、利用者が安心して通所を行うことができるよう療育環境の整備。(NPO)
- ・利用されているお子さんだけでなく、お子さんを支える家族に寄り添い、支援を作っています。家族を通して学校等、別の通われている機関への助言等も行っています。(NPO)
- ・困っている児童に必要とされる存在である事。ここに来れば安心して過ごせる、楽しい事がある。当事者が行きたいと思える居場所である事。楽しく過ごす中で自分に自信を持ち、社会に出て行ける人になること。(株式会社)
- ・利用者の家族と密に接し、相談しながら将来において希望が持てる様活動する。(株式会社)
- ・障害児童が誰からの支援も受けられるようにする。(株式会社)
- ・「人と人をむすぶ」「心と心を結ぶ」「地域社会とつながる」。(NPO)
- ・放課後等デイサービスとして、学校での規律ある生活から解放されて、自由に自分の居場所を確保しつつ、のびのび生活して欲しい。(株式会社)

- ・大きなテーマとして「生きる力をつける」その為に一人一人に必要な支援・援助を家族と一緒に考え社会に出た際に自分の力を発揮出来るような力をつけてもらいたい。(株式会社)
- ・預かっている児童が将来社会で困ることが少しでもなくなるように職員全員が意識をもって日々取りくんでいます。(NPO)
- ・1.障害児へ広い心で接するよう職員教育をしている。2.HPなどで事業所を紹介している。(NPO)
- ・音楽、特に「リトミック」をベースに「個」の持つ知的能力・感覚機能・身体機能を複合的に刺激し、生活の様々な場面の質の向上に寄り添える時間と空間の提供。(社団法人)
- ・活動は体を動かすことがメインです。音楽に合わせて体を動かしたり、体操をしています。体操は毎月どんな体操(例：平均台、ボールを使う、サーキット運動)をするのかを考え、個々に合わせて参加できるようにしています。(株式会社)
- ・安全性、無事故。(NPO)
- ・利用者の安全・安心の確保。(株式会社)
- ・体制について：コンプライアンス(法令遵守)です。制度が変わっていきますので、その情報を正確に理解できるように注意していきます。サービスについて：利用児童が楽しく(体調の見守り)、個性(特性を含めて)を大切に伸ばす。そのための支援の充実、活動(個別、集団)の提供、家族との連携を大切にしています。(株式会社)

(18)障害児相談支援

- ・地域の中で安心して生活ができるようていねいな相談支援。(社会福祉法人)
- ・年齢、障害種別問わず相談にのる。(有限会社)
- ・利用者、家族との関係性の構築と不安の解消を考えています。(株式会社)
- ・重度訪問介護利用者へのヘルパー派遣。(株式会社)
- ・サービスをただ数多く使うことでなく、今、何が課題としてあって何が必要なのか見極めてよりベスト、ベターな支援を提案できるように、職員自身質の向上。(社会福祉協議会)
- ・不十分であるが医療的ケア児、重症心身障害児の家族・兄弟のフォロー。(有限会社)
- ・支援機関同士をつなぐ橋渡しの役割・お子さんの計画相談・学校との連携(学校は計画相談のことを知らないのではなかなか大変です)。(NPO)

問19 事業所として回答してください。貴事業所が、利用者に対して、特に力を入れていることをお書きください。

- ・事業所が利用者に対して特に力を入れていることについて、自由記述形式でたずねた。以下、実施事業ごとに、主なものを掲載する。

(1)居宅介護

- ・障害等のある人でも安心して暮らせる支援体制。(株式会社)
- ・介護や日常生活を安心できるように。(株式会社)
- ・安心して住みなれたご自宅で生活していただくためのお手伝い。(NPO)
- ・毎日の生活において安心、安全な生活をおくってもらう為に日々の様子、変化等担当ヘルパーから事業所への報告、ヘルパー間での情報共有をこまめに行う。(株式会社)
- ・利用者の生活を支えるために要望をしっかりと汲み取りチームしてケアに入らせていただいております。(NPO)
- ・利用者のニーズをしっかりと受け止め一人一人の人権を尊重すること。(NPO)
- ・自立支援のための援助。(株式会社)
- ・技術水準のアップによる信頼の構築。(－)
- ・利用者に担当のコーディネーターをおき、利用者とケア者(ヘルパー)の調整をし利用者本位、対等な関係づくりをめざしコーディネートしている。(NPO)
- ・利用者の体調の変化を観察し、体調悪化時の早期発見をする。(医療法人)
- ・接遇マナー・法令遵守・自立支援につながるサービス相談、提案・サービス質の向上。(株式会社)
- ・できる限り、支援依頼を受ける。(有限会社)

(2)重度訪問介護

- ・障害等のある人でも安心して暮らせる支援体制。(株式会社)
- ・安心して住みなれたご自宅で生活していただくためのお手伝い。(NPO)
- ・介護や日常生活を安心できるようにする。(株式会社)
- ・毎日の生活において安心、安全な生活を行ってもらう為に、日々の様子ヘルパー、事業所への状況報告、共有をこまめに行う。(株式会社)
- ・利用者のニーズをしっかりと受け止め一人一人の人権を尊重すること。(－)
- ・利用者の自立に役立つように対応させていただいております。利用者(家族)の希望を第1に考えた対応。(株式会社)
- ・利用者の生活を支えるために、要望をしっかりと汲み取りチームとしてケアに入らせていただいております。(NPO)
- ・技術水準のアップによる信頼の構築。(有限会社)
- ・利用者の体調の変化を観察し、体調悪化時の早期発見をする。(医療法人)
- ・接遇マナー・法令遵守・自立支援につながるサービス相談、提案・サービス質の向上。(株式会社)

- ・コミュニケーション。(株式会社)
- ・スケジュール調整。(株式会社)

(3)同行援護

- ・利用者の生活を支えるために、要望をしっかりと汲み取りチームとしてケアに入らせていただいております。(NPO)
- ・利用者に担当のコーディネーターをおき、利用者ケア者(ヘルパー)の調整をし利用者本位、対等な関係づくりをめざしている。(NPO)
- ・接遇マナー・法令遵守・自立支援につなげるサービス相談、提案・サービス質の向上。(株式会社)

(4)生活介護

- ・個人の特性に応じた支援に心がけること。(社会福祉法人)
- ・安定した日中活動の提供。(社会福祉法人)
- ・利用者の寄り添った支援を大切にしています。(社会福祉法人)
- ・様々な事情や障害を抱えている方でも、生産活動を通して生きがいを持ち通所できる様に支援している。(社会福祉法人)
- ・働くことを通じて、意欲や理解、自信や誇りを高め、成長、自己実現につなげること。(社会福祉法人)
- ・地域生活の拠点となるように、通常活動の充実のみならず、社会資源の利用支援など、高い専門性を発揮したサービスの充実を図る。利用者の意図を尊重し、部門やプログラムの選択のほか、活動場面において意思決定のプロセスを踏み、選択性を保障する。障害の状況にとらわれず、一人一人に合わせたプログラムを設定し、個別性を重視したサービスを提供する。(－)

(5)就労移行支援

- ・支援を行う上で本人の話をよく聞き、適切な選択肢を伝え、本人の意志で進めるよう、職員一人一人が意識すること。(社会福祉法人)
- ・自分らしく働ける社会をつくるという企業理念の下、事業活動しています。利用者が自分らしく働けるスキルを身につける、仕事を探すサポートに力を入れております。(株式会社)
- ・長く働くための準備・訓練、自己理解・障害受容。(株式会社)
- ・生活から就職後の長く働ける為の定着支援に力を入れております。職種のマッチング。(株式会社)

(6)就労継続支援(A型)

- ・長く働き続ける為の企業・家族・本人の立場からの定着(双方向からの見立)支援。(株式会社)
- ・継続して働いて頂ける様に、また就労を希望される方には就労を目指して頂ける様に本人のニーズに合わせた支援を心がけています。(社会福祉法人)

(7)就労継続支援(B型)

- ・働く事や様々な活動を通していきいきとすごしてもらおう事。(社会福祉法人)
- ・様々な事情や障害を抱えている方でもできる限り受入れ生産活動を通して生きがいを持ち通所できる様に支援している。(社会福祉法人)
- ・個々のニーズに合わせた作業提供。(社団法人)
- ・利用者主体の基本を徹底。(社会福祉法人)
- ・それぞれの特性に配慮しつつ、できるだけ幅広い作業に取り組み生活の幅が広がられるよう、そしてできるだけお互いにフォロー協力しあって、サービス(喫茶での)を提供できる力や自信を持ち社会参加できるよう努めている。安全と健康。(社会福祉協議会)
- ・働くことの実現と高工賃を目指す方、就労を目指す方への支援。(社会福祉法人)
- ・利用者があきずに、やりがいのある仕事をさがし、みつける、工賃 up につなげる事の公園清掃、植木の剪定など、増やしたい。(NPO)
- ・工賃の向上・働くことを通じて、意欲、理解、目標を高め、自己実現につなげる事。(社会福祉法人)
- ・通所していて、楽しく、生活が充実出来る様な支援に力を入れています。(社会福祉法人)
- ・利用者が「来ると楽しい」と思ってもらえるよう、集える場、楽しい場としての運営を心がけ、工夫を凝らしています。(社会福祉法人)
- ・「明るく楽しく元気よく」をモットーにお互いに思いやり、心やすらぐいいの場を目指す(めざすもの)・工賃 UP を目指し自立して社会の一員として生活していけるよう努める。(社会福祉法人)
- ・工賃向上・通所者主体の運営・特性に合わせた援助。(社会福祉法人)
- ・個別プログラムの提供(集団へ入ることが難しい方へ向けて)。(社会福祉法人)
- ・研修プログラム。利用者の望む暮らしに向けた個別的な支援。(NPO)
- ・生活リズムの安定、日頃からのかかわり(面談等)、接し方、ひとり暮らしの方との連絡をとる。(社会福祉法人)

(8)短期入所

- ・事業を継続すること。(社会福祉法人)

(9)グループホーム

- ・利用者の権利擁護(社会福祉法人)
- ・個人の尊厳を保持しつつ、地域社会において安心して健康な生活が出来るように支援していること。(社会福祉法人)
- ・利用者の特性を理解し、利用者の支えとなる支援を提供出来るように、取り組んでいます。(NPO)
- ・地域生活を良くする為、地域の方との交流。(NPO)
- ・生活の部分だけでなく、日中活動、病気の治療、長期の生活設計などを含んだ包括的な個別支援。(社会福祉法人)
- ・話を聞くこと。(社団法人)

- ・一人で出来ることが増えるような支援。(社団法人)
- ・医療の連携・グループホームの拡充。(社会福祉法人)
- ・明るく、陽気に、穏やかに、寮生活がおくれるよう、それだけです。(NPO)
- ・日々の変化の観察、健康の管理、住みやすい住居となるように利用者とのコミュニケーション。
 - ・本人の持っている力を徐々に活用できるよう本人同意のもと取りくんでいる(生活面での本人の役割)。(有限会社)
- ・"その人の今"を支援者が受け止めた上で、利用者本人のやりたいこととやらなければいけないことと一緒に取り組むこと。(社団法人)

(10)計画相談支援

- ・出来る限りの電話対応。(株式会社)
- ・自立、自律のための支援。(有限会社)
- ・エンパワメント。(NPO)
- ・利用者並びに保護者への説明責任。(社会福祉法人)
- ・本人主体で希望に沿った支援がすみやかに出来る様にする。(社会福祉法人)
- ・利用者の将来の生活について、相談をよく受けるように心がけています。(株式会社)
- ・利用者本人のみならず、家族調整も含めた、支援をすることで、本人の支援がスムーズにいくように努めています。(社会福祉協議会)
- ・利用者へのサービスニーズの把握。(株式会社)
- ・利用者がおだやかに生活できるための支援。(社会福祉法人)

(11)地域移行支援

- ・エンパワメント。(地域移行支援)
- ・信頼関係をしっかり築いていけるように心がけて対応しています。(社団法人)
- ・利用者がおだやかに生活できるための支援。(社会福祉法人)

(12)地域定着支援

- ・エンパワメント。(NPO)
- ・利用者や家族がおだやかに生活できるための支援。(社会福祉法人)

(13)移動支援

- ・利用者のニーズをしっかりと受け止め一人一人の人権を尊重すること。(NPO)
- ・移動支援においてその障害の度合によって異なるが、利用者が出来る事はしてもらい、出来ない事は一部及び全介助をする。出来るだけ利用者の能力を生かした、社会参加が出来るようにしています。(株式会社)
- ・利用者の自立できるように、サービスを提供させていただいております。(株式会社)

- ・ 利用者の生活を支えるために、要望をしっかりと汲み取りチームとしてケアに入らせていただいております。(NPO)
- ・ 利用者の体調の変化を観察し、体調悪化時の早期発見をする。(医療法人)
- ・ 利用者担当のコーディネーターをおき、利用者とケア者の調整をし、利用者本位、対等な関係づくりをめざしている。(NPO)
- ・ 今あるサービスに対して確実な支援。(社会福祉法人)
- ・ 移動支援を利用して利用者が充実した時間を送れるようにお手伝い。(NPO)
- ・ スケジュール調整。(株式会社)

(14)地域活動支援センター

- ・ 本人がどのような生活を望みどんな支援を必要としているかをきめ細かく把握し、その方にわかりやすい方法で説明し、選択肢を提案して自己決定していただけるようにしていること。失敗も含め、一緒に振り返ることでご自身で考えていただける支援を心がけています。(社会福祉協議会)
- ・ 利用者やその家族がおだやかに生活できるための支援。(社会福祉法人)

(15)児童発達支援

- ・ 生きていく力。(株式会社)
- ・ 意志を伝えられるようにその方法を見つけること。(NPO)
- ・ あせらず・あきらめず・あたたかい心で接するように職員共に力を入れていきたいと思っています。(NPO)
- ・ 療育。(児社会福祉協議会)
- ・ 能力の進歩・発展、日常生活力の向上、楽しむ時間居場所の提供、家庭の負担軽減。(NPO)
- ・ 様々な経験を通して、自分の「楽しいこと・嬉しいこと・大好きなこと」を見つけてもらい、生きる活力にしてほしい。(株式会社)
- ・ 個別の支援が主なので、お子さんのニーズ、発達特性をふまえたオーダーメイドの支援を行っています。(NPO)

(16)医療型児童発達支援

- ・ 親子で通うことを基本にして、家庭と通園で一貫した療育となるよう努める。食べる力を身につけていくよう、摂食指導に力を入れて取り組む。地域の障害児(者)療育に対する支援事業に積極的に取り組む。(その他)

(17)放課後等デイサービス

- ・小学生から高校生という長い期間の中でその時の成長に合わせて出来る事を増やしていき、社会に出るまでに自立していけるところは伸ばし、支援が必要なところはより適切な支援で出来る達成感を感じられるようにしています。(株式会社)
- ・利用者が安全に過ごすことができる(特性を理解して)。本人や家族の希望として、放課後の時間を楽しく過ごしてほしいが一番多い希望ですが、加えて、各々の個別支援計画に基づき、個別の支援課題、ADLの向上、社会生活スキル、あるいは体力作り等々目標が定められています。その目標の達成に向けて支援を行うことを重視しています。(株式会社)
- ・生きていく力。(株式会社)
- ・支援を必要とした時周囲が支援をやすく出来るスキルを身に付けてもらうこと(何が必要かを伝える。気持ちよく手伝ってもらえる頼み方が出来る。出来ること出来ない事を素直に伝える等)。(株式会社)
- ・個別支援。少しでも大人になった時に困らないよう支援している。親や学校、関係している所に情報をもらったりしながら、連携をとっている。(NPO)
- ・一人一人の発達段階に応じた支援で自立に向けた基本動作の習得、自立力を育て、身の回りのことを自分のチカラでできるように何度も応援します。(株式会社)
- ・丁寧に障害児とその保護者に対応し、ご意見を良く受けとめるようにしています。(NPO)
- ・様々な経験を通して、自分の「楽しいこと・嬉しいこと・大好きなこと」を見つけてもらい、生きる活力にしていってほしい。(株式会社)
- ・宿題の取り組み定着化、複数人でトランプ、ゲーム会等をして調和や会話などを楽しむ時間居場所の提供、家庭の負担軽減。(NPO)
- ・一人一人の個性に合わせた対応。(株式会社)
- ・利用者一人一人に対する療育。(NPO)
- ・情緒に対して障害を持つ児童も多く、利用者一人一人と、密な関係性を育むことで、落ちついて過ごすことのできる場を提供する為に、皆努力しています。(NPO)
- ・個別と小グループの支援が主なので、そのお子さんのニーズ、発達特性をふまえたオーダーメイドの支援を行っています。(NPO)
- ・利用者が興味ある内容の曜日を選択することで、自発的に、能動的に活動参加していただける環境設定。(社団法人)
- ・毎日楽しく過ごしてもらい体の筋緊張を和らげる。(株式会社)
- ・児童が放課後に安心して過ごせる場の提供。(株式会社)

(18)障害児相談支援

- ・自立、自律の為の支援。(有限会社)
- ・利用者の将来の生活について(特に高校生の利用者)相談を受けるように心がけています。(株式会社)

- ・利用者へのサービスニーズの把握。(株式会社)
- ・本人にとってそのケース生活の質や発達課題に合っているか、家族の希望だけでなく全体像の中でよりその方に合う支援について努めています。(社会福祉協議会)
- ・お子さんの計画だが、育てている家族の健康や精神面も支えるようなプランがたてられるよう努力しているつもりです。話せないお子さんであっても聞き取りや様子を拝見して、どんな希望や意思があるかを汲みとる努力をすること。(NPO)
- ・利用者やその家族がおだやかに生活できるための支援。(社会福祉法人)

(19)保育所等訪問支援

- ・親子で通うことを基本にして、家庭と通園で一貫した療育となるよう努める食べる力を身につけていくよう、摂食指導に力を入れて取り組む。地域の障害児(者)療育に対する支援事業に積極的に取り組む。(その他)

(6) 市への要望について

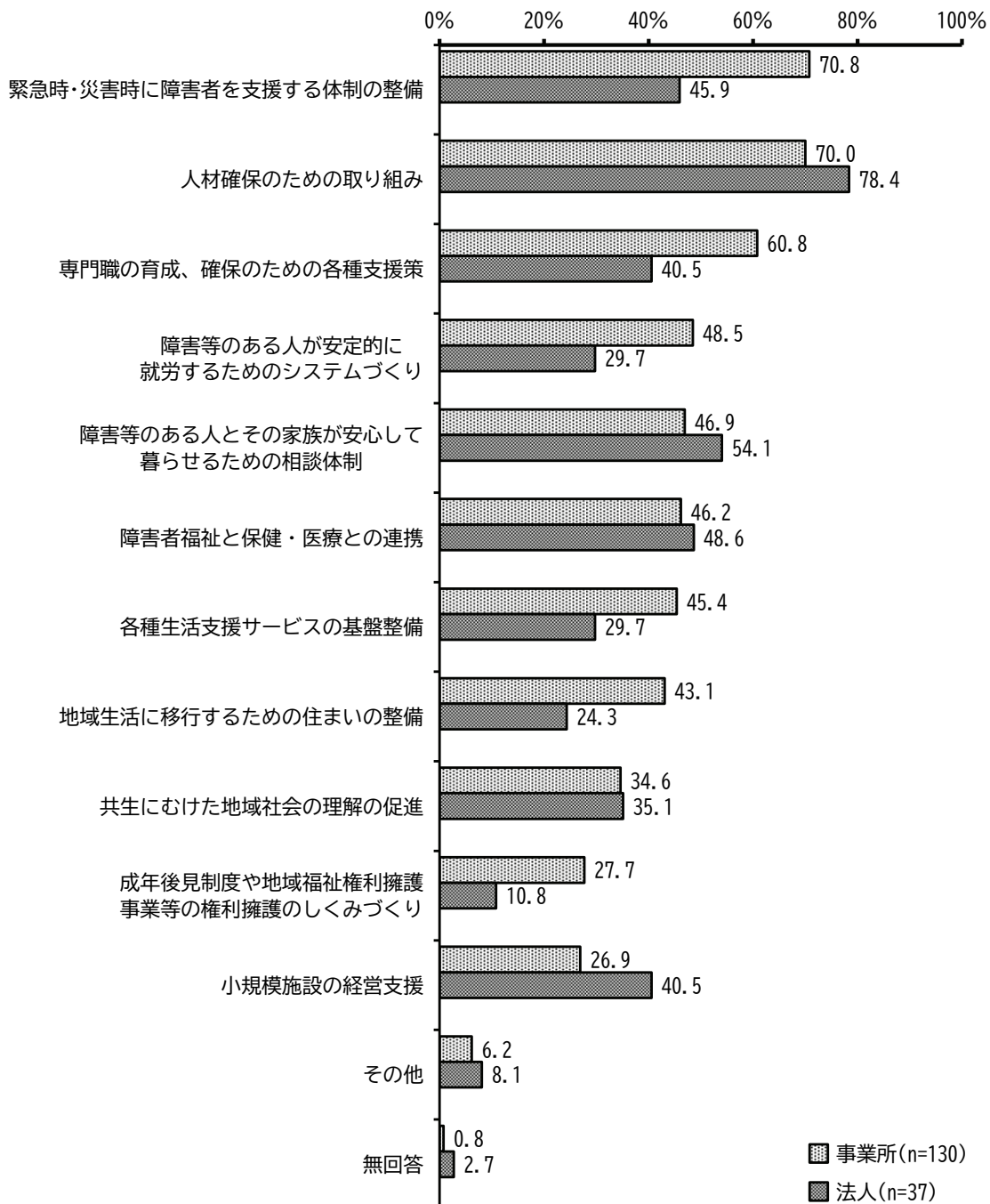
問20 事業所または法人としてご回答ください。

これからの府中市の障害福祉サービスの充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。

(いくつでも○)

- ・ 事業所は「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備」(70.8%)が最も多く、「人材確保のための取り組み」(70.0%)、「専門職の育成、確保のための各種支援策」(60.8%)が続いている。
- ・ 法人は「人材確保のための取り組み」(78.4%)が最も多く、「障害等のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制」(54.1%)、「障害者福祉と保健・医療との連携」(48.6%)が続いている。

図表 市の障害福祉サービス充実に向けて必要なこと（事業所・法人別：複数回答）



問21 事業所または法人としてご回答ください。**障害福祉サービスについてのご要望について、ご自由にお書きください。**

- ・ 障害福祉サービスについての要望について、自由記述形式でたずねた。以下、主なものを掲載する。

(1)人材育成・確保

- ・ 移動支援を行う事業所が増えてきてはいるが、ヘルパーの数が少ないと思われます。市で支援者養成研修に補助をしていただきたいと思います。(計画相談支援：有限会社)
- ・ 同行援護の従業員養成研修等の資格取得の為の補助をしていただきたい。(重度訪問介護：社会福祉法人)
- ・ 人材不足が深刻な状態が続いています。市での人材確保に対するバックアップ体制のようなものがありますと、とてもありがたいです。(居宅介護、同行援護、移動支援、計画相談支援：NPO)
- ・ 人材の確保が難しくなっています。事業者の収入が減少すると人件費を削減することとなり、人材の確保がさらに難しくなり、運営できなくなってしまう可能性があります。市の補助金をこれ以上削減しないで下さい。(放課後等デイサービス：株式会社)
- ・ 質の良いサービスを提供するためには質の良い人材が必要。現実には人材の確保が難しい。賃金が低ければ人も来ない。充実したサービスのために諸々の予算を減らさないでほしい。(就労移行支援：株式会社)
- ・ 最低人員は確保できているが、人材を選べない。今以上に支援員、補助金下がっていったら更に資金が下がることになり、職員不足のために運営が出来なくなる可能性がある。人に対しての補助金の援助を是非お願いしたい。(就労継続支援(B型)：社会福祉法人)

(2)サービスの充実

- ・ 現状の障害福祉サービスの中で、一番選択の余地がないのは計画相談だと思う。まず、障害福祉サービスを利用する上での基盤にもかかわらず、なかなか連絡が取れない。そこについての手厚さは必要だと思う。(地域移行支援：社会福祉法人)
- ・ 計画相談支援を専任で行う相談支援専門員が市内の指定特定相談支援事業所に少なすぎます。専任の相談員が市で何人必要なのか、しっかり数値を出し、それを目標に整備を進めましょう。(地域活動支援センター：社会福祉法人)
- ・ 指定一般相談支援事業を実施する事業所を市内で増やすこと。そのために、市が進んで説明会等を行う。協力をおしめません。(計画相談支援：社会福祉法人)
- ・ 保育所等訪問支援のような、アウトリーチ型の支援が必要だと感じます。(グループホーム：社団法人)
- ・ 地域移行支援を実施する事業所を市内で企画的に増やしていくこと。精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築のための協議を始めること。(地域定着支援：社会福祉法人)
- ・ 社会資源が足りず、障害福祉サービスを十分に利用できない人も多い。(計画相談支援、地域移行支援、障害児相談支援、地域定着支援、地域活動支援センター：社会福祉法人)

- ・ 重度対応の施設が少なくない状況を市としてどのように考えているのかと思います。民間の法人だけの努力では、とても新しい施設(事業)を作ることは難しいため、市としての計画に含め公私協力して展開できなければならないと思います。(グループホーム：有限会社)

(3)制度

- ・ 制度改正が頻繁に行われ、年々支援(財政的)が厳しくなっていること。福祉関係への厚い財政的支援を厚くして欲しい。(地域移行支援：社団法人)
- ・ 安定した給付制度の維持、国、都及び市が障害者予算を削減しないこと。(保育所等訪問支援：その他)
- ・ 身体障害の方の移動支援を認めて欲しい。居宅と重訪の併給を認めて欲しい。児童の居宅身体の月 30 時間の上限引き上げをして欲しい。(障害児相談支援：NPO)

(4)手続き

- ・ 支給決定の連絡が遅かったり、来なかったりして困る。(生活介護：社会福祉法人)
- ・ 受給者証の発行を速やかにお願いします。特に 4 月の入学時期。(就労移行支援：株式会社)

(5)報酬

- ・ 優秀な人材を確保出来るような報酬的なものの改正や創設。(就労継続支援(B 型)：社会福祉法人)
- ・ 計画相談の報酬だけでは事業が維持できない。一生懸命やればやるほど赤字です。
(放課後等デイサービス：NPO)
- ・ 相談支援は収入面でどんなに努力しても常勤正職を採用するのは現実的に難しい。人材面でもこれ以上の兼務は不可能に近い。市サービス費の上乗せがほしい。他事業との兼ね合いで休止もありえる。
(移動支援：有限会社)
- ・ 人材確保のためにも、移動支援の単価を上げていただきたいと思います。最低賃金が上がってきている為。(移動支援：株式会社)
- ・ 平成 30 年度の報酬改定により、事業運営が厳しい状況にあります。預かり中心の学童保育型事業所と異なり個人に合わせた発達支援をしているため、欠席者がいてもそこを穴埋めするようなことが難しいです。(就労継続支援(B 型)：社会福祉法人)

(6)財政的支援

- ・ 給付費収入だけでは経営が難しいため、財政的な応援をして頂けるとたいへん助かります。
(放課後等デイサービス：NPO)
- ・ 加算が少しずつ減ってきている現状を考えていただけたらと思います。(計画相談支援：株式会社)

(7)行政への謝意

- ・ 府中市はあたたかい行政の手がよく行き届いていると思います。例えば、就労Bの利用者へ職員が熱意ある支援を家族にもして下さり、本当に有難いと思っています。(児童発達支援：NPO)
- ・ 府中市は取り組みに努力していると思います。課題も障害別、年代ごとに違うので全体的に向上していく方向を望みます。(放課後等デイサービス：NPO)

(8)バリアフリー

- ・ 視覚障害者が市役所へ訪問した際、すぐに案内が点字で分かるよう、案内板を入口に設置していただきたいです。(居宅介護、重度訪問介護：株式会社)

(9)サービスの提供量

- ・ 足りないサービスをしっかり洗い出し、把握すること。何がどのくらい足りないのかを把握した上でその分を確保するための既存の事業所や新規立ち上げを検討する事業所に配分すること。
(グループホーム：NPO)

(10)サービスの質の確保

- ・ 報酬単位が少ないことによる、サービスの質の低下にならない方策をとってほしい。(生活介護：社会福祉法人)
- ・ 各々の事業所の実情に合わせてサービスの質の低下がおこらないように支援をしてほしい。(地域定着支援：株式会社)

(11)災害時の対応

- ・ 今回の自然災害時では避難先での不安から避難を見合わせた法人もあると聞いています。環境変化に適応困難な方でも、利用できる避難所があったらと思います。(就労継続支援(B型)：社会福祉協議会)

(12)地域共生

- ・ 障害当事者の方の地域共生生活への実現へ向けての取り組み。(計画相談支援：株式会社)
- ・ 障害当事者への地域生活実現の取り組み。(同行援護：NPO)

(13)場所の確保

- ・ 場所がない。23区のように市が物件を提供してほしい。(グループホーム：NPO)
- ・ 府中市にある国有地や市有地の有効利用の検討をお願いしたいと思います。(居宅介護：株式会社)

(14)利用時間

- ・利用者に対しての時間数を伸して頂きたい。特に精神障害を持っている利用者に対して月2回1.5時間では何の改善にもならない。精神障害の度合にもよりますが。(移動支援：株式会社)
- ・現在市役所のきまりで移動支援時間数が決まっているが、ひとり親や家族のレスパイト等の事を考えて頂き時間数の決定をして頂きたい。(重度訪問介護：株式会社)

(15)関係機関との連携

- ・児童通所事業を利用する場合でも、必ず相談支援事業所と繋がり利用計画を作っていただく流れを構築して欲しいです。関係者会議が開催されることで放課後等デイサービス同士の繋がりができ同じ視点で支援できると考えております。(放課後等デイサービス：株式会社)

(16)住宅支援

- ・空き家を活用した住まいの場を設けてもらいたい。(重度訪問介護：-)

(17)情報提供

- ・法律が変わる際は早めに情報提供していただきたい。勉強会等。
(就労継続支援(B型)：社会福祉法人)

(18)切れ目のない支援

- ・就学前の療育機関の充実、早期発見・早期療育が大切かと。障害児・者の在宅支援が不足しているようですので、支援者の増加を。・ペアレントメンターの組織を作っただけたらと思います。福祉サービス全体として、一人の方に支援が継続してもらえる一貫したシステムを切れ目のない(継続して)安心して生活できるような支援体制を願っています。(居宅介護：株式会社)

(19)利用者負担

- ・障害者に対する福祉用具等の利用者負担額をもっと減らしてほしい。必要な用具があっても利用者負担額が高すぎて利用したくても利用できない事が多く、市の制度を知らない利用者も多いので。(重度訪問介護：有限会社)

(20)都・国への要望

- ・障害等のある人も入居できる安価な市営住宅の増設・府中市独自の財政的支援・財政的支援の国への働きかけ。(居宅介護、移動支援：NPO)
- ・市の対応については援護担当をはじめとても協力をしてもらっている。但し、相談支援にかかる金銭的な負担、利用者の生活を支える心理的な負担に対して市から都・国に対して積極的に要望をあげてもらいたい。(居宅介護：株式会社)

**問22 事業所として回答してください。利用者やその家族から寄せられた要望について、
ご自由にお書きください。**

- ・利用者やその家族から寄せられた要望について、自由記述形式でたずねた。以下、実施事業ごとに、主なものを掲載する。

(1)居宅介護

- ・安心して生活を送れているので、当事業所を継続してほしい。(NPO)
- ・利用者の中には制度を理解していらっしゃらない方も多く、身体介護、家事の区別なく身体介護の時に家事を少し要望される。またその逆もあり、事業所としてはその都度説明はしているが利用者自身「少しなら」と言う考えがある。利用者に対して市側からも説明してもらえたらと思います。(株式会社)
- ・自費負担の軽減。(－)
- ・事業継続する為にも若い人材も入れる様にして下さい。(NPO)
- ・利用者・家族の希望通りの日程でヘルパーを派遣(人材を増やし)してほしいとの要望をきいています。(NPO)
- ・引っ越しに伴い住居環境が変わり、以前住んでいた所にあった福祉器具が使えなくなった為、介助方法を試行錯誤しています。もともとリフトを利用しての入浴だったのですが、リフトが引っ越し先では利用できないことや通路の幅などもせまくなり、リスクがあるなかで行っています。できることなら、2人介助を認めて欲しいと話し市役所へ相談していただきましたが、まず福祉用具を検討してほしいと回答があったとのことですが、福祉用具の業所と都合がなかなかあわないとのことで現在も、話は進んでいません。それでも入浴介助は変わらずあるためリスクがある中で行っております。(有限会社)
- ・ヘルパーをもっと増やしてほしい。(有限会社)

(2)重度訪問介護

- ・障害者も年をとっていくのでその時その時の福祉体制の有り方などくわしく知りたい。(株式会社)
- ・重度訪問介護において出来る支援、出来ない支援をふまえて利用者や家族に説明をしているが、なかなか理解してもらえないケースがある。(株式会社)
- ・安心して生活を送れているので、当事業所を継続してほしい。(－)
- ・自費負担の軽減。(有限会社)
- ・重度訪問の移動で、余暇としてディズニーランドへ行きたいと要望がありました。朝から夜まで利用がしたいとのことですが、移乗をするのにすべて、抱きかかえなければならない為、長時間1人のヘルパーで行うとリスクしか考えられないのでどうしたら良いか考えております。ヘルパーの知識不足もありますが、利用者側もヘルパーの利用の仕方のような研修があると良いと思うことがあります。また、利用者の言い方などでヘルパーが辞めてしまうことがある。何度か利用者とも話しましたが、なかなか変わらない。(有限会社)

- ・ 夕方から夜勤対応可能なヘルパーを(医療行為可能な)増やしてほしいとの要望をきいています。
(NPO)

(3)同行援護

- ・ ヘルパーの人材を増やし、利用者・家族の希望通りの日程で派遣してほしいとの要望をきいています。
(NPO)
- ・ 事業継続する為にも若い人材も入れる様にして下さい。(NPO)

(4)生活介護

- ・ 住まいの場をいくつも作ってほしい。(社会福祉法人)
- ・ ショートステイの受け入れ先の確保及び利用日数の増。市内にグループホームが確保されること。
(社会福祉法人)
- ・ 介護保険優先の見直し。(社会福祉法人)
- ・ 障害者が健康診断を受けられる医療機関に関する情報を整備して欲しい。市内に入所施設が欲しい。
(-)
- ・ 休みの日の過ごし方が困っている。(社会福祉法人)

(5)就労移行支援

- ・ 在宅訓練の実施。(株式会社)
- ・ 生活保護受給の方へのお金の使い方やお金がない時の通院対応や手続きの手間が少しでもはぶけると良いと思います(高熱があっても受給券がなく通院を我慢されている方がいました)。福祉サービス受給者証発行のスピーディー化。早く働きたい方へも希望する日を目途にし、就職できるような仕組み作りをお願いいたします。(株式会社)

(6)就労継続支援(A型)

- ・ 「就労定着支援事業が始まって、良い制度で助かりました」の声が利用者や家族の方から上っていました。(株式会社)

(7)就労継続支援(B型)

- ・ 保護者からの金、土、のショートステイがない子の自立の為にグループホームに入居できない。(NPO)
- ・ 本人の金銭管理をしてほしいと言われました。(社会福祉法人)
- ・ 支援学校時代にくらべ運動量が減るので、運動の機会をもってほしい。(社会福祉法人)
- ・ 介護保険優先の見直し。(社会福祉法人)
- ・ 夜間に相談できる所がないので対応してほしい。金銭管理をしてほしい。(社会福祉法人)

- ・ 移動支援についての事業所を選べない(情報不足等)また、契約してもヘルパー不足とのことで利用がままならない活動に参加するための移動に利用できるとよい(保護者等の都合がつかないと参加できない、他市では可能なのに等)。(社会福祉協議会)
- ・ 工賃がもう少し高くないか希望がありました。(社会福祉法人)
- ・ 障害等のある子どもと暮らしながら、女性も働き続けられるための仕組みと社会資源。1人ひとりの個性を活かせる、仕事の創出。(NPO)
- ・ 若年性認知症の方(何か対策はないか)が通所しているが、法人サービスでは対応が難しいことで、うちに来ている。仲間にも何人かいる様で通所先を探している。うちの施設でもとても対応が難しく1対1になる場合が多い。(社会福祉法人)
- ・ 給食がなくなったり、送迎がなくなると通所できない。その分を自己負担することになればなおさら。補助費はへらしてほしくない。(社会福祉法人)
- ・ 公園清掃の委託料をこれ以上減らさないでほしいという要望があります。利用者は、少ない収入、少ない作業工賃をやりくりして生活しています。公園清掃の委託料は、利用者の大きな収入源となっていますので、減ってしまうと利用者の生活に影響があります。(社会福祉法人)

(8)短期入所

- ・ 常時(24時間)常勤・専門職を配置できる様な体制。(社会福祉法人)

(9)グループホーム

- ・ 部屋数の増加、滞在型グループホームの設立(ユニット増、事業所設立)。(社会福祉法人)
- ・ 引き続き、ご支援、ご協力をお願いします。(NPO)
- ・ 移動支援やホームヘルプサービスの充実。(NPO)
- ・ グループホームの増設を多く頂いております。また、福祉作業所(B型・生活介護)の増設希望も多く頂いており、今後、3年位で、定員オーバーとなると思われます。(NPO)
- ・ 通過型の期限3年ではなく、もう少し長く利用したいという声が時々あります。グループホームとしても、もう少し支援する時間があつたなら、安心して送り出せたのではないかとということがいくつかありました。(社会福祉法人)
- ・ 要望は人それぞれ、各家庭から要望は沢山ありますが、私共は只々静観するのみです。(NPO)

(10)計画相談支援

- ・ ワーカーがすぐ変わってしまうことへの不満。(株式会社)
- ・ 緊急時、災害時、頼れるところが少ない。親のレスパイトが回れる。特に児童の短期入所が府中にはない。(有限会社)
- ・ 重症心身障害者の地域生活に向けたグループホームの設置やひとり暮らしの支援の拡充。知的障害者のひとり暮らしの支援の拡充。(NPO)
- ・ 職員の継続、わかりやすい説明。(社会福祉法人)

- ・ 訪問によって精神的不安になるから、自宅に来ないでほしい。(社会福祉法人)
- ・ ヘルパー(特に移動支援)が少ない。親亡き後が心配。(株式会社)
- ・ 医療的ケアの必要な利用者のショートステイ先通所先が少ない、選択もできず、家族が対応しなくてはならず、負担が大きい。もっとさまざまな障害に合わせた対応ができる施設を増やしてほしい。(社会福祉協議会)
- ・ 安心して任せられる支援体制への実現。(株式会社)
- ・ セルフプランとの違いをもっと明確に。(株式会社)
- ・ 両親が高齢になってきたときが心配。緊急時の対応および親亡き後の支援についての見通しが持てない。(NPO)
- ・ 計画相談支援の事業所は増えてきましたが、なかなか新規相談を引き受けられるところは少ないようで、利用者の方から探すのを手伝ってほしいという相談は増えています。計画相談につなげる仕組みを事業所でもっと検討する必要があると思います。(社会福祉法人)
- ・ 事業所がみつからない。(社会福祉法人)

(11)地域移行支援

- ・ 重症心身障害者の地域生活に向けたグループホームの設置やひとり暮らしの支援の拡充。知的障害者のひとり暮らしの支援の拡充。(－)
- ・ 事業所がみつからない。(社会福祉法人)

(12)地域定着支援

- ・ 重症心身障害者の地域生活に向けたグループホームの設置やひとり暮らしの支援の拡充。知的障害者のひとり暮らしの支援の拡充。(NPO)
- ・ セルフプランとの違いを、もっと明確にしてほしい。(株式会社)
- ・ セルフプランとの違いをもっと明確に。(株式会社)
- ・ 長期入院から退院されて、一人での生活に不安をかかえている方は多くいらっしゃいます。そうした方にいつでも相談にのれ、必要なときに訪ねていかれる体制を築くことで、安心していただけると考えています。(社会福祉法人)
- ・ 事業所がみつからない。(社会福祉法人)

(13)移動支援

- ・ 安心して生活出来ているので当事業所を継続してほしい。(NPO)
- ・ 移動支援において、家族の方から「ただおまかせ」します的な要望があるが、移動に対して「何の目的を持って要望されるのか」を明確にし、その要望を元に支援を行っている。(株式会社)
- ・ 利用者・家族の希望通りの日程でヘルパーを派遣(人材を増やし)してほしいとの要望があります。(NPO)
- ・ 事業継続する為にも若い人材も入れて下さい。(NPO)

- ・ 移動支援で認められていない依頼をされることがある。例えば、通学が通所先の送迎など。知的のない身体の方から移動支援を使えたらと言う声を時々聞きます。(有限会社)

(14)地域活動支援センター

- ・ 災害者の不安、頭痛もちの方は台風の時期に体調を崩しやすく、調子が悪い状況で何の配慮もない避難所に行くのは辛いし行きたくても徒歩では行きようがない。(有限会社)
- ・ 当事業者は電話の相談が多く、なかなかつながらないということは言われています。また、精神科に通院していないが、そうと思しき家族がいるという相談や、長年、通院のみで家にこもり、社会との接点がないという方の相談もあります。(社会福祉法人)
- ・ 事業所がみつからない。(社会福祉法人)

(15)児童発達支援

- ・ 特例子会社への見学ツアー。(株式会社)
- ・ 今回の水害で避難時、普通の体育館では狭くて困った。電源もなく、寝たきりの子どもと走り回っている子どもと一緒に危険だった。けやきの森学園を避難所として使わせてほしい。避難所が一杯で入れなかった。障害児やおとしよりを優先する避難所がほしい。医療的ケアのない子どもでも安心して通える生活介護事業所を作ってほしい。短期入所先がない。日中一時支援は、医療的ケア児は利用できない。歩ける医療的ケア児の放課後等デイサービス先がない。(NPO)
- ・ 現在は要望にすぐに、話し合いをして解決するようにしております。(児童発達支援：NPO)
- ・ 楽しみや日常生活が伸びて喜んで頂いている声があります。野外活動は喜ばれていますが回数など更に増えると良い希望がありました。(NPO)
- ・ 個別支援を受けたい人がたくさんいる。子ども発達支援センターあゆの子に通っている方から、同時期に他事業所を利用すると嫌な顔をされると聞きました。(NPO)

(16)放課後等デイサービス

- ・ 特例子会社への見学ツアー。(株式会社)
- ・ 高校卒業後の作業所等の利用時間が短すぎて母子家庭の方は働くのが難しい。市町村によって障害手帳の(重症心身障害)が取れたり、取れなかったりする。(株式会社)
- ・ 学校との連携。特性に配慮した学習の場が欲しい。支援級にいても進学に対応出来るようにして欲しい。(株式会社)
- ・ 高校卒業後の作業所等の利用時間が短すぎて母子家庭の方は働くのが難しい。市町村によって障害手帳で(重心)が取れたり、取れなかったりする(自立歩行ができるが気管切開のため知的の放課後等デイサービスでは看護師がいらない)。(株式会社)
- ・ 小学校で保護者と放課後等デイサービスの車が事故をおこした事で、急に、放課後等デイサービスの車の乗り入れがダメになったところや、条件付きになった所があり、その結果、放課後等デイサービスをやめないといけない児童が多発している。放課後等デイサービス側が対応できない。当事業所も

2校について受け入れができなくなるので利用者には申し訳ないと思っています。学校側の放課後等デイサービスへの理解や知識がなさすぎてがっかりした。(NPO)

- ・トイレ誘導、着替え、身辺自立ができるよう、支援してください。天候の良い季節には、公園で遊べるようにしてください。遠出ではなく、近隣の公園で地域の暮らしを充実させたい。(株式会社)
- ・利用出来る施設数を増やしてほしい。(放課後等デイサービス：株式会社)
- ・体調面の発見・サポート面について感謝を受ける。宿題の取り組みに安心を持って頂いている。遊ぶ時間などで楽しめる点を望まれて、野外活動の期待の声がある。(NPO)
- ・帰宅時間を遅らせて欲しいという要望がある。(株式会社)
- ・送迎時間に融通が利くと土曜日利用が可能になる。(社団法人)
- ・療育時間の延長、職員数を増やして欲しい等。(NPO)
- ・自費でもよいのでサービス時間の拡大してほしい。高齢者と同様のサービスをお願いしたい。卒業後就労、生活介護の施設等に通うことができても、早く(3~4時)帰るので、保護者の方が就労している場合、その間、支援してもらえない所がない。(株式会社)
- ・中高生の保護者から年齢に合った活動を(卒業後に向けた訓練的なもの)してほしい(現状は小学生と一緒に活動するので小学生が参加できる内容となっているため)。(株式会社)
- ・今後の送迎は続いて行ってもらえるのか。(株式会社)
- ・OT や ST を受けてたい。学校との連携をしてほしい。個別支援をもっと受けてたい(回数を増やしたい、他にもあればいいのに)。(NPO)

(17)障害児相談支援

- ・緊急時、災害時、頼れるところが少ない。児童の短期入所が市内にないので、親のレスパイトの為に望まれる。(有限会社)
- ・ヘルパー(特に移動支援)が少ない。短期入所施設が少ない(契約や予約ができない)。卒後の生活が心配。(株式会社)
- ・台風時避難先(小学校体育館)で、大変な思いをされたと家族の方よりお話がありました。(本人体幹機能障害経管栄養)。子どもたちが走りまわり危険を感じられたとのこと。障害者施設を避難所にしてほしいとお話ありました。(株式会社)
- ・安心して任せられる支援体制への実現へ向けて、取り組み。(株式会社)
- ・医療的ケア児の家族の不安について気軽に相談できる場を設けてほしい。(有限会社)
- ・通所支援の必要性は理解しているが、母一人での送迎が難しいため、結果として通所に至らない。動ける医療的ケア児(人工呼吸器使用)の受け皿がない。就学後のOT、ST等の訓練が受けられない。就学時に放課後等デイサービス事業所を探すがどこもいっぱい断られる。(NPO)
- ・事業所が見つからない。(社会福祉法人)

資料編 アンケート調査票及び
集計結果

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画 府中市障害児福祉計画策定のための調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、令和3年3月に策定を予定しております「府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画」の基礎資料とするために、調査を実施します。

この調査は、府中市にお住まいの身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証、特定医療費受給者証をお持ちの方の中から、2,300名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理するとともに、「府中市個人情報保護に関する条例」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年10月 府中市

記入について

1. 封筒のあて名ご本人について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただき、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
2. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
3. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。

4. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
5. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

11月11日(月)までに 返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】

府中市福祉保健部障害福祉課 TEL 042-335-4545

お知らせ

この調査の結果については、令和2年4月頃に府中市のホームページで公開する他、調査報告書を府中市役所障害者福祉課窓口等に設置いたします。ぜひ、ご覧ください。

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画

までのスケジュール

府中市障害者計画※1、府中市障害福祉計画※2、府中市障害児福祉計画※3は、この調査結果等を基礎資料とし、市民、学識経験者、障害者福祉団体等から構成された「府中市障害者計画推進協議会」で検討を進めながら策定します。

- ※1：障害者へのための施策全般に関する基本的な考え方や方向性を定める6年間の計画
- ※2：障害福祉サービスの必要量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画
- ※3：障害児福祉サービスの必要量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画

令和2年3月 この調査も含めた調査報告書をとりまとめます。

令和2年4月頃 調査報告書を府中市のホームページで公開するとともに、各関係機関

関に設置します。

令和2年秋頃 計画についてパブリックコメントを実施します。

令和3年3月 ここていただいたご意見をもとに計画を再調整します。

第5期府中市障害者計画・府中市障害福祉計画(第6期)・府中市障害児福祉計画(第2期)を策定します。

なお、現計画(第4期)府中市障害者計画・府中市障害福祉計画(第5期)・障害児福祉計画(第1期)は、前回の皆様に回答いただいたアンケートを基礎資料として策定し、府中市役所障害者福祉課窓口や中央図書館等にてご覧いただけます。

また、以下の府中市のホームページ (<http://www.city.fuchu.tokyo.jp>) でもご覧いただけます。

◆府中市障害者計画

府中市ホームページトップページ ⇒ 行政情報 ⇒ 施策・計画 ⇒ 健康福祉分野

⇒ 府中市福祉計画 ⇒ 障害者計画・障害福祉計画(第4期)

◆府中市障害福祉計画(第5期)・府中市障害児福祉計画(第1期)

府中市ホームページトップページ ⇒ 行政情報 ⇒ 施策・計画 ⇒ 健康福祉分野

⇒ 府中市障害福祉計画・障害児福祉計画

F1 記入される方とあて名ご本人との関係についておたずねします。(1つに○)

- (N=1,419)
- 1. 本人 75.2%
 - 2. 配偶者 5.4%
 - 3. 母親 9.5%
 - 4. 父親 1.8%
 - 5. 子ども 3.3%
 - 6. 兄弟姉妹 0.8%
 - 7. その他(具体的に：) 1.3%
 - 無回答 2.7%

あなたご自身のことについておたずねします
※ここという「あなた自身」とは、調査票を送りしたあて名ご本人のことです。

F2 あなたの性別と年齢をお答えください。(1つに○)

* 戸籍上の性別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

- (1) 性別 (N=1,419)
- 1. 男性 47.7%
 - 2. 女性 49.6%
 - 無回答 2.7%
- (2) 年齢 * 平成31年4月1日現在の年齢でお答えください。(N=1,419)
- 1. 18~24歳 7.8%
 - 2. 25~29歳 6.1%
 - 3. 30~34歳 3.5%
 - 4. 35~39歳 4.2%
 - 5. 40~44歳 5.6%
 - 6. 45~49歳 7.7%
 - 7. 50~54歳 6.7%
 - 8. 55~59歳 5.8%
 - 9. 60~64歳 6.1%
 - 10. 65歳以上 44.9%
 - 無回答 1.6%

F3 あなたはどちらにお住まいですか。(1つに○)

* 市内にお住まいの方は()内にも記入してください。

- (N=1,419)
- 1. 市内 97.7% → () 町 () 丁目
 - 2. 市外 0.7%
 - 無回答 1.6%
- (n=1,387)
- 中央文化センター-圏域 16.6%
 - 白米台文化センター-圏域 10.2%
 - 西府文化センター-圏域 6.3%
 - 武蔵台文化センター-圏域 6.9%
 - 新町文化センター-圏域 11.7%
 - 住吉文化センター-圏域 11.0%
 - 建設文化センター-圏域 8.7%
 - 紅葉区文化センター-圏域 7.7%
 - 狹山文化センター-圏域 4.2%
 - 西谷文化センター-圏域 4.8%
 - 片町文化センター-圏域 8.9%
 - 無回答 3.0%

F4 あなたと同居*している方はどなたですか。(いくつでも○)

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。

* 配偶者の親族を含めてお答えください。

- (N=1,419)
- 1. ひとりの暮らし(自分のみ) 17.8%
 - 2. 配偶者(夫または妻) 44.7%
 - 3. 息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む) 27.8%
 - 4. 母親 24.5%
 - 5. 父親 18.1%
 - 6. 祖父、祖母 1.6%
 - 7. 兄弟、姉妹 10.6%
 - 8. その他 6.6%
 - [具体的に：]
 - 無回答 1.1%

F5 あなたがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。

お持ちの手帳等の種類	現在の手帳の程度・受給状況
身体障害者手帳 (n=882)	1級 34.5% 2級 19.0% 3級 13.3% 4級 23.4% 5級 5.1% 6級 4.8%
愛の手帳 (n=234)	1度 9.4% 2度 23.1% 3度 21.4% 4度 46.2%
精神障害者保健福祉手帳 (n=198)	1級 5.1% 2級 46.5% 3級 48.5%
自立支援医療受給者証 (N=1,419)	1. 受給している 17.3% 2. 受給していない 9.9% 非該当 72.8%
特定医療費受給者証 (N=1,419)	1. 受給している(対象の疾病：) 14.1% 2. 受給していない 14.4% 非該当 71.5%

※身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の程度は、非該当を除いた手帳所持者数の割合である。

F6 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。(いくつでも○)

- (n=882)
- 1. 視覚障害 6.6%
 - 2. 聴覚障害 10.4%
 - 3. 音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 3.9%
 - 4. 肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害) 47.6%
 - 5. 内部障害(心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害) 34.4%
 - 無回答 3.1%

F7 主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)

(N=1,419)							
1. 出生時(出生前を含む)	9.4%	6. 30~39歳ころ	6.8%				
2. 乳幼児期(0歳~小学校入学前)	9.2%	7. 40~49歳ころ	9.4%				
3. 学齢期(小学校入学~中学校卒業)	3.7%	8. 50~59歳ころ	12.3%				
4. 中学校卒業後~17歳ころ	2.4%	9. 60歳以上	24.2%				
5. 18~29歳ころ	10.9%	10. 分からない	3.0%				
		無回答	8.7%				

F8 あなたの収入源と年収はどれくらいですか。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(1) 収入源 (いくつでも○)				
(N=1,419)				
1. 仕事	32.6%	5. 親族からの援助	6.6%	
2. 各種手当	14.0%	6. その他	12.3%	
3. 障害基礎年金・厚生年金・国民年金	63.4%	[具体的に:]		
4. 生活保護費	7.3%	無回答	3.4%	
(2) 年収 (1つに○)				
(N=1,419)				
1. 50万円未満	10.4%	8. 400万円以上~500万円未満	3.3%	
2. 50万円以上~100万円未満	21.7%	9. 500万円以上~600万円未満	2.5%	
3. 100万円以上~150万円未満	14.7%	10. 600万円以上~700万円未満	1.2%	
4. 150万円以上~200万円未満	10.7%	11. 700万円以上~1,000万円未満	2.3%	
5. 200万円以上~250万円未満	9.2%	12. 1,000万円以上~1,500万円未満	0.6%	
6. 250万円以上~300万円未満	5.3%	13. 1,500万円以上	0.3%	
7. 300万円以上~400万円未満	5.9%	14. その他 [具体的に:]	2.6%	
		無回答	9.3%	

お住まいについておたずねします

問1 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=1,419)			
1. 持ち家の一戸建て	42.6%	5. 公営住宅、UR・公社の賃貸住宅	10.1%
2. 持ち家の集合住宅	20.8%	6. グループホーム	1.0%
3. 民間賃貸の一戸建て	1.3%	7. その他 [具体的に:]	4.7%
4. 民間賃貸の集合住宅	18.3%	無回答	1.2%

問2 お住まいについて何か困っていることがありますか。

(1) 設計・設備について (いくつでも○)			
(N=1,419)			
1. 階段や段差に苦労する	17.4%		
2. 浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便	12.5%		
3. 住宅が狭い・または自分専用の部屋がない	9.9%		
4. 入り口や廊下のスペースが狭く移動がむずかしい	4.4%		
5. 駐車場がない	2.7%		
6. エレベーターがない	7.8%		
7. 耐震補強ができていない	9.2%		
8. その他 [具体的に:]	6.6%		
9. 特に困っていない	53.6%		
無回答	6.1%		

(2) 住居事情について (いくつでも○)

(N=1,419)			
1. 家賃が高い	11.8%		
2. 駅から遠い、貨物が不便など、立地が悪い	14.1%		
3. 近隣に住む人との間に問題を招いている	4.2%		
4. 電車の音や人の声など騒音が気になる	7.1%		
5. その他 [具体的に:]	7.7%		
6. 特に困っていない	56.1%		
無回答	8.0%		

問3 お住まいに関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)

(N=1,419)			
1. 住居設備を改善する工事費用の給付	22.8%	4. 障害に対する不動産会社の理解促進	8.3%
2. 家具転倒防止器具の支給	14.6%	5. 障害者に対する近隣住民の理解促進	10.1%
3. 住居費の助成	22.5%	6. その他 [具体的に:]	8.5%
		無回答	39.7%

日常生活についておたずねします

問4 あなたの日常生活についておたずねします。次のそれぞれ状況について、1～3のいずれか1つに○をつけてください。

((1)～(11)について、それぞれ1つに○)

(N=1,419)	ひとりできる (補装具の使用を含む)	一部介助 が必要	全面的に介助 が必要	無回答
(例)	①	2	3	
(1) 食事	80.8%	8.1%	5.0%	6.1%
(2) 調理	58.0%	13.5%	20.8%	7.7%
(3) 排泄	81.1%	7.3%	5.7%	5.9%
(4) 着替え	77.8%	10.4%	6.3%	5.5%
(5) 入浴	73.2%	11.0%	10.2%	5.6%
(6) 掃除、洗濯	57.2%	16.9%	19.2%	6.7%
(7) 室内の移動	80.1%	7.6%	5.8%	6.5%
(8) お金の管理	62.4%	13.2%	18.1%	6.3%
(9) 外出(買い物なども含む)	57.9%	17.1%	18.9%	6.1%
(10) 人とのコミュニケーション	64.6%	18.3%	10.1%	7.0%
(11) 障害福祉サービスなどの手続き	50.7%	18.4%	23.1%	7.8%

問5 あなたは、日常生活において何らかの介助を受けていますか。(1つに○)

(N=1,419)

1. 受けている →問5-1、5-2、5-3、5-4にお答えください 41.2%
 2. まったく受けていない →問6へ進む 55.6%
 無回答 3.2%

問5-1 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

(1) 介助を頼めるのはなですか。(いくつでも○)

(n=585)

1. 配偶者 33.7% 6. 近所の人 1.4%
 2. 母親 33.0% 7. ボランティア 1.5%
 3. 父親 22.6% 8. 公的なサービス 47.0%
 4. 子ども 24.3% (障害福祉サービス・介護保険サービス)
 5. 兄弟姉妹 14.7% 9. その他(具体的に:) 11.8%
 無回答 2.9%

(2) 主な介助者はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

主な介助者

(n=585)

1. 配偶者 17.6% 6. 近所の人 0.0%
 2. 母親 13.5% 7. ボランティア 0.2%
 3. 父親 1.4% 8. 公的なサービス 10.9%
 4. 子ども 8.0% (障害福祉サービス・介護保険サービス)
 5. 兄弟姉妹 1.4% 9. その他(具体的に:) 4.4%
 無回答 42.6%

問5-2 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

公的なサービスによる介助(介護保険サービス、障害福祉サービス)を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

(n=585)

1. 毎日 11.3% 4. 週に1日 10.6%
 2. 週に4～6日 15.4% 5. 受けていない 34.5%
 3. 週に2～3日 18.5% 無回答 9.7%

問5-3 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

(n=585)

1. 毎日 44.8% 4. 週に1日 9.1%
 2. 週に4～6日 3.8% 5. 受けていない 15.9%
 3. 週に2～3日 9.1% 無回答 17.3%

問5-4 あなた(あなたご本人)が、将来のことで、特に不安に感じていることは何ですか。(いくつでも○)

(n=585)

1. 日常の介助者がいるか 42.9% 8. 必要な医療を受けられるか 40.7%
 2. 働く場があるか 18.8% 9. 希望する施設に入所できるか 36.6%
 3. 生活するうえで十分な収入があるか 46.3% 10. 緊急時にすぐに助けにきてもらえるか 46.3%
 4. 住宅が確保できるか 21.0% 11. ひとりで手続きや手続きができるか 38.8%
 5. 相談や頼ることができる人がいるか 31.6% 12. 趣味や生きがいを持てるか 22.6%
 6. 身近に相談機関があるか 20.7% 13. その他(具体的に:) 6.3%
 7. 必要な支度や備品を受けられるか 31.3% 14. 待たない 8.4%
 無回答 4.1%

障者福祉サービスの利用についておたずねします

問6 福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(8)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

	利用している	希望通り 利用している とはない	希望しているが 希望通り ではない	利用しているが 満足していない	利用したい が利用 できない	利用したくない	利用しない	無回答
(1) 訪問系サービス 自宅を訪問して介護等の日常生活支援を行うサービス	9.4%	30%	0.6%	0.8%	19.0%	16.8%	30.1%	21.3%
(2) 日中活動系サービス 障害者施設において日中に行われる介護・作業・訓練等の 通所提供するサービス	9.9%	32%	0.7%	1.1%	12.3%	18.7%	30.5%	24.0%
(3) 居住系サービス 地域生活を営むための共同生活の住居（グループホーム 等）を提供し、日中や夜間、休日等に必要に応じて、支援を 提供するサービス	2.4%	0.7%	1.8%	1.0%	17.3%	21.7%	31.6%	24.3%
(4) 短期入所サービス 家族が一時に介護できない場合に、施設に短期間 入所し、食事や入浴など、日常生活全般の介護を提供す るサービス	3.9%	3.2%	1.6%	0.8%	19.5%	20.0%	29.2%	22.8%
(5) 相談支援 総合的な相談、サービスの利用種別などの場合のサービス 利用計画の作成などを行うサービス	11.4%	2.9%	0.6%	1.1%	24.9%	11.6%	25.6%	22.3%
(6) 移動支援 ガイドヘルパーを派遣する事業で、同行し、移動の手助けや 交通機関の利用の補助などの外出をサポートするサービス	4.4%	2.7%	1.0%	1.2%	18.4%	18.3%	30.3%	24.2%
(7) 意思疎通支援 手話通訳者、要約筆記者の派遣を行うサービス	1.6%	0.5%	0.1%	0.3%	6.2%	24.3%	39.9%	28.0%
(8) 補装具・日常生活用具の支給 義足や車いすなどの補装具、日常生活用具の費用を支給す るサービス	9.8%	4.6%	0.1%	0.3%	16.8%	16.1%	29.2%	23.5%

問6-1は、問6の(1)～(8)で1つでも「1」「2」と答えた方におたずねします。すべて「3」～「7」と答えた方は問7へお進みください。

問6-1 障者福祉サービスの満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- (n=440)
1. 満足 } →問7へ進む } →問6-2にお答え 17.5%
2. やや満足 } →問7へ進む } →問6-2にお答え 3.9%
3. やや不満 } →問7へ進む } →問6-2にお答え 13.0%
4. 不満 } →問7へ進む } →問6-2にお答え 13.0%
- 無回答

問6-2 問6-1で「3」「4」と答えた方におたずねします。サービスの不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- (n=94)
1. サービス支給量が少ない 24.5% 7. 費用負担が大きい 25.5%
2. サービスの質が良くない 22.3% 8. 利用方法がわかりにくい 16.0%
3. 希望の対応でサービスが使えない 37.2% 9. サービス内容がわかりにくい 18.1%
4. 希望する曜日・時間に使えない 36.2% 10. サービスの情報が入手しにくい 26.6%
5. 希望する事業者や施設が見つからない 19.1% 11. その他 13.8%
6. 緊急時に利用できない 39.4% } (具体的に: 無回答 3.2%

白ごろの活動についておたずねします

問7 あなたは、普段の生活の中でどれくらい外出しますか。(1つに○)

- (N=1,419)
1. ほとんど毎日外出する 52.7% 4. 月に1～2回くらい外出する 4.9%
2. 週に2～3回外出する 24.8% 5. ほとんど外出しない 6.1%
3. 週に1回くらい外出する 7.3% 無回答 4.2%

問8 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- (N=1,419)
1. 満足 } →問9へ進む } →問8-1にお答え 23.3%
2. やや満足 } →問9へ進む } →問8-1にお答え 4.4%
3. やや不満 } →問9へ進む } →問8-1にお答え 20.2%
4. 不満 } →問9へ進む } →問8-1にお答え 4.4%
- 無回答

問8-1 問8で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- (n=392)
1. 建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと 65.1%
2. 公共施設や病院等にスロープ、エレベーターやエスカレーターがないこと 21.9%
3. 誰もが使いやすいトイレの設置が不十分 41.3%
4. 道路に障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が多いこと 48.7%
5. 点字ブロック・視覚障害者用信号の設置が不十分 8.4%
6. 電車・バスなどへの乗車が困難 27.0%
7. 駐車場がない 14.8%
8. 標識や案内がわかりにくい 16.3%
9. コミュニケーションがうまくいかない 13.8%
10. 盲導犬などの補助犬や車いすの入室が配慮された店・レストランが少ない 12.0%
11. 介助者の確保が難しい 13.3%
12. その他（具体的に: 無回答 15.8%

就労についておたずねします

問9 あなたは現在どのような仕事をしていますか。(1つに○)

- (N=1,419)
1. 一般就労 17.3%
 2. 自営業者 2.6%
 3. 家族手伝い 1.2%
 4. パート・アルバイト・日雇い 7.8%
 5. 在宅ワーク 0.6%
 6. 障害者施設に通勤して働いている 8.7%
 7. その他(具体的に) 2.9%
 8. 仕事はしていない 55.5%
- 無回答 3.4%

問9-1 問9で「1」～「7」と答えた方におたずねします。仕事をするうえで不安がありますか。(いくつでも○)

- (n=581)
1. 収入が少ない 38.2%
 2. 仕事が多い 5.7%
 3. 仕事が多い 11.5%
 4. 勤務日数・時間の調整ができない 7.1%
 5. 人間関係がうまくいかない 13.1%
 6. トイレなど設備が不十分でない 4.6%
 7. 通勤がたいへん 15.7%
 8. 雇用形態が不安定 7.4%
 9. 相談できる人がいない 7.7%
 10. その他 8.1%
- 無回答 31.0%
- 無回答 5.0%

問9-2 問9で「8. 仕事はしていない」と答えた方におたずねします。仕事をしない理由が次のどれですか。(いくつでも○)

- (n=790)
1. 就学中・就労前のため 0.6%
 2. 高齢のため 48.2%
 3. 重い障害のため 19.5%
 4. 病気のため(入院を含む) 23.4%
 5. 希望する職種が得られないため 4.2%
 6. 通勤が難しいため 5.3%
 7. 就労に向けて準備中のため 5.2%
 8. 働く必要がないため 9.9%
 9. 解雇されたため 1.3%
 10. その他 11.0%
- 無回答 8.4%
- 無回答 3.3%

問10 あなたは、今後どのような仕事がしたいですか。(いくつでも○)

- (N=1,419)
1. 自営業を営みたい 4.1%
 2. 管公庁・一般企業の正規雇用で働きたい 6.4%
 3. 管公庁・一般企業の障害者枠で働きたい 6.8%
 4. 特例子会社で働きたい 2.7%
 5. 非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい 10.9%
 6. 在宅ワークがしたい 9.3%
 7. 障害者施設に通勤して働きたい 6.5%
 8. 仕事に関する指導してくれる人がいる一般の会社で働きたい 5.1%
 9. その他(具体的に) 5.0%
 10. 分からない 11.5%
 11. 無回答 14.0%

問11 障害等のある人が働くためにはどのようなことを希望しますか。(いくつでも○)

- (N=1,419)
1. 自分の家の近くに働く場所があること 40.6%
 2. 必要ときに通所・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること 40.9%
 3. 障害等のある人に適した仕事が開拓されること 35.5%
 4. 就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること 27.8%
 5. 企業に就職するための訓練を受けたり、求職活動を手伝ってもらったり 15.2%
 6. 職業訓練所など、技能・知識の習得を援助する施設が充実していること 14.7%
 7. 民間企業がもっと積極的に雇用すること 21.1%
 8. 自営業を希望する人への支援を充実すること 8.0%
 9. 事業主や職場の人たちが、障害等のある人の雇用について充分理解していること 31.8%
 10. 事業主や職場の人たちが障害特性について理解していること 30.4%
 11. 職場の施設や設備が障害等のある人にも利用できるように配慮されていること 21.8%
 12. 介助者と一緒に働くこと 8.6%
 13. 同じような障害等のある仲間と一緒に、あるいは交替で働くこと 15.5%
 14. 賃金格差がないこと 22.6%
 15. その他(具体的に) 4.0%
 16. 分からない 16.2%
- 無回答 15.7%

相談・権利擁護についておたずねします

問12 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- (N=1,419)
1. いる →問12-1にお答えください 84.5%
 2. いない →問13へ進む 11.5%
- 無回答 4.0%

問12-1 問12で「1. いる」と答えた方におたずねします。悩みや困りごとについて、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも○)

- (n=1,199)
1. 家族・親族 85.7%
 2. 友人・知人 36.4%
 3. 学校 2.3%
 4. 自分と同じ状況の仲間 10.1%
 5. 役所・児童委員 0.3%
 6. 地域生活支援センター 10.7%
 7. 相談支援事業所 4.3%
 8. 障害者施設・サービス提供事業所 10.6%
 9. 高齢者・介護保険サービス事業所 2.3%
 10. 介護保険のケアマネジャー 9.2%
 11. 市役所(保健センター等も含む) 11.5%
 12. 東京都の保健所 1.2%
 13. 医師、看護師、医療相談員など 25.6%
 14. その他 6.1%
- (具体的に) 無回答 0.1%

問13 あなたは、次の府中市内の障害等のある人のための相談機関等を知っていますか。
 ((1)～(4)について、それぞれ1つに○)

	(N=1,419)					無回答
	利用している	利用していないが、知っている	今後利用したい	利用しない	利用しない、利用したくない、利用する意はない	
(1) 地域生活支援センター（み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと） 地域で生活する障害等のある人やご家族に対し、生活全般の相談、サービス利用、当事者相談などを行っています。	16.0%	31.0%	13.7%	27.3%	12.0%	
(2) 身体障害者相談員・知的障害者相談員 身体障害、知的障害のある人の相談に申し込み、必要な援助を行うため、市内に相談員が配置されています。	3.6%	20.0%	16.9%	42.0%	17.5%	
(3) 聴覚障害者相談事業 相談や申請などで市役所に来た聴覚障害のある人の手話通訳を行います。	1.2%	13.3%	4.9%	55.8%	24.8%	
(4) 計画相談支援事業所 障害福祉サービス等の利用の開始や継続に際して、障害等のある人からの相談を行っています。	6.8%	14.1%	17.0%	41.0%	21.1%	

問14 府中市内の障害等のある人のための相談機関等に求めることは何ですか。

- (N=1,419) (いくつでも○)
- 希望したときに相談に申し込んでもらえる 52.8%
 - 待ち時間が短い 18.8%
 - 費用がかからない 37.2%
 - 悩みや不安を理解してもらえる 33.0%
 - わかりやすく話してくれる 36.6%
 - 説明を丁寧にしてくれる 36.9%
 - 専門的な支援をしてもらえる 31.4%
 - 必要に応じて、他の相談機関や専門機関に つないでくれる 45.5%
 - その他 (具体的に： 無回答) 4.7%

問15 認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）をつけることで、本人を法的に支援する制度として、成年後見制度があります。あなたは、今後成年後見制度を利用するとした場合、成年後見人等にやってほしいことは何ですか。

- (N=1,419) (いくつでも○)
- 預貯金等の管理・解約 35.9%
 - 生活・医療等に関する契約や手続き 53.3%
 - 福祉サービスの契約や手続き 49.7%
 - 不動産の処分 14.3%
 - 相続手続 25.9%
 - 保険金受取り 18.5%
 - 訴訟手続 12.1%
 - その他 (具体的に： 無回答) 5.4%

問16 あなたは、成年後見制度が利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

- (N=1,419)
- 成年後見制度を理解するための周知・啓発 40.3%
 - 成年後見制度の申立てや利用について相談や紹介をしてもらえる機関 37.4%
 - 家族などの親族後見人へのサポート 38.5%
 - 長期間、後見人をする事ができる法人後見人の養成 15.6%
 - 市民感覚で後見をしてもらえる市民後見人の養成 10.7%
 - 弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門職後見人の養成 20.6%
 - 本人を後見人や関係機関等で支える仕組み 23.6%
 - 成年後見に關係する機関向しの地域ネットワーク 15.6%
 - その他 (具体的に： 無回答) 5.4%

防災についておたずねします

問17 あなたは、地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができませんか。(1つに○)

- (N=1,419)
- できる 45.7%
 - できない 31.3%
 - 分からない 20.3%
 - 無回答 2.7%

問18 地震や災害などが起きた場合に、避難を助けてくれるような人がいますか。(いくつでも○)

- (N=1,419) (いくつでも○)
- 家族 77.1%
 - 近所の人 16.6%
 - 障害者団体などの仲間 2.7%
 - 民生委員 1.3%
 - その他 (具体的に： 無回答) 5.1%
 - 避難を助けてくれるような人はいない 10.9%
 - 無回答 3.9%

問19 あなたが災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- (N=1,419)
- 避難所まで避難できるか心配 48.2%
 - 市の緊急連絡メールを受信できるか分からない 17.5%
 - 困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない 16.8%
 - 避難を支援してくれる人がいない 12.8%
 - 災害や避難に関する情報が得られないか心配 24.5%
 - 障害等のある人に配慮した避難所があるか分からない 40.1%
 - 大勢の人の中での避難所生活に不安がある 51.4%
 - 医療を受けられるか分からない 34.2%
 - 呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない 5.1%
 - 障害等のある人が利用できる防災マニュアルや防災マップがない 23.0%
 - 避難場所が分からない 17.8%
 - その他 (具体的に： 無回答) 8.7%

問20 地震などの災害が発生したときに、避難所で配膳してほしいことは何ですか。(いくつでも)
(N=1,419)

1. 段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー 36.7%
 2. 文字や音声など複数の情報伝達手段があること 20.4%
 3. 手話などのコミュニケーション手段の確保 5.6%
 4. 個室、間仕切り（パーティション）などの対応が可能であること 57.2%
 5. 相談窓口や介助スタッフがいること 39.3%
 6. アレルギー対応食や介護食、離乳食などの確保 9.1%
 7. 医療や医薬品の確保 54.2%
 8. 配給などに並びにくい場所の支援 36.2%
 9. 他の避難者の障害への理解 33.1%
 10. その他（具体的に：） 5.1%
 11. 特にない 5.4%
 12. 分からない 3.9%
- 無回答 5.6%

問21 あなたが、災害に備えて市民や企業等が行政と協働で取組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも)
(N=1,419)

1. 地域住民同士の声かけや安否確認 55.3%
 2. 住民たちで行う防災組織の活動の充実 21.6%
 3. 地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実 23.7%
 4. 地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成 35.0%
 5. 地域住民を対象とした防災講習会・学習会の開催 14.4%
 6. 小・中学校の防災教育・訓練の充実 15.1%
 7. 府中市災害時要援護者名簿登録届兼救急災害医療情報キットの申込みの推進 21.6%
 8. 地域内外の団体等との日ごろからの交流 13.7%
 9. 商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など 39.2%
 10. その他（具体的に：） 3.4%
- 無回答 15.2%

問22 あなたが災害対策としてふだんから行っていることは何ですか。(いくつでも)
(N=1,419)

1. 防災グッズ（非常用食料、飲料水等）の準備 58.1%
 2. 家臭の消臭、ガラス拭散対策 29.2%
 3. 貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備 34.4%
 4. 避難場所・ルートの確認 26.6%
 5. 防災訓練への参加 10.0%
 6. 災害時要援護者登録の対象になる場合、その登録 4.4%
 7. 緊急連絡先や支援の方法を記載した防災手帳やヘルパカードの準備 8.5%
 8. 補聴器の電池など日常生活に必要な用品に係る消耗品の備蓄 12.3%
 9. 呼吸器等の電源確保のための非常用電源装置等の準備 2.1%
 10. 簡易談話器などコミュニケーション支援のための道具の準備 2.7%
 11. 日ごろの近所づきあいや自治会・町会等の活動など地域との関わりを深める 16.1%
 12. その他（具体的に：） 4.7%
- 無回答 14.2%

問23 あなたは、入院したことがありますか。(1つにO)
(N=1,419)

1. ある 1問23-1にお答えください 77.2%
 2. ない 1問24に連む 18.6%
- 無回答 4.2%

問23-1 問23で「1. ある」と答えた方におたずねします。
退院するにあたり困ったことはありましたか。(いくつでもO)
(n=1,096)

1. 日常の介助者がいるか 16.1%
 2. 住宅が確保できるか 3.9%
 3. 働く場があるか 10.0%
 4. 十分な収入があるか 20.1%
 5. 必要な支障や機能訓練が受けられるか 13.0%
 6. 必要な医療が受けられるか 20.0%
 7. 緊急時にすぐに助けにきてもらえるか 19.4%
 8. 家族の理解が得られなかった 2.5%
 9. 近隣の理解が得られなかった 1.0%
 10. その他 15.5%
- （具体的に：）
無回答 29.7%

問24 あなたは、現在、通院して医師の治療を受けていますか。(1つにO)
(N=1,419)

1. 自宅で往診や訪問看護を受けている } →問24-1にお答えください
 2. ときどき通院している }
 3. 定期的に通院している }
 4. 治療を受けていない } →問25へ連む
 5. その他 }
- （具体的に：）
無回答 9.2%

問24-1 問24で「1.」「2.」「3」と答えた方におたずねします。
通院などでお困りのことはありますか。(いくつでもO)
(n=1,155)

1. 通院するときに介助をしてくれる人がいない 4.8%
 2. 専門的な治療を行う医療機関が身近にない 11.4%
 3. 専門的なりハビリができてくる機関が身近にない 7.0%
 4. ちよっとした痛みやけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない 7.1%
 5. 気軽に往診を頼める医師がいない 11.7%
 6. 歯医者を受診しにくい 7.9%
 7. 医療費や交通費の負担が大きい 21.6%
 8. 特に困っていない 49.4%
 9. その他（具体的に：） 6.7%
- 無回答 6.3%

地域・共生社会についておたずねします

問25 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあひしていますか。(1つに○)

- (N=1,419)
- 1. 個人的なことを相談し合える人がいる 7.6%
 - 2. さしざわりのないことなら、話せる人がいる 19.5%
 - 3. 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる 34.9%
 - 4. あいさつや会話はいいが、顔を見れば近隣の人と分かる人がいる 11.6%
 - 5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない 12.4%
 - 無回答 14.0%

問26 これからは、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。

- ①あなたは地域で次のようなことを頼みたいと思えますか。【地域で頼みたいこと】
- ②また、地域で次のようなことを頼まれたらできますか。【地域で頼まれたらできること】

	① 【地域で頼みたいこと】		② 【地域で頼まれたらできること】	
	頼みたい・頼みたいと思ったことがある	頼みたい・頼みたくはない 無回答	できる	できない 無回答
(1) 安否確認の声かけ	53.8%	23.5%	52.3%	18.3%
(2) ちょっととした買い物やゴミ出し	23.6%	50.7%	40.3%	19.5%
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	18.3%	56.0%	23.2%	21.9%
(4) 通院の送迎や外出の手助け	24.1%	49.6%	19.7%	22.7%
(5) 子どもの預かり	10.3%	51.9%	15.9%	23.6%
(6) 話し相手や相談相手	29.9%	42.6%	38.7%	21.2%
(7) 災害時避難の手助けの準備	42.6%	31.1%	30.6%	22.1%
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	41.6%	32.1%	43.0%	20.7%

問27 あなたは、地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事にどの程度参加していますか。(1つに○)

- (N=1,419)
- 1. よく参加している → 問27-1にお答えください 3.8%
 - 2. 時々参加している → 問27-1にお答えください 11.9%
 - 3. あまり参加していない → 問27-2にお答えください 17.1%
 - 4. まったく参加していない → 問27-2にお答えください 60.8%
 - 無回答 6.4%

問27-1 問27で「1」「2」と答えた方におたずねします。
どのような地域での活動やボランティアに参加していますか。(いくつでも○)

- (n=223)
- 1. 子育て世帯や児童、青少年を支援する活動 7.6%
 - 2. 高齢者を支援する活動 19.3%
 - 3. 自分と同じ状況の仲間を支援する活動 17.0%
 - 4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動 12.1%
 - 5. 非行や犯罪をした人を支援する活動 2.2%
 - 6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動 23.8%
 - 7. 国際交流に関する活動 4.9%
 - 8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動 22.9%
 - 9. スポーツ活動 22.0%
 - 10. 音楽や絵画などの芸術活動 13.5%
 - 11. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動 40.8%
 - 12. その他（具体的に：） 13.5%
 - 無回答 2.7%

問27-2 問27で「3」「4」と答えた方におたずねします。
活動や行事に参加していない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

- (n=1,105)
- 1. 障害や病気で体調が良くないため 40.9%
 - 2. 興味のある活動がない 16.6%
 - 3. 活動に関する情報がない 19.4%
 - 4. メリットを感じない 6.4%
 - 5. さっかかけがない 24.3%
 - 6. 仕事や家事等で時間が足りない 17.6%
 - 7. 一緒に活動する仲間がない 17.3%
 - 8. 人間関係等がわずらわしい 18.6%
 - 9. 参加方法が分からない 16.2%
 - 10. バリアフリー環境や合理的配慮に不安がある 5.3%
 - 11. その他 9.4%
 - （具体的に：）
 - 12. 特にない 10.0%
 - 無回答 4.3%

問28 今後参加したい、継続して参加したい地域活動やボランティア活動は、次のどれですか。(いくつでも)

- (N=1,419)
1. 子育て世帯や児童、青少年を支援する活動 7.4%
 2. 高齢者を支援する活動 11.3%
 3. 自分と同じ状況の仲間を支える活動 21.9%
 4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動 7.4%
 5. 非行や犯罪をした人を支援する活動 2.1%
 6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動 12.9%
 7. 国際交流に関する活動 6.5%
 8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動 10.5%
 9. スポーツ活動 13.0%
 10. 音楽や絵画などの芸術活動 15.4%
 11. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動 15.7%
 12. その他(具体的に：) 5.7%
 13. いずれも参加したくない 無回答 25.8%

問29 障害等のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことをめざす「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方がありますが、この「共生社会(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに)

- (N=1,419)
1. はい → 問30へ進む 19.2%
 2. いいえ → 問29-1にお答えください 64.1%
- 無回答 16.7%

問29-1 問29で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。どのようなことがあれば「理解されている」と思いますか。(3つまで)

- (n=910)
1. 特別な目で身ないこと 52.7%
 2. 自分のことを理解して受け入れができること 36.4%
 3. 自分がやりたいことへの手助けがあること 19.3%
 4. 思いやりのある声かけがあること 46.6%
 5. 無視せず、話を聞くこと 22.5%
 6. トイレや車などを利用しやすくすること 30.5%
 7. 盲導犬などの補助犬や車いすでの入店ができること 18.6%
 8. その他(具体的に：) 5.9%
- 無回答 4.3%

問30 「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

あなたは役所、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を必要としていますか。(いくつでも)

- (N=1,419)
1. 困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する 48.6%
 2. 障害等のある人の歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、希望を聞く 22.5%
 3. 車いすの利用者が利用しやすいようカウンターの高さに配慮する 19.1%
 4. 移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など) 24.3%
 5. 障害等の特性により、継続に配慮の必要がある場合に、会議の座席位置を隣近にする 17.5%
 6. 音や振動、室温など感覚面の調整を行う 11.2%
 7. 疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける 26.9%
 8. 物の位置を分かりやすく伝える 17.3%
 9. 取柄を手伝う(手の届きにくいところにあるものをとる、しまうなど) 12.9%
 10. 障害等の特性に合わせたコミュニケーション手段を用いる 25.5%
 11. ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける 27.0%
 12. 漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする 11.1%
 13. 伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくりと具体的に伝えることを心がける 19.5%
 14. 障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする 27.4%
 15. その他(具体的に：) 3.1%
 16. 分からない 無回答 13.4%

問31 あなたは、地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていますか。(1つに)

- (N=1,419)
1. できている → 問32へ進む 50.7%
 2. できていない → 問31-1にお答えください 12.8%
 3. 分からない → 問32へ進む 26.1%
- 無回答 10.4%

問31-1 問31で「2. できていない」と答えた方におたずねします。地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていないと感じる理由は何ですか。(いくつでも)

- (n=181)
1. 地域の中に居場所がない 23.2%
 2. 地域の中に頼れる友人・知人がいない 60.2%
 3. 地域の中に茶館を築く機会がない 32.6%
 4. 希望する住まいが育つからない 12.7%
 5. 希望する仕事が見つからない 17.7%
- その他(具体的に：) 無回答 5.0%

しごと
施策についておたずねします

問32 府中市は障害等のある人の施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。次の項目の中から、優先順位の高いものを5つ、下記の□に番号を記入してください。

(N=1,419)

- | | |
|--------------------------------------------|-------|
| 1. 各種相談事業を充実すること | 42.4% |
| 2. 障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること | 29.1% |
| 3. 権利擁護事業や成年後見制度の取組の充実を図ること | 13.0% |
| 4. 障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること | 39.4% |
| 5. ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること | 31.2% |
| 6. 利用できる通所施設を整備すること | 26.6% |
| 7. 補装具・日常生活用具給付事業を充実すること | 19.6% |
| 8. 外出時の移動支援サービスを充実すること | 25.4% |
| 9. グループホームを充実すること | 18.0% |
| 10. 視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること | 15.5% |
| 11. 障害等のある人の自立生活をめざした取組の組みが家庭・学校・地域で行われること | 24.0% |
| 12. 障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすこと | 22.6% |
| 13. 障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること | 29.7% |
| 14. 障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること | 12.2% |
| 15. 精神状態の不安定に対する支援の充実 | 22.1% |
| 16. その他（具体的に：) | 3.2% |
| 17. 分からない
無回答 | 6.8% |
| | 8.7% |

番号を1つ記入	番号を1つ記入	番号を1つ記入	番号を1つ記入
番号を1つ記入	番号を1つ記入	番号を1つ記入	番号を1つ記入

問33 府中市の障害等のある人の施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に
関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

——ご協力ありがとうございました——

お知らせ

この調査の結果については、令和2年4月頃に府中市のホームページで公開する他、調査報告書を府中市役所障害者福祉課窓口等に設置いたします。ぜひ、ご覧ください。

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画 までのスケジュール

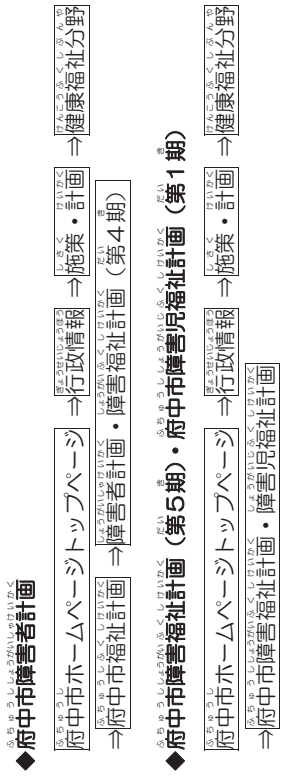
府中市障害者計画※1、府中市障害福祉計画※2、府中市障害児福祉計画※3は、この調査結果等を基礎資料とし、市民、学識経験者、障害者福祉団体等から構成された「府中市障害者計画推進協議会」で検討を進めながら策定します。

※1：障害者のための施策全般に関する基本的な考え方や方向性を定める6年間の計画
 ※2：障害福祉サービスの必要量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画
 ※3：障害児福祉サービスの必要量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画

- 令和2年3月 この調査もろもろの調査報告書を取りまとめます。
- 令和2年4月頃 調査報告書を府中市のホームページで公開するとともに、各関係機関に設置します。
- 令和2年秋頃 計画についてパブリックコメントを実施します。
- 令和3年3月 ここでいただいたご意見をもとに計画を再調整します。

なお、現計画（第4期）府中市障害者計画・府中市障害福祉計画（第5期）・障害児福祉計画（第1期）は、前回の皆様にご回答いただいたアンケートを基礎資料として策定し、府中市役所障害者福祉課窓口や中央図書館等にてご覧いただけます。

また、以下の府中市のホームページ (<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>) でもご覧いただけます。



府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画 策定のための調査 子どもの育ちや発達に関する調査についてのお願い

市民の皆様には日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆様のご意見を幅広くお聴きし、令和3年3月に策定を予定しております「府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画」の基礎資料とするために、調査を実施します。

この調査は、府中市にお住まいの18歳未満の身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費受給者証、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証をお持ちの方の中から、1,000名を無作為に選ばせていただき、保護者の方にご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理するとともに、「府中市個人情報保護に関する条例」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年10月 府中市

記入についてのおお願い

- 封筒のあて名のお子さんについて、保護者の方がご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「お子さん」とは、封筒のあて名の方を指します。保護者の方の回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただき、記入してください。
- 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください
- お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください
- の場合は回答内容等を記入してください。
- 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

11月11日（月）までに

ご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】
府中市福祉保健部障害福祉課 TEL 042-335-4545

※ 監護文における「お子さん」とは対価のあて名のお子さんのことを指します。
また、「あなた」とは記入者のことを指します。

F1 記入される方とあて名のお子さん（以下、お子さん）との関係についてお答えねます。（1つに○）
(N=651)

- 1. 母親 89.5%
- 2. 父親 9.5%
- 3. 祖父 0.0%
- 4. 祖母 0.5%
- 5. その他（具体的に：） 0.2%
- 無回答 0.3%

F2 お子さんはどちらにお住まいですか。（1つに○）

*市内にお住まいの方は 内にも記入してください。
(N=651)

- 1. 市内 99.2% → 町 丁目

- 2. 市外 0.0%
- 無回答 0.8%

- (n=646)
- 中央文化センター-圏域 16.0%
 - 白糸台文化センター-圏域 11.6%
 - 西府文化センター-圏域 9.4%
 - 武蔵台文化センター-圏域 5.4%
 - 新町文化センター-圏域 7.6%
 - 住吉文化センター-圏域 11.3%
 - 岸田文化センター-圏域 8.2%
 - 紅葉丘文化センター-圏域 9.1%
 - 押立文化センター-圏域 2.9%
 - 四谷文化センター-圏域 5.4%
 - 片町文化センター-圏域 10.2%
 - 無回答 2.9%

あて名のお子さんについてお答えねます

F3 お子さんの性別と年齢をお答えください。（1つに○）

*戸籍上の性別とは別にお子さんのお気持ちを踏まえて、ご記入ください。

- (1) 性別
(N=651)

- 1. 男性 65.9%
- 2. 女性 33.5%
- 無回答 0.6%

(2) 年齢 *平成31年4月1日現在の年齢でお答えください。
(N=651)

- 1. 乳幼児（0～1歳） 0.5%
- 2. 幼児（2～5歳） 26.9%
- 3. 小学生（6～8歳） 19.5%
- 4. 小学校高学年（9～11歳） 21.4%
- 5. 中学生（12～14歳） 15.7%
- 6. 高校生（15～17歳） 15.2%
- 無回答 0.8%

F4 お子さんがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。

お持ちの手帳等の種類	現在の手帳の程度・受給状況					
身体障害者手帳 (n=130)	1級	38.5%	2級	23.1%	3級	17.7%
	4級	12.3%	5級	3.8%	6級	4.6%
	1度	2.0%	2度	27.6%	3度	21.8%
愛の手帳 (n=348)	1度	48.6%				
	2度					
精神障害者保健福祉手帳 (n=36)	1級	2.8%	2級	25.0%	3級	72.2%
特定医療費受給者証 (N=651)	1. 受給している（対象の疾病：） 2.5%					
	2. 受給していない 18.6% 非該当 79.0%					
児童通所受給者証 ・障害福祉サービス受給者証 (N=651)	1. 受給している（利用中のサービス：） 56.7%					
	2. 受給していない 7.1% 非該当 36.3%					

※身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の程度は、非該当を除いた手帳所持者数の割合である。

F5 身体障害者手帳をお持ちの方にお答えねます。お子さんの身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。（いくつでも○）
(n=130)

- 1. 視覚障害 3.1%
- 2. 聴覚障害 14.6%
- 3. 音声・言語・そしゃく・平衡機能障害 2.3%
- 4. 肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害） 68.5%
- 5. 内部障害（心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害） 21.5%
- 無回答 1.5%

F6 お子さんの主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。（1つに○）
(N=651)

- 1. 出生時（出生前を含む） 29.0%
- 2. 乳幼児期（0歳～小学校入学前） 57.7%
- 3. 学齢期（小学校入学～中学校卒業） 6.9%
- 4. 中学校卒業後～17歳ころ 0.3%
- 5. 分からない 2.3%
- 無回答 3.8%

F7 お子さんと同居*している方はどなたですか。（いくつでも○）

*2世帯住宅は同居としてお答えください。

*お子さんの父母の親族を含めてお答えください。
(N=651)

- 1. 母親 94.5%
- 2. 父親 84.6%
- 3. 祖父、祖母 7.8%
- 4. 兄弟、姉妹 60.1%
- 5. 親族 0.8%
- 6. その他（具体的に：） 1.2%
- 無回答 2.2%

お子さんの通園・通学の状況についておたずねします

問1 お子さんは現在、保育所・保育園・幼稚園や学校に通っていますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------------|-------|
| (N=651) | 10.4% |
| 1. 保育所・保育園・保育ルーム | 8.8% |
| 2. 幼稚園 | 0.3% |
| 3. 特別支援学校幼稚部 | 8.6% |
| 4. 公立小学校 (通常の学級に在籍) | 7.4% |
| 5. 公立小学校 (通級指導学級・特別支援教室も利用) | 10.9% |
| 6. 公立小学校 (特別支援学級に在籍) | 12.8% |
| 7. 特別支援学校小学校部 | 0.6% |
| 8. 私立小学校 | 3.4% |
| 9. 公立中学校 (通常の学級に在籍) | 1.4% |
| 10. 公立中学校 (通級指導学級も利用) | 5.4% |
| 11. 公立中学校 (特別支援学級に在籍) | 4.9% |
| 12. 特別支援学校中学校部 | 0.5% |
| 13. 私立中学校 | 3.1% |
| 14. 高等学校 | 11.5% |
| 15. 特別支援学校高等部 | 7.2% |
| 16. その他 (具体的に:
どこにも通っていない) | 2.5% |
| 17. 無回答 | 0.3% |

問1-1 問1で「1」～「16」と答えた方におたずねします。

お子さんの通園・通学で、困っていることはありませんか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------------|-------|
| (n=633) | 1.7% |
| 1. 通わせたい園・学校に空きがない | 16.0% |
| 2. 通園・通学の送迎が大変 | 7.7% |
| 3. 通っている園・学校の対応が十分ではない | 8.7% |
| 4. 通っている園・学校が子どもに通っているのか分からない | 12.5% |
| 5. その他 (具体的に:
特にない) | 51.3% |
| 6. 無回答 | 2.1% |

お住まいについておたずねします

問2 あなた(記入者)のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

- | | | | |
|--------------------|-------|----------------|------|
| (N=651) | 34.8% | 6. グループホーム | 0.0% |
| 1. 持ち家の一戸建て | 31.6% | 7. その他 | 2.6% |
| 2. 持ち家の集合住宅 | 1.5% | (具体的に:
無回答) | 0.5% |
| 3. 民間賃貸の一戸建て | 22.1% | | |
| 4. 民間賃貸の集合住宅 | 6.9% | | |
| 5. 公営住宅、UR・公社の賃貸住宅 | | | |

問3 お住まいについて何か困っていることがありますか。

(1) 設計・設備について (いくつでも) (N=651)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 階段や段差に苦労する | 7.4% |
| 2. 浴室・トイレなどの家屋外の設備が不便 | 7.5% |
| 3. 住宅が狭い・または十分な部屋がない | 17.4% |
| 4. 入り口や廊下のスペースが狭く移動がむずかしい | 4.0% |
| 5. 駐車場がない | 4.1% |
| 6. エレベーターがない | 5.1% |
| 7. 耐震補強ができていない | 3.7% |
| 8. その他 (具体的に:
特に困っていない) | 100% |
| 9. 無回答 | 61.8% |
| | 1.8% |

(2) 住宅事情について (いくつでも) (N=651)

- | | |
|------------------------------------------|-------|
| 1. 家賃が高い | 17.2% |
| 2. 駅から遠い、賃料が不便など、立地が悪い | 12.4% |
| 3. 近隣に住む人との間に問題を抱えている | 4.6% |
| 4. お子さんが大きな音を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている | 8.9% |
| 5. 電車の音や人の声など騒音が気になる | 4.5% |
| 6. その他 (具体的に:
特に困っていない) | 10.6% |
| 7. 無回答 | 54.5% |
| | 1.7% |

問4 お住まいに関する困りことで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| (N=651) | 22.1% |
| 1. 住宅設備を改善する工事費用の給付 | 11.2% |
| 2. 家具転倒防止器具の支給 | 36.7% |
| 3. 住居費の助成 | 18.3% |
| 4. 障害等や子どもや発達に対する不動産会社の理解促進 | 42.5% |
| 5. 障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進 | 5.7% |
| 6. その他 (具体的に:
無回答) | 20.6% |

日常生活についておたずねします

問5 お子さんは、日常生活において障害や疾病などがあるために何らかの介助を受けていますか。(1つに○)

- (N=651)
- 1. 受けている → 前5-1、5-2、5-3にお答えください 37.0%
 - 2. 受けていない → 前6へ進む 61.5%
 - 無回答 1.5%

問5-1 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

(1) 介助をしている人はどなたですか。(いくつでも○)

- (n=241)
- 1. 母親 91.3%
 - 2. 父親 63.5%
 - 3. 祖父 6.6%
 - 4. 祖母 15.8%
 - 5. 近所の人 1.2%
 - 6. ボランティア 0.0%
 - 7. 公的なサービス(福祉サービス) 54.8%
 - 8. その他(具体的に:) 10.8%
 - 無回答 0.4%

(2) 主に介助している人はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

主な介助者

- (n=241)
- 1. 母親 880%
 - 2. 父親 2.1%
 - 3. 祖父 0.0%
 - 4. 祖母 0.8%
 - 5. 近所の人 0.8%
 - 6. ボランティア 0.0%
 - 7. 公的なサービス(福祉サービス) 2.1%
 - 8. その他(具体的に:) 0.8%
 - 無回答 5.4%

問5-2 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

お子さんは、障害や疾病などの支援として公的なサービス(例: ホームヘルプ・訪問看護)による介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- (n=241)
- 1. 毎日 2.5%
 - 2. 週に4~6日 30.7%
 - 3. 週に2~3日 12.4%
 - 4. 週に1日 13.3%
 - 5. 受けていない 36.1%
 - 無回答 5.0%

問5-3 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

お子さんは、障害や疾病などの支援として家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- (n=241)
- 1. 毎日 52.3%
 - 2. 週に4~6日 4.1%
 - 3. 週に2~3日 4.6%
 - 4. 週に1日 3.3%
 - 5. 受けていない 19.5%
 - 無回答 16.2%

福祉サービスの利用についておたずねします

問6 お子さんの福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1) ~ (15) のそれぞれについて、「1」~「7」にいくつでも〇をつけてください。

	利用希望通り 利用できている	利用希望通り ではない	利用しているが 希望通りではない	事業所に空きがない	利用したいが 事業所に空きがない	か利用 しない	今後 利用 したい	利用 したくない	分 からない	無 回答
(N=651)										
居宅介護（ホームヘルプ）										
(1) 自宅で、食事・排せつ・入浴の介護など、日常生活上の支援を行うサービス	2.9%	2.6%	0.6%	1.4%	10.6%	26.6%	27.0%	29.2%		
同行支援										
(2) 移動介護により、移動に著しい困難を有する障害者のある人の外出に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の促進などを提供するサービス	0.3%	0.0%	0.3%	0.8%	3.4%	28.6%	32.7%	33.9%		
行動支援										
(3) 知的障害・精神障害により行動に著しい困難のある大人に、行動の励み・励み、その他の支援を行うサービス	0.9%	1.1%	2.5%	1.7%	16.6%	20.3%	28.4%	29.3%		
短期入所（ショートステイ）										
(4) 自宅で介護する人の病気の機会などに、短期間、夜間も含め施設で、食事・排せつ・入浴の介護などを提供するサービス	3.2%	3.7%	4.8%	3.1%	20.3%	20.9%	20.3%	26.0%		
児童発達支援										
(5) 障害のある児童（障害の程度が軽度）に日常生活における基本動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与支援は、集団生活への適応のための訓練を行うサービス	21.7%	7.2%	3.8%	4.9%	16.1%	8.1%	18.9%	21.7%		
医療型児童発達支援										
(6) 障害のある児童（障害の程度が重度）に日常生活における基本動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与支援は、集団生活への適応のための訓練を行うとともに治療を提供するサービス	4.1%	2.8%	2.3%	3.8%	16.0%	15.5%	26.9%	29.8%		
放課後等デイサービス										
(7) 就学前に学校卒業終了後や休業日に生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進など多様なメニューを提供するサービス	36.9%	12.6%	6.1%	3.5%	21.0%	6.1%	9.5%	8.6%		

問6-1 福祉サービスについて、満足していますか。(1つに〇)

(n=525)

1. 満足 } → 問7へ進む } → 問6-2にお答えください }
 2. やや満足 } → 問7へ進む } → 問6-2にお答えください }
 3. やや不満 } → 問6-2にお答えください }
 4. 不満 } → 問6-2にお答えください }
 無回答 } → 問6-2にお答えください }

問6-1は、問6の(1)~(15)で1つでも「1」「2」と答えた方におたずねします。すべて「3」~「7」と答えた方は問7へお進みください。

問6-1 福祉サービスについて、満足していますか。(1つに〇)

(n=525)

1. 満足 } → 問7へ進む } → 問6-2にお答えください }
 2. やや満足 } → 問7へ進む } → 問6-2にお答えください }
 3. やや不満 } → 問6-2にお答えください }
 4. 不満 } → 問6-2にお答えください }
 無回答 } → 問6-2にお答えください }

問6-2 問6-1で「3」「4」と答えた方におたずねします。

福祉サービスの不備な理由はどれですか。(いくつでも)

(n=171)

- | | | | |
|----------------------|-------|-------------------|-------|
| 1. サービス支給量が少ない | 35.1% | 7. サービス内容が分かりにくい | 22.8% |
| 2. 相談先が少ない | 33.9% | 8. サービスの情報が入手しにくい | 41.5% |
| 3. 希望する事業者や施設が見つからない | 43.9% | 9. その他 | 39.8% |
| 4. 緊急時に利用できない | 40.9% | [具体的に:] | |
| 5. 費用負担が大き | 17.5% | 無回答 | 1.2% |
| 6. 利用方法が分かりにくい | 23.4% | | |

お子さんの育ちや発達についておたずねします

問7 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、気になったことはありますか。

初めて気になった時期についてお答えください。(1つに)

(N=651)

- | | | | |
|---------------|-------|----------------|------|
| 1. 0歳~2歳 | 69.5% | 4. 中学校 [] 年生 | 0.5% |
| 2. 3歳~就学前 | 20.7% | 5. 高等学校 [] 年生 | 0.2% |
| 3. 小学校 [] 年生 | 5.8% | 6. 気になったことはない | 2.5% |
| | | 無回答 | 0.8% |

問8 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも)

(N=651)

- | | | | |
|---------------------|-------|------------------------|-------|
| 1. 家族・親族 | 75.4% | 10. 児童相談所 | 18.1% |
| 2. 友人・知人 | 47.2% | 11. 市役所(保健センター等も含む) | 40.1% |
| 3. 保育園・幼稚園・学校 | 57.8% | 12. 東京都保健所 | 4.5% |
| 4. お子さんと同じ状況の子もいる人 | 43.2% | 13. 東京都立の障害機関 | 43.2% |
| 5. 民生・児童委員 | 2.2% | 14. 医療機関(東京都立の療育機関を除く) | 48.7% |
| 6. 児童館 | 1.8% | 15. その他 | 11.2% |
| 7. 子ども家庭支援センター | 15.1% | [具体的に:] | |
| 8. 子ども発達支援センター・あゆの子 | 46.9% | どこにも相談していない | 0.9% |
| 9. 地域生活支援センター | 6.1% | 無回答 | 0.2% |

問8-1 問8で「1」~「15」のいずれかを選んだ方におたずねします。

相談をしたことで、どのような効果がありましたか。(いくつでも)

(n=644)

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1. 話を聞いてもらって気持ちが楽になった | 53.1% |
| 2. 具体的な対応方法を差えることができた | 64.4% |
| 3. 適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった | 56.1% |
| 4. 家族で子どものことについて話し合う時間が増えた | 34.0% |
| 5. 支援を受けて子どもが成長した | 53.0% |
| 6. 様々な情報をもらい、子育ての役に立った | 47.0% |
| 7. 同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた | 50.2% |
| 8. その他(具体的に:] | 4.7% |
| 9. 特に変化はない | 5.3% |
| 無回答 | 1.1% |

問9 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、医療機関で診断を受けましたか。(1つに)

(N=651)

- | | | | |
|--------------|-------|-----|------|
| 1. 診断を受けた | 90.3% | 無回答 | 2.5% |
| 2. 診断を受けていない | 7.2% | | |

問10 あなた(記入者)は、障害等のある人や育ちや発達が気になる子に関する府中市内の次の相談機関等を知っていますか。(1)~(5)について、それぞれ1つに)

	利用している	利用しているが、利用していない	知っているが、今後利用したい	利用しないが、利用したい	利用しない	無回答
(N=651)						
(1) 地域生活支援センター(み・ぬ、初め、方が、あんど)	15.5%	42.5%	17.4%	21.5%	3.1%	
(2) 子ども発達支援センター あゆの子	38.6%	35.8%	3.7%	19.0%	2.9%	
(3) 身体障害者相談員・知的障害者相談員	1.2%	16.3%	32.6%	45.8%	4.1%	
(4) 聴覚障害者相談事業	0.0%	9.5%	2.6%	79.5%	8.4%	
(5) 障害福祉サービス等の利用の開始や継続に際して、障害等のある人やご家族からの相談を行っています。	10.1%	14.6%	35.9%	34.9%	4.5%	

問11 あなた(記入者)は、お子さんの育ちや発達へのライフステージに合わせた切れ目のない支援として、次のうちのどのようなことを希望されますか。(いくつでも)

- (N=651)
1. 乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること 68.7%
 2. 入学・進学などのタイミングに合わせて、お子さんへの支援情報が途切れないこと 68.7%
 3. 入学・進学などに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の紹介を受けられること 64.7%
 4. お子さんに合わせた教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること 69.1%
 5. 不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること 61.1%
 6. 子どものライフステージに合わせた切れ目のない支援が行われること 62.8%
 7. その他(具体的に:) 8.4%
 8. 分からない 2.0%
- 無回答 0.8%

問12 あなた(記入者)は、将来、お子さんにどのようなところで働いてほしいと考えていますか。(1つにO)

- (N=651)
1. 会社やお店などで働く(一般就労) 57.4%
 2. 地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労) 17.2%
 3. その他(具体的に:) 6.9%
 4. 分からない 12.1%
 5. 働くことは困難だと思う 5.8%
- 無回答 0.6%

防災についておたずねします

問13 災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも)

- (N=651)
1. 避難所まで避難できるか心配 40.9%
 2. 市の緊急速報メールを受信できるか分からない 7.7%
 3. お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安 44.1%
 4. 避難を支援してくれる人がいない 19.4%
 5. 災害や避難に関する情報が得られるか心配 14.3%
 6. 障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない 55.0%
 7. 大勢の人の中の避難所生活に不安がある 67.7%
 8. 医療を受けられるか分からない 17.7%
 9. 呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない 5.1%
 10. 障害等のある人向けの防災マニュアル、防災マップがない 26.3%
 11. 避難場所が分からない 5.4%
 12. その他(具体的に:) 9.4%
- 無回答 9.4%

問14 災害時に備えて、ふだんからどのようなことを行っていますか。(いくつでも)

- (N=651)
1. 防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備 73.7%
 2. 家具の固定、カラス払散対策 38.6%
 3. 貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備 26.1%
 4. 避難場所・ルートの確認 45.2%
 5. 防災訓練への参加 15.8%
 6. 災害時避難者登録の対象になる場合、その登録 2.0%
 7. 緊急連絡先や支援の方法を記載した防災手帳やヘルプカードの準備 9.2%
 8. 補聴器の電池など日常生活に必要な用具に係る消耗品の備蓄 9.5%
 9. 呼吸器等の電源確保のための非常用電源装置等の準備 1.8%
 10. 簡易筆記器などコミュニケーション支援のための道具の準備 0.8%
 11. 白ごとの近所つきあいや自治会・町会等の活動など地域との関わりを深める 18.3%
 12. その他(具体的に:) 2.2%
- 無回答 4.9%

問15 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも)

- (N=651)
1. 段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー 13.1%
 2. 文字や音声など複数の情報伝達手段があること 10.8%
 3. 手話などのコミュニケーション手段の確保 2.9%
 4. 個室、肩仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること 70.8%
 5. 相談窓口や介助スタッフがいること 39.0%
 6. アレルギ-対応食や介護食、離乳食などの確保 14.6%
 7. 医療や医薬品の確保 32.7%
 8. 配給などに並ぶことができない場合の支援 42.1%
 9. 他の避難者のお子さんへの理解 53.5%
 10. その他(具体的に:) 6.3%
 11. 特にない 6.8%
 12. 分からない 3.7%
- 無回答 1.7%

問16 災害に備えて、市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも)

- (N=651)
1. 地域住民向上の声かけや安否確認 49.0%
 2. 住民たちで行う防災組織の活動の充実 18.4%
 3. 地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実 22.9%
 4. 地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成 33.6%
 5. 地域住民を対象とした防災講習会・学習会の開催 15.5%
 6. 小・中学校の防災教育・訓練の充実 44.1%
 7. 府中市災害時避難者登録簿兼救急災害医療情報キットの申込みの推進 24.9%
 8. 地域内外の団体等との日ごとの交流 14.7%
 9. 商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など 53.3%
 10. その他(具体的に:) 2.8%
- 無回答 7.2%

医療・医療的ケアについておたずねします

問17 お子さんは、日常的に何らかの医療・医療的ケアを必要としていますか。障害者手帳所持の有無に関わらずお答えください。(1つに○)

- (N=651)
1. 必要としている 1問17-1、17-2にお答えください 24.9%
 2. 必要としていない 1問18へ進む 73.1%
- 無回答 2.0%

問17-1 問17で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。病状、お子さんはどのような医療・医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

- (n=162)
1. 人工呼吸器管理 6.2%
 2. 経管栄養 8.0%
 3. 気管内挿管、気管切開 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 9.3%
 4. 酸素吸入 8.0%
 5. 経鼻頭鎖アウエイ管理 0.0%
 6. 経鼻頭鎖アウエイ管理 0.0%
 7. 経鼻頭鎖アウエイ管理 0.0%
 8. 経管栄養 16.7%
 9. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 16.7%
 10. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 16.7%
 11. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 16.7%
 12. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 15.4%
 13. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 0.6%
 14. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 0.6%
 15. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 75.9%
 16. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 13.6%
 17. 経管栄養 (経鼻・鼻ろう・腸ろう・腸管栄養を含む) 3.7%
- その他(具体的に:) 無回答

問17-2 問17で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。お子さんの医療・医療的ケアにあたって、困りことはありませんか。(いくつでも○)

- (n=162)
1. 在宅での医療的ケアがたいへん 8.6%
 2. 通院などの移動がたいへん 31.5%
 3. 長時間の介助がたいへん 14.8%
 4. 休日・夜間の介助がたいへん 16.0%
 5. 医療的ケアの費用負担が大きい 10.5%
 6. 通院・通院先の受け入れが難しい 12.3%
 7. 緊急時・急変時の対応が難しい 21.6%
 8. 身近に対応可能な医療機関がない 6.8%
 9. 訪問看護ステーションがない 1.2%
 10. 困った時の相談先が分からない 7.4%
 11. 医療的ケアに関する情報が少ない 11.7%
 12. 家族への支援が少ない 22.2%
 13. 成人後に受診できる医療機関があるか不安 32.1%
 14. その他 10.5%
 15. その他 20.4%
- 無回答

地域・共生社会についておたずねします

問18 障害等のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことをめざす「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方がありますが、この「共生社会(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに○)

- (N=651)
1. はい 1問19へ進む 11.2%
 2. いいえ 1問18-1にお答えください 87.6%
- 無回答 1.2%

問18-1 問18で「2. いいえ」と答えられた方におたずねします。どのようなことがあればお子さんが「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- (n=570)
1. お子さんを特別な目で見ないこと 45.3%
 2. お子さんのことを理解して受け入れられること 64.7%
 3. お子さんがやりたいことへの手助けがあること 34.0%
 4. お子さんへの思いやりのある声かけがあること 34.9%
 5. お子さんが話すことを無視せず、話を聞くこと 23.7%
 6. トイレや靴などを利用しやすくすること 20.7%
 7. 言葉などの補助や声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと 9.1%
 8. お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと 45.3%
 9. その他(具体的に:) 5.8%
- 無回答 1.6%

問19 「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。役所、保育所・保育園・幼稚園、学校、会社、お店などで、どのような合理的配慮があればよいと思いますか。(いくつでも○)

- (N=651)
1. お子さんやまたる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する 54.2%
 2. お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く 22.6%
 3. 車いすなどを利用しているお子さんが利用しやすいよう前の高さなどに配慮する 25.2%
 4. 移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など) 28.7%
 5. 障害や疾病等の特性に応じて、教室や会議の座席の位置を決める 37.5%
 6. 音や肌触り、室温など感覚面の環境調整を行う 29.2%
 7. お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける 51.6%
 8. 物の位置を分かりやすく伝える 30.0%
 9. 取柄を手伝う(手の届きにくいところにあるものをとる、しまうなど) 18.4%
 10. 障害等の特性に合わせたコミュニケーション手段を用いる 48.5%
 11. ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける 51.3%
 12. 漢字を少なくする、ルビを添えるなどの配慮をする 22.7%
 13. 伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける 36.7%
 14. 障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする 50.5%
 15. その他(具体的に:) 6.0%
 16. 分からない 2.6%
- 無回答 3.5%

問20 あなた(記入者)は、地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じますか。(1つに○)

- (N=651)
1. とても感じる 8.8%
 2. まあ感じる 38.1%
 3. あまり感じない 40.2%
 4. 全く感じない 12.0%
- 無回答 0.9%

施策についておたずねします

問21 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。

(1つに○)

- (N=651)
- | | | | |
|---------|-------|----------|-------|
| 1. 満足 | 4.9% | 3. やや不満足 | 36.1% |
| 2. やや満足 | 42.7% | 4. 不満足 | 8.8% |
| | | 無回答 | 7.5% |

問21-1 「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満足な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- (n=292)
1. 建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと 59.2%
 2. 公共施設や病院等にスロープ、エレベーターやエスカレーターがないこと 26.0%
 3. 誰もが使いやすいトイレの設置が不十分 47.9%
 4. 道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと 39.7%
 5. 点字ブロック・視覚障害者用信号の設置が不十分 10.3%
 6. 電車・バスなどへの乗車が困難 28.1%
 7. 駐車場がない 31.8%
 8. 標識や案内がわかりにくい 15.8%
 9. お子さんに配慮したコミュニケーションがされていない 32.5%
 10. 盲導犬などの補助犬や車いすでの入室が配慮された店・レストランが少ない 15.4%
 11. 介助者の確保が難しい 17.1%
 12. その他(具体的に：) 11.3%
- 無回答 0.0%

問22 府中市は障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんの施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(重要なものに5つまで○)

(N=651)

1. 各種相談事業を充実すること 38.7%
 2. 障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること 18.7%
 3. 権利擁護事業や成住後身制度の取り組みの充実を図ること 16.9%
 4. 障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること 57.1%
 5. ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること 14.4%
 6. 利用できる通所施設を整備すること 40.7%
 7. 補装具・日常生活用具給付事業を充実すること 10.3%
 8. 外出時の移動支援サービスを充実すること 19.4%
 9. グループホームを充実すること 22.1%
 10. 視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること 5.5%
 11. ライフステージに合わせて、切れ目のない支援をすること 58.7%
 12. 障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること 39.8%
 13. 障害等のある人や着ちや発達に気になるお子さんに対する暴力や差別をなくすこと 32.1%
 14. 障害等のある人や着ちや発達に気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること 41.2%
 15. 障害等のある人や着ちや発達に気になるお子さんのための短期入所を充実すること 18.4%
 16. 精神状態の不安定に対する支援の充実 15.8%
 17. その他(具体的に：) 6.3%
 18. 分からない 1.5%
- 無回答 1.8%

問23 府中市の障害等のある人や育ちや発達に気になるお子さんの施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

16 ページ以降は、お子さんの保護者の方についての質問がございます。

続けてご回答ください。

お子さんを主に養育している人についておたずねします

問24 お子さんを主に養育している人はどなたですか。(1つに○)

- (N=651)
1. 母親 82.6%
 2. 父親 15.1%
 3. その他(具体的に:) 1.2%
 - 無回答 1.1%

問25 主に養育している人の年齢を教えてください。(1つに○)

- (N=651)
1. 19歳以下 4.6%
 2. 20~24歳 0.5%
 3. 25~29歳 0.6%
 4. 30~34歳 6.9%
 5. 35~39歳 19.8%
 6. 40~49歳 51.0%
 7. 50~59歳 14.1%
 8. 60歳以上 1.4%
 - 無回答 1.1%

問26 主に養育している人の就労状況等を教えてください(1つに○)

- (N=651)
1. 自営業 5.7%
 2. 正規雇用(正社員等) 24.1%
 3. 非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等) 32.7%
 4. その他(具体的に:) 1.4%
 5. 働いていない 34.4%
 - 無回答 1.7%

問27 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

- (1) 世帯の収入源 (いくつでも○)
- (N=651)
1. 母親の収入 45.3%
 2. 父親の収入 87.1%
 3. 各種手当 26.4%
 4. 国民年金・厚生年金・障害基礎年金 2.8%
 5. 生活保護費 2.8%
 6. 親族からの援助 2.6%
 7. その他(具体的に:) 1.7%
 - 無回答 1.8%
- (2) 世帯の年収 (1つに○)
- (N=651)
1. 200万円未満 6.1%
 2. 200万円以上~300万円未満 5.7%
 3. 300万円以上~400万円未満 6.6%
 4. 400万円以上~500万円未満 9.7%
 5. 500万円以上~600万円未満 14.4%
 6. 600万円以上~700万円未満 12.7%
 7. 700万円以上~800万円未満 11.5%
 8. 800万円以上~900万円未満 8.1%
 9. 900万円以上~1,000万円未満 6.5%
 10. 1,000万円以上 11.5%
 - 無回答 7.2%

問28 主に養育している人は、近隣に住む人と、どの程度おつきあひしていますか。(1つに○)

- (N=651)
1. 個人的なことを相談し合える人がいる 20.7%
 2. さしずわりのないことなら、話せる人がいる 30.4%
 3. 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる 34.5%
 4. あいさつや会話はいいが、顔を合わせれば近所の人だと分かる人がいる 8.0%
 5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない 4.9%
 - 無回答 1.5%

問29 主に養育している人は、ご自身の悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- (1つに○)
1. いる 1-間29-1にお答えください 87.7%
 2. いない 10.8%
 - 無回答 1.5%

問29-1 問29で「1. いる」と答えた方におたずねします。次の人・相談機関等に相談しますか。(いくつでも○)

- (n=571)
1. 家族・親族 85.6%
 2. 友人・知人 68.0%
 3. 保育園・幼稚園・学校 38.7%
 4. お子さんと同じ状況の子ともかいる人 52.9%
 5. 民生・児童委員 0.4%
 6. 児童館 0.0%
 7. 子ども家庭支援センター 6.0%
 8. 子ども発達支援センターあゆみ 11.7%
 9. 地域生活支援センター 2.5%
 10. 障害児通所施設・サービス提供事業所 19.6%
 11. 相談支援事業所 6.5%
 12. 児童相談所 2.6%
 13. 市役所(保健センター等も含む) 8.8%
 14. 東京都の保健所 0.5%
 15. 東京都立の療養機関 27.1%
 16. 医療機関(東京都立の療養機関除く) 23.1%
 17. その他(具体的に:) 6.7%
 - 無回答 0.4%

問30 育ちや発達に気がなるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることは何ですか。次の項目の中から、優先順位の高いものを3つ、下記の□に番号を記入してください。

(N=651)

1. 日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス 26.9%
2. 数日間、お子さんを預かってくれるサービス 12.4%
3. お子さんの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート 8.0%
4. お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス 4.3%
5. 育ちや発達に気がなるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート 10.8%
6. 育ちや発達に気がなるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと 15.4%
7. 主に養育している人自身が趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること 13.8%
8. お子さんが野菜、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持つこと 59.6%
9. 主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること 5.5%
10. お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること 26.9%
11. お子さんの育ちや発達について正しい知識や、向き合い方を学ぶ機会を充実すること 11.7%
12. 養育や教育の体制を充実すること 37.3%
13. 学習クラブなど放課後活動を充実すること 10.1%
14. 医師・保健師のサービス（通院、対談等）が充実すること 14.3%
15. その他〔具体的に： 〕 3.7%
16. 無回答 3.8%

番号を1つ記入	番号を1つ記入	番号を1つ記入

——ご協力ありがとうございました——

おしらせ

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・ 府中市障害児福祉計画策定のための調査 障害者福祉団体調査についてのお願い

皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、令和3年3月に策定を予定しております「府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画」の基礎資料とするために、調査を実施します。

この調査は、府中市の障害福祉団体にご意見やご要望をおうかがいするものです。ご回答いただきました内容は、「府中市個人情報保護の保護に関する条例」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じます。が、調査の趣意をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年10月 府中市

記入についてのお願い

1. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
2. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
□ の場合は回答内容等を記入してください。
3. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
4. 「その他」に○印をつけた方は、[] 内に具体的な答えを記入してください。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

11月11日（月）までに ご返送ください。

調査についてご質問等がありましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】

府中市福祉保健部障害者福祉課 TEL 042-335-4545

この調査の結果については、令和2年4月頃に府中市のホームページで公開する他、調査報告書を府中市役所障害者福祉課窓口等に設置いたします。ぜひ、ご覧ください。

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画 までのスケジュール

府中市障害者計画※1・府中市障害福祉計画※2・府中市障害児福祉計画※3は、この調査結果等を基礎資料とし、市民、学識経験者、障害者福祉団体等から構成された「府中市障害者計画推進協議会」で検討を進めながら策定します。

※1：障害者のための施策全般に関する基本的な考え方や方向性を定める6年間の計画

※2：障害福祉サービスの必要な量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画

※3：障害児福祉サービスの必要な量の見込み、その確保策等に関する3年間の実施計画

令和2年3月 この調査も含めた調査報告書をとります。

令和2年4月頃 調査報告書を府中市のホームページで公開するとともに、各関係機関に設置します。

令和2年秋頃 計画についてパブリックコメントを実施します。

ここでいただいたご意見をもとに計画を再調整します。

令和3年3月 第5期府中市障害者計画・府中市障害福祉計画(第6期)・府中市障害児福祉計画(第2期)を策定します。

なお、現計画（第4期府中市障害者計画・府中市障害福祉計画（第5期）・障害児福祉計画（第1期））は、前回の皆様にご回答いただいたアンケートを基礎資料として策定し、府中市役所障害者福祉課窓口や中央図書館等にてご覧いただけます。

また、以下の府中市のホームページ（<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>）でもご覧いただけます。

◆府中市障害者計画

府中市ホームページ⇒行政情報⇒施策・計画⇒健康福祉分野
⇒府中市福祉計画⇒障害者計画・障害福祉計画（第4期）

◆府中市障害福祉計画（第5期）・障害児福祉計画（第1期）

府中市ホームページ⇒行政情報⇒施策・計画⇒健康福祉分野
⇒府中市障害福祉計画・障害児福祉計画

貴団体についておたずねします

問1 貴団体の名称、連絡先等についておたずねします。

団体名	
代表者氏名	
事務所等住所	〒183- 府中市
連絡先	
TEL	
FAX	
Email	
ホームページURL	

問2 貴団体の令和元年9月1日時点の会員数、運営に携わっている人数を記入してください。

(N=8)

会員数 平均 54.8 人

運営に携わっている人数 平均 7.6 人

問3 貴団体の活動拠点は決まっていますか。(1つに〇)

(N=8)

1. 決まっている → 問3-1にお答えください 87.5%
2. 決まっていない → 問4へ進む 12.5%
- 無回答 0.0%

問3-1 問3で「1. 決まっている」と答えた方におたずねします。活動拠点はどこですか。具体的にお願いします。

問4 貴団体の運営にかかる経費の収入源は何ですか。次の項目の中から、収入が多いものから順に、 へ番号を記入してください。

(それぞれ番号を1つ記入)

(N=8)

最も収入が多いもの	
2番目に収入が多いもの	
3番目に収入が多いもの	

- | | | | |
|----------------------|--------|-------|-------|
| 1. 市からの補助金 | 最も多いもの | 2番目 | 3番目 |
| 2. 市以外からの補助金(具体的に:) | 12.5% | 62.5% | 0.0% |
| 3. 寄付金 | 0.0% | 0.0% | 25.0% |
| 4. 会員からの会費 | 12.5% | 0.0% | 12.5% |
| 5. 事業収入(具体的に:) | 75.0% | 12.5% | 12.5% |
| 6. その他(具体的に:) | 0.0% | 0.0% | 12.5% |
| 無回答 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | 25.0% | 37.5% |

問5 貴団体の活動に関わる現在の会員の充足状況についておたずねします。

(1) 現在の会員数は活動を進めるうえで足りていますか。(1つに〇)

(N=8)

1. 活動を進めるうえで十分な人数がいる 0.0%
2. 活動を進めるうえでは問題ないが、やや不足している 62.5%
3. 会員が不足し、活動に支障が出ている 37.5%
4. 会員が不足し、活動を継続するか検討している 0.0%
- 無回答 0.0%

(2) 今後の会員数の充実について、どのように考えていますか。(1つに〇)

(N=8)

- | | | |
|-----------------|----------------|-------|
| 1. 積極的に増やしていきたい | } 問5-1にお答えください | 25.0% |
| 2. 増やしていきたい | | 50.0% |
| 3. 現状を維持していきたい | } 問6へ進む | 25.0% |
| 4. 特に考えていない | | 0.0% |
| 無回答 | | 0.0% |

問5-1 問5で「1」または「2」と回答された方におたずねします。

貴団体では、会員を増やすために何か取り組みを行っていますか。

(1つに〇)

- (n=6)
1. 行っている → 問5-2にお答えください 100.0%
2. 行っていない → 問6へ進む 0.0%
- 無回答 0.0%

問5-2 問5-1で「1. 行っている」と回答された方におたずねします。
貴団体では、どのような取り組みを行っていますか。

問6 活動するうえで困っていることはありますか。(いくつでもO)

(N=8)	
1. 事業の企画	25.0%
2. 運営方法	0.0%
3. 活動場所の確保	37.5%
4. 会員の意識	25.0%
5. 後継者問題	87.5%
6. 社会の認識	37.5%
7. ネットワークづくり	12.5%
8. 行政支援	0.0%
9. 財政的支援	50.0%
10. 人的支援	37.5%
11. その他(具体的に:)	12.5%
12. 特になし	0.0%
無回答	0.0%

貴団体の相談支援体制についておたずねします

問7 貴団体では、障害者福祉に関する市の相談体制についてどのようなことを望んでおられますか。

災害時の支援についておたずねします

問8 震災等の災害時に、障害等のある人々が安心して過ごせるために、どのような支援が必要だとお考えですか。避難所の問題、救出方法の問題等、どのようなことでもけっこうですので記入ください。

制度の谷間にある方への支援についておたずねします

問9 現状では、障害等のあるすべての人が必要なサービスを受けられる制度となっておりませんが、障害者福祉制度の谷間にある方々に対する支援としてどのようなことが必要とお考えですか。

地域共生社会づくりに向けた協力意向についておたずねします

問 10 平成28年度に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」にて、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、だれもが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。
地域共生社会の実現に向けて、府中市民にもっと意識を持ってもらうようには、貴団体としてどのようなことができますか。

問 11 地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、団体として何か協力できることはありませんか。

障害福祉施策についておたずねします

問 12 平成28年度4月より「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行され、国・地方公共団体等は「不当な差別的取扱いの禁止」「合理的配慮の提供」が法的に義務付けられています。なお、「合理的配慮の提供」については、平成30年10月施行の東京都条例下において民間事業者も義務化されました。
貴団体は障害等のある人への合理的配慮として、特に必要だと思うことは何ですか。また、合理的配慮の好事例がございましたら、合わせてお書きください。

問 13 府中市では、府中市福祉のまちづくり計画や障害者計画等に基づいて、市内におけるバリアフリー施策を推進しています。
貴団体は府中市のバリアフリー施策に関して、どのようなことを期待しますか。

問 14 府中市の障害等のある人の施策に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

—— ご協力ありがとうございました ——

お知らせ

この調査の結果については、令和2年4月頃に府中市のホームページで公開する他、調査報告書を府中市役所障害者福祉課窓口等に設置いたします。ぜひ、ご覧ください。

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画 までのスケジュール

府中市障害者計画※1、府中市障害福祉計画※2、府中市障害児福祉計画※3は、この調査結果等を基礎資料とし、市民、学識経験者、障害者福祉団体等から構成された「府中市障害者計画推進協議会」で検討を進めながら策定します。

- ※1：障害者のための施策全般に関する基本的な考え方や方向性を定める6年間の計画
- ※2：障害福祉サービスの必要な量の見込み、その確保等に関する3年間の実施計画
- ※3：障害児福祉サービスの必要な量の見込み、その確保等に関する3年間の実施計画

令和2年3月 この調査も含めた調査報告書をとりとめます。

令和2年4月頃 調査報告書を府中市のホームページで公開するとともに、各関係機関に設置します。

令和2年秋頃 計画についてパブリックコメントを実施します。

ここでいただいたご意見をもとに計画を再調整します。

令和3年3月 第5期府中市障害者計画・府中市障害福祉計画(第6期)・府中市障害児福祉計画(第2期)を策定します。

なお、現計画（第4期府中市障害者計画・府中市障害福祉計画（第5期）・障害児福祉計画（第1期））は、前回の皆様にご回答いただいたアンケートを基礎資料として策定し、府中市役所障害者福祉課窓口や中央図書館等にてご覧いただけます。

また、以下の府中市のホームページ（<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>）でもご覧いただけます。

◆府中市障害者計画

府中市ホームページトップページ ⇒ 行政情報 ⇒ 施策・計画 ⇒ 健康福祉分野 ⇒ 府中市福祉計画 ⇒ 障害者計画・障害福祉計画（第4期）

◆府中市障害福祉計画（第5期）・障害児福祉計画（第1期）

府中市ホームページトップページ ⇒ 行政情報 ⇒ 施策・計画 ⇒ 健康福祉分野 ⇒ 府中市障害福祉計画・障害児福祉計画

府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画策定のための調査 障害福祉サービス事業所調査についてのお願い

皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

府中市では、皆様のご意見やご要望を幅広くお聴きし、令和3年3月に策定を予定しております「府中市障害者計画・府中市障害福祉計画・府中市障害児福祉計画」の基礎資料とするために、調査を実施します。

この調査は、府中市内の障害福祉サービス事業所にご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容は、「府中市個人情報保護に関する条例」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年10月 府中市

記入についてのお願い

- 各質問に対し、**調査対象となっている事業（宛名ラベル記載）**について回答してください。ただし、事業所単位、法人単位で回答いただきたい質問は、質問文の中で指定しています。
- 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
- お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
□ の場合は回答内容等を記入してください。
- の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
- 「その他」に○印をつけられた方は、[]内に具体的な答えを記入してください。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

11月11日（月）までに ご返送ください。

調査についてご質問等がありましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】

府中市福祉保健部障害者福祉課 TEL 042-335-4545

貴事業所の概要についておたずねします

問1 貴事業所の活動状況についてお教えください。

(1) 貴事業所の名称等についてお教えください。

事業所名			
所在地	〒		
ホームページ	1. あり () 2. なし		
担当者名		部 署	
電話番号			
FAX番号			
Eメール			

(2) 活動状況についてお教えください。

① 組織形態 (1つに〇)

(N=201)

- | | | | |
|-------------|-------|------------------|-------|
| 1. 社会福祉法人 | 26.9% | 6. 医療法人 | 1.5% |
| 2. 社会福祉協議会 | 4.0% | 7. 株式会社 | 31.2% |
| 3. 福祉公社・事業団 | 0.0% | 8. 有限会社 | 6.5% |
| 4. 社団法人 | 4.0% | 9. NPO | 20.4% |
| 5. 財団法人 | 0.0% | 10. その他 (具体的に:) | 2.0% |
| | | 無回答 | 3.5% |

② 貴事業所において実施しているすべての事業 (調査対象となっている事業を含む)
(いくつでも〇)

(N=201)				
1. 居宅介護	41.8%	17. グループホーム	10.0%	
2. 重度訪問介護	37.3%	18. 計画相談支援	20.9%	
3. 同行支援	15.4%	19. 地域移行支援	10.0%	
4. 行動支援	2.5%	20. 地域定着支援	10.0%	
5. 重度障害者等包括支援	1.0%	21. 移動支援	26.4%	
6. 生活介護	9.0%	22. 地域活動支援センター	9.0%	
7. 自立訓練 (機能訓練)	0.0%	23. 日中一時支援	2.0%	
8. 自立訓練 (生活訓練)	0.0%	24. 児童発達支援	7.0%	
9. 就労移行支援	4.5%	25. 医療型児童発達支援	1.0%	
10. 就労継続支援 (A型)	0.0%	26. 訪問型児童発達支援	0.0%	
11. 就労継続支援 (B型)	13.9%	27. 福祉型障害児入所支援	0.0%	
12. 就労定着支援	4.5%	28. 医療型障害児入所支援	0.0%	
13. 療養介護	0.0%	29. 放課後等デイサービス	12.4%	
14. 短期入所	2.5%	30. 障害児相談支援	13.9%	
15. 自立生活援助	0.0%	31. 保育所等訪問支援	1.0%	
16. 施設入所支援	2.0%	32. その他 (具体的に:)	3.0%	
		無回答	1.5%	

③ 調査対象となっている事業

(②の選択肢の中から1つ枠内にご記入ください)

調査対象事業	
(N=201)	
1. 居宅介護	14.1%
2. 重度訪問介護	12.4%
3. 同行支援	4.5%
4. 行動支援	0.0%
5. 重度障害者等包括支援	0.0%
6. 生活介護	5.0%
7. 自立訓練 (機能訓練)	0.0%
8. 自立訓練 (生活訓練)	0.0%
9. 就労移行支援	2.5%
10. 就労継続支援 (A型)	1.0%
11. 就労継続支援 (B型)	8.0%
12. 就労定着支援	1.5%
13. 療養介護	0.0%
14. 短期入所	1.0%
15. 自立生活援助	0.0%
16. 施設入所支援	0.5%
17. グループホーム	6.5%
18. 計画相談支援	7.5%
19. 地域移行支援	2.5%
20. 地域定着支援	3.0%
21. 移動支援	9.0%
22. 地域活動支援センター	2.5%
23. 日中一時支援	0.5%
24. 児童発達支援	4.0%
25. 医療型児童発達支援	0.5%
26. 訪問型児童発達支援	0.0%
27. 福祉型障害児入所支援	0.0%
28. 医療型障害児入所支援	0.0%
29. 放課後等デイサービス	8.5%
30. 障害児相談支援	4.5%
31. 保育所等訪問支援	0.5%
32. その他 (具体的に:)	0.0%
	0.0%
	無回答

(3) 調査対象となっている事業の定員数と利用者数を記入してください。

(令和元年9月1日現在)

(N=201)

現行の定員数	平均 16.47 人	現行の利用人数	平均 19.72 人
--------	------------	---------	------------

(4) 現在、実施していない事業についてお教えてください。

①上記の(2)②の選択肢の中で、事業として必要性を感じているが、現在実施していない事業は何ですか。必要性を感じている順に下記の欄に番号を記入してください。(それぞれ番号を1つ記入)

最も必要性を感じている 実施していない事業 (番号を1つ記入)	2番目に必要性を感じている 実施していない事業 (番号を1つ記入)	3番目に必要性を感じている 実施していない事業 (番号を1つ記入)

(N=201)

	最も必要性を感じている事業	2番目に必要性を感じている事業	3番目に必要性を感じている事業
1. 居宅介護	0.0%	0.0%	3.0%
2. 重度訪問介護	3.5%	5.0%	0.5%
3. 同行援護	7.5%	1.0%	1.0%
4. 行動援護	0.0%	10.0%	3.5%
5. 重度障害者等包括支援	3.0%	0.0%	2.5%
6. 生活介護	6.0%	1.0%	7.0%
7. 自立訓練(機能訓練)	0.0%	0.0%	1.5%
8. 自立訓練(生活訓練)	0.5%	1.5%	0.0%
9. 就労移行支援	1.0%	0.5%	1.5%
10. 就労継続支援(A型)	2.0%	1.5%	0.0%
11. 就労継続支援(B型)	1.0%	4.0%	1.5%
12. 就労定着支援	2.0%	0.0%	0.0%
13. 療養介護	0.0%	0.0%	0.0%
14. 短期入所	0.5%	3.5%	4.0%
15. 自立生活援助	4.0%	0.5%	0.0%
16. 施設入所支援	3.0%	0.5%	0.0%
17. グループホーム	7.0%	6.5%	5.0%
18. 計画相談支援	6.0%	3.0%	2.5%
19. 地域移行支援	0.0%	1.5%	0.0%
20. 地域定着支援	2.0%	0.0%	1.5%
21. 移動支援	3.5%	1.0%	5.5%
22. 地域活動支援センター	1.0%	0.0%	0.0%
23. 日中一時支援	3.0%	1.0%	4.5%
24. 児童発達支援	1.5%	2.5%	0.5%
25. 医療型児童発達支援	0.0%	0.5%	0.0%
26. 訪問型児童発達支援	1.0%	0.0%	0.5%
27. 福祉型障害児入所支援	0.0%	0.0%	1.0%
28. 医療型障害児入所支援	1.0%	0.0%	0.0%
29. 放課後等デイサービス	0.5%	1.5%	0.0%
30. 障害児相談支援	4.5%	4.5%	0.5%
31. 保育所等訪問支援	2.0%	0.5%	0.0%
32. その他(具体的に:)	0.0%	0.0%	0.5%
無回答	33.0%	48.5%	54.5%

② 現在、実施されていない理由として近いものは、次のうちどれですか。(いくつでもO)

- 1. サービスに見合う収益が見込めないため 36.3%
 - 2. 充分な利用者が見込めないため 8.0%
 - 3. 利用者のニーズ把握ができていないため 8.5%
 - 4. 初期負担の投資金額が大きいため 26.4%
 - 5. 人材の確保・育成が難しいため 61.2%
 - 6. 随時対応の体制整備が難しいため 13.4%
 - 7. 関連機関との連携が見通せないため 1.0%
 - 8. その他(具体的に:) 7.0%
- 無回答 23.9%

問2 今後、具体的にどのくらいのサービス提供量を考えていますか。現時点での考えをご記入ください。人数は現行人数(問1(3))を基準に記入してください。

(1) 調査対象となっている事業についてご記入ください。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
今後の提供量の見込み					

(2) 法人として回答してください。新規で開始する予定の事業がある場合、ご記入ください。実施が決定しているものほか、検討中の事業も記入ください。

	事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1		人	人	人	人	人
2		人	人	人	人	人
3		人	人	人	人	人
4		人	人	人	人	人
5		人	人	人	人	人

問3 貴事業所の利用者と、ボランティア団体等が行う見守りや家事等のインフォーマルなサービスを希望されている方はいらっしゃいますか。インフォーマルなサービスの希望状況やどのようなことを希望されているか、差支えない範囲で自由にお書きください。

今後の事業運営についておたずねします

問4 お答えなければ事業所、法人それぞれお答えください。
昨年度の事業の採算はいかがでしたか。

(1) 事業所 (1つに〇)

- (N=201)
1. 黒字 29.9% 4. その他 2.0%
2. 赤字 40.7% 〔具体的に〕
3. 損益はない 18.9% 無回答 8.5%

(2) 法人 (1つに〇)

- (n=95)
1. 黒字 30.5% 4. その他 1.1%
2. 赤字 38.9% 〔具体的に〕
3. 損益はない 21.1% 無回答 8.4%

問5 事業所または法人としてご回答ください。
運営上の不安は次のうちどれですか。(いくつでも)

- (N=201)
〔回答する立場に〇： 1. 事業所 61.7% 2. 法人 24.4% 無回答 13.9%〕
〔事業所 (n=124)〕 〔法人 (n=49)〕
1. サービスに見合う収益が見込めるか 62.9% 無回答
2. 十分な利用者が見込めるか 17.7% 14.3%
3. 他施設と競合しないかどうか 4.0% 0.0%
4. 初期負担の投資金額が大きいこと 4.0% 20.4%
5. 人材の確保・育成 85.5% 93.9%
6. 有資格者の不足 37.1% 38.8%
7. 特に不安はない 0.0% 2.0%
8. その他〔具体的に〕 4.0% 0.0%
無回答 1.6%

問6 事業所または法人としてご回答ください。
サービスを実施するうえで問題があると考えているのは、どのようなことですか。

- (N=201)
〔回答する立場に〇： 1. 事業所 63.1% 2. 法人 27.9% 無回答 9.0%〕
〔事業所 (n=127)〕 〔法人 (n=56)〕
1. 専門職の確保が難しい 59.8% 46.4%
2. 人材の確保が難しい 85.8% 80.4%
3. 経営経費・活動資金が不足している 39.4% 42.9%
4. 報酬が実態にそぐわない 57.5% 50.0%
5. 利用希望者が多く受け入れが難しい 37.0% 23.2%
6. 施設規模の面でさらなる利用者の受け入れが難しい 13.4% 25.0%
7. 利用者に対する情報提供が難しい 3.9% 1.8%
8. 利用者ニーズの把握が困難である 4.7% 0.0%
9. 情報の入手や活用が十分ではない 2.4% 1.8%
10. 行政や施設間の連携が十分ではない 7.9% 16.1%
11. その他〔具体的に〕 7.9% 0.0%
12. 特に問題はない 0.0% 0.0%
無回答 1.8%

問7 事業所または法人としてご回答ください。
人材確保に向けての課題は、どのようなことですか。(いくつでも)

- (N=201)
〔回答する立場に〇： 1. 事業所 60.2% 2. 法人 30.3% 無回答 9.5%〕
〔事業所 (n=121)〕 〔法人 (n=61)〕
1. 採用に向けた採用戦略・方針が明確になっていない 28.1% 21.3%
2. 採用に向けた経営経費・活動資金が不足している 47.1% 44.3%
3. 求職者とのマッチングが難しい 55.4% 52.5%
4. 長期定着に向けた取り組みが十分にできていない 23.1% 11.5%
5. 処遇改善や働きやすい環境の整備が十分にできていない 28.9% 13.1%
6. 求人・求職情報の発信が少ない 24.8% 11.5%
7. 仕事のやりがいや魅力を十分に発信できていない 15.7% 14.8%
8. その他〔具体的に〕 6.6% 1.6%
9. 特に問題はない 0.0% 1.6%
無回答 0.8% 3.3%

問8 対象となっている事業についてお答えください。
貴事業所では、今後5年のうちに対象となっている事業の事業規模を拡大する
予定はありますか。(1つに〇)

- (N=201)
1. 拡大予定 14.9% 3. 縮小予定 2.5%
2. 現状維持 50.7% 4. 検討中・分らない 26.9%
無回答 5.0%

問9 対象となっている事業についてお答えください。
今後5年間で府中市の利用者をさらに受け入れる余裕がありますか。(1つに〇)

- (N=201)
1. ある (8.82人程度) 39.8%
2. ない 30.3%
3. その他〔具体的に〕 22.9%
無回答 7.0%

利用者本位のしくみについておたずねします

問10 事業所または法人としてご回答ください。
利用者の権利擁護について実施していることはありますか。(いくつでも)

- (N=201)
〔回答する立場に〇： 1. 事業所 62.7% 2. 法人 22.4% 無回答 14.9%〕
〔事業所 (n=126)〕 〔法人 (n=45)〕
1. 弁護士等との連携 (成年後見制度) 23.0% 11.1%
2. 社会福祉協議会との連携 (地域福祉権利擁護事業) 34.9% 15.6%
3. 第三者・ケアプラン等から求めに必要な情報を開示する 23.0% 26.7%
4. その他第三者機関の利用 (具体的に：) 18.3% 4.4%
5. 担当者 (窓口) の設置 70.6% 68.9%
6. その他 (具体的に：) 5.6% 15.6%
7. 特にない 7.9% 15.6%
無回答 0.0% 2.2%

問 11 事業所または法人としてご回答ください。

貴施設では苦情・意見等をとり入れるため、どのような工夫をしていますか。(いくつでも)

- (N=201)
[回答する立場に○： 1. 事業所 74.6% 2. 法人 20.9% 無回答 4.5%]
【事業所 (n=150)】 【法人 (n=42)】
1. 利用者・家族との面談を行う 72.7% 81.0%
 2. 保護者会・懇談会等を行う 16.7% 26.2%
 3. 意見箱を設置している 23.3% 14.3%
 4. アンケートを実施している 28.0% 31.0%
 5. 連絡帳を利用している 34.7% 28.6%
 6. その他(具体的に：) 7.3% 0.0%
 7. 特にない 6.0% 7.1%
- 無回答 4.0% 0.0%

問 12 事業所として回答してください。サービスの質の向上を図るために、第三者評価が重要になっています。第三者評価を実施しましたか。(1つに○)

- (N=201)
1. 実施した、実施している } →問 13へ進む 26.9%
 2. 実施していないが、実施の予定 } 15.9%
 3. 実施の予定はない } →問 12-1にお答えください 55.2%
- 無回答 2.0%

問 12-1 問 12 で「3. 実施の予定はない」と答えた事業所におたずねします。

その理由はつぎのうちどれですか。(1つに○)

- (n=111)
1. 費用がかかりすぎる 34.2%
 2. メリットが分からない 22.5%
 3. その他(具体的に：) 40.6%
- 無回答 2.7%

問 13 事業所として回答してください。本市においても福祉施設職員や家族による虐待の事例が報告されています。貴事業所において、障害のある人の虐待防止に向けて取り組んでいることを選んでください。(いくつでも○)

- (N=201)
1. 虐待防止マニュアルやチェックリストを作成している 84.6%
 2. 虐待防止委員会を設置している 64.7%
 3. 職員に対する虐待防止に関する研修や学習を実施している 89.1%
 4. 職員の虐待防止に関する意識・関心を高めるための掲示物等を掲示している 68.7%
 5. 虐待防止に関する責任者を定めている 77.6%
 6. 虐待事例の発生時の対応方法を具体的に文章化している 50.2%
 7. 障害のある人やその家族、地域の人等に対し虐待の防止に関する普及・啓発を実施している 22.4%
 8. 地域における虐待防止について、事業者間の連携を図っている 23.4%
 9. 地域における虐待防止について、相談支援事業所、障害者等地域自立支援協議会や行政機関等との連携・協力をしている 26.9%
 10. その他(具体的に：) 5.0%
 11. 特にない 0.5%
- 無回答 4.0%

問 14 事業所として回答してください。貴事業所がサービス提供するうえで、実際に虐待等の場面に遭遇したなどの経験はありますか。(○は1つ)

- (N=201)
1. 経験がある →問 14-1にお答えください 18.4%
 2. 経験はない →問 15に進む 79.6%
- 無回答 2.0%

問 14-1 問 14 で「1. 経験がある」と答えた事業所におたずねします。
差支えなければお答えください。遭遇した事例の内容とその際にとどのような対応をされたかをお書きください。

地域共生社会づくりに向けた協力意向についておたずねします

問 15 事業所または法人としてご回答ください。
平成28年度に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」にて、支えて側と受け手側に分かれるのではなく、だれもが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現が求められています。
地域共生社会の実現に向けて、府中市民にもっと意識を持ってもらうようにするには、貴事業所または法人としてどのようなことができますか。

- (N=201)
[回答する立場に○： 1. 事業所 53.7% 2. 法人 19.9% 無回答 26.4%]

問 16 事業所または法人としてご回答ください。
地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、貴事業所または法人として何か協力できることはありませんか。

(N=201)
[回答する立場に○： 1. 事業所 50.2% 2. 法人 21.9% 無回答 27.9%]

問 17 事業所として回答してください。災害時に事業所として協力できることはありませんか。(いくつでも○)

- (N=201)
- 1. 在宅サービス利用者への安否確認 57.2%
 - 2. 在宅の災害時要保護者の避難支援への協力 22.4%
 - 3. 施設を福祉避難所として活用することへの協力 20.9%
 - 4. 障害等のある人の避難場所へのヘルパー等人材の協力 13.9%
 - 5. その他(具体的に：) 6.0%
- 無回答 15.9%

貴施設が特に力を入れていることについておたずねします

問 18 事業所として回答してください。貴事業所が、最も力を入れている点についてお書きください。

問 19 事業所として回答してください。貴事業所が、利用者に対して、特に力を入れていることをお書きください。

市への要望についておたずねします

問 20 事業所または法人としてご回答ください。
これからの府中市の障害福祉サービスの充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

(N=201)
[回答する立場に○： 1. 事業所 64.7% 2. 法人 18.4% 無回答 16.9%]

- | | | |
|------------------------------------|---------------|-------------|
| | 【事業所 (n=130)】 | 【法人 (n=37)】 |
| 1. 各種生活支援サービスの基盤整備 | 45.4% | 29.7% |
| 2. 地域生活に移行するための住まいの整備 | 43.1% | 24.3% |
| 3. 緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備 | 70.8% | 45.9% |
| 4. 障害等のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制 | 46.9% | 54.1% |
| 5. 障害等のある人が安定的に就労するためのシステムづくり | 48.5% | 29.7% |
| 6. 障害者福祉と保健・医療との連携 | 46.2% | 48.6% |
| 7. 小規模施設の経営支援 | 26.9% | 40.5% |
| 8. 共生にむけた地域社会の理解の促進 | 34.6% | 35.1% |
| 9. 人材確保のための取り組み | 70.0% | 78.4% |
| 10. 専門職の育成、確保のための各種支援策 | 60.8% | 40.5% |
| 11. 成年後見制度や地域福祉権利擁護事業等の権利擁護のしくみづくり | 27.7% | 10.8% |
| 12. その他(具体的に：) | 6.2% | 8.1% |
| | 無回答 | 2.7% |

問 21 事業所または法人としてご回答ください。
障害福祉サービスについてのご要望について、ご自由にお書きください。
(N=201)
[回答する立場に○： 1. 事業所 45.3% 2. 法人 11.4% 無回答 43.3%]

問 22 事業所として回答してください。利用者やその家族から寄せられた要望について、ご自由にお書きください。

——ご協力ありがとうございました——

府中市
福祉計画（障害者福祉）
調査報告書

令和2年3月

発行：府中市 福祉保健部 障害者福祉課
〒183-8703 府中市宮西町2丁目24番地
TEL 042-335-4545
FAX 042-368-6102
Email:syougai01@city.fuchu.tokyo.jp